ANALYSIS

2020-2021

総合検査案内

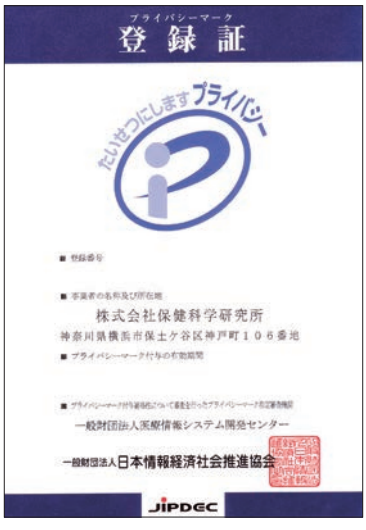
保健科学グループ

取得認定類

ISO15189 認定証

株式会社 保健科学研究所

プライバシーマーク使用許諾証



株式会社 保健科学研究所

医療関連サービスマーク

医療関連サービスマーク

認定有効期限ー平成　年　月

検体検査

(財)医療関連サービス振興会

個人情報保護方針

〈理　　念〉

当社は、検体検査業を通じて国民の健康の保持増進に寄与することを目的として、事業活動を行っております。この検体検査の受託にあたっては、検査データの高い信頼性と迅速な提供を確保するために、検査を受ける方（以下「被験者」という。）の個人情報を取得いたしますが、これらの情報は、個人の人格尊重の理念のもと、慎重に取り扱われるべきものと深く認識いたしております。

当社では、個人情報における重要性の認識に立ち、その適切な取り扱いを確保するため、以下の個人情報保護方針を制定いたします。

a）臨床検査の受託及び検査分析のためなど、特定された目的以外での個人情報の取得、利用及び提供は行いません。なお、それを確実にするための措置を講じます。
b）個人情報の取扱いに関する法令、国が定める指針、ならびに財団法人日本衛生検査所協会をはじめとする規範を遵守いたします。
c）個人情報の漏えい、滅失またはき損の防止及び是正を行います。
d）個人情報保護に関する苦情及び相談に対応いたします。
e）個人情報保護マネジメントシステムの継続的改善を実施いたします。

2007年4月1日　制　　定
2018年6月1日　最終改訂

株式会社 保健科学研究所
代表取締役社長　**久川　聡**

CONTENTS

■ ご利用の手引き … Ⅰ～Ⅹ
■ 索　引 …… XⅠ～XXⅡ

生化学
蛋白関連検査 …… 1
糖関連検査／脂質関連検査 …… 3
蛋白・含窒素成分関連検査 …… 6
色　素 …… 7
酵　素 …… 8
アイソザイム …… 11
有機酸 …… 12
電解質・金属 …… 13
産業医学関連 …… 17
ビタミン関連検査 …… 18
特殊分析検査 …… 19
クリアランステスト …… 22
生化学的検査 1～24

内分泌学
下垂体関連検査 …… 25
甲状腺関連検査 …… 27
副甲状腺関連検査 …… 27
膵・消化管関連検査 …… 28
副腎髄質関連検査 …… 28
副腎皮質関連検査 …… 31
性腺関連検査 …… 33
胎盤機能検査 …… 35
その他 …… 36
心臓関連検査 …… 38
内分泌学的検査 25～38

内分泌負荷・糖負荷
内分泌負荷試験 …… 39
糖負荷試験 …… 40
内分泌負荷試験・糖負荷試験 39～40

腫瘍マーカー
胎児性蛋白 …… 41
糖鎖抗原 …… 41
腫瘍関連抗原 …… 43
腫瘍マーカー 41～48

免疫学
免疫血液学的検査 …… 49
感染症血清反応 …… 51
抗原検査 …… 57
尿素呼気試験 …… 61
リウマトイド因子・RA 関連検査 …… 62
甲状腺関連自己抗体検査 …… 63
自己抗体検査 …… 63
肝・胃関連自己抗体検査 …… 68
糖尿病関連自己抗体検査 …… 68
免疫グロブリン …… 69
補体関連物質 …… 69
血漿蛋白免疫学的検査 …… 70
免疫学的検査 49～74

アレルギー
アレルギー関連検査 …… 75
IgE 特異的アレルゲン(疾患別セット) …… 76
IgE アレルゲン一覧表 …… 77
アレルギー 75～78

ウイルス
B 型肝炎ウイルス関連検査 …… 79
A 型肝炎ウイルス関連検査 …… 80
C 型肝炎ウイルス関連検査 …… 81
レトロウイルス検査 …… 82
ウイルス抗体検査(CF) …… 84
ウイルス抗体検査(HI) …… 85
ウイルス中和抗体検査(NT) …… 86
ウイルス抗体検査(FA) …… 89
ウイルス抗体検査(EIA) …… 89
ウイルス分離・同定 …… 91
抗原検査 …… 92
ウイルス 79～94

血液学
血液形態・機能検査 …… 95
凝固系一般検査 …… 98
凝固因子関連検査 …… 98
凝固・線溶系検査 …… 100
血小板機能検査 …… 102
血液学的検査 95～102

薬物
抗てんかん剤 …… 103
精神神経用剤 …… 104
抗炎症、リウマチ剤 …… 105
強心剤 …… 105
不整脈用剤 …… 105
解熱鎮痛剤消炎剤 …… 107
抗悪性腫瘍剤 …… 107
抗生物質 …… 107
免疫抑制剤 …… 108
その他 …… 108
薬物検査 103～110

一般
尿中一般物質定性、半定量検査 …… 111
尿中特殊物質定性定量検査 …… 111
尿沈渣顕微鏡検査 …… 113
糞便検査 …… 113
精液一般検査 …… 115
髄液一般検査 …… 115
その他の穿刺液・採取液検査 …… 117
一般検査 111～120

染色体・遺伝子／細胞性免疫 HLA 検査
先天性疾患　染色体検査 …… 121
血液疾患　染色体検査 …… 122
細胞表面マーカー …… 123
細胞表面マーカーセット検査 …… 126
HLA・移植関連検査 …… 127
細胞機能検査 …… 128
癌関連遺伝子検査 …… 129
薬剤関連遺伝子検査 …… 132
染色体・遺伝子／細胞性免疫 HLA 検査 121～132

微生物学
塗抹鏡検／培養検査／特殊培養 …… 133
真菌培養 …… 134
原虫・アメーバ／免疫学的細菌検査 …… 135
薬剤感受性検査 …… 136
抗酸菌検査 …… 137
衛生(検便検査) …… 139
衛生(保菌検査) …… 140
環境検査 …… 141
微生物・輸送培地・輸送容器一覧 …… 142
保健科学研究所薬剤セット内容 …… 143
感受性薬剤一覧 …… 144
微生物学的検査 133～154

病理学
病理組織顕微鏡検査 …… 155
細胞診検査 …… 155
腫瘍関連免疫組織検査 …… 157
病理学的検査 155～158

その他・研究検査
肝炎検診 …… 159
その他特殊検査 …… 160
自己抗体 …… 161
感染症遺伝子検査 …… 163
その他・研究検査 159～164

新規検査
新規検査・生化学的検査 …… 165
新規検査・ウイルス抗体検査(EIA) …… 165
新規検査・腫瘍マーカー …… 166
新規検査 165～167

■ 容器一覧 …… 167
■ 検体の安定性 …… 178
■ 検査方法の概略 …… 179
■ 検査方法参考文献一覧 …… 182

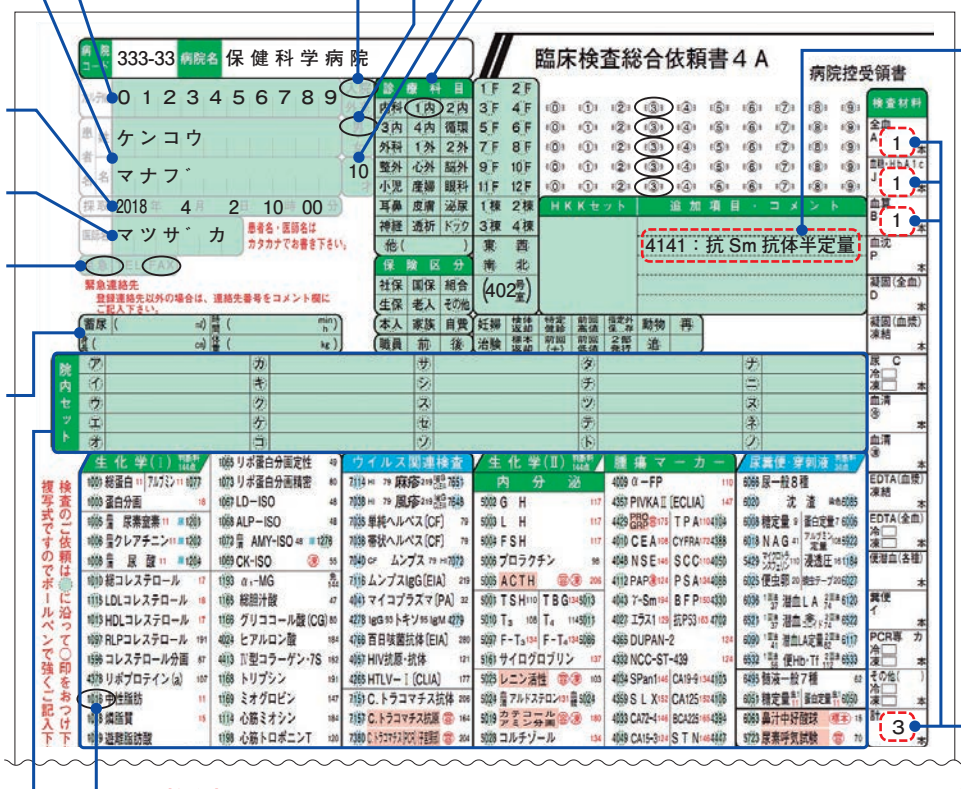
HOKEN KAGAKU GROUP
ANALYSIS 1201-171

ご利用の手引き

検査の依頼方法

●当社専用の依頼書、検体容器及び検体ラベルをご使用下さい。

臨床検査総合依頼書4Aの記入例



カルテNo.をご記入下さい。

（必須）
患者氏名を**カタカナ（大文字）**でご記入下さい。

（必須）
採取日時をご記入下さい。

医師名を**カタカナ**でご記入下さい。

至急報告の場合は「至急」と、報告方法（TEL･FAX）を○で囲んで下さい。

必要に応じ蓄尿量、時間、身長、体重をご記入下さい。

入院･外来のいずれかを○印で囲んで下さい。

（必須）
性別を○印で囲んで下さい。

（必須）
年齢をご記入下さい。

診療科目、病棟欄は該当するものを○印で囲み、該当しない場合は（　　）内にご記入下さい。

依頼書に記載されていない項目については、項目コードと項目名をご記入下さい。

院内セットをご利用の際は、担当営業までご相談下さい。

（必須）
依頼項目の項目コードを○印で囲んで下さい。
取り消しの場合は、×印で抹消して下さい。

（必須）
材料欄に提出本数を記入し、合計本数を最下欄にご記入下さい。

【依頼書記入に関する注意事項】

※複写となっておりますので、下敷きを敷いて、ボールペンで強くお書き下さい。

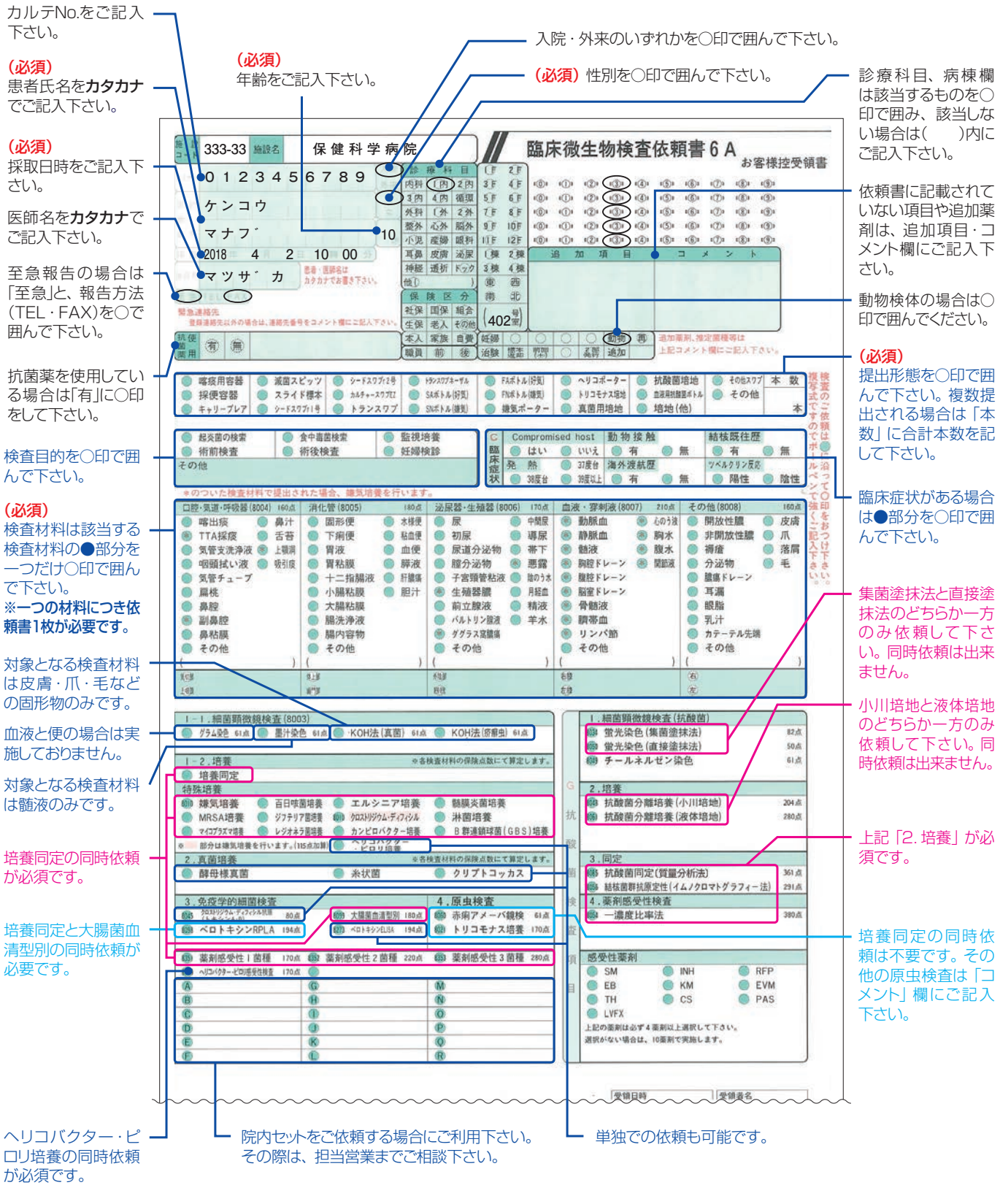
※カナ氏名欄は誤読しやすい文字がありますので、明確に分かる様ご記入下さい。
『ア、マ、ヤ、セ』、『カ、サ』、『ク、ワ』、『コ、ユ』、『シ、ツ、フ』、『シ、ミ』、『ス、ヌ』、『チ、テ』

※依頼時の注意点につきましては、各検査項目該当ページの備考欄に赤色の文字で記していますのでご確認下さい。
例）eGFR creat (項目コード：1152) についての特記事項
血清クレアチニン（項目コード：1006）との同時依頼、及び「年齢、性別」の依頼書への記載が必要条件となります。
なお、年齢が18才未満の場合、クレアチニンの依頼、年齢、性別の記載が無い場合には、「不能」とご報告させていただきます。

※依頼書１枚目をご依頼元控えとし、検体受領書とさせていただきます。

※当社では「遺伝学的検査受託に関する倫理指針（一般社団法人日本衛生検査所協会）」その他関連する倫理指針に基づき、受託を行っております。倫理指針対象の遺伝学的検査をご依頼の際には「遺伝学的検査汎用依頼書」をご利用下さい。

臨床微生物検査依頼書6Aの記入例



ご利用の手引き

取引の申込方法

●最寄りの営業所、又は本社営業部へご連絡下さい。
●担当者がお伺いし、ご依頼の詳細についてご説明、ご相談申し上げます。
（裏表紙の営業所一覧をご参照下さい）

お問い合わせ

検査内容等のお問い合わせ、ご意見、ご指摘等につきましては最寄りの営業所又はラボへお問い合わせ下さい。

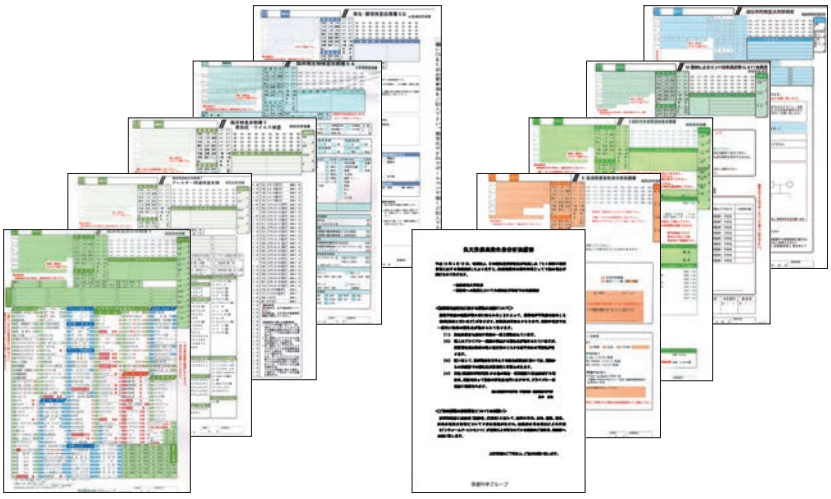
料金請求とお支払い方法

●原則として検査料金は一ヶ月分をまとめてご請求申し上げます。
●請求書の検査項目名は当社請求略号によって記載されますのでご了承下さい。
●お支払いの方法は契約にしたがってお支払いいただきます。
●銀行振込の場合は振込金受取書をもちまして領収書に代えさせていただきますのでご了承下さい。

依頼書

依頼書種類

1. 総合依頼書４
2. アレルギー関連検査依頼書
3. 感染症・ウイルス検査依頼書
4. 検診総合依頼書
5. 臨床微生物検査依頼書 6A
6. 衛生・環境検査依頼書 6B
7. 先天性疾患染色体分析依頼書
8. 血液疾患染色体分析依頼書
9. 細胞性免疫関連検査依頼書
10. 薬剤によるリンパ球刺激試験(LST)依頼書
11. 遺伝学的検査汎用依頼書



検体ラベル

●検体貼付ラベルには患者名、性別、年齢、採取日時、材料、依頼項目、依頼施設名、透析前・後、保存方法等をご記入下さい。
●特に同一患者で複数材料の場合や、時系列検査の場合は必ず明確にご記入下さい。

検査項目名称

●既に日本語化しているドイツ語はそのままとし、それ以外のものはアメリカ英語読みに従いました。ただし、CA19-9 等略号が通例化しているものは、略号をもって検査項目名称といたしました。
●検査依頼書及び検査報告書においての検査項目名称は文字スペースに限りがある関係で略語等を使用させていただく場合がありますので、ご了承下さい。

検体必要量

●検体必要量は、原則として再検査に応じられるように設定してあります。検体量不足にならないようご注意下さい。
●血清又は血漿を検査材料とする項目の単独でのご依頼では、基礎必要量として本文各項目欄記載量に 0.2mL 程度を加算して下さい。

容　器

●ご依頼項目によって所定の容器をご使用下さい。
●本文各項目欄・ページ下説明欄及び巻末の容器一覧をご参照下さい。

採取・保存方法

●保存方法により測定値が変動する項目がありますので本文各項目欄、ページ下説明欄をご参照下さい。
●原則として 24 時間以内の保存方法を記入してありますので、採取当日にご提出下さいますようお願い致します。なお、長期間保存される場合の保存方法につきましては営業担当にお問い合わせ下さい。

検査方法・参考文献

●検査方法につきましては本文各項目欄及び巻末の検査方法概略を、参考文献につきましては巻末の測定法参考文献一覧をご参照下さい。

所要日数

●原則的には検体をお預かりした翌日を起算日とし、報告書をお手元にお届けするまでの日数です（日曜・祭日は含まず）。
●依頼項目の組み合わせにより、所要日数の長い項目に準ずることがありますのでご了承下さい。
●再検査の場合、及び一部地域では、更に若干の日数を要することがありますのでご了承下さい。

平均搬送時間

貴院から＿＿＿＿＿＿までの平均搬送時間は約＿＿＿＿＿時間です。
貴院から保健科学総合研究所までの平均搬送時間は約＿＿＿＿時間です。
保健科学総合研究所から最終委託先までの平均搬送時間は次の通りです。

＊ア, イ,C, I	：1時間以内	＊Q	：1日以内
＊1,4,5,6,P	：3時間以内	＊8,9,O,R,S, F,U,V,W,X,Y,Z	：2〜3日以内
＊7,D,E,K,L, M,T	：6時間以内		

結果のご報告

原則として当社集配員が報告書を直接お届けいたします。
至急のご指示のある場合は検査終了しだい電話又はファクシミリでご報告いたします。
コンピューター端末へのオンライン送信をご要望の場合は当社営業担当にご相談下さい。

報告書

報告書は検査の種類により当社指定の報告書にてご報告いたします。

再検査

当社再検査基準に基づき再検査をいたします。
検体量が必要量に満たずに再検査ができない場合はその旨ご報告いたします。

検体の保管

●お預かりいたしました検体の保管期間は、血清検体につきましては、原則１週間（所要日数が５日以上必要とする場合は３週間）とし、再検査や追加検査のご要望にお応えします。保管期間の終了後は、当社にて適正に廃棄いたします。
なお、腐敗・変性の著しい材料につきましては、検査実施後すみやかに処分させていただきますので、予めご了承下さい。
●検査済み検体の返却を希望される場合は、すみやかに返却いたします。又、医療機関以外又は医師個人から学術研究等の目的で検査済み検体の提供を求められたとしても、第三者への提供は行いません。
●プール化及び匿名化が可能なものについては、個人情報保護法その他関係法規及びガイドラインに従い検査精度維持、向上等のために使用することがあります。

検体受領方法

貴院への集配は、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿曜日、＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿時頃に
＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿へお伺いします。

検査実施施設及び最終委託先

検査実施施設及び最終委託先につきましては本文各項目備考欄及び報告書に下記の記号で表示してあります。
無印　保健科学 総合研究所

略号	委　託　先　名　称
＊A	
＊ア	保健科学 第２ラボラトリー
＊イ	保健科学 第３ラボラトリー
＊K	保健科学 西日本
＊P	保健科学 東日本
＊1	LSIメディエンス
＊4	エスアールエル
＊5	北里大塚バイオメディカルアッセイ研究所
＊6	組織科学研究所
＊7	常盤特殊分析センター
＊8	Quest Diagnostics Incorporated（QD）
＊9	Mayo Medical Laboratories
＊C	カスタムメディカル研究所
＊D	あすか製薬メディカル
＊E	ビー・エム・エル

各項目備考欄に略号を表示していない項目を中心として、一部は当社グループラボにて検査を実施させていただきます。なお、その場合は報告書上に実施ラボ名を表記いたします。

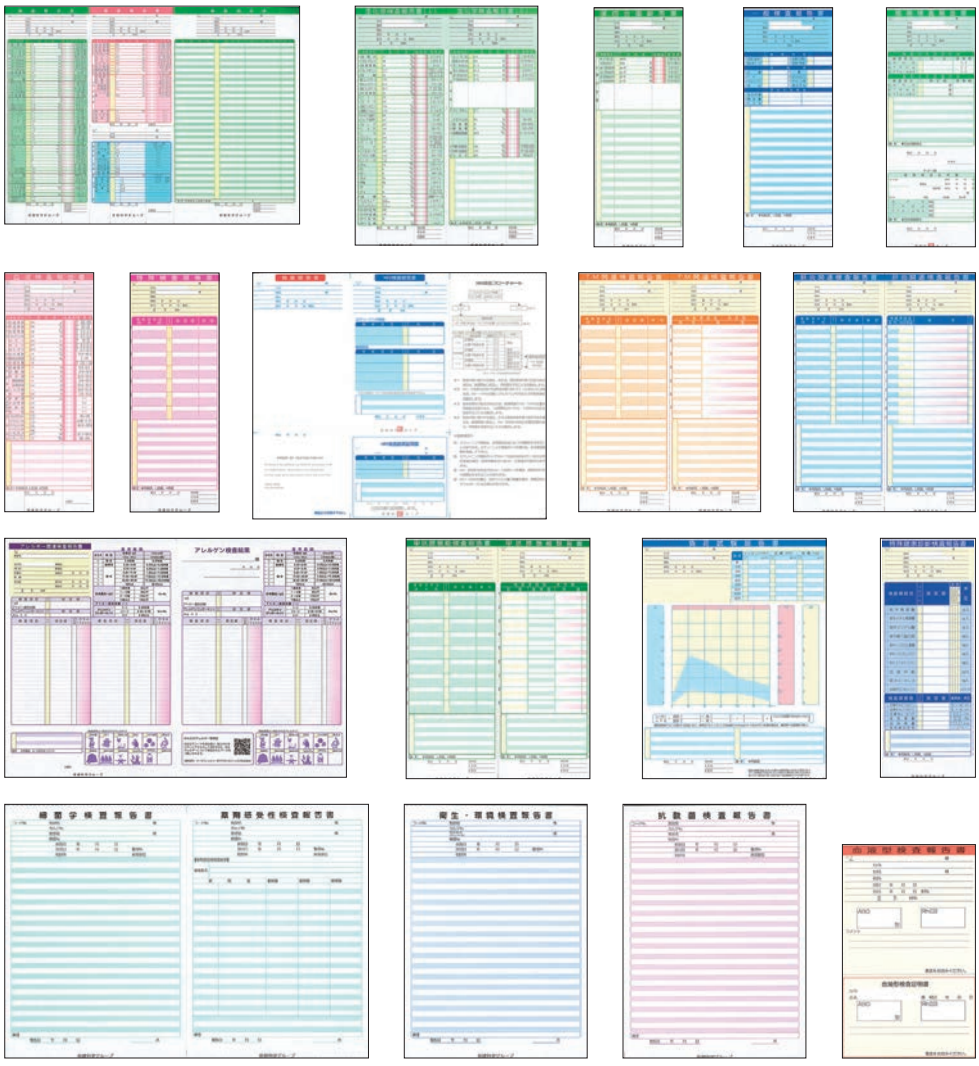
略号	委　託　先　名　称
＊F	SMCLセンター（積水メディカル株式会社）
＊I	ケーアイエー細胞病理研究所
＊L	遠州予防医学研究所
＊M	日本微生物研究所
＊O	ラボコープ・ジャパン合同会社
＊Q	ファルコバイオシステムズ
＊R	日立化成
＊S	シノテスト　サイエンス・ラボ
＊T	アミンファーマ研究所
＊U	Oncomics
＊V	京都工場保健会
＊W	Athena Diagnostics
＊X	伏見製薬所衛生検査センター
＊Y	第一岸本臨床検査センター
＊Z	MILS インターナショナル

ご利用の手引き

検査報告書

報告書種類

1. 総合報告書
2. 生化学検査報告書
3. 蛋白分画報告書
4. 一般検査報告書
5. 梅毒検査報告書
6. 血液検査報告書
7. 特殊検査報告書
8. HIV 検査報告書
9. TM 関連検査報告書
10. 肝炎関連検査報告書
11. アレルギー関連検査報告書
12. 甲状腺機能検査報告書
13. 負荷試験検査報告書
14. 特殊健康診断検査報告書
15. 細菌学検査報告書
16. 衛生・環境検査報告書
17. 抗酸菌検査報告書
18. 血液型検査報告書



保険点数について

［検体検査料］

●検体検査料は「検体検査判断料」と「検体検査実施料」に分かれております。実施料につきましては、各項目欄をご参照下さい。

●包括算定の検査につきましては実施料を青色で表示しました。判断料につきましては、各項目欄に略号で表示いたしました（下表参照）。又、特定薬剤治療管理料は※印で表示いたしました。本文 109 ページをご参照下さい。

検体検査判断料		
尿・便	尿・糞便等検査判断料	34 点
遺伝子	遺伝子関連・染色体検査判断料	100 点
血　液	血液学的検査判断料	125 点
生化Ⅰ	生化学的検査（Ⅰ）判断料	144 点
生化Ⅱ	生化学的検査（Ⅱ）判断料	144 点
免　疫	免疫学的検査判断料	144 点
微　生	微生物学的検査判断料	150 点

病理診断・判断料		
病　理	組織診断料	450 点
	細胞診断料	200 点
	病理判断料	150 点

（注意事項）

注 1. 検体検査判断料は該当する検体検査の種類、回数に係らず各々月 1 回に限り算定できるものとする。

注 2. 上記 1. の規定に係らず、尿中一般物質定性半定量検査の所定点数を算定した場合にあっては、当該検査については、尿・糞便等検査判断料は算定しない。

負荷試験等

負荷試験等の点数につきましては本文 22 ページ及び 39・40 ページをご参照下さい。
なお負荷試験等の点数は「検体検査料」ではございませんので、判断料の別途算定はできません。

輸血に関する検査

輸血に関する検査につきましては本文 49 ページをご参照下さい。なお輸血に関する検査の点数は「検体検査料」ではございませんので、判断料の別途算定はできません。

■生化学的検査Ⅰ（血液化学検査）

●総ビリルビン、直接ビリルビン又は抱合型ビリルビン、総蛋白、アルブミン、尿素窒素、クレアチニン、尿酸、アルカリホスファターゼ（ALP）、コリンエステラーゼ（ChE）、γ-グルタミルトランスフェラーゼ（γ-GT）、中性脂肪、ナトリウム及びクロール、カリウム、カルシウム、マグネシウム、クレアチン、グルコース、乳酸デヒドロゲナーゼ（LD）、アミラーゼ、ロイシンアミノペプチダーゼ（LAP）、クレアチンキナーゼ（CK）、アルドラーゼ、遊離コレステロール、鉄（Fe）、血中ケトン体・糖・クロール検査（試験紙法・アンプル法・固定化酵素電極によるもの）、不飽和鉄結合能（UIBC）（比色法）、総鉄結合能（TIBC）（比色法）
●リン脂質
●HDL-コレステロール、無機リン及びリン酸、総コレステロール、アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ（AST）、アラニンアミノトランスフェラーゼ（ALT）
●LDL-コレステロール、蛋白分画
●銅（Cu）
●リパーゼ
●イオン化カルシウム
●マンガン（Mn）

項目数	実施料
5項目以上7項目以下	93
8項目又は9項目	99
10項目以上	109

■内分泌学的検査

●成長ホルモン（GH）、卵胞刺激ホルモン（FSH）、C-ペプチド（CPR）、黄体形成ホルモン（LH）
●アルドステロン、テストステロン
●遊離サイロキシン（FT4）、遊離トリヨードサイロニン（FT3）、コルチゾール、サイロキシン結合グロブリン（TBG）
●抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体（抗GAD抗体）
●脳性Na利尿ペプチド（BNP）
●サイログロブリン
●サイロキシン結合能（TBC）、脳性Na利尿ペプチド前駆体N端フラグメント（NT-proBNP）、ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット（HCG-β）
●カルシトニン
●ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）定量、ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）半定量
●グルカゴン
●プロゲステロン
●Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NTx）、酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ（TRACP-5b）
●骨型アルカリホスファターゼ（BAP）
●低カルボキシル化オステオカルシン（ucOC）
●オステオカルシン（OC）
●遊離テストステロン
●インタクトⅠ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（Intact PⅠNP）
●Ⅰ型コラーゲン架橋C-テロペプチド-β異性体（β-CTX）（尿）
●セクレチン、低単位ヒト絨毛性ゴナドトロピン（HCG）半定量、Ⅰ型コラーゲン架橋C-テロペプチド-β異性体（β-CTX）、Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド（PⅠNP）
●サイクリックAMP（cAMP）、副甲状腺ホルモン（PTH）、カテコールアミン分画
●デヒドロエピアンドロステロン硫酸抱合体（DHEA-S）
●エストリオール（E3）、エストロゲン半定量、エストロゲン定量、副甲状腺ホルモン関連蛋白C端フラグメント（C-PTHrP）
●エストラジオール（E2）
●デオキシピリジノリン（DPD）（尿）
●副甲状腺ホルモン関連蛋白（PTHrP）
●17-ケトジェニックステロイド（17-KGS）、副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）、カテコールアミン
●エリスロポエチン
●17-ケトステロイド分画（17-KS分画）、17α-ヒドロキシプロゲステロン（17α-OHP）、抗ⅠA-2抗体、プレグナンジオール
●17-ケトジェニックステロイド分画（17-KGS分画）
●メタネフリン
●ソマトメジンC
●心房性Na利尿ペプチド（ANP）、メタネフリン・ノルメタネフリン分画
●抗利尿ホルモン（ADH）
●プレグナントリオール
●ノルメタネフリン
●インスリン様成長因子結合蛋白3型（IGFBP-3）

項目数	実施料
3項目以上5項目以下	410
6項目又は7項目	623
8項目以上	900

■腫瘍マーカー

●癌胎児性抗原（CEA）
●α-フェトプロテイン（AFP）、組織ポリペプタイド抗原（TPA）、扁平上皮癌関連抗原（SCC抗原）
●DUPAN-2、NCC-ST-439、CA15-3
●前立腺酸ホスファターゼ抗原（PAP）
●エラスターゼ1
●前立腺特異抗原（PSA）、CA19-9
●PIVKA-Ⅱ半定量、PIVKA-Ⅱ定量
●CA72-4、SPan-1、シアリルTn抗原（STN）、神経特異エノラーゼ（NSE）
●CA125
●塩基性フェトプロテイン（BFP）、CA50
●核マトリックスプロテイン22（NMP22）定量（尿）、核マトリックスプロテイン22（NMP22）定性（尿）
●シアリルLex-i抗原（SLX）
●遊離型PSA比（PSA F/T比）
●サイトケラチン8・18（尿）
●抗p53抗体
●BCA225
●サイトケラチン19フラグメント（シフラ）
●シアリルLex抗原（CSLEX）
●Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチド（ⅠCTP）
●ガストリン放出ペプチド前駆体（ProGRP）
●CA54/61、癌関連ガラクトース転移酵素（GAT）
●CA602、α-フェトプロテインレクチン分画（AFP-L3%）
●γ-セミノプロテイン（γ-Sm）
●癌胎児性抗原（CEA）定性（乳頭分泌液）、癌胎児性抗原（CEA）半定量（乳頭分泌液）
●HER2蛋白
●可溶性インターロイキン-2レセプター（sIL-2R）

項目数	実施料
2項目	230
3項目	290
4項目以上	408

■肝炎ウイルス関連検査

●HBs抗原、HBs抗体
●HBe抗原、HBe抗体
●HCV抗体定性・定量、HCVコア蛋白
●HBc抗体半定量・定量
●HCVコア抗体
●HA-IgM抗体、HA抗体、HBc-IgM抗体
●HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体定性、HCV構造蛋白及び非構造蛋白抗体半定量
●HE-IgA抗体定性
●HCV血清群別判定
●HBVコア関連抗原（HBcrAg）
●デルタ肝炎ウイルス抗体
●HCV特異抗体価、HBVジェノタイプ判定

項目数	実施料
3項目	290
4項目	360
5項目以上	438

ご利用の手引き

■自己抗体検査

●抗サイログロブリン抗体、抗 RNP 抗体定性、抗 RNP 抗体半定量、抗 RNP 抗体定量、抗Jo-1抗体定性、抗Jo-1抗体半定量、抗Jo-1抗体定量
●抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体
●抗Sm抗体定性、抗Sm抗体半定量、抗Sm抗体定量
●抗SS-B/La抗体定性、抗SS-B/La抗体半定量、抗SS-B/La抗体定量、C1q結合免疫複合体
●抗Scl-70抗体定性、抗Scl-70抗体半定量、抗Scl-70抗体定量
●抗SS-A/Ro抗体定性、抗SS-A/Ro抗体半定量、抗SS-A/Ro抗体定量
●抗RNA ポリメラーゼⅢ抗体
●抗ARS 抗体
●抗MDA5抗体、抗TIF1-γ抗体、抗Mi-2抗体

項目数	実施料
2 項目	320
3 項目以上	490

■出血・凝固検査

●Dダイマー定性
●プラスミンインヒビター（アンチプラスミン）、Dダイマー半定量
●von Willebrand因子（VWF）活性
●Dダイマー
●α_2-マクログロブリン
●PIVKA-Ⅱ
●凝固因子インヒビター
●von Willebrand 因子（VWF）抗原
●プラスミン・プラスミンインヒビター複合体（PIC）、プロテインS抗原
●プロテインS活性
●β-トロンボグロブリン（β-TG）
●血小板第4因子（PF4）
●トロンビン・アンチトロンビン複合体（TAT）
●プロトロンビンフラグメント F1+2
●トロンボモジュリン
●凝固因子（第Ⅱ因子、第Ⅴ因子、第Ⅶ因子、第Ⅷ因子、第Ⅸ因子、第Ⅹ因子、第ⅩⅠ因子、第ⅩⅡ因子、第ⅩⅢ因子）
●フィブリンモノマー複合体
●プロテインC抗原
●tPA・PAI-1 複合体
●プロテインC活性

項目数	実施料
3 項目又は 4 項目	530
5 項目以上	722

緊急異常値報告対象項目と基準について

下記の検査項目につきましては当社緊急異常値報告基準に基づき、測定後ファクシミリにてご報告いたします。

対象項目		基準
生化学的検査		
ナトリウム（血清）		110 以下、170 以上（mEq/L）
カリウム（血清）＊1＊4		2.5 以下、7.0 以上（mEq/L）
カルシウム（血清）＊2		6.0 以下、13.0 以上（mg/dL）
クレアチニン（血清）＊2		8.00 以上（mg/dL）
浸透圧（血清）		255 以下、330 以上（mOsm/kgH_2O）
尿素窒素（血清）＊2		80 以上（mg/dL）
AST		500 以上（U/L）
ALT		500 以上（U/L）
LD		1000 以上（U/L）
アミラーゼ（血清）		500 以上（U/L）
血糖（グルコース）		50 以下、500 以上（mg/dL）
アンモニア		320 以上（μg/dL）
一　般		
糖定性（尿）＊3		（4+）
ケトン体定性（尿）＊3		（3+）
血液学		
白血球数		1,500 以下、20,000 以上（/μL）
赤血球数		200以下、600 以上（×10^4/μL）
ヘモグロビン（血色素量）		5.0 以下、20.0 以上（g/dL）
血小板数		3.0以下、100.0 以上（×10^4/μL）
白血球像		Blastoid cell（+）
PT	INR	4.00 以上
	活性	12.0 以下（%）
	時間	40.0 以上（秒）
APTT		60.0 以上（秒）
トロンボテスト		5 以下（%）
フィブリノゲン定量		100 以下（mg/dL）
血漿FDP		60.0 以上（μg/mL）
Dダイマー		40.0 以上（μg/mL）
免疫血液学的検査		
直接クームス試験＊3		（+）

対象項目	基準
微生物学的検査	
塗抹鏡検、培養、免疫学的検査	・血液・髄液・穿刺液など無菌的部位由来の検体からの菌検出時 ・1～3類感染症原因菌及び、感染対策として重要且つ緊急性が高い菌種などの検出時
抗酸菌検査	抗酸菌塗抹鏡検及び、抗酸菌分離培養で陽性
	結核菌群同定時
結核菌DNA〔PCR〕（TB-PCR）	（+）
薬物検査	
フェノバルビタール	60 以上（μg/mL）
フェニトイン	30 以上（μg/mL）
カルバマゼピン	15 以上（μg/mL）
プリミドン	15 以上（μg/mL）
バルプロ酸	150 以上（μg/mL）
エトスクシミド	120 以上（μg/mL）
炭酸リチウム	2.00 以上（mEq/L）
サリチル酸	300 以上（μg/mL）
ジゴキシン	2.5 以上（ng/mL）
プロカインアミド	16 以上（μg/mL）
リドカイン	6.0 以上（μg/mL）
メトトレキサート	1.0 以上（μmol/L）
バンコマイシン	60.0 以上（μg/mL）
テイコプラニン	60 以上（μg/mL）
テオフィリン	25 以上（μg/mL）

＊1 血清で提出の検体に限る
＊2 透析検体は除外
＊3 新生児のみ
＊4 透析前検体の高値は除外

主要参考文献　川崎医科大学検査診断学　臨床病理 vol.31 臨時号

検査方法の略号

BCP改良法	ブロムクレゾールパープル改良法	Bromcresol Purple
BLEIA法	生物化学発光免疫測定法	Bioluminescent Enzyme Immunoassay
CF法	補体結合反応	Complement Fixation Test
CLEIA法	化学発光酵素免疫測定法	Chemiluminescent Enzyme Immunoassay
CLIA法	化学発光免疫測定法	Chemiluminescent Immunoassay
ECLIA法	電気化学発光免疫測定法	Electro Chemi Luminescence Immunoassay
EIA法	酵素免疫測定法	Enzyme Immunoassay
ELISPOT法		Enzyme - Linked ImmunoSpot
EMIT法	多元酵素免疫測定法	Enzyme Multiplied Immunoassay Technique
FA法	蛍光抗体法	Fluorecent Antibody Method
FEIA法	蛍光酵素免疫測定法	Fluorecence Enzymes Immunoassay
FISH法	蛍光 insitu ハイブリダイゼーション法	Fluorecent In Situ Hybridization
FPIA法	蛍光変更免疫測定法	Fluorescence Polarization Immunoassay
GC法	ガスクロマトグラフィー法	Gas Chromatography
GC/MS法	ガスクロマト質量分析計法	Gas Chromatography / Mass Spectrometer
HA法	赤血球凝集反応	Hemagglutination Test
HEIA法	ホモジニアスエンザイムイムノアッセイ	Homogeneous Enzyme Immunoassay
HI法	赤血球凝集抑制反応	Hemagglutination Inhibition Test
HPLC法	高速液体クロマトグラフィー法	High Performance Liquid Chromatography
イオン電極法		Ion Electrode Method
イムノクロマトグラフィー法		Immunochromatography
金コロイド法		Gold Colloid Method
酵素法		Enzymatic Method
電気泳動法		Electrophoresis
ハイブリッドキャプチャー法		Hybrid Capture Method
比色法		Colorimetry
IFA法	間接蛍光抗体法	Indirect Fluorescent Antibody Technique
LAMP法	ループ介在等温増幅法	Loop-Mediated Isothermal Amplification
LA法	ラテックス凝集比濁法	Latex Agglutination Immunoassay
LC-MS/MS法	液体クロマトグラフィータンデム質量分析法	Liquid Chromatography - Tandem Mass Spectrometry
LIA法	ラインブロット法	Line Immunoassay
LPIA法	ラテックス近赤外免疫比濁法	Latex Photometric Immunoassay
MO法	二重免疫拡散法	Micro Ouchterlony
NT法	中和反応	Neutrazation Test
PA法	粒子凝集法	Particle Agglutination Test
※ PCR法	ポリメラーゼ連鎖反応	Polymerase Chain Reaction
PHA法	受身赤血球凝集反応	Passive Hemagglutination Test
RPLA法	逆受身ラテックス凝集反応法	Reversed Passive Latex Agglutination Test
RT-PCR法	逆転写ポリメラーゼ連鎖反応	Reverse Transcription Polymerase Chain Reaction
SDA法		Strand Displacement Amplification
TIA法	免疫比濁法	Turbidimetric Immunoassay
UV法	紫外吸光光度分析法	Ultraviolet Absorption Spectrophotometry
WB法	ウエスタンブロット法	Western Blot Method
比濁法		Turbidimetry
比濁法：ネフェロメトリー法		Nephelometry
フローサイトメトリー法		Flow Cytometry
ラテックス凝集免疫比濁法		Latex Agglutination Turbidimetric Immunoassay
リアルタイムPCR法		Real Time Polymerase Chain Reaction
蛍光光度法		Fluorometry
原子吸光法		Atomic Absorption Method
MALDI-TOF-MS	マトリックス支援レーザー脱離イオン化飛行時間型質量分析法	Matrix-Assisted Laser Desorption / Ionization Time-of-Flight Mass Spectrometry
IFE法	免疫固定法	Immunofixation Electrophoresis
MBP-QP法		Mutation-Biased PCR and Quenching Probe
PCR-rSSO法		PCR-Reverse Sequence Specific Oligonucleotide

※ PCR法はエフ・ホフマン・ラ・ロシュ社のライセンスに基づいて実施しております。

基準値

正常参考値及び判定基準値は、当社では基準値で表示しております。基準値欄の略号及び単位は次の通りです。

略号	M	Male：男性
	F	Female：女性
	RBC	Red blood cell：赤血球
	d	day：日
	h	hour：時間
	min	minute：分

桁記号	k	kilo：	10^{3}
	d	deci：	10^{-1}
	m	milli：	10^{-3}
	μ	micro：	10^{-6}
	n	nano：	10^{-9}
	p	pico：	10^{-12}
	f	femto：	10^{-15}

単位記号	AU	Arbitrary Unit	Eq	Equivalent	Osm	osmol
	B.U	Bethesda Unit	g	gram	ppm	parts per million
	BCE	Bone Collagen Equivalent	HPF	High-Power Field	S.I.	Stimulation Index
	CAI	Corrected Absorbance Index	IU	International Unit	U	unit
	CFU	Colony Forming Unit	L	Liter	%	percent
	cpm	count per minute	M	mol/L	‰	permill
	EIU	Enzyme Immunounits	mol	mole		

ご利用の手引き

本文の検査項目欄の記載例

本文では、検体必要量、容器・保存方法、検査方法、基準値・単位、所要日数、検体検査実施料・判断料等検査のご依頼に当たってご注意いただきたい事項を表記しています。

下記の例をご参照の上、正確な検体の管理にご協力下さい。

日本臨床検査医学会統一コード
検査項目名称
JLAC10コード
容器記号ー保存方法
各頁下欄外の説明及び巻末の容器一覧を参照して下さい。
当社項目コード
（略称･別称）
検査材料及び必要量
実施料（包括算定対象は青字で表します）

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
蛋白関連検査								
1001 3A010	**総蛋白** (TP) 3A010-0000-023-271	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (21日)	Biuret法	6.7～8.3 g/dL	1～2	11 生化Ⅰ	蛋白分画、総蛋白及びアルブミンを同時に測定した場合は、主たるもの2つを算定する。
1195 5C065	**β2-マイクログロブリン** (β2-MG) 5C065-0000-023-062 5C065-0000-001-062	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	2.0 以下 mg/L	1～2	107 免疫	
1196 5C065		尿 **1.0**	**C-3** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	289 以下 μg/L	2～4	107 免疫	PH5.5以上を確認し、提出して下さい。

容器記号：A1（普通試験管：分離剤入り）に採取し、遠心操作後、そのままご提出下さい。（但し、採血当日のご提出が不可能な場合、容器記号：G（凍結用ポリ試験管）に移しての保存をお願いします）

主として健常人の検体より設定しており、異常検体の動向を全て反映するものでなく目安として下さい。
緊急異常値報告対象項目

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
凝固系一般検査								
2029 2B030	**プロトロンビン時間** (PT) 2B030-0000-022-311	血漿 **0.5**	**D-1** ⬇ **G** 凍結	Quick変法	PT INR値0.88～1.17 PT活性 66.0～127.6 % PT時間 9.4～12.2 秒 ※1	1～3	18 血液	緊急 トロンボテストと同時算定不可

容器記号：D（凝固検査用試験管）に血液を採取し、遠心操作後、血漿を容器記号：G（凍結用ポリ試験管）に移して凍結しご提出下さい。なお、検査材料の移し替えが不可欠な場合、『採取容器→提出容器』で表記しております。

赤の表示は検体取扱上の注意事項を表します。
青の表示は保険取扱上の留意事項を表します。

【マーク一覧】

受付・報告関連	緊急異常値報告対象	緊急	緊急異常値の報告範囲（ご利用の手引きⅦ頁参照）が設定されております。この範囲を超えた場合には、測定後すみやかに電話またはファクシミリでご報告いたします。
受付・報告関連	予約検査	予約検査	検体採取前に、最寄の営業所へご連絡下さい。
受付・報告関連	曜日指定	曜日指定	受託可能日をご確認の上、ご依頼下さい。
受付・報告関連	倫理指針対象検査項目	倫理指針対象	ヒト遺伝子倫理指針対象項目です。ご依頼に当たっては、先天性疾患染色体分析依頼書によってご依頼下さい。

検体の取扱い	常温	常温	15～25℃で保存してご提出して下さい。
検体の取扱い	冷蔵	冷蔵	2～8℃で保存してご提出して下さい。なお、数日以上に渡って保存される場合は、凍結して保存していただくようお願いします。凍結不可の材料につきましては、その旨、記載いたします。
検体の取扱い	凍結	凍結	凍結（－18℃以下）で保存してご提出して下さい。なお、凍結保存指定の検査項目につきましては、原則として単独検体での出検をお願いいたします。
検体の取扱い	遮光	遮光	直射日光又は蛍光灯等を避け、遮光保存して下さい。
検体の取扱い	保温	保温	孵卵器等で保温（35～39℃）して下さい。

検体採取に当たっての注意事項

RIA・RA・RRA 等・アイソトープを用いる測定項目

●シンチグラフィー等で invivo に投与したアイソトープが残存すると異常値発生の原因となることがありますのでご注意下さい。

血　液

【採血時間について】

●採血は安静空腹時肘静脈採血を原則とします。

●食事や運動が異常値発生の原因となることがありますのでご注意下さい。

【採血量等について】

●採血量は必要血清量の３～４倍、必要血漿量の２～３倍を目安にして下さい。

●採血量が厳密に決められている採血容器は、検査結果に影響を及ぼすために、必ず規定量を守って下さい。

●翼状針を用いる場合、必要に応じてダミーの採血管に少量の血液を採取し正確な採血量を確保して下さい。

【溶血を避けるための注意事項】
●採血時に溶血を避けるために、無理な圧力や泡立ちを避けて下さい。特に、シリンジ採血の場合、内筒を強く引きすぎるなど無理な圧力を避け、又、針とシリンジがしっかりと接続されていることを確認し気泡の混入などを避けるなど、注意願います。
●転倒混和の際、血液を泡立てないようにして下さい。
●真空採血管の場合、採血量が規定量よりも少ない場合は、容器内部が陰圧状態のままとなり、溶血の原因となります。陰圧を解除して下さい。
●シリンジ採血の場合、各採血管の間でのコンタミネーションや血液の注入量などに注意の上、注射針を外し採血管の側面に沿わせてゆっくりと注入して下さい。
【採血後の注意】
●抗凝固剤・凝固促進剤入り採血容器に採血された場合は、採血後すみやかに、泡立てないように緩やかに転倒混和させて下さい。
【血清・血漿分離の際の注意事項】
●血清は、採血後常温で凝固させ、凝固完了後遠心分離して下さい。
●特に指定がない場合は 1,200 ～ 1,700G で 5 ～ 10 分遠心分離して下さい。

遠心力換算一覧表

半径(cm)	1,200G	1,500G	1,700G
	回転数	回転数	回転数
6	4,200	4,700	5,000
8	3,700	4,100	4,400
10	3,300	3,700	3,900
11	3,100	3,500	3,700
12	3,000	3,300	3,600
13	2,900	3,200	3,400
14	2,800	3,100	3,300
15	2,700	3,000	3,200
16	2,600	2,900	3,100
19	2,400	2,700	2,800
20	2,300	2,600	2,800

【遠心力の計算式】
回転数とローター半径より遠心力を求める場合
$RCF\ (Xg) = 11.18 \times (N/1000)^2 \times R$
遠心力とローター半径より回転数を求める場合
$N\ (rpm) = 299 \times \sqrt{(RCF/R)}$
RCF：遠心力（× g）
R：ローター半径（cm）
N：毎分回転数（rpm）
【その他】
●凍結する場合は破損のおそれがありますので、ガラス容器は避けて下さい。
●採血の手技等に関しては、日本臨床検査標準協議会（JCCLS）の標準採血法ガイドライン（GP4-A3）を参考して下さい。

尿

●尿による検査は部分尿・早朝尿・時間指定蓄尿・24 時間蓄尿等がありますので本文各項目欄をご参照下さい。
● 24 時間蓄尿の注意事項
1. 冷暗所にて蓄尿終了後、尿量を確認し必要量を検体容器に移し提出して下さい。
2. 防腐・安定化などの目的で添加薬剤を必要とすることがありますので本文各項目欄をご参照下さい。
3. 必ず依頼書に尿量を記入して下さい。
●酸性蓄尿の注意事項
1. 検査項目により、防腐・安定化などの目的で蓄尿時に尿の酸性化を必要とすることがあります。
2. 酸性化した尿検体ではデータに影響がある検査項目もありますので、本文各項目欄をご参照下さい。
3. 規定量の 6N 塩酸を予め蓄尿容器に入れて蓄尿して下さい。（添加する詳細な規定量や注意事項は本文各項目欄をご参照下さい。）

採血と保存に関する参考資料

○採血管の順序

複数の採血管に採血する場合、各採血管の間でおこる内容物によるコンタミネーションによる検査結果への影響を防ぐ為に以下の手順が推奨されております。

但し、確実なエビデンスが得られているものは少ないため、個々の状況に応じて検査項目の優先度などを考慮して順序を変更することは許容されております。

1）真空管採血の場合

①凝固検査用採血管
②赤沈用採血管
③血清用採血管
④ヘパリン入り採血管
⑤ EDTA 入り採血管
⑥解糖阻害剤入り採血管
⑦その他

又は

①血清用採血管
②凝固検査用採血管
③赤沈用採血管
④ヘパリン入り採血管
⑤ EDTA 入り採血管
⑥解糖阻害剤入り採血管
⑦その他

2）シリンジ採血の場合（分注の順序）

①凝固検査用採血管
②赤沈用採血管
③ヘパリン入り採血管
④ EDTA 入り採血管
⑤解糖阻害剤入り採血管
⑥血清用採血管
⑦その他

参考文献：標準採血法ガイドライン　2011年

○溶血の検査成績に及ぼす影響

健常人の血清ヘモグロビン（Hb）濃度は 1mg/dL 以下とされ、肉眼的に血清中に溶血を検出できるのは、Hb30 ～ 50mg/dL 以上です。血液の 35 ～ 50%は赤血球からなり、各種の生化学成分は、その血球と血漿とにおける含有比から次の 3 種類に分けられます。
（カッコ内は血球：血漿含有比）

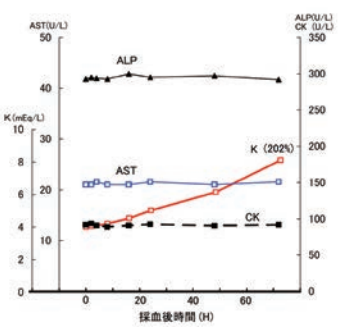
1）血球中と血漿中にほぼ同濃度に存在するもの
グルコース（血糖）、尿素、重炭酸塩、無機リン、総コレステロール
2）血球中濃度が血漿中濃度より高いもの
カリウム（23 倍）、LD（200 倍）、AST（80 倍）、ALT（15 倍）
3）血球中濃度が血漿中より低いもの
ナトリウム（0.1 倍）、クロール（0.5 倍）、カルシウム（0.1 倍）、LAP（0.2 倍）、ALP（0.2 倍）、コレステロールエステル（0）、CK（0）

参考文献：臨床検査法提要　改訂第 31版

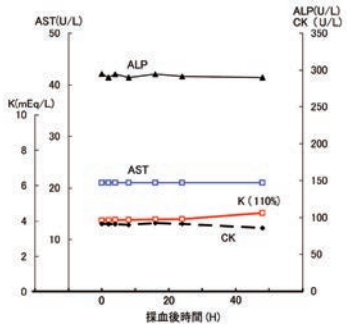
○未遠心分離検体の経時変化

未遠心分離の検体は、保存条件（冷蔵又は常温）により著しくデータに影響が出る場合があります。

未遠心〔冷蔵〕



未遠心〔常温〕



索　引（50 音）

ア

	頁	保険点数	保険区分
亜鉛(Zn)	15	140	D007 37
悪性リンパ腫解析検査(MLA)CD45ゲーティング	126	1940	D005 15
亜硝酸塩(尿)	111	(26)	D000
アスコルビン酸→ビタミンC	18	314	D007 58
アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ→ AST	8	17	D007 03
アスピリン→サリチル酸	105	※	B001 02
アスペノン→アプリンジン	106	※	B001 02
アスペルギルス抗原	57	161	D012 28
アスペルギルス抗体	53	-	
アセタゾラミド	103	※	B001 02
アセチルコリン受容体抗体→抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)	66	822	D014 41
アセトアミノフェン	107	185	D007 44
アセトン体→ケトン体(アセトン体)定性(尿)	111	(26)	D000
アセリオ→アセトアミノフェン	107	185	D007 44
アデノ(ウイルス抗体)	84・86	79	D012 11
アデノシンデアミナーゼ(ADA)	10	32	D007 11
アトピー鑑別試験	75	194	D015 20
アトピー性皮膚炎(成人)【IgE特異的アレルゲン疾患別セット】	76	76 頁参照	
アドレナリン→カテコールアミン分画	28	170	D008 31
アフィニトール→エベロリムス	108	※	B001 02
アプリンジン	106	※	B001 02
アポリポ蛋白	5	※	
アミオダロン	106	※	B001 02
アミカシン	107	※	B001 02
アミカマイシン→アミカシン	107	※	B001 02
アミサリン→プロカインアミド	105	※	B001 02
アミノ酸分析定量	20	1176	D010 04 ロ
アミラーゼ(AMY)	9	11	D007 01
アミラーゼアイソザイム(AMY アイソザイム)	12	48	D007 14
アミロイドA蛋白→血清アミロイドA蛋白	70	47	D015 06
アラニンアミノトランスフェラーゼ→ ALT	8	17	D007 03
アルカリホスファターゼ染色(ALP染色)	97	97 頁参照	D005 06
アルカリホスファターゼアイソザイム→ ALPアイソザイム	11	48	D007 14
アルカリホスファターゼ→ ALP	8	11	D007 01
アルギニンバゾプレシン→ AVP	26	235	D008 47
アルドステロン	32	125	D008 14
アルドステロン / レニン活性比(PAC/PRA比)	32	-	
アルドステロン / レニン定量比(PAC/PRC比)	32	-	
アルドラーゼ(ALD)	9	11	D007 01
アルブミン(血清)	1	11	D007 01
アルブミン・グロブリン比→ A/G比	1	-	
アルブミン定量(尿)→尿中アルブミン定量	112	102	D001 08
アルベカシン	107	※	B001 02
アルミニウム(Al)	15	115	D007 29
アレビアチン→フェニトイン	103	※	B001 02
アレルゲン→ IgEシングル・マルチアレルゲン	75	110	D015 13
アンカロン→アミオダロン	106	※	B001 02
アンギオテンシンⅠ	36	-	
アンギオテンシンⅠ転換酵素(ACE)	10	144	D007 38
アンギオテンシンⅡ	36	-	
アンチトロンビン活性(AT-Ⅲ)	100	70	D006 10
アンチプラスミン(プラスミンインヒビター)	100	128	D006 15
アンモニア(NH_3)	7	50	D007 16

イ

	頁	保険点数	保険区分
イオン化カルシウム	13	26	D007 07
イーケプラ→レベチラセタム	104	※	B001 02
胃がんリスク層別化検査(ABC分類)	55		
胃がんリスク層別化検査(ABC分類)(除菌歴あり)	55		
胃癌HER2遺伝子〔FISH〕	157	2700	N005 01
イマチニブ	107	※	B001 02
インスリン(IRI)	28	106	D008 10
インスリン抗体→抗インスリン抗体	68	110	D014 06
インターロイキン2受容体(IL-2R)	46	438	D009 29
インデラル→プロプラノロール	106	-	
インフルエンザ(ウイルス抗体)	84・85	79	D012 11
インプロメン→ブロムペリドール	104	※	B001 02

ウ

	頁	保険点数	保険区分
運動率(精液)	115	70	D004 04
ウイルス同定	91	-	
ウイルス分離	91	-	
ウロビリノーゲン定性	111	(26)	D000
ウロポルフィリン定量(尿)	112	105	D001 10

エ

	頁	保険点数	保険区分
衛生検査(検便検査)(保菌検査)	139・140	-	
エオジン細胞鏡検→鼻汁中、喀痰中好酸球	118	15	D005 03
エクセグラン→ゾニサミド	104	※	B001 02
エコー(ウイルス抗体)	85・87・88	79	D012 11
エステラーゼ染色	97	97 頁参照	D005 06
エストラジオール(血清)(E_2)	33	177	D008 34
エストリオール(血清)(E_3)	33	-	
エストロゲンレセプター	157	720	N002 01
エタノール	18	111	D007 27
エチオコラノロン→17-ケトステロイド分画	31	213	D008 40
エトスクシミド	103	※	B001 02
エピレオプチマル→エトスクシミド	103	※	B001 02
エベロリムス	108	※	B001 02
エラスターゼ 1	43	126	D009 07
エリスロポエチン	37	209	D008 39
エルシニア培養	134	134 頁参照	
エルタシン→ゲンタマイシン	107	※	B001 02
塩基性フェトプロテイン→BFP	41	150	D009 14
塩酸ピルジカイニド	105	※	B001 02
エンテロ(ウイルス抗体)	88	-	
エンドトキシン	56	243	D012 44

オ

	頁	保険点数	保険区分
黄体形成ホルモン(LH)	26	111	D008 13
オステオカルシン(BGP)	37	158	D008 26
オスポロット→スルチアム	103	※	B001 02
オーム病クラミジア抗体	52	79	D012 11
オリゴクローナルバンド〔等電点電気泳動法〕	115	522	D004 10
オリベス→リドカイン	106	※	B001 02

カ

	頁	保険点数	保険区分
喀痰中好酸球(エオジン細胞鏡検)	118	15	D005 03
下垂体後葉負荷試験	39	39 頁参照	D287 02
下垂体前葉負荷試験	39	39 頁参照	D287 01
ガストリン	28	104	D008 09
ガストリン放出ペプチド前駆体→Pro GRP	44	175	D009 21
活性化部分トロンボプラスチン時間(APTT)	98	29	D006 07
カテコールアミン分画	28	170	D008 31
カドミウム(Cd)	15	-	
ガバペン→ガバペンチン	104	※	B001 02
ガバペンチン	104	※	B001 02
花粉症【IgE特異的アレルゲン疾患別セット】	76	76 頁参照	
可溶性インターロイキン2レセプター→インターロイキン2受容体	46	438	D009 29
可溶性フィブリンモノマー複合体(SFMC)	100	93	D006 12
カリウム(K)	13	11	D007 01
カリウム(K)(髄液)	116	11	D007 01
顆粒球エラスターゼ(子宮頸管粘液)	119	122	D004 07
カルシウム(Ca)	13	11	D007 01

カルシウムイオン→イオン化カルシウム	13	26	D007 07
カルシトニン	27	137	D008 20
カルニチン	19	190	D007 23
カルバマゼピン	103	※	B001 02
カロナール→アセトアミノフェン	107	185	D007 44
肝細胞増殖因子(HGF)	2	227	D007 50
カンジダ・マンナン抗原	57	134	D012 19
関節液結晶(ピロリン酸Ca、尿酸Na)	118	-	
間接クームス試験	49	47	D011 02 ロ
癌胎児性抗原→CEA	41	102	D009 02
癌胎児性フィブロネクチン定性(頸管腟分泌液)	119	204	D015 22
カンピロバクター培養	134	134 頁参照	
寒冷凝集反応	52	11	D014 01

キ

	頁	保険点数	保険区分
奇形精子率	115	70	D004 04
キシロカイン→リドカイン	106	※	B001 02
キニジン	106	※	B001 02
巨核細胞数(穿刺液)	118	-	

ク

	頁	保険点数	保険区分
グアナーゼ(GU)	10	35	D007 12
空中浮遊菌検査(環境検査)	141	-	
クームス試験(間接)	49	47	D011 02 ロ
クームス試験(直接)	49	34	D011 02 イ
クームス定量試験	49	-	
グラセプター→タクロリムス	108	※	B001 02
クラミジア・トラコマチスDNA〔PCR〕	59	198	D023 02
クラミジア・トラコマチスDNA〔SDA〕	59	198	D023 02
クラミジア・トラコマチス核酸増幅→クラミジア・トラコマチスDNA〔PCR〕、〔SDA〕	59	198	D023 02
クラミジアトラコマチスIgG・IgA抗体	53	200	D012 37
クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニエIgA抗体	52	75	D012 10
クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニエIgG抗体	52	70	D012 09
クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニエIgM抗体	52	156	D012 26
クリオグロブリン定性	70	42	D015 05
グリコアルブミン(GA)	3	55	D007 17
グリココール酸(CG)	5	80	D007 21
グリコヘモグロビン→HbA1c	3	49	D005 09
クリプトコッカス抗原定性	57	174	D012 32
クリプトコッカス培養	134	134 頁参照	
グリベック→イマチニブ	107	※	B001 02
グルカゴン(IRG)	28	150	D008 23
グルカゴン負荷試験	40	40 頁参照	D288 02
グルコース→血糖(グルコース)	3	11	D007 01
クレアチニン	6	11	D007 01
クレアチニンクリアランス	22	-	
クレアチン	6	11	D007 01
クレアチンキナーゼ→CK	9	11	D007 01
クレアチンキナーゼアイソザイム→CKアイソザイム	12	55	D007 17
クロール(Cl)	13	(11)	D007 01
クロール(髄液)	116	11	D007 01
クロストリジウム・ディフィシル(嫌気培養)	134	134 頁参照	
クロストリジウム・ディフィシル抗原(トキシンA・B)	135	80	D012 12
クロスマッチ→交差適合試験	49	30+47	
クロナゼパム	103	※	B001 02
クロバザム	104	※	B001 02
グロブリン反応→ノンネアペルト反応	116	62	D004 03
グロブリン反応→パンディ反応	116	62	D004 03
クロム(Cr)	16	-	

ケ

	頁	保険点数	保険区分
血液・穿刺液(培養検査)	133	215	D018 03
血液型(ABO)→ABO血液型	49	24	D011 01
血液型(Rh(D))→Rh(D)血液型	49	24	D011 01
血液浸透圧→浸透圧(血清)	96	15	D005 03
血液像→白血球像	95	15	D005 03
結核菌DNA〔PCR〕(TB-PCR)	58	410	D023 11
結核菌Nested PCR《髄液》・《胸水》	163	-	
結核菌群抗原定性	138	291	D012 47
結核菌特異的インターフェロン-γ産生能(T-SPOT.TB)(QFTプラス)	58	612	D015 27
血色素量→ヘモグロビン	95	21	D005 05
結晶証明→関節液結晶	118	-	
血漿FDP→フィブリン・フィブリノゲン分解産物	100	80	D006 11
血小板関連IgG(PA-IgG)	50	198	D011 06
血小板抗体→抗血小板抗体	49	262	D011 08
血小板数(PLT)	95	21	D005 05
血小板第4因子(PF4)	102	178	D006 26
血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体→HIT抗体	50	390	D011 10
血清アミロイドA蛋白(SAA)	70	47	D015 06
血清鉄→鉄(Fe)血清	14	11	D007 01
血清補体価(CH_{50})	69	38	D015 04
結石分析	20	120	D010 02
血中微生物→フィラリア・マラリア原虫	96	40	D005 07
血沈→赤血球沈降速度	96	(9)	D005 01
血糖(グルコース)	3	11	D007 01
ケトン体(アセトン体)定性(尿)	111	(26)	D000
ケトン体分画	12	59	D007 19
嫌気培養	133	133 頁参照	
ゲンタシン→ゲンタマイシン	107	※	B001 02
ゲンタマイシン	107	※	B001 02
検便検査→衛生(検便検査)	139	-	

コ

	頁	保険点数	保険区分
抗AChR抗体→抗アセチルコリンレセプター抗体	66	822	D014 41
抗BP180抗体(抗BP180NC16a抗体)	67	270	D014 31
抗CCP抗体定量(抗シトルリン化ペプチド抗体)	62	204	D014 23
抗CL-β_2GPⅠ抗体→抗カルジオリピン-β_2-グリコプロテインⅠ複合体抗体	66	223	D014 25
抗DNA抗体定量	64	168	D014 16
抗ds-DNA-IgM抗体	64	-	
抗ds-DNA-IgG抗体定量	64	168	D014 16
抗Dsg1抗体→抗デスモグレイン1抗体	67	300	D014 35
抗Dsg3抗体→抗デスモグレイン3抗体	67	270	D014 31
抗GAD抗体(抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体)	68	134	D008 18
抗GBM抗体→抗糸球体基底膜抗体	67	270	D014 31
抗IA-2抗体	68	213	D008 40
抗Jo-1抗体定量	65	140	D014 09
抗Jo-1抗体半定量	65	140	D014 09
抗LKM1抗体	68	221	D014 24
抗MuSK抗体→抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体	66	1000	D014 43
抗p53抗体	46	163	D009 18
抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	64	170	D014 17
抗RNP抗体定量	64	144	D014 10
抗RNP抗体半定量	64	144	D014 10
抗Scl-70抗体定量	65	161	D014 14
抗Scl-70抗体半定量	65	161	D014 14
抗Sm抗体定量	65	151	D014 12
抗Sm抗体半定量	65	151	D014 12
抗SS-A/Ro抗体定量	65	163	D014 15
抗SS-A/Ro抗体半定量	65	163	D014 15
抗SS-B/La抗体定量	65	161	D014 15
抗SS-B/La抗体半定量	65	161	D014 15
抗ss-DNA-IgM抗体	64	-	
抗ss-DNA-IgG抗体定量	64	168	D014 16
抗Tg抗体→抗サイログロブリン抗体	63	144	D014 10
抗TPO抗体→抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体	63	146	D014 11
抗アクアポリン4抗体	66	1000	D014 43
抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)	66	822	D014 41
抗胃壁細胞抗体	68	-	

索　引（50 音）

抗インスリン抗体	68	110	D014 06
抗核抗体半定量（ANA）	63	105	D014 05
抗ガラクトース欠損IgG抗体（CA・RF）	62	117	D014 08
抗カルジオリピン-β_2-グリコプロテイン1複合体抗体（抗CL-β_2GPⅠ抗体）	66	223	D014 25
抗カルジオリピンIgG抗体	66	232	D014 27
抗カルジオリピンIgM抗体	66	-	
高感度HCVコア蛋白→HCVコア抗原	81	108	D013 05
高感度PSAタンデム	43	127	D009 08
高感度PSAタンデムF/T比	43	154	D009 15
抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体（抗MuSK抗体）	66	1000	D014 43
抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体→抗GAD抗体	68	134	D008 18
抗血小板抗体	49	262	D011 08
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体（抗TPO抗体）	63	146	D014 11
抗甲状腺マイクロゾーム抗体半定量（マイクロゾームテスト）	63	37	D014 03
抗好中球細胞質プロテイナーゼ3抗体→ PR3-ANCA	67	267	D014 30
抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体→MPO-ANCA	67	265	D014 29
口腔・気道・呼吸器からの検体（培養検査）	133	160	D018 01
抗サイログロブリン抗体（抗Tg抗体）	63	144	D014 10
抗サイログロブリン抗体半定量（サイロイドテスト）	63	37	D014 03
交差適合試験	49	30+47	
抗酸菌同定〔質量分析法〕	138	361	D021
抗酸菌塗抹鏡検 蛍光染色（集菌塗抹）	137	50＋加算32	D017 01
抗酸菌塗抹鏡検 蛍光染色（直接塗抹）	137	50	D017 01
抗酸菌塗抹鏡検 チールネルゼン染色	137	61	D017 03
抗酸菌分離培養検査1	137	280	D020 01
抗酸菌分離培養検査2	137	204	D020 02
抗酸菌薬剤感受性検査	138	380	D022
好酸球数	96	17	D005 04
抗糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体）	67	270	D014 31
抗シトルリン化ペプチド抗体→抗CCP抗体定量	62	204	D014 23
甲状腺刺激ホルモン（TSH）	26	104	D008 09
甲状腺負荷試験	39	39 頁参照	D287 03
抗ストレプトキナーゼ半定量（ASK）	51	29	D012 03
抗ストレプトリジンO定量（ASO）	51	15	D012 01
抗セントロメア抗体（ELISA）	64	179	D014 18
抗デスモグレイン1抗体（抗Dsg1抗体）	67	300	D014 35
抗デスモグレイン3抗体（抗Dsg3抗体）	67	270	D014 31
抗皮膚抗体	67	-	
抗平滑筋抗体	68	-	
酵母様真菌培養	134	134 頁参照	
抗ミトコンドリアM2抗体（AMA-M2）	68	194	D014 21
抗ミトコンドリア抗体（AMA）（FA）	68	186	D014 19
抗ミュラー管ホルモン（AMH）	34	-	
抗ランゲルハンス島細胞抗体（ICA）	163	-	
抗利尿ホルモン（ADH）→ AVP	26	235	D008 44
コカール→アセトアミノフェン	107	185	D007 44
コクサッキーA群・B群（ウイルス抗体）	84・87	79	D012 11
骨型アルカリホスファターゼ→BAP	11	161	D008 27
骨髄像	96	812	D005 14
コプロポルフィリン定性（尿）	111	-	
コプロポルフィリン定量（血液）→赤血球コプロポルフィリン	7	210	D007 48
コプロポルフィリン定量（尿）	112	135	D001 14
コリンエステラーゼ（ChE）	8	11	D007 01
コルチゾール	31	127	D008 15
コレステロール→総コレステロール（T-Cho）	3	17	D007 03
コレステロール分画	3	57	D007 18

サ

	頁	保険点数	保険区分
細菌顕微鏡検査	133	61	D017 03
細菌培養検査→培養検査	133	133 頁参照	
細菌培養検査（環境検査）	141	-	
細菌薬剤感受性検査→薬剤感受性検査	136	136 頁参照	
サイクリックAMP（cAMP）	36	175	D008 33
サイトケラチン19フラグメント→シフラ	42	162	D009 17
サイトメガロ（ウイルス抗体）（CMV）	84	79	D012 11
サイトメガロウイルス（CMV）IgG抗体	90	212	D012 40
サイトメガロウイルス（CMV）IgM抗体	90	212	D012 40
サイトメガロウイルスpp65抗原定性（C10,C11）	92	377	D012 48
細胞種類（髄液）	116	62	D004 03
細胞種類（穿刺液）	117	-	
細胞診検査（婦人科材料）	155	150	N004 01
細胞診検査（その他一般材料）	155	190	N004 02
細胞数（髄液）	116	62	D004 03
細胞数（穿刺液）	117	-	
サイロイドテスト→抗サイログロブリン抗体半定量	63	37	D014 03
サイロキシン（T_4）	27	111	D008 12
サイロキシン結合グロブリン（TBG）	27	130	D008 16
サイログロブリン（Tg）	27	133	D008 17
サーティカン→エベロリムス	108	※	B001 02
サリチル酸	105	※	B001 02
サルソニン→サリチル酸	105	※	B001 02
サルモネラ（検便検査）	139	-	
ザロンチン→エトスクシミド	103	※	B001 02
三塩化（トリクロル）酢酸（TCA）	17	-	
サンディミュン→シクロスポリン	108	※	B001 02
サンリズム→塩酸ピルジカイニド	105	※	B001 02

シ

	頁	保険点数	保険区分
シアリルLe^{x}抗原→CSLEX	42	169	D009 19
シアリルLe^x-i抗原→SLX	42	148	D009 13
シアリルTn抗原（STN）	42	146	D009 11
シアル化糖鎖抗原KL-6→KL-6	21	114	D007 28
ジアゼパム	104	※	B001 02
ジアパックス→ジアゼパム	104	※	B001 02
ジェノタイプHCV-RNA-PCR	81	-	
子宮頸管粘液→顆粒球エラスターゼ	119	122	D004 07
シクロスポリン	108	※	B001 02
ジゴキシン	105	※	B001 02
ジゴシン→ジゴキシン	105	※	B001 02
糸状菌培養	134	134 頁参照	
シスタチンC	6	118	D007 31
ジソピラン→ジソピラミド	106	※	B001 02
ジソピラミド	106	※	B001 02
ジフテリア菌培養	134	134 頁参照	
シフラ（CYFRA21-1）（サイトケラチン19フラグメント）	43	162	D009 17
シベノール→シベンゾリン	105	※	B001 02
シベンゾリン	105	※	B001 02
脂肪酸4分画	19	417	D010 07
酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ→TRACP-5b定量	45	156	D008 25
消化管からの検体（培養検査）	133	180	D018 02
小児アレルギー【IgE特異的アレルゲン疾患別セット】	76	76 頁参照	
常用負荷試験	40	40 頁参照	D288 01
食物アレルギー【IgE特異的アレルゲン疾患別セット】	76	76 頁参照	
心筋トロポニンT（TnT）	2	115	D007 29
神経特異エノラーゼ→NSE	44	146	D009 11
心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	2	184	D007 43
浸透圧（血清）	96	15	D005 03
浸透圧（尿）	112	16	D001 03

ス

	頁	保険点数	保険区分
膵アミラーゼ（P-AMY）	9	48	D007 14
髄液一般検査	116	116 頁参照	
水銀（Hg）	16	-	
推算GFR→eGFR	22	-	
水痘・帯状ヘルペス（ウイルス抗体）	84	79	D012 11
水痘・帯状ヘルペス（VZV）抗原	92	233	D012 43
水痘・帯状ヘルペス（VZV）IgG 抗体	90	212	D012 40
水痘・帯状ヘルペス（VZV）IgM 抗体	90	212	D012 40
膵ホスホリパーゼA_2（PLA_2）	11	204	D007 47

	頁	保険点数	保険区分
髄膜炎菌培養	134	134 頁参照	
スルチアム	103	※	B001 02
スロービット→テオフィリン	108	※	B001 02

セ

	頁	保険点数	保険区分
精液一般検査	115	70	D004 04
精子不動化抗体	67	-	
精子数→精子濃度	115	70	D004 04
精子濃度	115	70	D004 04
精子量	115	70	D004 04
性腺負荷試験	39	39 頁参照	D287 06
成長ホルモン(GH)	25	111	D008 13
赤痢(衛生検査)	139	-	
赤痢アメーバ	135	135 頁参照	
赤血球コプロポルフィリン	7	210	D007 48
赤血球数(RBC)	95	21	D005 05
赤血球像	95	-	
赤血球遊離プロトポルフィリン	8	272	D007 54
赤血球沈降速度(ESR)	96	(9)	D005 01
セルシン→ジアゼパム	104	※	B001 02
セルセプト→ミコフェノール酸	108	※	B001 02
セルロプラスミン(CP)	1	90	D015 09
セレナミン→ジアゼパム	104	※	B001 02
セレニカR →バルプロ酸	103	※	B001 02
セレネース→ハロペリドール	104	※	B001 02
セロトニン	36	-	
線維素分解産物(血漿 FDP)→フィブリン・フィブリノゲン分解産物	100	80	D006 11
線維素分解産物(尿中FDP)	112	72	D001 07
潜血反応(尿)	111	(26)	D000
全血比重(GB)	96	-	
全脂質構成脂肪酸分画	20	417	D010 07
前立腺特異抗原→PSA、高感度PSAタンデム	43	127	D009 08

ソ

	頁	保険点数	保険区分
総コレステロール(T-Cho)	3	17	D007 03
総三塩化物(TTC)	17	-	
総脂質(TL)	4	-	
総胆汁酸(TBA)	5	47	D007 13
総蛋白(TP)	1	11	D007 01
総鉄結合能(TIBC)(直接比色法／ニトロソPSAP法(計算法))	14	11	D007 01
総ビリルビン(T-Bil)	7	11	D007 01
総分岐鎖アミノ酸 / チロシンモル比→BTR	20	288	D010 05
総ホモシステイン	20	287	D010 04 イ
組織ポリペプチド抗原→TPA	44	110	D009 05
ゾニサミド	104	※	B001 02
その他の部位からの検体(培養検査)	133	160	D018 05
ソマトメジンC(IGF-1)	25	218	D008 42

タ

	頁	保険点数	保険区分
大腸菌血清型別	135	175	D012 33
大腸菌ベロトキシン	135	194	D023-2 3
耐糖能精密検査	40	40 頁参照	D288 02
ダイアモックス→アセタゾラミド	103	※	B001 02
第Ⅱ因子	98	223	D006 30
第Ⅴ因子	98	223	D006 30
第ⅤⅡ因子	98	223	D006 30
第ⅤⅢ因子	98	223	D006 30
第ⅤⅢ因子インヒビター(第Ⅷ因子-INH)	100	148	D006 20
第ⅠⅩ因子	99	223	D006 30
第ⅠⅩ因子インヒビター(第Ⅸ因子-INH)	100	148	D006 20
第Ⅹ因子	99	223	D006 29
第ⅩⅠ因子	99	223	D006 29
第ⅩⅡ因子	99	223	D006 29
第ⅩⅢ因子	99	223	D006 29
タクロリムス	108	※	B001 02
タゴシッド→テイコプラニン	108	※	B001 02
炭酸リチウム	104	※	B001 02
胆汁酸→グリココール酸(CG)	5	80	D007 21
胆汁酸→総胆汁酸(TBA)	5	47	D007 13
単純ヘルペス(HSV)IgG抗体	90	212	D012 40
単純ヘルペス(HSV)IgM抗体	90	212	D012 40
単純ヘルペスウイルス(HSV)抗原	92	180	D012 34
単純ヘルペス(ウイルス抗体)(HSV)	84・86	79	D012 11
蛋白→総蛋白(TP)	1	11	D007 01
蛋白定性(尿)	111	(26)	D000
蛋白定量クレアチニン換算値(尿蛋白／クレアチニン比)	111	7	
蛋白定量(尿)	111	7	D001 01
蛋白定量(髄液)	116	11	D007 01
蛋白定量(穿刺液)	118	11	D007 01
蛋白分画	1	18	D007 04
タンボコール→フレカイニド	106	※	B001 02

チ

	頁	保険点数	保険区分
チアミン→ビタミンB_1	18	246	D007 51
チミジンキナーゼ活性(TK活性)	96	233	D005 12
チルミメール→メキシレチン	106	※	B001 02
チルミン→テオフィリン	108	※	B001 02
中性脂肪(TG)	4	11	D007 01
虫体検出	114	23	D003 03
虫卵→虫卵(集卵)(浮遊・沈殿)	113	15	D003 01
虫卵→虫卵(塗抹)	113	20	D003 02
虫卵(集卵)(沈殿法)	113	15	D003 01
虫卵(集卵)(浮遊法)	113	15	D003 01
虫卵(塗抹)	113	20	D003 02
直接クームス試験	49	34	D011 02 イ
直接ビリルビン(D-Bil)	7	11	D007 01
沈渣(穿刺液)	117	-	
沈渣(尿)→尿沈渣(尿沈渣顕微鏡検査)	113	(27)	D002
沈渣(尿)染色した場合→尿沈渣(尿沈渣顕微鏡検査)(染色した場合)	113	(27+9)	D002

ツ

	頁	保険点数	保険区分
ツツガ虫(Gilliam,Kato,Karp)IgG抗体	54	207	D012 38
ツツガ虫(Gilliam,Kato,Karp)IgM抗体	54	207	D012 38

テ

	頁	保険点数	保険区分
低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)	37	158	D008 26
テイコプラニン	108	※	B001 02
デオキシピリジノリン(DPD)	45	191	D008 36
テオドール→テオフィリン	108	※	B001 02
テオフィリン	108	※	B001 02
テオロング→テオフィリン	108	※	B001 02
テグレトール→カルバマゼピン	103	※	B001 02
テストステロン	34	125	D008 14
鉄(Fe)	14	11	D007 01
鉄染色	97	97 頁参照	D005 06
デハイドロエピアンドロステロンサルフェート(DHEA-S)	32	174	D008 32
デパケン→バルプロ酸	103	※	B001 02
デヒドロエピアンドロステロン→17-ケトステロイド分画	31	213	D008 40
デルタアミノレブリン酸→δ-アミノレブリン酸	112	112	D001 11
テルバンス→テオフィリン	108	※	B001 02
デルタアミノレブリン酸(産業医学関連)→δ-アミノレブリン酸(産業医学関連)	17	-	
デルタアミノレブリン酸定量→δ-アミノレブリン酸	112	112	D001 11

ト

	頁	保険点数	保険区分
糖→血糖(グルコース)	3	11	D007 01

索　引（50 音）

透析液エンドトキシン	56	-	
透析液細菌検査（生菌数）（環境検査）	141	-	
透析液細菌検査（同定検査）（環境検査）	141	-	
糖定性（尿）	111	(26)	D000
糖定量（髄液）	116	11	D007 01
糖定量（穿刺液）	118	11	D007 01
糖定量（尿）	112	9	D001 02
銅（Cu）	15	23	D007 05
糖負荷試験	40	40 頁参照	D288
ドーパミン→カテコールアミン分画	28	170	D008 31
ドーパミン総	29	-	
塗抹鏡検→細菌顕微鏡検査	133	61	D017 03
トキソプラズマIgG抗体	53	93	D012 14
トキソプラズマIgM抗体	53	95	D012 15
トコフェロール→ビタミンE	19	-	
トピナ→トピラマート	104	※	B001 02
トピラマート	104	※	B001 02
トブラシン→トブラマイシン	107	※	B001 02
トブラマイシン	107	※	B001 02
トランスサイレチン→プレアルブミン	1	107	D015 12
トランスフェリン（血清）	70	60	D015 07
トリグリセライド→中性脂肪	4	11	D007 01
トリクロル酢酸→三塩化（トリクロル）酢酸	17	-	
トリコスポロン・アサヒ抗体	52	873	D012 52
トリコモナス培養	135	135 頁参照	
トリプシン	10	189	D007 45
トリプトファン反応（髄液）	116	62	D004 03
トリメタジオン	103	※	B001 02
トリヨードサイロニン（T_3）	27	102	D008 08
トロンビン・アンチトロンビン複合体（TAT）	101	181	D006 27
トロンボモジュリン	101	204	D006 29

ナ

	頁	保険点数	保険区分
ナイアシン→ニコチン酸	19	-	
内分泌負荷試験	39	39 頁参照	D287
ナトリウム（Na）	13	(11)	D007 01
ナトリウム（髄液）	116	11	D007 01
鉛（Pb）	15	-	

ニ

	頁	保険点数	保険区分
ニコチン酸（ナイアシン）	19	-	
ニッケル（Ni）	16	-	
ニトラゼパム	104	※	B001 02
日本脳炎（ウイルス抗体）	84・85	79	D012 11
乳癌HER2遺伝子〔FISH〕	157	2700	N005 01
乳酸	12	47	D007 13
乳酸脱水素酵素→LD	8	11	D007 01
乳酸脱水素酵素アイソザイム→LDアイソザイム	11	48	D007 14
尿酸（UA）	6	11	D007 01
尿酸クリアランス	22	-	
尿素呼気試験（UBT）（ユービット）	61	70	D023-2 2
尿素窒素（UN）	6	11	D007 01
尿中免疫電気泳動（免疫固定法によるベンス・ジョーンズ蛋白（BJP）同定）	70	201	D015 21
尿中アルブミン定量	112	102	D001 08
尿中硫酸抱合型胆汁酸（USBA）	4	57	D007 18
尿中トランスフェリン	113	104	D001 09
尿中レジオネラ抗原定性	58	223	D012 41
尿中肺炎球菌莢膜抗原定性→肺炎球菌莢膜抗原定性	58	198	D012 36
尿中FDP→線維素分解産物（尿中FDP）	112	72	D001 07
尿中NMP22定量	46	147	D009 12
尿中Ⅳ型コラーゲン	113	189	D001 16
尿沈渣（尿沈渣顕微鏡検査）	113	(27)	D002
尿沈渣（尿沈渣顕微鏡検査）（染色した場合）	113	(27+9)	D002
尿糖→糖定量（尿）	112	9	D001 02

ネ

	頁	保険点数	保険区分
ネオーラル→シクロスポリン	108	※	B001 02
ネオペリドール→ハロペリドール	104	※	B001 02
ネルボン→ニトラゼパム	104	※	B001 02

ノ

	頁	保険点数	保険区分
脳梗塞リスク評価（A6C）	160	-	
ノルアドレナリン→カテコールアミン分画	28	170	D008 31
ノロウイルス抗原〔BLEIA〕	92	-	
ノロウイルス抗原定性	92	150	D012 25
ノンネアペルト反応（髄液）	116	62	D004 03

ハ

	頁	保険点数	保険区分
肺炎球菌莢膜抗原定性《尿》・《髄液》	58	198	D012 36
肺サーファクタントプロテインA → SP-A	21	130	D007 34
肺サーファクタントプロテインD → SP-D	21	136	D007 35
梅毒血清反応→梅毒定性・半定量	51	51 頁参照	
培養検査	133	133 頁参照	
白血球数（WBC）（血液）	95	21	D005 05
白血球定性（尿）	111	(26)	D000
白血球像	95	15	D005 03
白血病・リンパ腫解析検査（LLA）CD45ゲーティング	126	1940	D005 15
パス染色→ PAS染色	97	97 頁参照	D005 06
馬尿酸（HA）	17	-	
バニールマンデル酸（VMA）	30	90	D008 04
バニールマンデル酸（VMA）定性（尿）→ VMA定性（尿）	111	9	D001 02
ハプトグロビン（型判定含む）・（型判定なし）	7	136	D015 14
ハフトロン→サリチル酸	105	※	B001 02
ハベカシン→アルベカシン	107	※	B001 02
パラインフルエンザ（ウイルス抗体）	85	79	D012 11
バルプロ酸	103	※	B001 02
バレリン→バルプロ酸	103	※	B001 02
ハロステン→ハロペリドール	104	※	B001 02
ハロペリドール	104	※	B001 02
ハロマンス→ハロペリドール	104	※	B001 02
バンコマイシン	108	※	B001 02
パンディ反応（髄液）	116	62	D004 03
反応（pH）（髄液）→ pH（髄液）	116	62	D004 03
反応（pH）（精液）→ pH（精液）	115	70	D004 04
反応（pH）（穿刺液）→ pH（穿刺液）	117	-	
反応（pH）（尿）→ pH（尿）	111	(26)	D000

ヒ

	頁	保険点数	保険区分
ヒアルロン酸	12	184	D007 43
鼻炎・喘息・結膜炎【IgE特異的アレルゲン疾患別セット】	76	76 頁参照	
比重（穿刺液）	117	-	
比重（髄液）	116	62	D004 03
比重（全血）→全血比重	96	-	
比重（尿）	111	(26)	D000
鼻汁中好酸球（エオジン細胞鏡検）	118	15	D005 03
ビタミンA（レチノール）	18	-	
ビタミンB_1（チアミン）	18	246	D007 51
ビタミンB_{12}	18	144	D007 38
ビタミンB_2（リボフラビン）	18	249	D007 52
ビタミンB_6	18	-	
ビタミンC（アスコルビン酸）	18	314	D007 58
ビタミンD → 1α-25-$(OH)_2$ビタミンD	19	388	D007 59
ビタミンE（トコフェロール）	19	-	
ビタミンK分画	19	-	
ヒダントール→フェニトイン	103	※	B001 02
ヒト絨毛性ゴナドトロピン定性（HCG）	35	55	D008 01

ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量(HCG)	35	138	D008 21
ヒト絨毛性ゴナドトロピン-β-サブユニット	35	136	D008 19
ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白→H-FABP定量	2	139	D007 36
ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド→HANP	38	227	D008 45
ヒト精巣上体蛋白4(HE4)	42・166	200	D009 25
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド→BNP	38	136	D008 16
ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント→NT-proBNP	38	136	D008 18
ヒトパピローマウイルスDNA(HPV-DNA)	93	93 頁参照	
ヒトパルボB19IgG抗体	89	-	
ヒトパルボB19IgM抗体	89	212	D012 40
泌尿器・生殖器からの検体(培養検査)	133	170	D018 04
ピブカⅡ→PIVKAⅡ【凝固】	98	143	D006 19
ピブカⅡ→PIVKAⅡ定量(腫瘍マーカー)	44	143	D009 09
ビブリオ(検便検査)	139	-	
ピメノール→ピルメノール	106	※	B001 02
百日咳菌抗体	53	264	D012 45
百日咳菌培養	133	133 頁参照	
表面付着菌検査(環境検査)	141	-	
病理組織顕微鏡検査	155	155 頁参照	
病理組織電子顕微鏡検査	155	155 頁参照	
ビリルビン(血清)→総ビリルビン、直接ビリルビン	7	11	D007 01
ビリルビン定性(尿)	111	(26)	D000
ピルシカイニド塩酸塩→塩酸ピルジカイニド	105	※	B001 02
ピルビン酸	12	47	D007 13
ピルメノール	106	※	B001 02
ピレチノール→アセトアミノフェン	107	185	D007 44

フ

	頁	保険点数	保険区分
フィブリノゲン定量(Fib)	98	23	D006 04
フィブリン・フィブリノゲン分解産物(血漿FDP)	100	80	D006 11
フィラデルフィア染色体→BCR-ABL1 t(9;22)転座	122	2631+397	D006-5
フィラリア原虫	96	40	D005 07
風疹(ウイルス抗体)	85	79	D012 11
風疹IgG抗体〔CLEIA〕	90	212	D012 40
風疹IgG抗体	90・165	212	D012 40
風疹IgM抗体	90	212	D012 40
フェニトイン	103	※	B001 02
フェノバール→フェノバルビタール	103	※	B001 02
フェノバルビタール	103	※	B001 02
フェリチン定量	1	108	D007 26
フォン・ウィルブランド因子抗原定量(v.W 因子抗原定量)	99	151	D006 21
フォン・ウィルブランド因子活性(v.W 因子活性)	99	132	D006 16
不規則抗体	49	159	D011 04
副甲状腺負荷試験	39	39 頁参照	D287 04
副甲状腺ホルモン	27	170	D008 31
副甲状腺ホルモン関連蛋白(PTHrP)	27	194	D008 37
副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)	26	194	D008 37
副腎皮質負荷試験	39	39 頁参照	D287 05
ブドウ糖(血糖)→血糖(グルコース)	3	11	D007 01
不飽和鉄結合能(UIBC)(ニトロソPSAP法)	14	11	D007 01
プラスミノーゲンアクチベーターインヒビター1(PAI-1)	101	240	D006 32
プラスミノゲン活性	100	100	D006 13
プラスミノゲン抗原	100	100	D006 13
プラスミンインヒビター→アンチプラスミン	100	128	D006 15
プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PIC)	100	158	D006 22
プリミドン	103	※	B001 02
プレアルブミン(トランスサイレチン)	1	107	D015 12
フレカイニド	106	※	B001 02
プレグナンジオール(P_2)	34	213	D008 40
プレグナントリオール(P_3)	34	234	D008 46
プロカインアミド	105	※	B001 02
プロカルシトニン定量(PCT)	56	292	D007 55
プログラフ→タクロリムス	108	※	B001 02
プロゲステロン	33	151	D008 24
プロゲステロンレセプター	157	690	N002 02
プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド(P-Ⅲ-P)	1	140	D007 37
プロテインC(抗原量)	101	239	D006 32
プロテインC活性	101	241	D006 34
プロテインS(抗原量)	101	162	D006 23
プロテインS(遊離型抗原量)	101	162	D006 23
プロテインS活性	101	168	D006 24
プロトポルフィリン→赤血球遊離プロトポルフィリン	8	272	D007 54
プロトロンビン時間(PT)	98	18	D006 02
プロトロンビンフラグメントF1+2(PT フラグメントF1+2)	101	193	D006 28
プロノン→プロパフェノン	105	※	B001 02
プロパフェノン	105	※	B001 02
プロプラノロール	106	-	
ブロムペリドール	104	※	B001 02
プロラクチン(PRL)	26	98	D008 06
糞便中ヘリコバクター・ピロリ抗原定性	61	142	D012 23

ヘ

	頁	保険点数	保険区分
ペーハー→pH(精液)	115	70	D004 04
ペーハー→pH(髄液)	116	62	D004 03
ペーハー→pH(穿刺液)	117	-	
ペーハー→pH(尿)	111	(26)	D000
ヘパルス→サリチル酸	105	※	B001 02
ペプシノゲンⅠ・Ⅱ(PGⅠ・Ⅱ)	11	-	
ベプリコール→ベプリジル	106	※	B001 02
ベプリジル	106	※	B001 02
ヘマトクリット(Ht)	95	21	D005 05
ヘモグロビン(Hb)	95	21	D005 05
ヘモグロビン(潜血LA)定性(糞便)	114	37	D003 05
ヘモグロビン(潜血LA)定量(糞便)	114	41	D003 07
ヘモグロビン(潜血金コロイド)定性(糞便)	114	37	D003 05
ヘモグロビン(潜血金コロイド)定量(糞便)	114	41	D003 07
ヘモグロビン・トランスフェリン(Hb・Tf)定性(糞便)	114	56	D003 08
ヘモグロビン・トランスフェリン(Hb・Tf)定量(糞便)	114	56	D003 08
ヘモグロビンA1c→HbA1c	3	49	D005 09
ヘリコバクター・ピロリ感受性検査	136	136 頁参照	
ヘリコバクター・ピロリ抗原(糞便中)→糞便中ヘリコバクター・ピロリ抗原	61	142	D012 23
ヘリコバクター・ピロリ IgG抗体／国内株	55	80	D012 12
ヘリコバクター・ピロリ抗体／国内株	55	80	D012 12
ヘリコバクター・ピロリ培養	134	134 頁参照	
ペルオキシダーゼ染色	97	97 頁参照	D005 06
ベンザリン→ニトラゼパム	104	※	B001 02
ベンスジョーンズ蛋白定性(尿)	111	9	D001 02
ベンスジョーンズ蛋白同定→尿中免疫電気泳動	70	201	D015 21
扁平上皮癌関連抗原(SCC抗原)	43	107	D009 04
便潜血	114	114 頁参照	

ホ

	頁	保険点数	保険区分
補体蛋白C_3→C_3	69	70	D015 08
補体蛋白C_4→C_4	69	70	D015 08
ホモシステイン→総ホモシステイン	20	287	D010 04 イ
ホモバニリン酸(HVA)	29	69	D008 03
ホリゾン→ジアゼパム	104	※	B001 02
ポルフォビリノーゲン定量(尿)	112	191	D001 17

マ

	頁	保険点数	保険区分
マイクロゾームテスト→抗甲状腺マイクロゾーム抗体半定量	63	37	D014 03
マイクロサテライト不安定性検査(HNPCC・リンチ症候群)	131	2100	D004-2 1 イ-2
マイクロサテライト不安定性(MSI)検査(CDX)	131	2500	D004-2 1 イ-1
マイクロトランスフェリン→尿中トランスフェリン	113	104	D001 09
マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー核酸検出→MAC DNA〔PCR〕	58	421	D023 12
マイコプラズマ培養	134	134 頁参照	
マイコプラズマ抗体半定量	51	32	D012 04
マイスタン→クロバザム	104	※	B001 02

索　引（50 音）

マグネシウム(Mg)	14	11	D007 01
麻疹(ウイルス抗体)	85・86	79	D012 11
麻疹IgG抗体	90	212	D012 40
麻疹IgM抗体	90	212	D012 40
末梢血液一般検査	95	21	D005 05
マトリックスメタロプロテイナーゼ-3→MMP-3	62	116	D014 07
マラリア原虫	96	40	D005 07
マンガン(Mn)	16	27	D007 08
マンデル酸及びフェニルグリオキシン酸総量(MA及びPGA総量)	17	-	

ミ

	頁	保険点数	保険区分
ミエリンベイシック蛋白(MBP)	115	577	D004 11
ミオグロビン定量	2	139	D007 36
ミオシン→心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	2	184	D007 43
ミクロフィラリア→フィラリア原虫	96	40	D005 07
ミコフェノール酸	108	※	B001 02
ミトコンドリア抗体→抗ミトコンドリア抗体	68	186	D014 19
ミトコンドリアAST(m-AST)	10	49	D007 15
ミノアレ→トリメタジオン	103	※	B001 02

ム

	頁	保険点数	保険区分
無機リン(IP)	14	17	D007 03
無菌試験(環境検査)	141	-	
ムチン塊形成試験	117	-	
ムンプス(ウイルス抗体)	84・85・86	79	D012 11
ムンプスIgG抗体	90	212	D012 40
ムンプスIgM抗体	90	212	D012 40

メ

	頁	保険点数	保険区分
メキシチール→メキシレチン	106	※	B001 02
メキシレチン	106	※	B001 02
メソトレキセート→メトトレキサート	107	※	B001 02
メタネフリン・ノルメタネフリン分画	30	221	D008 44
メチル馬尿酸(MHA)	17	-	
メトトレキサート	107	※	B001 02
免疫グロブリン→IgA	69	38	D015 04
免疫グロブリン→IgE	75	100	D015 10
免疫グロブリン→IgG	69	38	D015 04
免疫グロブリン→IgM	69	38	D015 04
免疫抗体法による病理組織顕微鏡検査	155	155 頁参照	
免疫電気泳動(抗ヒト全血清による定性)	70	170	D015 16
免疫電気泳動(免疫固定法によるM蛋白同定)	70	224	D015 23
免疫複合体→C_1q 結合免疫複合体	62	157	D014 13
免疫複合体→モノクローナルRF結合免疫複合体	62	194	D014 21

モ

	頁	保険点数	保険区分
網赤血球数	96	12	D005 02
モノクローナルRF結合免疫複合体(mRF-IC)	62	194	D014 21
モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	124	-	

ヤ

	頁	保険点数	保険区分
薬剤感受性検査	136	136 頁参照	
薬剤血中濃度	103～110	103～110 頁参照	
薬剤によるリンパ球刺激試験(LST)	128	128 頁参照	D016 07

ユ

	頁	保険点数	保険区分
有核細胞数(穿刺液)	118	-	
有機モノカルボン酸定量→ピルビン酸	12	47	D007 13
有機モノカルボン酸定量→乳酸	12	47	D007 13
遊離コルチゾール	31	127	D008 15
遊離コレステロール(F-Cho)	4	11	D007 01
遊離サイロキシン(F-T_4)	27	127	D008 15
遊離脂肪酸(FFA・NEFA)	4	59	D007 19
遊離テストステロン	34	163	D008 28
遊離トリヨードサイロニン(F-T_3)	27	127	D008 15
遊離L鎖κ/λ比(FLC)	70	388	D015 26
ユービット→尿素呼気試験	61	70	D023-2 2
ユニコン→テオフィリン	108	※	B001 02
ユニフィル→テオフィリン	108	※	B001 02

ヨ

	頁	保険点数	保険区分
葉酸	18	154	D007 41

ラ

	頁	保険点数	保険区分
ラミクタール→ラモトリギン	104	※	B001 02
ラモトリギン	104	※	B001 02
卵巣悪性腫瘍推定値→ROMA	42・166	-	
卵胞刺激ホルモン(FSH)	26	111	D008 13
ランドセン→クロナゼパム	103	※	B001 02

リ

	頁	保険点数	保険区分
リウマトイド因子(RF)定性	62	-	
リウマトイド因子(RF)定量	62	30	D014 02
リストセチンコファクター→フォン・ウィルブランド因子活性	99	132	D006 16
リスモダン→ジソピラミド	106	※	B001 02
リゾチーム	10	-	
リチウム→炭酸リチウム	104	※	B001 02
リドカイン	106	※	B001 02
リパーゼ	9	24	D007 06
リバルタ反応(穿刺液)	117	-	
リポ蛋白分画	4	49	D007 15
リポ蛋白分画〔PAGディスク電気泳動法〕	4	80	D007 21
リポ蛋白リパーゼ(LPL)	9	223	D007 49
リポ蛋白(a)(LP(a))	5	107	D007 25
リポトリール→クロナゼパム	103	※	B001 02
リボフラビン→ビタミンB_2	18	249	D007 52
リポプロテイン(a)→リポ蛋白(a)	5	107	D007 25
リーマス→炭酸リチウム	104	※	B001 02
硫酸キニジン→キニジン	106	※	B001 02
緑膿菌(保菌検査)	140	-	
燐→無機リン	14	17	D007 03
淋菌核酸増幅→淋菌DNA〔PCR〕、〔SDA〕	60	204	D023 03
淋菌/クラミジア・トラコマチス同時測定 DNA〔PCR〕	60	278	D023 05
淋菌/クラミジア・トラコマチス同時測定DNA〔SDA〕	60	278	D023 05
淋菌DNA〔PCR〕	60	204	D023 03
淋菌DNA〔SDA〕	60	204	D023 03
淋菌培養	134	134 頁参照	
リン脂質(PL)	4	15	D007 02
リンパ球混合培養試験→MLC	127	-	
リンパ球幼若化検査(Con-Aによるリンパ球幼若化検査)	128	345	D016 07
リンパ球幼若化検査(PHAによるリンパ球幼若化検査)	128	345	D016 07

ル

	頁	保険点数	保険区分
ループスアンチコアグラント(LA)	66	281	D014 33
ルンベルグ反応(穿刺液)	117	-	

レ

	頁	保険点数	保険区分
レジオネラ抗原定性→尿中レジオネラ抗原定性	58	217	D012 41
レジオネラ培養	134	134 頁参照	
レチクロ→網赤血球数	96	12	D005 02
レチノール→ビタミンA	18	-	

レチノール結合蛋白（RBP）	18	136	D015 14
レニン活性（PRA）	36	100	D008 07
レニン定量（PRC）	36	108	D008 11
レベチラセタム	104	※	B001 02
レムナント様リポ蛋白コレステロール（RLP-C）	4	184	D007 43

ロ

	頁	保険点数	保険区分
ロイシンアミノペプチダーゼ→LAP	9	11	D007 01
ロタウイルス抗原定性	92	65	D012 08

索　引（アルファベット）

A

	頁	保険点数	保険区分
ABO血液型	49	24	D011 01
ACE→アンギオテンシンⅠ転換酵素	10	144	D007 38
ACTH→副腎皮質刺激ホルモン	26	194	D008 37
ADA→アデノシンデアミナーゼ	10	32	D007 11
ADAMTS13活性	99	400	D006 35
ADAMTS13インヒビター定量	99	1000	D006 36
ADH→AVP	26	235	D008 47
AFP→α-フェトプロテイン	41	104	D009 03
AFP-L3%→α-フェトプロテインレクチン分画	41	190	D009 23
A/G比	1	-	
Al→アルミニウム	15	115	D007 29
ALD→アルドラーゼ	9	11	D007 01
ALP(アルカリホスファターゼ)	8	11	D007 01
ALPアイソザイム	11	48	D007 14
ALP染色→アルカリホスファターゼ染色	97	97頁参照	D005 06
ALT(アラニンアミノトランスフェラーゼ)(GPT)	8	17	D007 03
AMA→抗ミトコンドリア抗体	68	186	D014 19
AMA-M2→抗ミトコンドリアM2抗体	68	194	D014 21
AMH→抗ミュラー管ホルモン	34	-	
AML1-ETO t(8;21)転座→RUNX1-RUNX1T1(AML1-MTG8) t(8;21)転座	122	2631+397	D006-5
AMY→アミラーゼ	9	11	D007 01
AMYアイソザイム→アミラーゼアイソザイム	12	48	D007 14
ANA→抗核抗体半定量	63	105	D014 05
Angelman症候群(15番染色体D15S10)→15染色体(アンジェルマン症候群)	121	2631+397	D006-5
APTT→活性化部分トロンボプラスチン時間	98	29	D006 07
ASK→抗ストレプトキナーゼ半定量	51	29	D012 03
ASO→抗ストレプトリジンO定量	51	15	D012 01
AST(アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ)(GOT)	8	17	D007 03
AT-Ⅲ→アンチトロンビン活性	100	70	D006 10
ATLA→HTLV-Ⅰ抗体(第3世代)	82	168	D012 30
ATLA→HTLV-Ⅰ抗体〔ラインブロット法・LIA法〕	82	425	D012 50
AVP(アルギニンバゾプレシン)	26	235	D008 47
AZF欠失→Y染色体微小欠失	160	-	
A6C→脳梗塞リスク評価	160	-	

B

	頁	保険点数	保険区分
B型肝炎ウイルスコア関連抗原(HBcrAg)	80	266	D013 12
B群連鎖球菌(GBS)培養	134	134頁参照	
B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig)IgG、IgA、IgM、IgD、K、L	123	157	D016 01
BAP(骨型アルカリホスファターゼ)	11	161	D008 27
BCA225	42	162	D009 17
BCR-ABL1 t(9;22)転座(フィラデルフィア染色体)	122	2631+397	D006-5
BFP(塩基性フェトプロテイン)	41	150	D009 14
BGP→オステオカルシン	37	161	D008 27
B-J蛋白定性→ベンスジョーンズ蛋白定性(尿)	111	9	D001 02
B-J蛋白同定→尿中免疫電気泳動	70	201	D015 21
BNP(ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド)	38	136	D008 19
BTR(総分岐鎖アミノ酸/チロシンモル比)	20	288	D010 05

C

	頁	保険点数	保険区分
C反応性蛋白(CRP)定性	70	16	D015 01
C反応性蛋白(CRP)定量	70	16	D015 01
C-ペプチド	28	111	D008 13
Ca→カルシウム	13	11	D007 01
c-AMP→サイクリックAMP	36	175	D008 33
CA15-3	41	118	D009 06
CA19-9	41	127	D009 08
CA72-4	42	146	D009 11
CA125	41	144	D009 10
CA・RF→抗ガラクトース欠損IgG抗体定量	62	117	D014 08
C-ANCA→PR3-ANCA	67	267	D014 30
CCR4タンパク〔FCM〕	126	10000	D006-10
CCR4蛋白〔IHC〕	157	10000	N002 05
Cd→カドミウム	15	-	
CD45ゲーティング	126	1940	D005 15
CEA(癌胎児性抗原)	41	102	D009 02
CG→グリココール酸	5	80	D007 21
CH_{50}→血清補体価	69	38	D015 04
ChE→コリンエステラーゼ	8	11	D007 01
CK(クレアチンキナーゼ)	9	11	D007 01
CKアイソザイム	12	55	D007 17
CK-MB	9	90	D007 22
CKS1B 1q21 増幅	122	2631+397	D006-5
Cl→クロール	13	(11)	D007 01
Cl→クロール(髄液)	116	11	D007 01
CMV(C10,C11)→サイトメガロウイルスpp65抗原定性(C10,C11)	92	377	D012 48
CMV→サイトメガロ(ウイルス抗体)	84	79	D012 11
CMV→サイトメガロウイルスIgG抗体	90	212	D012 40
CMV→サイトメガロウイルスIgM抗体	90	212	D012 40
Con-Aによるリンパ球幼若化検査	128	345	D016 07
CP→セルロプラスミン	1	90	D015 09
CPR→C-ペプチド	28	111	D008 13
Cr→クロム	16	-	
CRE(カルバペネム耐性腸内細菌科)(保菌検査)	140	-	
CRP定性→C反応性蛋白定性	70	16	D015 01
CRP定量→C反応性蛋白定量	70	16	D015 01
CSLEX(シアリルLe^{x}抗原)	42	164	D009 19
Cu→銅	15	23	D007 05
CYFRA21-1→シフラ	43	162	D009 17
C1インアクチベーター活性	101	268	D015 24
C1q	69	-	
C1q結合免疫複合体(C1エステラーゼインヒビター活性)	62	157	D014 13
C_3(β$_1$C/β$_1$Aグロブリン)	69	70	D015 08
C_4(β$_1$Eグロブリン)	69	70	D015 08

D

	頁	保険点数	保険区分
Dダイマー	100	133	D006 17
D-Bil→直接ビリルビン	7	11	D007 01
DHEA-S→デハイドロエピアンドロステロンサルフェート	32	174	D008 32
DOC→11-デオキシコルチコステロン	31	-	
DPD→デオキシピリジノリン	45	191	D008 36
DUPAN-2	41	118	D009 06
D13S319 del(13)長腕欠失	122	2631+397	D006-5

E

	頁	保険点数	保険区分
EBウイルス(ウイルス抗体)	89	212	D012 40
EBウイルス(ウイルス抗体)	89	79	D012 11
EGFR遺伝子変異解析〔リアルタイム PCR法〕	130	2500	D004-21イ-1
EGFR遺伝子変異解析《血漿》	129	2100	D006-12
EGFRタンパク	158	690	N002 04
eGFRcreat	22	-	
eGFRcys	22	-	
EHEC O157(検便検査)	139	-	
ESBL(基質特異性拡張型β-ラクタマーゼ)産性菌(保菌検査)	140	-	
ESR→赤血球沈降速度	96	(9)	D005 01
E_2→エストラジオール(血清)	33	177	D008 34
E_3→エストリオール	33	-	

F

	頁	保険点数	保険区分
F-Cho→遊離コレステロール	4	11	D007 01
FDP→フィブリン・フィブリノゲン分解産物(血漿FDP)	100	80	D006 11
FDP→線維素分解産物(尿中FDP)	112	72	D001 07
Fe→鉄	14	11	D007 01
FFA→遊離脂肪酸	4	59	D007 19

	頁	保険点数	保険区分
Fib→フィブリノゲン定量	98	23	D006 04
FLC→遊離L鎖 κ / λ 比	70	388	D015 26
FSH→卵胞刺激ホルモン	26	111	D008 13
F-T_3→遊離トリヨードサイロニン	27	127	D008 15
F-T_4→遊離サイロキシン	27	127	D008 15
FTA-ABS試験　定性	51	138	D012 21
FTA-ABS試験　半定量	51	138	D012 21

G

	頁	保険点数	保険区分
GA→グリコアルブミン	3	55	D007 17
GB→全血比重	96	-	
G-band法（血液疾患）	122	2631+397	D006-5
G-band法（先天性疾患）	121	2631+397	D006-5
GBM→抗糸球体基底膜抗体	67	270	D014 31
GBS→B群連鎖球菌（GBS）培養	134	134 頁参照	
GH→成長ホルモン	25	111	D008 13
GOT→AST	8	17	D007 03
GPT→ALT	8	17	D007 03
GU→グアナーゼ	10	35	D007 12

H

	頁	保険点数	保険区分
HA→馬尿酸	17	-	
HA-IgG抗体	80	146	D013 08
HA-IgM抗体	80	146	D013 08
HANP（ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド）	38	227	D008 45
Hb→ヘモグロビン	95	21	D005 05
HbA1c	3	49	D005 09
HBs抗原定性	79	29	D013 01
HBs抗原	79	88	D013 03
HBs抗体定性	79	32	D013 02
HBs抗体半定量	79	32	D013 02
HBs抗体	79	88	D013 03
HBc抗体	79	137	D013 06
HBc-IgM抗体	79	146	D013 08
HBcrAg→B型肝炎ウイルスコア関連抗原	80	266	D013 12
HBe抗原	79	104	D013 04
HBe抗体	79	104	D013 04
HBVゲノタイプ（判定）	80	340	D013 14
HBVプレコア変異及びコアプロモーター変異遺伝子同定検査（HBV-DNAPC・CP）	80	450	D023 14
HBV-DNA定量（リアルタイムPCR法）	80	271	D023 04
HCG→ヒト絨毛性ゴナドトロピン定性	35	55	D008 01
HCG→ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量	35	138	D008 21
HCG-β→ヒト絨毛性ゴナドトロピン-β-サブユニット	35	136	D008 19
HCV検診セット（C型肝炎ウイルス検診）	159	-	
HCV群別	81	227	D013 11
HCVコア抗原	81	108	D013 05
HCV抗体	81	108	D013 05
HCV-RNA定量（リアルタイムPCR法）	81	437	D023 13
HDL-コレステロール（HDL-C）	3	17	D007 03
HDL-C→HDL-コレステロール	3	17	D007 03
HER2/neuタンパク（病理組織）	158	690	N002 03
HE4→ヒト精巣上体蛋白4	42・166	200	D009 25
H-FABP定量（ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白）	2	139	D007 36
Hg→水銀	16	-	
HGF→肝細胞増殖因子	2	227	D007 50
HIT抗体（血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体）	50	390	D011 10
HIV-1RNA定量（リアルタイムPCR法）	83	520	D023 15
HIV-1抗体	83	280	D012 46
HIV-2抗体	83	380	D012 49
HIV抗原・抗体	83	127	D012 18
HLA-A（DNAタイピング）	127	-	
HLA-A,B（血清対応型タイピング）	127	-	
HLA-B（DNAタイピング）	127	-	
HLA-C（DNAタイピング）	127	-	
HLA-DPB1（DNAタイピング）	127	-	
HLA-DQA1（DNAタイピング）	127	-	
HLA-DQB1（DNAタイピング）	127	-	
HLA-DR（血清対応型タイピング）	127	-	
HLA-DRB1（DNAタイピング）	127	-	
HP抗体→ヘリコバクター・ピロリ抗体	55	80	D012 12
HPV-DNA検出（高リスク）	93	350	D023 09
HPV-DNA簡易ジェノタイプ（16型、18型、その他ハイリスクグループ）	93	360	D023 10
HPV-DNAジェノタイプ（ハイリスク13種）	93	2000	D023 19
HPV-DNA型別	93	-	
HSV→単純ヘルペス（ウイルス抗体）	84・86	79	D012 11
HSV→単純ヘルペスIgG抗体	90	212	D012 40
HSV→単純ヘルペスIgM抗体	90	212	D012 40
HSV→単純ヘルペスウイルス（HSV）抗原	92	180	D012 34
Ht→ヘマトクリット	95	21	D005 05
HTLV-Ⅰ抗体（第3世代）（ATLA）	82	168	D012 30
HTLV-Ⅰ抗体（ATLV）〔ラインブロット法・LIA法〕	82	425	D012 50
HVA→ホモバニリン酸	29	69	D008 03

I

	頁	保険点数	保険区分
ICA→抗ランゲルハンス島細胞抗体	163	-	
ICG血中消失率	22	150	D286
ICG血中停滞率（肝機能）	22	100	D289 02
IEP→免疫電気泳動（抗ヒト全血清による定性）	70	170	D015 16
IEP→免疫電気泳動（免疫固定法によるM蛋白固定）	70	224	D015 23
IgA	69	38	D015 04
IgE（非特異的 IgE）	75	100	D015 10
IgEシングルアレルゲン	75	110	D015 13
IgE特異的アレルゲン（疾患別セット）・10アレルゲンセット	76	1100	D015 13
IgE特異的アレルゲン（疾患別セット）・13アレルゲンセット	76	1430	D015 13
IgEマルチアレルゲン	75	110	D015 13
IGF-1→ソマトメジンC	25	218	D008 42
IgG	69	38	D015 04
IgG型リウマトイド因子（IgG-RF）	62	203	D014 22
IgG-RF→IgG型リウマトイド因子	62	203	D014 22
IgG2	69	239	D014 28
IgG4	69	377	D014 37
IgM	69	38	D015 04
IGH-CCND1 t（11；14）転座	122	2631+397	D006-5
IGH-MYC t（8；14）転座	122	2631+397	D006-5
IGH-FGFR3 t（4；14）転座	122	2631+397	D006-5
IGH-MAF t（14；16）転座	122	2631+397	D006-5
IL-2R→インターロイキン2受容体	46	438	D009 29
IP→無機リン	14	17	D007 03
IRG→グルカゴン	28	150	D008 23
IRI→インスリン	28	106	D008 10

K

	頁	保険点数	保険区分
K→カリウム	13	11	D007 01
K→カリウム（髄液）	116	11	D007 01
KL-6	21	114	D007 28

L

	頁	保険点数	保険区分
L型脂肪酸結合蛋白→L-FABP	113	210	D001 19
L-ドーパ	29	-	
LA→ループスアンチコアグラント	66	281	D014 33
LAP（ロイシンアミノペプチダーゼ）	9	11	D007 01
LD（乳酸脱水素酵素）	8・165	11	D007 01
LD アイソザイム	11	48	D007 14
LDL-C→LDL-コレステロール	3	18	D007 04
LDL-コレステロール（LDL-C）	3	18	D007 04
L-FABP	113	210	D001 19
LH→黄体形成ホルモン	26	111	D008 13

索　引（アルファベット）

	頁	保険点数	保険区分
LP(a)→リポ蛋白(a)	5	107	D007 25
LPL→リポ蛋白リパーゼ	9	223	D007 49
LST→薬剤によるリンパ球刺激試験(LST)	128	128 頁参照	D016 07

M

	頁	保険点数	保険区分
M2BPGi(MAC2結合蛋白糖鎖修飾異性体)	20	194	D007 46
MA→マンデル酸及びフェニルグリオキシ酸総量	17	-	
MAC DNA(PCR)(マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー核酸検出)	58	421	D023 12
MAC抗体	52	116	D012 17
MAC2結合蛋白糖鎖修飾異性体→ M2BPGi	20	194	D007 46
m-AST→ミトコンドリアAST	10	49	D007 15
MBL(メタロβ-ラクタマーゼ)産生菌(保菌検査)	140	-	
MBP→ミエリンベイシック蛋白	115	577	D004 11
MDRA(多剤耐性アシネトバクター)(保菌検査)	140	-	
MDRP(多剤耐性緑膿菌)(保菌検査)	140	-	
Mg→マグネシウム	14	11	D007 01
MHA→メチル馬尿酸	17	-	
MLC(リンパ球混合培養試験)	127	-	
MMP-3(マトリックスメタロプロテイナーゼ-3)	62	116	D014 07
Mn→マンガン	16	27	D007 08
MPO-ANCA(P-ANCA)(抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体)	67	265	D014 29
mRF-IC→モノクローナルRF結合免疫複合体	62	194	D014 21
MRSA(保菌検査)	140	-	
MRSA培養	133	133 頁参照	

N

	頁	保険点数	保険区分
N-メチルホルムアミド	17	-	
Na→ナトリウム	13	(11)	D007 01
Na→ナトリウム(髄液)	116	11	D007 01
NAG	112	41	D001 05
NCC-ST-439	41	118	D009 06
NEFA →遊離脂肪酸	4	59	D007 19
NH_3→アンモニア	7	50	D007 16
Ni→ニッケル	16	-	
NK細胞活性	128	-	
NMP22定量→尿中NMP22定量	46	147	D009 12
non-HDL-コレステロール(non-HDL-C)	3	-	
NSE(神経特異エノラーゼ)	44	146	D009 11
NT-proBNP(ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体 N 端フラグメント)	38	136	D008 19
NTx(Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド)	45	156	D008 25

P

	頁	保険点数	保険区分
P型アミラーゼ→膵アミラーゼ(P-AMY)	9	48	D007 14
P_2→プレグナンジオール	34	213	D008 40
P_3→プレグナントリオール	34	234	D008 46
P-Ⅲ-P→プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド	1	140	D007 37
PAC/PRA 比→アルドステロン/レニン活性比	32	-	
PAC/PRC 比→アルドステロン/レニン定量比	32	-	
PAI-1→プラスミノーゲンアクチベーターインヒビター 1	101	240	D006 33
PA-IgG→血小板関連IgG	50	198	D011 06
P-AMY→膵アミラーゼ	9	48	D007 14
P-ANCA→MPO-ANCA(P-ANCA)(抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体)	67	265	D014 29
PAS染色	97	97 頁参照	D005 06
Pb→鉛	15	-	
PCT→プロカルシトニン定量	56	292	D007 55
PF→蛋白分画	1	18	D007 04
PF4→血小板第4因子	102	178	D006 26
PFD(PABA 排出率)(膵機能)	22	100	D289 01
PGⅠ・Ⅱ→ペプシノゲンⅠ・Ⅱ	11	-	
pH(髄液)	116	62	D004 03
pH(精液)	115	70	D004 04
pH(穿刺液)	117	-	
pH(尿)	111	(26)	D000
PHAによるリンパ球幼若化検査	128	345	D016 07
PIC→プラスミンインヒビター・プラスミン複合体	100	158	D006 22
PIVKA-Ⅱ【凝固】	98	143	D006 19
PIVKAⅡ定量(腫瘍マーカー)	44	139	D009 09
PL→リン脂質	4	15	D007 02
PLA_2→膵ホスホリパーゼA_2	11	204	D007 47
PLT→血小板数	95	21	D005 05
PML-RARA t(15;17)転座	122	2631+397	D006-5
PR3-ANCA(C-ANCA)(抗好中球細胞質プロテイナーゼ3抗体)	67	267	D014 30
PRA→レニン活性	36	100	D008 07
Prader-Willi症候群(15番染色体SNRPN)→15 染色体(プラダーウイリ症候群)	121	2631+397	D006-5
PRC→レニン定量	36	108	D008 11
PRL→プロラクチン	26	98	D008 06
Pro GRP(ガストリン放出ペプチド前駆体)	44	175	D009 21
PSA(前立腺特異抗原)	43	127	D009 08
PSA-ACT	43	127	D009 08
PT→プロトロンビン時間	98	18	D006 02
PTフラグメントF1+2→プロトロンビンフラグメントF1+2	101	193	D006 28
PTH-Intact→副甲状腺ホルモン	27	170	D008 31
PTHrP→副甲状腺ホルモン関連蛋白	27	194	D008 37
p53 17p13 欠失→ TP53 del(17)短腕欠失	122	2631+397	D006-5

Q

	頁	保険点数	保険区分
QFTプラス→結核菌特異的インターフェロン-γ産生能	58	612	D015 27

R

	頁	保険点数	保険区分
RAS/BRAF変異解析	130	4000	D004-2 注工
RBC→赤血球数	95	21	D005 05
RBP→レチノール結合蛋白	18	136	D015 14
RF定性(リウマトイド因子)→リウマトイド因子定性	62	-	
RF定量(リウマトイド因子)→リウマトイド因子定量	62	30	D014 02
Rh(D)血液型	49	24	D011 01
Rh-Hr式血液型	49	152	D011 03
RLP-C→レムナント様リポ蛋白コレステロール	4	184	D007 43
ROMA(卵巣悪性腫瘍推定値)	42・166	-	
RPR(梅毒)定性	51	15	D012 01
RPR(梅毒)半定量	51	34	D012 05
RS(ウイルス抗体)	84・86	79	D012 11
RUNX1-RUNX1T1(AML1-MTG8) t(8;21)転座	122	2631+397	D006-5

S

	頁	保険点数	保険区分
SAA→血清アミロイドA蛋白	70	47	D015 06
SCC抗原→扁平上皮癌関連抗原	43	107	D009 04
SFMC→可溶性フィブリンモノマー複合体	100	93	D006 12
Single-color 解析によるリンパ球表面マーカー検査→モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	124	-	
SLX（シアリルLe^x-i抗原）	42	148	D009 13
Span-1	42	146	D009 11
SP-A(肺サーファクタントプロテインA)	21	130	D007 34
SP-D(肺サーファクタントプロテインD)	21	136	D007 35
STDマルチプレックス PCR《尿》・《分泌物》	163	-	
STN→シアリルTn抗原	42	146	D009 11

T

	頁	保険点数	保険区分
T_3→トリヨードサイロニン	27	102	D008 08
T_4→サイロキシン	27	111	D008 12
TARC(Th2ケモカイン)	75	184	D015 18
TAT→トロンビン・アンチトロンビン複合体	101	181	D006 27
TBA→総胆汁酸	5	47	D007 13
TBG→サイロキシン結合グロブリン	27	130	D008 16
T-Bil→総ビリルビン	7	11	D007 01
TB-PCR→結核菌DNA〔PCR〕	58	410	D023 11
TCA→三塩化(トリクロル)酢酸	17	-	

	頁	保険点数	保険区分
T-Cho→総コレステロール	3	17	D007 03
Tf→トランスフェリン	70	60	D015 07
TG→中性脂肪	4	11	D007 01
Tg→サイログロブリン	27	133	D008 17
Th2 ケモカイン→TARC	75	184	D015 18
TIBC→総鉄結合能(直接比色法／ニトロソPSAP法(計算法))	14	11	D007 01
TK活性→チミジンキナーゼ活性	96	233	D005 12
TL→総脂質	4	-	
TM→トロンボモジュリン	101	204	D006 29
TnT→心筋トロポニン T	2	115	D007 29
total P I NP(I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド)	11	169	D008 30
TP→総蛋白	1	11	D007 01
TPA(組織ポリペプチド抗原)	44	110	D009 05
TPHA(梅毒)定性	51	32	D012 04
TPHA(梅毒)半定量	51	53	D012 06
TP53 del(17)短腕欠失	122	2631+397	D006-5
TRAb→TSHレセプター抗体	63	226	D014 26
TRAb(第3世代)→TSHレセプター抗体(第3世代)	63	226	D014 26
TRACP-5b定量(酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ)	45	156	D008 25
TSAb(TSH刺激性レセプター抗体)	63	340	D014 36
TSH→甲状腺刺激ホルモン	26	104	D008 09
TSH刺激性レセプター抗体→ TSAb	63	340	D014 36
TSHレセプター抗体(TRAb)	63	226	D014 26
TSHレセプター抗体(第3世代)	63	226	D014 26
T-SPOT.TB→結核菌特異的インターフェロン-γ産生能	58	612	D015 27
TTC→総三塩化物	17	-	
Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査	125	125 頁参照	D016 02
T細胞サブセット(CD4,CD8)	123	190	D016 02
T細胞・B細胞百分率(CD3,CD19)	123	198	D016 03

U

	頁	保険点数	保険区分
UA→尿酸	6	11	D007 01
UBT→尿素呼気試験	61	70	D023-2 2
ucOC→低カルボキシル化オステオカルシン	37	158	D008 26
UGT1A1 遺伝子多型解析	132	2037	D006-7
UIBC→不飽和鉄結合能(ニトロソPSAP法)	14	11	D007 01
UN→尿素窒素	6	11	D007 01
USBA→尿中硫酸抱合型胆汁酸	4	57	D007 19

V

	頁	保険点数	保険区分
Viewアレルギー39	75	1430	D015 13
VMA→バニールマンデル酸	30	90	D008 04
VMA 定性(尿)	111	9	D001 02
v.W因子活性	99	132	D006 16
v.W因子抗原定量	99	151	D006 21
VRE(バンコマイシン耐性腸球菌)(保菌検査)	140	-	
VZV→水痘・帯状ヘルペス(ウイルス抗体)	84・90	79	D012 11
VZV抗原→水痘・帯状ヘルペス(VZV)抗原	92	233	D012 43
VZV抗原→水痘・帯状ヘルペスIgG抗体	90	212	D012 40
VZV抗原→水痘・帯状ヘルペスIgM抗体	90	212	D012 40

W

	頁	保険点数	保険区分
WBC→白血球数	95	21	D005 05
Whole-PTH	27	170	D008 31

Y

	頁	保険点数	保険区分
Y染色体微小欠失(AZF欠失)	160	-	

Z

	頁	保険点数	保険区分
Zn→亜鉛	15	140	D007 37

α

	頁	保険点数	保険区分
α-フェトプロテイン(AFP)	41	104	D009 03
α-フェトプロテインレクチン分画(AFP-L3%)	41	190	D009 23
αFP→α-フェトプロテイン	41	104	D009 03
α_1-アシドグリコプロテイン→α_1-酸性糖蛋白	44	-	
α_1-アンチトリプシン	70	80	D006 11
α_1-マイクログロブリン(α_1-MG)	2	136	D015 14
α_1-酸性糖蛋白(α_1-AGP)	44	-	
α_1-AGP→α_1-酸性糖蛋白	44	-	
α_2-プラスミンインヒビター→アンチプラスミン	100	128	D006 15
α_2-プラスミンインヒビター・プラスミン複合体(PIC)→プラスミンインヒビター・プラスミン複合体	100	158	D006 22
α_2-PIC→プラスミンインヒビター・プラスミン複合体	100	158	D006 22

β

	頁	保険点数	保険区分
β-トロンボグロブリン(β-TG)	102	177	D006 25
β-リポ蛋白(β-LP)	4	-	
β-D-グルカン→(1→3)-β-D-グルカン	56	207	D012 38
β-LP→β-リポ蛋白	4	-	
β-TG→β-トロンボグロブリン	102	177	D006 25
β_1C/β_1Aグロブリン→C_3	69	70	D015 08
β_1Eグロブリン→C_4	69	70	D015 08
β_2-マイクログロブリン(β_2-MG)	2	104	D015 11

γ

	頁	保険点数	保険区分
γ-GT(γ-グルタミルトランスペプチダーゼ)	8	11	D007 01
γ-セミノプロテイン→γ-Sm	44	194	D009 24
γ-Sm(γ-セミノプロテイン)	44	194	D009 24

δ

	頁	保険点数	保険区分
δ-アミノレブリン酸(δ-ALA)(産業医学関連)	17	-	
δ-アミノレブリン酸(δ-ALA)	112	109	D001 11
δ-ALA→δ-アミノレブリン酸(産業医学関連)	17	-	
δ-ALA→δ-アミノレブリン酸	112	109	D001 11

数字

	頁	保険点数	保険区分
(1→3)-β-D-グルカン	56	207	D012 38
I CTP(I 型コラーゲンCテロペプチド)	45	170	D009 20
I 型コラーゲン架橋N-テロペプチド→NT_X	45	156	D008 25
I 型コラーゲンCテロペプチド→ I CTP	45	170	D009 20
I 型プロコラーゲン-N-プロペプチド→totalP I NP	11	169	D008 30
1α-25-$(OH)_2$ビタミンD(1,25-ジヒドロキシビタミンD3)	19	388	D007 59
1,5-アンヒドロ-D-グルシトール(1,5-AG)	3	80	D007 21
1,5-AG→1,5-アンヒドロ-D-グルシトール	3	80	D007 21
2,5-ヘキサンジオン(2,5-HD)	17	-	
Ⅳ型コラーゲン	1	139	D007 36
Ⅳ型コラーゲン7S	1	148	D007 39
5-ハイドロキシインドール酢酸(5-HIAA)	29	95	D008 05
5-HIAA→5-ハイドロキシインドール酢酸	29	95	D008 05
11-ケトアンドロステロン→17-ケトステロイド分画	31	213	D008 40
11-ケトエチオコラノロン→17-ケトステロイド分画	31	213	D008 40
11-ハイドロキシコルチコステロイド	31	60	D008 02
11-ヒドロキシアンドロステロン→17-ケトステロイド分画	31	213	D008 40
11-ヒドロキシエチオコラノロン→17-ケトステロイド分画	31	213	D008 40
11-OHCS→11-ハイドロキシコルチコステロイド	31	60	D008 02
15染色体(プラダーウイリ症候群)、(アンジェルマン症候群)	121	2631+397	D006-5
17-ケトステロイド分画(17-KS分画)	31	213	D008 40
22染色体(22q11欠失)	121	2631+397	D006-5
25OHビタミンD〔ECLIA〕	19・167	117	D007 30
25-ヒドロキシビタミン D	19	117	D007 30

生化学的検査

蛋白関連検査

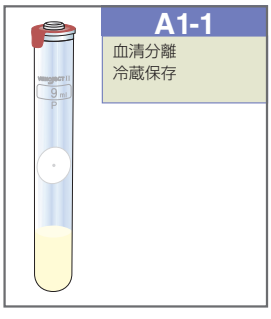
項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量(mL)	容器 保存方法(安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
1001 3A010	**総蛋白** (TP) 3A010-0000-023-271	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (21日)	Biuret法	6.7～8.3 g/dL	1～2	11 生化Ⅰ	蛋白分画、総蛋白及びアルブミンを同時に測定した場合は、主たるもの2つを算定する。 ヒトアルブミンへの特異性が高いBCPを用いた方法です。
1077 3A015	**アルブミン** 3A015-0000-023-271	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (21日)	BCP改良法	3.8～5.3 g/dL	1～2	11 生化Ⅰ	
1003 3A020	**蛋白分画** 3A020-0000-023-232	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	セルロースアセテート膜電気泳動法	A/G 1.36～2.26 Alb 57.5～69.2 α_1 2.0～ 3.3 α_2 5.9～ 9.7 β 8.0～12.2 γ 11.1～22.0 %	1～2	18 生化Ⅰ	
1002 3A016	**A/G比** 3A016-0000-023-919	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	BCP改良/Biuret法	1.20～2.00	1～2		
1197 5C095	**フェリチン定量** 5C095-0000-023-062	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (21日)	ラテックス凝集比濁法	M 13～277 F 5～152 ng/mL	1～2	108 生化Ⅰ	
4139 5C010	**プレアルブミン** (トランスサイレチン) 5C010-0000-023-061	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	TIA法	22.0～40.0 mg/dL	2～4	107 免疫	
1175 5C045	**セルロプラスミン** (CP) 5C045-0000-023-063	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ネフェロメトリー法	21～37 mg/dL	4～6	90 免疫	＊4
4059 5C130	**プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド** (P-Ⅲ-P) 5C130-0000-023-051	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	CLIA法	3.62～9.52 ng/mL	4～7	140 生化Ⅰ	カットオフ値（肝に繊維化のみられる疾患）: 6.95ng/mL ＊4
4413 5C135	**Ⅳ型コラーゲン7S** 5C135-0000-023-001	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	RIA法	6.0以下 ng/mL	3～6	148 生化Ⅰ	Ⅳ型コラーゲン又はⅣ型コラーゲン-7Sは、プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド(P-Ⅲ-P)又は、M2BPGiと併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。 ＊ア
4582 5C134	**Ⅳ型コラーゲン** 5C134-0000-023-062	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	150以下 ng/mL	4～8	139 生化Ⅰ	＊4

下記の「生化学的検査」「免疫学的検査」等において、**多項目を同時にご依頼の場合、各グループの必要量算出式に基づいた血清量をおよその目安としてご提出下さい。**

グループ 1 ／必要量算出式＝〔0.4 ＋(0.05×依頼項目数)〕mL： 依頼項目数≧2				
1001 総蛋白	1013 HDL コレステロール	1030 ALT	1043 リパーゼ	1049 無機燐
1077 アルブミン	1012 遊離コレステロール	1031 ALP	1096 ADA	1050 銅
1002 A / G比	1016 中性脂肪	1034 LAP	1502 グリコアルブミン	1051 鉄
1005 尿素窒素	1018 燐脂質	1035 LD	1316 1,5-AG	1089 UIBC(ニトロソPSAP法)
1006 クレアチニン	1019 遊離脂肪酸	1036 コリンエステラーゼ	1044 ナトリウム	1056 CRP 定性
1007 クレアチン	1015 β-リポ蛋白	1038 γ-GT	1046 クロール	1158 CRP 定量
1008 尿酸	1023 総ビリルビン	1039 アルドラーゼ	1045 カリウム	1058 抗ストレプトリジンO価
1010 総コレステロール	1024 直接ビリルビン	1040 CK	1047 カルシウム	1057 RF 定性
1115 LDL コレステロール	1029 AST	1042 アミラーゼ	1048 マグネシウム	1145 RF 定量

蛋白関連検査

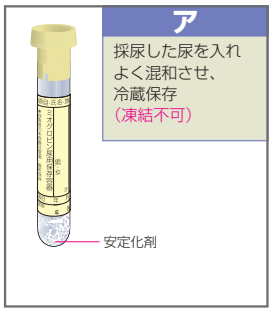
項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量(mL)	容器 保存方法(安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
1318 4Z315	肝細胞増殖因子 (HGF) 4Z315-0000-023-023	血清 0.5	A1 ↓ G-1 凍結	EIA法	0.39以下 ng/mL	4～12	227 生化Ⅰ	肝炎にて劇症化が疑われる場合又は劇症肝炎の経過観察に用いた場合に限り算定する。 ＊1
1193 5C015	α1-マイクログロブリン (α1-MG) 5C015-0000-023-062 5C015-0000-001-062	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	12.7～27.3 mg/L	2～4	136 免疫	
1194 5C015		尿 1.0	C-3 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	11.0以下 mg/L	2～4	136 免疫	
1195 5C065	β2-マイクログロブリン (β2-MG) 5C065-0000-023-062 5C065-0000-001-062	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	2.0以下 mg/L	1～2	104 免疫	PH5.5以上を確認し、提出して下さい。
1196 5C065		尿 1.0	C-3 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	289以下 μg/L	2～4	104 免疫	
1169 5C090	ミオグロビン定量 5C090-0000-023-051 5C090-0000-001-001	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA法	85以下 ng/mL	1～2	139 生化Ⅰ	H-FABPと同時算定不可
1389 5C090		尿 4.0	ア 冷蔵	RIA法	10以下 ng/mL	4～7	139 生化Ⅰ	＊4
1712 5C091	H-FABP定量 (ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白) 5C091-0000-023-062	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	6.2以下 ng/mL	1～2	139 生化Ⅰ	急性心筋梗塞の診断に用いた場合に限り算定する。ミオグロビンと同時算定不可。
1114 5C092	心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ 5C092-0000-023-023	血清 0.4	A1 ↓ G-1 凍結	ELISA法	2.5以下 ng/mL	4～8	184 生化Ⅰ	1日につき1回のみ算定する。 ＊1
1198 5C093	心筋トロポニンT (TnT) 5C093-0000-023-053	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ECLIA法	0.014以下 ng/mL	2～4	115 生化Ⅰ	急性心筋梗塞診断のカットオフ値：0.100ng/mL ＊イ



A1-1
血清分離
冷蔵保存

C-3
蓄尿又は部分尿
必要量提出、冷蔵保存
(尿量記載の必要なし)

G-1
血清分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用



ア
採尿した尿を入れよく混和させ、冷蔵保存
(凍結不可)

実施料について(生化Ⅰ)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

1.	5項目以上7項目以下の場合	
	生化Ⅰ	93点
2.	8項目又は9項目の場合	
	生化Ⅰ	99点
3.	10項目以上の場合	
	生化Ⅰ	109点

生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
糖関連検査								
(1055) 3D010	血糖 (グルコース) 3D010-0000-022-272	血漿 1.0	J 冷蔵	酵素法	空腹時 70～109 mg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	緊急
1502 3D055	グリコアルブミン (GA) 3D055-0000-023-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (5日)	酵素法	11.0～16.0 %	1～2	55 生化Ⅰ	HbA1c、グリコアルブミン又は1,5AGのうちいずれかを同一月中に合わせて2回以上実施した場合は、月1回に限り主たるもののみ算定する。ただし、妊娠中の患者、1型糖尿病患者、経口血糖降下薬の投与を開始して6月以内の患者、インスリン治療を開始して6月以内の患者等については、いずれか1項目を月1回に限り別に算定可。
1316 3D085	1,5-アンヒドロ-D-グルシトール (1,5-AG) 3D085-0000-023-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (21日)	酵素法	14.0 以上 μg/mL	1～2	80 生化Ⅰ	
2131 3D046	HbA1c (NGSP) 3D046-0000-019-271	全血 2.0	J 冷蔵	酵素法	4.6～6.2 %	1～2	49 血液	凍結不可
脂質関連検査								
1010 3F050	総コレステロール (T-Cho) 3F050-0000-023-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	酵素法	130～219 mg/dL	1～2	17 生化Ⅰ	
1115 3F077	LDL-コレステロール (LDL-C) 3F077-0000-023-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	酵素法	70～139 表1参照 mg/dL	1～2	18 生化Ⅰ	HDLコレステロール、総コレステロール及びLDLコレステロールを併せて測定した場合は、主たるもの2つに限り算定する。
1013 3F070	HDL-コレステロール (HDL-C) 3F070-0000-023-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	酵素法	M 40～86 F 40～96 表1参照 mg/dL	1～2	17 生化Ⅰ	
1695 3F069	non-HDL-コレステロール (non-HDL-C) 3F069-0000-023-919	血清 0.5	A1-1 冷蔵	酵素法・計算法	なし 表1 mg/dL	1～2		
(1596) 3F150	コレステロール分画 3F150-0000-023-233	血清 0.2	A1-2 冷蔵	アガロース電気泳動法	HDL 17.1～42.4 LDL 51.0～76.7 VLDL 1.3～18.6 %	2～4	57 生化Ⅰ	凍結不可 ＊イ

(表1) 動脈硬化性疾患予防のためのスクリーニングにおける脂質異常症診断基準(空腹時採血*)

(動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2017年度版より)

LDLコレステロール	140mg/dL以上	高LDLコレステロール血症
	120～139mg/dL	境界域高LDLコレステロール血症**
HDLコレステロール	40mg/dL未満	低HDLコレステロール血症
トリグリセライド	150mg/dL以上	高トリグリセライド血症
non-HDLコレステロール	170mg/dL以上	高non-HDLコレステロール血症
	150～169mg/dL	境界域高non-HDLコレステロール血症**

・LDL-CはFriedewald式(TC－HDL-C－TG/5)または直接法で求める。
・TGが400mg/dL以上や食後採血の場合はnon-HDL-C(TC－HDL-C)かLDL-C直接法を使用する。但しスクリーニング時に高TG血症を伴わない場合はLDL-Cとの差が+30mg/dLより小さくなる可能性を念頭においてリスクを評価する。

＊ 10時間以上の絶食を「空腹時」とする。但し、水やお茶などカロリーのない水分の摂取は可とする。
＊＊ スクリーニングで境界域高LDL-C血症、境界域高non-HDL-C血症を示した場合は、高リスク病態がないか検討し、治療の必要性を考慮する。

(表2) 新生児・乳児におけるUSBA検査結果の見方

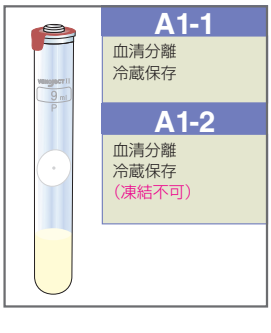
USBAクレアチニン補正値	(基準値：55.00μmol/g・CRE 以下)	判定	備考
55.00μmol/g・CRE 以下		正常	黄疸の遷延、白色便などの肝・胆道系疾患の臨床症状がある場合、念のため経過観察を実施して下さい。
55.00μmol/g・CRE 超	但し、尿中クレアチニンが2.5mg/dL未満の場合はUSBA実測値のみで判定する。USBA実測値：5.00μmol/L以下		
		再検査 精査	肝・胆道系疾患が疑われます。

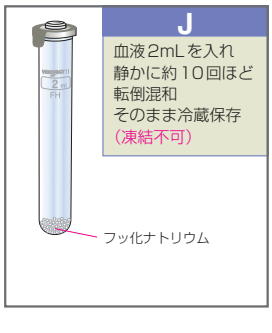
注) USBAは、胆道閉鎖症だけでなく他の肝疾患(新生児肝炎など)でも高値を示します。

脂質関連検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量(mL)	容器 保存方法(安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
1945 3F126	**尿中硫酸抱合型胆汁酸** (USBA) 3F126-0000-001-271	尿 **3.0** ※1	**C-3** 冷蔵	酵素法	成人 (クレアチニン補正値) 8.00 μmol/g・CRE以下 新生児・乳児 表2参照(3頁)	5～7	57 生化Ⅰ	肝胆道疾患の診断の目的で実施した場合、コレステロール分画に準じて算定する。胆汁酸と同時算定不可。 ＊Q
1097 3F078	**レムナント様リポ蛋白コレステロール** (RLP-C) 3F078-0000-023-271	血清 **0.4**	**A1-2** 冷蔵	酵素法	7.5 以下 mg/dL 糖尿病、冠動脈疾患等の既往歴がある場合は、5.2 mg/dL以上がハイリスク域といわれています。	2～4	184 生化Ⅰ	凍結不可 3ヵ月に1回のみ算定できる。
1012 3F065	**遊離コレステロール** (F-Cho) 3F065-0000-023-271	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	酵素法	31～64 mg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	
1016 3F015	**中性脂肪** (TG) 3F015-0000-023-271	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (7日)	酵素法	35～149 表1参照 mg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	
1017 3F010	**総脂質** (TL) 3F010-0000-023-919	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	計算法	380～800 mg/dL	1～2		
1018 3F025	**リン脂質** (PL) 3F025-0000-023-271	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (5日)	酵素法	150～250 mg/dL	1～2	15 生化Ⅰ	
1019 3F035	**遊離脂肪酸** (FFA・NEFA) 3F035-0000-023-271	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	酵素法	空腹時 0.14～0.85 mEq/L	1～2	59 生化Ⅰ	
1015 3F130	**β-リポ蛋白** (β-LP) 3F130-0000-023-292	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (21日)	比濁法	170～500 mg/dL	1～2		
1065 3F135	**リポ蛋白分画** 3F135-0000-023-233	血清 **0.2**	**A1-2** 冷蔵	アガロース 電気泳動法	M α 26.9～50.5 Preβ 7.9～23.8 β 35.3～55.5 Origin 0.0～ 4.7 F α 32.6～52.5 Preβ 6.6～20.8 β 33.6～52.0 Origin 0.0～ 4.4 %	2～4	49 生化Ⅰ	凍結不可 ＊イ
1073 3F140	**リポ蛋白分画(PAGディスク電気泳動法)** 3F140-0000-023-235	血清 **0.2**	**A1-2** 冷蔵	ディスク電気泳動法	M HDL 22.0～47.0 LDL 43.0～65.5 IDL 検出せず VLDL 4.4～21.0 F HDL 26.0～51.0 LDL 41.0～62.0 IDL 検出せず VLDL 5.0～16.0 %	2～4	80 生化Ⅰ	凍結不可 ＊イ

※1　新生児肝胆道疾患スクリーニングとしての採尿時期は、生後3週間前後です。なお、採尿にあたっては、できるだけ大便が混入しないようにして下さい。





実施料について(生化Ⅰ)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

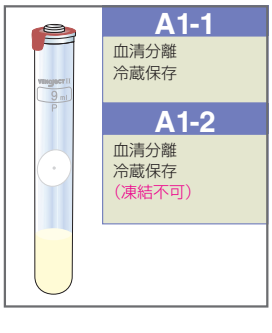
1.	5項目以上7項目以下の場合 生化Ⅰ	93点
2.	8項目又は9項目の場合 生化Ⅰ	99点
3.	10項目以上の場合 生化Ⅰ	109点

生化学的検査

脂質関連検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
1176 3F180	アポリポ蛋白 A-Ⅰ 3F180-0000-023-061	血清 0.4	A1-2 冷蔵	TIA法	M 119～155 F 126～165 mg/dL	2～4	※ 生化Ⅰ	凍結不可 アポリポ蛋白は、AⅠ、AⅡ、B、CⅡ、CⅢ及びEのうち、測定した項目数に応じて、以下の所定点数を算定する。 イ　1項目の場合31 ロ　2項目の場合62 ハ　3項目以上の場合94
1177 3F185	アポリポ蛋白 A-Ⅱ 3F185-0000-023-061	血清 0.4	A1-2 冷蔵	TIA法	M 25.9～35.7 F 24.6～33.3 mg/dL	2～4		
1178 3F190	アポリポ蛋白 B 3F190-0000-023-061	血清 0.4	A1-2 冷蔵	TIA法	M 73～109 F 66～101 mg/dL	2～4		
1179 3F195	アポリポ蛋白 C-Ⅱ 3F195-0000-023-061	血清 0.4	A1-2 冷蔵	TIA法	M 1.8～4.6 F 1.5～3.8 mg/dL	2～4		
1180 3F200	アポリポ蛋白 C-Ⅲ 3F200-0000-023-061	血清 0.4	A1-2 冷蔵	TIA法	M 5.8～10.0 F 5.4～ 9.0 mg/dL	2～4		
1181 3F205	アポリポ蛋白 E 3F205-0000-023-061	血清 0.4	A1-2 冷蔵	TIA法	M 2.7～4.3 F 2.8～4.6 mg/dL	2～4		
4378 3F156	リポ蛋白 (a) (LP(a)) 3F156-0000-023-061	血清 0.4	A1-2 冷蔵	TIA法	(参考値) 30.0 以下 mg/dL	2～4	107 生化Ⅰ	凍結不可 3月に1回を限度として算定できる。
1165 3F110	総胆汁酸 (TBA) 3F110-0000-023-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵	酵素法	10.0 以下 μmol/L	2～4	47 生化Ⅰ	※1
1166 3F115	グリココール酸 (CG) 3F115-0000-023-002	血清 0.2	A1-1 冷蔵	RIA法	50 以下 μg/dL	4～9	80 生化Ⅰ	＊4

※1　肝胆道疾患の診断の目的で尿中硫酸抱合型胆汁酸測定を酵素法により実施した場合は、コレステロール分画に準じて算定する。但し、胆汁酸を同時に測定した場合には、いずれか一方の所定点数のみを算定する。尿中硫酸抱合型胆汁酸と同時算定不可。



蛋白・含窒素成分関連検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
1005 3C025	尿素窒素 (UN) 3C025-0000-023-272 3C025-0000-004-272	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	ウレアーゼ・GLDH(アンモニア消去)法	8～22 mg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	緊急 (対象：血清)
1201 3C025		蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	ウレアーゼ・GLDH(アンモニア消去)法	6.5～13.0 g/day	1～2	11 生化Ⅰ	
1006 3C015	クレアチニン 3C015-0000-023-271 3C015-0000-004-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	酵素法	M 0.61～1.04 F 0.47～0.79 mg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	緊急 (対象：血清)
1202 3C015		蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	酵素法	0.5～1.5 g/day	1～2	11 生化Ⅰ	
1962 3C016	シスタチンC 3C016-0000-023-062	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	M 0.63～0.95 F 0.56～0.87 mg/L	2～4	118 生化Ⅰ	※1
1007 3C010	クレアチン 3C010-0000-023-271 3C010-0000-004-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵	酵素法	0.3～1.3 mg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	
1203 3C010		蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	酵素法	0.15 以下 g/day	1～2	11 生化Ⅰ	
1008 3C020	尿酸 (UA) 3C020-0000-023-271 3C020-0000-004-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (21日)	ウリカーゼ・ペルオキシダーゼ法	M 3.7～7.0 F 2.5～7.0 ※2 mg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	
1204 3C020		蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	ウリカーゼ・ペルオキシダーゼ法	0.4～1.2 g/day	1～2	11 生化Ⅰ	

※1　尿素窒素又はクレアチニンにより腎機能低下が疑われた場合に、3月に1回に限り算定できる。但し、ペントシジンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

※2　基準値上限は、日本痛風・核酸代謝学会「高尿酸血症・痛風の治療ガイド」における高尿酸血症の定義に基づいております。

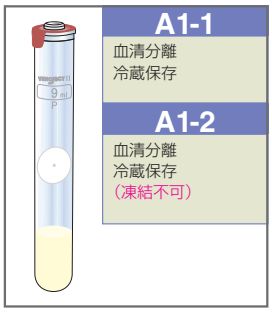
実施料について（生化Ⅰ）

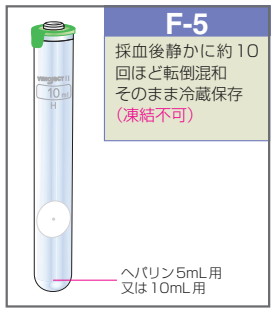
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

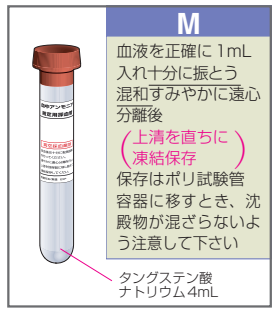
1.	5項目以上7項目以下の場合	
	生化Ⅰ	93点
2.	8項目又は9項目の場合	
	生化Ⅰ	99点
3.	10項目以上の場合	
	生化Ⅰ	109点

生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
蛋白・含窒素成分関連検査								
1092 3C040	アンモニア (NH_3) 3C040-0000-031-271	全血1.0 ↓ 除蛋白 上清3.0	M ↓ G 凍結	酵素サイクリング法	12～66 μg/dL	1～2	50 生化Ⅰ	緊急
色素								
1023 3J010	総ビリルビン (T-Bil) 3J010-0000-023-271	血清0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	バナジン酸酸化法	0.2～1.1 mg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	
1024 3J015	直接ビリルビン (D-Bil) 3J015-0000-023-271	血清0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	バナジン酸酸化法	0.4 以下 mg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	
4058 5C041	ハプトグロビン(型判定含む) 5C041-0000-023-063	血清0.6	A1-1 冷蔵	ネフェロメトリー法	1-1型 83～209 2-1型 66～218 2-2型 25～176 mg/dL	4～10	136 免疫	＊4
4026 5C040	ハプトグロビン(型判定なし) 5C040-0000-023-061	血清0.4	A1-1 冷蔵	TIA法	19～170 mg/dL	2～4	136 免疫	
5070 3J040	赤血球コプロポルフィリン 3J040-0000-019-204	全血3.0	F-5 遮光 冷蔵	HPLC変法	1 以下 μg/dL RBC	8～14	210 生化Ⅰ	凍結不可 ＊E







項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量(mL)	容器 保存方法(安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
色素								
5446 3J055	赤血球遊離プロトポルフィリン 3J055-0000-019-282	全血 1.0	F-5 遮光 冷蔵	蛍光法	μg/dL RBC	4～9	272 生化Ⅰ	凍結不可 17頁参照 ＊4
酵素								
1029 3B035	AST (アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ)(GOT) 3B035-0000-023-272	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	JSCC標準化対応法	10～40 U/L	1～2	17 生化Ⅰ	緊急 溶血血清は高値を示す場合があります。
1030 3B045	ALT (アラニンアミノトランスフェラーゼ)(GPT) 3B045-0000-023-272	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	JSCC標準化対応法	5～45 U/L	1～2	17 生化Ⅰ	緊急 溶血血清は高値を示す場合があります。
1031 3B070	ALP (アルカリホスファターゼ) 3B070-0000-023-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	JSCC標準化対応法	110～360 U/L	1～2	11 生化Ⅰ	
1694 3B070	ALP／IFCC (アルカリホスファターゼ) 3B070-0000-023-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵	IFCC標準化対応法	38～113 U/L	1～2	11 生化Ⅰ	
1035 3B050	LD (乳酸脱水素酵素) 3B050-0000-023-272	血清 0.4	A1-2 冷蔵	JSCC標準化対応法	115～245 U/L	1～2	11 生化Ⅰ	緊急 凍結不可 溶血血清は高値を示す場合があります。
1766 3B050	LD／IFCC (乳酸脱水素酵素) 3B050-0000-023-272	血清 0.4	A1-1 冷蔵	IFCC標準化対応法	115～245 U/L	1～2	11 生化Ⅰ	緊急 凍結不可 溶血血清は高値を示す場合があります。
1036 3B110	コリンエステラーゼ (ChE) 3B110-0000-023-272	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (5日)	JSCC標準化対応法 (基質：BZTC)	M 235～494 F 196～452 U/L	1～2	11 生化Ⅰ	
1038 3B090	γ-GT (γ-グルタミルトランスペプチダーゼ) 3B090-0000-023-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (21日)	JSCC標準化対応法	M 75以下 F 45以下 U/L	1～2	11 生化Ⅰ	

実施料について(生化Ⅰ)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

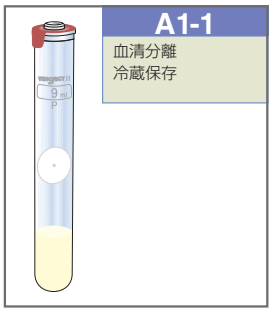
1.	5項目以上7項目以下の場合	
	生化Ⅰ	93点
2.	8項目又は9項目の場合	
	生化Ⅰ	99点
3.	10項目以上の場合	
	生化Ⅰ	109点

生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
酵素								
1034 3B135	LAP (ロイシンアミノペプチダーゼ) 3B135-0000-023-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵	L-ロイシル-P-ニトロアニリド基質法	30～70 U/L	1～2	11 生化 I	
1039 3B100	アルドラーゼ (ALD) 3B100-0000-023-272	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (5日)	UV法	1.2～7.6 U/L	1～2	11 生化 I	
1040 3B010	CK (クレアチンキナーゼ) 3B010-0000-023-272	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	JSCC標準化対応法	M 50～250 F 45～210 U/L	1～2	11 生化 I	
1117 3B015	CK-MB 3B015-0000-023-051	血清 0.6	A1-1 冷蔵	CLIA法	0.9～5.9 ng/mL	1～2	90 生化 I	
1042 3B160	アミラーゼ (AMY) 3B160-0000-023-271 3B160-0000-001-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (21日)	JSCC標準化対応法 (G3-CNP基質)	37～125 U/L	1～2	11 生化 I	緊急 (対象：血清)
1290 3B160		尿 5.0	C-3 冷蔵	JSCC標準化対応法 (G3-CNP基質)	60～790 U/L	1～2	11 生化 I	
1320 3B175	膵アミラーゼ (P-AMY) 3B175-0000-023-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵	G3-CNP 基質免疫阻害法	16～52 U/L	2～4	48 生化 I	アミラーゼアイソザイム
1043 3B180	リパーゼ 3B180-0000-023-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (21日)	酵素法	13～55 U/L	1～2	24 生化 I	
1319 3F160	リポ蛋白リパーゼ (LPL) 3F160-0000-022-023	血漿 0.3	F-3 ↓ G-1 凍結 注1	ELISA法	164～284 ng/mL	4～11	223 生化 I	※1 ＊4

注1 (リポ蛋白リパーゼ採血上の注意事項)早朝空腹時にヘパリンを体重1kg当り30単位静注し、15分後に採血して下さい。

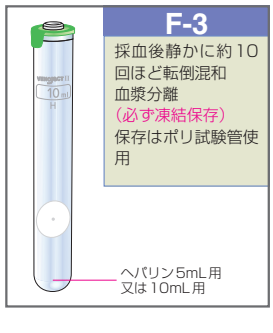
※1 高トリグリセライド血症及びLPL欠損症が疑われる場合の鑑別のために測定した場合に限り算定できる。又、ヘパリン負荷が行われた場合、投与したヘパリンは、薬剤として算定できるが、注射料は算定できない。



A1-1
血清分離
冷蔵保存

C-3
蓄尿又は部分尿
必要量提出、冷蔵保存
(尿量記載の必要なし)

G-1
血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用



F-3
採血後静かに約10回ほど転倒混和
血漿分離
(必ず凍結保存)
保存はポリ試験管使用

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
酵素								
1096 3B130	アデノシンデアミナーゼ (ADA) 3B130-0000-023-272	血清 0.4	A1-1 冷蔵	酵素法	10.0～31.0 U/L	1～2	32 生化Ⅰ	
1095 3B125	グアナーゼ (GU) 3B125-0000-023-271	血清 0.5	A1-1 冷蔵	酵素法	1.0 以下 U/L	4～7	35 生化Ⅰ	＊4
4068 3B255	リゾチーム 3B255-0000-001-292	血清 0.4	A1-1 冷蔵	比濁法	5.0～10.2 μg/mL	4～7		＊4
4170 3B255	リゾチーム 3B255-0000-001-292	尿 0.4	C-3 冷蔵	比濁法	0.1 未満 μg/mL	4～7		＊4
1160 3B040	ミトコンドリアAST (m-AST) 3B040-0000-023-272	血清 0.5	A1-1 冷蔵	プロテアーゼ法	7 以下 U/L	4～7	49 生化Ⅰ	ASTアイソザイム ＊4
1170 3B325	アンギオテンシンⅠ転換酵素 (ACE) 3B325-0000-023-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵	笠原法	8.3～21.4 U/L	2～4	144 生化Ⅰ	
1168 3B185	トリプシン 3B185-0000-023-023	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ELISA法	100～550 ng/mL	2～5	189 生化Ⅰ	＊ア

実施料について（生化Ⅰ）

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

1. 5項目以上7項目以下の場合 生化Ⅰ 93点
2. 8項目又は9項目の場合 生化Ⅰ 99点
3. 10項目以上の場合 生化Ⅰ 109点

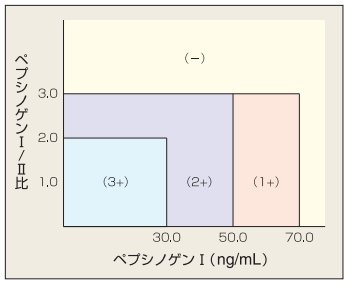
生化学的検査

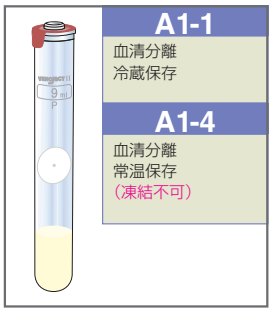
項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
酵素								
1317 3B192	**膵ホスホリパーゼA2** (PLA2) 3B192-0000-023-005	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	RIA法	130～400 ng/dL	2～5	204 生化Ⅰ	*ア
4675 3B339	**ペプシノゲンⅠ・Ⅱ** (PGⅠ・Ⅱ) 3B339-0000-023-062	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	表1参照	2～4		
1711 3B072	**BAP** (骨型アルカリホスファターゼ) 3B072-0000-023-052	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA法	M 3.7～20.9 F (閉経前) 2.9～14.5 (閉経後) 3.8～22.6 μg/L	2～4	161 生化Ⅱ	※1
5913 5C120	**total PINP** (Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド) 5C120-0000-023-053	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ECLIA法	M 18.1～74.1 F (閉経前) 16.8～70.1 (閉経後) 26.4～98.2 ng/mL	2～4	169 生化Ⅱ	※1 *イ
アイソザイム								
1067 3B055	**LDアイソザイム** 3B055-0000-023-233	血清 **0.2**	**A1-4** 常温	アガロース 電気泳動法	LD1 20.0～31.0 LD2 28.8～37.0 LD3 21.5～27.6 LD4 6.3～12.4 LD5 5.4～13.2 %	2～4	48 生化Ⅰ	凍結不可 溶血不可 *イ
1068 3B080	**ALPアイソザイム** 3B080-0000-023-233	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	アガロース 電気泳動法	ALP2 35.8～74.0 ALP3 25.1～59.0 ALP5 0.0～16.1 %	2～4	48 生化Ⅰ	*イ

※1　BAP、IntactPINP、total PINP及びALPアイソザイム(PAG電気泳動法)のうち2項目以上を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

(表1) ペプシノゲンⅠ・Ⅱ判定基準

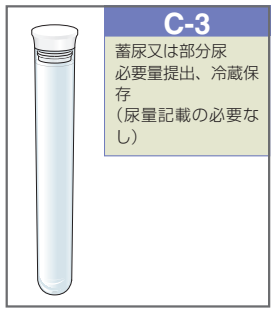
判定	ペプシノゲンⅠ値及びⅠ/Ⅱ比
(3+)	30.0ng/mL以下 且つ 2.0以下
(2+)	50.0ng/mL以下 且つ 3.0以下
(1+)	70.0ng/mL以下 且つ 3.0以下
(−)	上記条件以外





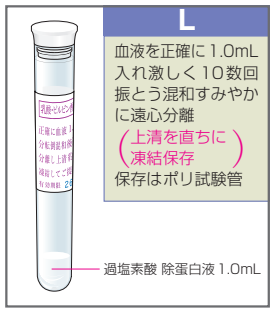
A1-1
血清分離
冷蔵保存

A1-4
血清分離
常温保存
(凍結不可)



C-3
蓄尿又は部分尿
必要量提出、冷蔵保存
(尿量記載の必要なし)

G-1
血清分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用



L
血液を正確に1.0mL入れ激しく10数回振とう混和すみやかに遠心分離
(上清を直ちに凍結保存)
保存はポリ試験管

過塩素酸 除蛋白液 1.0mL

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
アイソザイム								
1072 3B165	アミラーゼアイソザイム (AMYアイソザイム) 3B165-0000-023-233 3B165-0000-001-233	血清 0.2	A1-1 冷蔵	アガロース電気泳動法	P-TOTAL : 15.7～64.0 S-TOTAL : 36.0～84.3 % P/S比 : 0.19～1.79	2～4	48 生化Ⅰ	
1276 3B165		尿 0.5	C-3 冷蔵	アガロース電気泳動法	P-TOTAL : 38.7～82.3 S-TOTAL : 17.7～61.3 % P/S比 : 0.63～4.65	2～4	48 生化Ⅰ	＊イ
1069 3B025	CKアイソザイム 3B025-0000-023-233	血清 0.2	A1 ⬇ G-1 凍結	アガロース電気泳動法	MM 92.4～100.0 MB 0.0～ 6.6 BB 0.0～ 1.9 %	2～4	55 生化Ⅰ	溶血不可 ＊イ
有機酸								
(5177) 3E045	ケトン体分画 《静脈血》 3E045-0000-023-271	血清 0.4	A1 ⬇ G-1 凍結	酵素法	アセト酢酸 14～68 3-ヒドロキシ酪酸 74以下 総ケトン体 28～120 μmol/L	2～4	59 生化Ⅰ	
5521 3E045	《動脈血》 3E045-0000-020-271	血清 0.4 (動脈血)	A1 ⬇ G-1 凍結	酵素法	アセト酢酸／3-ヒドロキシ酪酸比 0.7以上	2～4	59 生化Ⅰ	ブドウ糖投与下又は食後(血糖120mg/dL以上)に動脈採血して下さい。採血後はすみやかに冷却遠心にて分離し、凍結保存して下さい。
4060 3E010	乳酸 3E010-0000-031-271	全血 1.0 ⬇ 除蛋白上清 0.8	L ⬇ G 凍結	酵素法	5.0～20.0 mg/dL	2～4	47 生化Ⅰ	
4061 3E015	ピルビン酸 3E015-0000-031-271	全血 1.0 ⬇ 除蛋白上清 0.8	L ⬇ G 凍結	酵素法	0.3～0.9 mg/dL	2～4	47 生化Ⅰ	
4024 3D080	ヒアルロン酸 3D080-0000-023-062	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	(健常者) 50以下 ng/mL 肝硬変の判断基準130 ng/mL以上 (50～130 ng/mLの場合、肝の線維化が疑われます)	2～4	184 生化Ⅰ	慢性肝炎の患者に対して慢性肝炎の経過観察及び肝生検の適応の確認を行う場合に算定できる。

実施料について (生化Ⅰ)

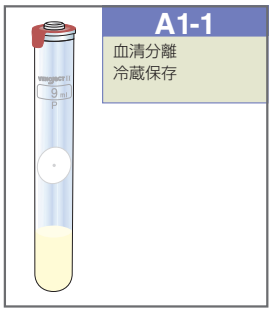
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

1.	5項目以上7項目以下の場合	
	生化Ⅰ	93点
2.	8項目又は9項目の場合	
	生化Ⅰ	99点
3.	10項目以上の場合	
	生化Ⅰ	109点

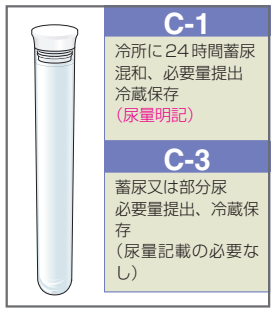
生化学的検査

電解質・金属

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
1044 3H010	ナトリウム (Na) 3H010-0000-023-261 3H010-0000-004-261	血清 0.4	A1-1 冷蔵	電極法	135～147 mEq/L	1～2	(11) 生化 I	緊急 (対象：ナトリウム血清) ナトリウム及びクロールは同時算定不可
1205 3H010		蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	電極法	1.6～5.8 g/day	1～2	(11) 生化 I	
1046 3H020	クロール (Cl) 3H020-0000-023-261 3H020-0000-004-261	血清 0.4	A1-1 冷蔵	電極法	98～108 mEq/L	1～2	(11) 生化 I	
1207 3H020		蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	電極法	2.5～8.9 g/day	1～2	(11) 生化 I	
1045 3H015	カリウム (K) 3H015-0000-023-261 3H015-0000-004-261	血清 0.4	A1-1 冷蔵	電極法	3.6～5.0 mEq/L	1～2	11 生化 I	緊急 (対象：血清) 全血で放置した場合、変動します。
1206 3H015		蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	電極法	1.0～3.9 g/day	1～2	11 生化 I	
1047 3H030	カルシウム (Ca) 3H030-0000-023-271 3H030-0000-004-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	アルセナゾⅢ法	8.6～10.1 mg/dL	1～2	11 生化 I	緊急 (対象：カルシウム血清) イオン化カルシウムとカルシウムは同時算定不可
1208 3H030		蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	アルセナゾⅢ法	0.1～0.3 g/day	1～2	11 生化 I	
5112 3H035	イオン化カルシウム 3H035-0000-023-261	血清 1.0	A1 ↓ G-1 凍結	電極法	2.41～2.72 (37℃、PH7.4) mEq/L	4～8	26 生化 I	動物検体不可 ＊4



A1-1
血清分離
冷蔵保存



C-1
冷所に24時間蓄尿
混和、必要量提出
冷蔵保存
(尿量明記)

C-3
蓄尿又は部分尿
必要量提出、冷蔵保存
(尿量記載の必要なし)

G-1
血清分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

電解質・金属

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量(mL)	容器 保存方法(安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
1048 3H025	マグネシウム (Mg) 3H025-0000-023-271 3H025-0000-004-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵	キシリジルブルー比色法	1.8～2.6 mg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	
1209 3H025		蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	キシリジルブルー比色法	0.02～0.13 g/day	1～2	11 生化Ⅰ	
1049 3H040	無機リン (IP) 3H040-0000-023-271 3H040-0000-004-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (5日)	モリブデン酸直接法	2.5～4.6 mg/dL	1～2	17 生化Ⅰ	
1210 3H040		蓄尿 5.0	C-1 冷蔵	モリブデン酸直接法	0.5～1.0 g/day	1～2	17 生化Ⅰ	
1051 3I010	鉄 (Fe) 3I010-0000-023-271 3I010-0000-001-274	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (7日)	直接比色法	M 45～200 F 40～170 μg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	
1274 3I010		尿 5.0	C-3 冷蔵	原子吸光法	50～160 μg/L	5～13	11 生化Ⅰ	＊E
1088 3I015	総鉄結合能 (TIBC) 3I015-0000-023-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵	直接比色法／ニトロソPSAP法(計算法)	M 245～385 F 265～430 μg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	※1
1089 3I020	不飽和鉄結合能 (UIBC) 3I020-0000-023-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ニトロソPSAP法	M 110～300 F 135～350 μg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	

※1　総鉄結合能(TIBC)(比色法)と不飽和鉄結合能(UIBC)(比色法)を同時に実施した場合は、不飽和鉄結合能(UIBC)(比色法)又は総鉄結合能(TIBC)(比色法)の所定点数を算定する。

実施料について(生化Ⅰ)

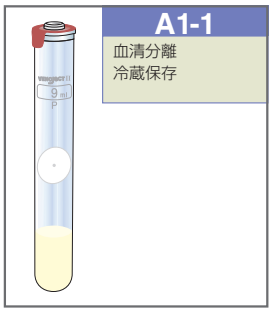
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

1.	5項目以上7項目以下の場合	
	生化Ⅰ	93点
2.	8項目又は9項目の場合	
	生化Ⅰ	99点
3.	10項目以上の場合	
	生化Ⅰ	109点

生化学的検査

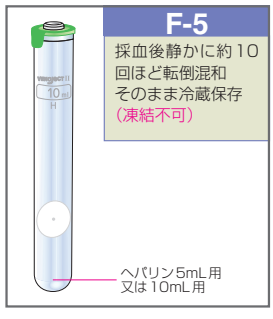
電解質・金属

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
1050 3I025	銅 (Cu) 3I025-0000-023-271 3I025-0000-001-274	血清 0.4	A1-1 冷蔵	直接法（3.5-DiBr-PAESA）	M 80～130 F 100～150 μg/dL	1～2	23 生化 I	
1273 3I025		尿 5.0	C-3 冷蔵	原子吸光法	36 以下 μg/L	5～13	23 生化 I	＊E
1162 3K105	アルミニウム (Al) 3K105-0000-023-274	全血 2.0	ソ 冷蔵	原子吸光法	1.0 以下 μg/dL	3～6	115 生化 I	＊イ
1163 3I030	亜鉛 (Zn) 3I030-0000-023-274 3I030-0000-001-274	血清 0.5	A1-1 ↓ G-2 冷蔵	原子吸光法	80～130 μg/dL	2～4	140 生化 I	ゴム栓不可 ＊イ
1185 3I030		尿 5.0	C-3 冷蔵	原子吸光法	50～1000 μg/L	2～4	140 生化 I	＊イ
5059 3K110	鉛 (Pb) 3K110-0000-019-274 3K110-0000-001-274	全血 1.0	F-5 冷蔵	原子吸光法	μg/dL	3～6		凍結不可 ＊イ
5291 3K110		尿 2.0	C-3 冷蔵	原子吸光法	20 以下 μg/L	3～7		＊イ
5062 3K120	カドミウム (Cd) 3K120-0000-019-274 3K120-0000-001-274	全血 1.0	F-5 冷蔵	原子吸光法	0.5 以下 μg/dL	7～14		凍結不可 ＊1
5295 3K120		尿 1.0	C-3 冷蔵	原子吸光法	3.8 以下 μg/L	6～14		＊1



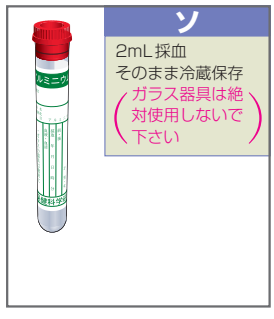
A1-1
血清分離
冷蔵保存

C-3
蓄尿又は部分尿
必要量提出、冷蔵保存
（尿量記載の必要なし）



F-5
採血後静かに約10回ほど転倒混和
そのまま冷蔵保存
（凍結不可）

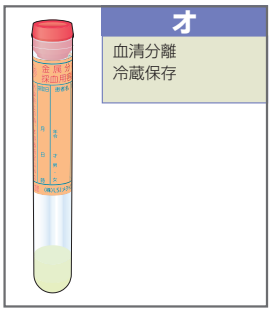
G-2
血清分離
冷蔵保存
（ゴム栓不可）
ポリ試験管使用



ソ
2mL採血
そのまま冷蔵保存
（ガラス器具は絶対使用しないで下さい）

電解質・金属

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
5109 3K115	クロム (Cr) 3K115-0000-019-274 3K115-0000-001-274	全血 2.0	F-5 冷蔵	原子吸光分光光度法	1.0 以下 μg/dL	7～14		凍結不可 ＊E
5110 3K115		尿 1.0	C-3 冷蔵	原子吸光分光光度法	2 以下 μg/L	7～14		＊E
5061 3K150	水銀 (Hg) 3K150-0000-019-274 3K150-0000-001-274	全血 0.5	F-5 冷蔵	原子吸光法	5 以下 μg/dL	6～13		凍結不可 ＊1
5293 3K150		尿 1.0	C-3 冷蔵	原子吸光法	25 以下 μg/L	6～13		＊1
5060 3K125	マンガン (Mn) 3K125-0000-019-274 3K125-0000-023-274 3K125-0000-001-274	全血 0.5	F-5 冷蔵	原子吸光法	0.4～2.0 μg/dL	6～14	27 生化Ⅰ	凍結不可
5554 3K125		血清 0.5	オ 冷蔵	原子吸光法	0.7 以下 μg/dL	6～14	27 生化Ⅰ	1月以上（胆汁排泄能の低下している患者については2週間以上）高カロリー静脈栄養法が行われている患者に対して、3月に1回に限り算定することができる。
5292 3K125		尿 1.0	C-3 冷蔵	原子吸光法	2.0 未満 μg/L	6～14	27 生化Ⅰ	＊1
5374 3K130	ニッケル (Ni) 3K130-0000-023-274	血清 0.5	オ 冷蔵	原子吸光法	0.6 以下 μg/dL	7～14		＊1



実施料について（生化Ⅰ）

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

1.	5項目以上7項目以下の場合	
	生化Ⅰ	93点
2.	8項目又は9項目の場合	
	生化Ⅰ	99点
3.	10項目以上の場合	
	生化Ⅰ	109点

生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
産業医学関連								
5125 3K010	**総三塩化物** (TTC) 3K010-0000-001-202	尿 1.0	I-1 冷蔵 注1	GC法	mg/L	3～6		
5244 3K015	**三塩化（トリクロル）酢酸** (TCA) 3K015-0000-001-202	尿 1.0	I-1 冷蔵 注1	GC法	mg/L	3～6		
5444 3K040	**マンデル酸及び フェニルグリオキシ酸総量** (MA及びPGA総量) 3K040-0000-001-204	尿 1.0	I-1 冷蔵 注2	HPLC法	g/L	3～5		
5082 3K025	**馬尿酸** (HA) 3K025-0000-001-204	尿 1.0	I-1 冷蔵 注2	HPLC法	g/L	3～5		
5083 3K030	**メチル馬尿酸** (MHA) 3K030-0000-001-204	尿 1.0	I-1 冷蔵 注2	HPLC法	g/L	3～5		防腐剤使用不可
5067 3J075	**δ-アミノレブリン酸** (δ-ALA) 3J075-0000-001-204	尿 1.0	I-1 遮光 冷蔵	HPLC法	mg/L	3～6		
5443 3K045	**N-メチルホルムアミド** 3K045-0000-001-202	尿 3.0	I-1 冷蔵 注2	GC法	mg/L	3～8		
5445 3K050	**2,5-ヘキサンジオン** (2,5-HD) 3K050-0000-001-202	尿 5.0	I-1 冷蔵 注2	GC法	mg/L	3～8		*イ

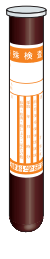
注1　週末の作業終了後に採尿して下さい。作業終了2時間前に一度排尿を行い、その後2時間は排尿せずに採取するようにして下さい。
注2　連続した作業日の最初の日以外の作業終了時に採尿して下さい。作業終了2時間前に一度排尿を行い、その後2時間は排尿せずに採尿するようにして下さい。

（表1）特殊健康診断の検査分布

鉛健康診断結果報告書（鉛中毒予防規則、様式第3号）
有機溶剤など健康診断結果報告書（有機溶剤中毒予防規則、様式第3号の2）より

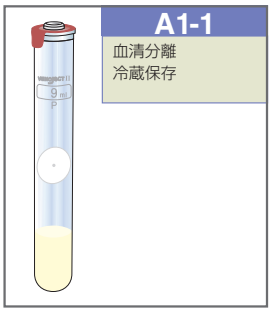
項目コード	有機溶剤の名称	検査内容	単位	分布 1	分布 2		分布 3	注
5083	キシレン	メチル馬尿酸	g/L	0.5以下	0.5超	1.5以下	1.5超	Ns
5443	N·N-ジメチルホルムアミド	N-メチルホルムアミド	mg/L	10以下	10超	40以下	40超	
5444	スチレン	マンデル酸	g/L					Ns
5244	テトラクロルエチレン	トリクロル酢酸	mg/L	3以下	3超	10以下	10超	Ns
5125		総三塩化物	mg/L	3以下	3超	10以下	10超	Ns
5244	1·1·1-トリクロルエタン	トリクロル酢酸	mg/L	3以下	3超	10以下	10超	Ns
5125		総三塩化物	mg/L	10以下	10超	40以下	40超	Ns
5244	トリクロルエチレン	トリクロル酢酸	mg/L	30以下	30超	100以下	100超	Ns
5125		総三塩化物	mg/L	100以下	100超	300以下	300超	Ns
5082	トルエン	馬尿酸	g/L	1以下	1超	2.5以下	2.5超	B.Ns
5445	ノルマルヘキサン	2,5-ヘキサンジオン	mg/L	2以下	2超	5以下	5超	Ns
5059	（鉛業務）	鉛（血中）	μg/dL	20以下	20超	40以下	40超	B
5067		δ-ALA	mg/L	5以下	5超	10以下	10超	
5446		赤血球遊離プロトポルフィリン	μg/dLRBC	100以下	100超	250以下	250超	B

注　B ；測定対象物質は通常職業性の曝露を受けない人の試料にも明らかに存在しています。
　　Ns；非特異的な測定対象物質。そのため他の化学物質の曝露後でも検出されます。したがって特異的検査よりも曝露の相関が高く、有効利用できます。



I-1
蓄尿又は部分尿
必要量提出、冷蔵保存
（遮光保存）

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量（mL）	容器 保存方法（安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
産業医学関連								
5124 3Z040	**エタノール** 3Z040-0000-019-202	全血 **1.0**	**F-1** 凍結	GC 法	0.1 未満 mg/mL	7～10	111 生化 I	＊4
ビタミン関連検査								
5105 3G015	**ビタミン A** （レチノール） 3G015-0000-023-204	血清 **0.4**	**A1-1** 遮光 冷蔵	HPLC 法	97～316 IU/dL	4～9		＊4
5317 5C030	**レチノール結合蛋白** （RBP） 5C030-0000-023-062	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	M2.7～6.0 F 1.9～4.6 mg/dL	4～6	136 免疫	＊1
5055 3G025	**ビタミン B_1** （チアミン） 3G025-0000-019-204	全血 **0.5**	**S** 凍結	HPLC 蛍光法	30～70 ng/mL	3～5	246 生化 I	＊イ
5077 3G030	**ビタミン B_2** （リボフラビン） 3G030-0000-019-204	全血 **0.5**	**S** 遮光 凍結	HPLC 蛍光法	70.4～123.7 ng/mL	3～6	249 生化 I	＊イ
5298 3G036	**ビタミン B_6** 3G036-0000-023-204	血清 **0.5**	**A1-1** 遮光 冷蔵	HPLC 法	PAM 0.6 以下 PAL M 6.0～40.0 F 4.0～19.0 PIN 3.0 以下 ng/mL	4～8		＊4
5056 3G040	**ビタミン B_{12}** 3G040-0000-023-051	血清 **0.6**	**A1-1** 冷蔵 （7日）	CLIA 法	233～914 pg/mL	1～2	144 生化 I	
5057 3G105	**葉酸** 3G105-0000-023-051	血清 **0.6**	**A1-1** 冷蔵 （7日）	CLIA 法	3.6～12.9 ng/mL	1～2	154 生化 I	
5106 3G060	**ビタミン C** （アスコルビン酸） 3G060-0000-031-204	血清 **0.5** ↓ 除蛋白 上清 **0.5**	**Z** ↓ **G** 遮光 凍結	HPLC 法	5.5～16.8 μg/mL	5～9	314 生化 I	＊4

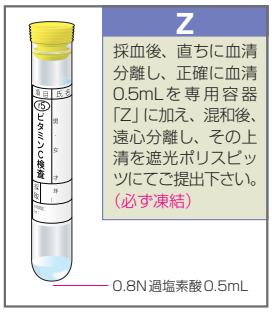


A1-1
血清分離
冷蔵保存

F-1
採血後静かに約10回ほど転倒混和そのまま
（必ず凍結保存）
（溶血してもよい）
ガラス管の場合はポリ試験管に移して凍結

G-1
血清分離
（必ず凍結保存）
ポリ試験管使用

S
採血後静かに約10回ほど転倒混和そのまま
（必ず凍結保存）
ガラス管の場合はポリ試験管に移して凍結
他の項目との同時依頼はできません。



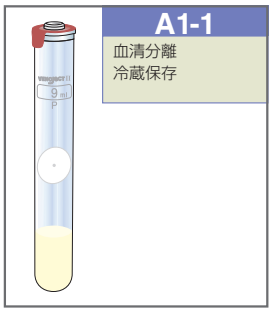
Z
採血後、直ちに血清分離し、正確に血清0.5mLを専用容器「Z」に加え、混和後、遠心分離し、その上清を遮光ポリスピッツにてご提出下さい。
（必ず凍結）

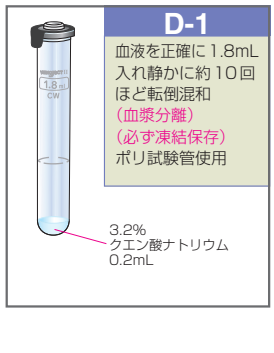
生化学的検査

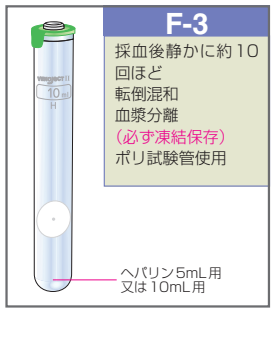
項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考	
ビタミン関連検査									
5081 3G065	25OHビタミンD 〔ECLIA〕 3G065-0000-023-053	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ECLIA法	ビタミンD充足状態 30.0以上 ビタミンD不足 20.0～29.9 ビタミンD欠乏 20.0未満 ng/mL	2～4	117 生化Ⅰ	※1	＊イ
5316 3G070	1α-25-(OH)2ビタミンD (1,25-ジヒドロキシビタミンD3) 3G070-0000-023-001	血清 0.4	A1 ↓ G-1 凍結	RIA法	20.0～60.0 pg/mL	4～9	388 生化Ⅰ	※2	＊ア
5536 3G065	25-ヒドロキシビタミンD 3G065-0000-023-051	血清 0.6	A1-1 冷蔵	CLIA法	(臨床判断値) 20.0以下 ng/mL	2～7	117 生化Ⅰ	※1	＊ア
5104 3G080	ビタミンE (トコフェロール) 3G080-0000-023-282	血清 0.5	A1 ↓ G-1 遮光 凍結	蛍光法	0.75～1.41 mg/dL	6～12			＊7
5754 3G090	ビタミンK分画 3G090-0000-022-204	血漿 2.0	D-1 ↓ G 遮光 凍結	HPLC法	K_1 0.15～1.25 K_2 0.10以下 ng/mL	4～12			＊4
5701 3G055	カルニチン 3G055-0000-023-271	血清 0.5	A1-1 冷蔵	酵素サイクリング法	総カルニチン 45～91 遊離カルニチン 36～74 アシルカルニチン 6～23 μmol/L	4～6	95+95 生化Ⅰ	総カルニチン：95 遊離カルニチン：95	＊1
5107 3G110	ニコチン酸 (ナイアシン) 3G110-0000-019-905	全血 1.5	F-5 冷蔵	Bioassay	4.7～7.9 μg/mL	8～16			＊4
特殊分析検査									
5360 3F095	脂肪酸4分画 3F095-0000-023-202 3F095-0000-022-202	血清 0.5 又は 血漿 0.5	A1 ↓ G-1 凍結 F-3 ↓ G 凍結	GC法	DHLA: 10.9 ～ 43.5 AA : 85.1 ～207.8 EPA : 11.6 ～107.2 DHA : 48.6 ～152.4 μg/mL EPA/AA比 : 0.09～0.75	3～6	417 生化Ⅱ		＊イ

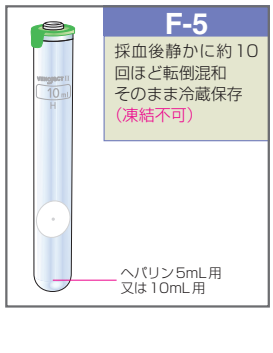
※1 原発性骨粗鬆症の患者に対して測定した場合は、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回に限り算定できる。なお、本検査を実施する場合は関連学会が定める実施方針を遵守すること。ビタミンD欠乏性くる病若しくはビタミンD欠乏性骨軟化症の診断時又はそれらの疾患に対する治療中にした場合は、診断時においては1回を限度とし、その後は3月に1回を限度として算定できる。

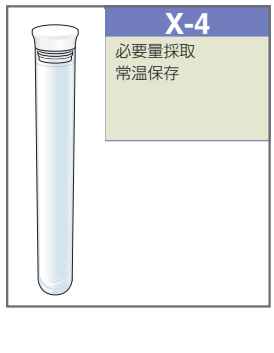
※2 慢性腎不全、特発性及び偽性副甲状腺機能低下症、ビタミンD依存症Ⅰ型、低リン血症性ビタミンD抵抗性くる病の診断時又はそれらの疾患に対する活性型ビタミンD3剤による治療中に測定した場合に限り算定できる。なお、活性型ビタミンD3剤による治療開始後1月以内においては2回を限度とし、その後は3月に1回を限度とする。











特殊分析検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量(mL)	容器 保存方法(安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
5119 3Z065	**結石分析** 3Z065-0000-081-273	10mg以上	X-4 常温	赤外線吸収スペクトロフォトメトリー	% 次頁表1参照	7～9	120 生化Ⅱ	サンプルは乾燥させてご提出下さい。血液などの付いたサンプルは蒸留水で洗浄後、乾燥させてご提出下さい。＊4
5173 3F095	**全脂質脂肪酸分画** 3F095-0000-023-205	血清 0.8	A1 ↓ G-1 凍結	LC-MS/MS法	次頁表1参照	15～24	417 生化Ⅱ	＊1
5064 3C070	**総ホモシステイン** 3C070-0000-022-204	血漿 0.3	E-4 ↓ G 冷蔵	HPLC法	3.7～13.5 nmol/mL	4～8	287 生化Ⅱ	＊4
5073 3C045	**アミノ酸分析定量**	血漿 1.1	F-3 ↓ G 凍結	自動アミノ酸分析法	次頁表2参照	4～9	1176 生化Ⅱ	尿アミノ酸分析定量の基本材料は蓄尿です。(蓄尿の採取が困難等の場合は部分尿でご提出下さい。) ＊イ
5300 3C045		蓄尿 2.0	G-5 凍結					
5300 3C045	3C045-0000-022-210 3C045-0000-004-210 3C045-0000-001-210	尿 2.0	G-6 凍結					
5460 3C047	**BTR** (総分岐鎖アミノ酸／チロシンモル比) 3C047-0000-023-271	血清 0.5	A1 ↓ G-1 凍結	酵素法	BCAA 344～713 チロシン 51～98 μmol/L BCAA/Tyr 4.41～10.05	4～6	288 生化Ⅱ	＊1
7644 5C141	**M2BPGi** (MAC2結合蛋白糖鎖修飾異性体) 5C141-0000-023-052	血清 0.4	A1 ↓ G-1 凍結	CLEIA法	Cut off index 判定 1.00未満 (−) 表1参照	2～7	194 生化Ⅰ	※1、※2 ＊ア

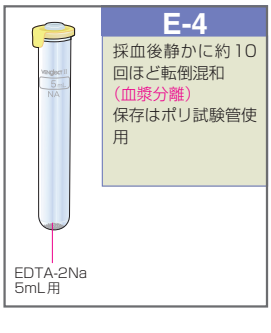
※1　慢性肝炎又は肝硬変の患者(疑われる患者を含む。)に対して、肝臓の線維化進展の診断補助を目的に実施した場合に算定する。

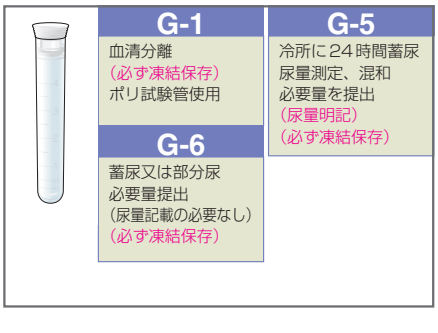
※2　Ⅳ型コラーゲン又はⅣ型コラーゲン・7S、プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド(P-Ⅲ-P)と併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。

(表1) M2BPGi 判定基準と意義

Cut off index	判定	意義
1.00 未満	陰性 (−)	非慢性肝炎
1.00 以上～3.00 未満	陽性 (1+)	慢性肝炎
3.00 以上	強陽性 (2+)	肝硬変

生検検査によって判定した肝臓の線維化ステージと良い一致率を示しますが、まれに両者で異なる結果を示すことがあります。
つきましては、測定結果に基づく診断については、他の検査及び臨床症状等により総合的な判断をお願いします。





実施料について(生化Ⅰ)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

1.	5項目以上7項目以下の場合	
	生化Ⅰ	93点
2.	8項目又は9項目の場合	
	生化Ⅰ	99点
3.	10項目以上の場合	
	生化Ⅰ	109点

生化学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
特殊分析検査								
1710 5C210	KL-6 5C210-0000-023-062	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集法	500 未満 U/mL	1～2	114 生化 I	
1708 3F250	SP-A (肺サーファクタントプロテインA) 3F250-0000-023-052	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA法	43.8 未満 ng/mL	4～7	130 生化 I	SP-A(肺サーファクタントプロテインA)KL-6及びSP-D(肺サーファクタントプロテインD)のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。 ＊1
1709 3F253	SP-D (肺サーファクタントプロテイン-D) 3F253-0000-023-052	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA法	110 未満 ng/mL	2～4	136 生化 I	＊ア

(表1) 全脂質脂肪酸分画基準値一覧表

分画成分名	略号	基準値 濃度(μg/mL)	基準値 成分比(weight %)
ラウリン酸	C12：0	4.2以下	0.16以下
ミリスチン酸	C14：0	8.2～40	0.33～1.17
ミリストレイン酸	C14：1ω5	3.4以下	0.10以下
パルミチン酸	C16：0	451～898	18.38～22.80
パルミトレイン酸	C16：1ω7	25～112	0.90～3.05
ステアリン酸	C18：0	164～306	6.30～9.10
オレイン酸	C18：1ω9	432～1069	17.53～26.82
リノール酸	C18：2ω6	697～1280	25.30～37.02
γ-リノレン酸	C18：3ω6	3.6～22	0.14～0.71
リノレン酸	C18：3ω3	10～41	0.31～1.06
アラキジン 酸	C20：0	1.2～2.7	0.07以下
エイコセン酸	C20：1ω9	3.2～8.2	0.12～0.23
エイコサジエン酸	C20：2ω6	3.6～10	0.17～0.29
5-8-11 エイコサトリエン酸	C20：3ω9	1.2～5.4	0.17以下
ジホモ-γ-リノレン酸	C20：3ω6	23～72	0.92～2.24
アラキドン酸	C20：4ω6	142～307	4.86～9.42
エイコサペンタエン酸	C20：5ω3	12～112	0.36～3.42
ベヘニン酸	C22：0	1.3～2.6	0.08以下
エルシン酸	C22：1ω9	1.4以下	0.04以下
ドコサテトラエン酸	C22：4ω6	2.9～7.6	0.11～0.23
ドコサペンタエン酸	C22：5ω3	26～60	0.98～1.79
リグノセリン酸	C24：0	1.6～2.9	0.09以下
ドコサヘキサエン酸	C22：6ω3	51～185	1.69～5.55
ネルボン酸	C24：1ω9	2.1～4.0	0.13以下
T/T比(C20：3ω9/C20：4ω6)		0.02以下＊	—
EPA/AA比(C20：5ω3/C20：4ω6)		0.06～0.44＊	—

＊単位なし

(表2) アミノ酸分析定量基準値一覧表

成分名	略号	基準値 血漿 nmol/mL	基準値 蓄尿(尿量補正) μmol/day	基準値 尿(Cr補正) μmol/g・Cr	成分名	略号	基準値 血漿 nmol/mL	基準値 蓄尿(尿量補正) μmol/day	基準値 尿(Cr補正) μmol/g・Cr
タウリン	Tau	30～52	480～3000	250～2200	シスタチオニン	Cysthio	ND	13～65	10～50
ホスフォエタノールアミン	PEA	ND	ND	ND	イソロイシン	I Leu	39～84	18～62	12～35
尿素	Urea	2020～5610	155～427(注)	127～327(注)	ロイシン	Leu	81～150	10～90	2～55
アスパラギン酸	Asp	3以下	30～100	25～75	チロシン	Tyr	39～74	5～170	120以下
ハイドロキシプロリン	Hypro	Tr	ND	ND	フェニルアラニン	Phe	38～65	30～110	16～63
スレオニン	Thr	67～170	60～700	25～450	ホモシスチン	Homocys	ND	ND	ND
セリン	Ser	77～150	950以下	540以下	β-アラニン	β-Ala	ND	2～50	2～25
アスパラギン	Asn	33～58	40～490	20～300	β-アミノ-イソ酪酸	β-AiBA	ND	18～1350	10～1170
グルタミン酸	Glu	6～46	15～100	3～55	γ-アミノ酪酸	γ-ABA	ND	ND	ND
グルタミン	Gln	420～660	250～930	700以下	モノエタノールアミン	MEA	Tr or ND	120～765	110～480
ザルコシン	Sar	ND	40～175	35～100	1-メチルヒスチジン	1Me-His	4以下	35～800	18～570
α-アミノアジピリン酸	α-AAA	ND	40～150	10～90	ヒスチジン	His	59～88	680～2800	230～2050
プロリン	Pro	72～260	ND	ND	3-メチルヒスチジン	3Me-His	4以下	100～340	90～190
グリシン	Gly	140～320	860～4700	500～3500	ハイドロキシリジン	Hylys	ND	7～40	3～45
アラニン	Ala	180～470	170～830	95～560	オルニチン	Orni	36～110	3～67	2～40
シトルリン	Cit	25～48	10～26	8～27	リジン	Lys	110～230	60～1300	28～730
α-アミノ-n-酪酸	α-ABA	9～28	25～60	12～45	トリプトファン	Trp	40～84	20～120	6～60
バリン	Val	140～270	10～70	3～42	アンセリン	Ans	ND	ND	ND
シスチン	Cys	31～54	25～190	20～110	カルノシン	Car	ND	ND	ND
メチオニン	Met	14～33	4～19	2～12	アルギニン	Arg	42～110	3～65	23以下
					フィッシャー比		2.76～4.38		

(備考)同定不可、ND不検出、Tr痕跡程度
(注)尿素単位：蓄尿時 mmol / day、部分尿時 mmol / g・Cr

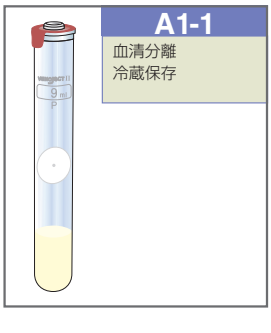
クリアランステスト

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量（mL）	容器 保存方法（安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
1063 8A020	クレアチニンクリアランス 8A020-0000-098-271	血清 0.4 及び 尿 5.0 （同時提出）	A1-1 及び C-5 冷蔵	酵素法	90 以上 mL/min	1～2		23頁参照
1064 8A025	クレアチニンクリアランス （24時間内因性） 8A025-0000-098-271	血清 0.4 及び 蓄尿 5.0 （同時提出）	A1-1 及び C-5 冷蔵	酵素法	130 以上 ※1 L/day	1～2		23頁参照
1942 8A040	尿酸クリアランス 8A040-0000-098-271	血清 0.4 及び 尿 5.0 （同時提出）	A1-1 及び C-5 冷蔵	ウリカーゼ・ペルオキシダーゼ法	mL/min	1～2		23頁参照
(1027) 8A010	ICG血中停滞率 （肝機能） 8A010-0000-023-273	血清前・15分 各 1.0	A1-1 遮光 冷蔵	比色法	R_{15}=10 以下 %	1～2	100	23頁参照
(1222) 8A011	ICG血中消失率 8A011-0000-023-273	血清前・5分 10分・15分 各 1.0	A1-1 遮光 冷蔵	比色法	K=0.168～0.206	1～2	150	23頁参照
4071 8A090	PFD（PABA排出率） （膵機能） 8A090-0000-098-271	尿 3.0（投与前） 及び 蓄尿 3.0 （6時間蓄尿） （同時提出）	C-5 冷蔵	DACA法	73.4～90.4 %	4～9	100	24頁参照 ＊4
1152 8A065	eGFRcreat 8A065-0000-023-919			計算法	24頁参照 mL/min/1.73m²	1～2		血清クレアチニンを用いた推算GFRです。 ※2
1155 8A066	eGFRcys 8A066-0000-023-919			計算法	24頁参照 mL/min/1.73m²	2～4		血清シスタチンCを用いた推算GFRです。 ※3

※1　単位の変換式：Y（mL / min）=X（L/day）×1000÷1440

※2　血清クレアチニン（項目コード：1006）との同時依頼、及び「年齢、性別」の依頼書への記載が必要条件となります。
なお、年齢が18才未満の場合、クレアチニンの依頼、年齢、性別の記載が無い場合には、「不能」とご報告させていただきます。

※3　血清シスタチンC（項目コード：1962）との同時依頼、及び「年齢、性別」の依頼書への記載が必要条件となります。
なお、年齢が18才未満の場合、シスタチンCの依頼、年齢、性別の記載が無い場合には、「不能」とご報告させていただきます。



A1-1
血清分離
冷蔵保存

C-5
必要量を採取、冷蔵保存
（採尿時間、尿量明記）

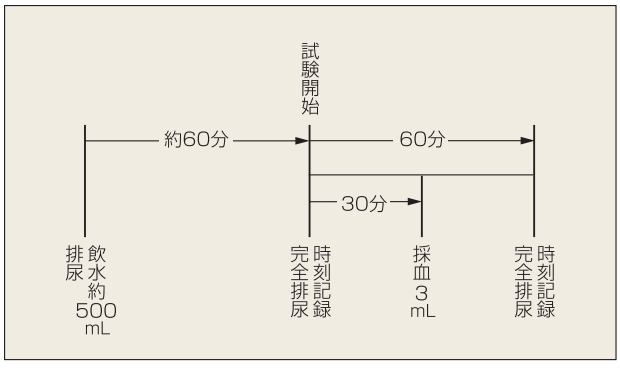
生化学的検査

クリアランステスト検体採取方法

クレアチニンクリアランス、尿酸クリアランス

（1）朝、身長・体重を測定記録し、依頼書に記載する。
（2）完全排尿させて捨てる。
（3）排尿後、温湯約500mLを飲ませる。
（4）飲水後、約60分に完全に排尿させて排尿終了の時刻を１分以内の正確さで記録する。（試験開始）
（5）開始後30分後に3mL採血、血清分離、４～6℃に保存。
（6）開始60分後に完全排尿、排尿終了時刻及び尿量を正確に記録する。（約5mL保存）
（7）（5）の血清、（6）の尿5mL、身長・体重を記載の上提出する。

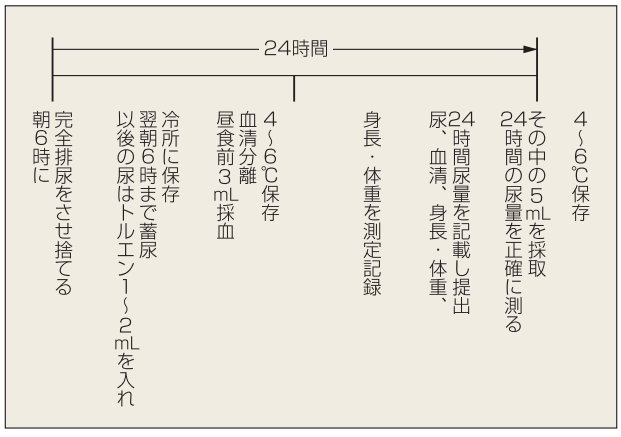
a　誤差の原因は不完全な排尿によるので、排尿時に充分な注意が必要である。
b　浮腫のある人は正常時の体重を記入して下さい。
c　正確を期待する場合は開始１時間半後　第２回目の採血、２時間後　第２回目の採尿を行い（5）以下の重複試験を実施、平均値を取る。
d　一回試験でも正確に実施すれば大きな誤差は生じない。



クレアチニンクリアランス（24時間内因性）

（1）朝６時に完全排尿させて捨てる。
（2）以後の尿は翌朝６時までに冷所に蓄尿する。蓄尿ビンには予め防腐剤としてトルエン１～2mLを入れ、冷所に保存する。（時間を正確に）
（3）24時間の尿量を正確に測る。その中の5mLを採取、４～6℃保存。
（4）採血は昼食前に3mL採血。血清分離、４～6℃保存。
（5）身長・体重を測定記録する。
（6）（3）の尿、（4）の血清、身長・体重、24時間尿量を記載して提出する。

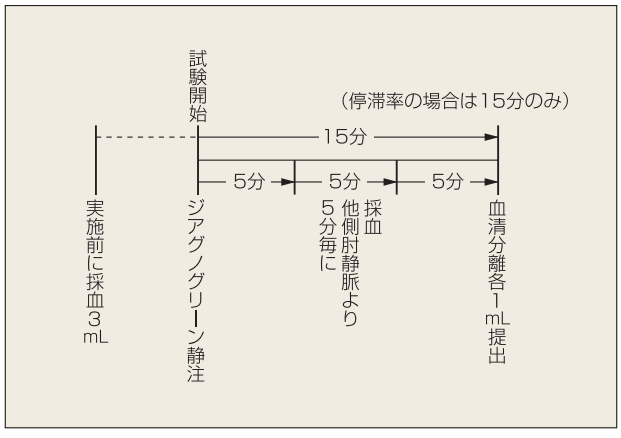
a　腎障害が著しく患者に水分負担ができない時。
b　尿量による誤差が無視できる。
c　患者の日常生活のまま実施できる等の利点がある。



ICG血中停滞率及び消失率

（1）実施前に3mL採血。
（2）ジアグノグリーン25mg注射用蒸留水5mLに溶かし、体重10kgにつき1mLを静注。
（3）静注後、５分、10分、15分（停滞率の場合は15分）毎に他側の肘静脈より3mLを採血する。
（4）依頼書及び容器に採血時間を記入のうえ分離血清各1mLを提出して下さい。

注意
- 早朝空腹時に行い検査終了まで安静仰臥させる。
- 試薬は検査直前に調製する。
- 光に不安定なため、遮光して提出して下さい。

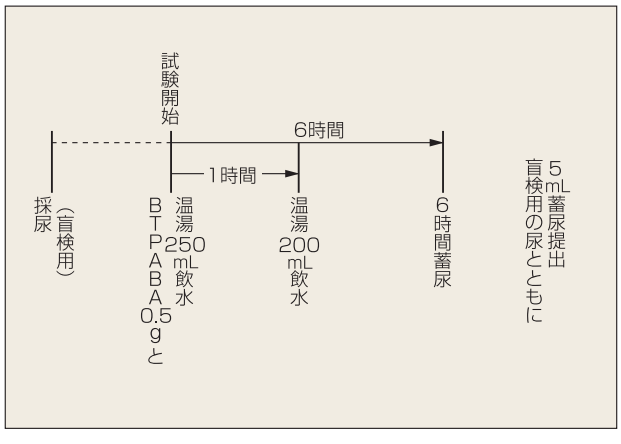


クリアランステスト検体採取方法

PFD

（1）検査開始前に盲検用の尿を採尿する。
（2）BTPABA0.5gを温湯250mLとともに服用させる。
（3）服用１時間後に利尿のため温湯200mLを飲ませる。
（4）検査開始後３時間後は絶食させ、その後は食事を摂らせてもよい。
（5）検査開始後６時間蓄尿する。
（6）蓄尿量を依頼書に記入し、5mLを容器に取り、盲検用の尿とともに提出して下さい。

注意
- 早朝空腹時に開始して下さい。
- 検査前３日間は消化酵素剤、分泌抑制剤、制酸剤などの投与は中止して下さい。



●推算 GFR 参考資料

1) 血清クレアチニン、及び血清シスタチンCを用いた日本人のGFR推算式

男性
$eGFRcreat(mL/分/1.73m^2)=194\times Cr^{-1.094}\times 年齢^{-0.287}$
$eGFRcys(mL/分/1.73m^2)=(104\times Cys\text{-}C^{-1.019}\times 0.996^{年齢})-8$

女性
$eGFRcreat(mL/分/1.73m^2)=194\times Cr^{-1.094}\times 年齢^{-0.287}\times 0.739$
$eGFRcys(mL/分/1.73m^2)=(104\times Cys\text{-}C^{-1.019}\times 0.996^{年齢}\times 0.929)-8$

2) CKDの重症度分類

原疾患		蛋白尿区分		A1	A2	A3
糖尿病		尿アルブミン定量（mg/日） 尿アルブミン/Cr 比（mg/gCr）		正常	微量アルブミン尿	顕性アルブミン尿
				30 未満	30～299	300 以上
高血圧 腎炎 多発性嚢胞腎 移植腎 不明 その他		尿蛋白定量（g/日） 尿蛋白/Cr 比（g/gCr）		正常	軽度蛋白尿	高度蛋白尿
				0.15 未満	0.15～0.49	0.50 以上
GFR区分（mL/分/1.73 m²）	G1	正常または高値	≧90			
	G2	正常または軽度低下	60～89			
	G3a	軽度～中等度低下	45～59			
	G3b	中等度～高度低下	30～44			
	G4	高度低下	15～29			
	G5	末期腎不全（ESKD）	＜15			

重症度は原疾患・GFR区分・蛋白尿区分を合わせたステージにより評価する。CKDの重症度は死亡、末期腎不全、心血管死亡発症のリスクを緑 のステージを基準に、黄 、オレンジ 、赤 の順にステージが上昇するほどリスクは上昇する。
（KDIGO CKD guideline 2012 を日本人用に改変）

内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
下垂体関連検査								
5002 4A010	**成長ホルモン** (GH) 4A010-0000-023-053	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	ECLIA法	M 2.47 以下 F 0.13～9.88 ng/mL	2～4	111 生化Ⅱ	*イ
5468 4A015	**ソマトメジンC** (IGF-1) 4A015-0000-023-053	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ECLIA法	表1参照 ng/mL	2～4	218 生化Ⅱ	*イ

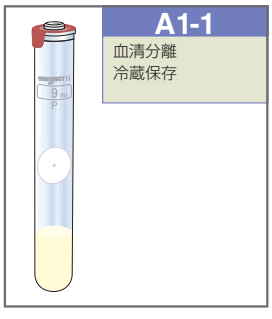
(表1) ソマトメジンC(IGF-1)基準値

《男　性》　(単位：ng/mL)

年齢	−2SD～+2SD	年齢	−2SD～+2SD	年齢	−2SD～+2SD
0	11～149	26	119～329	52	86～242
1	14～148	27	116～322	53	85～240
2	18～154	28	114～315	54	84～239
3	24～164	29	111～309	55	84～238
4	32～176	30	109～303	56	83～237
5	44～193	31	107～297	57	82～236
6	55～215	32	105～292	58	81～235
7	63～247	33	103～287	59	80～233
8	72～292	34	102～283	60	79～232
9	84～350	35	100～279	61	77～230
10	99～423	36	99～275	62	76～228
11	113～499	37	97～272	63	75～226
12	125～557	38	96～269	64	73～224
13	133～579	39	95～266	65	72～221
14	138～570	40	94～263	66	70～219
15	141～552	41	94～261	67	68～216
16	142～543	42	93～259	68	66～213
17	142～540	43	92～257	69	65～209
18	142～526	44	92～255	70	63～206
19	143～501	45	91～253	71	61～202
20	142～470	46	90～250	72	58～198
21	139～436	47	90～250	73	56～194
22	135～405	48	89～248	74	54～190
23	131～379	49	88～246	75	52～185
24	128～356	50	87～245	76	50～181
25	125～337	51	87～243	77	48～177

《女　性》　(単位：ng/mL)

年齢	−2SD～+2SD	年齢	−2SD～+2SD	年齢	−2SD～+2SD
0	15～154	26	146～336	52	78～213
1	23～186	27	141～328	53	77～212
2	32～213	28	137～320	54	76～211
3	40～227	29	133～312	55	75～210
4	48～238	30	129～304	56	74～208
5	56～252	31	126～297	57	73～207
6	69～287	32	122～290	58	72～205
7	89～357	33	119～283	59	71～203
8	111～438	34	115～277	60	70～201
9	133～517	35	112～271	61	69～198
10	155～588	36	109～265	62	68～196
11	175～638	37	106～260	63	66～194
12	188～654	38	103～254	64	65～191
13	193～643	39	100～250	65	64～188
14	193～625	40	98～245	66	62～186
15	192～614	41	95～240	67	61～183
16	192～611	42	93～236	68	60～180
17	191～599	43	90～233	69	59～177
18	188～574	44	88～229	70	57～175
19	182～539	45	87～226	71	56～172
20	175～499	46	85～224	72	55～170
21	168～459	47	83～221	73	54～167
22	161～425	48	82～219	74	53～165
23	155～397	49	81～218	75	52～163
24	151～375	50	80～216	76	50～160
25	147～358	51	79～215	77	49～158

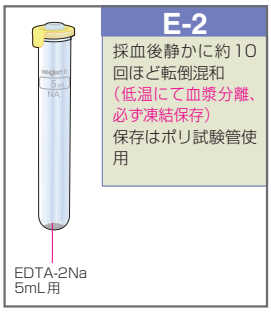


下垂体関連検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
5001 4A055	甲状腺刺激ホルモン (TSH) 4A055-0000-023-051	血清 0.6	A1-1 冷蔵 (21日)	CLIA法	0.390～4.010 μIU/mL	1～2	104 生化Ⅱ	
5003 4A030	黄体形成ホルモン (LH) 4A030-0000-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA法	表2参照 mIU/mL	1～2	111 生化Ⅱ	
5004 4A035	卵胞刺激ホルモン (FSH) 4A035-0000-023-051	血清 0.6	A1-1 冷蔵	CLIA法	表2参照 mIU/mL	1～2	111 生化Ⅱ	
5005 4A025	副腎皮質刺激ホルモン (ACTH) 4A025-0000-022-053	血漿 0.4	E-2 ↓ G 凍結	ECLIA法	(早朝安静時) 7.2～63.3 pg/mL	2～4	194 生化Ⅱ	＊イ
5006 4A020	プロラクチン (PRL) 4A020-0000-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA法	M 3.7～16.3 F 3.5～32.7 ng/mL	1～2	98 生化Ⅱ	
5007 4A070	AVP (アルギニンバゾプレシン) 4A070-0000-022-001	血漿 1.2	E-2 ↓ G 凍結	RIA法	水制限 ：4.0以下 自由飲水：2.8以下 pg/mL	6～10	235 生化Ⅱ	溶血の影響により測定値が変動する可能性があります。 抗利尿ホルモン(ADH) ＊1

(表2) LH・FSH 基準値 (単位：mIU/mL)

	LH	FSH
女性卵胞期	1.2～ 13.3	2.2～ 11.5
排卵期	1.3～ 55.7	2.1～ 18.6
黄体期	0.5～ 16.5	1.1～ 10.6
閉経期	13.3～ 61.6	10.5～142.8
男性	0.1～ 8.7	0.3～ 13.8



E-2
採血後静かに約10回ほど転倒混和
(低温にて血漿分離、必ず凍結保存)
保存はポリ試験管使用

G-1
血清分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

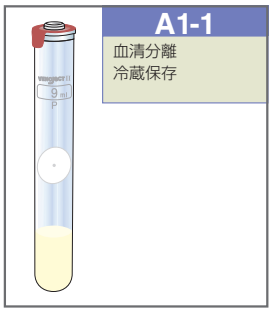
実施料について (内分泌)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

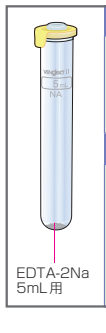
1.	3項目以上5項目以下の場合 内分泌 410点
2.	6項目又は7項目の場合 内分泌 623点
3.	8項目以上の場合 内分泌 900点

内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
甲状腺関連検査								
5010 4B010	トリヨードサイロニン (T3) 4B010-0000-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (21日)	CLIA法	0.76～1.77 ng/mL	1～2	102 生化Ⅱ	
5097 4B015	遊離トリヨードサイロニン (F-T3) 4B015-0000-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (21日)	CLIA法	2.2～4.1 pg/mL	1～2	127 生化Ⅱ	
5011 4B030	サイロキシン (T4) 4B030-0000-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (21日)	CLIA法	4.8～11.2 μg/dL	1～2	111 生化Ⅱ	
5086 4B035	遊離サイロキシン (F-T4) 4B035-0000-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (21日)	CLIA法	0.83～1.71 ng/dL	1～2	127 生化Ⅱ	
5036 4B045	サイロキシン結合グロブリン (TBG) 4B045-0000-023-052	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLEIA法	14～31 μg/mL	4～7	130 生化Ⅱ	＊4
5161 4B040	サイログロブリン (Tg) 4B040-0000-023-053	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ECLIA法	33.7 以下 ng/mL	2～4	133 生化Ⅱ	＊イ
副甲状腺関連検査								
5018 4C035	カルシトニン 4C035-0000-023-053	血清 0.5	A1 ↓ G-1 凍結	ECLIA法	M 5.15以下 F 3.91以下 pg/mL	2～4	137 生化Ⅱ	＊イ
5088 4C025	副甲状腺ホルモン PTH-Intact 4C025-0000-022-053	血漿 0.4	E-1 冷蔵	ECLIA法	10～65 pg/mL	2～4	170 生化Ⅱ	血清(凍結)による検査も可能です。但し、急速凝固管のご使用はお避け下さい。 ＊イ
5746 4C026	副甲状腺ホルモン Whole-PTH 4C026-0000-022-052	血漿 0.5	E-2 ↓ G-1 凍結	CLEIA法	7.2～39.1 pg/mL	2～7		＊ア
5884 4C030	副甲状腺ホルモン関連蛋白 (PTHrP) 4C030-0000-022-006	血漿 0.5	ネ ↓ G-1 凍結	IRMA法	1.1 以下 pmol/L	7～14	194 生化Ⅱ	高カルシウム血症の鑑別並びに悪性腫瘍に伴う高カルシウム血症に対する治療効果の判定のために測定した場合のみ算定する。 ＊4



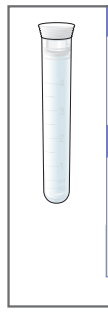
A1-1
血清分離
冷蔵保存



EDTA-2Na
5mL用

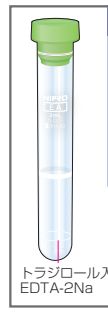
E-1
採血後静かに約10回ほど転倒混和
そのまま冷蔵保存
(凍結不可)

E-2
採血後静かに約10回ほど転倒混和
(低温にて血漿分離、必ず凍結保存)
保存はポリ試験管使用



G-1
血清又は血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

G-5
冷所に24時間蓄尿
尿量測定、混和
必要量を提出
(尿量明記)
(必ず凍結保存)



トラジロール入り
EDTA-2Na

ネ
採血後、静かに
約10回ほど転倒混和
(低温にて血漿分離、必ず凍結保存)
(保存はポリ試験管使用)

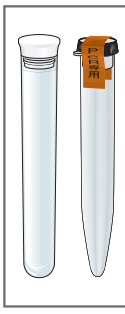
内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
膵・消化管関連検査								
5043 4G010	インスリン (IRI) 4G010-0000-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA法	(空腹時負荷前) 2.2～12.4 μU/mL	2～4	106 生化Ⅱ	溶血血清不可
5046 4G020	C-ペプチド (CPR) 4G020-0000-023-051 4G020-0000-004-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA法	(空腹時負荷前) 0.74～3.48 ng/mL	2～4	111 生化Ⅱ	急速凝固管のご使用はお避け下さい。 血中と尿中を同時測定した場合、血液の点数のみ算定する。
5305 4G020		蓄尿 1.0 ※1	G-5 又は ナ 凍結	CLIA法	15.0～133.0 μg/day	2～4	111 生化Ⅱ	
5908 4G030	グルカゴン (IRG) 4G030-0000-022-001	血漿 0.5	ネ ↓ G 凍結	RIA2抗体法	70～174 pg/mL	5～13	150 生化Ⅱ	＊4
5047 4G040	ガストリン 4G040-0000-023-002	血清 0.5	A1 ↓ G-1 凍結	RIA法	200以下 pg/mL	4～9	104 生化Ⅱ	＊4
副腎髄質関連検査								
5019 4E016	カテコールアミン分画	血漿 1.3	E-2 ↓ G 凍結	HPLC法	安静時 アドレナリン(A) 100以下 ノルアドレナリン(NA) 140～450 ドーパミン(DA) 20以下 pg/mL	3～5	170 生化Ⅱ	
5380 4E016		髄液 2.0	X-5 凍結	HPLC法	pg/mL	3～5	170 生化Ⅱ	
5213 4E016	4E016-0000-022-204 4E016-0000-041-204 4E016-0000-004-204	酸性蓄尿 2.0	I-3 凍結	HPLC法	アドレナリン(A) 3.4～26.9 ノルアドレナリン(NA) 48.6～168.4 ドーパミン(DA) 365.0～961.5 μg/day	3～6	170 生化Ⅱ	＊イ

※1　他項目との重複依頼は避けて下さい。

I-3

6N塩酸20mL（小児5～10mL）を予め入れた容器に24時間蓄尿
尿量測定、混和必要量提出
（必ず凍結保存）
（尿量明記）
市販の塩酸を水で2倍に希釈する（6N塩酸）



X-5

必要量採取
（必ず凍結保存）

ナ

予め専用安定化剤を蓄尿容器に一袋全量（10g/袋 最終濃度約0.5%）を入れて24時間蓄尿を行って下さい。
尿量測定、混和、凍結用容器に「尿CPR安定化剤入り」のラベルを貼り、必要量提出
（凍結保存）（尿量明記）

■特長
1. 予めの安定化剤添加により、常温蓄尿が可能
2. 蓄尿サンプルで他項目の検査依頼は不可

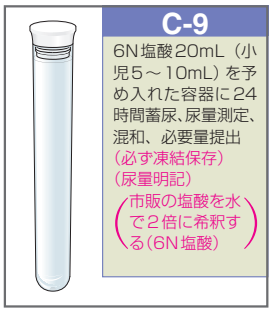
実施料について（内分泌）

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

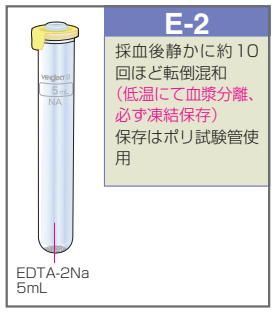
1.	3項目以上5項目以下の場合	内分泌　410点
2.	6項目又は7項目の場合	内分泌　623点
3.	8項目以上の場合	内分泌　900点

内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
副腎髄質関連検査								
5250 4E050	ドーパミン総 4E050-0000-022-204	血漿 1.5	E-2 ↓ G 凍結	HPLC法	1.8～7.7 ng/mL	6～14		＊4
5450 4E045	L-ドーパ 4E045-0000-022-204	血漿 1.5	E-2 ↓ G 凍結	HPLC法	1.2～2.2 ng/mL	6～14		＊4
5356 4E070	5-ハイドロキシインドール酢酸 (5-HIAA)	血漿 1.1	E-2 ↓ G 凍結	HPLC法	3.6～21.5 ng/mL	3～8	95 生化Ⅱ	
5257 4E070		髄液 2.0	X-5 凍結	HPLC法	5.0～34.7 ng/mL	3～8	95 生化Ⅱ	
5022 4E070	4E070-0000-022-204 4E070-0000-041-204 4E070-0000-004-204	酸性蓄尿 3.0	I-3 凍結	HPLC法	1.7～7.2 mg/day	3～8	95 生化Ⅱ	＊イ
5355 4E055	ホモバニリン酸 (HVA)	血漿 1.1	E-2 ↓ G 凍結	HPLC法	7.0～25.0 ng/mL	3～8	69 生化Ⅱ	
5111 4E055		髄液 2.0	X-5 凍結	HPLC法	18.7～41.9 ng/mL	3～8	69 生化Ⅱ	
5021 4E055	4E055-0000-022-204 4E055-0000-041-204 4E055-0000-004-204	酸性蓄尿 3.0	I-3 凍結	HPLC法	1.0～10.3 mg/day	3～8	69 生化Ⅱ	＊イ



C-9
6N塩酸20mL（小児5～10mL）を予め入れた容器に24時間蓄尿、尿量測定、混和、必要量提出
（必ず凍結保存）
（尿量明記）
（市販の塩酸を水で2倍に希釈する（6N塩酸））



E-2
採血後静かに約10回ほど転倒混和
（低温にて血漿分離、必ず凍結保存）
保存はポリ試験管使用

I-3
6N塩酸20mL（小児5～10mL）を予め入れた容器に24時間蓄尿、尿量測定、混和、必要量提出
（必ず凍結保存）
（尿量明記）
（市販の塩酸を水で2倍に希釈する（6N塩酸））

X-5
必要量採取
（必ず凍結保存）

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量（mL）	容器 保存方法（安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
副腎髄質関連検査								
5354 4E060	バニールマンデル酸（VMA） 4E060-0000-022-204 4E060-0000-041-204 4E060-0000-004-204	血漿 1.1	E-2 ➡ G 凍結	HPLC 法	3.3～9.9 ng/mL	3～8	90 生化Ⅱ	＊イ
5095 4E060		髄液 2.0	X-5 凍結	HPLC 法	1 以下 ng/mL	3～8	90 生化Ⅱ	
5020 4E060		酸性蓄尿 3.0	I-3 凍結	HPLC 法	1.1～7.2 mg/day	3～8	90 生化Ⅱ	
5481 4E040	メタネフリン・ノルメタネフリン分画 4E040-0000-004-205	酸性蓄尿 2.0	C-9 凍結	LC/MS/MS 法	メタネフリン（MN）0.04～0.19 ノルメタネフリン（NMN）0.09～0.33 mg/day	4～8	221 生化Ⅱ	※1 ＊4

※1 「メタネフリン」、「メタネフリン・ノルメタネフリン分画」、「ノルメタネフリン」又は「遊離メタネフリン・遊離ノルメタネフリン分画」のうちいずれかを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

実施料について（内分泌）

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

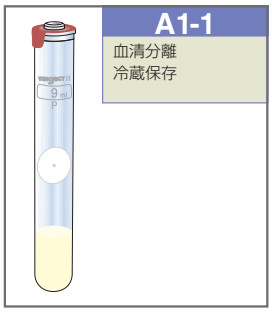
1.	3項目以上5項目以下の場合 内分泌　410点
2.	6項目又は7項目の場合 内分泌　623点
3.	8項目以上の場合 内分泌　900点

内分泌学的検査

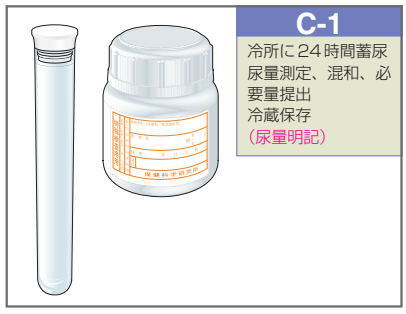
項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
副腎皮質関連検査								
5702 4D018	**17-ケトステロイド分画** (17-KS分画) 4D018-0000-004-203	蓄尿 **12.0**	**C-1** 冷蔵	GC／MS法 (酵素水解法)	表1参照 mg/day	7～10	213 生化Ⅱ	酸性蓄尿は避けて下さい。 ＊4
5030 4D035	**11-ハイドロキシコルチコステロイド** (11-OHCS) 4D035-0000-023-282	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	蛍光法 (De Moor変法)	(午前10時採血) 7.0～23.0 μg/dL	4～9	60 生化Ⅱ	＊4
5028 4D040	**コルチゾール** 4D040-0000-023-051	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵 (7日)	CLIA法	(早朝空腹時) 4.5～21.1 μg/dL	1～2	127 生化Ⅱ	
5470 4D045	**遊離コルチゾール** 4D045-0000-004-005	蓄尿 **5.0**	**C-1** 冷蔵	RIA法	11.2～80.3 μg/day	5～13	127 生化Ⅱ	酸性蓄尿は避けて下さい。 ＊4

(表1)

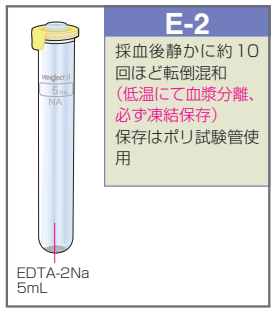
17-ケトステロイド分画基準値 単位: mg/day		男性	女性
11-deoxy 17-KS	アンドロステロン	1.10～4.20	0.40～3.00
	エチオコラノロン	0.55～2.60	0.30～2.50
	デヒドロエピアンドロステロン	0.12～5.20	0.04～2.60
11-oxy 17-KS	11-ケトエチオコラノロン	0.04～0.65	0.03～0.50
	11-ヒドロキシアンドロステロン	0.40～2.30	0.22～1.60
	11-ヒドロキシエチオコラノロン	0.03～0.65	0.02～0.65
	11-ケトアンドロステロン	0.12以下	0.07以下



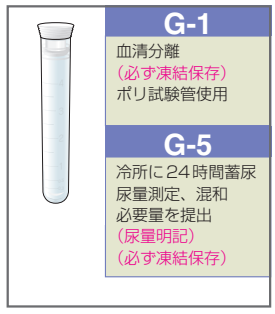
A1-1
血清分離
冷蔵保存



C-1
冷所に24時間蓄尿
尿量測定、混和、必要量提出
冷蔵保存
(尿量明記)



E-2
採血後静かに約10回ほど転倒混和
(低温にて血漿分離、必ず凍結保存)
保存はポリ試験管使用



G-1
血清分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

G-5
冷所に24時間蓄尿
尿量測定、混和
必要量を提出
(尿量明記)
(必ず凍結保存)

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
副腎皮質関連検査								
5369 4D090	デハイドロエピアンドロステロンサルフェート (DHEA-S) 4D090-0000-023-052	血清 0.5	A1 ↓ G-1 凍結	CLEIA法	表2参照	2～4	174 生化Ⅱ	
5024 4D115	アルドステロン 4D115-0000-023-005 4D115-0000-022-005 4D115-0000-004-005	血清 0.3 又は 血漿 0.3	A1-1 冷蔵 又は E-2➡G 凍結 31頁参照	RIA法	随時 35.7～240.0 臥位 29.9～158.8 立位 38.9～306.8 pg/mL	2～4	125 生化Ⅱ	＊ア
5214 4D115		蓄尿 1.5	G-5 凍結	RIA法	10以下 μg/day	4～10	125 生化Ⅱ	＊4
5784 4D120	アルドステロン／レニン活性比 (PAC / PRA比) 4D120-0000-022-919	血漿 0.6 又は 血漿 0.3 血清 0.3 (同時提出)	E-2➡G 凍結 又は E-2➡G 凍結 A1-1 冷蔵 31頁参照	アルドステロン：RIA法 レニン活性　：RIA法	200以下	3～5		「アルドステロン」と「レニン活性」の同時依頼が必要です。(32、36頁参照) ※1 ＊ア
5785 4D122	アルドステロン／レニン定量比 (PAC / PRC比) 4D122-0000-022-919	血漿 0.8 又は 血漿 0.5 血清 0.3 (同時提出)	E-2➡G 凍結 又は E-2➡G 凍結 A1-1 冷蔵 31頁参照	アルドステロン：RIA法 レニン定量　：RIA法	40以下	2～7		「アルドステロン」と「レニン定量」の同時依頼が必要です。(32、36頁参照) ※2 ＊ア

注1　降圧剤(利尿剤)であるスピロノラクトン及びその代謝物による交差反応が検査値に影響を与える可能性があり、当該薬剤投与時には測定の実施を避けて下さい。

※1　アルドステロン / レニン活性比では、「アルドステロン」、「レニン活性」の容器・保存方法及び両項目の検体量を掲載しています。
※2　アルドステロン / レニン定量比では、「アルドステロン」、「レニン定量」の容器・保存方法及び両項目の検体量を掲載しています。

(表2) デハイドロエピアンドロステロンサルフェート(DHEA-S)基準値　(単位：μg/dL)

年齢(歳)	男性	女性
18～20	24～537	51～321
21～30	85～690	18～391
31～40	106～464	23～266
41～50	70～495	19～231
51～60	38～313	8～188
61～70	24～244	12～133
71以上	5～253	7～177

実施料について(内分泌)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

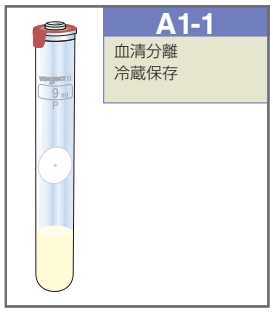
1. 3項目以上5項目以下の場合
内分泌　410点
2. 6項目又は7項目の場合
内分泌　623点
3. 8項目以上の場合
内分泌　900点

内分泌学的検査

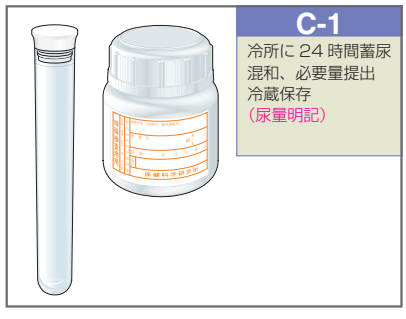
項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
性腺関連検査								
5091 4F025	**エストラジオール** (E_2) 4F025-0000-023-051	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLIA法	表1参照	1～2	177 生化Ⅱ	妊娠の有無、妊娠週数を必ず記載して下さい。
5093 4F030	**エストリオール** (E_3) 4F030-0000-023-002	血清 **1.0**	**A1** ↓ **G-1** 凍結	RIA法		10～17		妊娠の有無、妊娠週数を必ず記載して下さい。
5038 4F045	**プロゲステロン** 4F045-0000-023-051	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLIA法	M 0.9以下 F(非妊婦) 卵胞期 1.2以下 排卵期 0.3～10.4 黄体期 1.4～20.6 閉経期 0.9以下 (妊婦) 1～16週 4.4～49.6 17～28週 11.3～143.1 29～40週 30.4～250.7 ng/mL	1～2	151 生化Ⅱ	妊娠の有無、妊娠週数を必ず記載して下さい。

(表1) エストラジオール・エストリオール基準値

	血清 (単位:pg/mL)	
	E2	E3
男性	39.8以下	5以下
女性(非妊婦)	卵胞期 19.5～144.2 排卵期 63.9～356.7 黄体期 55.8～214.2 閉経後 32.2以下	5以下
女性(妊婦)	1～16週 135～3916 17～28週 1710～15690 29～40週 3720～29280	前期(10～15週) 20～100 中期(16～30週) 100～10000 後期(31～42週) 10000～40000



A1-1
血清分離
冷蔵保存



C-1
冷所に24時間蓄尿
混和、必要量提出
冷蔵保存
(尿量明記)

G-1
血清分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量(mL)	容器 保存方法(安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
性腺関連検査								
5037 4F055	プレグナンジオール (P2) 4F055-0000-004-203	蓄尿 12.0	C-1 冷蔵	GC／MS法 (酵素水解法)	M 0.16～0.79 F (卵胞期) 0.28～1.42 (黄体期) 0.79～6.83 (妊娠前期) 1.29～6.08 (妊娠中期) 3.05～24.22 (妊娠後期) 9.10～60.51 mg/day	7～10	213 生化Ⅱ	妊娠の有無、妊娠週数を必ず記載して下さい。 ＊4
5009 4F060	プレグナントリオール (P3) 4F060-0000-004-203	蓄尿 12.0	C-1 冷蔵	GC／MS法 (酵素水解法)	M 0.13～1.60 F (卵胞期) 0.13～1.30 (分泌期) 0.13～1.90 (閉経期) 0.02～0.83 mg/day	7～10	234 生化Ⅱ	妊娠の有無、妊娠週数を必ず記載して下さい。 ＊4
5039 4F065	テストステロン 4F065-0000-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵 (4日)	CLIA法	M 236～1037 F 67以下 ng/dL	1～2	125 生化Ⅱ	
5915 4F070	遊離テストステロン 4F070-0000-023-021	血清 0.2	A1 ↓ G-1 凍結	EIA法	表2参照 pg/mL	3～5	163 生化Ⅱ	＊ア
5048 4F100	抗ミュラー管ホルモン (AMH) 4F100-0000-023-052	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLEIA法	表3参照 ng/mL	2～4		

(表2) 遊離テストステロン基準値

(単位：pg/mL)

年齢	男性	女性
20～29	8.8～31.7	1.5～4.9
30～39	7.3～28.9	0.8～4.1
40～49	6.2～24.9	0.5～4.0
50～59	6.1～25.0	
60～80	5.8～18.2	

(表3) 抗ミュラー管ホルモンの参考基準値
AMH測定値の年齢別分布

年齢(歳)	n	中央値(ng/mL)	95%信頼区間(参考基準値)(ng/mL)
≦27	558	4.69	0.76 ～ 14.18
28	387	4.27	0.84 ～ 12.44
29	555	4.14	0.86 ～ 11.97
30	663	4.02	0.79 ～ 12.74
31	865	3.85	0.44 ～ 13.08
32	872	3.54	0.62 ～ 13.87
33	959	3.32	0.40 ～ 12.76
34	1,064	3.14	0.38 ～ 11.16
35	1,191	2.62	0.37 ～ 10.18
36	1,122	2.50	0.33 ～ 9.93
37	1,154	2.27	0.24 ～ 8.50
38	1,230	1.90	0.11 ～ 7.81
39	1,176	1.80	0.13 ～ 7.45
40	1,057	1.47	0.08 ～ 6.13
41	888	1.30	0.06 ～ 5.52
42	715	1.00	0.05 ～ 5.81
43	509	0.72	0.03 ～ 4.49
44	309	0.66	0.03 ～ 3.98
45	144	0.41	0.03 ～ 3.43
46≦	127	0.30	0.02 ～ 1.67
全群	15,545	2.36	0.12 ～ 10.67

※JISART(日本生殖補助医療標準化機関)の各施設に通院する不妊症患者で本品を用いて測定した16,526例のうち、多嚢胞性卵巣(PCO)(939例)および早発卵巣不全(POI)(42例)と診断された症例を除外した後の、女性15,545例のAMH測定値の年齢別分布(中央値)をノンパラメトリック法により求めました。(JISART多施設共同研究での国内検討データ)

【判定上の留意事項】
日本産科婦人科学会　生殖・内分泌委員会　生殖医療リスクマネージメント小委員会の報告では、AMH測定に際して留意すべき事項として次の4項目が挙げられています。
①AMHは卵子の質とは関連しない。
②AMHの測定値は個人差が大きく、若年女性でも低い場合や高齢女性でも高い場合があり、測定値からいわゆる「卵巣年齢」の推定はできない。
③測定値と妊娠する可能性とは直接的な関連はなく、測定値から「妊娠できる可能性」を判定するのは不適切と考えられる。
④測定値が低い場合でも「閉経が早い」という断定はできない。

実施料について(内分泌)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

1.	3項目以上5項目以下の場合 内分泌　410点
2.	6項目又は7項目の場合 内分泌　623点
3.	8項目以上の場合 内分泌　900点

内分泌学的検査

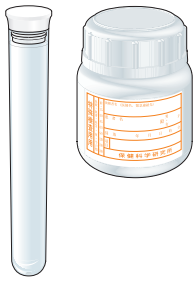
項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
胎盤機能検査								
6021 4F080	ヒト絨毛性ゴナドトロピン定性 (HCG) 4F080-0000-001-190	尿 5.0	C-3 冷蔵	金コロイド免疫クロマト法	(−)	1〜2	55 生化Ⅱ	※1
5040 4F080	ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量 (HCG) 4F080-0000-023-053 4F080-0000-001-053	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ECLIA法	表1参照 mIU/mL	1〜2	138 生化Ⅱ	妊娠の有無、妊娠週数を必ず記載して下さい。 ※1
5258 4F080		尿 1.0	C-3 冷蔵	ECLIA法	3.0 以下 mIU/mL	1〜2	138 生化Ⅱ	
5079 4F090	ヒト絨毛性ゴナドトロピン-β-サブユニット (HCG-β) 4F090-0000-023-006 4F090-0000-001-006	血清 0.3	A1-1 冷蔵	RIA法	0.1 以下 ng/mL	2〜7	136 生化Ⅱ	妊娠の有無、妊娠週数を必ず記載して下さい。 HCG産生腫瘍患者の場合算定 ※1 ＊ア
5301 4F090		尿 0.3	C-3 冷蔵	RIA法	0.1 以下 ng/mL	2〜7	136 生化Ⅱ	

※1　ヒト絨毛性ゴナドトロピン-βサブユニット(HCG-β)、ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定性又は、ヒト絨毛性ゴナドトロピン(HCG)定量を併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

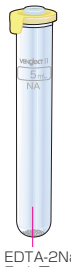
(表1) ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量 (HCG)《血清》基準値
(単位：mIU/mL)

男性		0.5 以下
女性	閉経前非妊婦	4.9 以下
	閉経後非妊婦	8.1 以下
	妊婦	
	3週	5.4 〜 72.0
	4週	10.2 〜 708
	5週	217 〜 8254
	6週	152 〜 32177
	7週	4059 〜 153767
	8週	31366 〜 149094
	9週	59109 〜 135901
	10週	44186 〜 170409
	12週	27107 〜 201615
	14週	24302 〜 93646
	15週	12540 〜 69747
	16週	8904 〜 55332
	17週	8240 〜 51793
	18週	9649 〜 55271

A1-1
血清分離
冷蔵保存



C-3
蓄尿又は部分尿
必要量提出、冷蔵保存
(尿量記載の必要なし)



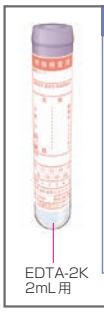
EDTA-2Na
5mL用

E-2
採血後静かに約10回ほど転倒混和
(低温にて血漿分離、必ず凍結保存)
保存はポリ試験管使用

E-5
採血後静かに約10回ほど転倒混和
低温にて180G
20分間遠心
多血小板血漿を分取し
(必ず凍結保存)
保存はポリ試験管使用
遠心機回転数については巻末「容器一覧」参照

G-7
トルエン1〜2mLを加え冷所に24時間蓄尿
尿量測定、混和
必要量を提出
(尿量明記)
(必ず凍結保存)

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
その他								
5157 4Z255	サイクリックAMP (c-AMP) 4Z255-0000-022-004 4Z255-0000-004-004	血漿 **0.3**	E-2 ⬇ G 凍結	RIA法	11～21 pmol/mL	4～12	175 生化Ⅱ	＊4
5297 4Z255		蓄尿 **1.0**	G-7 凍結	RIA法	1.8～6.3 μmol/day	6～10	175 生化Ⅱ	
5023 4E065	セロトニン 4E065-0000-019-204 4E065-0000-022-204	全血 **2.0**	S 凍結	LC-MS/MS法	52.8～200 ng/mL	4～12		＊1
5320 4E065		多血小板 血漿 **0.6**	E-5 ⬇ G 凍結	LC-MS/MS法	623 以下 ng/mL	4～12		
5026 4Z025	アンギオテンシンⅠ 4Z025-0000-022-001	血漿 **0.2**	E-2 ⬇ G 凍結	RIA法	110 以下 pg/mL	6～10		＊4
5027 4Z030	アンギオテンシンⅡ 4Z030-0000-022-001	血漿 **0.3**	E-2 ⬇ G 凍結	RIA法	22 以下 pg/mL	6～10		
5025 4Z010	レニン活性 (PRA) 4Z010-0000-022-001	血漿 **0.3**	E-2 ⬇ G 凍結	RIA法	臥位 0.3～2.9 立位 0.3～5.4 ng/mL/h	3～6	100 生化Ⅱ	同時算定不可 ＊ア
5367 4Z020	レニン定量 (PRC) 4Z020-0000-022-006	血漿 **0.5**	E-2 ⬇ G 凍結	RIA法	臥位 2.4 ～ 21.9 座位 3.1 ～ 37.2 立位 3.5 ～ 65.6 pg/mL	2～7	108 生化Ⅱ	



S

採血後静かに
約10回ほど
転倒混和
そのまま
(必ず凍結保存)
ガラス管の場合は
ポリ試験管に移して
凍結

他の項目との同時依頼はできません。

実施料について(内分泌)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

1.	3項目以上5項目以下の場合 内分泌 410点
2.	6項目又は7項目の場合 内分泌 623点
3.	8項目以上の場合 内分泌 900点

内分泌学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
その他								
5042 4Z275	**エリスロポエチン** 4Z275-0000-023-052	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA法	4.2～23.7 mIU/mL	2～4	209 生化Ⅱ	※1
5451 4Z280	**オステオカルシン** (BGP) 4Z280-0000-023-023	血清 **0.3**	**A1** ↓ **G-1** 凍結	FEIA法	8.3～32.7 ng/mL	4～8	161 生化Ⅱ	※2、※3 ＊1
4704 4Z282	**低カルボキシル化オステオカルシン** (ucOC) 4Z282-0000-023-053	血清 **0.3**	**A1** ↓ **G-1** 凍結	ECLIA法	4.50 未満 ※4 ng/mL	4～8	158 生化Ⅱ	※5 溶血血清は低値を示す場合があります。 ＊F

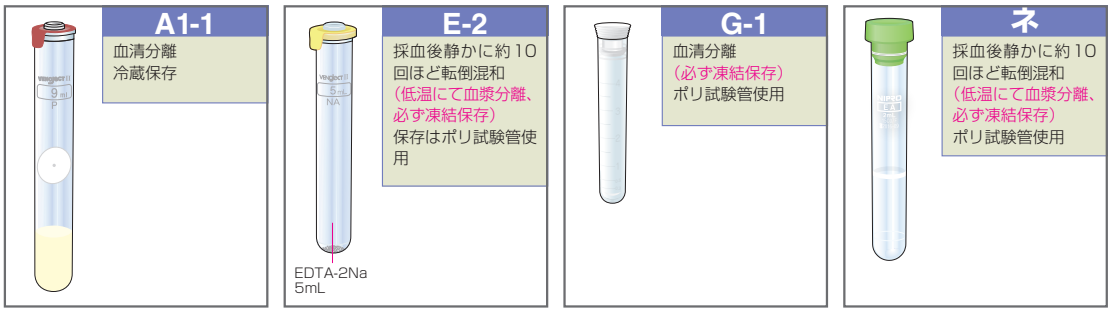
※1　以下のいずれかの目的で行った場合に算定する。
ア)赤血球増加症の鑑別診断
イ)重度の慢性腎不全患者又はエリスロポエチン、ダルベポエチン、エポエチンベータペゴル若しくはHIF-PH阻害薬投与前の透析患者における腎性貧血の診断
ウ)骨髄異形成症候群に伴う貧血の治療方針の決定

※2　続発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定及び原発性又は続発性の副甲状腺機能亢進症による副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術後の治療効果判定に際して実施した場合のみ算定できる。

※3　NTX、デオキシピリジノリン(尿)、TRACP-5bを併せて実施した場合は、いずれか1つのみ算定する。

※4　骨粗鬆症患者におけるビタミンK不足状態判定のカットオフ値です。

※5　低カルボキシル化オステオカルシン(ucOC)は、骨粗鬆症におけるビタミンK_2剤の治療選択目的で行った場合、又は治療経過観察を行った場合に算定できる。但し、治療開始前においては1回、その後は6月以内に1回に限り算定できる。



項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量(mL)	容器 保存方法(安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
心臓関連検査								
5063 4Z270	HANP (ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド) 4Z270-0000-022-052	血漿 0.4	ネ→G 凍結	CLEIA法	43.0 以下 pg/mL	2～4	227 生化Ⅱ	※2 ＊ア
5570 4Z271	BNP (ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド) 4Z271-0000-022-051	血漿 0.4	E-2→G 凍結	CLIA法	18.4 以下 pg/mL	2～4	136 生化Ⅱ	※2、※3、※4
5777 4Z272	NT-proBNP (ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント) 4Z272-0000-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA法	125 以下 ※1 pg/mL	2～4	136 生化Ⅱ	

※1　基準値はメーカー設定による基準値(心不全除外のカットオフ値)です。
※2　BNP、NT-proBNP及びHANPのうち2項目以上をいずれかの検査を行った日から起算して1週間以内に併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。
※3　心不全の診断又は病態把握のために実施した場合に月1回に限り算定する。
※4　BNP、NT-proBNP及びHANPのうち2項目以上を実施した場合は、各々の検査の実施日を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

実施料について(内分泌)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

1.	3項目以上5項目以下の場合 内分泌　410点
2.	6項目又は7項目の場合 内分泌　623点
3.	8項目以上の場合 内分泌　900点

内分泌負荷試験

内分泌負荷試験

負荷試験名	測定ホルモン	内容	保険点数
下垂体前葉負荷試験	成長ホルモン(GH)	インスリン負荷、 アルギニン負荷、 L-DOPA負荷 クロニジン負荷、 グルカゴン負荷、 プロプラノロール負荷 ブロモクリプチン負荷、 睡眠負荷など	1200 (一連として) ※
	黄体形成ホルモン(LH)及び 卵胞刺激ホルモン(FSH)	LH-RH負荷、クロミフェン負荷など	1600 (一連として月一回)
	甲状腺刺激ホルモン(TSH)	TRH負荷など	1200 (一連として月一回)
	プロラクチン(PRL)	TRH負荷、ブロモクリプチン負荷など	1200 (一連として月一回)
	副腎皮質刺激ホルモン(ACTH)	インスリン負荷、メトピロン負荷、デキサメサゾン負荷、CRH負荷など	1200 (一連として月一回)
下垂体後葉負荷試験	アルギニンバゾプレッシン(AVP) (抗利尿ホルモン)(ADH)	水制限、高張食塩水負荷(カーター・ロビンステスト)など	1200 (一連として月一回)
甲状腺負荷試験	T_3、T_4、FT_3、FT_4	T_3抑制など	1200 (一連として月一回)
副甲状腺負荷試験	PTH	カルシウム負荷、PTH負荷(エルスワース・ハワードテスト) EDTA負荷など	1200 (一連として月一回)
副腎皮質負荷試験	鉱質コルチコイド(レニン、レニン活性、 アルドステロン)	フロセマイド負荷、アンギオテンシン負荷など	1200 (一連として月一回)
	糖質コルチコイド(コルチゾール、 DHEA-S)	ACTH負荷、デキサメサゾン負荷、メトピロン負荷など	1200 (一連として月一回)
性腺負荷試験	テストステロン	HCG負荷など	1200 (一連として月一回)
	エストラジオール(E_2)	HMG負荷など	

※患者１人につき月２回に限り算定する。

保険点数について

●１月に3600点を限度として算定する。

●負荷試験に伴って行った注射(手技料)、採血及び検体測定の費用(点数)は、採血回数及び測定回数に係らず、所定点数に含まれるものとする。

糖負荷試験

負荷試験名	測定項目・内容	保険点数
常用負荷試験	血糖（尿糖検査を含む）	200 ※
耐糖能精密検査 グルカゴン負荷試験	常用負荷試験及び血中インスリン測定又は常用負荷試験及び血中C-ペプチド（CPR）を測定した場合	900 ※

※注射（手技料）、採血及び検体測定の費用（点数）は、採血回数に係らず所定点数に含まれるものとする。

75g経口ブドウ糖負荷試験（75gOGTT）実施上の注意

検査手順

1. 朝まで10時間以上絶食の後、空腹のままで来院させる。この検査を午前9時頃に開始することが望ましい。
2. 空腹のまま採血注1）し血糖値を測定する。次にブドウ糖（無水ブドウ糖末75gを水に溶かしたもの、又はでんぷん分解産物の相当量、例えばトレーランG）を飲用させる。
3. ブドウ糖負荷後30分、1時間注2）と2時間に採血し血糖値を測定する。
4. 判定基準に従い、糖尿病型、正常型、境界型のいずれかに判定する。
5. 検査終了まで喫煙、運動は控える。又、上部消化管造影X線検査や内視鏡検査後に本試験を行わない。

注1）75gOGTT前後のインスリン反応を測定する場合には、負荷前及び負荷後30分にインスリン測定用のサンプルを採血する。
注2）75gOGTTで、30分、60分の血糖値は糖尿病の診断には必要ないが、境界型を正確に判定し糖尿病高リスク群を見出すために役立つ。

糖尿病の診断方法および診断基準

型の判定（1時点での高血糖の存在確認）

①早朝空腹時血糖値126mg/dL以上
②75gOGTTで2時間値200mg/dL以上
③随時血糖値200mg/dL以上
④HbA1cが6.5%以上

①～④のいずれかが確認された場合は「**糖尿病型**」と判定する。

⑤早朝空腹時血糖値110mg/dL未満
⑥75gOGTTで2時間値140mg/dL未満

⑤および⑥の血糖値が確認された場合には「**正常型**」と判定する。

●上記の「糖尿病型」「正常型」いずれにも属さない場合は「**境界型**」と判定する。

空腹時血糖値注1）および75gOGTTによる判定区分と判定基準

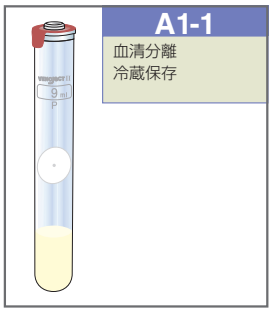
	血糖測定時間			判定区分
	空腹時		負荷後2時間	
血糖値（静脈血漿値）	126mg/dL以上	◀ または ▶	200mg/dL以上	糖尿病型
	糖尿病型にも正常型にも属さないもの			境界型
	110mg/dL未満	◀ および ▶	140mg/dL未満	正常型注2）

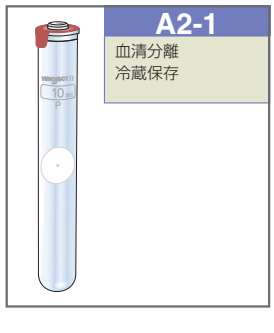
注1）血糖値は、とくに記載のない場合には静脈血漿値を示す。
注2）正常型であっても1時間値が180mg/dL以上の場合は180mg/dL未満のものに比べて糖尿病に悪化する危険が高いので、境界型に準じた取り扱い（経過観察など）が必要である。また、空腹時血糖値が100～109mg/dLは正常域ではあるが、「正常高値」とする。この集団は糖尿病への移行やOGTT時の耐糖能障害の程度からみて多様な集団であるため、OGTTを行うことが勧められる。

日本糖尿病学会糖尿病診断基準に関する調査検討委員会：糖尿病の分類と診断基準に関する委員会報告（国際標準化対応版）．糖尿病55：499，2012より一部改変

腫瘍マーカー

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
胎児性蛋白								
4009 5D015	α-フェトプロテイン (AFP) 5D015-0000-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA法	10.0 以下 ng/mL	1～2	104 生化Ⅱ	
4587 5D018	α-フェトプロテイン レクチン分画 (AFP-L3%) 5D018-0000-023-024	血清 0.4	A1-1 冷蔵	LBA (LBA-EATA)法	L3分画 10.0 未満 %	2～5	190 生化Ⅱ	*イ
4010 5D010	CEA (癌胎児性抗原) 5D010-0000-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA法	5.0 以下 ng/mL	1～2	102 生化Ⅱ	DUPAN-2と同時算定不可
4330 5D025	BFP (塩基性フェトプロテイン) 5D025-0000-023-023	血清 0.2	A2-1 冷蔵	EIA法	75 未満 ng/mL	2～7	150 生化Ⅱ	採血後2時間以内に血清分離して下さい。 溶血不可 分離剤入りの容器での採血不可 *ア
糖鎖抗原								
4332 5D200	NCC-ST-439 5D200-0000-023-023	血清 0.2	A1-1 冷蔵	EIA法	M 4.5 未満 F (49才以下) 7.0 未満 (50才以上) 4.5 未満 U/mL	2～5	118 生化Ⅱ	*ア
4365 5D170	DUPAN-2 5D170-0000-023-023	血清 0.2	A1-1 冷蔵	EIA法	150 以下 U/mL	2～5	118 生化Ⅱ	癌胎児性抗原(CEA)と同時算定不可 *ア
4103 5D130	CA19-9 5D130-0000-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA法	37.0 以下 U/mL	1～2	127 生化Ⅱ	
4049 5D120	CA15-3 5D120-0000-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA法	27.0 以下 U/mL	1～2	118 生化Ⅱ	CSLEXと同時算定不可
4106 5D100	CA125 5D100-0000-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA法	35.0 以下 U/mL	1～2	144 生化Ⅱ	





項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量(mL)	容器 保存方法(安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
糖鎖抗原								
4331 5D110	ヒト精巣上体蛋白4 (HE4) 5D110-0000-023-051-01	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLIA法	閉経前：70.0 以下 閉経後：140.0 以下 pmol/L	2～7	200 生化Ⅱ	
(4828)	ROMA (卵巣悪性腫瘍推定値)	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	計算法	閉経前：7.4 未満 閉経後：25.3 未満 %	2～7		※1、2
4394 5D125	BCA225 5D125-0000-023-052	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA法	160.0 未満 U/mL	2～4	162 生化Ⅱ	＊イ
4359 5D175	SLX (シアリルLe^{x}-i抗原) 5D175-0000-023-006	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	RIA法	38 以下 U/mL	3～6	148 生化Ⅱ	溶血不可 ＊ア
4765 5D177	CSLEX (シアリルLe^{x}抗原) 5D177-0000-023-023	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	EIA法	8.0 未満 U/mL	4～9	164 生化Ⅱ	診療及び他の検査の結果から乳癌の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に算定する。 CA15-3と同時算定不可 ＊4
4447 5D153	シアリルTn抗原 (STN) 5D153-0000-023-005	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	RIA固相法	45 以下 U/mL	4～7	146 生化Ⅱ	＊4
4033 5D150	CA72-4 5D150-0000-023-053	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ECLIA法	6.9 以下 U/mL	2～4	146 生化Ⅱ	＊イ
4034 5D220	SPan-1 5D220-0000-023-006	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	RIA法	30 以下 U/mL	2～5	146 生化Ⅱ	＊ア

注1　フケ、毛髪、皮膚(表皮)、爪等の混入により異常高値を示す場合がありますので、検体の取り扱いには十分ご注意下さい。
※1　閉経前・後で計算式、基準値が異なるため、閉経前・後両方の結果値を報告いたします。
※2　ROMAは、HE4とCA125（専用試薬)の測定結果から計算で算出します。なお、HE4、および、CA125（ROMA用)を併せて報告いたします。

青色で表記された腫瘍マーカー検査の保険点数の算定及び悪性腫瘍特異物質治療管理料の算定については、47～48頁をご参照下さい。

腫瘍マーカー

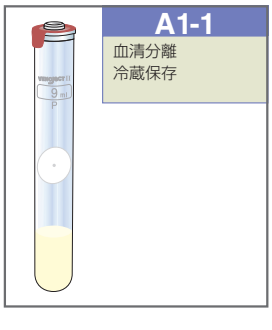
項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
腫瘍関連抗原								
4388 5D325	**シフラ** (CYFRA21-1) (サイトケラチン 19 フラグメント) 5D325-0000-023-053	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ECLIA法	3.5 以下 ng/mL	2～4	162 生化Ⅱ	※1 ＊イ
4050 5D300	**扁平上皮癌関連抗原** (SCC 抗原) 5D300-0000-023-051	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLIA法	2.0 以下 ng/mL	1～2	107 生化Ⅱ	注1
4027 3B195	**エラスターゼ 1** 3B195-0000-023-062	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	300 以下 ng/dL	2～4	126 生化Ⅱ	
4088 5D305	**PSA** (前立腺特異抗原) 5D305-0000-023-051	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	4.00 以下 ng/mL	1～2	127 生化Ⅱ	※2
4397 5D305	**高感度 PSA タンデム** 5D305-0000-023-052	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	4.00 以下 ng/mL	1～2		
4446 5D306	**PSA-ACT** 5D306-0000-023-051	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLIA 法	3.40 以下 ng/mL	2～4		
4781 5D308	**高感度 PSA タンデム F/T 比** 5D308-0000-023-052	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA 法	F/T 比：25 % 総 PSA：4.00 以下 ng/mL	1～2	154 生化Ⅱ	※3

注1　フケ、毛髪、皮膚(表皮)、爪等の混入により異常高値を示す場合がありますので、検体の取り扱いには十分ご注意下さい。

※1　悪性腫瘍であることが既に確定診断された患者については、小細胞癌を除く肺癌の場合に限り、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定できる。

※2　前立腺特異抗原(PSA)は、診察、腫瘍マーカー以外の検査、画像診断等の結果から、前立腺癌の患者であることを強く疑われる者に対して検査を行った場合に、前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に原則として、1回を限度として算定する。但し、前立腺特異抗原(PSA)の検査結果が4.0ng/mL以上であって前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、3月に1回に限り、3回を上限として算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

※3　PSA F/T比のカットオフ値25%は、高感度PSAタンデムのグレーゾーン(4.01～10.0ng/mL)における前立腺癌と前立腺肥大症の判別に用いるカットオフ値です。
25%以下　低値になる程、前立腺癌の確率が高くなります。
25%超　　高値になる程、良性前立腺疾患の確率が高くなります。



A1-1
血清分離
冷蔵保存

G-1
血清分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量(mL)	容器 保存方法(安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
腫瘍関連抗原								
4043 5D310	γ-Sm (γ-セミノプロテイン) 5D310-0000-023-052	血清 0.4	A1 ↓ G-1 凍結	CLEIA 法	4.00 以下 ng/mL	4～8	194 生化Ⅱ	＊1
4429 5D550	Pro GRP (ガストリン放出ペプチド前駆体) 5D550-0000-023-053	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ECLIA 法	81.0 未満 pg/mL	2～4	175 生化Ⅱ	同時算定不可 溶血不可 赤血球や血小板中にあるNSEが影響を与える恐れがありますので、採血後、血清分離は1時間以内に実施して下さい。 ＊イ
4048 5D410	NSE (神経特異エノラーゼ) 5D410-0000-023-053	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ECLIA 法	16.3 以下 ng/mL	2～4	146 生化Ⅱ	＊イ
4246 5C025	α_1-酸性糖蛋白 (α_1-AGP) 5C025-0000-023-063	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ネフェロメトリー法	M 45～98 F 39～86 mg/dL	4～7		＊4
4104 5D320	TPA (組織ポリペプチド抗原) 5D320-0000-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	75 未満 U/L	3～5	110 生化Ⅱ	＊ア
4357 5D520	PIVKA Ⅱ 定量 5D520-0000-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA 法	40 未満 mAU/mL	2～4	139 生化Ⅱ	急速凝固管のご使用はお避け下さい。

青色で表記された腫瘍マーカー検査の保険点数の算定及び悪性腫瘍特異物質治療管理料の算定については、47～48頁をご参照下さい。

腫瘍マーカー

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
腫瘍関連抗原								
4110 5C124	Ⅰ CTP (Ⅰ型コラーゲン C テロペプチド) 5C124-0000-023-001	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	RIA 法	5.5 未満 ng/mL	3～8	※1	※2 *ア
4012 3B222	TRACP-5b 定量 (酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ) 3B222-0000-023-023	血清 **0.4**	**A1** ↓ **G-1** 凍結	EIA 法	表1参照 mU/dL	2～4	156 生化Ⅱ	※2、※3 *ア
4540 5C123	NTx (Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド) (血清) 5C123-0000-023-021	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵 注1	EIA 法	表2参照 nmol BCE/L	3～5	156 生化Ⅱ	※2、※4 *ア
(4903) 5C123	NTx (Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド) 5C123-0000-001-021	尿 **3.0** (午前第2尿)	**C-2** 冷蔵	EIA 法	表3参照 nmol BCE/mmol CRE	2～5		*ア
(5907) 5C146	デオキシピリジノリン (DPD) 5C146-0000-001-021	尿 **3.0** (午前第2尿)	**C-2** 冷蔵	EIA 法	M 2.1～5.4 F 2.8～7.6 骨粗鬆症薬剤治療の指標 骨折リスクカットオフ値 7.6 骨量低下カットオフ値 5.9 骨代謝回転の低下 2.8未満 nM/mMCr	2～5	191 生化Ⅱ	※2、※4 *ア

注1　NTx値は夜間に高く午後に低値を示すことが報告されています。治療効果のモニター等、同一患者での比較を行う場合には第1回目と同時刻に採取して下さい。

※1　悪性腫瘍特異物質治療管理料としてのみ保険請求が認められます。

※2　乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」を算定する。

※3　代謝性骨疾患及び骨転移(代謝性骨疾患や骨折の併発がない肺癌、乳癌、前立腺癌に限る)の診断補助として実施した場合に1回、その後6月以内の治療経過観察時の補助的指標として実施した場合に1回に限り算定できる。又、治療方針を変更した際には変更後6月以内に1回に限り算定できる。本検査をNTx、オステオカルシン、又はデオキシピリジノリン(尿)を併せて実施した場合は、いずれか1つのみ算定する。

※4　原発性副甲状腺機能亢進症の手術適応の決定、副甲状腺機能亢進症手術後の治療効果判定又は骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択に際して実施された場合に算定する。なお、骨粗鬆症の薬剤治療方針の選択時に1回、その後6月以内の薬剤効果判定時に1回に限り、又、薬剤治療方針を変更したときは変更後6月以内に1回に限り算定できる。TRACP - 5bとNTx、オステオカルシン又はデオキシピリジノリン(尿)を併せて実施した場合は、いずれか一つのみ算定する。

(表1) TRACP-5b定量基準値　単位：mU/dL

男性	170～590
女性(YAM)	120～420

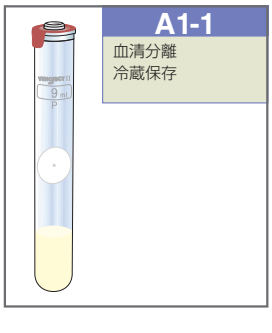
YAM：若年成人平均値
女性の基準値は、健常閉経前女性(30～44歳)が相当します。
なお、閉経後女性にも適用されます。

(表2) NTx《血清》基準値・判定基準　単位：nmol BCE/L

男性		9.5～17.7
女性(閉経前)		7.5～16.5
女性(閉経後)		10.7～24.0
骨粗鬆症薬剤治療の指標	骨折リスク　カットオフ値	16.5
	骨量低下　カットオフ値	13.6

(表3) NTx《尿》基準値・判定基準　単位：nmol BCE/mmol CRE

男性		13.0～66.2
女性(閉経前)		9.3～54.3
女性(閉経後)		14.3～89.0
骨吸収亢進の指標		55以上
副甲状腺摘出術の適応		200以上
悪性腫瘍の骨転移の指標		100以上
骨粗鬆症薬剤治療の指標	骨折リスク　カットオフ値	54.3
	骨量低下　カットオフ値	35.3



A1-1
血清分離
冷蔵保存

C-2
午前第2尿
冷蔵保存
(尿量記載の必要なし)

G-1
血清分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量（mL）	容器 保存方法（安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
腫瘍関連抗原								
4764 5D570	尿中NMP22定量 5D570-0000-001-023	尿 **5.0**	フ 冷蔵	ELISA法	12.0 未満 U/mL	4～7	147 生化Ⅱ	※1 核マトリックスプロテイン22定量 ＊4
4702 5D560	抗p53抗体 5D560-0000-023-052	血清 **0.3**	A1-1 冷蔵	CLEIA法	1.30 以下 U/mL	3～5	163 生化Ⅱ	※2 ＊イ
4379 5J095	インターロイキン2受容体 (IL-2R) 5J095-0000-023-052	血清 **0.4**	A1-1 冷蔵	CLEIA法	135～483 U/mL	2～4	438 生化Ⅱ	※3 ＊ア

※1　尿沈渣顕微鏡検査により赤血球が認められ、尿路上皮癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。なお、尿中NMP22定量については、尿路上皮癌の診断が確定した後に行った場合であっても、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料は算定できない。

※2　食道癌、大腸癌又は乳癌が強く疑われる患者に対して行った場合に月1回に限り算定できる。

※3　非ホジキンリンパ腫、ATL又はメトトレキサート使用中のリンパ増殖性疾患の診断の目的で測定した場合に算定できる。又、非ホジキンリンパ腫又はATLであることが既に確定診断された患者に対して、経過観察のために測定した場合は、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」により算定する。

フ

1. 自然排出の随時尿を用い、カテーテルによる採取は行わないで下さい。尿採取にあたりガラス製及び金属製の容器は使用しないで下さい。
2. 膀胱鏡検査実施後、又はカテーテル施行後、5日以内の尿は用いないで下さい。
3. 肉眼的血尿検体は正誤差を生じますので、使用しないで下さい。
4. 採取した尿をすみやかに遠心し、その上清を専用容器に移し混和して下さい。（冷蔵保存）

青色で表記された腫瘍マーカー検査の保険点数の算定及び悪性腫瘍特異物質治療管理料の算定については、47～48頁をご参照下さい。

腫瘍マーカー

腫瘍マーカー検査の保険点数の算定について（留意事項）

検体検査実施料

（１） 腫瘍マーカーは、悪性腫瘍の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に、悪性腫瘍の診断の確定又は転帰の決定までの間に1回を限度として算定する。悪性腫瘍の診断が確定し、計画的な治療管理を開始した場合、当該治療管理中に行った腫瘍マーカーの検査の費用は特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料に含まれ、腫瘍マーカーは原則として、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料と同一月に併せて算定できない。但し、悪性腫瘍の診断が確定した場合であっても、次に掲げる場合においては、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料とは別に腫瘍マーカーの検査料を算定できる。

ア　急性及び慢性膵炎の診断及び経過観察のためにエラスターゼ1を行った場合

イ　肝硬変、HBs抗原陽性の慢性肝炎又はHCV抗体陽性の慢性肝炎の患者について、α-フェトプロテイン（AFP）又はPIVKA-Ⅱ半定量又は定量を行った場合（月1回に限る。）

ウ　子宮内膜症の診断又は治療効果判定を目的としてCA125を行った場合（診断又は治療前及び治療後の各1回に限る。）

エ　家族性大腸腺腫症の患者に対して癌胎児性抗原（CEA）を行った場合

（２） 尿中BTAは、膀胱癌であると既に確定診断がされた患者に対して、膀胱癌再発の診断のために行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料の「イ」を算定する。

（３） 前立腺特異抗原（PSA）は、診察、腫瘍マーカー以外の検査、画像診断等の結果から、前立腺癌の患者であることを強く疑われる者に対して検査を行った場合に、前立腺癌の診断の確定又は転帰の決定までの間に原則として、1回を限度として算定する。但し、前立腺特異抗原（PSA）の検査結果が4.0ng/mL以上であって前立腺癌の確定診断がつかない場合においては、3月に1回に限り、3回を上限として算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

（４） 核マトリックスプロテイン22（NMP22）定性（尿）又は定量（尿）

ア　核マトリックスプロテイン22（NMP22）定量（尿）又は定性（尿）は、尿沈渣（鏡検法）により赤血球が認められ、尿路上皮癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。

イ　核マトリックスプロテイン22（NMP22）定量（尿）又は定性（尿）については、尿路上皮癌の診断が確定した後に行った場合であっても、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料は算定できない。

（５） 核マトリックスプロテイン22（NMP22）定量（尿）又は定性（尿）を同時に実施した場合は、いずれか一方の所定点数を算定する。

（６） 遊離型PSA比（PSA F/T比）は、診療及び他の検査（PSA等）の結果から前立腺癌の患者であることが強く疑われる者に対して行った場合に限り算定する。

（７） 抗p53抗体は、食道癌、大腸癌又は乳癌が強く疑われる患者に対して行った場合に月1回に限り算定できる。

（８） Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチド（ICTP）、Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド（NT_X）又はデオキシピリジノリン（DPD）（尿）は、乳癌、肺癌又は前立腺癌であると既に確定診断された患者について骨転移の診断のために当該検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に限り、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」を算定する。

（９） シアリルLe^{x}抗原（CSLEX）

ア　シアリルLe^{x}抗原（CSLEX）は、診療及び他の検査の結果から乳癌の患者であることが強く疑われる者に対して検査を行った場合に算定する。

イ　シアリルLe^{x}抗原（CSLEX）とCA15-3を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

（10） サイトケラチン19フラグメント（シフラ）は、悪性腫瘍であることが既に確定診断された患者については、小細胞癌を除く肺癌の場合に限り、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定できる。

（11） ガストリン放出ペプチド前駆体（ProGRP）を神経特異エノラーゼ（NSE）と併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。

（12） α-フェトプロテインレクチン分画（AFP-L3%）は、電気泳動法及び抗体親和性転写法又はLBA法による。

（13） 癌胎児性抗原（CEA）定性又は半定量（乳頭分泌液）は、乳頭異常分泌患者に対して非腫瘤性乳癌を強く疑って、乳頭分泌液中のCEAを測定した場合に算定する。

（14） 可溶性インターロイキン-2レセプター受容体（sIL-2R）は、非ホジキンリンパ腫、ATLの診断の目的で測定した場合に算定できる。又、非ホジキンリンパ腫又はATLであることが既に確定診断された患者に対して、経過観察のために測定した場合は、特定疾患治療管理料の悪性腫瘍特異物質治療管理料の「ロ」により算定する。

（15） 「注2」に係る規定は、本区分に掲げる血液を検体とする検査と癌胎児性抗原（CEA）定性（乳頭分泌液）、半定量（乳頭分泌液）を同一日に行った場合にも、適用する。

悪性腫瘍特異物質治療管理料

（１） 悪性腫瘍特異物質治療管理料は、悪性腫瘍であると既に確定診断がされた患者について、腫瘍マーカー検査を行い、当該検査の結果に基づいて計画的な治療管理を行った場合に、月1回に限り算定する。

（２） 悪性腫瘍特異物質治療管理料には、腫瘍マーカー検査、当該検査に係る採血及び当該検査の結果に基づく治療管理に係る費用が含まれるものであり、1月のうち2回以上腫瘍マーカー検査を行っても、それに係る費用は別に算定できない。

（３） 腫瘍マーカー検査の結果及び治療計画の要点を診療録に記載する。

（４） 「注3」に規定する初回月加算は、適切な治療管理を行うために多項目の腫瘍マーカー検査を行うことが予想される初回月に限って算定する。但し、悪性腫瘍特異物質治療管理料を算定する当該初回月の前月において、区分番号「D009」腫瘍マーカーを算定している場合は、当該初回月加算は算定できない。

（５） 区分番号「D009」腫瘍マーカーにおいて、併算定が制限されている項目を同一月に併せて実施した場合には、1項目とみなして、本管理料を算定する。

（６） 当該月に悪性腫瘍特異物質以外の検査（本通知の腫瘍マーカーの項に規定する例外規定を含む。）を行った場合は、本管理料とは別に、検査に係る判断料を算定できる。

（７） 特殊な腫瘍マーカー検査及び計画的な治療管理のうち、特に本項を準用する必要のあるものについては、その都度当局に内議し、最も近似する腫瘍マーカー検査及び治療管理として準用が通知された算定方法により算定する。

腫瘍マーカー検査の保険点数の算定について（実施料と管理料）

検査項目	検体検査実施料			悪性腫瘍特異物質治療管理料		
尿中 BTA　※ 1	(80点)			220点		
癌胎児性抗原(CEA)	105点	2項目 3項目 4項目以上	230点 290点 408点	1項目 2項目以上	360点 400点	150点 初回月加算
α-フェトプロテイン(AFP)	107点					
組織ポリペプタイド抗原(TPA) 扁平上皮癌関連抗原(SCC抗原)	110点					
DUPAN-2 NCC-ST-439 CA15-3	121点					
前立腺酸ホスファターゼ抗原(PAP)	124点					
エラスターゼ 1	129点					
前立腺特異抗原(PSA) CA19-9	130点					
PⅠVKA-Ⅱ定量	143点					
CA72-4 SPan1 シアリルTn抗原(STN) 神経特異エノラーゼ(NSE)	146点					
CA125	148点					
塩基性フェトプロテイン(BFP)	150点					
核マトリックスプロテイン22(NMP22)定量(尿) ※ 2	151点					
シアリルLe^{X}-i 抗原(SLX)	152点					
遊離型PSA比(PSA F/T比)	158点					
抗p53抗体	163点					
BCA225	165点					
サイトケラチン19フラグメント(シフラ)	167点					
シアリルLe^{X}抗原(CSLEX)	169点					
Ⅰ型コラーゲン-C-テロペプチド(ⅠCTP) ※ 1	170点					
ガストリン放出ペプチド前駆体(ProGRP)	175点					
α-フェトプロテインレクチン分画(AFP-L3%)	190点					
γ-セミノプロテイン(γ-Sm)	194点					
可溶性インターロイキン-2レセプター(sIL-2R)	438点					
Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド(NTx) デオキシピリジノリン(DPD)(尿) TRACP-5b定量						

※ 1 悪性腫瘍特異物質治療管理料としてのみ算定　　※ 2 検体検査実施料としてのみ算定

免疫学的検査

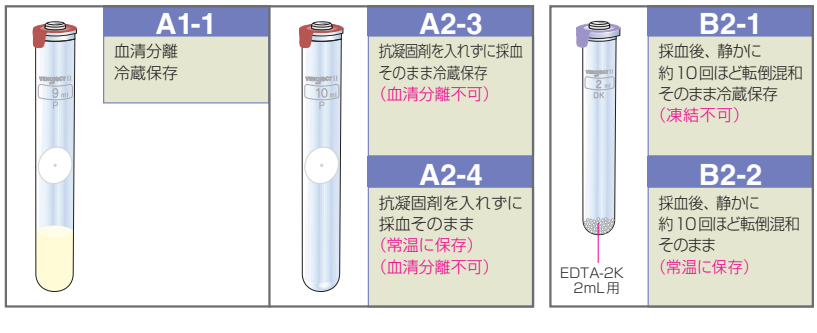
項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
免疫血液学的検査								
2017 5H010	ABO血液型 5H010-0000-019-101	全血 2.0	B2-1 冷蔵	マイクロプレート法 又は、試験管法		2～4	24 免疫	凍結不可 年齢・輸血歴を明記して下さい。
2018 5H020	Rh(D)血液型 5H020-0000-019-101	全血 2.0	B2-1 冷蔵	マイクロプレート法 又は、試験管法		2～4	24 免疫	凍結不可 年齢・輸血歴を明記して下さい。
2047 5H025	Rh-Hr式血液型 5H025-0000-019-101	全血 2.0	B2-1 冷蔵	試験管法		2～4	152 免疫	凍結不可 CcDEe因子 同一検体による検査の場合は因子の種類及び数に係らず、所定点数を算定する。
2022 5H121	直接クームス試験 5H121-0000-019-101	全血 2.0	B2-2 常温	カラム凝集法 又は、試験管法 (直接抗グロブリン法)	(−)	1～2	34 免疫	緊急 凍結不可 年齢・輸血歴を明記して下さい。
2023 5H122	間接クームス試験 5H122-0000-018-101	全血 4.0	A2-3 冷蔵	カラム凝集法 (間接抗グロブリン法)	(−)	1～2	47 免疫	
2024 5H122	クームス定量試験 5H122-0000-018-101	全血 4.0	A2-3 冷蔵	カラム凝集法 ※1 (間接抗グロブリン法)	1倍未満	2～4		凍結不可 年齢・輸血歴を明記して下さい。 抗凝固剤使用不可
2025 5H180	不規則抗体 5H180-0000-018-101	全血 10.0	A2-3 冷蔵	カラム凝集法 ※1 (間接抗グロブリン法、フィシン法)	(−)	1～2	159 免疫	凍結不可 年齢・輸血歴を明記して下さい。 抗凝固剤使用不可 ※2
(2334) 5H160	交差適合試験 5H160-0000-018-101	全血 各 3.0	A2-4 常温	生理食塩液法 (主試験・副試験)、 間接抗グロブリン試験 (主試験：PEG)	(−)	2～3	30＋ 47	※3、4
2027 5G520	抗血小板抗体 5G520-0000-023-103	血清 0.4	A1-1 冷蔵	MPHA法	(−)	4～9	262 免疫	＊4

※1　精査を必要とする場合は、試験管法も実施いたします。

※2　手術に際して輸血が行われた場合は、不規則抗体又は、輸血の「注6」に定める不規則抗体検査加算のいずれかを算定する。輸血歴、妊娠歴があり、胸部手術、心・脈管手術、腹部手術、子宮全摘術、子宮悪性腫瘍手術、子宮附属器悪性腫瘍手術（両側）、帝王切開術、子宮外妊娠手術が行われた場合に、手術の当日に算定する。診療報酬明細書の摘要欄に輸血歴又は妊娠歴がある旨を記載する。

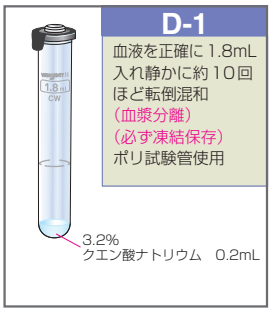
※3　副試験は生理食塩液法のみとなるため、血液型は2回以上異なる時点で採血した検体で二重チェックにより確認してから提出して下さい。

※4　血液センターからの赤血球製剤のみを対象とします。



項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
免疫血液学的検査								
2223 5G525	曜日指定 **血小板関連IgG** (PA-IgG) 5G525-0000-019-021	全血 **7.5**	モ 冷蔵	EIA法	46以下 ng/10^{7}cells	4～8	198 免疫	凍結不可 休日の前日は受付できません。 月曜日～木曜日受付 ※1 ※2 ＊4
7750 5G530	**HIT抗体** (血小板第4因子･ヘパリン複合体抗体) 5G530-0000-022-062	血漿 **0.5**	D-1 ↓ G-1 凍結	ラテックス凝集法	1.0未満 U/mL	4～6	390 免疫	HIT抗体(IgG、A及びM)を測定しています。グロブリンクラス別での報告ではありません。 ※3 ＊1

※1　必ず採血当日にご依頼下さい。血小板数が3万/μL以下の場合は、10mL以上ご提出下さい。
※2　特発性血小板減少性紫斑病の診断又は経過判定の目的で行った場合に算定する。
※3　ヘパリン起因性血小板減少症の診断を目的として行った場合に算定する。



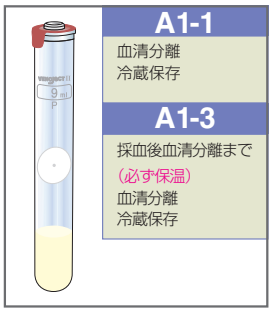
D-1
血液を正確に1.8mL入れ静かに約10回ほど転倒混和
(血漿分離)
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

G-1
血漿分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

モ
採血後静かに約10回ほど転倒混和
そのまま冷蔵保存
(凍結不可)
(注) 末梢血の血小板が3万/μL以下の場合は、専用容器を2本使用し必ず10mL以上採血して下さい。

免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目		検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
感染症血清反応									
3463 5E074	梅毒定性	RPR法 5E074-1351-023-116	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法及び凝集法	(−)	1〜2	15 免疫	梅毒血清反応(STS)定性
3004 5E075		TPHA 5E075-1351-023-116	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法及びPHA法		1〜2	32 免疫	梅毒トレポネーマ抗体定性
3009 5E079		FTA-ABS 5E079-1351-023-161	血清 0.4	A1-1 冷蔵	FA法		2〜3	138 免疫	梅毒トレポネーマ抗体(FTA-ABS試験)定性
3470 5E074	梅毒半定量	RPR法 5E074-1353-023-117	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法及び凝集法	1倍未満	1〜2	34 免疫	梅毒血清反応(STS)半定量
3007 5E075		TPHA 5E075-1353-023-103	血清 0.4	A1-1 冷蔵	PHA法	80倍未満	1〜2	53 免疫	梅毒トレポネーマ抗体半定量
3027 5E079		FTA-ABS 5E079-1353-023-162	血清 0.4	A1-1 冷蔵	FA法	20倍未満	2〜3	138 免疫	梅毒トレポネーマ抗体(FTA-ABS試験)半定量
1058 5E035	抗ストレプトリジンO定量(ASO) 5E035-0000-023-062		血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	160以下 IU/mL	1〜2	15 免疫	
1172 5E036	抗ストレプトキナーゼ半定量(ASK) 5E036-0000-023-117		血清 0.3	A1-1 冷蔵	PA法	2560倍未満	2〜4	29 免疫	＊ア
4041 5E106	マイコプラズマ抗体半定量		血清 0.2	A1-1 冷蔵	PA法	40倍未満	2〜4	32 免疫	＊ア
4047 5E106		5E106-0000-023-117 5E106-0000-023-141 5E106-0000-041-141	血清 0.2 又は 髄液 0.4	A1-1 又は X-2 冷蔵	CF法	血清4倍未満 髄液1倍未満	4〜8	32 免疫	＊4



項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
感染症血清反応								
1060 5E105	**寒冷凝集反応** 5E105-0000-023-102	血清 **0.2**	**A1-3** 冷蔵 51頁参照	HA法	64倍未満	2～3	11 免疫	採血後、すみやかに血清分離 血清分離まで保温
7034 5E026	**オーム病クラミジア抗体** 5E026-0000-023-141 5E026-0000-041-141	血清 **0.2** 又は 髄液 **0.4**	**A1-1** 又は **X-2** 冷蔵	CF法	血清4倍未満 髄液1倍未満	4～8	79 免疫	＊4
7361 5E031	**クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニエIgG抗体** 5E031-0000-023-023	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	EIA法	(−) 30未満 表1参照 EIU	3～6	70 免疫	※1 ＊ア
7722 5E032	**クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニエIgA抗体** 5E032-0000-023-023	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	EIA法	(−) 8未満 表2参照 EIU	3～6	75 免疫	※1 ＊ア
7878 5E033	**クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニエIgM抗体** 5E033-0000-023-023	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	EIA法	(−) 0.5未満 表3参照 S/CO	3～6	156 免疫	※1 ＊ア
4674 5E154	**トリコスポロン・アサヒ抗体** 5E154-0000-023-023	血清 **0.3**	**A1** ↓ **G-1** 凍結	Antigen-captured ELISA法	0.15未満 表4参照 CAI	8～17	900 免疫	※2 ＊S
7607 5E069	**MAC抗体** 5E069-0000-023-023	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	ELISA法	判定 (−) 抗体濃度 0.7未満 U/mL	5～12	116 免疫	＊1

※1 クラミドフィラ・ニューモニエIgM抗体を、クラミドフィラ・ニューモニエIgG抗体又はクラミドフィラ・ニューモニエIgA抗体と併せて実施した場合は、主たるもの1つに限り算定する。

※2 夏型過敏性肺炎の鑑別診断を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生省特定疾患びまん性肺疾患調査研究班による「過敏性肺炎の診断の手引と診断基準」により、夏型過敏性肺炎が疑われる患者とする。

EIU (Enzyme Immunounits)単位

(表1) クラミドフィラ・ニューモニエIgG抗体 判定基準

判定	EIU値
陰性(−)	EIU＜30
判定保留(±)	30≦EIU≦45
陽性(+)	EIU＞45

(表2) クラミドフィラ・ニューモニエIgA抗体 判定基準

判定	EIU値
陰性(−)	EIU＜8
判定保留(±)	8≦EIU≦12
陽性(+)	EIU＞12

(表3) クラミドフィラ・ニューモニエIgM抗体 判定基準

判定	S/CO
判定(−)	0.5未満
判定保留(±)	0.5～1.1
判定(+)	1.2以上

(表4) トリコスポロン・アサヒ抗体判定基準

判定	CAI(Corrected Absorbance Index)
陰性	0.15未満
判定保留	0.15～0.30未満
陽性	0.30以上

免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
感染症血清反応								
4278 5E156	**トキソプラズマIgG抗体** 5E156-0000-023-052	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA法	7.5 未満 表1参照 IU/mL	2～4	93 免疫	
4279 5E157	**トキソプラズマIgM抗体** 5E157-0000-023-052	血清 **0.5**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA法	0.8 未満 表2参照 S/CO	2～4	95 免疫	
4766 5E054	**百日咳菌抗体** 5E054-0000-023-023	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	EIA法	PT-IgG　：10 未満 FHA-IgG ：10 未満 図1参照 EU/mL	3～5	264 免疫	＊ア
7151 5E020	**クラミジアトラコマチス IgG・IgA抗体** 5E020-0000-023-023	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	EIA法	IgG (－) IgA (－) 表3、4参照 cut off index	3～5	200 免疫	※1 ＊ア
4707 5E146	**アスペルギルス抗体** 5E146-0000-023-141 5E146-0000-041-141	血清 **0.3** 又は 髄液 **0.4**	**A1-1** 又は **X-2** 冷蔵	CF法	血清4倍 未満 髄液1倍 未満	4～8		＊1

※1　クラミジア・トラコマチス抗原検出不能又は検体採取の困難な疾患(骨盤内感染症、卵管炎、副睾丸炎、新生児・乳児肺炎等)の診断に際し、IgG抗体価又はIgA抗体価を測定した場合又は新生児・乳幼児肺炎の診断に際し、IgM抗体価を測定した場合に算定する。なお、IgG抗体価、IgA抗体価及びIgM抗体価のうち2項目以上を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。

(表1) トキソプラズマIgG抗体判定基準

IU/mL	判　定
7.5未満	陰性
7.5以上～10.4	判定保留
10.5以上	陽性

(表2) トキソプラズマIgM抗体判定基準

S/CO	判　定
0.8未満	陰性
0.8～0.9	判定保留
1.0以上	陽性

(表3) クラミジアトラコマチスIgG・IgA・IgM抗体判定基準

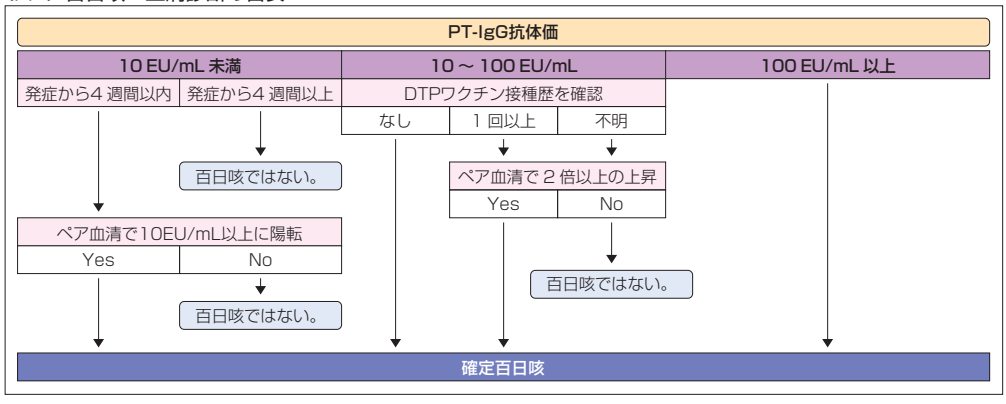
判定	cut off index
(－)	0.90未満
(±)	0.90～1.09＊
(＋)	1.10以上

＊再度、7～10日後に新しく採血した血清により再検査するなど注意して判定して下さい。

(表4) クラミジアトラコマチスIgG・IgA抗体判定の解釈

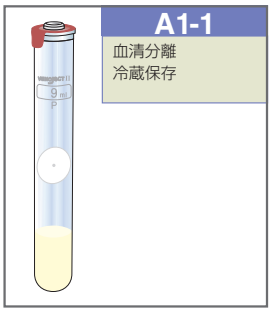
IgG	IgA	判定の解釈
(＋)	(＋)	クラミジア感染の疑いがある
(－)	(＋)	クラミジア感染の疑いがある
(＋)	(－)	クラミジア感染の既応あるいは感染の疑いがある
(－)	(－)	抗体陰性

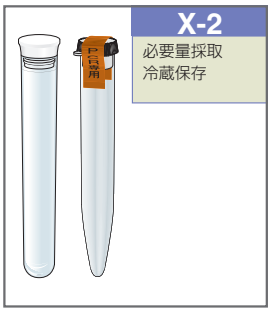
(図1) 百日咳・血清診断の目安



感染症血清反応

項目コード 統一コード	検査項目		検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
4716 5E128	ツツガ虫 Gilliam	IgG抗体 5E128-0000-023-162	血清 0.2	A1-1 冷蔵	FA法	10倍 未満	4～9	207 免疫	各株ごとに算定する。ツツガムシ抗体半定量 ＊4
4717 5E129		IgM抗体 5E129-0000-023-162	血清 0.2	A1-1 冷蔵	FA法	10倍 未満	4～9		
4718 5E125	ツツガ虫 Kato	IgG抗体 5E125-0000-023-162	血清 0.2	A1-1 冷蔵	FA法	10倍 未満	4～9	207 免疫	
4719 5E126		IgM抗体 5E126-0000-023-162	血清 0.2	A1-1 冷蔵	FA法	10倍 未満	4～9		
4720 5E122	ツツガ虫 Karp	IgG抗体 5E122-0000-023-162	血清 0.2	A1-1 冷蔵	FA法	10倍 未満	4～9	207 免疫	
4721 5E123		IgM抗体 5E123-0000-023-162	血清 0.2	A1-1 冷蔵	FA法	10倍 未満	4～9		





免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
感染症血清反応								
4921 5E064	ヘリコバクター・ピロリ抗体／国内株 5E064-0000-023-062	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	10.0 未満（－） U/mL	2～4	80 免疫	※1
(4176) 5E065	ヘリコバクター・ピロリIgG抗体／国内株 5E065-0000-023-023	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	EIA法	10.0 未満（－） U/mL	3～5	80 免疫	※1 ＊ア
1494 3B347	胃がんリスク層別化検査（ABC分類） 3B347-0000-023-920	血清 **0.7**	**A1-1** 冷蔵	ペプシノゲンⅠ･Ⅱ(PGⅠ･Ⅱ)ラテックス凝集比濁法 ヘリコバクター･ピロリIgG抗体／国内株：EIA法	(陽性判定基準) ・ペプシノゲン：PGⅠ値が70.0ng/mL以下且つPGⅠ/Ⅱ比が3.0以下 ・H.ピロリ抗体：3.0U/mL以上 表1参照	3～5		＊ア
1495 3B347	胃がんリスク層別化検査（ABC分類）（除菌歴あり） 3B347-1301-023-920							

※1　当該検査を含むヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取り扱いについては「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取り扱いについて」（平成12年10月31日保険発第180号）に即して行うこと。

(表1) 胃がんリスク層別化検査（ABC分類）の基準

		H.ピロリ抗体検査（※1）		
		(－)	(＋)	
		3.0U/mL未満	3.0U/mL以上 10.0U/mL未満（※2）	10.0U/mL以上
ペプシノゲン検査	(－)	A群	B群	
	(＋)	D群	C群	

胃がんリスク層別化検査（ABC分類）は、AからD群まで分類して報告します。但し、既にピロリ菌の除菌治療を受けた方につきましてはE群（除菌群）として報告します。

※1　「未感染」と「現感染」を診断する臨床診断と異なり、ABC分類ではリスクの低い「未感染」とリスクがある「過去感染と現感染」を診断するため、基準値が異なります。

※2　除菌する場合は、必ず尿素呼気試験、便中H.ピロリ抗原測定などの検査を実施し、存在診断を行って下さい。

【ABC分類結果の解釈】

A郡：概ね健康的な胃粘膜で、胃の病気になる危険性は低いと考えられます。未感染の可能性が高いですが、一部にはピロリ菌の感染や感染の既往がある方が含まれます。一度は内視鏡検査などの画像検査を受けることが理想的です。

B群：少し弱った胃粘膜です。胃潰瘍・十二指腸潰瘍などに注意し、内視鏡検査を受けましょう。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。尚、H.ピロリ抗体の検査結果が3.0～10.0U/mlの場合、除菌治療の前に他の検査で存在診断を実施することが必要です。

C群：萎縮の進んだ弱った胃粘膜と考えられます。胃がんになりやすいタイプと考えられますので、定期的に内視鏡検査を受けましょう。ピロリ菌の除菌治療をお勧めします。

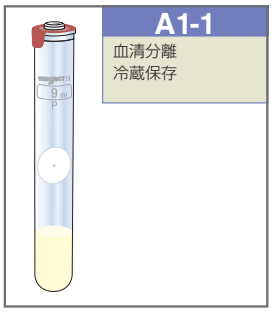
D群：萎縮が非常に進んだ胃粘膜と考えられます。胃がんなどの病気になるリスクがありますので、ピロリ菌感染診断をお勧めします。必ず専門医療機関で内視鏡検査などの診断を受けてご相談下さい。

E群（除菌群）：ピロリ菌の除菌治療を受けた方は、除菌判定の結果に関わらず、E群として定期的に内視鏡検査を受けましょう。除菌により胃がんになるリスクは低くなりますが、決してゼロになるわけではありません。除菌後も内視鏡検査による経過観察が必要です。

B、C、D群の順にリスクが高くなります。

【胃がんリスク層別化検査（ABC分類）の注意事項】

《この検査に適さない方》
- ピロリ菌の除菌治療を受けた方
- 明らかな上部消化器症状のある方
- 上部消化管疾患治療中の方
- プロトンポンプ阻害剤服用中の方
- 胃切除後の方
- 腎不全の方

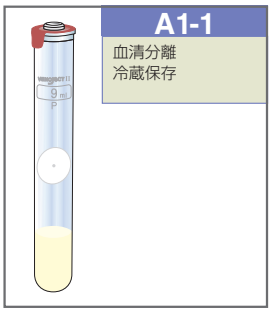


項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量(mL)	容器 保存方法(安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
感染症血清反応								
5778 5C215	**プロカルシトニン定量** (PCT) 5C215-0000-023-053	血清 **0.4**	A1 ↓ G-1 凍結	ECLIA法	0.05 以下 ng/mL	2〜4	292 生化Ⅰ	敗血症(細菌性) 鑑別診断の カットオフ値：0.50ng/mL未満 重症度判定の カットオフ値：2.00ng/mL以上 ※1 ＊イ
5490 5E046	**エンドトキシン** 5E046-0000-019-297	全血 **2.0**	Y2 冷蔵	比濁時間分析法	1.0 以下 pg/mL	4〜7	243 免疫	凍結不可 検体は無菌的に採取し採取容器をご提出下さい。 必ず指定容器をご使用下さい。 ＊E
5247 5E151	**(1→3)-β-D-グルカン** 5E151-0000-019-271	全血 **3.0**	Y 冷蔵	発色合成基質法	20.0 以下 pg/mL	3〜5	207 免疫	凍結不可 深在性真菌感染症が疑われる患者に対する治療法の選択又は、治療効果の判定に使用した場合に算定する。 ※2 ＊イ
下欄参照 5E048	**透析液エンドトキシン**	透析液 **4.0**	ヤ2 冷蔵	発色合成基質法	EU/mL	3〜5		材料ごとの項目コードでご依頼下さい。 ＊イ

※1　プロカルシトニン(PCT)定量又は半定量は、敗血症(細菌性)を疑う患者を対象として測定した場合に算定できる。但し、エンドトキシンを併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

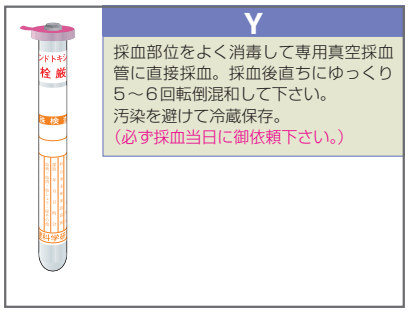
※2　(1→3)-β-D-グルカンをカンジダ抗原半定量、クリプトコックス抗原定性、アスペルギルス抗原と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

材料種類	項目コード	項目名称
A液	5547	透析液エンドトキシン　A液 5E048-0000-095-271
B液	5548	透析液エンドトキシン　B液 5E048-0000-095-271
RO水	5549	透析液エンドトキシン　RO水 5E048-0000-095-271
調整液	5550	透析液エンドトキシン　調整液 5E048-0000-095-271
その他	5551	透析液エンドトキシン　その他 5E048-0000-095-271

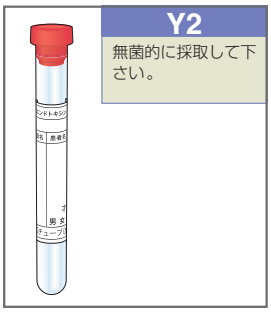


A1-1
血清分離
冷蔵保存

G-1
血清分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

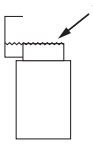


Y
採血部位をよく消毒して専用真空採血管に直接採血。採血後直ちにゆっくり5〜6回転倒混和して下さい。
汚染を避けて冷蔵保存。
(必ず採血当日に御依頼下さい。)

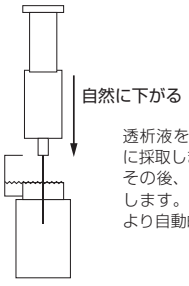


Y2
無菌的に採取して下さい。

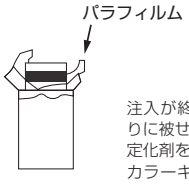
ヤ2



容器のカラーキャップを矢印の方向に引き上げ、アルミ部分を切らないように、(カラーキャップが完全に外に落ちないように)開け、ゴム栓部分を消毒用アルコール綿で拭きます。



透析液を注射針付きのシリンジで無菌的に採取します。
その後、容器のゴム栓部分に注射針を刺します。シリンジの中の透析液は陰圧により自動的に4mLが注入されます。



注入が終了したらカラーキャップを元通りに被せ、直ちに4回ほど容器を振り、安定化剤を均質に混ぜてください。
カラーキャップの周りはパラフィルムを巻いてください。
提出まで、容器は速やかに冷蔵(2〜8℃)で保存願います。

免疫学的検査

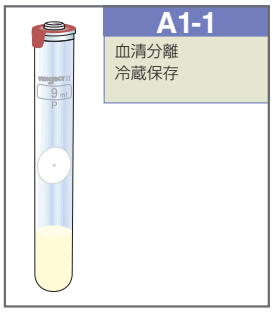
項目コード 統一コード	検　査　項　目	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
抗原検査								
4885 5E142	**カンジダ・マンナン抗原** 5E142-0000-023-023	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	EIA法	0.05未満 U/mL	4～8	134 免疫	※1 ※2 ＊E
4538 5E140	**クリプトコッカス抗原定性** 5E140-0000-023-116 5E140-0000-041-116	血清 **0.8** 又は 髄液 **0.8**	**A1-1** 又は **X-2** 冷蔵	ラテックス凝集反応	(－)	4～7	174 免疫	※1 ＊4
4788 5E148	**アスペルギルス抗原** 5E148-0000-023-023	血清 **0.7**	**A1-1** 冷蔵	EIA (ELISA)法	Cut off index　判定 0.5未満　(－) 0.5以上　(＋)	4～7	161 免疫	下記、注意事項をご参照下さい。 侵襲性肺アスペルギルス症の診断のために実施した場合に算定する。 ※1 ＊E

※1　(1→3)-β-D-グルカンをカンジダ抗原半定量、クリプトコックス抗原定性、アスペルギルス抗原と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

※2　高値傾向を示す恐れがありますので、フィブリン析出時の除去に竹串を使用しないでください。

【アスペルギルス抗原の結果判定に関する注意事項】

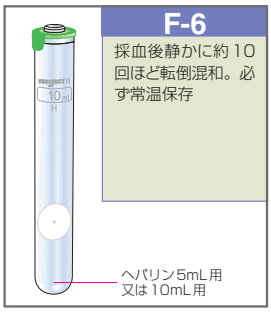
1) 侵襲性アスペルギルス症の診断は、本品の判定結果のみではなく、臨床症状や培養検査、病理学的検査、画像診断などの結果を加味し、総合的に行って下さい。
2) 陽性を判定された場合には、再度採血を行った検体にて再測定を実施することをお勧めします。
3) 陰性と判定された場合でも、侵襲性アスペルギルス症の可能性は否定できません。検体中の抗原濃度が、本品で検出できる濃度に達していなかった可能性もあります。感染が疑われる場合には、再測定を実施することをお勧めします。
4) 慢性肉芽腫症 (CGD) や Job 症候群の患者では、検体のガラクトマンナン濃度が低かったとの報告があります。
5) 抗真菌薬の投与を受けている患者では、検体のガラクトマンナン濃度が低くなることがあります。
6) 臨床症状がなく陽性と判定された場合、次の状況が考えられます。
   ①感染初期に、臨床症状や画像所見等よりも先に、アスペルギルス抗原 (ガラクトマンナン) が陽性を示すことがあります。
   ②幼児で、臨床症状を示さない陽性が報告されています。実際に血中にアスペルギルス抗原が存在した場合もありますが、ほとんどは、偽陽性と考えられています。
   ③ガラクトマンナンは豆、種子、牛乳等に多く含まれており、食物繊維としても種々の食物に添加されています。
   また、わが国では多くの食品 (味噌、醤油など) でコウジカビ (アスペルギルス属) を利用しています。乳幼児や消化管粘膜に損傷のある患者では食物の影響により陽性を示す可能性があるとの報告がありますので、注意して診断して下さい。
   ④海外で、ピペラシリン / タゾバクタムの合剤及びアモキシシリンの投与により、本品の測定結果が陽性を示したという報告があります。したがって、上記薬剤で治療されている患者においては判定の際に注意が必要です。
   ⑤ペニシリウム属等の菌種では抗ガラクトマンナン (ラット) モノクローナル抗体との交差反応性が認められます。
7) 本製品はグレーゾーンを設定していないので、カットオフインデックス値 (0.5) 近辺の結果の場合は、侵入性アスペルギルス症の他の臨床症状、他の臨床検査結果及び画像診断結果も参照の上、注意深く総合的に判断して下さい。
8) 自己免疫疾患患者の血清では、非特異的反応が起こりうるので測定結果に基づく診断は他の検査結果や臨床症状等を加味して総合的に判断して下さい。

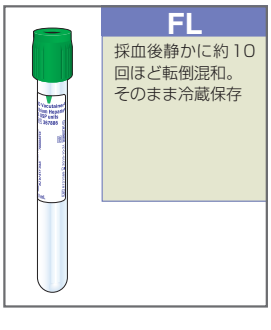


項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量(mL)	容器 保存方法(安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
抗原検査								
5976 5E041	肺炎球菌莢膜抗原定性 《尿》 5E041-0000-001-190	尿1.0	G-6 凍結	イムノクロマト法	(−)	2〜4	198 免疫	肺炎球菌莢膜抗原定性(尿・髄液)は、免疫クロマト法により実施した場合に限り算定できる。 ＊ア
5988 5E041	《髄液》 5E041-0000-041-190	髄液1.0	X-5 凍結	イムノクロマト法	(−)	2〜4	198 免疫	
4964 5E056	尿中レジオネラ抗原定性 5E056-0000-001-190	尿1.0	G-6 凍結	イムノクロマト法	(−)	2〜4	217 免疫	症状や所見からレジオネラ症が疑われる患者に対して実施した場合に限り1回を限度として算定する。 ＊ア
7374 6B620	結核菌DNA〔PCR〕 (TB-PCR) 6B620-0000-061-862	喀痰1.0〜2.0	ワ 冷蔵	リアルタイムPCR法	(−)	3〜5	410 微生	緊急 結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。 ＊ア
7375 6B621	MAC DNA〔PCR〕 (マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー核酸検出) 6B621-0000-061-862	喀痰1.0〜2.0	ワ 冷蔵	リアルタイムPCR法	アビウム (−) イントラセルラー (−)	3〜5	421 微生	他の検査により結核菌が陰性であることが確認された場合のみに算定できる。なお、抗酸菌同定検査と同時算定不可。 ＊ア
7527 5E301	曜日指定 予約検査 結核菌特異的インターフェロン-γ産生能 (T-SPOT. TB) 5E301-0000-019-031	全血6.0 注1	F-6 常温 (18〜25℃)	ELISPOT法	(−)	3〜5	612 免疫	予約検査。休日の前日は受付できません。凍結不可・開封厳禁。 ＊ア
7026 5E301	曜日指定 予約検査 結核菌特異的インターフェロン-γ産生能 (QFTプラス) 5E301-0000-019-023	全血6.0 注1	FL 冷蔵	ELISA法	(−)	3〜5	612 免疫	依頼に際しては、「採血時間」をご記入下さい。 T-SPOT.TB、QFTプラスの判定基準は71頁をご参照下さい。 ※1 ＊ア

注1　他項目との重複しないよう単独検体で提出して下さい。

※1　診察又は画像診断等により結核感染が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できる。





免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
抗原検査								
7388 5E021	クラミジア・トラコマチスDNA〔PCR〕 5E021-0000-001-862 5E021-0000-079-862 5E021-0000-085-862	尿 (初尿) **4.5～6.3**	エ2 冷蔵	リアルタイムPCR法	(−)	2～4	198 微生	※1 ＊ア
7728 5E021		うがい液 **4.5～6.3**	エ2 冷蔵					
7380 5E021		子宮頸部擦過細胞	エ1 冷蔵					
7981 5E021	クラミジア・トラコマチスDNA〔SDA〕 5E021-0000-001-882 5E021-0000-085-882 5E021-0000-085-882	尿 (初尿)	セ 冷蔵	SDA法	(−)	3～5		＊ア
7976 5E021		子宮頸管擦過物	ス1 冷蔵					
		男子尿道擦過物	ス2 冷蔵					

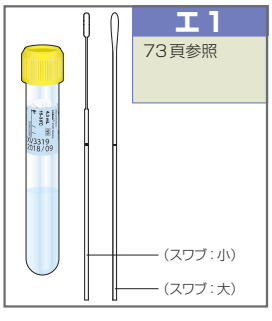
※1　クラミジア・トラコマチス核酸検出とクラミジア・トラコマチス抗原定性を併用した場合は、主なもののみ算定する。

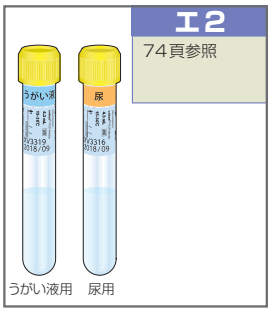
項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量（mL）	容器 保存方法（安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
抗原検査								
7389 6B610	淋菌DNA〔PCR〕 6B610-0000-001-862 6B610-0000-079-862 6B610-0000-085-862	尿（初尿） **4.5～6.3**	エ2 冷蔵	リアルタイムPCR法	（－）	2～4	204 微生	細菌培養同定と同時算定不可 ＊ア
7729 6B610		うがい液 **4.5～6.3**	エ2 冷蔵					
7387 6B610		子宮頸部擦過細胞	エ1 冷蔵					
7982 6B610	淋菌DNA〔SDA〕 6B610-0000-001-882 6B610-0000-085-882 6B610-0000-085-882	尿（初尿）	セ 冷蔵	SDA法	（－）	3～5		※1
7977 6B610		子宮頸管擦過物	ス1 冷蔵					＊ア
		男子尿道擦過物	ス2 冷蔵					
7507 6B615	淋菌／クラミジア・トラコマチス同時測定DNA〔PCR〕 6B615-0000-001-862 6B615-0000-079-862 6B615-0000-085-862	尿（初尿） **4.5～6.3**	エ2 冷蔵	リアルタイムPCR法	（－）	2～4	278 微生	※2 ＊ア
7732 6B615		うがい液 **4.5～6.3**	エ2 冷蔵					
7504 6B615		子宮頸部擦過細胞	エ1 冷蔵					
7983 6B615	淋菌／クラミジア・トラコマチス同時測定DNA〔SDA〕 6B615-0000-001-882 6B615-0000-085-882 6B615-0000-085-882	尿（初尿）	セ 冷蔵	SDA法	（－）	3～5		※3
7978 6B615		子宮頸管擦過物	ス1 冷蔵					＊ア
		男子尿道擦過物	ス2 冷蔵					

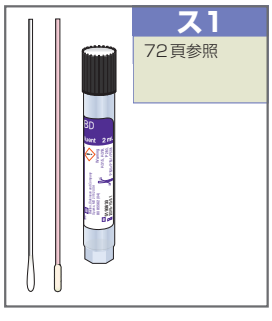
※1　淋菌核酸検出、淋菌抗原定性又は細菌培養同定検査（淋菌感染を疑って実施するもの）を併せて実施した場合は、主なもののみ算定する。淋菌核酸検出は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体（尿検体を含む。）によるものである。

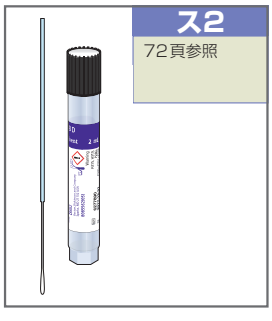
※2　クラミジア・トラコマチス感染症若しくは淋菌感染症が疑われる患者又はクラミジア・トラコマチスと淋菌による重複感染が疑われる患者であって、臨床所見、問診又はその他の検査によっては感染因子の鑑別が困難なものに対して治療法選択のために実施した場合及びクラミジア・トラコマチスと淋菌の重複感染者に対して治療効果判定に実施した場合に算定できる。ただし、淋菌抗原定性、クラミジア・トラコマチス抗原定性、細菌培養同定検査（淋菌及びクラミジアによる感染を疑って実施するもの）、淋菌核酸検出又はクラミジア・トラコマチス核酸検出を併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

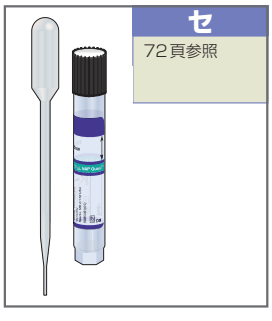
※3　淋菌及びクラミジア・トラコマチス同時核酸検出は、泌尿器、生殖器又は咽頭からの検体（尿検体を含む。）によるものである。











免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
抗原検査								
4909 5E068	**糞便中ヘリコバクター・ピロリ抗原定性** 5E068-0000-015-023	糞便	メ 冷蔵	EIA法	(−)	3〜5	142 免疫	※1 ＊ア
尿素呼気試験								
5723 6Z100	**尿素呼気試験** (UBT) (ユービット) 6Z100-0000-098-273	呼気 前・後 (各1個)	UB 常温	IR法 (赤外分光分析)	2.5未満 ⊿‰	3〜5	70 微生	服用前および服用20分後の呼気をそれぞれ採取し、ペアで提出して下さい。 ※1 ＊C

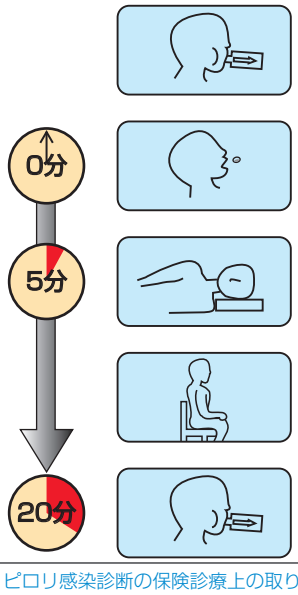
UB

検査当日の注意事項

空腹時に実施する検査ですので、午前中の検査の場合は朝食をとらずにお越し下さい。午後に検査の場合は、昼食をとらずにお越し下さい。

※呼気採取方法のポイント
1)呼気採取バックを口にあて、(鼻から)息を吸って、5〜10秒程度息を止めて下さい。
2)その後呼気採取バックにゆっくりと息を入れて下さい。(バックには肺の中の息を入れて下さい)
3)息止めが苦しい場合は2〜3回に分けて入れても大丈夫です。

※呼気を採取する前に、呼気バックに“施設名”、“患者名”などの所定の内容を記入し、“服用前”又は“服用後”のいずれかにチェックを入れて下さい。
※呼気の採取後に記入するとバックを傷つける恐れがあります。又、記入にはペン先の鋭利でないものをご利用下さい。
※呼気を採取したバックには必ずしっかりとキャップをして下さい。



吹く
ユービッド錠100mgの服用前に呼気を採取します。

飲む
ユービッド錠100mg(1錠)をつぶしたりせず、空腹時に水100mLとともに噛まずにすみやかに(5秒以内に)嚥下します。

左側臥位で待つ
服用後、左側臥位の姿勢を5分間保ちます。

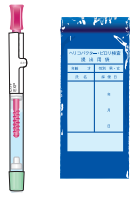
座位で待つ
その後は座位の姿勢を保ちます。

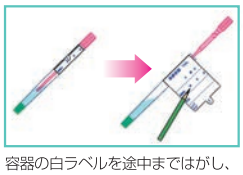
吹く
ユービッド錠100mgの服用後20分に呼気を採取します。

※1　当該検査を含むヘリコバクター・ピロリ感染診断の保険診療上の取り扱いについては「ヘリコバクター・ピロリ感染の診断及び治療に関する取り扱いについて」(平成12年10月31日保険発第180号)に即して行うこと。

メ

提出日の当日又は前日に、下記のように大便を採って、なるべく早く提出して下さい。

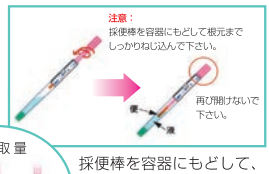




容器の白ラベルを途中まではがし、図のように広げて、氏名・日付等を記入し、元のとおり巻き付けて下さい。

便器(水ため部以外の場所)にトイレットペーパーを敷くなどし、その上に排便して下さい。

採便棒先端の溝すべてが便でうまるように、便の表面をこすりとって下さい。



採便棒を容器にもどして、根元までねじ込んで下さい。

リウマトイド因子・RA関連検査

項目コード 統一コード	検査項目		検体必要量(mL)	容器 保存方法(安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
1057 5G160	リウマトイド因子 (RF)	定性 5G160-0000-023-062	血清 0.4	A1-1 冷蔵	LA法	(−)	1〜2		
1145 5G160		定量 5G160-0000-023-062	血清 0.4	A1-1 冷蔵	LA法	15 以下 IU/mL	1〜2	30 免疫	※1、※2
4750 5G167	抗CCP抗体定量 (抗シトルリン化ペプチド抗体) 5G167-0000-023-051		血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA法	4.5 未満 U/mL	2〜4	204 免疫	※3、※4
4581 5G161	IgG型リウマトイド因子 (IgG-RF) 5G161-0000-023-023		血清 0.2	A1-1 冷蔵	EIA法	2.0 未満	2〜7	203 免疫	※1、※4 ＊ア
4579 5G166	抗ガラクトース欠損 IgG抗体 (CA・RF) 5G166-0000-023-053		血清 0.3	A1 ↓ G-1 凍結	ECLIA法	6.0 未満 AU/mL	4〜8	117 免疫	※1、※2、※4 ＊F
4116 3B503	MMP-3 (マトリックスメタロプロテイナーゼ-3) 3B503-0000-023-062		血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	M 35.2〜123.8 F 16.1〜 56.8 ng/mL	2〜4	116 免疫	※1、※4
4045 5G610	C1q結合免疫複合体 5G610-0000-023-023		血清 0.3	A1 ↓ G-1 凍結	EIA法	3.0 以下 μg/mL	4〜8	157 免疫	※1、※4 ＊E
4448 5G635	モノクローナルRF結合免疫複合体 (mRF-IC) 5G635-0000-023-023		血清 0.2	A1 ↓ G-1 凍結	EIA法	4.2 未満 μg/mL	4〜11	194 免疫	＊4

※1 リウマトイド因子定量、MMP-3、抗ガラクトース欠損IgG抗体、C1q結合免疫複合体、モノクローナルRF結合免疫複合体、IgG型リウマトイド因子のうち3項目以上を併せて実施した場合には、主たるもの2つに限り算定する。

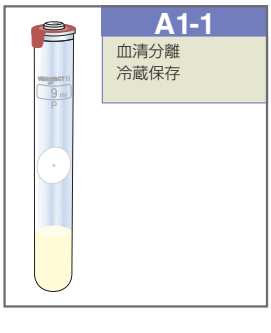
※2 抗ガラクトース欠損IgG抗体とRF定量を併せて実施した場合には、主たるもののみ算定する。

※3 以下のいずれかの場合に算定できる。

(イ)関節リウマチと確定診断できない者に対して診断の補助として検査を行った場合に、原則として1回を限度として算定できる。ただし、当該検査結果が陰性の場合においては、3月に1回に限り算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、検査値を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

(ロ)(イ)とは別に、関節リウマチに対する治療薬の選択のために行う場合においては、患者1人につき原則として1回に限り算定する。ただし、当該検査結果は陰性であったが、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、再度治療薬を選択する必要がある場合においては、3月に1回に限り算定できる。なお、当該検査を2回以上算定するに当たっては、その医学的な必要性を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。

※4 抗シトルリン化ペプチド抗体、IgG型リウマトイド因子、C1q結合免疫複合体、モノクローナルRF結合免疫複合体、抗ガラクトース欠損IgG抗体及びマトリックスメタロプロテイナーゼ-3(MMP-3)のうち2項目以上を併せて実施した場合、主たるもの1つに限り算定する。



A1-1
血清分離
冷蔵保存

G-1
血清分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

実施料について(自己抗体)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を2項目以上行った場合

1. 2項目
自己抗体 320点
2. 3項目以上
自己抗体 490点

免疫学的検査

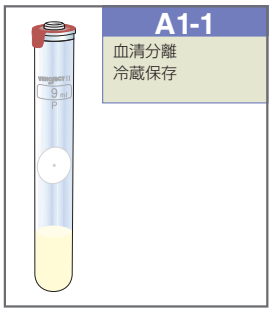
項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
甲状腺関連自己抗体検査								
5538 5G290	**抗サイログロブリン抗体** (抗Tg抗体) 5G290-0000-023-053	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ECLIA法	28 未満 IU/mL	2〜4	144 免疫	＊イ
5541 5G285	**抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体** (抗TPO抗体) 5G285-0000-023-053	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ECLIA法	16 未満 IU/mL	2〜4	146 免疫	※1 ＊イ
5014 5G290	**抗サイログロブリン抗体半定量** (サイロイドテスト) 5G290-1353-023-117	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	PA法	100倍 未満	2〜4	37 免疫	＊ア
5015 5G285	**抗甲状腺マイクロゾーム抗体半定量** (マイクロゾームテスト) 5G285-1353-023-117	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	PA法	100倍 未満	2〜4	37 免疫	※1 ＊ア
5114 5G310	**TSHレセプター抗体** (TRAb) 5G310-0000-023-811	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	RRA法	10.0 以下 %	2〜5	226 免疫	同時算定不可 ＊ア
5783 5G310	**TSHレセプター抗体(第3世代)** 5G310-0000-023-053	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	ECLIA法	2.0 未満 IU/L	2〜4		TSHレセプターのTSH結合部位を認識する抗TSHレセプターヒトモノクローナル抗体を用いた第3世代TRAbです。 ＊イ
5535 5G300	**TSAb** (TSH刺激性レセプター抗体) 5G300-0000-023-905	血清 **0.8**	**A1** ↓ **G-1** 凍結	Bioassay EIA法	120 以下 %	4〜8	340 免疫	＊4
自己抗体検査								
4969 5G010	**抗核抗体半定量** (ANA) 5G010-0000-023-162	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	蛍光抗体法(FA法)	40倍 未満 (−)	2〜4	105 免疫	※2 ＊イ

※1　抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体を抗甲状腺マイクロゾーム抗体半定量と併せて実施した場合は、主たるもののみ算定する。

※2　報告対象の染色型

	HOMOGENEOUS	SPECKLED	NUCLEOLAR	PERIPHERAL
CENTROMERE	GRANULAR	細胞周期関連型	核膜型	CYTOPLASM

※CYTOPLASMにつきましては、(−)または(+)でのご報告となります。



項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量(mL)	容器 保存方法(安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
自己抗体検査								
4807 5G087	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体 5G087-0000-023-023	血清 0.3	A1 ↓ G-1 凍結	ELISA法	index 判定 28未満 (−) 28以上50未満 (+−) 50以上 (+)	4〜7	170 免疫	※1、※2 ＊4
4627 5G090	抗セントロメア抗体 5G090-0000-023-023	血清 0.6	A1-1 冷蔵	ELISA法	index 判定 10.0未満 (−) 10.0以上16.0未満 (+−) 16.0以上 (+)	4〜8	179 免疫	抗セントロメア抗体定量 ※3 ＊4
4075 5G020	抗DNA抗体定量 5G020-0000-023-002	血清 0.2	A1-1 冷蔵	RIA法	6.0 以下 IU/mL	2〜5	168 免疫	乳ビ血清不可 ＊ア
4366 5G026	抗ss-DNA-IgG抗体定量 5G026-0000-023-023	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA法	25 以下 AU/mL	4〜7		＊4
4368 5G036	抗ds-DNA-IgG抗体定量 5G036-0000-023-023	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA法	12 以下 IU/mL	4〜7		＊4
4367 5G028	抗ss-DNA-IgM抗体 5G028-0000-023-023	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA法	17 未満 U/mL	4〜11		＊4
4369 5G038	抗ds-DNA-IgM抗体 5G038-0000-023-023	血清 0.3	A1-1 冷蔵	EIA法	6 未満 U/mL	4〜11		＊4
4140 5G066	抗RNP抗体半定量 5G066-0000-023-092	血清 0.2	A1-1 冷蔵	MO法	1倍 未満	4〜6	144 免疫	＊イ
4689 5G066	抗RNP抗体定量 5G066-0000-023-052	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLEIA法	U/mL 判定 10.0未満 (−) 10.0以上 (+)	3〜5		＊イ

※1　びまん性型強皮症の確定診断を目的として行った場合に、1回を限度として算定できる。

※2　びまん性型強皮症の確定診断の際、陽性と認められた患者に関し、腎クリーゼのリスクが高い者については治療方針の決定を目的として行った場合に、又、腎クリーゼ発症後の者については病勢の指標として測定した場合に、それぞれ3月に1回を限度として算定できる。

※3　原発性胆汁性肝硬変又は強皮症の診断又は治療方針の決定を目的に用いた場合のみ算定できる。

実施料について（自己抗体）

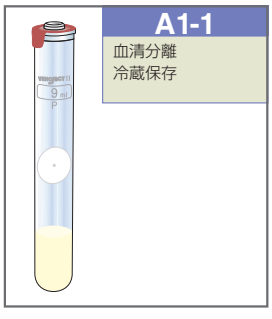
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を2項目以上行った場合

1. 2項目
自己抗体　320点

2. 3項目以上
自己抗体　490点

免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
自己抗体検査								
4141 5G065	抗Sm抗体半定量 5G065-0000-023-092	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	MO法	1倍 未満	4～6	151 免疫	
4667 5G065	抗Sm抗体定量 5G065-0000-023-052	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA法	U/mL 判定 10.0未満 (−) 10.0以上 (+)	3～5		＊イ
4142 5G076	抗SS-A/Ro抗体半定量 5G076-0000-023-092	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	MO法	1倍 未満	4～6	163 免疫	
4661 5G076	抗SS-A/Ro抗体定量 5G076-0000-023-052	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA法	U/mL 判定 10.0未満 (−) 10.0以上 (+)	3～5		＊イ
4143 5G077	抗SS-B/La抗体半定量 5G077-0000-023-092	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	MO法	1倍 未満	4～6	161 免疫	
4664 5G077	抗SS-B/La抗体定量 5G077-0000-023-052	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA法	U/mL 判定 10.0未満 (−) 10.0以上 (+)	3～5		＊イ
4188 5G085	抗Scl-70抗体半定量 5G085-0000-023-092	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	MO法	1倍 未満	4～6	161 免疫	
4692 5G085	抗Scl-70抗体定量 5G085-0000-023-052	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA法	U/mL 判定 10.0未満 (−) 10.0以上 (+)	3～5		＊イ
4189 5G120	抗Jo-1抗体半定量 5G120-0000-023-092	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	MO法	1倍 未満	4～6	140 免疫	＊イ
4883 5G120	抗Jo-1抗体定量 5G120-0000-023-052	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA法	10.0 未満 U/mL	3～5		＊イ



項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
自己抗体検査								
4240 5G385	**抗アセチルコリンレセプター抗体** (抗AChR抗体) 5G385-0000-023-007	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	RIA法	0.2 以下 (−) 0.3〜0.5 (+−) 0.6 以上 (+) nmol/L	5〜9	822 免疫	※1、※2 ＊4
7616 5G821	**抗アクアポリン4抗体** 5G821-0000-023-023	血清 **0.4**	**A1 ⬇ G-1** 凍結	ELISA法	3.0未満 (−) U/mL	4〜11	1000 免疫	※3 ＊4
4266 5G386	**抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体** (抗MuSK抗体) 5G386-0000-023-007	血清 **0.3**	**A1 ⬇ G-1** 凍結	RIA法	0.02未満 nmol/L	4〜12	1000 免疫	※2、※4 ＊E
4711 5G504	**抗カルジオリピン-β_2-グリコプロテイン1複合体抗体** (抗CL-β_2GP Ⅰ抗体) 5G504-0000-023-023	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	ELISA法	3.5 未満 U/mL	4〜8	223 免疫	同時算定不可 ＊E
4714 5G508	**抗カルジオリピンIgG抗体** 5G508-0000-023-023	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	ELISA法	10.0 未満 U/mL	4〜10	232 免疫	
4732 5G510	**抗カルジオリピンIgM抗体** 5G510-0000-023-023	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	ELISA法	8.0 未満 U/mL	4〜8		＊4
2091 5G501	**ループスアンチコアグラント** (LA) 5G501-0000-022-311 5G502-0000-022-311	乏血小板血漿 **0.7**	**D-3 ⬇ G** 凍結 下記参照	希釈ラッセル蛇毒試験(DRVVT)法	下表参照	2〜4	281 免疫	抗リン脂質抗体症候群の診断を目的として行った場合に限って算定する。
2436 5G502		乏血小板血漿 **1.0**	**D-3 ⬇ G** 凍結 下記参照	リン脂質中和法	1.16 以下	4〜7		＊4

※1 重症筋無力症の診断又は診断後の経過観察の目的で行った場合に算定できる。

※2 抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)と抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

※3 視神経脊髄炎の診断(治療効果判定を除く。)を目的として測定した場合に算定できる。なお、当該検査の結果は陰性であったが、臨床症状・検査所見等の変化を踏まえ、視神経脊髄炎が強く疑われる患者に対して、疾患の診断を行う必要があり、当該検査を再度実施した場合においても算定できる。但し、この場合、前回の検査実施日及びその結果並びに検査を再度実施する医学的な必要性について診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

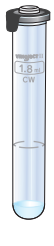
※4 重症筋無力症の診断(治療効果判定を除く。)を目的として測定した場合に算定できる。抗アセチルコリンレセプター抗体(抗AChR抗体)を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

ループスアンチコアグラント(DRVVT法)結果の判定

T1／T2	判定
1.3以上	(+)
1.1以上 1.3未満	(+−)
1.1未満	(−)

本試薬は凝固カスケードをバイパスして、第X因子を直接活性化するラッセル蛇毒を用い凝固時間を測定する試薬1と試薬1に過剰なリン脂質を加えた試薬2の凝固時間を測定し、凝固時間の比を求めてLAを検出します。

$$\frac{\text{試薬1（蛇毒）の凝固時間(T1)}}{\text{試薬2（蛇毒＋リン脂質）の凝固時間(T2)}}$$



D-3

血液を正確に1.8mL入れ転倒混和後、すみやかに室温にて1,500G以上15分間遠心後、上清の表面よりやや下の部分を1.0mL採取し、凍結保存にてご提出下さい。血小板の混入は測定結果に影響しますので注意して下さい。

※遠心機回転数の計算式
$G = 1.118 \times 10^{-5} \times r \times n^2$
r＝ローター半径(cm)
n＝回転数(rpm)
※遠心機回転数については巻末「容器一覧参照」

G-1

血清分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

実施料について(自己抗体)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を2項目以上行った場合

1. 2項目 自己抗体 320点
2. 3項目以上 自己抗体 490点

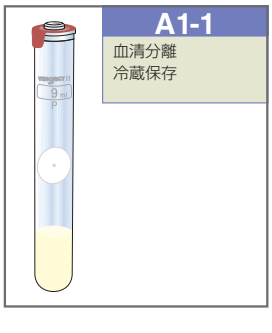
免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
自己抗体検査								
4558 5G551	**PR3-ANCA** (C-ANCA、抗好中球細胞質プロティナーゼ3抗体) 5G551-0000-023-052	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA法	3.5 未満 U/mL	3～5	267 免疫	＊イ
4384 5G552	**MPO-ANCA** (P-ANCA、抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体) 5G552-0000-023-052	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA法	3.5 未満 U/mL	3～5	265 免疫	急性進行性糸球体腎炎の診断又は経過観察のために測定した場合において算定する。 ＊イ
4907 5G396	**抗デスモグレイン1抗体** (抗Dsg1抗体) 5G396-0000-023-052	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA法	20.0 未満 U/mL	3～5	300 免疫	※1 ＊イ
4908 5G397	**抗デスモグレイン3抗体** (抗Dsg3抗体) 5G397-0000-023-052	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA法	20.0 未満 U/mL	3～5	270 免疫	※2 ＊イ
4945 5G398	**抗BP180抗体** (抗BP180NC16a抗体) 5G398-0000-023-052	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA法	9.0 未満 U/mL	3～5	270 免疫	※3 ＊イ
4432 5G395	**抗皮膚抗体** 5G395-0000-023-162	血清 **0.5**	**A1** ↓ **G-1** 凍結	IFA法	10倍 未満 (－)	6～12		上皮基底膜抗体・ 上皮細胞間質抗体 ＊5
4381 5G420	**抗糸球体基底膜抗体** (抗GBM抗体) 5G420-0000-023-052	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA法	3.0 未満 U/mL	3～5	270 免疫	抗糸球体基底膜抗体腎炎及びグッドパスチャー症候群の診断又は治療方針の決定を目的として行った場合に限り算定する。 ＊イ
4544 5G440	**精子不動化抗体** 5G440-0000-023-186	血清 **0.5**	**A1** ↓ **G-1** 凍結	不動化法	判定　：(－) 不動化値：1.40 以下 (SIV値) SI_{50}　：1.0 未満	4～8		＊E

※1　ア　ELISA法又はCLEIA法により、天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生省特定疾患調査研究事業稀少難治性疾患に関する調査研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。
　　イ　落葉状天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、本検査と抗デスモグレイン3抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

※2　ア　ELISA法又はCLEIA法により、天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。なお、鑑別診断目的の対象患者は、厚生省特定疾患調査研究事業稀少難治性疾患に関する調査研究班による「天疱瘡診断基準」により、天疱瘡が強く疑われる患者とする。
　　イ　尋常性天疱瘡の患者に対し、経過観察中の治療効果判定の目的で、本検査と抗デスモグレイン1抗体を併せて測定した場合は、主たるもののみ算定する。

※3　ELISA法又はCLEIA法により、水疱性類天疱瘡の鑑別診断又は経過観察中の治療効果判定を目的として測定した場合に算定できる。



項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量(mL)	容器 保存方法(安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
肝・胃関連自己抗体検査								
4115 5G555	**抗LKM1抗体** 5G555-0000-023-023	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	ELISA法	index 判定 17 未満 (−) 17〜49 (+−) 50 以上 (+)	4〜8	221 免疫	※1 ＊4
4125 5G175	**抗ミトコンドリア抗体** (AMA) 5G175-0000-023-162	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	FA法	20倍 未満	2〜4	186 免疫	＊イ
4399 5G176	**抗ミトコンドリアM2抗体** (AMA-M2) 5G176-0000-023-052	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA法	7.0 未満 Index値	3〜5	194 免疫	＊イ
4126 5G180	**抗平滑筋抗体** 5G180-0000-023-162	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	FA法	40倍 未満	2〜4		＊イ
4297 5G185	**抗胃壁細胞抗体** 5G185-0000-023-162	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	FA法	(−)	2〜4		＊イ
糖尿病関連自己抗体検査								
5779 5G360	**抗インスリン抗体** 5G360-0000-023-001	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	RIA法	結合率：0.4 未満 % 濃　度：125 未満 nU/mL	3〜8	110 免疫	＊ア
5376 5G340	**抗GAD抗体** (抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体) 5G340-0000-023-021	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵	ELISA法	5.0 未満 U/mL	2〜4	134 生化Ⅱ	すでに糖尿病の診断が確定した患者に対して1型糖尿病の診断に用いた場合又は自己免疫介在性脳炎・脳症の診断に用いた場合に算定できる。＊ア
5945 5G342	**抗IA-2抗体** 5G342-0000-023-021	血清 **0.6**	**A1-1** 冷蔵	ELISA法	0.6 未満 U/mL	5〜9	213 生化Ⅱ	※2 ＊4

※1　ウイルス肝炎、アルコール性肝障害及び薬剤性肝障害のいずれでもないことが確認され、且つ、抗核抗体陰性の自己免疫性肝炎が強く疑われる患者を対象として測定した場合のみ算定できる。本検査を実施した場合は、診療報酬明細書の摘要欄に抗核抗体陰性である旨を記載すること。

※2　すでに糖尿病の診断が確定し、且つ、抗GAD抗体(抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体)の結果、陰性が確認された30歳未満の患者に対し、1型糖尿病の診断に用いた場合に算定する。なお、算定するに当たっては、抗GAD抗体の結果、陰性が確認された年月日を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

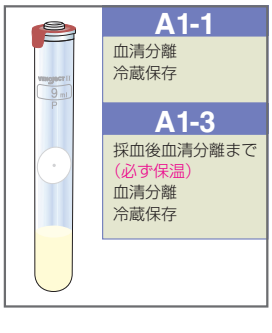
実施料について(内分泌)

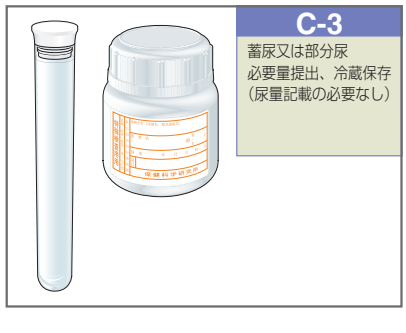
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合	
1.	3項目以上5項目以下の場合 内分泌　410点
2.	6項目又は7項目の場合 内分泌　623点
3.	8項目以上の場合 内分泌　900点

免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
免疫グロブリン								
4015 5A010	IgG 5A010-0000-023-061	血清 0.4	A1-1 冷蔵	TIA法	870～1700 mg/dL	2～4	38 免疫	
4999 5A056	IgG2 5A056-0000-023-061	血清 0.4	A1-1 冷蔵	免疫比濁法	239～838 mg/dL	4～8	239 免疫	※1 ＊1
4988 5A058	IgG4 5A058-0000-023-061	血清 0.4	A1-1 冷蔵	TIA法	4.5～117 mg/dL	2～4	377 免疫	＊イ
4016 5A015	IgA 5A015-0000-023-061	血清 0.4	A1-1 冷蔵	TIA法	110～410 mg/dL	2～4	38 免疫	
4017 5A020	IgM 5A020-0000-023-061	血清 0.4	A1-1 冷蔵	TIA法	35～220 mg/dL	2～4	38 免疫	
補体関連物質								
4021 5B023	C_3 (β_1C/β_1Aグロブリン) 5B023-0000-023-061	血清 0.4	A1-1 冷蔵	TIA法	65～135 mg/dL	2～4	70 免疫	
4022 5B024	C_4 (β_1Eグロブリン) 5B024-0000-023-061	血清 0.4	A1-1 冷蔵	TIA法	13～35 mg/dL	2～4	70 免疫	
4025 5B040	C1q 5B040-0000-023-063	血清 0.4	A1 ↓ G-1 凍結	ネフェロメトリー法	8.8～15.3 mg/dL	4～11		＊4
4031 5B010	血清補体価 (CH_{50}) 5B010-0000-023-142	血清 0.4	A1 ↓ G-1 凍結	Mayer変法	30.0～46.0 CH_{50}/mL	2～4	38 免疫	

※1　原発性免疫不全等を疑う場合に算定する。





血漿蛋白免疫学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
1056 5C070	C反応性蛋白 (CRP) 定性 5C070-0000-023-062	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	(−)	1〜2	16 免疫	併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。
1158 5C070	C反応性蛋白 (CRP) 定量 5C070-0000-023-062	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	0.30 以下 mg/dL	1〜2	16 免疫	併せて測定した場合は主たるもののみ算定する。
1719 5C080	血清アミロイドA蛋白 (SAA) 5C080-0000-023-062	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	8.0 以下 μg/mL	2〜4	47 免疫	
4127 5A160	クリオグロブリン定性 5A160-0000-023-920	血清 0.5	A1-3 冷蔵	寒冷沈殿法	(−)	4〜6	42 免疫	血清分離まで保温 ＊イ
4023 5C060	トランスフェリン (Tf) 5C060-0000-023-061	血清 0.4	A1-1 冷蔵	TIA法	M 190〜300 F 200〜340 mg/dL	2〜4	60 免疫	
4575 5A141	遊離L鎖κ／λ比 (FLC) 5A141-0000-023-062	血清 0.4	A1-1 冷蔵	LA法	κ鎖 3.3〜19.4 λ鎖 5.7〜26.3 mg/L κ／λ比 0.26〜1.65	5〜7	388 免疫	※1 ＊1
1697 5A135	免疫電気泳動 (抗ヒト全血清による定性) 5A135-0000-023-081	血清 0.5	A1-1 冷蔵	免疫電気泳動法	検出せず	5〜10	170 免疫	病歴を必ず記載 動物検体不可 ※2、3
1691 5A135	免疫電気泳動 (免疫固定法によるM蛋白同定) 5A135-0000-023-086	血清 0.3	A1-1 冷蔵	免疫固定電気泳動法	検出せず	4〜8	224 免疫	＊1
1692 5A145	尿中免疫電気泳動 (免疫固定法によるベンス・ジョーンズ蛋白(BJP)同定) 5A145-0000-001-086	尿 5.0	C-3 冷蔵	免疫固定電気泳動法	検出せず	4〜8	201 免疫	病歴を必ず記載 動物検体不可 ＊1
2225 5C020	α1-アンチトリプシン 5C020-0000-023-063	血清 0.4	A1-1 冷蔵	ネフェロメトリー法	94〜150 mg/dL	4〜8	80 血液	＊1

※1　免疫グロブリンL鎖κ／λ比と免疫電気泳動法（抗ヒト全血清による定性）又は免疫電気泳動法（免疫固定法によるM蛋白同定）を同時に実施した場合は、主たるもののみ算定する。

※2　免疫電気泳動法（抗ヒト全血清による定性）及び免疫電気泳動法（免疫固定法によるM蛋白同定）については、同一検体につき一回に限り算定する。

※3　同一検体について免疫電気泳動法（抗ヒト全血清による定性）及び免疫電気泳動法（免疫固定法によるM蛋白同定）を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみを算定する。

免疫学的検査

結核菌特異的インターフェロン-γ産生能（T-SPOT. TB、QFTプラス）の判定基準

● T-SPOT.TBの判定基準

判定基準
パネルA（ESAT-6）とパネルB（CFP-10）のスポット数 （+）　　：両方又は一方が8以上 判定保留：両方又は一方の最大値が5 ～ 7 （−）　　：両方が4以下 判定不可：陰性コントロールのスポット数が10を超える場合 　　陽性コントロールのスポット数が20未満の場合

※判定保留、判定不可の場合には、再度、採血して再提出することを推奨いたします。

○報告対象は判定、パネルA、パネルBとなります。
判　　定：（+）、（−）、判定保留、判定不可
パネルA：スポット数（整数）
パネルB：スポット数（整数）

● QFTプラスの判定基準

Nil値（IU/mL）	TB1値（IU/mL）	TB2値（IU/mL）	Mitogen値（IU/mL）	判定	解釈
8.0以下	0.35以上かつNil値の25%以上	不問	不問	（+）	結核感染を疑う
	不問	0.35以上かつNil値の25%以上			
	0.35未満、あるいは0.35以上かつNil値の25%未満		0.5以上	（−）	結核感染していない
			0.5未満	判定不可	結核感染の有無について判定できない
8.0を超える	不問				

○報告対象は、判定、Nil値、TB1値、TB2値、Mitogen値となります。
判定：（+）、（−）、判定不可
Nil値：測定値
TB1値：測定値
TB2値：測定値
Mitogen値：測定値

淋菌／クラミジア・トラコマチスDNA〔SDA〕の検体採取方法と保存法

子宮頸管擦過細胞

使用容器 『ス1』

採取方法

① クリーニングスワブ(白い軸)を用いて、子宮頸管部入口の余分な血液、粘液を除去します。
② 子宮頸管検体を採取する際は、検体採取用スワブ(ピンク色の軸)を子宮頸管内に入れ、出血しないように15～30秒回転させて擦過します。
③ 検体採取用スワブが膣内壁に触れないように注意深く引き抜いて下さい。
④ 専用容器のふたを開け、検体採取したスワブを検体希釈液に浸します。
⑤ スワブの軸の折り目の付いた部分で折ります。
⑥ 専用容器のふたをしっかりと閉め、冷蔵で保存します。

男子尿道擦過細胞

使用容器 『ス2』

採取方法

① スワブ(青い軸)を尿道内に2～4cm挿入します。
② 出血しないように、スワブを3～5秒回転させます。
③ 専用容器のふたを開け、検体採取したスワブを検体希釈液に浸します。
④ スワブの軸の折り目の付いた部分で折ります。
⑤ 専用容器のふたをしっかりと閉め、冷蔵で保存します。

男子初尿

使用容器 『セ』

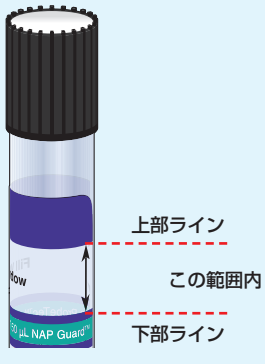
採尿に際しての注意

① 最後の排尿から、１時間以上経過していることを確認します。
② 検体採取(採尿)には保存剤を含まない滅菌済みのプラスチック製容器をお勧めします。
③ 初尿(出はじめの尿)の採取量は 20mL ～ 60mL を採取として下さい。

採取方法

① 専用容器を垂直に持ち、容器の底を机等の平らな面で叩いてふたの内側についた試薬(保存液)を落とします。
② 滅菌済みカップに初尿(出はじめの尿)を採取します。
③ 付属のトランスファーピペット(スポイト)で**右図のラベルに付いている黒矢印の範囲内(2.0mL ～ 3.0mL)**に尿を移し入れ、ふたをしっかりと閉めます。(至適量は厳守して下さい。尿は採取後すみやかに専用容器に移し入れて下さい。)
④ 容器を３～４回転倒混和した後、冷蔵で保存します。

図

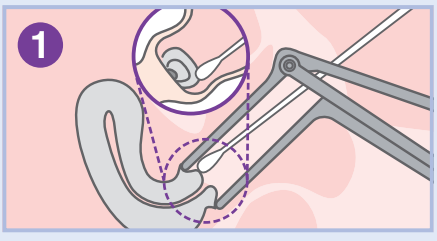


免疫学的検査

淋菌／クラミジア・トラコマチスDNA〔PCR〕の検体採取方法と保存方法

子宮頸管擦過細胞

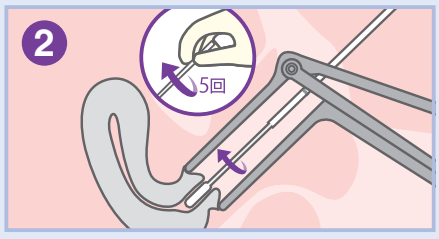
使用容器： エ1



子宮頸部の粘液除去

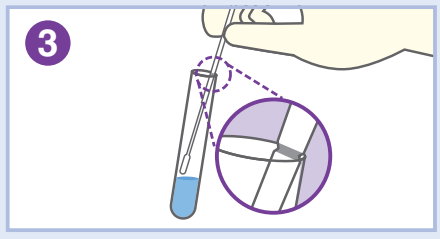
スワブ検体採取セット付属の粘液除去用ドライスワブで子宮頸管とその周辺の過剰な粘液を充分拭い取ります。

注意 粘液を拭ったスワブは廃棄します。



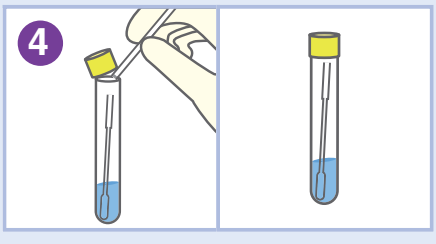
子宮頸部検体の採取

付属されている検体採取用フロックスワブを子宮頸管内に挿入します。同じ方向にそっと5回スワブを回します。（回し過ぎないでください。）スワブを引き抜く際は膣の粘膜に触れないように注意して下さい。



子宮頸部検体の保存

専用容器のキャップを開けます。採取したフロックスワブを専用容器に入れ、柄に付けられた黒い線を容器の縁に合わせます。



専用容器の縁を利用して、キャップで黒い線をはさむようにして折ります。専用容器のキャップをしっかりと閉めます。

注意 手元に残った折られた柄は廃棄して下さい。スワブの柄を折る際は絶対にはさみを使用しないで下さい。

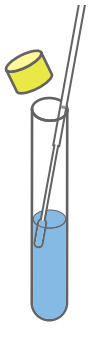
検体採取上の注意

- スワブ検体採取セット付属の検体採取スワブ以外は使用しないで下さい。
- 検体に大量の血液が混入した場合は正しい結果が得られない事があります。
- 粘液を十分除いてから検体を採取して下さい。
- 専用容器には検体を採取したスワブのみ入れて下さい。スワブを保存した専用容器は2～30℃で12ヶ月安定です。

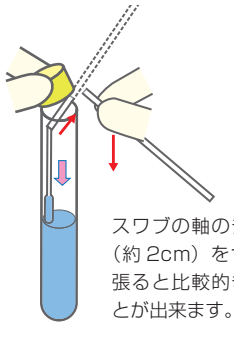
一般的な注意

- 子宮頸管検体を採取する前にスワブを専用容器に浸さないで下さい。
- 専用容器の液体の飛散に十分ご注意下さい。
- 検体を採取したスワブは速やかに専用容器に入れて下さい。
- 専用容器は絶対に凍結させないで下さい。

フロックスワブを上手に折る方法

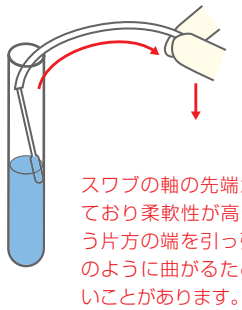


黄色いキャップとチューブの縁でスワブの黒い線を挟むようにしてセットします。



スワブの軸のチューブの近く（約 2cm）をつまみ下に引っ張ると比較的きれいに折ることが出来ます。

注　意



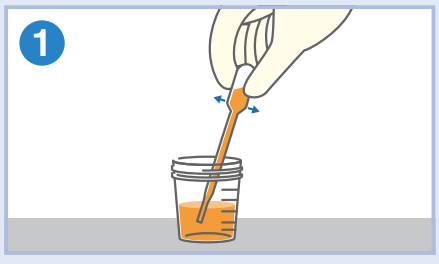
スワブの軸の先端が細くなっており柔軟性が高いため、もう片方の端を引っ張るとバネのように曲がるため折れにくいことがあります。

＊折り目線の辺りが汚染されてキャップで押さえることが困難な場合には折り目線を出来るだけ固定し鋭角に曲げると折りやすくなります。

淋菌／クラミジア・トラコマチスDNA〔PCR〕の検体採取方法と保存方法

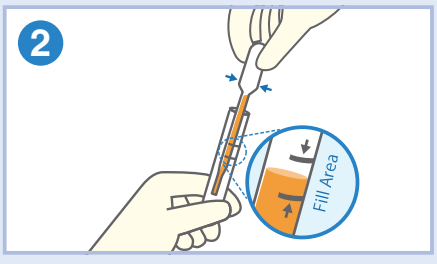
尿

使用容器： E2

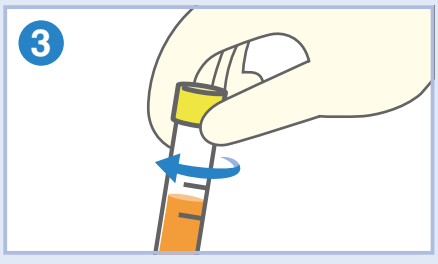


尿検体の採取
滅菌済み容器に初尿を採取します。滅菌済みスポイトを用いて、初尿を専用容器に移します。

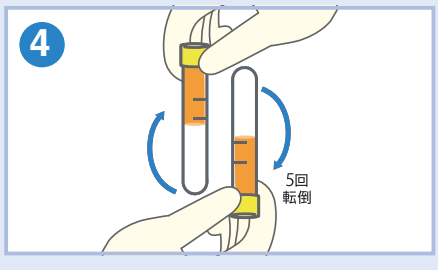
注意 初尿は採取後2～30℃で24時間以内に専用容器に移して下さい。



専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように初尿を加えて下さい。



尿検体の保存
専用容器の蓋をしっかりと閉めて下さい。



専用容器を5回転倒混和させて下さい。

検体採取上の注意
- 初尿は専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように加えて下さい。
- 検体に大量の血液が混入した場合は正しい結果が得られない事があります。
- 初尿は2～30℃で24時間以内に専用容器に移して下さい。
- 尿検体を保存した専用容器は2～30℃で12ケ月安定です。

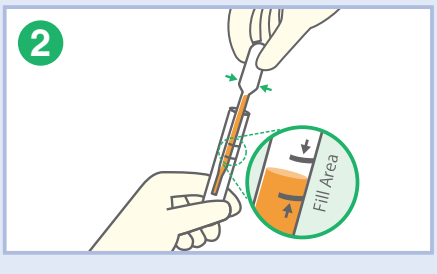
一般的な注意
- 女性の尿を採取する前は消毒しないで下さい。
- 月経中の患者からは尿検体を採取しないで下さい。
- 最後の排尿から少なくとも1時間以上経過していることを確認して下さい。
- 専用容器の液体の飛散に十分ご注意下さい。
- 専用容器は絶対に凍結させないで下さい。

うがい液

使用容器： E2

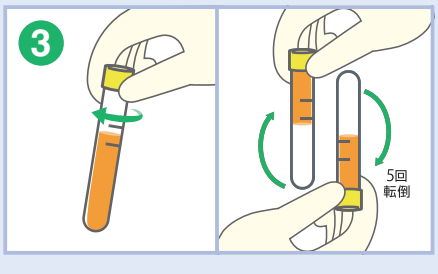
うがいの仕方
生理食塩水（日局方など）をコップに15～20mL入れて下さい。生理食塩水15～20mLを口に含み、顔を上に向けて10～20秒間、勢いよく"ガラガラ"とうがいを行います。

注意 口に含んで吐き出した液とうがい用容器に残した液を合わせて"うがい液"とします。



検体輸送液への懸濁
"うがい液"全量をうがい用容器に回収し、スポイトで専用容器（尿・うがい用）に必要量添加します。

注意 "うがい液"は専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように加えて下さい。



検体容器の保管
専用容器の蓋をしっかりと閉めて下さい。
専用容器を5回転倒混和させて下さい。

検体採取上の注意
- うがい液は専用容器に記載されている2つのラインの間に収まるように加えて下さい。
- 検体に大量の血液が混入した場合は正しい結果が得られない事があります。
  うがい液検体を保存した専用容器は2～30℃で12ヶ月安定です。
  うがい液を専用容器に入れない場合は2～8℃で輸送して下さい。採取から10日以内に専用容器に入れて下さい。

一般的な注意
- 検体採取前の食事・うがい・歯磨き・ガムを噛むことなどは避けて下さい。
- 専用容器の液体の飛散に十分ご注意下さい。
- 専用容器は絶対に凍結させないで下さい。

アレルギー

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
アレルギー関連検査								
4019 5A090	IgE 5A090-0000-023-023	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	FEIA法	1歳未満 20以下 1～3歳 30以下 4～6歳 110以下 7歳以上 170以下 IU/mL	2～4	100 免疫	
(　) 5A100	IgEシングルアレルゲン	血清 **0.4** ※1	**A1-1** 冷蔵	FEIA法	0.35未満 UA/mL	2～4	各110 ※2 免疫	判定基準は表1、2参照 アレルゲン種類 77頁参照
(　) 5A100	IgEマルチアレルゲン	血清 **0.4** ※1	**A1-1** 冷蔵	FEIA法	0.35未満 UA/mL	2～4	各110 ※2 免疫	判定基準は表1参照 アレルゲン種類 78頁参照
3921 5A100	Viewアレルギー39 5A100-2808-023-023	血清 **1.0**	**A1-1** 冷蔵	FEIA法	0.27未満 index値	2～4	1430 免疫	判定基準は表3参照 Viewアレルギー39に含まれるアレルゲン種類 78頁参照
4483 5A100	アトピー鑑別試験 5A100-2820-023-023	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	FEIA法	(－)	2～4	194 免疫	アトピー鑑別に含まれるアレルゲン種類 78頁参照
4943 5J228	TARC (Th2ケモカイン) 5J228-0000-023-052	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	CLEIA法	小児(6～12ヶ月)：1367未満 小児(1～2歳)　：998未満 小児(2歳以上)　：743未満 成人　：450未満 pg/mL	2～5	184 ※3 免疫	重症度判定の目安は表4参照 ＊ア

※1　アレルゲン検査において、多項目を同時にご依頼の場合、下記算出式に基づいた必要量をおよその目安としてご提出下さい。

アレルゲン必要量算出式＝〔0.3＋(0.1×依頼項目数)〕mL：

※2　特異的IgE 1430点を限度として算定する。

※3　TARCは、血清中のTARC量を測定する場合に月一回に限り算定できる。

(表1) IgEシングルアレルゲン・マルチアレルゲン　判定基準

UA/mL	0.35未満	0.35~0.69	0.70~3.49	3.50~17.49	17.50~49.99	50.00~99.99	100以上
クラス	0	1	2	3	4	5	6
判　定	陰　性	疑陽性	陽　性				

UA/mL：WHOの標準品(U/mL)検定。Aはアレルゲン特異性を意味する。

(表2) Ara h 2(ピーナッツ由来)　判定基準

UA/mL	0.35未満	0.35~3.99	4.00以上
判　定	陰　性	疑陽性	陽　性

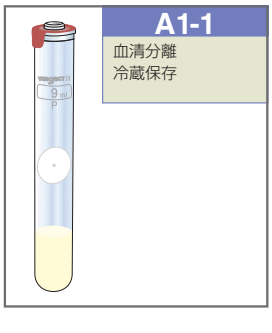
Ara h 2(ピーナッツ由来)は、他のIgEシングルアレルゲンと異なり、判定基準にクラス設定はありません。判定フローは78頁参照
(IgEシングルアレルゲン ピーナッツ陽性者が対象となります)

(表3) Viewアレルギー39　判定基準

index 値	0.27未満	0.27以上 ～0.50未満	0.50以上 ～1.80未満	1.80以上 ～7.05未満	7.05以上 ～17.35未満	17.35以上 ～29.31未満	29.31以上
クラス	0	1	2	3	4	5	6
判　定	陰　性	疑陽性	陽　性				

(表4) アトピー性皮膚炎の重症度判定の目安

	TARC 測定値	アトピー性皮膚炎の重症度の目安
成人	700 pg/mL 未満	軽症
	700 pg/mL 以上	中等症以上
小児 (2歳以上)	760 pg/mL 未満	軽症
	760 pg/mL 以上	中等症以上



IgE特異的アレルゲン(疾患別セット)

項目コード 統一コード	検査項目		検体必要量(mL)	容器 保存方法(安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
1474 5A100	13アレルゲンセット	鼻炎・喘息・結膜炎	血清各1.4 ※1	A1-1 冷蔵	FEIA法	表1参照	2~4	1430 免疫	アレルゲン種類 表4参照
1475 5A100		小児アレルギー							
1476 5A100		アトピー性皮膚炎(成人)							
1477 5A100		食物アレルギー							
1478 5A100		花粉症							
1493 5A100		成人食物アレルギー							
1466 5A100	10アレルゲンセット	鼻炎・喘息・結膜炎	血清各1.0 ※1	A1-1 冷蔵	FEIA法	表1参照	2~4	1100 免疫	アレルゲン種類 表4参照
1467 5A100		小児アレルギー							
1468 5A100		アトピー性皮膚炎(成人)							
1469 5A100		食物アレルギー							
1470 5A100		花粉症							

※1　検体量が記載量に満たない場合、全アレルギーの検査ができないことがあります。

(表4) IgE特異的アレルゲン(疾患別セット)の対象アレルゲン一覧

セット名称			鼻炎・喘息・結膜炎	小児アレルギー	アトピー性皮膚炎(成人)	食物アレルギー	花粉症	成人食物アレルギー
セット構成アレルゲン一覧	13アレルゲンセット	10アレルゲンセット	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ スギ ヒノキ ハンノキ(属) ガ ブタクサ カモガヤ 動物上皮 ※1 カビ ※1	ヤケヒョウヒダニ スギ 動物上皮 ※1 卵白 ミルク 小麦(食餌) ソバ ピーナッツ エビ カニ	ハウスダスト1 ヤケヒョウヒダニ スギ ガ 小麦(食餌) ピーナッツ エビ ソバ 動物上皮 ※1 カビ ※1, ※2	卵白 オボムコイド ミルク 小麦(食餌) ソバ ピーナッツ エビ カニ イクラ 大豆	スギ ヒノキ ハンノキ(属) シラカンバ(属) コナラ(属) カモガヤ ギョウギシバ ブタクサ ヨモギ カナムグラ	小麦 ω-5グリアジン エビ カニ サバ アニサキス ソバ キウイ Gly m 4 ハンノキ(属)
			ヨモギ ユスリカ(成虫) ゴキブリ	ゴキブリ オボムコイド イクラ	カンジダ マラセチア(属) アスペルギルス アルテルナリア	クルミ バナナ キウイ	ハルガヤ オオアワガエリ アキノキリンソウ	スギ カモガヤ ヤケヒョウヒダニ

※1 マルチアレルゲンを使用
※2 13セットでは対象外です。

疾患と年齢の組み合わせにより推奨するIgE特異的アレルゲン疾患別セット

年齢 / 疾患名	齢乳幼児(0歳~就学前)	学童(小学~中学)	成人
鼻炎・結膜炎	鼻炎・喘息・結膜炎 10、13 セット		
気管支喘息			
アトピー性皮膚炎	小児アレルギー 10、13 セット		アトピー性皮膚炎(成人) 10、13 セット
食物アレルギー	食物アレルギー 10、13 セット		成人食物アレルギー 13 セット
花粉症	花粉症 10、13 セット		

IgE アレルゲン一覧表

●シングルアレルゲン

NO.	略号コード	アレルゲン名
House dust（室内塵）		
4080	h1	ハウスダスト 1
4081	h2	ハウスダスト 2
Mites（ダニ）		
4078	d1	ヤケヒョウヒダニ
4079	d2	コナヒョウヒダニ
4202	d70	アシブトコナダニ
4203	d71	サヤアシニクダニ
4204	d72	ケナガコナダニ
Epithelia（動物上皮）		
4085	e1	ネコ皮屑
4215	e3	ウマ皮屑
4216	e4	ウシ皮屑
4217	e5	イヌ皮屑
4218	e6	モルモット上皮
4220	e70	ガチョウ羽毛
4227	e77	セキセイインコのふん
4228	e78	セキセイインコの羽毛
4230	e80	ヤギ上皮
4231	e81	羊上皮
4232	e82	家兎上皮
4233	e83	豚上皮
4234	e84	ハムスター上皮
4235	e85	ニワトリ羽毛
4244	e86	アヒル羽毛
4247	e87	ラット
4248	e88	マウス
Insects（昆虫）		
4206	i1	ミツバチ
4207	i3	スズメバチ
4208	i4	アシナガバチ
4209	i6	ゴキブリ
4526	i7	ユスリカ（成虫）
4514	i8	ガ
4210	i71	ヤブカ（属）
Moulds and Yeasts（真菌〈カビ〉/細菌）		
4135	m1	ペニシリウム
4082	m2	クラドスポリウム
4083	m3	アスペルギルス
4347	m4	ムコール
4089	m5	カンジダ
4084	m6	アルテルナリア
4349	m8	ヘルミントスポリウム
4636	m70	ピティロスポリウム
4222	m80	エンテロトキシン A (SEA)
4223	m81	エンテロトキシン B (SEB)
4211	m205	トリコフィトン
4652	m227	マラセチア（属）
Parasites（寄生虫）		
4212	p1	カイチュウ
4527	p4	アニサキス

NO.	略号コード	アレルゲン名
Occupational（職業性）		
4507	k72	オオバコ種子
4373	k74	絹
4508	k75	イソシアネート TDI
4509	k76	イソシアネート MDI
4510	k77	イソシアネート HDI
4511	k78	エチレンオキサイド
4512	k79	無水フタル酸
4638	k80	ホルマリン
4635	k82	ラテックス
4655	k220	Hev b 6.02
Trees（樹木花粉）		
4250	t1	カエデ（属）
4316	t2	ハンノキ（属）
4096	t3	シラカンバ（属）
4256	t5	ブナ（属）
4257	t6	ビャクシン（属）
4269	t7	コナラ（属）
4270	t8	ニレ（属）
4271	t9	オリーブ
4272	t10	クルミ（属）
4274	t12	ヤナギ（属）
4310	t16	マツ（属）
4134	t17	スギ
4285	t19	アカシア（属）
4517	t24	ヒノキ
4288	t70	クワ（属）
Weeds（雑草花粉）		
4136	w1	ブタクサ
4289	w2	ブタクサモドキ
4095	w3	オオブタクサ
4294	w5	ニガヨモギ
4094	w6	ヨモギ
4295	w7	フランスギク
4302	w8	タンポポ（属）
4303	w9	ヘラオオバコ
4305	w10	シロザ
4313	w12	アキノキリンソウ
4314	w18	ヒメスイバ
4317	w20	イラクサ（属）
4528	w22	カナムグラ
Grasses（イネ科植物花粉）		
4090	g1	ハルガヤ
4091	g2	ギョウギシバ
4130	g3	カモガヤ
4318	g4	ヒロハウシノケグサ
4320	g5	ホソムギ
4093	g6	オオアワガエリ
4321	g7	アシ
4092	g8	ナガハグサ
4323	g9	コヌカグサ（属）
4324	g10	セイバンモロコシ
4341	g15	小麦（属）
4342	g16	オオスズメノテッポウ
4346	g17	スズメノヒエ

NO.	略号コード	アレルゲン名
Foods（食餌性アレルゲン）		
4132	f1	卵白
4133	f2	ミルク
4077	f3	タラ
4287	f4	小麦
4087	f5	ライ麦
4100	f6	大麦
4101	f7	オート麦
4392	f8	トウモロコシ
4284	f9	米
4386	f10	ゴマ
4292	f11	ソバ
4102	f12	エンドウ
4319	f13	ピーナッツ
4249	f14	大豆
4113	f15	インゲン
4120	f17	ハシバミ
4121	f18	ブラジルナッツ
4123	f20	アーモンド
4374	f23	カニ
4371	f24	エビ
4377	f25	トマト
4301	f26	豚肉
4395	f27	牛肉
4389	f31	ニンジン
4401	f33	オレンジ
4398	f35	ジャガイモ
4144	f36	ココナッツ
4148	f37	ムラサキイガイ
4325	f40	マグロ
4307	f41	サケ
4167	f44	イチゴ
4168	f45	ビール酵母
4383	f47	ニンニク
4380	f48	タマネギ
4169	f49	リンゴ
4516	f50	サバ
4518	f51	タケノコ
4519	f54	サツマイモ
4520	f55	キビ
4521	f56	アワ
4522	f57	ヒエ
4523	f58	イカ
4524	f59	タコ
4515	f60	アジ
4525	f61	イワシ
4304	f75	卵黄
4171	f76	α-ラクトアルブミン
4172	f77	β-ラクトグロブリン
4190	f78	カゼイン
4191	f79	グルテン
4192	f80	ロブスター
4193	f81	チーズ
4501	f82	モールドチーズ
4322	f83	鶏肉
4194	f84	キウイ
4195	f85	セロリ

NO.	略号コード	アレルゲン名
4196	f86	パセリ
4197	f87	メロン
4198	f88	羊肉
4199	f89	マスタード
4200	f90	麦芽
4201	f91	マンゴ
4502	f92	バナナ
4503	f93	カカオ
4504	f94	洋ナシ
4505	f95	モモ
4506	f96	アボカド
4646	f97	ヤマイモ
4651	f202	カシューナッツ
4641	f207	アサリ
4631	f209	グレープフルーツ
4632	f214	ホウレンソウ
4633	f225	カボチャ
4224	f233	オボムコイド
4634	f254	カレイ
4644	f256	クルミ
4642	f290	カキ（貝）
4645	f329	スイカ
4643	f338	ホタテ
4639	f349	イクラ
4640	f350	タラコ
4654	f353	Gly m 4
4650	f416	ω-5 グリアジン
4653	f423	Ara h 2
4656	f441	Jug r 1
4657	f443	Ana o 3
Drugs（薬物）		
4513	c73	ヒトインスリン
4221	c74	ゼラチン
Other（その他）		
4637	o1	綿

IgE アレルゲン一覧表

●マルチアレルゲン

NO.	略号	項　目　名	内　　容
4020	g×5	イネ科花粉	主なイネ科植物の花粉５種混合 ハルガヤ(g1)、ギョウギシバ(g2)、カモガヤ(g3)、オオアワガエリ(g6)、アシ(g7)
4029	w×5	雑草花粉	主なキク科植物の花粉５種混合 ブタクサ(w1)、ヨモギ(w6)、フランスギク(w7)、タンポポ属(w8)、アキノキリンソウ(w12)
4067	e×2	動物上皮	強力なアレルゲンといわれる動物のフケ５種混合 ネコ皮屑(e1)、イヌ皮屑(e5)、モルモット上皮(e6)、ラット(e87)、マウス(e88)
4070	m×2	カビ	日常生活での区別が困難で交差性も少ないとされるカビ６種混合 ペニシリウム(m1)、クラドスポリウム(m2)、アスペルギルス(m3)、カンジダ(m5)、アルテルナリア(m6)、ヘルミントスポリウム(m8)
4064	f×5	食物	幼小児の代表的食物アレルゲン５種混合 卵白(f1)、ミルク(f2)、小麦(f4)、ピーナッツ(f13)、大豆(f14)
4065	f×6	穀物	三大アレルゲン(卵白、ミルク、大豆)に次いで注目されている穀物５種混合 小麦(f4)、トウモロコシ(f8)、米(f9)、ゴマ(f10)、ソバ(f11)

●アトピー鑑別試験

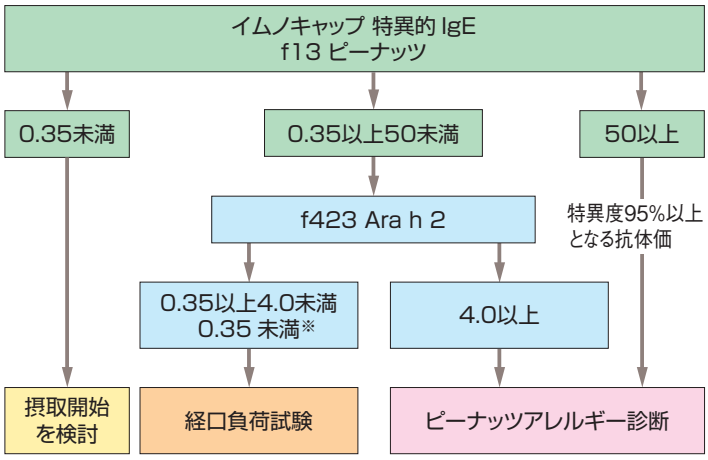
含まれるアレルゲン
ヤケヒョウヒダニ コナヒョウヒダニ ネコの皮屑 イヌの皮屑 ギョウギシバ カモガヤ ブタクサ ヨモギ シラカンバ(属) スギ カンジダ アルテルナリア

●Viewアレルギー 39に含まれるアレルゲン　一覧

室内塵	ハウスダスト１	食餌性	エビ
ダニ	ヤケヒョウヒダニ		カニ
樹木花粉	スギ		ミルク
	ヒノキ		卵白
	ハンノキ（属）		オボムコイド
	シラカンバ（属）		ピーナッツ
イネ科花粉	カモガヤ		小麦
	オオアワガエリ		米
雑草花粉	ブタクサ		大豆
	ヨモギ		ソバ
動物上皮	ネコ皮屑		ゴマ
	イヌ皮屑		サバ
真菌<カビ>	カンジダ		マグロ
	アスペルギルス		サケ
	アルテルナリア		牛肉
	マラセチア（属）		鶏肉
昆虫	ガ		豚肉
	ゴキブリ		キウイ
職業性	ラテックス		リンゴ
			バナナ

●ピーナッツアレルギー判定フロー（目安）

単位：UA/mL



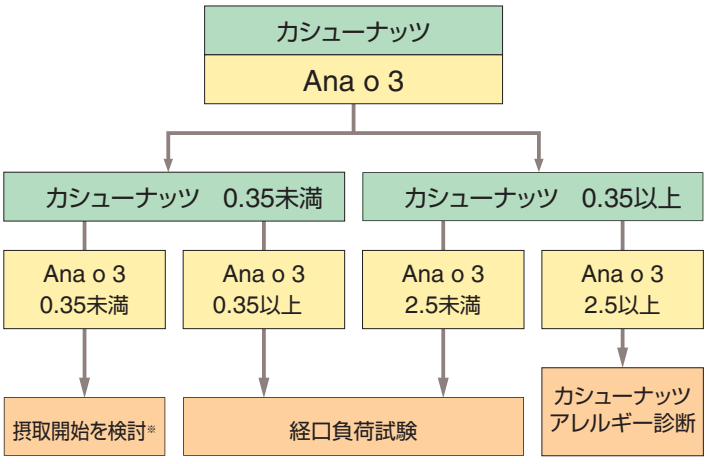
実際の診断には血液検査の結果だけではなく、詳細な問診を実施し総合的に評価します。

※ピーナッツアレルギーでも f423 Ara h 2 陰性となる場合があります。患者さんの状況に応じて経口負荷試験を考慮します。

サーモフィッシャーダイアグノスティックス社資料より引用

●カシューナッツアレルギー判定フロー（目安）

単位：UA/mL



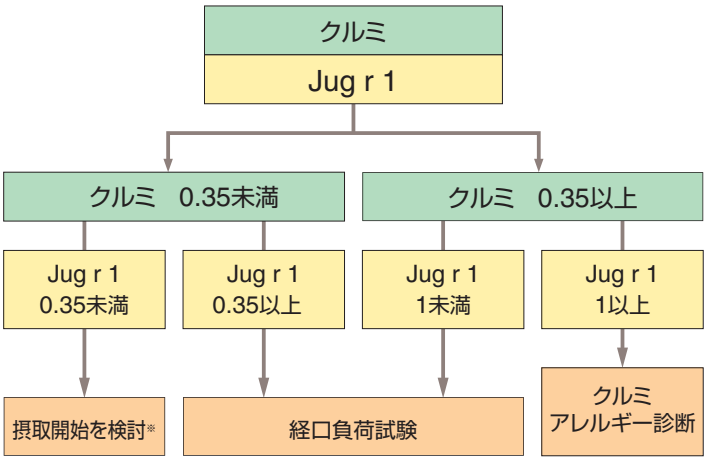
※大多数は摂取可能ですが、まれに症状を誘発するケースもあります。患者さんの状況に応じて経口負荷試験を考慮します。

Thermo Scientific™ イムノキャップ ™ 特異的 IgE および Thermo Scientific™ イムノキャップ ™ アレルゲンコンポーネントによる検査値からの目安です。

サーモフィッシャーダイアグノスティックス社資料より引用

●クルミアレルギー判定フロー（目安）

単位：UA/mL



※大多数は摂取可能ですが、まれに症状を誘発するケースもあります。患者さんの状況に応じて経口負荷試験を考慮します。
※実際の診断には血液検査の結果だけでなく、詳細な問診を実施し総合的に評価します。

Thermo Scientific™ イムノキャップ ™ 特異的 IgE および Thermo Scientific™ イムノキャップ ™ アレルゲンコンポーネントによる検査値からの目安です。

サーモフィッシャーダイアグノスティックス社資料より引用

免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
B型肝炎ウイルス関連検査								
4003 5F016	HBs抗原定性 5F016-1411-023-116	血清 0.4	A1-1 冷蔵	RPHA法	(−)	2〜4	29 免疫	注1
4004 5F016	HBs抗体定性 5F016-1491-023-103	血清 0.2	A1-1 冷蔵	PHA法	(−)	2〜4	32 免疫	
4035 5F016	HBs抗体半定量 5F016-1493-023-103	血清 0.2	A1-1 冷蔵	PHA法	8倍 未満	2〜4	32 免疫	
4001 5F016	HBs抗原 5F016-1413-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA法	0.05 未満 (−) IU/mL	1〜2	88 免疫	注1 ※1
4002 5F016	HBs抗体 5F016-1430-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA法	10.0 未満 (−) mIU/mL	1〜2	88 免疫	10.0mIU/mLはHBVワクチンの再接種基準のためのカットオフ値です（最小防御抗体価）。 ※1
4006 5F019	HBe抗原 5F019-1410-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA法	S/CO値 判定 1.00 未満 (−) 1.00 以上 (+)	1〜2	104 免疫	
4007 5F019	HBe抗体 5F019-1430-023-051	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLIA法	Inhibition% 判定 50.0 未満 (−) 50.0 以上 (+)	1〜2	104 免疫	
4005 5F018	HBc抗体 5F018-1430-023-051	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLIA法	S/CO値 判定 1.00 未満 (−) 1.00 以上 (+)	1〜2	137 免疫	※1 同時算定不可
4236 5F018	HBc-IgM抗体 5F018-1432-023-051	血清 0.3	A1-1 冷蔵	CLIA法	S/CO値 判定 1.00 未満 (−) 1.00 以上 (+)	1〜2	146 免疫	

注1 【HBV感染の診断】B型肝炎ウイルス（HBV）感染の診断は、他の免疫測定法等と同じく、本製品による陽性又は陰性の検査結果のみにより行わず、HBc抗体測定、HBV-DNA定量検査等、他の検査結果及び臨床経過を考慮して総合的に判断して下さい。特に下記の場合は使用方法にご留意下さい。

1．健康診断時のスクリーニング検査
できるだけ検出感度の高いEIA法／化学発光法などを用いた検出試薬を使用し、イムノクロマト法や凝集法で検出感度の低い検出試薬の使用にあたっては、十分にご留意下さい。

2．緊急検査
緊急対応として実施される迅速・簡便な検出試薬において陰性と判定された場合でも、必要に応じてさらに検出感度の高い検出試薬で再検査をすることをお勧めします。

3．B型肝炎と診断された患者の経過観察検査
EIA法／化学発光法、凝集法、イムノクロマト法等いずれの方法を用いた検出試薬でも使用できますが、陰性化した場合はより検出感度の高い方法で確認することをお勧めします。

（注）HBV感染直後はウイルス量が極めて少なく、どのような高感度の検出試薬を用いてもウイルスを確認できません。この時期は「ウインドウ（空白）期間」と呼ばれており、ウインドウ期間に採取された血液では、HBs抗原は必ず検出されるとは限りません。

【性能】RPHA法　最小検出感度 5.0IU/mL　　CLIA法感度　0.05 IU/mL以下

※1 免疫抑制剤の投与や化学療法を行う患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し、当該治療開始前に「3」のHBs抗原、HBs抗体及び「6」のHBc抗体半定量・定量を同時に測定した場合は、患者1人につきそれぞれ1回に限り算定できる。

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量（mL）	容器 保存方法（安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
B型肝炎ウイルス関連検査								
4740 5F015	HBV-DNA定量 （リアルタイムPCR法） 5F015-1441-023-862	全血 5.0 注1	カ 凍結 下記参照	リアルタイムPCR法	表1参照 Log IU/mL	3～5	271 微生	※5 ＊ア
4183 5F018	B型肝炎ウイルスコア関連抗原 （HBcrAg） 5F018-1410-023-052	血清 0.5	A1-1 冷蔵	CLEIA法	3.0未満 Log U/mL	4～8	266 免疫	※1 ＊4
4729 5F015	HBVゲノタイプ（判定） 5F015-1405-023-023	血清 0.5	A1-1 冷蔵	EIA法	型	4～11	340 免疫	注2 ※2 ＊E
4925 5F037	HBVプレコア変異及びコアプロモーター変異遺伝子同定検査 （HBV-DNA PC・CP） 5F037-0000-023-865	全血 2.0 注1	カ 凍結 下記参照	PCRミニシーケンス法／特異プローブ法	（－）※3	4～9	450 微生	※3 ※4 ＊1
A型肝炎ウイルス関連検査								
4485 5F350	HA-IgG抗体 5F350-1431-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA法	S/CO値　判定 1.00未満　（－） 1.00以上　（＋）	1～2	146 免疫	同時算定不可
4097 5F350	HA-IgM抗体 5F350-1432-023-051	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLIA法	S/CO値　判定 0.80未満　（－） 0.80～1.20　（±） 1.21以上　（＋）	1～2	146 免疫	

注1　他の検査と重複しないよう、単独検体で提出して下さい。

注2　報告形式：A、B、C、Dまたは「検出されず」HBs抗原量が少なく、型判定が不可能な場合に「検出されず」とご報告いたします。国内ではまれな遺伝子型E、F、G、Hの検体における測定結果は検証されていません。

※1　HBV感染の診断の補助及び治療効果の判定の目的で、血清又は血漿中のHBcrAgを測定した場合に1月に1回に限り算定する。なお、HBV核酸定量を同時に測定した場合は、主たるもののみ算定する。

※2　HBVゲノタイプ（判定）は、B型肝炎の診断が確定した患者に対して、B型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回で算定できる。

※3　HBVDNA検出結果、プレコア変異型及び比率、コアプロモーター変異型についてご報告します。低ウイルス量（概ね2,000コピー／mL未満）の検体では、試薬の特性上、安定した判定結果を得られない場合があります。

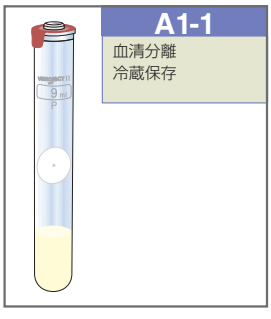
※4　B型急性肝炎患者に対しては、劇症肝炎が疑われる場合に限り、患者1人につき1回算定できる。B型慢性肝炎患者に対しては、経過観察中にALT異常値などにより肝炎増悪が疑われ、且つ、抗ウイルス薬等のB型肝炎治療薬の投与対象患者の選択のために行われた場合に限り算定できる。なお、本検査実施以降は、肝炎ウイルス関連検査のうちB型肝炎に関する検査（但し、抗ウイルス薬等のB型肝炎治療薬の治療効果判定に用いる検査を除く）は、算定できない。

※5　B型肝炎ウイルス既感染者であって、免疫抑制剤の投与や化学療法を行っている悪性リンパ腫等の患者に対して、B型肝炎の再活性化を考慮し行った場合は、当該治療中及び治療終了後1年以内に限り、月1回を限度として算定できる。

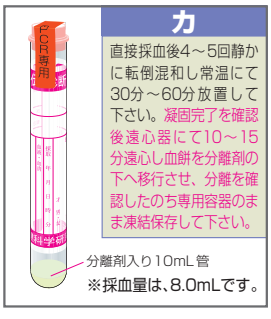
（表1）HBV-DNA定量（リアルタイムPCR法）の判定（単位：Log IU/mL）

	測定結果	判定
定量値	1.0～9.1以上	陽　性
増幅反応シグナル	（＋）	
定量値	1.0未満	陽　性＊
増幅反応シグナル	（＋）	
定量値	1.0未満	陰　性
増幅反応シグナル	（－）	

＊測定下限値が1.0未満であっても、増幅反応シグナルが（＋）の場合はウイルスの存在を示しているため、判定は陽性となります。



A1-1
直清分離
冷蔵保存



カ
直接採血後4～5回静かに転倒混和し常温にて30分～60分放置して下さい。凝固完了を確認後遠心器にて10～15分遠心し血餅を分離剤の下へ移行させ、分離を確認したのち専用容器のまま凍結保存して下さい。

分離剤入り10mL管
※採血量は、8.0mLです。

実施料について（肝炎）

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

1.	3項目	
	肝炎	290点
2.	4項目	
	肝炎	360点
3.	5項目以上の場合	
	肝炎	438点

免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量（mL）	容器 保存方法（安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
C型肝炎ウイルス関連検査								
4541 5F360	HCV抗体 5F360-1480-023-062	血清 0.6	A1-1 冷蔵	LPIA法 及びCLEIA法	cut off index 判定 ～0.9 (−) 1.0～ (+)	1～2	108 免疫	※1
4997 5F360	HCVコア抗原 5F360-1500-023-051	血清 0.6	A1-1 冷蔵	CLIA法	3.0未満 fmol/L	2～4	108 免疫	
4743 5F360	HCV群別 5F360-1406-023-052	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLEIA法	群判定　表1参照	2～7	227 免疫	C型肝炎の診断が確定した患者に対し、C型肝炎の治療法の選択の目的で実施した場合に、患者1人につき1回に限り算定できる。 ＊ア
7001 5F360	HCV-RNA定量 （リアルタイムPCR法） 5F360-1453-023-875	全血 5.0 注1	カ 凍結 下記参照	リアルタイム PCR法	表2参照 Log IU/mL	3～5	437 微生	急性C型肝炎の診断、C型肝炎の治療法の選択及び治療経過の観察に用いた場合にのみ算定できる。 ＊ア
7903 5F360	ジェノタイプHCV-RNA-PCR 5F360-1405-023-875	全血 2.0 注1	カ 凍結 下記参照	RT-PCR法	Ⅰ型（1a） (−) Ⅱ型（1b） (−) Ⅲ型（2a） (−) Ⅳ型（2b） (−) Ⅴ型（3a） (−)	4～7		＊イ

注1　他の検査と重複しないよう、単独検体で提出して下さい。

※1　［重要な基本的注意］C型肝炎ウイルス（HCV）感染の診断は抗体検査による検査結果のみで行わず、HCV-RNA測定等、他の検査結果及び臨床経過を考慮して総合的に判断して下さい。

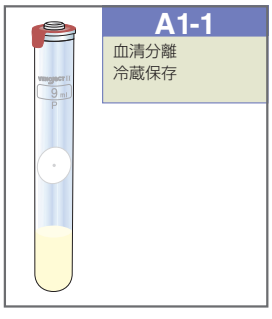
（表1）HCV群別の判定と意義

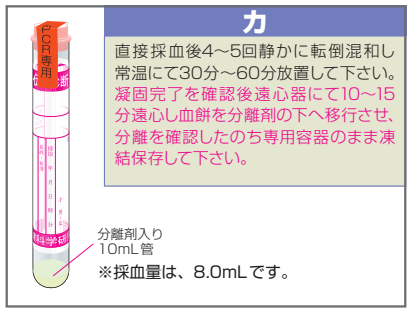
判定	意義
グループ1	PCR法におけるⅠ型、Ⅱ型、に相当します。
グループ2	PCR法におけるⅢ型、Ⅳ型、に相当します。
判定保留	両グループの重複感染、あるいは過去の異なった時期にそれぞれのグループのウイルスに感染した可能性等が考えられます。どちらか一方のウイルスが排除されている可能性を否定しきれないので判定は保留とします。（両グループの抗体が陽性）
判定不能	本検査試薬に用いている抗原に対する抗体が存在しないため、本法によってウイルスのグループ判定を行うことはできません。（両グループの抗体が陰性）

（表2）HCV-RNA定量（リアルタイムPCR法）の判定（単位：Log IU/mL）

	測定結果	判定
定量値	1.2 ～ 8.1 以上	陽性
増幅反応シグナル	（+）	
定量値	1.2 未満	陽性＊
増幅反応シグナル	（+）	
定量値	1.2 未満	陰性
増幅反応シグナル	（−）	

＊ 測定結果が1.2未満であっても、増幅反応シグナルが（+）の場合はウイルスの存在を示しているため、判定は陽性となります。





項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量（mL）	容器 保存方法（安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
レトロウイルス検査								
4265 5F450	**HTLV-Ⅰ抗体（第3世代）** （ATLA） 5F450-1430-023-051	血清 **0.6**	**A1-1** 冷蔵	CLIA法	（−）	2〜4	168 免疫	
3663 5F450	**HTLV-Ⅰ（ATLV）抗体** 〔ラインブロット法・LIA法〕 5F450-1430-023-833	血清 **0.2**	**A1-1** 冷蔵 注1	ラインブロット法 〔LIA法〕	（−）表3参照	5〜8	425 免疫	※1 ＊4

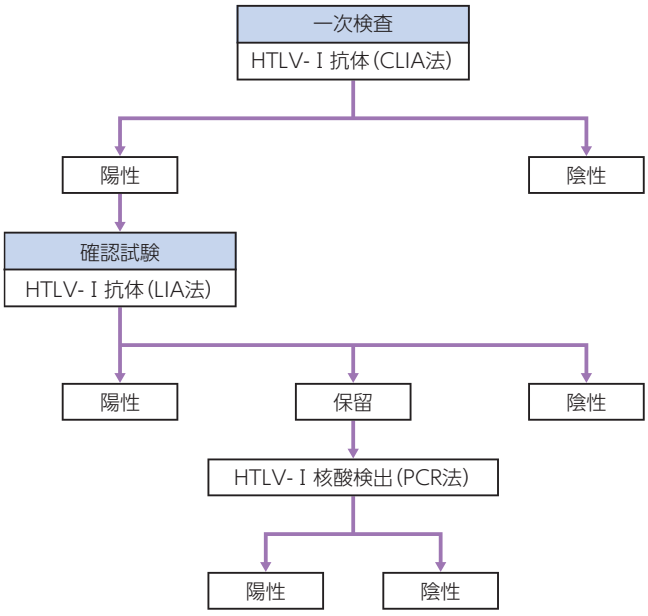
注1　他の検査と重複しないよう、単独検体で提出して下さい。

※1　HTLV-Ⅰ抗体定性又は半定量、又はHTLV-Ⅰ抗体によって陽性が確認された症例について、確定診断の目的で行われた場合にのみ算定する。

（表3）HTLV-Ⅰ抗体ラインブロット法の判定基準

ラインが認められない		陰　性
ラインが1本認められる（≧±）	gag p19かgag p24かenv gp46のいずれかが認められる	陰　性
	env gp21が認められる	保　留
ラインが2本認められる（≧±）	env gp21が認められない	保　留
	env gp21が認められる	陽　性
ラインが3本認められる（≧±）		陽　性

（図1）HTLV-Ⅰ抗体検査フローチャート



※陰性もしくは検出感度以下

実施料について（肝炎）

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

1.	3項目	
	肝炎	290点
2.	4項目	
	肝炎	360点
3.	5項目以上の場合	
	肝炎	438点

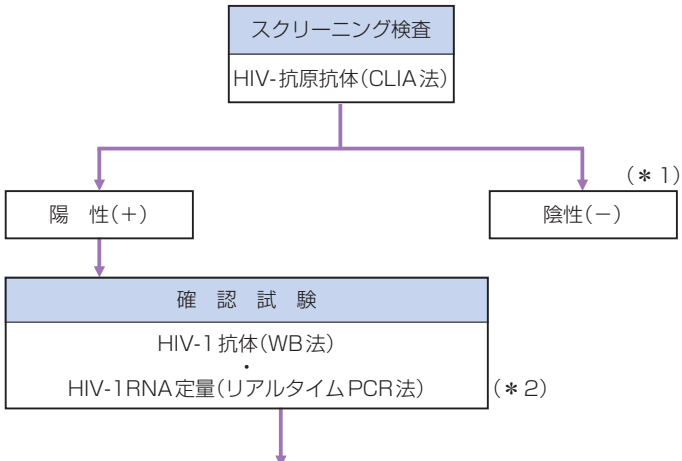
免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量（mL）	容器 保存方法（安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
レトロウイルス検査								
4057 5F560	HIV抗原・抗体 5F560-1550-023-051	血清 0.6	A1-1 冷蔵 注1	CLIA法	(−)図1参照	2〜4	127 免疫	HIVスクリーニング検査 診療報酬請求の項目名称は「HIV-1、2抗原・抗体同時測定定量」としての算定となります。
4363 5F500	HIV-1抗体 5F500-1430-023-833	血清 0.2	A1-1 冷蔵 注1	ウエスタンブロット法	(−)図1参照	3〜11	280 免疫	HIVスクリーニング検査の確認試験 ＊ア
4537 5F550	HIV-2抗体 5F550-1430-023-833	血清 0.2	A1-1 冷蔵 注1	ウエスタンブロット法	(−)	3〜11	380 免疫	
4737 5F500	HIV-1RNA定量 （リアルタイムPCR法） 5F500-1453-022-875	血漿 2.1	ホ 冷蔵 注1	リアルタイムPCR法	2.0×10^{1} 未満 且つ 増幅反応シグナル(−) コピー/mL	4〜8	520 微生	※1 ＊1

注1　HIV関連検査は、他の検査と重複しないよう、単独検体で提出して下さい。

※1　HIV感染者の経過観察に用いた場合又はHIV-1抗体価又はHIV-1、2抗体価が陽性の場合の確認診断に用いた場合にのみ算定する。本検査とHIV-1抗体（ウエスタンブロット法）を併せて実施した場合は、それぞれを加算することができる。

（図1）HIV検査フローチャート・判定



HIV-1抗体（WB法）	HIV-1RNA定量（リアルタイムPCR法） 測定結果	増幅反応シグナル	判定
陽性（＋）	定量値	（＋）	陽　性
	定量下限値以下	（＋）	
		（−）	
判定保留	定量値	（＋）	陽　性
	定量下限値以下	（＋）	陽　性（＊3）
		（−）	陰　性（＊4）
陰性（−）	定量値	（＋）	陽　性
	定量下限値以下	（＋）	陽　性（＊3）
		（−）	陰　性（＊4）

→ 確認追加項目：HIV-2抗体（WB法）

＊1　感染が強く疑われる場合、又は、急性感染を疑う症状がある場合は、数週間後に採血し、再検査を実施することをお勧めします。

＊2　HIV-1抗体（WB法）では感染初期において陰性となることがある為、HIV-RNA定量（リアルタイムPCR法）との同時依頼をお勧めします。

＊3　初期感染の可能性があるため、数週間後にHIV-1 RNA定量検査の再検査を実施するか、一定期間をおいてWB法を実施することをお勧めします。

＊4　感染が強く疑われる場合、又は、急性感染を疑う症状がある場合は、数週間後に採血し、HIV-2抗体（WB法）の確認検査も併せ、再検査を実施することをお勧めします。

《留意事項》

① スクリーニング検査は、非特異反応によって偽陽性を呈することがあります。スクリーニング検査が陽性の場合は、必ず確認検査を実施して下さい。

② スクリーニング検査が陽性でWB法（HIV-1抗体）が陰性又は判定保留の場合、感染初期あるいはHIV-2感染の可能性もあります。

③ HIV-2抗体はHIV-1抗体との交差反応により、偽陽性を呈する場合があります。HIV-2抗体陽性あるいは判定保留時には、結果の解釈にご留意下さい。

④ HIV-1RNA定量は、血中ウイルスが微量の場合、検出感度以下（定量下限値以下）且つ増幅反応シグナルが検出されない場合があります。

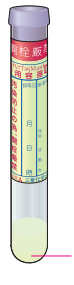
HIV-1RNA定量（リアルタイムPCR法）の測定範囲
2.0×10^{1}〜1.0×10^{7} コピー/mL

※　測定結果が定量下限値以下であっても、増幅反応シグナルが検出の場合は、ウイルスの存在を示しているため、判定は陽性となります。

ホ

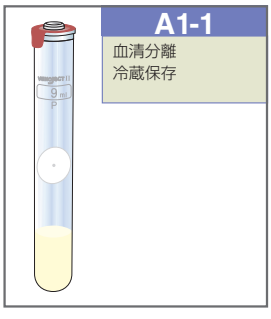
指定の採血量（8mL）を採取後、4〜5回静かに転倒混和して下さい。

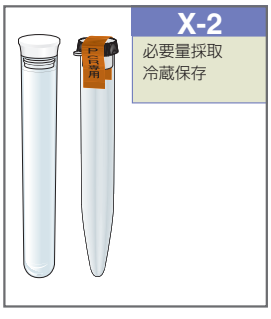
遠心機にて遠心（1,200G±400G、20分）したのち冷蔵保存して下さい。
（凍結厳禁）



ウイルス抗体検査（CF）

項目コード 統一コード	検査項目		検体必要量（mL）	容器 保存方法（安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
7035 5F190	単純ヘルペス（HSV）	5F190-1430-023-141	血清各0.2	A1-1 冷蔵	CF法	血清4倍未満	3～6	79 免疫	
7036 5F193	水痘・帯状ヘルペス（VZV）	5F193-1430-023-141							
7037 5F194	サイトメガロ（CMV）	5F194-1430-023-141						79 免疫	
7040 5F432	ムンプス	5F432-1430-023-141						79 免疫	＊ア
7041 5F150	アデノ	5F150-1430-023-141 5F150-1430-041-141	血清各0.2 又は 髄液各0.4	A1-1 又は X-2 冷蔵		血清4倍未満 髄液1倍未満	4～8	79 免疫	
7058 5F400	インフルエンザ	A型 5F400-1430-023-141 5F400-1430-041-141						79 免疫	
7059 5F410		B型 5F410-1430-023-141 5F410-1430-041-141						79 免疫	
7042 5F430	RS	5F430-1430-023-141 5F430-1430-041-141						79 免疫	
7043 5F385	日本脳炎	5F385-1430-023-141 5F385-1430-041-141						79 免疫	
7045 5F289	コクサッキーA群	9型 5F289-1430-023-141 5F289-1430-041-141						79 免疫	＊4
7046 5F301	コクサッキーB群	1型 5F301-1430-023-141 5F301-1430-041-141							
7047 5F302		2型 5F302-1430-023-141 5F302-1430-041-141							
7048 5F303		3型 5F303-1430-023-141 5F303-1430-041-141							
7049 5F304		4型 5F304-1430-023-141 5F304-1430-041-141							
7050 5F305		5型 5F305-1430-023-141 5F305-1430-041-141							
7051 5F306		6型 5F306-1430-023-141 5F306-1430-041-141							

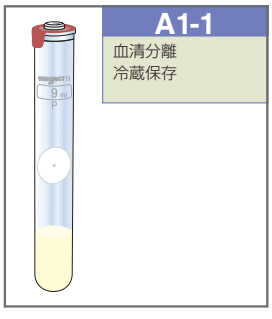


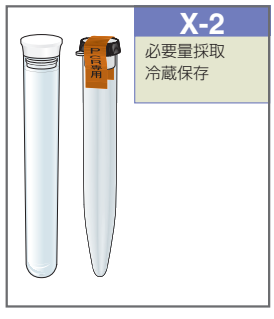


免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検査項目		検体必要量（mL）	容器 保存方法（安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
ウイルス抗体検査（HI）									
7072 5F432	ムンプス 5F432-1430-023-111		血清0.2	A1-1 冷蔵	HI法	血清8倍未満	3～6	79 免疫	
7114 5F431	麻疹 5F431-1430-023-111		血清各0.2	A1-1 冷蔵		血清8倍未満	3～8	79 免疫	
7038 5F395	風疹 5F395-1430-023-111					血清8倍未満	3～5	79 免疫	＊ア
7224 5F400	インフルエンザ	A型 （H_1N_1）（H_3N_2） 5F400-1430-023-111 5F400-1430-041-111	血清各0.2 又は 髄液各0.4	A1-1 又は X-2 冷蔵		血清10倍未満 髄液10倍未満	4～8	79 免疫	
7227 5F410		B型 （山形系統）（ビクトリア系統） 5F410-1430-023-111 5F410-1430-041-111						79 免疫	
7061 5F421	パラインフルエンザ	1型 5F421-1430-023-111	血清各0.2	A1-1 冷蔵		血清10倍未満	4～8	79 免疫	
7062 5F422		2型 5F422-1430-023-111						79 免疫	
7063 5F423		3型 5F423-1430-023-111						79 免疫	
7216 5F313	エコー	3型 5F313-1430-023-111 5F313-1430-041-111	血清各0.2 又は 髄液各0.4	A1-1 又は X-2 冷蔵		血清8倍未満 髄液8倍未満	4～8	79 免疫	
7217 5F317		7型 5F317-1430-023-111 5F317-1430-041-111							
7218 5F321		11型 5F321-1430-023-111 5F321-1430-041-111							
7219 5F322		12型 5F322-1430-023-111 5F322-1430-041-111							
7222 5F385	日本脳炎 （JaGAr株） 5F385-1430-023-111 5F385-1430-041-111		血清0.5 又は 髄液1.0	A1-1 又は X-2 冷蔵		血清10倍未満 髄液10倍未満	6～10	79 免疫	＊4

（注）（1）ウイルス感染症の診断は原則として急性期（発病初期）と回復期（2～3週間後）の血清について同時に検査し、その差が4倍以上の場合感染と考えられる。
（2）検体検査実施料の算定にあたっては、同一検体につきウイルス抗体価測定を行った場合は、8項目を限度とする。
又、同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても所定点数のみ算定する。





ウイルス中和抗体検査（NT）

項目コード 統一コード	検査項目		検体必要量（mL）	容器 保存方法（安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
7110 5F191	単純ヘルペス（HSV）	1型 5F191-1430-023-151 5F191-1430-041-151	血清各0.2 又は 髄液各0.4	A1-1 又は X-2 冷蔵	NT法	血清4倍未満 髄液1倍未満	8～15	79 免疫	
7111 5F192		2型 5F192-1430-023-151 5F192-1430-041-151							
7147 5F432	ムンプス	5F432-1430-023-151 5F432-1430-041-151						79 免疫	
7196 5F151	アデノ	1型 5F151-1430-023-151 5F151-1430-041-151						79 免疫	
7197 5F152		2型 5F152-1430-023-151 5F152-1430-041-151							
7198 5F153		3型 5F153-1430-023-151 5F153-1430-041-151							
7199 5F154		4型 5F154-1430-023-151 5F154-1430-041-151							
7200 5F155		5型 5F155-1430-023-151 5F155-1430-041-151							
7201 5F156		6型 5F156-1430-023-151 5F156-1430-041-151							
7202 5F157		7型 5F157-1430-023-151 5F157-1430-041-151							
7203 5F158		8型 5F158-1430-023-151 5F158-1430-041-151							
7204 5F161		11型 5F161-1430-023-151 5F161-1430-041-151							
7205 5F169		19型 5F169-1430-023-151 5F169-1430-041-151							
7441 5F171		21型 5F171-1430-023-151 5F171-1430-041-151							
7731 5F177		37型 5F177-1430-023-151 5F177-1430-041-151							
7215 5F430	RS	5F430-1430-023-151 5F430-1430-041-151						79 免疫	
7214 5F431	麻疹	5F431-1430-023-151 5F431-1430-041-151						79 免疫	＊4

（注）（1）ウイルス感染症の診断は原則として急性期（発病初期）と回復期（2～3週間後）の血清について同時に検査し、その差が4倍以上の場合感染と考えられる。
（2）検体検査実施料の算定にあたっては、同一検体につきウイルス抗体価測定を行った場合は、8項目を限度とする。又、同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても所定点数のみ算定する。

免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検査項目		検体必要量（mL）	容器 保存方法（安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
ウイルス中和抗体検査（NT）									
7402 5F282	コクサッキーA群	2型 5F282-1430-023-151 5F282-1430-041-151	血清各0.2 又は 髄液各0.4	A1-1 又は X-2 冷蔵	NT法	血清4倍未満 髄液1倍未満	8～15	79 免疫	＊4
7403 5F283		3型 5F283-1430-023-151 5F283-1430-041-151							
7209 5F284		4型 5F284-1430-023-151 5F284-1430-041-151							
7404 5F285		5型 5F285-1430-023-151 5F285-1430-041-151							
7210 5F286		6型 5F286-1430-023-151 5F286-1430-041-151							
7211 5F287		7型 5F287-1430-023-151 5F287-1430-041-151							
7212 5F289		9型 5F289-1430-023-151 5F289-1430-041-151							
7213 5F290		10型 5F290-1430-023-151 5F290-1430-041-151							
7120 5F296		16型 5F296-1430-023-151 5F296-1430-041-151							
7121 5F301	コクサッキーB群	1型 5F301-1430-023-151 5F301-1430-041-151							
7122 5F302		2型 5F302-1430-023-151 5F302-1430-041-151							
7123 5F303		3型 5F303-1430-023-151 5F303-1430-041-151							
7124 5F304		4型 5F304-1430-023-151 5F304-1430-041-151							
7125 5F305		5型 5F305-1430-023-151 5F305-1430-041-151							
7126 5F306		6型 5F306-1430-023-151 5F306-1430-041-151							
7176 5F311	エコー	1型 5F311-1430-023-151 5F311-1430-041-151							
7177 5F313		3型 5F313-1430-023-151 5F313-1430-041-151							
7178 5F314		4型 5F314-1430-023-151 5F314-1430-041-151							
7179 5F315		5型 5F315-1430-023-151 5F315-1430-041-151							

（注）（1）ウイルス感染症の診断は原則として急性期（発病初期）と回復期（2～3週間後）の血清について同時に検査し、その差が4倍以上の場合感染と考えられる。

（2）検体検査実施料の算定にあたっては、同一検体につきウイルス抗体価測定を行った場合は、8項目を限度とする。又、同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても所定点数のみ算定する。

ウイルス中和抗体検査（NT）

項目コード 統一コード	検査項目		検体必要量（mL）	容器 保存方法（安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
7180 5F316	エコー	6型 5F316-1430-023-151 5F316-1430-041-151	血清各0.2 又は 髄液各0.4	A1-1 又は X-2 冷蔵	NT法	血清4倍未満 髄液1倍未満	8～15	79 免疫	
7181 5F317		7型 5F317-1430-023-151 5F317-1430-041-151							
7182 5F319		9型 5F319-1430-023-151 5F319-1430-041-151							
7183 5F321		11型 5F321-1430-023-151 5F321-1430-041-151							
7184 5F322		12型 5F322-1430-023-151 5F322-1430-041-151							
7185 5F323		13型 5F323-1430-023-151 5F323-1430-041-151							
7186 5F324		14型 5F324-1430-023-151 5F324-1430-041-151							
7187 5F326		16型 5F326-1430-023-151 5F326-1430-041-151					6～14		
7188 5F327		17型 5F327-1430-023-151 5F327-1430-041-151					8～15		
7189 5F328		18型 5F328-1430-023-151 5F328-1430-041-151					6～14		
7190 5F329		19型 5F329-1430-023-151 5F329-1430-041-151					8～15		
7191 5F331		21型 5F331-1430-023-151 5F331-1430-041-151							
7192 5F332		22型 5F332-1430-023-151 5F332-1430-041-151							
7193 5F334		24型 5F334-1430-023-151 5F334-1430-041-151							
7194 5F335		25型 5F335-1430-023-151 5F335-1430-041-151							
7195 5F340		30型 5F340-1430-023-151 5F340-1430-041-151							
7136 5F270	エンテロ	70型 5F270-1430-023-151 5F270-1430-041-151					7～14		
7137 5F271		71型 5F271-1430-023-151 5F271-1430-041-151							＊4

（注）（1）ウイルス感染症の診断は原則として急性期（発病初期）と回復期（2～3週間後）の血清について同時に検査し、その差が4倍以上の場合感染と考えられる。
（2）検体検査実施料の算定にあたっては、同一検体につきウイルス抗体価測定を行った場合は、8項目を限度とする。又、同一ウイルスに対する複数の測定方法を行った場合であっても所定点数のみ算定する。

免疫学的検査（ウイルス）

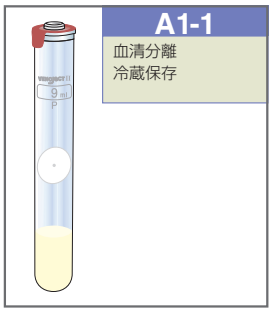
ウイルス抗体検査（FA）

項目コード 統一コード	検査項目		検体必要量（mL）	容器 保存方法（安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
7065 5F202	EBウイルス	抗VCA IgG抗体 5F202-1431-023-162	血清各0.3	A1-1 冷蔵	FA法	血清10倍未満	4～8	212 免疫	＊1
7067 5F202		抗VCA IgM抗体 5F202-1432-023-162							
7068 5F203		抗EA-DR IgG抗体 5F203-1431-023-162							
7070 5F204		抗EBNA抗体 5F204-1430-023-162						79 免疫	＊1
7066 5F202		抗VCA IgA抗体 5F202-1433-023-162							
7069 5F203		抗EA-DR IgA抗体 5F203-1433-023-162 5F203-1433-041-162	血清各0.2 又は 髄液各0.4	A1-1 又は X-2 冷蔵		血清10倍未満 髄液 1倍未満	4～8		＊4
7074 5F203		抗EA-DR IgM抗体 5F203-1432-023-162 5F203-1432-041-162							＊4

ウイルス抗体検査（EIA）

項目コード 統一コード	検査項目		検体必要量（mL）	容器 保存方法（安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
7895 5F203	EBウイルス	抗EA IgG抗体 5F203-1431-023-023	血清各0.5	A1-1 冷蔵	EIA法	抗体指数 判定 0.5未満 (−) 0.5～0.9 (±) 1.0以上 (+)	4～8	212 免疫	＊E
7896 5F204		抗EBNA IgG抗体 5F204-1431-023-023							
7897 5F202		抗VCA IgG抗体 5F202-1431-023-023							
7898 5F202		抗VCA IgM抗体 5F202-1432-023-023							
7167 5F011	ヒトパルボB19	IgG抗体 5F011-1431-023-023	血清0.2	A1-1 冷蔵	EIA法	表1参照	3～6		＊ア
7250 5F011		IgM抗体 5F011-1432-023-023	血清0.2	A1-1 冷蔵	EIA法			212 免疫	紅斑が出現している15歳以上の成人について、このウイルスによる感染症が強く疑われ、IgM型ウイルス抗体価を測定した場合に算定する。＊ア

（注）検体検査実施料の算定にあたっては、同一検体につきグロブリンクラス別ウイルス抗体価精密測定を行った場合は、2項目を限度とする。ウイルス抗体価と併せて実施した場合は、いずれか一方の点数を算定する。



（表1）ヒトパルボB19 IgG・IgM 抗体判定基準

判定	指数
(−)	0.80未満
(+−)	0.80～0.99
(+)	1.00以上

【ヒトパルボB19 IgG・IgM抗体判定上の留意事項】

1. IgM型抗体検出とIgG型抗体検出を併用することにより、ヒトパルボB19感染においてどの時期にあるのか（未感染であるのか、最近の感染であるのか、過去における感染であるのか）を判定することができます。一般的にIgM型抗体とIgG型抗体共に陰性の場合はヒトパルボB19未感染でありIgM型抗体が陽性の場合は、IgG型抗体の判定結果を問わず、ヒトパルボB19の最近の感染であると考えられます。IgM型抗体が陰性で、IgG型抗体が陽性の場合は、過去における感染の可能性が高いと考えられます。
2. 判定保留となった場合、1～2週間後に再度採血するか、又はPCR法などの他の方法及び臨床症状などから総合的に判定を行って下さい。

ウイルス抗体検査（EIA）

項目コード 統一コード	検査項目		検体必要量（mL）	容器 保存方法（安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
7648 5F395	風疹IgG抗体〔CLEIA〕 5F395-1431-023-052		血清0.4	A1-1 冷蔵	CLEIA法	抗体価(IU/mL) 判定 10未満 (−) 10～15 (±) 15以上 (+)	2～5	212 免疫	
7654 5F395	風疹	IgG抗体 5F395-1431-023-023	血清0.2	A1-1 冷蔵	EIA法	表2参照	3～5	212 免疫	＊ア
7238 5F395		IgM抗体 5F395-1432-023-023	血清0.2	A1-1 冷蔵	EIA法	表3参照			
7100 5F395	風疹ウイルスIgG抗体（CLEIA）クーポン 5F395-1431-023-052		血清0.4	A1-1 冷蔵	CLEIA法	20未満 IU/mL	2～7		基準値はワクチン接種の対象となる抗体価を記載しております。＊イ
7657 5F431	麻疹	IgG抗体 5F431-1431-023-023	血清0.2	A1-1 冷蔵	EIA法	表2参照	3～5	212 免疫	＊ア
7142 5F431		IgM抗体 5F431-1432-023-023	血清0.2	A1-1 冷蔵	EIA法	表3参照			
7139 5F190	単純ヘルペス（HSV）	IgG抗体 5F190-1431-023-023 5F190-1431-041-023	血清各0.2 又は 髄液各0.4	A1-1又は X-2 冷蔵	EIA法	表3参照	3～6	212 免疫	＊ア
7241 5F190		IgM抗体 5F190-1432-023-023	血清各0.2	A1-1 冷蔵					
7140 5F193	水痘・帯状ヘルペス（VZV）	IgG抗体 5F193-1431-023-023						212 免疫	＊ア
7244 5F193		IgM抗体 5F193-1432-023-023							
7902 5F194	サイトメガロウイルス（CMV）	IgG抗体 5F194-1431-023-051	血清0.4	A1-1 冷蔵	CLIA法	表4参照	2～4	212 免疫	
7999 5F194		IgM抗体 5F194-1432-023-051							
7116 5F432	ムンプス	IgG抗体 5F432-1431-023-023	血清各0.2	A1-1 冷蔵	EIA法	表3参照	3～6	212 免疫	＊ア
7115 5F432		IgM抗体 5F432-1432-023-023							

（注）検体検査実施料の算定に当たっては、同一検体につきグロブリンクラス別ウイルス抗体価精密測定を行った場合は、2項目を限度とする。ウイルス抗体価と併せて実施した場合は、いずれか一方の点数を算定する。

（表2）風疹・麻疹 IgG 抗体 判定基準

判定	抗体価
(−)	2.0未満
(+−)	2.0～4.0未満
(+)	4.0以上

（表3）ウイルス抗体検査 判定基準

		判定	EIA価			判定	EIA価
血清	IgG	(−)	2.0未満	髄液	IgG	(−)	0.20未満
		(+−)	2.0～3.9			(+−)	0.20～0.39
		(+)	4.0以上			(+)	0.40以上
	IgM	判定	抗体指数				
		(−)	0.80未満				
		(+−)	0.80～1.20				
		(+)	1.21以上				

（表4）サイトメガロウイルス IgG・IgM 抗体判定基準

	判定	AU/mL		判定	S/CO
IgG	(−)	6.0未満	IgM	(−)	0.85未満
	(+)	6.0以上		(+−)	0.85～0.99
				(+)	1.00以上

免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検　査　項　目	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
ウイルス分離・同定								
7031 6B655	**ウイルス分離** 6B655-0000-099-920	下記参照	ト 下記参照	細胞変性効果、血球吸着現象、赤血球凝集反応		5 ～ 24		分離、同定検査は以下の細胞を使用しています。 PHfb（ヒト繊維芽細胞）、HEp-2（ヒト喉頭癌細胞）、Vero（ミドリザル腎細胞）、MA104（アカゲザル腎細胞）、RD-18S（ヒト横紋筋腫細胞）、MDCK（イヌ腎細胞）、B95a（マーモセットB細胞）、AGMK（アフリカミドリザル腎細胞）、A549（ヒト肺癌細胞）、Caco-2（ヒト結腸腺癌細胞）　＊4
7032 6B705	**ウイルス同定** 6B705-0000-099-920	下記参照	ト 下記参照	標準抗血清による中和反応・免疫蛍光抗体法・赤血球凝集抑制反応		14 ～ 32		

〈検査材料〉

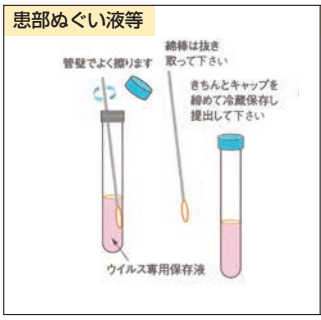
ウイルス分離・同定検査を実施するためには適切な分離用検査材料と、同時に発病後できるだけ早期に採取することが大切です。ウイルス分離材料の選択は、分離率向上のため、できる限り複数の材料をご提出下さい。

臨床症状	分離可能ウイルス	主要検査材料
上気道感染症	ライノ、パラインフルエンザ	咽頭ぬぐい液、鼻分泌液
	アデノ、コクサッキー、エコー	咽頭ぬぐい液、糞便
下気道感染症	インフルエンザ、パラインフルエンザ、アデノ、RS、サイトメガロ	咽頭ぬぐい液、喀痰、気管支洗浄液
紅斑性発疹症	麻疹、風疹	咽頭ぬぐい液
	エコー、コクサッキー	咽頭ぬぐい液、糞便
水疱性発疹症	単純ヘルペス、水痘・帯状ヘルペス	水疱内容
	コクサッキー、エンテロ71	水疱内容、咽頭ぬぐい液、糞便
中枢神経系疾患	エコー、コクサッキー、ポリオ	咽頭ぬぐい液、髄液、糞便
	水痘・帯状ヘルペス、ムンプス	咽頭ぬぐい液、髄液
先天性異常	サイトメガロ、風疹	咽頭ぬぐい液、尿、髄液
	単純ヘルペス、水痘・帯状ヘルペス	水疱内容
嘔吐下痢症	エコー、コクサッキー、アデノ	咽頭ぬぐい液、糞便
	ロタ	糞便
出血性膀胱炎	アデノ	尿
耳下腺炎	ムンプス	咽頭ぬぐい液
眼疾患	アデノ、単純ヘルペス、水痘・帯状ヘルペス	結膜ぬぐい液

〈検体採取及び保存方法〉

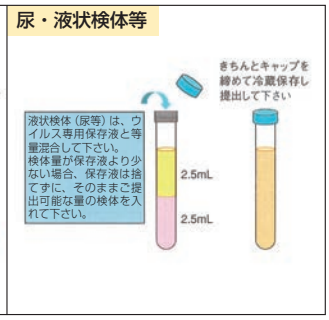
検査材料	培養細胞試験管に採取する場合
患部ぬぐい液・水疱内容 糞便など	滅菌綿棒でぬぐい、右記の採取方法でウイルス専用保存液に採取し、冷蔵保存して下さい。
尿・髄液・胸水・鼻汁など	右記の採取方法でウイルス専用保存液と等量の検体を採取し、冷蔵保存して下さい。
組　　織	組織小片（5mm角程度）をウイルス専用保存液に入れ冷蔵保存して下さい。

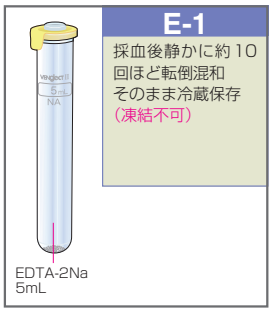
患部ぬぐい液等



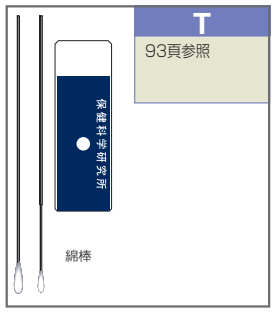
糞便

尿・液状検体等

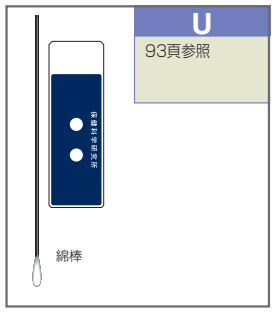




E-1
採血後静かに約10回ほど転倒混和そのまま冷蔵保存（凍結不可）

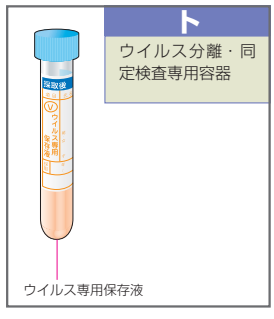


T
93頁参照



U
93頁参照

イ
新鮮糞便を小指頭大容器に取りしっかりフタを閉める



ト
ウイルス分離・同定検査専用容器

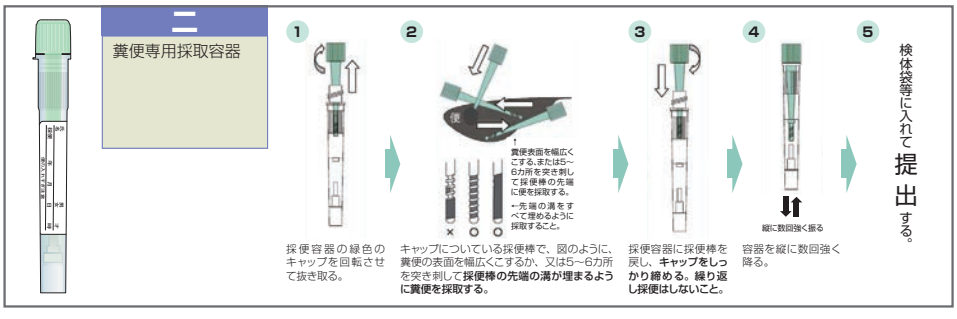
項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量（mL）	容器 保存方法（安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
抗原検査								
(7714) 5F194	曜日指定 **サイトメガロウイルス pp65抗原定性（C10，C11）** CMV（C10，C11） 5F194-1421-019-173	全血 **5.0**	**E-1** 冷蔵 注1	間接酵素抗体法（免疫染色法）	(−) 注2	3〜5	377 免疫	凍結不可 休日の前日は受付できません。 ※1 ＊ア
7033 5F190	**単純ヘルペスウイルス(HSV)抗原** 5F190-1420-094-161	患部細胞	**U** 凍結	FA法	(−)	2〜4	180 免疫	1型2型同定 ヘルペスウイルスの型別確認を行った場合算定できる。 ＊ア
7019 5F193	**水痘帯状ヘルペス(VZV)抗原** 5F193-1410-094-161	患部細胞	**T** 凍結	FA法	(−)	2〜4	233 免疫	＊ア
7146 5F610	**ロタウイルス抗原定性** 5F610-1410-015-190	糞便 **1.0**g	**イ** 凍結	イムノクロマト法	(−)	2〜4	65 免疫	＊ア
7790 5F630	**ノロウイルス抗原定性** 5F630-1410-015-190	糞便 **0.5**g	**イ** 凍結	イムノクロマト法	(−)	2〜4	150 免疫	※2 ＊ア
7844 5F630	**ノロウイルス抗原〔BLEIA〕** 5F630-1410-015-054	糞便	**二** 冷蔵	BLEIA法	(−)			所要日数は時期によって異なります。 4〜9月：3〜8日 10〜3月：3〜6日 ＊ア

注1　（サイトメガロウイルス抗原（C10，C11）検体採取提出上の注意事項）
用時調整試薬がありますので予めご連絡下さい。採血後すみやかに提出して下さい。採血後24時間以内の血液を使用しない場合、検出率の低下が認められます。休日の前日は受付できません。

注2　（サイトメガロウイルス抗原（C10，C11）検査結果の判定基準）
末梢白血球 1.5×10^5 個について陽性細胞数の計数測定を二重測定（3.0×10^5 個）で行い、1枚以上のスライドに1個以上の陽性細胞を認めるとき、判定は陽性（+）、まったく認めないとき判定は陰性（−）となります。
所定量の白血球が回収できない場合を判定保留とします。

※1　臓器移植後もしくは造血幹細胞移植後の患者又はHIV感染者又は高度細胞性免疫不全の患者に対して行った場合のみ算定できる。但し、高度細胞性免疫不全の患者については、当該検査が必要であった理由について、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

※2　ノロウイルス抗原定性は、以下のいずれかに該当する患者について、当該ウイルス感染症が疑われる場合に算定する。
ア 3歳未満の患者
イ 65歳以上の患者
ウ 悪性腫瘍の診断が確定している患者
エ 臓器移植後の患者
オ 抗悪性腫瘍剤、免疫抑制剤、又は免疫抑制効果のある薬剤を投与中の患者



免疫学的検査（ウイルス）

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量（mL）	容器 保存方法（安定性）	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
抗原検査								
7405 5F101	HPV-DNA検出（高リスク） 5F101-1405-085-842	子宮頸部擦過細胞	キ 冷蔵	ハイブリッドキャプチャー法	index　1.00未満（−）	3～6	350 微生	※1、※2、※5 ＊ア
7611 5F101	HPV-DNA簡易ジェノタイプ （16型、18型その他ハイリスクグループ） 5F101-1405-085-862	子宮頸部擦過細胞	W4 冷蔵 注1	リアルタイムPCR法	16型　（−） 18型　（−） その他 ハイリスクグループ　（−）	3～6	360 微生	※1、※2、※5 血液が混入していると、データに影響を及ぼす場合がありますので、ご注意下さい。 ＊ア
7581 5F101	HPV-DNAジェノタイプ （ハイリスク13種） 5F101-1405-085-898	子宮頸部擦過細胞	W4 冷蔵 注1	PCR-rSSO法	（−）	4～12	2000 微生	※3、※4、※5 ＊イ
7541 5F100	HPV-DNA型別 5F100-1405-085-898	子宮頸部擦過細胞	W4 冷蔵 注1	PCR-rSSO法	（−）	4～12		＊イ

※1　予め行われた細胞診の結果、ベセスダ分類上ASC-US（意義不明異型扁平上皮）と判定された患者又は過去に子宮頸部円錐切除若しくはレーザー照射治療を行った患者に対して行った場合に限り算定できる。なお、過去に子宮頸部円錐切除又はレーザー照射治療を行った患者以外の患者については、細胞診と同時に実施した場合は算定できない。

※2　HPV核酸検出とHPV核酸検出（簡易ジェノタイプ判定）を併せて実施した場合は、主たるもの１つに限り算定する。

※3　予め行われた組織診断の結果、CIN1又はCIN2と判定された患者に対し、治療方針の決定を目的として、ハイリスク型HPVのそれぞれの有無を確認した場合に算定する。

※4　予め行われた組織診断の結果及び組織診断の実施日、及び当該検査によって選択した治療法を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。又、同一の患者について、当該検査を２回目以降行う場合は、当該検査の前回実施日、及び前回選択した治療（その後通常の検診となった場合はその旨）を上記に併せて記載する。

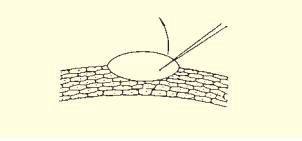
※5　HPV核酸検出の施設基準を届け出ている保健医療機関のみ算定できる。

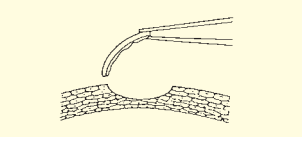
注1　コンタミネーションの影響がより大きい為、検体採取にあたっては取り扱いにご注意下さい。又、他項目との重複依頼は避けて下さい。

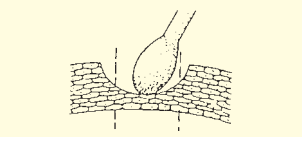
（表１）HPV-DNA検出対象HPV型一覧

項目コード	検査項目	検出対象HPV型	備考
7405	HPV-DNA検出（高リスク）	16、18、31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、68型の高リスク型HPVを検出します。	型別判定はできません。
7611	HPV-DNA簡易ジェノタイプ （16型、18型、その他ハイリスク）	16、18及び、その他高リスク型（31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、66、68）のHPVを検出します。	16、18型については型別判定を行います。その他高リスクは型別判定ではありません。
7581	HPV-DNAジェノタイプ （ハイリスク13種）	16、18、31、33、35、39、45、51、52、56、58、59、68型のHPVを検出します。	型別判定を実施し、検出された型のみをご報告します。
7541	HPV-DNA型別	6、11、16、18、26、31、33、35、39、42、44、45、51、52、53、54、55、56、58、59、61、62、66、68、70、71、73、82、84、90およびCP6108型のHPVを検出致します。	型別判定を実施し、検出された型のみをご報告します。なお、下線のあるHPV型は陽性と判定してご報告します。

単純ヘルペスウイルス抗原・水痘帯状ヘルペス抗原　検体採取保存方法





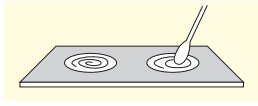


なるべく早期の水疱病巣から検体を採取して下さい。
水疱内溶液は検体として不適当です。

① 水泡がある場合は、滅菌針を用いて上部の皮膚をはがし、水疱内溶液を除去して病巣基底部を露出させます。

② ポリエステル綿棒を精製水で軽く湿らせます。病巣基底部全面を強くぬぐいます。
- ウイルス感染細胞は病巣基底部の細胞を採取する必要があります。
- 患者が痛いという位強くぬぐうことが大切です。
- 膿が出ている場合は、清潔な**綿棒**でまず膿をぬぐい去った後、別の綿棒で細胞を擦過して下さい。

③ 採取した検体（**擦過細胞**）を、無蛍光スライドグラスT又はUのウェル内に円を描くように、綿棒を回転させながら塗抹します。
この時、こすったりせず軽く叩くように塗抹して下さい。



④ 綿棒を捨てる前に検体がウェル内に均一に広がっているかどうか確認します。均一になっていればウェルが不透明に見えます。透明に見える部分があればそこに綿棒をあてて再び塗抹します。

⑤ そのままよく風乾します。
完全に乾燥させないと後の処理の途中で、検体がはがれ落ちる原因となります。

⑥ アセトンで固定します。
無蛍光スライドグラスの検体を塗抹した面を上にし水平に置き、検体の上に約0.5mLのアセトンを滴下し、アセトンを蒸発させます。

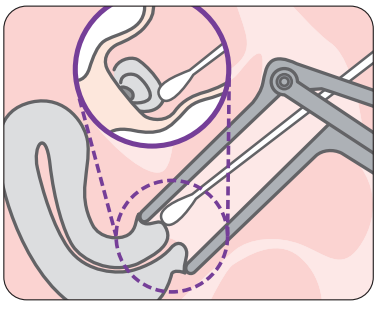
⑦ 提出容器に納め、凍結保存して下さい。

HPV検体採取方法

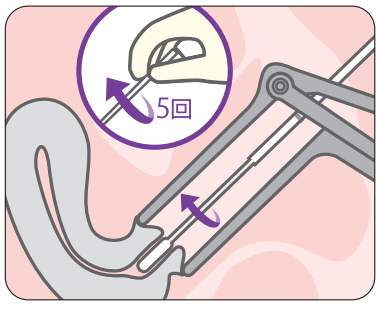
キ

採取方法 妊娠中の女性へは、ブラシタイプのご使用は避けて綿棒タイプをご使用下さい。

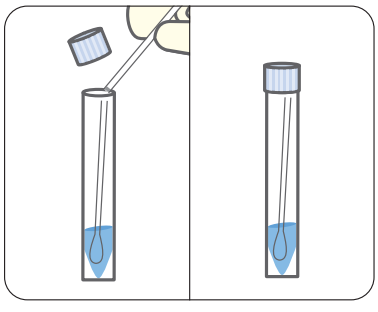
1 綿棒タイプを用いての検体採取と保存方法



①１本目のサンプラー（綿棒）を用いて子宮口と周辺の子宮膣部の過剰な粘液を取り除きます。

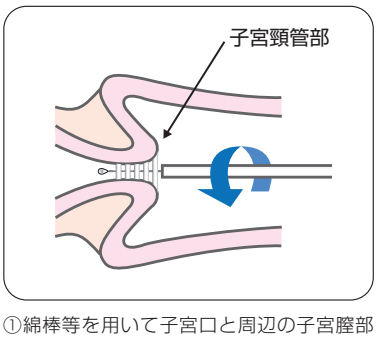


②２本目のサンプラー（綿棒）を用いて子宮頸管内に挿入し、５回、交互に180度回転させ、擦過物を採取します。
細胞変化領域が見られる場合はその部分をしっかりとこすって採取します。
（膣粘膜との接触は避けて下さい。）

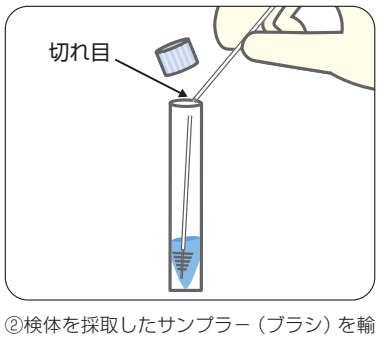


③検体を採取したサンプラー（綿棒）を輸送用チューブに入れサンプラーの軸を切れ目の入った所で折って、しっかりとキャップします。
採取した検体は２～８℃で保存して下さい。

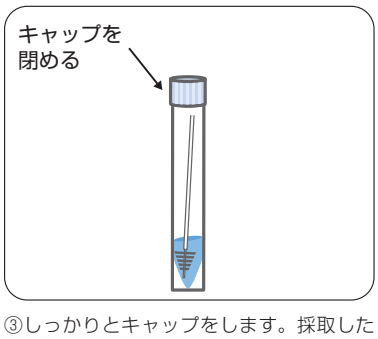
2 ブラシタイプを用いての検体採取と保存方法



①綿棒等を用いて子宮口と周辺の子宮膣部の過剰な粘膜を取り除く。
サンプラー（ブラシ）を子宮頸管に１～1.5cm位挿入し、３回、反時計周りに回転させ擦過物を採取します。



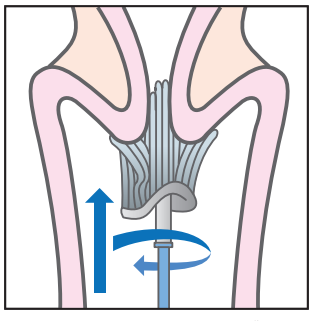
②検体を採取したサンプラー（ブラシ）を輸送用チューブに入れ、サンプラーの軸を切れ目の入ったところで折ります。



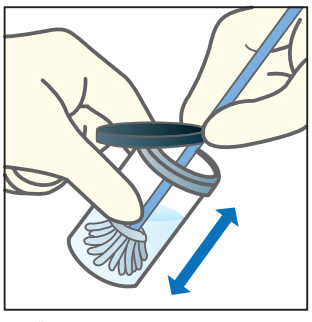
③しっかりとキャップをします。採取した検体は２～８℃で保存して下さい。

【注意】
- 妊娠中の女性への使用は避けて下さい。
- 検体採取時に、ブラシの軸が大きく曲がるほど強く押し付けたり、擦過したりすると切れ目の位置で折れる可能性がありますので、注意して下さい。
- 子宮頸部細胞診を実施する場合には、「HPV-DNA検出（高リスク）」用の検体より前に採取して下さい。コルポスコピーを実施する場合には、「HPV-DNA検出（高リスク）」用の検体を採取後に実施して下さい。

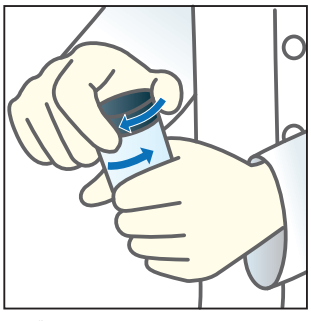
W4 液状検体細胞診〔LBC〕シンプレップ



①綿棒等以外の採取器具（ブラシ、スパーテル）を用い検体を採取します。



②ブラシを容器に入れ、容器の底で毛先が広がるように10回程度押し付けます。
さらに、強くかき回して、採取した細胞を洗い落とします。



③ブラシを取り出して廃棄し、しっかり蓋をして検体を冷蔵保存にて提出して下さい。

（注）ブラシの先端は容器に残さないで下さい。

（注意）
妊婦より検体を採取する場合は安全性を考慮してブラシ等の採取器具の使用は避け、安全性の高い綿棒を使用して下さい。但し、綿棒では適切な細胞量が採取できないこともあるため取り直しが必要になることもあります。綿棒では無理な力がかかりますと折れる可能性がありますので十分にご注意下さい。

血液学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
血液形態・機能検査								
2001 2A010	**白血球数** (WBC) 2A010-0000-019-309	全血 2.0	B-1 冷蔵	フローサイトメトリー法	M 3900～9800 F 3500～9100 /μL	1～2	21 血液	緊急 (対象：WBC、RBC、Hb、PLT) 凍結不可 末梢血液一般検査
2002 2A020	**赤血球数** (RBC) 2A020-0000-019-309	全血 2.0	B-1 冷蔵	電気抵抗法	M 427～570 F 376～500 ×10⁴/μL	1～2		
2003 2A030	**ヘモグロビン** (Hb)(血色素量) 2A030-0000-019-309	全血 2.0	B-1 冷蔵	SLS-ヘモグロビン法	M 13.5～17.6 F 11.3～15.2 g/dL	1～2		
2004 2A040	**ヘマトクリット** (Ht) 2A040-0000-019-309	全血 2.0	B-1 冷蔵	赤血球パルス波高値検出法	M 39.8～51.8 F 33.4～44.9 %	1～2		
(2103) 2A060	**MCV** (平均赤血球容積) 2A060-0000-019-919	全血 2.0	B-1 冷蔵	計算法	M 83～102 F 79～100 fL	1～2		
(2104) 2A070	**MCH** (平均赤血球血色素量) 2A070-0000-019-919	全血 2.0	B-1 冷蔵	計算法	M 28.0～34.6 F 26.3～34.3 pg	1～2		
(2105) 2A080	**MCHC** (平均赤血球血色素濃度) 2A080-0000-019-919	全血 2.0	B-1 冷蔵	計算法	M 31.6～36.6 F 30.7～36.6 %	1～2		
2005 2A050	**血小板数** (PLT) 2A050-0000-019-309	全血 2.0	B-1 冷蔵	電気抵抗法	13.0～36.9 ×10⁴/μL	1～2		
(2174) 2A160	**白血球像** 2A160-0000-019-309	全血 2.0	B-1 冷蔵	自動機械法	下記参照 %	1～3	15 血液	緊急 (対象：白血球像) 精査は鏡検法により実施致します。※1、3 凍結不可 標本による受託も可能です。 ※2
(2175) 2A160	**赤血球像** 2A160-0000-019-310	全血 2.0	B-1 冷蔵	鏡検法	赤芽球 (−) 大小不同(−) 多染性 (−) 奇形 (−)	1～3		

※1 次の場合、鏡検法による精査分類の上NeutroをStab、Segに分けてご報告します。
①血液疾患加療中の患者、又はその疑いのある患者で特別に指示のある場合、②芽球、異型リンパ球の出現。③好中球左方移動、④有核赤血球の出現、⑤血球計算値に異常が認められたとき、又は百分率が基準値を大きく超えた場合。

※2 好酸球数及び末梢血液像（白血球像、赤血球像）を同時に行った場合は、主たる検査の点数のみを算定する。

※3 白血球像、赤血球像の結果における（+)の報告表現は、百分率：1.0%未満を示します。

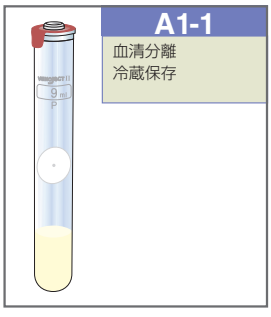
白血球像基準値(単位：%)

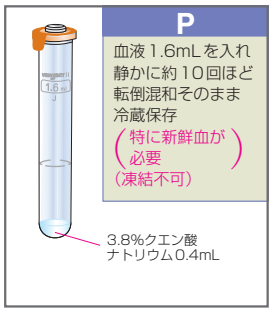
細胞の種類		基準値
好塩基球	(Baso)	0.0～3.0
好酸球	(Eosino)	0.0～10.0
好中球	(Neutro)	35.0～73.0
※1 桿状核球	(Stab)	0.0～18.0
※1 分葉核球	(Seg)	27.0～72.0
リンパ球	(Lympho)	20.0～51.0
単球	(Mono)	2.0～12.0

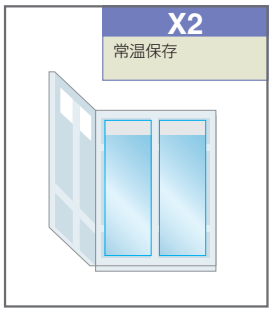
項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
血液形態・機能検査								
2009 2A110	網赤血球数 2A110-0000-019-662	全血 2.0	B-1 冷蔵	フローサイトメトリー法及びBrecher法	2～27 ‰	1～3	12 血液	凍結不可
2010 2A090	好酸球数 2A090-0000-019-919	全血 2.0	B-1 冷蔵	白血球数及び白血球像による計算法	70～450 /μL	1～2	17 血液	凍結不可 ※2
2037 2Z030	全血比重 (GB) 2Z030-0000-019-919	全血 2.0	B-1 冷蔵	間接法（Phillipsらの方法）	M 1.055～1.063 F 1.052～1.060	1～2		凍結不可
2100 2Z010	赤血球沈降速度 (ESR) 2Z010-0000-019-096	全血 1.6	P 冷蔵	Westergren法	M 2～10 F 3～15 mm/h	1～2	(9) 血液	凍結不可 当該保険医療機関内で検査を行った場合に算定する。
1183 3H045	浸透圧 3H045-0000-023-902	血清 0.5	A1-1 冷蔵	氷点降下法	275～290 mOsm/kgH2O	2～4	15 血液	緊急
4449 2C105	チミジンキナーゼ(TK)活性 2C105-0000-023-051	血清 0.5	A1-1 ↓ G1 凍結	CLIA法	7.5 以下 U/L	5～9	233 血液	造血器腫瘍の診断又は治療効果判定のために行った場合に算定する。 ＊1
2043 2A400	マラリア原虫 2A400-0000-019-723	全血 1.0	B-1 冷蔵	鏡検法	(－)	2～4	40 血液	凍結不可 標本による受託も可能です。 血中微生物
2044 2A410	フィラリア原虫 2A410-0000-019-723	全血 1.0	B-1 冷蔵	鏡検法	(－)	2～4	40 血液	凍結不可 標本による受託も可能です。 血中微生物
2008 2A170	骨髄像 2A170-0000-049-650	骨髄塗抹標本(未固定) 2～3枚 注1	X2 常温	鏡検法 (May-Giemsa染色)		6～10	812 血液	診断に特殊染色が必要とされる場合、追加検査推奨の連絡をさせていただきます。

注1　骨髄像検体提出注意事項　塗抹後できるだけ早く乾燥させて下さい。メイギムザ染色をしますので未固定の状態でお送り下さい。特にペルオキシダーゼ染色は、メタノールなどの固定後は染色できませんので未固定の状態でお送り下さい。

※2　好酸球数及び末梢血液像(白血球像、赤血球像)を同時に行った場合は、主たる検査の点数のみを算定する。



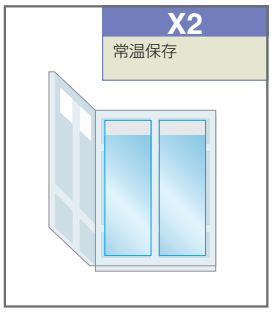




血液学的検査

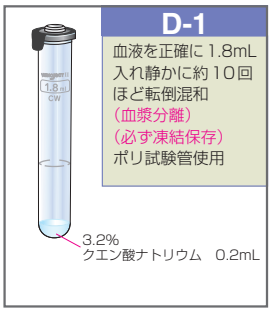
項目コード 統一コード		検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
血液形態・機能検査									
(2229) 2A180	骨髄像特殊染色	曜日指定 アルカリホスファターゼ染色 (ALP染色) 2A180-0000-049-612	骨髄塗抹標本(未固定)3枚	X2 常温	朝長法	陽性率 % 陽性指数	3～6	血液	休日の前日は受付できません。 骨髄像の場合加算40点 ※1
(2332) 2A200	骨髄像特殊染色	曜日指定 PAS染色 2A200-0000-049-477	骨髄塗抹標本(未固定)3枚	X2 常温	Schiff法	陽性率 %	3～6	血液	
(2230) 2A230	骨髄像特殊染色	曜日指定 ペルオキシダーゼ染色 2A230-0000-049-615	骨髄塗抹標本(未固定)3枚	X2 常温	ICSH標準法(改良法)	陽性率 %	3～6	血液	
(2254) 2A190	骨髄像特殊染色	曜日指定 エステラーゼ染色 2A190-0000-049-614	骨髄塗抹標本(未固定)3枚	X2 常温	二重染色法(α-NB・NAS-D法)	α-NB % AS-D % α-NB+AS-D % NaF阻止率 %	3～6	血液	
(2278) 2A240	骨髄像特殊染色	曜日指定 鉄染色 2A240-0000-049-541	骨髄塗抹標本(未固定)3枚	X2 常温	ベルリン青反応	ジデロブラスト：20～50 %	3～6	血液	
(2177) 2A180	血液特殊染色	曜日指定 アルカリホスファターゼ染色 (ALP染色) 2A180-0000-034-612	血液塗抹標本(未固定)3枚	X2 常温	朝長法	陽性率 M 60.5～99.5 F 67.5～99.5 % 陽性指数 M 170～335 F 189～367	3～6	血液	休日の前日は受付できません。 末梢血液像の場合加算27点
(2299) 2A200	血液特殊染色	曜日指定 PAS染色 2A200-0000-034-477	血液塗抹標本(未固定)3枚	X2 常温	Schiff法	陽性率 %	3～6	血液	
(2180) 2A230	血液特殊染色	曜日指定 ペルオキシダーゼ染色 2A230-0000-034-615	血液塗抹標本(未固定)3枚	X2 常温	ICSH標準法(改良法)	陽性率 %	3～6	血液	
(2060) 2A190	血液特殊染色	曜日指定 エステラーゼ染色 2A190-0000-034-614	血液塗抹標本(未固定)3枚	X2 常温	二重染色法(α-NB・NAS-D法)	α-NB % AS-D % α-NB+AS-D % NaF阻止率 %	3～6	血液	
(2279) 2A240	血液特殊染色	曜日指定 鉄染色 2A240-0000-034-541	血液塗抹標本(未固定)3枚	X2 常温	ベルリン青反応	ジデロサイト：0～3 ‰	3～6	血液	

※1　骨髄像と同時依頼された場合、所要日数は6～10日となります。



項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
凝固系一般検査								
2029 2B030	プロトロンビン時間 (PT) 2B030-0000-022-311	血漿 0.5	D-1 ↓ G 凍結	Quick変法	PT INR値0.88～1.17 PT活性 66.0～127.6 % PT時間 9.4～12.2 秒 ※1	1～3	18 血液	緊急
2030 2B020	活性化部分トロンボプラスチン時間 (APTT) 2B020-0000-022-311	血漿 0.5	D-1 ↓ G 凍結	エラジン酸活性化法	26.5～37.2 秒	1～3	29 血液	緊急
凝固因子関連検査								
2033 2B100	フィブリノゲン定量 (Fib) 2B100-0000-022-311	血漿 0.5	D-1 ↓ G 凍結	トロンビン時間法	160～410 mg/dL	1～3	23 血液	緊急
2411 2B555	PIVKA-Ⅱ【凝固】 2B555-0000-022-052	血漿 0.4	D-1 ↓ G 凍結	CLEIA法	1 未満 μg/mL	2～4	143 血液	出血凝固検査として行った場合算定する。 ＊ア
2404 2B350	第Ⅱ因子 2B350-0000-022-311	血漿 0.5	D-1 ↓ G 凍結	凝固時間法	70～120 %	2～7	223 血液	
2405 2B370	第Ⅴ因子 2B370-0000-022-311	血漿 0.5	D-1 ↓ G 凍結	凝固時間法	70～120 %	2～7	223 血液	
2406 2B380	第Ⅶ因子 2B380-0000-022-311	血漿 0.5	D-1 ↓ G 凍結	凝固時間法	70～120 %	2～7	223 血液	
2407 2B390	第Ⅷ因子 2B390-0000-022-311	血漿 0.5	D-1 ↓ G 凍結	凝固時間法	70～150 %	2～7	223 血液	

※1　PT時間（秒）：健常者参考値です。PT時間は試薬の力価により若干の変動があります。



実施料について(出血・凝固)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

1. 3項目又は4項目の場合
出血・凝固　530点

2. 5項目以上
出血・凝固　722点

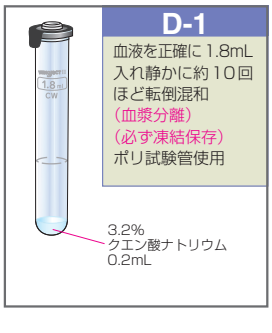
血液学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
凝固因子関連検査								
2408 2B400	第IX因子 2B400-0000-022-311	血漿 0.5	D-1 ↓ G 凍結	凝固時間法	70～120 %	2～7	223 血液	
2409 2B410	第X因子 2B410-0000-022-311	血漿 0.5	D-1 ↓ G 凍結	凝固時間法	70～120 %	2～7	223 血液	
2410 2B420	第XI因子 2B420-0000-022-311	血漿 0.5	D-1 ↓ G 凍結	凝固時間法	70～120 %	2～7	223 血液	
2397 2B430	第XII因子 2B430-0000-022-311	血漿 0.5	D-1 ↓ G 凍結	凝固時間法	70～150 %	2～7	223 血液	
2257 2B440	第XIII因子 2B440-0000-022-062	血漿 0.4	D-1 ↓ G 凍結	ラテックス凝集法	63～131 %	2～5	223 血液	
2256 2B450	フォン・ウィルブランド因子抗原 定量 (v.W因子抗原 定量) 2B450-0000-022-062	血漿 0.3	D-1 ↓ G 凍結	ラテックス凝集法	50～155 %	4～11	151 血液	＊4
2052 2B480	フォン・ウィルブランド因子活性 (v.W因子活性)(リストセチンコファクター) 2B480-0000-022-316	血漿 0.5	D-1 ↓ G 凍結	固定血小板凝集法	60～170 %	4～7	132 血液	＊4
2709 2B495	ADAMTS13活性 2B495-0000-022-025	クエン酸加血漿 0.2	D-1 ↓ G-1 凍結	ELISA法	0.10以上 (10%以上) ※1 IU/mL	4～8	400 血液	※2 ＊1
2707 2B496	ADAMTS13インヒビター定量 2B496-0000-022-025	クエン酸加血漿 0.5	D-1 ↓ G-1 凍結	ELISA法	0.5未満 B.U/mL	4～8	1000 血液	※3 ＊1

※1　測定値が0.10IU/mL未満(10%未満)の場合は、血栓性血小板減少性紫斑病(TPP)と判定されます。
TPP判定基準　健常者参考値：0.78IU/mL（78%以上）

※2　他に原因を認めない血小板減少を示す患者に対して、血栓性血小板減少性紫斑病の診断補助を目的とした測定した場合又はその再発を疑い測定した場合に算定できる。又、血栓性血小板減少性紫斑病と診断された患者又はその再発が認められた患者に対して、診断した日又は再発を確認した日から起算して1月以内の場合には、1週間に1回に限り別に算定できる。なお、血栓性血小板減少性紫斑病と診断した日付又はその再発を確認した日付を、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

※3　ADAMTS13活性の著減を示す患者に対して、血栓性血小板減少性紫斑病の診断補助を目的として測定した場合又はその再発を疑い測定した場合に算定できる。又、後天性血栓性血小板減少性紫斑病と診断された患者又はその再発が認められた患者に対して、診断した日又は再発を確認した日から起算して1月以内の場合には、1週間に1回に限り別に算定できる。なお、後天性血栓性血小板減少性紫斑病と診断した日付又はその再発を確認した日付を、診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。



項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量(mL)	容器 保存方法(安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
凝固・線溶系検査								
2222 2B460	**第Ⅷ因子インヒビター** (第Ⅷ因子-INH) 2B460-0000-022-311	血漿 **1.0**	D-1 ↓ G 凍結	Bethesda法	1.0 未満 B.U/mL	4～7	148 血液	測定1回につき算定する。 ＊4
2070 2B470	**第Ⅸ因子インヒビター** (第Ⅸ因子-INH) 2B470-0000-022-311	血漿 **1.0**	D-1 ↓ G 凍結	Bethesda法	1.0 未満 B.U/mL	4～7	148 血液	測定1回につき算定する。 ＊4
2394 2B260	**プラスミノゲン抗原** 2B260-0000-022-062	血漿 **0.3**	D-1 ↓ G 凍結	ラテックス凝集法	9.1～14.5 mg/dL	4～7	100 血液	＊E
2395 2B260	**プラスミノゲン活性** 2B260-0000-022-315	血漿 **0.3**	D-1 ↓ G 凍結	合成基質法	80～130 %	4～7	100 血液	＊E
2295 2B270	**アンチプラスミン** (プラスミンインヒビター) 2B270-0000-022-315	血漿 **0.4**	D-1 ↓ G 凍結	発色性合成基質法	77～120 %	2～4	128 血液	
2035 2B200	**アンチトロンビン活性** (AT-Ⅲ) 2B200-0000-022-315	血漿 **0.5**	D-1 ↓ G 凍結	発色性合成基質法	75～135 %	1～3	70 血液	
2034 2B120	**フィブリン・フィブリノゲン分解産物** (血漿FDP) 2B120-0000-022-062	血漿 **0.4**	D-1 ↓ G 凍結	ラテックス凝集法	5.0 未満 μg/mL	1～3	80 血液	緊急
2051 2B110	**可溶性フィブリンモノマー複合体** (SFMC) 2B110-0000-022-116	血漿 **0.2**	D-1 ↓ G 凍結	凝集反応	(－)	2～4	93 血液	
2049 2B140	**Dダイマー** 2B140-0000-022-062	血漿 **0.4**	D-1 ↓ G 凍結	ラテックス凝集法	1.0 未満 μg/mL	1～3	133 血液	緊急
2067 2B280	**プラスミンインヒビター・プラスミン複合体** (PIC) 2B280-0000-022-062	血漿 **0.4**	D-1 ↓ G 凍結	ラテックス凝集法	0.8 以下 μg/mL	2～5	158 血液	

実施料について(出血・凝固)

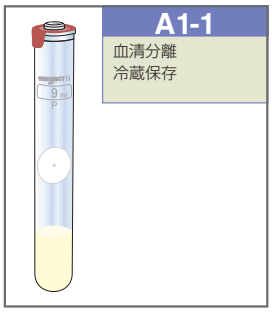
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

1. 3項目又は4項目の場合
出血・凝固　530点

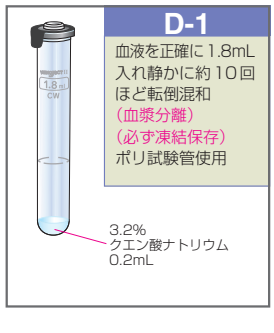
2. 5項目以上
出血・凝固　722点

血液学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
凝固・線溶系検査								
2498 2B210	トロンビン・アンチトロンビン複合体 (TAT) 2B210-0000-022-052	血漿 0.4	D-1 ↓ G 凍結	CLEIA法	3.0 以下 ng/mL	1～3	181 血液	主たるもののみ算定する。
2228 2B170	プロトロンビンフラグメントF1＋2 (PTフラグメントF1＋2) 2B170-0000-022-023	血漿 0.3	D-1 ↓ G 凍結	EIA法	69～229 pmol/L	4～8	193 血液	＊4
2400 2B700	プロテインC活性 2B700-0000-022-315	血漿 0.5	D-1 ↓ G 凍結	発色性合成基質法	70～140 %	2～5	241 血液	
2039 2B700	プロテインC (抗原量) 2B700-0000-022-062	血漿 0.4	D-1 ↓ G 凍結	ラテックス凝集法	69～144 %	2～5	239 血液	
2041 2B711	プロテインS (遊離型抗原量) 2B711-0000-022-062	血漿 0.3	D-1 ↓ G 凍結	ラテックス凝集法	60～150 %	4～7	162 血液	＊4
2045 2B710	プロテインS (抗原量) 2B710-0000-022-023	血漿 0.3	D-1 ↓ G 凍結	EIA法	65～135 %	4～9	162 血液	＊4
2068 2B710	プロテインS活性 2B710-0000-022-311	血漿 0.4	D-1 ↓ G 凍結	凝固時間法	M 67～164 F 56～126 %	4～8	168 血液	＊4
2042 2B310	プラスミノーゲンアクチベーターインヒビター1 (PAI-1) 2B310-0000-022-062	血漿 0.4	D-1 ↓ G 凍結	ラテックス凝集法	50.0 以下 ng/mL	2～4	240 血液	測定対象は総PAI-1(tPA・PAI-1複合体及び活性型、潜在型PAI-1)です。
2414 2B730	トロンボモジュリン (TM) 2B730-0000-023-052	血清 0.3	A1 ↓ G-1 凍結	CLEIA法	12.1～24.9 U/mL	4～8	204 血液	膠原病の診断もしくは経過観察又は、DICもしくはそれに引き続いて起こるMOF観察のために測定した場合に限り算定できる。 ＊1
4445 5B045	C1インアクチベーター活性 (C1エステラーゼインヒビター活性) 5B045-0000-022-315	血漿 0.3	D-1 ↓ G 凍結	発色性合成基質法	70～130 %	4～7	268 免疫	＊4

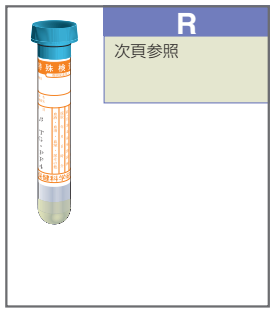


A1-1
血清分離
冷蔵保存



D-1
血液を正確に1.8mL入れ静かに約10回ほど転倒混和
(血漿分離)
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

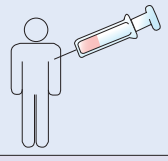
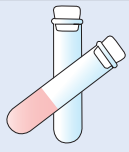
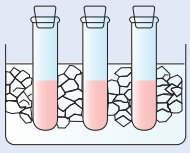
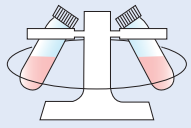
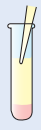
G-1
血清分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用



R
次頁参照

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
血小板機能検査								
2413 2B620	**血小板第４因子** (PF4) 2B620-0000-022-023	血漿 **0.3**	R ↓ G 下図参照 凍結	EIA法	20以下 ng/mL	4～9	178 血液	＊4
2412 2B600	**β-トロンボグロブリン** (β-TG) 2B600-0000-022-023	血漿 **0.3**	R ↓ G 下図参照 凍結	EIA法	50以下 ng/mL	4～9	177 血液	＊4

〔β-TG、PF-4の採取方法及び注意事項〕

	この操作を２分以内に行う				
					
採取方法	できるだけ20ゲージ(19～23ゲージでも可)の針を用いたポリスチレン注射器で血液2.7mL採取する。 （採血に当たって、専用容器〔R〕を使用しての直接採血は絶対にしないで下さい。）	予め専用容器(R)を冷却しておく。 次に専用容器のフタを開け血液2.7mLを静かに移し、ゆっくり2～3回反転混和する。	専用容器をすみやかに砕氷と水の入ったラックに入れる。	砕氷水に15～30分間放置後、採取血液を2,000Gで30分間、2～4℃で遠心分離する。(下表は、2,000Gにおけるローターの回転半径と回転数との関係を示す。)	上清の表面よりやや下の部分をマイクロピペットで各0.3mL検体容器へ採取する。 検体は必ず凍結保存する。 (一ヶ月安定)
注意事項	真空採血管、カテーテル及び他の方法は使用しない。 又、駆血帯も使用しない。10mL以上の採血は避け、できるだけ血管壁を損傷しないようにスムーズに採取する。	指定の専用容器以外は使用しない。 専用容器は振とうさせない。	砕氷水の水面より専用容器中の血液の液面が下になるようにする。 角氷は使用しない。	１時間以内に必ず冷却下で遠心分離する。 **換算表**	血餅に近い部分からの採取は絶対に避ける。

半径(cm)	回転数(rpm)	半径(cm)	回転数(rpm)
10	4,200	22	2,800
12	3,800	24	2,700
14	3,500	26	2,600
16	3,300	28	2,500
18	3,100	30	2,400
20	3,000		

実施料について(出血・凝固)

一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を3項目以上行った場合

1. 3項目又は4項目の場合
出血・凝固　530点

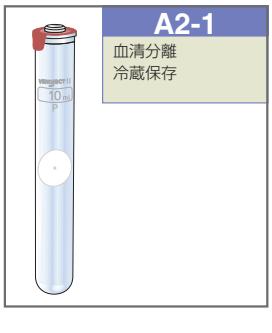
2. 5項目以上
出血・凝固　722点

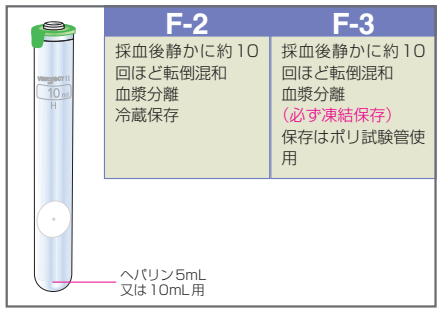
薬物検査

項目コード 統一コード	検　査　項　目	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位 (治療濃度範囲)	所要日数	実施料 判断料	備　考
抗てんかん剤								
5050 3L175	フェノバルビタール 3L175-0000-023-024	血清 **0.4**	A2-1 冷蔵	EIA法	10.0～40.0 μg/mL	1～2	※	緊急 フェノバール フェノバルビタール
5051 3L185	フェニトイン 3L185-0000-023-024	血清 **0.4**	A2-1 冷蔵	EIA法	10.0～20.0 μg/mL	1～2	※	緊急 アレビアチン ヒダントール
5052 3L115	カルバマゼピン 3L115-0000-023-024	血清 **0.4**	A2-1 冷蔵	EIA法	4.0～12.0 μg/mL	1～2	※	緊急 カルバマゼピン テグレトール
5121 3L190	プリミドン 3L190-0000-023-024	血清 **0.4**	A2-1 冷蔵	EIA法	5～12 μg/mL	1～2	※	緊急 プリミドン
5054 3L195	バルプロ酸 3L195-0000-023-025	血清 **0.4**	A2-1 冷蔵	EIA法	50.0～100.0 μg/mL	1～2	※	緊急 セレニカR、デパケン、 バルプロ酸ナトリウム、 バレリン
5096 3L135	エトスクシミド 3L135-0000-023-024	血清 **0.5**	A2-1 冷蔵	EIA法	40.0～100.0 μg/mL	4～7	※	緊急 エピレオプチマル ザロンチン ＊4
5122 3L205	トリメタジオン 3L205-0000-023-210	血清 **0.5**	A2 ↓ G-1 凍結	LC-MS/MS法	300～500 μg/mL	5～13	※	ミノアレ ＊1
5120 3L125	クロナゼパム 3L125-0000-023-204	血清 **1.1**	A2-1 冷蔵	HPLC法	20～70 ng/mL	3～5	※	ランドセン リボトリール ＊イ
5100 3L950	アセタゾラミド 3L950-0000-023-204	血清 **0.3**	A2-1 冷蔵	HPLC法	μg/mL	4～12	※	ダイアモックス ＊4
5532 3L200	スルチアム 3L200-0000-023-204	血清 **1.2**	A2 ↓ G-1 凍結	HPLC法	μg/mL	5～13	※	オスポロット ＊4

分離剤入り試験管は使用しないで下さい。

採血時刻は110頁をご参照下さい。





項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位 (治療濃度範囲)	所要日数	実施料 判断料	備考
抗てんかん剤								
5371 3L210	ゾニサミド 3L210-0000-023-062	血清 0.3	A2-1 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	10～30 μg/mL	1～2	※	エクセグラン ゾニサミド
5099 3L165	ニトラゼパム 3L165-0000-023-210	血清 0.3	A2-1 冷蔵	LC-MS/MS法	20～200 ng/mL	4～8	※	ニトラゼパム ネルボン ベンザリン ＊4
(5670) 3L130	ジアゼパム 3L130-0000-023-204	血清 0.5	A2-1 冷蔵	HPLC法	Trough 600～1000 ※1 ng/mL	4～8	※	ジアゼパム ジアパックス セルシン セレナミン ホリゾン ＊4
(5909) 3L145	クロバザム 3L145-0000-023-210	血清 0.3	A2-1 冷蔵	LC-MS/MS法	※2 ng/mL	4～8	※	マイスタン ＊4
5847 3L220	ラモトリギン 3L220-0000-022-210	血漿 0.3	F-2 ↓ G 冷蔵	LC-MS/MS法	μg/mL	4～8	※	ラミクタール ＊4
5982 3L215	ガバペンチン 3L215-0000-022-210	血漿 0.3	F-3 ↓ G 凍結	LC-MS/MS法	μg/mL	4～8	※	ガバペン ＊4
5674 3L225	トピラマート 3L225-0000-023-210	血清 0.3	A2 ↓ G 凍結	LC-MS/MS法	Trough 5～20 μg/mL	4～7	※	トピナ トピラマート ＊1
5673 3L230	レベチラセタム 3L230-0000-023-210	血清 0.3	A2 ↓ G 凍結	LC-MS法	Trough 12～46 μg/mL	4～8	※	イーケプラ ＊1
精神神経用剤								
5239 3L320	炭酸リチウム 3L320-0000-023-274	血清 0.3	A2-1 冷蔵	原子吸光法	0.60～1.20 mEq/L	2～4	※	緊急 炭酸リチウム リーマス ＊イ
5128 3L300	ハロペリドール 3L300-0000-023-024	血清 0.4	A2-1 冷蔵	セディア法	3～17 注1 ng/mL	1～2	※	セレネース ネオペリドール ハロステン ハロペリドール ハロマンス
5527 3L302	ブロムペリドール 3L302-0000-023-024	血清 0.4	A2-1 冷蔵	セディア法	有効治療濃度参考値 4.0～14.3 注1 ng/mL	1～2	※	インプロメン ブロムペリドール

分離剤入り試験管は使用しないで下さい。

採血時刻は110頁をご参照下さい。

注1　ハロペリドールとブロムペリドールを併用している患者検体では、免疫学的交差反応のため正確な濃度は測定できません。
※1　N-デスメチルジアゼパムの濃度も同時にご報告いたします。
※2　代謝産物のデスメチルクロバザムの濃度も同時にご報告いたします。

※印で表記された特定薬剤治療管理料の算定については、109頁をご参照下さい。

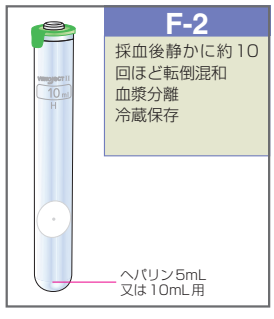
薬物検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位 (治療濃度範囲)	所要日数	実施料 判断料	備考
抗炎症、リウマチ剤								
5101 3M205	サリチル酸 3M205-0000-023-271	血清 **0.4**	**A2-1** 冷蔵	酵素法	(抗炎症剤として) 100～250 μg/mL	4～7	※	緊急 アスピリン サルソニン ハフトロン ヘパルス ＊4
強心剤								
5049 3L765	ジゴキシン 3L765-0000-023-024	血清 **0.4**	**A2-1** 冷蔵	ラテックス凝集 比濁法	0.8～2.0 ng/mL	1～2	※	緊急 ジゴキシン ジゴシン ジゴシンエリキシル
不整脈用剤								
(5457) 3L897	プロパフェノン 3L897-0000-023-210	血清 **0.3**	**A2-1** 冷蔵	LC-MS/MS法	ng/mL	5～9	※	プロノン プロパフェノン塩酸塩 ＊4
5556 3L896	塩酸ピルジカイニド 3L896-0000-023-204	血清 **0.5**	**A2-1** 冷蔵	HPLC法	Peak 0.2～0.9 μg/mL	3～6	※	サンリズム ピルシカイニド塩酸塩 ＊イ
5175 3L898	シベンゾリン 3L898-0000-023-210	血清 **0.3**	**A2-1** 冷蔵	LC-MS/MS法	Trough 70～250 ng/mL	4～8	※	シベノール シベンゾリンコハク酸塩 ＊4
5448 3L890	プロカインアミド 3L890-0000-023-024	血清 **0.3**	**A2-1** 冷蔵	HEIA法	4～8 μg/mL	4～7	※	緊急 アミサリン ＊1

分離剤入り試験管は使用しないで下さい。

採血時刻は110頁をご参照下さい。

A2-1
血清分離
冷蔵保存



F-2
採血後静かに約10回ほど転倒混和
血漿分離
冷蔵保存

ヘパリン5mL
又は10mL用

G-1
血清分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位 (治療濃度範囲)	所要日数	実施料 判断料	備考
不整脈用剤								
5469 3L895	プロプラノロール 3L895-0000-023-204	血清 0.3	A2-1 冷蔵	HPLC法	50～100 ng/mL	5～13		インデラル プロプラノロール塩酸塩 ＊4
5080 3L900	キニジン 3L900-0000-023-024	血清 0.4	A2-1 冷蔵	EIA法	2.0～6.0 μg/mL	4～11	※	硫酸キニジン ＊4
5370 3L875	リドカイン 3L875-0000-023-024	血清 0.3	A2-1 冷蔵	EIA法	1.2～5.0 μg/mL	4～7	※	緊急 オリベス キシロカイン リドカイン ＊4
5449 3L865	ジソピラミド 3L865-0000-023-024	血清 0.4	A2-1 冷蔵	EIA法	2～5 μg/mL	1～2	※	ジソピラミド ジソピラン リスモダン
5491 3L855	アプリンジン 3L855-0000-023-210	血清 0.3	A2-1 冷蔵	LC-MS/MS法	0.25～1.25 μg/mL	4～8	※	アスペノン アプリンジン塩酸塩 ＊4
5464 3L880	メキシレチン 3L880-0000-023-204	血清 0.5	A2-1 冷蔵	HPLC法	0.5～2.0 μg/mL	3～8	※	チルミメール メキシチール メキシレチン塩酸塩 ＊イ
5375 3L905	フレカイニド 3L905-0000-023-210	血清 0.3	A2-1 冷蔵	LC-MS/MS法	200～1000 ng/mL	4～8	※	タンボコール フレカイニド酢酸塩 ＊4
5767 3L899	ピルメノール 3L899-0000-022-204	血漿 1.3	F-2 ↓ G 冷蔵	HPLC法	400.0以上 ng/mL	4～9	※	ピメノール ＊4
5770 3L800	アミオダロン 3L800-0000-022-210	血漿 0.3	F-2 ↓ G 冷蔵	LC-MS/MS法	ng/mL	4～8	※	アミオダロン塩酸塩 アンカロン ＊4
5849 3L802	ベプリジル 3L802-0000-022-210	血漿 0.3	F-2 ↓ G 冷蔵	LC-MS/MS法	250～800 ng/mL	4～8	※	ベプリコール ＊4

分離剤入り試験管は使用しないで下さい。

採血時刻は110頁をご参照下さい。

※印で表記された特定薬剤治療管理料の算定については、109頁をご参照下さい。

薬物検査

項目コード 統一コード	検　査　項　目	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位 (治療濃度範囲)	所要日数	実施料 判断料	備　考
解熱鎮痛剤消炎剤								
5466 3L005	アセトアミノフェン 3L005-0000-023-024	血清 **0.4**	**A2-1** 冷蔵	EIA法	中毒域 200.1 以上(4時間) 100.1 以上(8時間) 50.1 以上(12時間) μg/mL	4 ~ 11	185 生化Ⅰ	アセトアミノフェン、 アセリオ、カロナール、 コカール、ピレチノール 同一の患者につき1月以内に2回以上行った場合は、第1回目の測定を行ったときに1回に限り算定する。 ＊4
抗悪性腫瘍剤								
5467 3M725	メトトレキサート 3M725-0000-023-024	血清 **0.5**	**A2-1** 冷蔵	EIA法	危険限界濃度 24時間値 10 以上 48時間値 1 以上 72時間値 0.1 以上 μmol/L	4 ~ 7	※	緊急 メソトレキセート ＊4
5787 3M750	イマチニブ 3M750-0000-022-210	血漿 **0.3**	**E-2** ↓ **G** 凍結	LC-MS/MS法	ng/mL	6 ~ 14	※	イマチニブ グリベック ＊1
抗生物質								
5102 3M606	ゲンタマイシン 3M606-0000-023-024	血清 **0.4**	**A2** ↓ **G-1** 凍結	EIA法	Peak 15～20 Trough 1 未満 μg/mL	4 ~ 8	※	エルタシン ゲンタシン ゲンタマイシン硫酸塩 抗菌薬TDM2016に準拠 ＊4
5452 3M602	トブラマイシン 3M602-0000-023-024	血清 **0.4**	**A2** ↓ **G-1** 凍結	EIA法	Peak 15～20 Trough 1 未満 μg/mL	4 ~ 7	※	トブラシン 抗菌薬TDM2016に準拠 ＊4
5098 3M601	アミカシン 3M601-0000-023-024	血清 **0.4**	**A2** ↓ **G-1** 凍結	EIA法	Peak 50～60 Trough 4 未満 μg/mL	4 ~ 8	※	アミカシン硫酸塩 アミカマイシン 抗菌薬TDM2016に準拠 ＊4
5555 3M613	アルベカシン 3M613-0000-023-062	血清 **0.3**	**A2** ↓ **G-1** 凍結	ラテックス凝集比濁法	Peak 15～20 Trough 1～2 未満 μg/mL	4 ~ 7	※	アルベカシン硫酸塩 ハベカシン ＊4

分離剤入り試験管は使用しないで下さい。

採血時刻は110頁をご参照下さい。

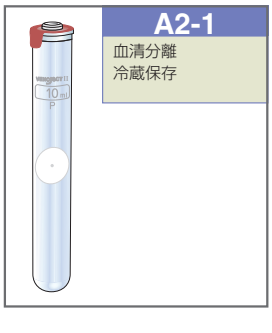
グラム陰性菌感染症に対する標準治療における目標値(μg/mL)

最小発育阻止濃度(MIC)	8μg/mL(重症)		≦4μg/mL(軽・中等度)	
アミカシン	50～60(ピーク)	4未満(トラフ)	41～49(ピーク)	4未満(トラフ)

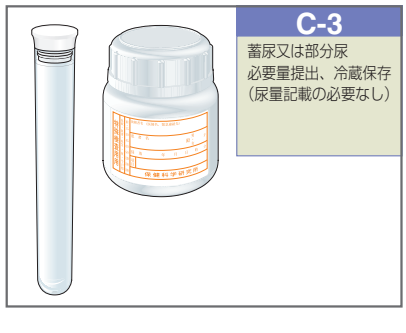
最小発育阻止濃度(MIC)	2μg/mL(重症)		≦1μg/mL(軽・中等度)	
ゲンタマイシン トブラマイシン	15～20(ピーク)	1未満(トラフ)	8～10(ピーク)	1未満(トラフ)

※基準値は重症における目標値を基準値(治療濃度範囲)として設定いたしました。

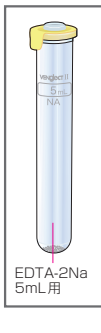
抗菌薬TDMガイドライン2016より改変



A2-1
血清分離
冷蔵保存



C-3
蓄尿又は部分尿
必要量提出、冷蔵保存
(尿量記載の必要なし)



EDTA-2Na
5mL用

E-1
採血後静かに約10回ほど転倒混和
そのまま冷蔵保存
(凍結不可)

E-4
採血後静かに約10回ほど転倒混和
血漿分離
冷蔵保存

E-2
採血後静かに約10回ほど転倒混和
(低温にて血漿分離、必ず凍結保存)
保存はポリ試験管使用

G-1
血清分離
(必ず凍結保存)
ポリ試験管使用

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位 (治療濃度範囲)	所要日数	実施料 判断料	備考
抗生物質								
5531 3M530	バンコマイシン 3M530-0000-023-024	血清 **0.4**	**A2-1** 冷蔵	EIA法	Trough 10.0～15.0 μg/mL	1～2	※	緊急 バンコマイシン塩酸塩 抗菌薬TDM2016に準拠
5478 3M532	テイコプラニン 3M532-0000-023-062	血清 **0.3**	**A2-1** 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	Trough 15～30 μg/mL	4～7	※	緊急 タゴシッド テイコプラニン 重症感染症は10～20μg/mLを保って下さい。 抗菌薬TDM2016に準拠 ＊4
免疫抑制剤								
5465 3M805	シクロスポリン 3M805-0000-019-051	全血 **1.0**	**S** 凍結	CLIA法	ng/mL	2～4	※	サンディミュン シクロスポリン ネオーラル 必ず単独検体で提出して下さい。
5256 3M810	タクロリムス 3M810-0000-019-051	全血 **1.0**	**S** 凍結	CLIA法	ng/mL	2～4	※	グラセプター タクロリムス プログラフ 必ず単独検体で提出して下さい。
5989 3M815	エベロリムス 3M815-0000-019-053	全血 **1.0**	**E-1** 冷蔵	ECLIA法	免疫抑制剤としてシクロスポリンと併用した場合のTrough 3～8 抗悪性腫瘍剤として使用した場合のTrough 5～15 ng/mL	4～7	※	アフィニトール サーティカン シロリムス投与歴がある患者検体は検査不可 ＊1
5991 3M816	ミコフェノール酸 3M816-0000-022-024	血漿 **0.5**	**E-4** ↓ **G** 冷蔵	EIA法	μg/mL	4～8	※	セルセプト ミコフェノール酸モフェチル ＊4
その他								
5087 3M070	テオフィリン (気管支拡張剤) 3M070-0000-023-024	血清 **0.4**	**A2-1** 冷蔵	EIA法	10.0～20.0 μg/mL	1～2	※	緊急 スロービッド、チルミン、テオドール、テオフィリン、テオロング、テルバンス、ユニコン、ユニフィル

分離剤入り試験管は使用しないで下さい。

採血時刻は110頁をご参照下さい。

EDTA-2K
2mL用

S

採血後静かに
約10回ほど
転倒混和
そのまま
(必ず凍結保存)
ガラス管の場合は
ポリ試験管に移して
凍結
他の項目との同時依
頼はできません。

※印で表記された特定薬剤治療管理料の算定については、109頁をご参照下さい。

薬物検査

[特定薬剤治療管理料]

薬剤名		1～3カ月	4カ月以降	初回月加算点	備考
ジギタリス製剤	ジゴキシン	470	235	1回目の特定薬剤治療管理料を算定すべき月に限り、280点を所定点数に加算する。	心疾患患者 急速飽和を行った場合、1回に限り算定740 初回月加算同時算定不可
抗てんかん剤	フェノバルビタール	470	470		てんかん患者 複数薬剤測定の場合加算　470 てんかん重積状態の患者に抗てんかん剤の注射等を行った場合、1回に限り算定740 初回月加算同時算定不可
	フェニトイン				
	カルバマゼピン				
	プリミドン				
	バルプロ酸				
	エトスクシミド				
	トリメタジオン				
	クロナゼパム				
	アセタゾラミド				
	スルチアム				
	ゾニサミド				
	ニトラゼパム				
	ジアゼパム				
	クロバザム				
	ラモトリギン				
	ガバペンチン				
	トピラマート				
	レベチラセタム				
テオフィリン製剤	テオフィリン	470	235		気管支喘息、喘息性（様）気管支炎、慢性気管支炎、肺気腫又は未熟児無呼吸発作の患者
不整脈用剤	プロパフェノン	470	235		不整脈の患者
	塩酸ピルジカイニド				
	シベンゾリン				
	プロカインアミド				
	キニジン				
	リドカイン				
	ジソピラミド				
	アプリンジン				
	メキシレチン				
	フレカイニド				
	ピルメノール				
	アミオダロン				
	ベプリジル				

薬剤名		1～3カ月	4カ月以降	初回月加算点	備考
ハロペリドール製剤・ブロムペリドール製剤	ハロペリドール	470	235	1回目の特定薬剤治療管理料を算定すべき月に限り、280点を所定点数に加算する。	統合失調症の患者
	ブロムペリドール				
リチウム製剤	炭酸リチウム	470	235		躁うつ病の患者
バルプロ酸ナトリウム・カルバマゼピン	バルプロ酸	470	470		躁うつ病又は躁病の患者
	カルバマゼピン				
バルプロ酸ナトリウム	バルプロ酸	470	235		片頭痛の患者
免疫抑制剤	シクロスポリン	470	470	臓器移植を行った月から3カ月2740	臓器移植術を受けた患者であって臓器移植における拒否反応の抑制を目的として免疫抑制剤を投与しているもの
	タクロリムス				
	エベロリムス				
	ミコフェノール酸				
	シクロスポリン			1回目の特定薬剤治療管理料を算定すべき月に限り、280点を所定点数に加算する。	※1
	タクロリムス				※2
サリチル酸系製剤	サリチル酸	470	235		若年性関節リウマチ、リウマチ熱又は慢性関節リウマチの患者
抗生物質	ゲンタマイシン	470	235		数日間以上投与している入院中の患者について、投与薬剤の血中濃度を測定し、その測定結果をもとに投与量を精密に管理した場合、月1回算定
	トブラマイシン				
	アミカシン				
	アルベカシン				
	バンコマイシン				
	テイコプラニン				
抗悪性腫瘍剤	メトトレキサート	470	235		悪性腫瘍の患者
	イマチニブ				イマチニブを投与しているもの
	エベロリムス				※3

※1　ベーチェット病の患者であって活動性・難治性眼症状を有するもの又はその他の非感染性ぶどう膜炎（既存治療で効果不十分で、視力低下のおそれのある活動性の中間部又は後部の非感染性ぶどう膜炎に限る。）、再生不良性貧血、赤芽球癆、尋常性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症、関節症性乾癬、全身型重症筋無力症、アトピー性皮膚炎（既存治療で十分な効果が得られない患者に限る。）若しくはネフローゼ症候群の患者

※2　全身型重症筋無力症、関節リウマチ、ループス腎炎、潰瘍性大腸炎又は間質性肺炎（多発性筋炎又は皮膚筋炎に合併するものに限る。）の患者

※3　結節性硬化症に伴う上衣下巨細胞性星細胞腫の患者であって抗悪性腫瘍剤としてエベロリムスを投与しているもの

[主な薬物の採血時刻]

検査項目	採血時刻
抗てんかん剤	
フェノバルビタール	投与直前(トラフ)
フェニトイン	経口：投与直前(トラフ) 静注：投与後２～４時間
カルバマゼピン	投与直前(トラフ)
プリミドン	投与直前(トラフ)
バルプロ酸	投与直前(トラフ)
エトスクシミド	投与直前(トラフ)
トリメタジオン	投与直前(トラフ)
クロナゼパム	投与直前(トラフ)
アセタゾラミド	－
ゾニサミド	投与直前(トラフ)
ニトラゼパム	投与直前(トラフ) 但し、抗てんかん剤として用いる場合
ジアゼパム	投与直前(トラフ) 但し、抗てんかん剤として用いる場合
レベチラセタム	投与直前(トラフ)
精神神経用剤	
炭酸リチウム	早朝投与前(トラフ)
ハロペリドール	投与直前(トラフ)
ブロムペリドール	投与直前(トラフ)
抗炎症、リウマチ剤	
サリチル酸	投与直前(トラフ)
強心剤	
ジゴキシン	経口：投与後６時間～投与直前(トラフ) 静注：投与後４時間～投与直前(トラフ)
不整脈用剤	
プロパフェノン	－
塩酸ピルジカイニド	投与直前(トラフ)又は 経口：投与後１～２時間(ピーク)
シベンゾリン	朝投与直前(トラフ)
プロカインアミド	投与直前(トラフ)
プロプラノロール	投与直前(トラフ)
キニジン	投与直前(トラフ)

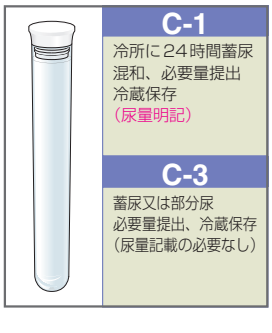
検査項目	採血時刻
不整脈用剤	
リドカイン	静注：投与後２時間 点滴静注：６～12時間
ジソピラミド	投与直前(トラフ)
アプリンジン	経口：投与直前(トラフ) 投与後２～４時間(ピーク) 静注：投与直前(トラフ)
メキシレチン	投与直前(トラフ)
フレカイニド	投与直前(トラフ)
ピルメノール	随時
アミオダロン	投与直前(トラフ)
ベプリジル	投与後３時間(ピーク)
解熱鎮痛剤消炎剤	
アセトアミノフェン	－
抗悪性腫瘍剤	
メトトレキサート	メトトレキサート・ロイコボリン救援療法時 24、48、72時間
エベロリムス(アフィニトール)	投与直前(トラフ)
抗生物質	
ゲンタマイシン	点滴開始１時間後(30分で投与した場合、終了30分後)(ピーク) 投与前30分以内(トラフ)
トブラマイシン	点滴開始１時間後(30分で投与した場合、終了30分後)(ピーク) 投与前30分以内(トラフ)
アミカシン	点滴開始１時間後(30分で投与した場合、終了30分後)(ピーク) 投与前30分以内(トラフ)
アルベカシン	点滴開始１時間後(30分で投与した場合、終了30分後)(ピーク) 投与前30分以内(トラフ)
バンコマイシン	点滴静注後１～２時間(ピーク) 投与直前(トラフ)
テイコプラニン	投与前30分以内(トラフ)
免疫抑制剤	
シクロスポリン	投与直前(トラフ)
タクロリムス	投与直前(トラフ)
エベロリムス(サーティカン)	投与直前(トラフ)
その他	
テオフィリン (気管支拡張剤)	投与直前(トラフ) (副作用：ピーク)

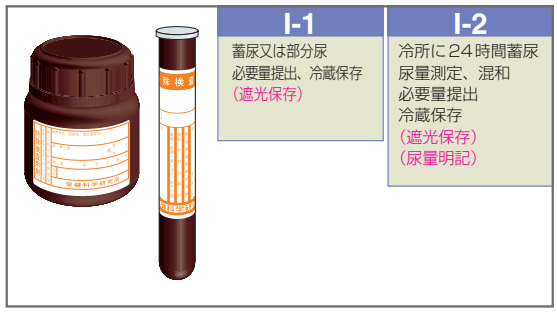
【採血時刻について】
○維持投与量の調整のために行う場合の採血時刻を示します。
○中毒症状を疑う場合は随時測定を実施する必要があります。

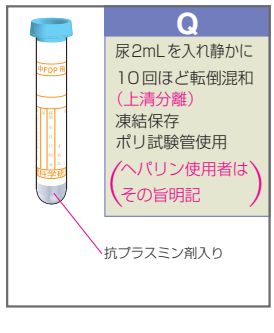
一般検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
尿中一般物質定性、半定量検査								
6001 1A030	比重 1A030-0000-001-903	尿10.0	C-3 冷蔵	屈折率法又は 試験紙法	1.005～1.030	1～2	(26)	緊急 (対象：糖定性、ケトン体定性) 当該保険医療機関内で検査を行った場合に算定する。
6002 1A035	pH 1A035-0000-001-911			試験紙法	5.0～8.0	1～2		
6005 1A010	蛋白定性 1A010-0000-001-911			試験紙法	(−)	1～2		
6007 1A020	糖定性 1A020-0000-001-911			試験紙法	(−)	1～2		
6003 1A040	ウロビリノーゲン定性 1A040-0000-001-911			試験紙法	(+−)	1～2		
6009 1A055	ビリルビン定性 1A055-0000-001-911			試験紙法	(−)	1～2		
6010 1A060	ケトン体(アセトン体)定性 1A060-0000-001-911			試験紙法	(−)	1～2		
6011 1A100	潜血反応 1A100-0000-001-911			試験紙法	(−)	1～2		
6083 1A075	白血球定性 1A075-0000-001-911			試験紙法	(−)	1～2		
6078 1A080	亜硝酸塩 1A080-0000-001-911			試験紙法	(−)	1～2		
尿中特殊物質定性定量検査								
6006 1A015	蛋白定量 1A015-0000-004-271 1A015-0000-001-271	蓄尿3.0 又は 尿3.0	C-1 又は C-3 冷蔵	ピロガロールレッド法	蓄尿 20～120 mg/day 随時尿 10以下 mg/dL	1～2	7 尿・便	
6498 1A015	蛋白定量クレアチニン換算値 (尿蛋白／クレアチニン比) 1A015-0000-001-271	尿3.0	C-3 冷蔵	計算法	0.11以下 g/g・CRE	1～2	7 尿・便	蛋白定量と尿中クレアチニンも同時報告。 CKDの重症度分類(2012)による判定基準は検査案内24頁参照。 ※1
6016 4E060	VMA定性 4E060-0000-001-901	尿3.0	C-3 冷蔵	佐藤法	(−)	1～2	9 尿・便	
6017 1A110	ベンスジョーンズ蛋白定性 1A110-0000-001-920	尿5.0	C-3 冷蔵	Putnum法	(−)	1～2	9 尿・便	
5069 3J040	コプロポルフィリン定性 3J040-0000-001-204	尿5.0	I-1 遮光 冷蔵	HPLC法	(−)	6～11		＊4

※1　蛋白定量と尿中クレアチニンも同時に測定しますので、報告書上に表記される実施料(点数)は18点になります。







項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
尿中特殊物質定性定量検査								
(6008) 1A025	糖定量 1A025-0000-004-272 1A025-0000-001-272	蓄尿3.0 又は 尿3.0	C-1 又は C-3 冷蔵	HK-G-6-PDH法	蓄　尿 0.040～0.085 g/day 随時尿 0.020 以下 g/dL	1～2	9 尿・便	
1184 3H045	浸透圧 3H045-0000-001-902	尿3.0	C-3 冷蔵	氷点降下法	50～1300 mOsm/kgH$_2$O	2～4	16 尿・便	
6018 3B330	NAG 3B330-0000-001-271	尿5.0	C-3 冷蔵	MPT-NAG法	11.5 以下 U/L	1～2	41 尿・便	
2119 2B120	線維素分解産物 (尿中FDP) 2B120-0000-001-062	尿2.0 ↓ 上清0.5	Q ↓ G 凍結	LPIA法	100 以下 ng/mL	4～6	72 尿・便	＊4
5067 3J075	δ-アミノレブリン酸 (δ-ALA) 3J075-0000-004-204	蓄尿1.0	I-2 遮光 冷蔵	HPLC法	2.0 以下 mg/day	3～6	109 尿・便	17頁参照 ＊イ
5068 3J065	ポルフォビリノーゲン定量 3J065-0000-004-271	蓄尿3.0	I-2 遮光 冷蔵	比色法(M・G変法)	2.0 以下 mg/day	4～9	191 尿・便	＊4
5071 3J050	ウロポルフィリン定量 3J050-0000-001-204	尿2.0	I-1 遮光 冷蔵	HPLC法	36 以下 μg/g・クレアチニン	5～10	105 尿・便	＊4
5299 3J040	コプロポルフィリン定量 3J040-0000-001-204	尿2.0	I-1 遮光 冷蔵	HPLC法	170 以下 μg/g・クレアチニン	5～10	135 尿・便	＊4
5902 3A015	尿中アルブミン定量 3A015-0000-004-061 3A015-0000-001-061	蓄尿1.0	C-1 冷蔵	TIA法	30.0 未満 mg/day	2～4	102 尿・便	尿中トランスフェリン、尿中アルブミン定量及び尿中Ⅳ型コラーゲンは、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第１期又は第２期のものに限る。)に対して行った場合に、３月に１回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。
5922 3A015		尿1.0	C-3 冷蔵		27.0 未満 mg/g・クレアチニン			

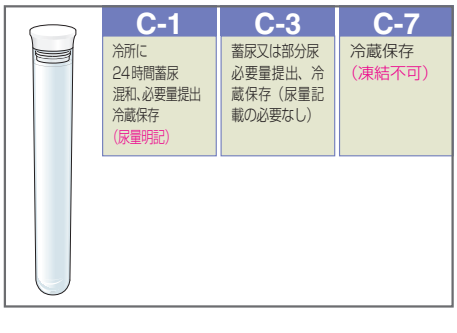
一般

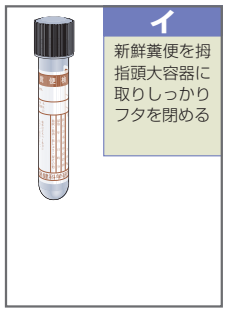
一般検査

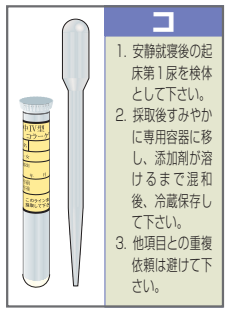
項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
尿中特殊物質定性定量検査								
5357 5C134	**尿中Ⅳ型コラーゲン** 5C134-0000-001-023	尿 **5.0** (起床第1)	コ 冷蔵	EIA法	30歳代　4.0 以下 40歳以上 4.9 以下 (随時尿参考値 7.3以下) μg/g・クレアチニン	4～12	189 尿・便	尿中トランスフェリン、尿中アルブミン定量及び尿中Ⅳ型コラーゲンは、糖尿病又は糖尿病性早期腎症患者であって微量アルブミン尿を疑うもの(糖尿病性腎症第1期又は第2期のものに限る。)に対して行った場合に、3月に1回に限り算定できる。なお、これらを同時に行った場合は、主たるもののみ算定する。＊4
(5429) 5C060	**尿中トランスフェリン** 5C060-0000-004-062 5C060-0000-001-062	蓄尿 **1.0** 又は 尿 **1.0**	C-1 又は C-3 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	蓄　尿　0.6 以下 mg/day 随時尿　1.0 以下 mg/g・クレアチニン	2～4	104 尿・便	
5162 5C100	**L-FABP** (L型脂肪酸結合蛋白) 5C100-0000-001-052	尿 **2.0**	C-7 冷蔵	CLEIA法	(クレアチニン換算値) 8.4 以下 μg/gCr	4～7	210 尿・便	・凍結及び、他項目との重複依頼はできません。 ・酸性蓄尿は検査値に影響を及ぼす場合がありますので避けて下さい。 ・室温保存ではデータに影響が認められるため、すみやかに冷蔵にして提出して下さい。 ※1　＊4
尿沈渣顕微鏡検査								
6020 1A105	**尿沈渣** **(尿沈渣顕微鏡検査)** 1A105-0000-001-701	尿 **10.0**	C-7 冷蔵	鏡検法	赤血球　4以下/HPF 白血球　4以下/HPF	1～2	(27) 尿・便	凍結不可 当該保険医療機関内で検査を行った場合に算定する。細菌顕微鏡検査と同一日に併せて算定する場合は、当該検査に用いた検体の種類を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。
6085 1A105	**尿沈渣** **(尿沈渣顕微鏡検査)** **(染色した場合)** 1A105-0000-001-735	尿 **10.0**	C-7 冷蔵			1～2	(27+9) 尿・便	
糞便検査								
6025 1B010	虫卵検査	**虫卵(塗抹)** 1B010-0000-015-701	糞便 拇指頭大	イ 冷蔵	直接塗抹法	(－)	2～4	20 尿・便	(検出可能な主要虫卵) 回虫卵、広節裂頭条虫卵、鞭虫卵など
6037 1B015		**虫卵(集卵)** 1B015-0000-015-701 1B015-0000-015-701	糞便 拇指頭大	イ 冷蔵	浮遊法	(－)	2～4	15 尿・便	(検出可能な主要虫卵) 鉤虫卵など
6026 1B015				イ 冷蔵	沈殿法	(－)	2～4		(検出可能な主要虫卵) 肝吸虫卵、横川吸虫卵など

注　尿中細菌顕微鏡検査は細菌の項に準ずる

※1　原則として3月に1回に限り算定する。但し、医学的な必要からそれ以上算定する場合においては、その詳細な利用を診療報酬明細書の摘要欄に記載する。







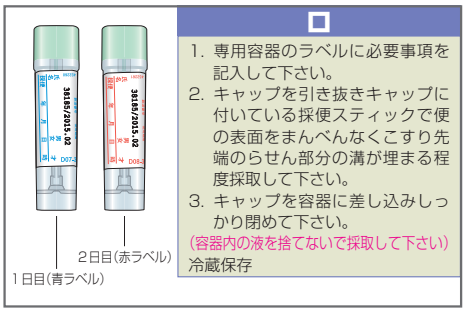
糞便検査

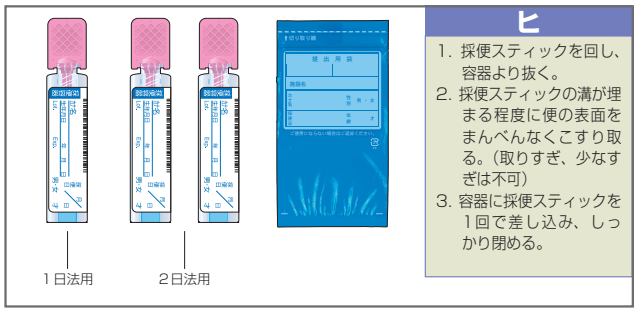
項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量(mL)	容器 保存方法(安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
6032 1B020	**虫体検出** 1B020-0000-015-701	※1	※2	目視及び鏡検法	(−)	2〜4	23 尿・便	(虫体) 鑑別した上でご報告します。 (虫体の存在が疑われる材料) 有無を確認し虫体が認められた場合、鑑別してご報告します。
6036 1日法 (6120) 2日法 1B040	**ヘモグロビン(潜血LA)定性** 1B040-1351-015-062 1B040-1351-015-062	糞便 専用容器	ロ 冷蔵	ラテックス凝集比濁法	(−)	2〜4	37 尿・便	
6090 1日法 (6117) 2日法 1B040	**ヘモグロビン(潜血LA)定量** 1B040-1352-015-062 1B040-1352-015-062				100以下 (−) ng/mL	2〜4	41 尿・便	
6521 1日法 (6522) 2日法 1B040	**ヘモグロビン(潜血金コロイド)定性** 1B040-1351-015-195 1B040-1351-015-195	糞便 専用容器 ※3	ヒ 冷蔵	金コロイド法	(−)	2〜4	37 尿・便	
6526 1日法 (6527) 2日法 1B040	**ヘモグロビン(潜血金コロイド)定量** 1B040-1352-015-195 1B040-1352-015-195				100未満 (−) ng/mL		41 尿・便	
6532 1日法 (6533) 2日法 1B042	**ヘモグロビン・トランスフェリン(Hb・Tf)定性** 1B042-1351-015-195 1B042-1351-015-195				判定(−) Hb (−) Tf (−)		56 尿・便	
6544 1日法 (6545) 2日法 1B042	**ヘモグロビン・トランスフェリン(Hb・Tf)定量** 1B042-1352-015-195 1B042-1352-015-195				判定(−) Hb 100未満(−) Tf 50未満(−) ng/mL		56 尿・便	

※1 虫体又は虫体の存在が疑われる材料をご提出下さい。

※2 虫体の場合、10%ホルマリン又は70%アルコールにて固定して、虫体の大きさにあうサイズの容器でご提出下さい。虫体の存在が疑われる材料の場合、その材料に適合した容器をご使用下さい。

※3 1本の採便容器でヘモグロビンとトランスフェリンの測定が可能です。

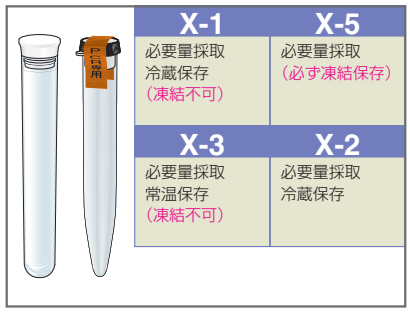




一般検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
精液一般検査								
(6497)	量 1Z992-0000-060-920	精液全量	X-3 常温		(参考基準) 2.0 以上 ※1 mL	1～2	70 尿・便	120頁参照
	pH 1Z992-0000-060-901			試験紙法	(参考基準) 7.2 以上 ※1	1～2		
	精子濃度 1Z992-0000-060-920			鏡検法	(参考基準) 20×10^6 以上 ※1 /mL	1～2		
	奇形精子率 1Z992-0000-060-920			鏡検法	(参考基準) 15 以下 ※1 %	1～2		
	運動率 1Z992-0000-060-920			鏡検法	(参考基準) 50 以上 ※1 %	1～2		
髄液一般検査								
4529 5A150	オリゴクローナルバンド〔等電点電気泳動法〕 5A150-0000-098-236	血清1.0 及び 髄液1.0 注1	G-2 又は X-2 冷蔵	等電点電気泳動法	検出せず	11～17	522 尿・便	多発性硬化症の診断の目的で行った場合に算定する。 ＊4
4438 5G410	ミエリンベイシック蛋白 (MBP) 5G410-0000-041-023	髄液0.3	X-5 凍結	ELISA法	102 以下 pg/mL	4～12	577 尿・便	多発性硬化症の診断の目的で行った場合に算定する。 ＊4

注1　他の検査と重複しないよう、単独検体で提出して下さい。
※1　射精後2時間以内に検査した場合の基準となります。



実施料について(生化Ⅰ)

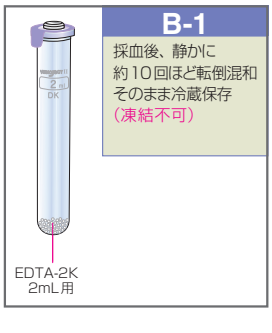
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

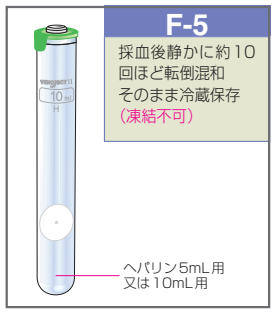
1.	5項目以上7項目以下の場合 生化Ⅰ	93点
2.	8項目又は9項目の場合 生化Ⅰ	99点
3.	10項目以上の場合 生化Ⅰ	109点

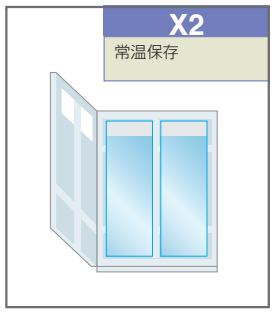
項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
髄液一般検査								
6044 1C020	比重 1C020-0000-041-903	髄液 5.0	X-1 冷蔵	屈折計法	1.005～1.007	1～2	62 尿・便	凍結不可
6045 1C025	pH 1C025-0000-041-920			PHメーター法	7.4～7.6	1～2		
6046 1C045	ノンネアペルト反応 1C045-0000-041-920			ノンネアペルト法	(−)	1～2		
6047 1C040	パンディ反応 1C040-0000-041-920			パンディ法	(−)～(1+)	1～2		
6048 1C030	細胞数 1C030-0000-041-920			鏡検法	5 以下 /μL	1～2		
6055 1C050	トリプトファン反応 1C050-0000-041-920			里見変法	(−)	1～2		
6073 1C035	細胞種類 1C035-0000-041-920			鏡検法	単核球 多核球 その他 %	1～2		
6050 1C010	蛋白定量 1C010-0000-041-271			ピロガロールレッド法	10～40 mg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	
6051 1C015	糖定量 1C015-0000-041-262			電極法	50～75 mg/dL	1～2		
6052 3H010	ナトリウム (Na) 3H010-0000-041-261			電極法	130～150 mEq/L	1～2	11 生化Ⅰ	
6054 3H020	クロール (Cl) 3H020-0000-041-261			電極法	120～125 mEq/L	1～2		
6053 3H015	カリウム (K) 3H015-0000-041-261			電極法	2.5～3.5 mEq/L	1～2		

一般検査

項目コード 統一コード	検　査　項　目	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
その他の穿刺液・採取液検査								
6038	ムチン塊形成試験	関節液 5.0	X-1 冷蔵	酢酸加反応	正常(3+)	1～2		
6039 1Z050	ルンベルグ反応 1Z050-0000-040-920	穿刺液 1.0	X-1 冷蔵	硝酸沈降反応		1～2		
6041 1Z035	リバルタ反応 1Z035-0000-040-920	穿刺液 0.5	X-1 冷蔵	酢酸沈殿法		1～2		
6040 1Z020	比重 1Z020-0000-040-903	穿刺液 0.5	X-1 冷蔵	屈折計法		1～2		
6088	pH	穿刺液 1.0	X-1 冷蔵	PHメーター法		1～2		
6043 1Z045	沈渣 1Z045-0000-040-920	穿刺液 5.0	X-1 冷蔵	鏡検法	/HPF	1～2		
6086 1Z030	細胞種類 1Z030-0000-040-920	穿刺液 5.0	F-5 冷蔵	ライト染色鏡検		1～2		凍結不可
6087 1Z025	細胞数 1Z025-0000-040-920	穿刺液 5.0	F-5 冷蔵	鏡検法	/μL	1～2		







項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
その他の穿刺液・採取液検査								
6042 1Z010	**蛋白定量** 1Z010-0000-040-903	穿刺液 **0.5**	**X-1** 冷蔵	屈折計法	g/dL	1～2	11 生化Ⅰ	
6089 1Z015	**糖定量** 1Z015-0000-040-262	穿刺液 **1.0**	**X-1** 冷蔵	電極法	mg/dL	1～2	11 生化Ⅰ	
6107 1Z505	**関節液結晶** 1Z505-0000-044-920	関節液 **1.0**	**X-1** 冷蔵	鏡検法	ピロリン酸Ca (−) 尿酸Na (−)	1～2		
2152 1Z025	**有核細胞数** 1Z025-0000-046-920	骨髄液 **1.0**	**B-1** 冷蔵	鏡検法	100,000～250,000 /μL	1～3		凍結不可
2053 1Z025	**巨核細胞数** 1Z025-1301-046-920	骨髄液 **1.0**	**B-1** 冷蔵	鏡検法	50～150 /μL	1～3		凍結不可
6063 2A300	**鼻汁中好酸球** 2A300-0000-094-603	鼻汁 塗抹標本	**X2** 常温	ライト染色	(−)	2～4	15 血液	脱脂スライドグラス使用
6067 2A090	**喀痰中好酸球** 2A090-0000-094-603	喀痰 塗抹標本	**X2** 常温	ライト染色	(−)	2～4	15 血液	脱脂スライドグラス使用

実施料について(生化Ⅰ)

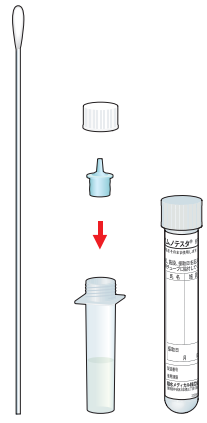
一回に採取した血液を用いて青色で表記されている検査を5項目以上行った場合

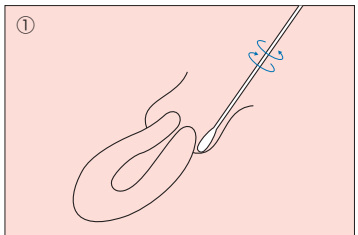
1.	5項目以上7項目以下の場合	
	生化Ⅰ	93点
2.	8項目又は9項目の場合	
	生化Ⅰ	99点
3.	10項目以上の場合	
	生化Ⅰ	109点

一般検査

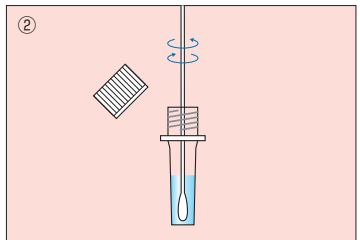
項目コード 統一コード	検　査　項　目	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
その他の穿刺液・採取液検査								
5174 5C111	**癌胎児性フィブロネクチン定性** (頸管膣分泌液) 5C111-0000-067-023	膣分泌液	マ2 凍結	EIA法	(−)	2〜5	204 免疫	破水の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の者を対象として測定した場合又は切迫早産の診断のために妊婦満22週以上満33週未満の者を対象とした場合のみ算定する。 ＊イ
5372 3B200	**顆粒球エラスターゼ** (子宮頸管粘液) 3B200-0000-058-062	子宮頸管粘液	テ 凍結	ラテックス凝集比濁法	1.6 以下 μg/mL	4〜7	122 尿・便	絨毛羊膜炎の診断のために妊娠満22週以上満37週未満の妊婦で切迫早産の疑いがある者に対して行った場合算定する。 ＊E

マ2

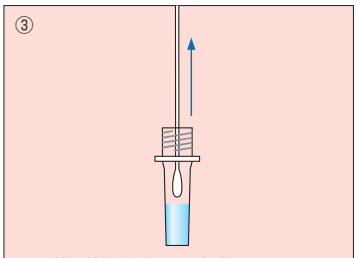




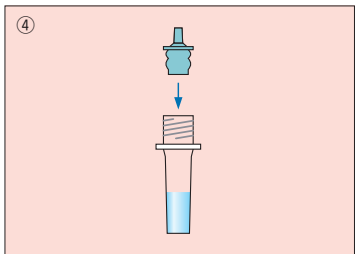
①
専用綿棒を後腟円蓋に挿入し、約10秒間回して分泌物を吸収させます。
(腟表面を強くこすらないで下さい。)



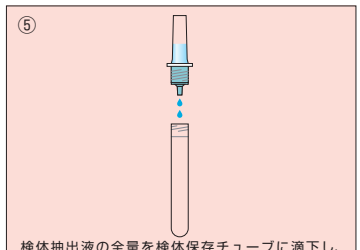
②
検体抽出容器の白色キャップをはずし、分泌液を吸収させた綿棒を浸けて、5回程度綿棒を回します。(この際、容器から液がこぼれないよう注意して下さい。)



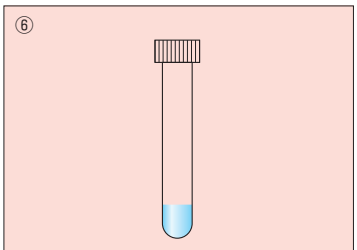
③
綿棒を検体抽出容器から引き抜きます。



④
検体抽出容器に検体濾過フィルターを取り付けます。



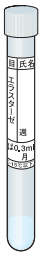
⑤
検体抽出液の全量を検体保存チューブに滴下し、チューブの蓋を締めて下さい。
シールを貼り、凍結保存して下さい。



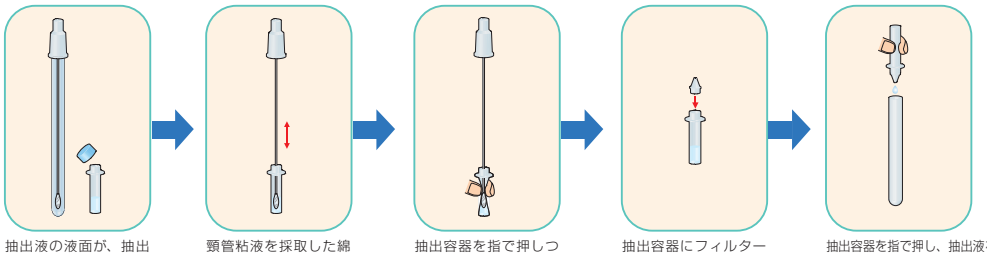
⑥
測定試料

注意事項
・検体の採取は腟洗浄前に行って下さい。
・検体中に精液が混入しているときは、その検体は使用しないで下さい。
・検体中に0.1%以上の血液混入が認められた場合、正確な結果が得られない可能性があります。

テ



(検体採取・保存上の注意事項)
1. 検体採取は腟部洗浄前に行う。
2. 検体採取前に腟部の粘液を綿球で丁寧にぬぐい取る。
3. 専用採取セットの綿棒で、子宮頸管部より粘液が綿棒全体に浸み込むように採取する。綿棒に固形物が付着した場合は検体採取をやり直す。
4. 採取した検体は15分以内に右記の抽出操作を行う。



抽出液の液面が、抽出容器にある2本の液量確認線の間にあることを確認する(キャップ中栓に付着していることあり)。
抽出液の入った抽出容器の青色キャップをはずします。

頸管粘液を採取した綿棒を抽出容器に入れ、2〜3分間放置する。その後、綿棒を約20回細かく上下させ、検体を抽出する。

抽出容器を指で押しつぶし、綿棒に浸み込んだ検体を絞り出した後、綿棒を取り出す。

抽出容器にフィルターを取り付ける。

抽出容器を指で押し、抽出液をフィルターを介して検体保存容器に移す。加圧は1回のみとし、5〜7滴(約300μL)を分取します。得られた濾過検体を抽出検体とする。
検体保存容器にキャップをして測定まで冷凍にて保存する。

一般検査検体の採取方法と注意事項

虫卵検査

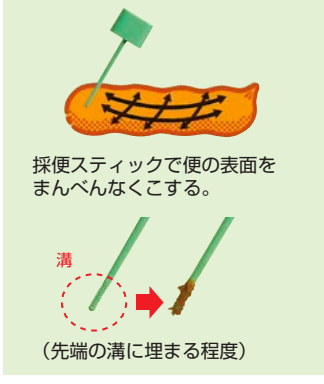
●虫卵（塗抹）、（集卵）検査では、拇指頭大の自然排泄便を糞便検査汎用容器（イ）に入れて下さい。
採集後は冷蔵保存して下さい。

便潜血検査：ヘモグロビン（潜血 LA）

1）専用容器のラベルに必要事項を記入し、キャップを引き抜いて下さい。
2）キャップに付いている採便スティックで便の表面をまんべんなくこすり先端のらせん部分の溝が埋まる程度採取して下さい。
3）キャップを容器に差し込みしっかり閉めて下さい。
（容器内の液を捨てないで下さい。）
4）採集後は冷蔵保存して下さい。

1）

2）



3）

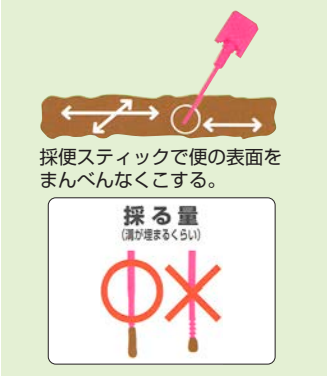
4）

便潜血検査：ヘモグロビン（潜血金コロイド）ヘモグロビン・トランスフェリン

1）採便スティックを回し、容器より抜く。
2）採便スティックの溝が埋まる程度に便の表面をまんべんなくこすり取る。
（取り過ぎ、少なすぎは不可）
3）容器に採便スティックを 1 回で差し込み、しっかり閉める。
（容器内の液を捨てないで下さい。）
4）採集後は冷蔵保存して下さい。

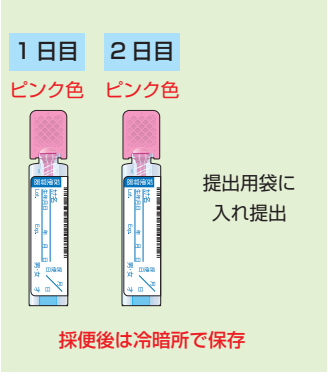
1）

2）



3）

4）



髄液一般検査

1）髄液一般検査は抗凝固剤が入っていない滅菌容器に採取し、提出まで冷蔵保存して下さい。
（ヘパリンは、細胞数算定時にサムソン液と反応し、微粒子が生じて検査の障害になります）
2）細胞数・細胞種類検査時には変性や崩壊の影響を避けるため、緊急検査でのご依頼をお勧めします。

精液一般検査

1）4～5 日の禁欲後、陰茎を洗浄し、マスターベーションによって精液を清潔な乾いた密封容器に採取して、室温で保存して下さい。
2）採取に当たっては、コンドームやティッシュペーパーを用いて採取しないで下さい。
3）射精後、2 時間以上経過した検体での検査は不適です。

その他の穿刺液・採取液検査

1）その他の穿刺液・採取液は滅菌容器に採取し、冷蔵保存して下さい。
血液が混入している場合は、抗凝固剤（クエン酸 Na、EDTA、又はヘパリンなど）を加えて下さい。
2）関節液は抗凝固剤が入っていない滅菌容器を使用して下さい。
抗凝固剤の EDTA を加えた場合はピロリン酸 Ca 結晶が溶解することがあります。

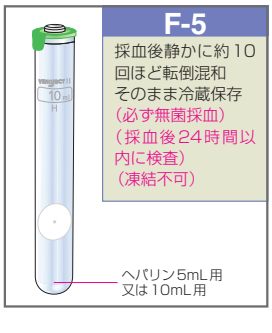
染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
先天性疾患　染色体検査								
7291 8B200	倫理指針対象　曜日指定 **G-band法** 8B200-0000-019-403	全血3.0	F-5 冷蔵	PHA添加全血培養法 G-band法		8～19	2631 ＋ 397 遺伝子	凍結不可 Q・C・R-band法は、G-band法の結果を得て必要と判断された場合にのみ行う検査です。＊4
7819 8B453	倫理指針対象　曜日指定 **15染色体** (プラダーウイリ症候群) 8B453-0000-019-841	全血3.0		FISH法		9～13	2631 ＋ 397 遺伝子	凍結不可 厚生労働大臣が定める施設基準に適合しているものとして地方厚生局長等に届け出た保険医療機関において行われる場合に限り遺伝学的検査5,000点を算定する。検査の実施に当たっては、個人情報保護委員会・厚生労働省「医療・介護関係事業者における個人情報の適切な取扱いのためのガイダンス」(平成29年4月)及び関係学会による「医療における遺伝学的検査・診断に関するガイドライン」(平成23年2月)の遵守が必要です。＊4
7818 8B454	倫理指針対象　曜日指定 **15染色体** (アンジェルマン症候群) 8B454-0000-019-841	全血3.0				9～13		
7820 8B523	倫理指針対象　曜日指定 **22染色体** (22q11欠失) 8B523-0000-019-841	全血3.0				9～13		

休日の前日は受付できません。

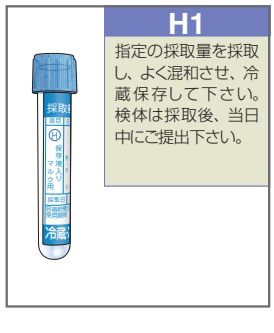
※1 予約連絡後専用容器をお届けします。

●先天性疾患の検査依頼に当たりましては、検査実施前に被検者(親権者、代諾者)に対して、検査の目的、方法、精度、限界、結果の開示方法等について十分な説明がなされ、被検者の自由意志による同意(インフォームド・コンセント)が文書により得られている確認のご署名を、依頼書へお願いいたします。



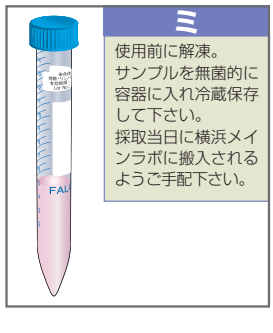
F-5

採血後静かに約10回ほど転倒混和
そのまま冷蔵保存
(必ず無菌採血)
(採血後24時間以内に検査)
(凍結不可)



H1

指定の採取量を採取し、よく混和させ、冷蔵保存して下さい。
検体は採取後、当日中にご提出下さい。



ミ

使用前に解凍。
サンプルを無菌的に容器に入れ冷蔵保存して下さい。
採取当日に横浜メインラボに搬入されるようご手配下さい。

血液疾患　染色体検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量(mL)	容器 保存方法(安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
7294 8B220	曜日指定 G-band法 8B220-0000-046-403 8B220-0000-019-403 8B220-0000-070-403	骨髄液1.0	ミ 冷蔵	骨髄培養法 G-band法		14～23	2631＋397 遺伝子	凍結不可 全血検体の場合、末梢血中にblast細胞が多数出現していないと分析できません。G-band標本の状態によっては、Q-band法、又はギムザ単染色法にて分析を行うことがありますので予めご了承下さい。＊4
7293 8B220		全血3.0	F-5 冷蔵	PHA非添加全血培養法 G-band法				
7296 8B220		その他※1	ミ 冷蔵	G-band法				
7300 8B395	曜日指定 BCR-ABL1 t(9；22)転座 8B395-0000-019-841 8B395-0000-046-841	全血5.0	F-5 冷蔵	interphase-FISH法		8～13		凍結不可 左記の項目以外をご希望の場合は担当営業員までご相談下さい。＊4
		骨髄液1.0	H1 冷蔵					
7299 8B455	曜日指定 PML-RARA t(15；17)転座 8B455-0000-019-841 8B455-0000-046-841	全血5.0	F-5 冷蔵			7～12		
		骨髄液1.0	H1 冷蔵					
7821 8B385	曜日指定 RUNX1-RUNX1T1(AML1-MTG8) t(8;21)転座 8B385-0000-019-841 8B385-0000-046-841	全血5.0	F-5 冷蔵			8～13		
		骨髄液1.0	H1 冷蔵					
7596 8B475	曜日指定 TP53 del(17)短腕欠失 8B475-0000-019-841 8B475-0000-046-841	全血5.0	F-5 冷蔵			8～13		
		骨髄液1.0	H1 冷蔵					
7595 8B344	曜日指定 IGH-FGFR3 t(4；14)転座 8B344-0000-019-841 8B344-0000-046-841	全血5.0	F-5 冷蔵			8～13		
		骨髄液1.0	H1 冷蔵					
7594 8B445	曜日指定 IGH-MAF t(14；16)転座 8B445-0000-019-841 8B445-0000-046-841	全血5.0	F-5 冷蔵			8～13		
		骨髄液1.0	H1 冷蔵					
7865 8B414	曜日指定 IGH-CCND1 t(11；14)転座 8B414-0000-019-841 8B414-0000-046-841	全血5.0	F-5 冷蔵			8～13		
		骨髄液1.0	H1 冷蔵					
7423 8B384	曜日指定 IGH-MYC t(8；14)転座 8B384-0000-019-841 8B384-0000-046-841	全血5.0	F-5 冷蔵			8～13		
		骨髄液1.0	H1 冷蔵					
7597 8B434	曜日指定 D13S319 del(13)長腕欠失 8B434-0000-019-841 8B434-0000-046-841	全血5.0	F-5 冷蔵			8～13		
		骨髄液1.0	H1 冷蔵					
7667 8B317	曜日指定 CKS1B 1q21増幅 8B317-0000-019-841 8B317-0000-046-841	全血5.0	F-5 冷蔵			8～13		
		骨髄液1.0	H1 冷蔵					

休日の前日は受付できません。

※1 その他検体材料で提出される場合は、事前に担当営業員までご相談下さい。

FISH法　対象となる主な疾患

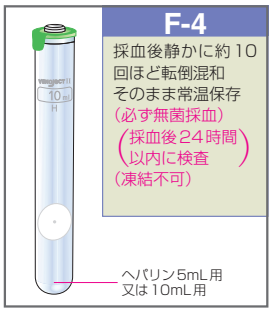
BCR-ABL1 t(9；22)転座	t(9；22)(q34；q11.2)を有するCML、ALL、AML
PML-RARA t(15；17)転座	t(15；17)(q22；q21)を有するAML
RUNX1-RUNX1T1(AML1-ETO) t(8;21)転座	t(8；21)(q22；q22)を有するAML

染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
細胞表面マーカー								
7012 5I021	曜日指定 予約検査 B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgG 5I021-0000-019-662	全血1.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	1～3 %	4～8	157 免疫	※1 ＊4
7013 5I022	曜日指定 予約検査 B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgA 5I022-0000-019-662	全血1.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	1～3 %	4～8		
7014 5I023	曜日指定 予約検査 B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgM 5I023-0000-019-662	全血1.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	3～12 %	4～8		
7094 5I024	曜日指定 予約検査 B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgD 5I024-0000-019-662	全血1.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	1～10 %	4～8		
7015 5I025	曜日指定 予約検査 B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) K 5I025-0000-019-662	全血1.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	3～8 %	4～8		
7016 5I026	曜日指定 予約検査 B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) L 5I026-0000-019-662	全血1.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	1～5 %	4～8		
(7007) 5I020	曜日指定 予約検査 T細胞・B細胞百分率 (CD3、CD19) 5I020-0000-019-662	全血3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	T細胞(CD3) 66～89 B細胞(CD19) 4～13 %	4～8	198 免疫	休日の前日は受付できません。 検体は採取後、当日中にご提出下さい。 リンパ球の少ない患者の場合、採血量を増やして下さい。 ＊4
(7391) 5I070 5I082	曜日指定 予約検査 T細胞サブセット (CD4、CD8) 5I702-0000-019-662	全血3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	CD4：25.0～54.0 CD8：23.0～56.0 % CD4/CD8：0.40～2.30	4～8	190 免疫	

※1　細胞性免疫検査のご依頼について
1. 検体は常温で保存して下さい。
2. 曜日指定・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡下さい。受付可能日は月～金曜日です。
3. 検体は採取後、当日中にご提出下さい。
4. リンパ球が少ない場合は多めに採血して下さい。

【B細胞表面免疫グロブリンのご依頼について】
・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡下さい。



項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
細胞表面マーカー								
( )	曜日指定 予約検査 モノクローナル抗体による リンパ球表面マーカーの自動解析	全血 3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	下頁参照	4～8		※1 実施項目一覧は下表をご参照下さい。 ＊4

●モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析

	コードNO.	CDnumber	基準値(%)	特異性
T細胞	7090	CD1a	1.0 以下	胸腺皮質細胞
	7083	CD2	71.0～91.0	汎T細胞・Eロゼット形成細胞
	7080	CD3	58.0～84.0	成熟T細胞
	7081	CD4	25.0～54.0	インデューサー/ヘルパーT細胞
	7314	CD5	60.0～90.0	汎T細胞・一部のB細胞
	7340	CD7	72.0～90.0	汎T細胞
	7082	CD8	23.0～56.0	サプレッサー/サイトトキシックT細胞
	7098	CD25	8.0～34.0	IL-2レセプター/p55Tac
B細胞	7096	CD19	5.0～24.0	汎B細胞
	7092	CD20	3.0～20.0	汎B細胞
	7088	CD21	3.0～18.0	C3d/EBVレセプター・成熟B細胞
骨髄細胞	7084	CD11b	18.0～49.0	NK細胞・サプレッサーT細胞の一部
	7315	CD13	9.0 以下	単球・顆粒球・骨髄細胞
	7316	CD14	5.0 以下	単球
	7317	CD33	5.0 以下	未熟顆粒球・APL・AML

	コードNO.	CDnumber	基準値(%)	特異性
特殊細胞	7093	CD10	1.0 以下	common-ALL・好中球
	7089	CD16	6.0～39.0	NK細胞(Fcγレセプター)
	7087	CD38	18.0～59.0	活性化および増殖細胞
	7091	CD57	4.0～45.0	NK細胞・サプレッサーT細胞の一部
	7097	HLA-DR	11.0～46.0	B細胞・活性化T細胞(HLA-DR抗原)

1)免疫調節のパラメーター
CD4/CD8比は免疫調節機能の指標として有用性が認められています。
CD4とCD8を同一検体で同時に依頼された場合はCD4/CD8比も報告させていただきます。

※1 細胞性免疫検査のご依頼について
1. 検体は常温で保存して下さい。
2. 曜日指定・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡下さい。受付可能日は月～金曜日です。
3. 検体は採取後、当日中にご提出下さい。
4. リンパ球が少ない場合は多めに採血して下さい。

【モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析のご依頼について】
・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡下さい。

染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

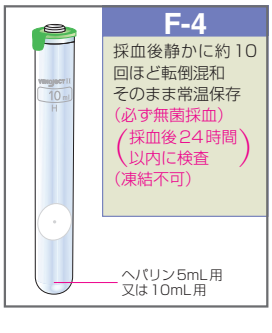
項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
細胞表面マーカー								
(　　)	曜日指定 予約検査 Two-color解析による リンパ球表面マーカー検査	全血3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	Two-color解析による リンパ球表面マーカー 検査一覧参照 %	4～8		※1 実施項目一覧は「Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査一覧」をご参照下さい。 ＊4

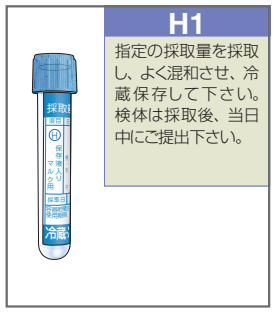
●Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査一覧

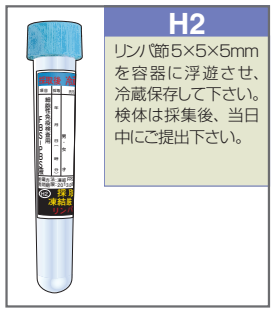
項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位		所要日数	実施料 判断料	備考
7303 5I701	曜日指定 予約検査 CD4 / CD29 5I701-0000-019-662	全血3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	CD4⁻CD29⁺	22.0～59.0	4～8	194 免疫	休日の前日は受付できません。 ※1 ＊4
					CD4⁻CD29⁻	12.0～38.0			
					CD4⁺CD29⁻	9.0～34.0			
					CD4⁺CD29⁺	11.0～26.0			
7308 5I700	曜日指定 予約検査 CD4 / CD45RA 5I700-0000-019-662	全血3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	CD4⁻CD45RA⁺	30.0～57.0	4～8		休日の前日は受付できません。 ※1 ＊4
					CD4⁻CD45RA⁻	5.0～23.0			
					CD4⁺CD45RA⁻	15.0～34.0			
					CD4⁺CD45RA⁺	9.0～37.0			
7260 5I721	曜日指定 予約検査 CD57 / CD16 5I721-0000-019-662	全血3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	CD57⁻CD16⁺	1.0～15.0	4～8		休日の前日は受付できません。 ※1 ＊4
					CD57⁻CD16⁻	49.0～87.0			
					CD57⁺CD16⁻	2.0～40.0			
					CD57⁺CD16⁺	2.0～27.0			
7321 5I710	曜日指定 予約検査 CD11b / CD8 5I710-0000-019-662	全血3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	CD11b⁻CD8⁺	11.0～40.0	4～8	194 免疫	休日の前日は受付できません。 ※1 ＊4
					CD11b⁻CD8⁻	29.0～64.0			
					CD11b⁺CD8⁻	8.0～32.0			
					CD11b⁺CD8⁺	6.0～27.0			
					Bright	20.0以下			
					Dull	3.0～17.0以下			
7326 5I706	曜日指定 予約検査 HLA-DR / CD4 5I706-0000-019-662	全血3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	HLA-DR⁺CD4⁻	8.0～37.0	4～8		休日の前日は受付できません。 ※1 ＊4
					HLA-DR⁻CD4⁻	24.0～61.0			
					HLA-DR⁻CD4⁺	22.0～51.0			
					HLA-DR⁺CD4⁺	1.0～12.0			
7331 5I707	曜日指定 予約検査 HLA-DR / CD8 5I707-0000-019-662	全血3.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	HLA-DR⁻CD8⁺	15.0～49.0	4～8		休日の前日は受付できません。 ※1 ＊4
					HLA-DR⁻CD8⁻	28.0～62.0			
					HLA-DR⁺CD8⁻	6.0～25.0			
					HLA-DR⁺CD8⁺	2.0～27.0			

※1　細胞性免疫検査のご依頼について
1. 検体は常温で保存して下さい。
2. 曜日指定・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡下さい。受付可能日は月～金曜日です。
3. 検体は採取後、当日中にご提出下さい。
4. リンパ球が少ない場合は多めに採血して下さい。

【Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査のご依頼について】
・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡下さい。







染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量(mL)	容器 保存方法(安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
細胞表面マーカー								
7742 5D596	曜日指定 予約検査 CCR4タンパク〔FCM〕 5D596-0000-019-662	全血5.0	F-4 常温	フローサイトメトリー法	陰性	3～5	10000 血液	休日の前日は受付できません。 検体は採取後、当日中にご提出下さい。 ※1、3 ※2 ＊4
細胞表面マーカーセット検査								
7107	造血器悪性腫瘍細胞検査 曜日指定 予約検査 白血病・リンパ腫解析検査(LLA)CD45ゲーティング	骨髄液1.0 又は 全血5.0	H1 冷蔵 又は F-4 常温	フローサイトメトリー法		4～8	1940 血液	休日の前日は受付できません。 検体は採取後、当日中にご提出下さい。 リンパ球の少ない患者の場合、採血量を増やして下さい。 実施項目は下記の一覧表をご参照下さい。 ＊4
7109	曜日指定 予約検査 悪性リンパ腫解析検査(MLA)CD45ゲーティング	リンパ節 又は 全血5.0	H2 冷蔵 又は F-4 常温	フローサイトメトリー法		4～8		

※1 「ポテリジオ（一般名：モガムリズマブ）」を投与された検体で実施した際には、正しい結果が得られないことがありますので、ご注意下さい。本検査結果は、臨床症状や他の検査結果などを考慮して総合的に判断して下さい。

※2 CCR4蛋白〔FCM〕及びCCR4蛋白〔IHC〕を同一の目的で行った場合には、原則としていずれか一方のみを算定する。但し、医学的な必要性がある場合には、併せて実施した場合であっても、いずれの点数も算定できる。なお、この場合においては、診療報酬明細書の摘要欄にその理由及び医学的な必要性を記載すること。

※3 CCR4タンパク(FCM)の注意事項
モガムリズマブ（遺伝子組換え）の適応を判定するための補助に用います。ATL（Adult T-cell leukemia-lymphoma、成人T細胞白血病リンパ腫）の診断や治療効果の確認を目的とした使用については有効性が確認されていないので、そのような目的で使用しないで下さい。（試薬添付文書より）

【CCR4タンパク〔FCM〕、白血病・リンパ腫、悪性リンパ腫解析検査　CD45ゲーティングのご依頼について】
・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡下さい。

●造血器悪性腫瘍細胞検査　セット内容一覧

No.	検査項目	セット内容
7107	白血病・リンパ腫解析検査 (LLA)CD45ゲーティング	CD1, CD2, CD3, CD4, CD5, CD7, CD8, CD10, CD13, CD14, CD19, CD20, CD33, CD34, CD41, CD56, GP-A, 抗HLA-DR
7109	悪性リンパ腫解析検査 (MLA)CD45ゲーティング	CD2, CD3, CD4, CD5, CD7, CD8, CD10, CD11c, CD16, CD19, CD20, CD23, CD25, CD30, CD34, CD56, κ-chain, λ-chain

染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

HLA・移植関連検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
(7025) 5K160	曜日指定 予約検査 MLC (リンパ球混合培養試験) 5K160-0000-019-814	(受給者) 全血20.0 (提供者) 全血10.0 (非血縁者) 全血10.0	F-4 常温	^{3}H-サイミジン取り込み能		10 ～ 14		休日の前日は受付できません。 ＊4
7223	曜日指定 予約検査 HLA-A, B(血清対応型タイピング)	全血2.0	E-6 冷蔵	PCR-rSSO法		4 ～ 7		凍結不可 休日の前日は受付できません。 ＊4
7379	曜日指定 予約検査 HLA-DR(血清対応型タイピング)	全血2.0	E-6 冷蔵	PCR-rSSO法		4 ～ 8		
7531 5K116	曜日指定 予約検査 HLA-A(DNAタイピング) 5K116-0000-019-899	全血2.0	E-6 冷蔵	PCR-SBT法		7 ～ 10		凍結不可 休日の前日は受付できません。 予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業所にご連絡下さい。 続柄・臨床診断名・投与薬剤名・輸血歴・移植歴は必ず明記して下さい。 HLA検査2項目以上同時依頼の場合は全血2.0mLで検査可能です。 検体採取にあたっては取り扱いにご注意下さい。 ※1、※2、※3、※4
7532 5K117	曜日指定 予約検査 HLA-B(DNAタイピング) 5K117-0000-019-899	全血2.0	E-6 冷蔵	PCR-SBT法		7 ～ 10		
7259 5K118	曜日指定 予約検査 HLA-C(DNAタイピング) 5K118-0000-019-899	全血2.0	E-6 冷蔵	PCR-SBT法		7 ～ 10		
7808 5K121	曜日指定 予約検査 HLA-DPB1(DNAタイピング) 5K121-0000-019-899	全血2.0	E-6 冷蔵	PCR-SBT法		7 ～ 10		
7806 5K120	曜日指定 予約検査 HLA-DRB1(DNAタイピング) 5K120-0000-019-899	全血2.0	E-6 冷蔵	PCR-SBT法		7 ～ 10		
7533 5K129	曜日指定 予約検査 HLA-DQA1(DNAタイピング) 5K129-0000-019-896	全血2.0	E-6 冷蔵	PCR-SSP法		7 ～ 10		
7807 5K130	曜日指定 予約検査 HLA-DQB1(DNAタイピング) 5K130-0000-019-899	全血2.0	E-6 冷蔵	PCR-SBT法		7 ～ 10		＊4

※1　HLA-A、B、C、DPB1、DRB1、DQB1(DNAタイピング)検査は、必要に応じてPCR-SSP法、PCR-rSSO法も併用させていただきます。

※2　必ず専用容器にて規定量を採血して下さい。やむを得ず規定量に満たない場合は、陰圧を解除して下さい。

※3　HLA DNAタイピングの種類について
下記日本組織適合性学会のホームページにて最新情報をご確認下さい。
http://jshi.umin.ac.jp/databank/index.html

※4　HLA・移植関連検査の検体について
1. 検体は冷蔵で保存し、凍結保存は避けて下さい。
2. 曜日指定・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡下さい。受付可能日は月～金曜日です。
3. 続柄・臨床診断名・投与薬剤名・輸血歴・移植歴は必ず明記して下さい。
4. 本検査方法ではコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取にあたっては取り扱いに充分ご注意下さい。
5. 必ず専用容器にて規定量を採血して下さい。やむを得ず規定量に満たない場合は、蓋を開けて陰圧を解除して下さい。ただし、MLC（リンパ球混合培養）と同時依頼の場合は、無菌であることが重要となりますので必ず規定量を採血して下さい。
6. 移植後のHLAタイピングをご依頼の場合は、レシピエントとドナーのアリルが混在し判定できない場合がありますのであらかじめご了承下さい。

〔ご注意〕
移植後のHLAタイピングをご依頼の場合は、移植前のHLAの結果と提供者のHLAの結果を必ず依頼書にご記入下さい。

【MLC、HLAタイピングのご依頼について】
・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡下さい。

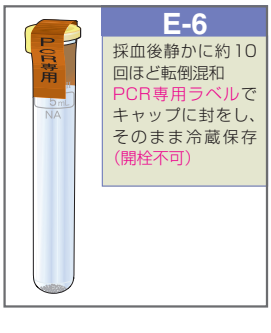
項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
細胞機能検査								
7008 5I010	曜日指定 予約検査 PHAによるリンパ球幼若化検査 5I010-0000-019-814	全血5.0	F-4 常温	^{3}H-サイミジン取り込み能	PHA+ 20500～56800 CONTROL 127～456 cpm	8～11	345 免疫	休日の前日は受付できません。 検体は採血後、当日中にご提出下さい。 リンパ球の少ない患者の場合、採血量を増やして下さい。 ※1 ＊4
7009 5I011	曜日指定 予約検査 Con-Aによるリンパ球幼若化検査 5I011-0000-019-814	全血5.0	F-4 常温	^{3}H-サイミジン取り込み能	Con-A+ 20300～65700 CONTROL 127～456 cpm	8～11		
(7027) 5I014	曜日指定 薬剤によるリンパ球刺激試験 (LST) 5I014-0000-019-814	全血15.0 (2薬剤迄) 及び 薬剤 (1回投与量) (同時提出) 注1、2	F-4 常温	^{3}H-サイミジン取り込み能	180% 未満 陰性 180.0～199.9% 疑陽性 200.0% 以上 陽性	10～13	イ1薬剤 345 ロ2薬剤 425 ハ3薬剤以上 515 免疫	休日の前日は受付できません。 検体は採血後、当日中にご提出下さい。 皮内反応用薬剤では検査できません。 リンパ球の少ない患者の場合、採血量を増やして下さい。 ※1 ＊イ
7718 5I900	曜日指定 予約検査 NK細胞活性 5I900-0000-019-907	全血5.0	専用容器 冷蔵	^{51}Cr遊離法	(参考値) 18～40 %	4～8		予約検査 休日の前日は受付できません。 検体は採血後、当日中にご提出下さい。 ＊4

注1　法律により規制される薬剤は受託できませんのでご了承下さい。

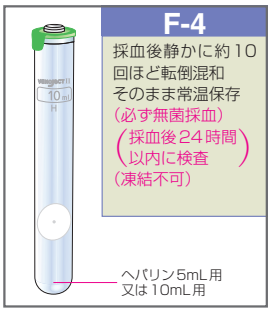
注2　検体必要量は、薬剤を追加する毎に5.0mL増となります。

※1　リンパ球刺激試験(LST)(一連につき)は、Con-A、PHA又は薬疹の被疑医薬品によるものである。

【PHAによるリンパ球幼若化検査、Con-Aによるリンパ球幼若化検査、NK細胞活性のご依頼について】
・予約検査となりますので、採血前に必ず担当営業員にご連絡下さい。



E-6
採血後静かに約10回ほど転倒混和
PCR専用ラベルでキャップに封をし、そのまま冷蔵保存
(開栓不可)



F-4
採血後静かに約10回ほど転倒混和
そのまま常温保存
(必ず無菌採血)
(採血後24時間以内に検査)
(凍結不可)

染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検　査　項　目	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
癌関連遺伝子検査								
7691 8C051	**EGFR遺伝子変異解析《血漿》** 8C051-9951-022-862	血漿 **5.0**	サ 凍結	リアルタイムPCR法		4～9	2100 遺伝子	※1、※2、※3 ＊イ

【EGFR遺伝子変異解析《血漿》のご依頼上の留意事項】
①EDTA-2Kの採血管を用いて採血後、必ず8時間以内に血漿分離を実施し、別容器(滅菌スピッツ)に分取して凍結保存して下さい。
②別容器(滅菌スピッツ)に血漿を分取する際には、白血球成分由来のゲノムDNAの混入を防ぐため、デカンテーションを行わないで下さい。
③他項目との重複依頼は避けて下さい。
④本検査はコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取および遠心分離後の血漿分取にあたっては取扱いに十分ご注意下さい。
⑤血漿検査が先に実施され、EGFR遺伝子変異陰性の結果が得られた場合には、可能な限り組織検査の実施を考慮して下さい。
⑥組織検査でEGFR T790M 変異陰性且つ血漿検査でEGFR T790M 変異陽性の集団が少なからず存在しますが、当該集団におけるオシメルチニブメシル酸塩の有効性は確認されていません。
⑦血漿検査は組織検査と完全に置き換わる検査ではございません。
⑧血漿検査の選択とその結果の解釈の際には、日本肺癌学会が発出している「肺癌患者におけるEGFR 遺伝子変異検査の手引き」等の最新の情報を参考にして下さい。
※本検査で検出可能な変異のタイプにつきましては130頁の【EGFR遺伝子変異解析《血漿》／〔リアルタイムPCR法〕により検出が可能な変異のタイプ】をご参照下さい。

▼採血時の注意点
・専用EDTA-2K真空採血管をご使用ください。
・採血管の規定量の血液を採取してください。
・採血直後、ゆるやかに5～6回転倒混和を行ってください。
・転倒混和後の試験管を激しく振ったり、衝撃を加えたりしないでください。
・採血前に激しい運動は避けてください。

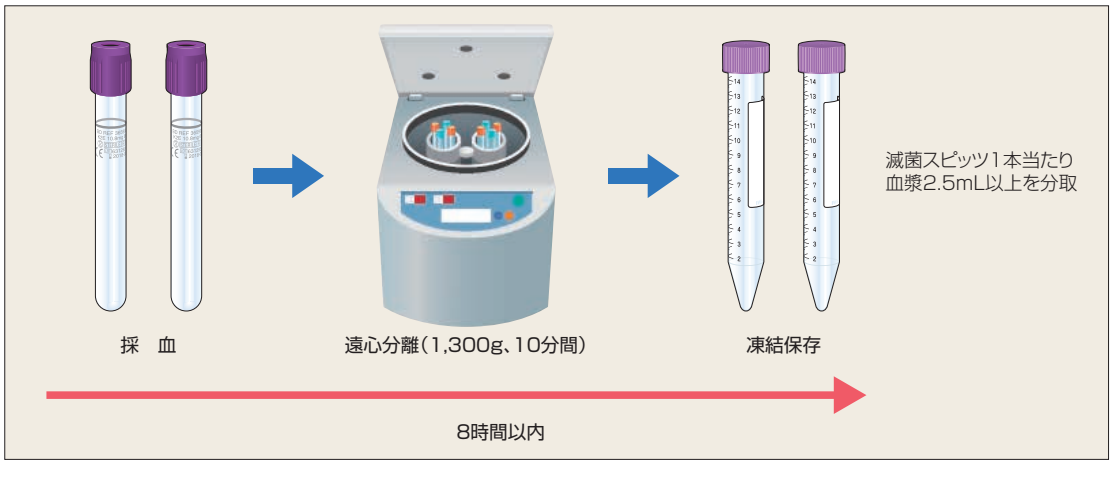
▼採血後処理の注意点
・採血後は常温にて遠心分離(1,300g、10分間)を実施してください。
・白血球由来のゲノムDNAの混入を避けるため、
①専用採血管ごとに滅菌スポイトを用いて、血漿2.5mL以上を滅菌スピッツに移し換えてください。バフィーコートの混入が無いよう十分にご注意願います。
②デカンテーションによる分取は絶対に行わないでください。

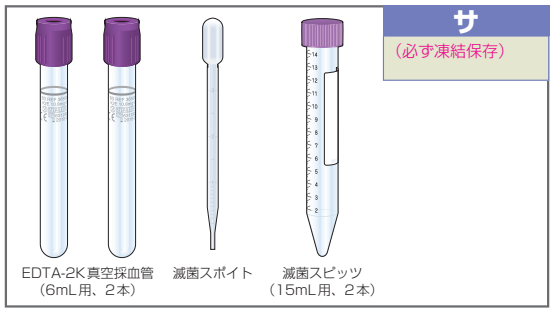
▼血漿検体保存の注意点
・滅菌スピッツに分取した血漿は-20℃以下の冷凍庫にて凍結し、検体提出まで保存してください。
・採血から凍結保存までの作業は8時間以内に完了してください。

※1　肺癌の詳細な診断及び治療法を選択する場合、又は肺癌の再発や増悪により、EGFR遺伝子変異の2次的遺伝子変異等が疑われ、再度治療法を選択する場合に、患者1人につき診断及び治療法を選択する場合には1回、再度治療法を選択する場合には2回に限り算定できる。ただし、医学的な理由により、肺癌の組織を検体として、EGFR遺伝子検査(リアルタイムPCR法)又はEGFR遺伝子検査(リアルタイムPCR法以外)を行うことが困難な場合に限る。

※2　EGFR遺伝子検査(血漿)を実施した場合には、肺癌の組織を検体とした検査が実施困難である医学的な理由を診療録及び診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

※3　肺癌の組織を検体とした「EGFR遺伝子変異解析」と「EGFR遺伝子変異解析〈血漿〉」を同一月中に併せて行った場合には、主たるもののみ算定する。





染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
癌関連遺伝子検査								
7570 8C051	EGFR遺伝子変異解析〔リアルタイムPCR法〕 8C051-9951-099-862	未染スライド 5～10枚 下記参照	X2 常温	リアルタイムPCR法		4～12	2500 遺伝子	他の検査と重複しないよう、単独検体で提出して下さい。 ※1 ＊イ
3658 8C241	RAS/BRAF変異解析 8C241-0000-099-898	未染スライド 5～10枚 下記参照	X2 常温	PCR-rSSO法		4～9	4000 遺伝子	他の検査と重複しないよう、単独検体で提出して下さい。 ＊イ

【EGFR遺伝子変異解析の留意事項】
・未染スライドは、組織のホルマリン固定によりDNAが断片化されているため、固定の種類や固定時間などの条件、保存年数によっては解析不能なことがありますので、予めご了承下さい。
・材料は予め病理組織的に鏡検され、腫瘍組織の存在が確認されていることが必要です。
・スライドの作成は、腫瘍細胞の確認されたホルマリン固定パラフィン包埋組織ブロックより、連続切片にて作成願います。
・スライドの厚さは、DNA抽出用として10μmを5～10枚を提出して下さい。

※1　肺癌および大腸癌における本検査については、悪性腫瘍の詳細な診断及び治療法の選択を目的として悪性腫瘍患者本人に対して行った場合、患者1人につき1回に限り算定する。但し、肺癌における本検査については、再発や増悪により、2次的遺伝子変異等が疑われ、再度治療法を選択する必要がある場合にも算定できる。なお、当該検査を算定するに当たっては、その目的、結果及び選択した治療法を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。

【EGFR遺伝子変異解析《血漿》／〔リアルタイム PCR 法〕により検出が可能な変異のタイプ】
EGFR遺伝子のエクソン18～21の42タイプの変異*の検出が可能です。

エクソン 18	頻度
G719A[6239]	1.0%
G719S[6252]	0.5%
G719C[6253]	0.8%

エクソン 19	頻度
Del[6223]	17.0%
Del[6225]	8.0%
Del[12370]	2.7%
Del[12382]	1.6%
Del[12369]	0.9%
Del[12384]	1.1%
Del[6255]	0.7%
Del[12383]	0.5%
Del[12678]	0.4%
Del[6218]	0.3%
Del[6254]	0.5%

エクソン 19	頻度
Del[12387]	0.2%
Del[6210]	0.1%
Del[26038]	0.1%
Del[13556]	<0.1%
Del[12422]	<0.1%
Del[6220]	0.1%
Del[13551]	<0.1%
Del[12367]	<0.1%
Del[12419]	<0.1%
Del[12728]	0.1%

エクソン 19	頻度
Del[13550]	<0.1%
Del[12386]	<0.1%
Del[13552]	<0.1%
Del[12385]	<0.1%
Del[12416]	0.1%
Del[18427]	<0.1%
Del[13551]	<0.1%
Del[23571]	0.1%
Del[12403]	<0.1%

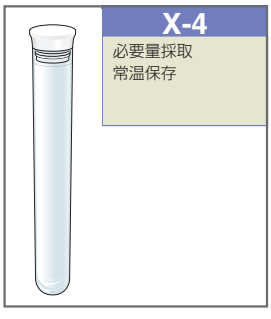
エクソン 20	頻度
T790M[6240]	5.7%
S768I[6241]	0.6%
Ins[12376]	0.2%
Ins[13428]	0.3%
Ins[12378]	<0.1%
Ins[12377]	0.2%
Ins[13558]	<0.1%

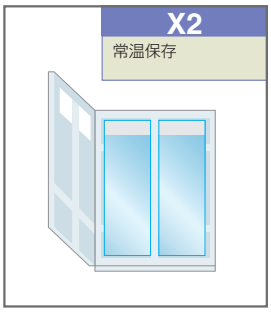
エクソン 21	頻度
L858R[6224]	41.3%
L858R[12429]	<0.1%
L861Q[6213]	1.5%

変異 CosmicID

※ COSMIC v.73,20150730

【RAS/BRAF変異解析のご依頼時の留意事項】
1．未染スライドの厚さは、DNA抽出用として10μm厚で5～10枚を提出して下さい。
2．材料は予め病理組織的に鏡検され、腫瘍組織の存在が確認されていることが必要です。
3．スライドの作成は、腫瘍細胞の確認されたホルマリン固定パラフィン包埋組織ブロックより、連続切片にて作成願います。
4．未染スライドは組織のホルマリン固定により、DNAが断片化されているため、固定時間などの条件や保存年数によっては解析不能なことがありますので、予めご了承下さい。





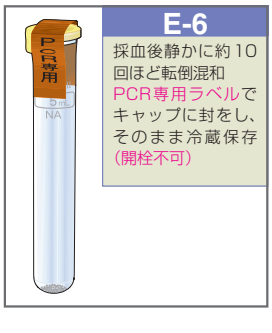
染色体・遺伝子／細胞性免疫・HLA検査

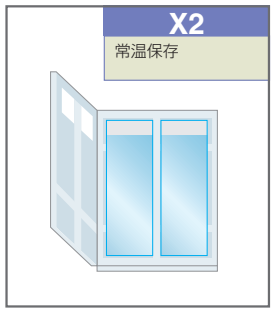
項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
癌関連遺伝子検査								
3669 8C986	倫理指針対象 マイクロサテライト不安定性検査(HNPCC・リンチ症候群) 8C986-0000-070-856	未染スライド 5~10枚 又は 腫瘍組織 50 mg	X2 常温 又は X-5 凍結	マルチプレックスPCR-フラグメント解析		7 ~ 14	2100 遺伝子	
3676 8C986	マイクロサテライト不安定性(MSI)検査(CDX) 8C986-0000-070-856	未染スライド 5~10枚 又は 腫瘍組織 50 mg	X2 常温 又は X-5 凍結	マルチプレックスPCR-フラグメント解析		7 ~ 14	2500 遺伝子	*イ

【ご依頼時の注意事項】
1．病理報告書(腫瘍細胞が認められていること)のコピーを添付して下さい。
2．新鮮凍結腫瘍組織で提出の場合、腫瘍部の割合が50%以上の組織をご提出下さい。又、未染スライドで提出の場合、腫瘍部の割合が50%未満の場合には腫瘍部位をマーキングしたHE染色スライドを添付してご提出下さい。
3．尚、測定の結果、腫瘍部位のみの解析では判定できないパターンが認められた場合には、正常部位検体(正常部FFPE切片あるいは全血EDTA-2Na採血管3mL)の追加提出をお願いすることがあります。その場合、所要日数も延長になりますことを予めご了承下さい。
4．未染スライドは、固定状態(固定液の種類、固定時間、保存状態)によっては、DNAが断片化してPCR増幅不良となり解析不可能となる場合があります。
5．総合判定は、5種類のマーカー（BAT25、BAT26、NR21、NR24、MONO27)について解析して行います。
6．「マイクロサテライト不安定性検査(HNPCC・リンチ症候群)」のご依頼には、「遺伝学的検査汎用依頼書」をご利用下さい。尚、ご報告は別紙報告書(親展)になります。
7．「マイクロサテライト不安定性(MSI)検査(CDX)」のご依頼には、汎用の依頼書(総合依頼書４など)をご利用下さい。

○マイクロサテライト不安定性検査の留意事項
本検査実施に当たっては、「家族性非ポリポーシス大腸癌*におけるマイクロサテライト不安定性検査の実施についての見解と要望」(日本家族性腫瘍学会)より、「被験者に対して事前に遺伝性腫瘍の可能性について十分説明を行い、検査結果陽性の場合は、家族性非ポリポーシス大腸癌における遺伝カウンセリング及び原因遺伝子の遺伝子検査が受けられる機会を提供する。また自施設で実施が困難な場合においては、対応可能な施設を紹介する等の配慮が必要と考えられる」とされております。

＊家族性非ポリポーシス大腸癌：一般に遺伝性非ポリポーシス(性)大腸癌(Hereditary Nonpolyposis Colorectal Cancer : HNPCC)あるいはリンチ症候群等の病名で呼ばれる常染色体優性遺伝性疾患。





項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
薬剤関連遺伝子検査								
7462 8C933	UGT1A1遺伝子多型解析 8C933-9956-019-999	全血 2.0	E-6 冷蔵	Quenching Probe (QP)法		3～7	2037 遺伝子	＊イ

微生物学的検査

項目コード 統一コード	検査項目		検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要日数	実施料 判断料	備考
塗抹鏡検									＊ア
8003 6A010	細菌顕微鏡検査	一般細菌 6A010-0000-099-704	喀出痰、尿／他	冷蔵 ※	グラム染色		1～3	61 微生	※1、2、3
		クリプトコッカス 6A105-0000-041-735	髄液		墨汁染色	陰性			※1、2、3
		真菌 6A105-0000-099-735	皮膚、爪、毛、落屑		KOH法	陰性			対象：糸状菌 （滅菌スピッツにて提出して下さい） ※1、2、3
		疥癬虫 6A010-0000-200-735	皮膚						対象：疥癬虫（ヒゼンダニ） （滅菌スピッツにて提出して下さい） ※1、2、3
培養検査									＊ア
8004 6B010	口腔・気道・呼吸器からの検体 6B010-6001-099-741		喀出痰、咽頭ぬぐい液／他	冷蔵 ※ ※5 ※6	培養同定		3～7	160 微生	緊急 血液・髄液・穿刺液など無菌的部位由来の検体からの菌検出時 1～3類感染症原因菌及び、感染対策として重要且つ緊急性が高い菌種などの検出時にすみやかにご報告いたします。 ※4
8005 6B010	消化管からの検体 6B010-6002-099-741		糞便、胆汁、胃粘膜／他					180 微生	
8006 6B010	泌尿器・生殖器からの検体 6B010-6003-099-741		尿、尿道分泌物、膣分泌物／他					170 微生	
8007 6B010	血液・穿刺液 6B010-6004-099-741		血液、腹水／他					215 微生	
8008 6B010	その他の部位からの検体 6B010-6005-099-741		褥瘡、耳漏／他					160 微生	
特殊培養									＊ア
8010 6B010	嫌気培養 6B010-0000-099-743			冷蔵 ※	嫌気培養		3～14	加算 112 微生	※4
8216 6B050	MRSA培養 6B050-0000-099-741			冷蔵 ※	CLSI準拠		3～7	微生	採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。
8217	百日咳菌培養		鼻咽腔／他	冷蔵 ※	培養同定	陰性	6～10	微生	

※142頁参照

※1　同一検体について当該検査と尿沈渣（鏡検法）又は尿沈渣（フローサイトメトリー法）を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみ算定する。

※2　染色の有無及び方法の如何にかかわらず、また、これら各種の方法を2以上用いた場合であっても、1回として算定する。

※3　当該検査と尿沈渣（鏡検法）又は尿沈渣（フローサイトメトリー法）を同一日に併せて算定する場合は、当該検査に用いた検体の種類を診療報酬明細書の摘要欄に記載すること。症状等から同一起因菌によると判断される場合であって、当該起因菌を検索する目的で異なる複数の部位又は同一部位の複数の箇所から検体を採取した場合は、主たる部位又は1箇所のみの所定点数を算定する。

※4　症状等から同一起因菌によると判断される場合であって、当該起因菌を検索する目的で異なった部位から、又は同一部位の数か所から検体を採取した場合は、主たる部位又は1か所のみの所定点数を算定する。但し、血液を2か所以上から採取した場合に限り、血液又は穿刺液を2回算定できる。この場合、嫌気培養の加算は2回算定できる。

※5　血液は血液培養ボトルで提出して下さい。

※6　血液培養ボトルは常温で保存して下さい。

項目コード 統一コード	検査項目	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要日数	実施料 判断料	備考
特殊培養								＊ア
8018 6B405	マイコプラズマ培養 6B405-0000-099-741	喀出痰、咽頭ぬぐい液、／他	冷蔵 ※	培養同定	陰性	～2W	微生	採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。
8218	ジフテリア菌培養	咽頭ぬぐい液、鼻粘膜／他	冷蔵 ※	培養同定	陰性	3～7	微生	
8219 6B940	レジオネラ培養	喀出痰、胸水／他	冷蔵 ※	培養同定	陰性	7～14	微生	
8220	エルシニア培養	糞便／他	冷蔵 ※	培養同定	陰性	3～7	微生	
8010	クロストリジウム・ディフィシル(嫌気培養)	糞便／他	冷蔵 ※	嫌気培養、同定		3～14	加算 112 微生	※4
8223	カンピロバクター培養	糞便／他	冷蔵 ※	微好気培養、同定	陰性	3～7	微生	採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。
8222 6B575	ヘリコバクター・ピロリ培養 6B575-0000-071-745	胃粘膜 十二指腸粘膜	冷蔵 ※	微好気培養、同定	陰性	5～8	180 微生	ヘリコポーターにて提出して下さい。 ※4
8224 6B080	髄膜炎菌培養 6B080-0000-099-744	髄液、咽頭ぬぐい液／他	※	CO_2培養、同定	陰性	3～7	微生	採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。
8225	淋菌培養	尿道分泌物、 子宮頸管粘液／他	※	CO_2培養、同定	陰性	3～7	微生	採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。 グラム染色も同時にご依頼されることをお勧め致します。
8229 6B072	B群連鎖球菌(GBS)培養 6B072-0000-099-741	膣分泌物、尿道分泌物	冷蔵 ※	培養同定	陰性	3～7	微生	採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。
真菌培養								＊ア
8210 6B105	酵母様真菌培養 6B105-0000-085-741 6B105-0000-067-741		冷蔵 ※	培養同定		3～7	微生	採取部位ごとの培養検査点数に準ずる。
8211 6B105	糸状菌培養 6B105-0000-200-741 6B105-0000-078-741 6B105-0000-077-741	皮膚、爪、毛、落屑／他	冷蔵 ※	培養同定		13～19	微生	
8212 6B105	クリプトコッカス培養 6B105-0000-041-741	髄液／他	冷蔵 ※	培養同定		3～10	微生	

※142頁参照

微生物学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要日数	実施料 判断料	備考
原虫・アメーバ								＊ア
8021 6B505	**トリコモナス培養** 6B505-0000-099-743	膣分泌物 尿道分泌物、尿／他	保温 ※	培養同定	陰性	4～7	170 微生	トリコモナス培地にて提出して下さい。
8060 1B080	**赤痢アメーバ** 1B080-0000-015-735	生鮮便・肝膿瘍	備考	鏡検	陰性	2～4	61 微生	10%ホルマリンで固定した検体とホルマリンで固定していない検体の両方を提出して下さい。
免疫学的細菌検査								＊ア
8099 6B830	**大腸菌血清型別** 6B830-0000-015-121	糞便／他	冷蔵 ※	血清抗体法		3～7	175 免疫	依頼が無くても、腸管出血性大腸菌〔ベロ毒素産生性大腸菌〕が検出された場合実施します。 ※1
8098 5E115	**大腸菌ベロトキシン〔RPLA〕** 5E115-0000-015-116	糞便／他	冷蔵 ※	RPLA法	VT1（－） VT2（－）	3～7	194 微生	培養同定の結果、「大腸菌血清型別」が陽性となった大腸菌が検出された場合、実施します。「大腸菌血清型別」と併せて依頼して下さい。 ※2、※3、※4
8273 5E115	**大腸菌ベロトキシン〔ELISA〕** 5E115-0000-015-023	糞便 1.0g	冷蔵 ※	ELISA法	陰性	2～3	194 微生	糞便より直接検査します。 採便容器にて提出して下さい。 ※2、※4、※5
8045 5E110	**クロストリジウム・ディフィシル抗原（トキシンA・B）** 5E110-0000-015-190	糞便 1.0g	冷蔵 ※	イムノクロマト法	陰性	2～4	80 免疫	糞便より直接検査します。 採便容器にて提出して下さい。

※142頁参照

※1　細菌培養同定検査により大腸菌が確認され、大腸菌ベロトキシン定性により毒素を確認又は腸管出血性大腸菌用の選択培地に菌の発育が確認され、並びに血清抗体法により大腸菌のO抗原又はH抗原の同定を行った場合に、使用した血清の数、菌種等に関わらず算定する。この場合、細菌培養同定検査の費用は別に算定できない。

※2　細菌培養同定検査により大腸菌が確認され、病原性大腸菌が疑われる患者に対して行った場合に算定する。

※3　大腸菌血清型別の結果、ベロトキシン産生の報告が多い血清型（O157、O26、O111）の検出時、及びベロトキシン産生を疑う所見があった場合、ベロトキシンの検査を実施いたします。（加算）

※4　腸管出血性大腸菌を認めた場合、すみやかにご報告いたします。

※5　細菌培養を行うことなく糞便から直接検出する方法であってELISA法によるものについては、臨床症状や流行状況から腸管出血性大腸菌感染症が強く疑われる場合に限り、細菌培養同定検査を踏まえることなく行った場合にも算定できる。

項目コード 統一コード	検査項目	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要日数	実施料 判断料	備考
薬剤感受性検査								＊ア
8351 6C010	1菌種 6C010-1301-080-761	（菌株）		ディスク拡散法 微量液体希釈法		3～7	170 微生	CLSI準拠 対象薬剤 144頁参照
8352 6C010	2菌種 6C010-1302-080-761						220 微生	
8353 6C010	3菌種 6C010-1303-080-761						280 微生	
8369 6C205	ヘリコバクター・ピロリ感受性検査 6C205-0000-080-762			E-test		8～15	170 微生	アモキシシリン、クラリスロマイシンの2薬剤を実施します。

●報告形態

表示方法	結果の解釈（CLSI準拠）
S	Susceptible：感受性 「感受性」との判定には、当該感染部位の治療として推奨されている用法でその抗菌薬を使用した場合に、通常到達可能な濃度で菌株の発育を阻止できるという意味が含まれます。
I	Intermediate：中間 「中間」との判定には、通常到達可能な血中・組織内濃度に近いMIC で、その効果が感受性の菌株よりは低いと思われる菌株が含まれます。 「中間」に分類されれば、抗菌薬が生理的に濃縮される部位（尿中のキノロン系薬やβ-ラクタム系薬など）や通常よりも多い用量で使用することのできる抗菌薬（β-ラクタム系薬など）で、臨床的効果が得られることを意味します。この分類には「緩衝域」も含まれます。それによって、特に薬理効果と副作用の間の範囲が狭い抗菌薬には、管理しきれない技術的要因により解釈に重大な影響がおよぶことを防ぐことが可能なはずです。
R	Resistant：耐性 耐性株は、通常の投与スケジュールでその抗菌薬が通常到達し得る体内濃度において増殖を阻止されません。そして、MIC または阻止円直径がこの範囲に入っているものは、特定の耐性メカニズムを有すると考えられます（β-ラクタマーゼなど）。また、耐性と判定されたものに対する臨床効果は治療研究において明確にされていません。
N	No Data：弊社規程 被検菌に対し、化学構造的に抗菌スペクトルが及ばない、又は抗菌作用を有しないなどの根拠により、臨床的な効果を期待しえない場合に表示します。
MIC値	MIC値：最小発育阻止濃度（Minimum Inhibitory Concentration） 抗菌薬の2倍連続希釈されている培地に菌を接種し培養した場合、低濃度から高濃度に向かって観察したときに菌の発育が最初に阻止された濃度

微生物学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要日数	実施料 判断料	備考
抗酸菌検査								＊ア
8049 6A205	抗酸菌塗抹鏡検 チールネルゼン染色 6A205-0000-061-717	喀出痰／他	冷蔵 ※	チールネルゼン染色	(－) 表1 参照	1 ～ 3	61 微生	緊急 スクリーニングには蛍光染色（集菌塗抹法）を依頼して下さい。 陽性時にはすみやかにご報告いたします。 ※1、※4
8050 6A205	抗酸菌塗抹鏡検 蛍光染色(直接塗抹法) 6A205-0000-061-718			蛍光染色 直接塗抹法			50 微生	
8034 6A206	抗酸菌塗抹鏡検 蛍光染色(集菌塗抹法) 6A206-0000-061-718			蛍光染色 集菌塗抹法			82 微生	
8048 6B305	抗酸菌分離培養検査 2 6B305-0000-061-746	喀出痰／他	冷蔵 ※	小川培地	(－) 表2 参照	～ 8 W	204 微生	緊急 4週で中間報告、8週で最終報告します。 ※2、※3、※4
8061 6B305	抗酸菌分離培養検査 1 6B305-0000-061-747			液体培地 (酸素感受性蛍光センサー法)	(－) 表3 参照	～ 6 W	280 微生	緊急 6週で報告します。(中間報告はしません)血液でのご依頼の場合、ヘパリン採血管でご提出下さい。 ※2、※3、※4

※142頁参照

※1　同一検体について当該検査と尿沈渣(鏡検法)又は尿沈渣(フローサイトメトリー法)を併せて行った場合は、主たる検査の所定点数のみ算定する。

※2　検体の採取部位が異なる場合であっても、同時に又は一連として検体を採取した場合は、1回のみ所定点数を算定する。

※3　結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の病状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。

※4　結核が疑われる場合は、連続した3日間の喀痰採取をお勧めいたします。

(表1) 抗酸菌塗抹鏡検(蛍光染色、チールネルゼン染色)結果記載法

記載法	検出菌数		備考
	蛍光染色(200倍)	チールネルゼン染色(1,000倍)	(相当するガフキー号数)
(－)	0/30 視野	0/300 視野	G0
(＋－)	1～2/30 視野	1～2/300 視野	G1
(1＋)	1～19/10 視野	1～9/100 視野	G2
(2＋)	＞20/10 視野	＞10/100 視野	G5
(3＋)	＞100/1 視野	＞10/1 視野	G9

(表2) 抗酸菌分離培養検査 2(小川培地)結果記載法

記載法	集落数に関する所見	集落数
(－)	集落を認めない	0
(1＋) 実数	集落が200未満	1～199
(2＋)	大多数の集落は個々に分離しているが、一部融合	200～499 *
(3＋)	初期には分離しているが、発育に伴いほとんどが融合	500～1,999 *
(4＋)	融合 集落が極めて多く、培地全体を覆う	2,000以上

＊ 定量的な実験結果より導かれた推定値であり、実際は所見の記述を参考に大まかに区分します。

(表3) 抗酸菌分離培養検査 1(液体培地)結果記載法

記載法	検出菌数
(＋)	陽　性
(－)	陰　性

項目コード 統一コード	検査項目	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要日数	実施料 判断料	備考
抗酸菌検査								＊ア
8056 6B325	**結核菌群抗原定性** 6B325-0000-080-190 6B325-0000-099-190	菌株 （専用輸送容器）	常温 ※	免疫クロマトグラフィー法		2～4	291 免疫	判定結果に基づく臨床診断は、臨床症状や他の検査結果等と合わせて担当医師が総合的に判断して下さい。
		生検体 ※培養陽性時実施	冷蔵 ※			培養陽性後 2～4		
8085 6B315	**抗酸菌同定〔質量分析法〕** 6B315-0000-080-299 6B315-0000-099-299	菌株 （専用輸送容器）	常温 ※	質量分析法 （MALDI-TOF-MS：マトリックス支援レーザー脱離イオン化飛行時間型質量分析法）		2～8	361 微生	緊急 結核菌群が検出された場合は、すみやかにご報告いたします。 ※5
		生検体 ※培養陽性時実施	冷蔵 ※			培養陽性後 2～8		
8054 6C105	**抗酸菌薬剤感受性検査** 6C105-0000-080-764 6C105-0000-099-764	菌株 （専用輸送容器）	常温 ※	一濃度比率法		4～8W	380 微生	薬剤指定がない場合は、10剤について検査します。 ① SM ⑤ KM ⑨ PAS ② INH ⑥ EVM ⑩ LVFX ③ RFP ⑦ TH ④ EB ⑧ CS ※6
		生検体 ※培養陽性時実施	冷蔵 ※			培養陽性後 4～8W		

抗酸菌検査を菌株でご依頼される場合は、必ず専用輸送容器をご使用下さい（容器は担当営業員にお申し付け下さい）。

※142頁参照

※5　当該検査は、結核患者の退院の可否を判断する目的で、患者の症状を踏まえ頻回に行われる場合においても算定できる。

※6　当該検査は、直接法、間接法等の方法及び培地数にかかわらず、感受性検査を行った薬剤が４種類以上の場合に限り算定する。

（表4）抗酸菌薬剤感受性検査　結果記載法

記載法	判定
S	感受性
R	耐性

微生物学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要日数	実施料 判断料	備考
衛生（検便検査）								＊ア
8650	赤痢菌・サルモネラ	糞便	冷蔵 ※	培養同定	陰性	4～7		3類感染症原因菌が検出された場合、すみやかにご報告いたします。 ※1、※2、※3
8650	赤痢菌・サルモネラ・ビブリオ							
8650 8671	赤痢菌・サルモネラ・EHEC O157							
8650 8671	赤痢菌・サルモネラ・ビブリオ・EHEC O157							
8670 6B831	EHEC O157							
8673	腸管出血性大腸菌							

※142頁参照

※1　衛生（検便検査）は、衛生・環境検査依頼書6Bにて、ご依頼をして下さい。

※2　食品関連従事者等に対する検便検査です。

※3　目的とされる菌種だけを検査し、その陽性、陰性を報告します。チフス菌、パラチフス菌、コレラ菌、黄色ブドウ球菌、カンピロバクターの検査をご依頼される場合は、別途依頼書にマークして下さい。この項目以外の検査をご希望される場合は、担当営業員にお申し付け下さい。

項目コード 統一コード	検査項目	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要日数	実施料 判断料	備考
衛生（保菌検査）								＊ア
8612 6B050	MRSA	鼻腔、咽頭ぬぐい液／他	冷蔵 ※	培養同定	陰性	3～7		MBL産生菌、CRE、MDRP、MDRA、VREが検出された場合は、すみやかにご報告いたします。 ※4、※5、※6
8613	緑膿菌	鼻腔、咽頭ぬぐい液／他						
8614	ESBL(基質特異性拡張型β-ラクタマーゼ)産生菌	糞便1.0g／他						
8615	MBL(メタロβ-ラクタマーゼ)産生菌	糞便1.0g／他						
8616	CRE(カルバペネム耐性腸内細菌科)	糞便1.0g／他						
8617	MDRP(多剤耐性緑膿菌)	糞便1.0g／他						
8618	MDRA(多剤耐性アシネトバクター)	喀出痰、尿／他						
8619	VRE(バンコマイシン耐性腸球菌)	糞便1.0g／他						

※142頁参照
※4　衛生（保菌検査）は、衛生・環境検査依頼書6Bにて、ご依頼をして下さい。
※5　医療従事者、諸施設入所時に対する保菌検査です。
※6　目的とされる菌種だけを検査し、その陽性、陰性を報告します。

微生物学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検査材料	容器 保存方法	検査方法	基準値	所要日数	実施料 判断料	備考
環境検査								＊ア
8601 8602	**空中浮遊菌検査**	環境材料	常温 ※	落下法 個 衝突法 CFU/㎥	表1参照	4～7		
8605 8606	**表面付着菌検査**	環境材料	常温 ※ 冷蔵 ※	スタンプ法 個/25㎠ 拭き取り法 個	表2参照	4～7		
8610 8611	**細菌培養検査**	環境材料	冷蔵 ※	培養同定 個		5～7		
8074	**無菌試験**	環境材料	冷蔵 ※ 又は ヌ	直接法	陰性	14～17		5日目で中間報告、 14日目で最終報告します。
8078		環境材料 (200mL)		メンブランフィルター法	陰性			
8079	**透析液細菌検査** 塗抹平板培養法(生菌数)	透析液、透析用水 (5～9mL)	冷蔵 ※ 又は ヌ	塗抹平板培養法 CFU/mL		9～12		R2A寒天培地を使用し、 検査します。
8080	**透析液細菌検査** メンブランフィルター法(生菌数)	透析液、透析用水 (200mL)		メンブランフィルター法 CFU/mL				R2A寒天培地を使用し、 検査します。
8070	**透析液細菌検査** 同定検査	透析液、透析用水 (5～9mL)または (200mL)	冷蔵 ※ 又は ヌ	培養同定		培養陽性後 3～7		透析液細菌検査(生菌数)を 同時にご依頼下さい。

※142頁参照

環境検査は、衛生・環境検査依頼書6Bにて、ご依頼をして下さい。

●空中浮遊菌検査

(表1) 落下法判定基準

判定基準	細菌数 (落下法5分間露出)
A	＜29
B	30～74
C	75～149
D	150～299
E	＞300

●表面付着菌検査

(表2) スタンプ法の汚染度評価

スタンプ培地(面積25cm²)/Ten cateの汚染度合(標準寒天培地において)			
	集落数(個/25cm²)	判定表示	汚染度合
判定値	発育なし	(－)	非常に清潔
	20個＞	(＋－)	ごく軽度の汚染
	20～60個	(1＋)	軽度の汚染
	60～200個	(2＋)	中等度の汚染
	200個＜	(3＋)	やや激しい汚染
	無数	(4＋)	激しい汚染

微生物・輸送培地・輸送容器一覧

材料／容器	喀出痰	咽頭拭い液	鼻腔・鼻粘膜	舌苔	気管支洗浄液	副鼻腔	上顎洞	糞便	腸洗浄液	胃液・肝膿瘍	尿	膣分泌物	尿道分泌物	精液・月経血	生殖器膿	腹水・関節液	動脈血・静脈血	髄液	開放・非開放性膿	耳漏	皮膚	その他	保存可能期間（使用前）容器・培地	輸送条件 検体採取時	その他 注意事項
喀痰用容器	●				●		●																特になし	冷蔵	淋菌、髄膜炎菌が疑われる場合は保温又は常温にて輸送して下さい。
滅菌スピッツ（スクリューキャップ）					●		●		●	●	●			●		●		●			●	●	特になし	冷蔵	淋菌、髄膜炎菌が疑われる場合は保温又は常温にて輸送して下さい。
採便容器								●															特になし	冷蔵	
キャリーブレア								●															1年 常温	冷蔵	
シードスワブγ1号								●	●														容器に記載 常温	冷蔵	
シードスワブγ2号		●	●									●	●	●	●					●		●	容器に記載 常温	冷蔵	
トランスワブ	●	●	●	●								●	●	●	●				●	●		●	容器に記載 5～25℃	冷蔵	
トランスワブネーザル			●			●							●		●							●	容器に記載 5～25℃	冷蔵	
カルチャースワブEZ																						●	容器に記載 常温	冷蔵	
嫌気ポーター	●					●	●	●							●	●		●	●	●		●	1年 常温	冷蔵	淋菌、髄膜炎菌が疑われる場合は保温又は常温にて輸送して下さい。146頁参照
HK半流動培地																			●				6ヶ月 常温	保温 常温	
FA Plusボトル（好気）																	●						ボトルに記載 常温遮光	常温	敗血症の疑いのある患者で、抗菌薬の投与前に使用して下さい。通常、好気・嫌気の2本1組で使用して下さい。検体10mL（最大接種量）を無菌的に注入し、常温にて提出して下さい。なお、最大接種量を超えると結果に影響をおよぼすことがあります。
FN Plusボトル（嫌気）																	●						ボトルに記載 常温遮光	常温	
PF Plusボトル（小児用）																	●						ボトルに記載 常温遮光	常温	小児など採血量4mLまでの少量検体の場合は、PFボトルを使用し、4mL（最大接種量）を無菌的に注入し、常温にて提出して下さい。
ヘリコポーター																						胃生検	容器に記載 冷蔵	冷蔵	ヘリコバクター専用の輸送培地です。生検材料を培地の表面より0.5～1.5cmの深さまで入れ提出して下さい。
トリコモナス培地											●	●	●										3ヶ月 冷蔵	保温	尿道分泌物や膣分泌物はそのまま、尿は遠心後の沈渣物を培地深部に接種して下さい。
べたんチェック																						●	4ヶ月 2～10℃	常温	スタンプ法のサンプリングに使用して下さい。
ふきふきチェックⅡ																						●	1年 常温	冷蔵	拭き取り検査のサンプリングに使用して下さい。
標準寒天																						●	3ヶ月 2～10℃	常温	空中浮遊菌検査（落下法）のサンプリングに使用して下さい。

※上記以外の培地、容器についてはお問い合わせ下さい。シャーレ、その他の指定外の容器での採取はご遠慮下さい。

微生物学的検査

薬剤感受性検査

●依頼方法

一般細菌感受性検査	細菌感染の現状から複数菌感染(混合感染)の場合、判断が困難な事例が多く、基本的に３菌種にご依頼して頂くのが最良と思われます。 依頼菌種数より検出菌数が超過した場合、弊社にて検査実施菌種を選択し、依頼菌種数内で実施します。
指定(院内)薬剤セット	グラム陰性桿菌(腸内細菌科)、ブドウ糖非発酵菌(緑膿菌を含む)、ブドウ球菌、連鎖球菌、腸球菌、グラム陽性菌(前述の３菌種を除く)、ヘモフィルス、カンピロバクター、嫌気性菌、グラム陰性双球菌(淋菌を含む)に分けて、ご指定の薬剤をセット登録(最大１９セット)し、検査を実施いたします。登録薬剤につきましては、営業担当にお尋ね下さい。
弊社薬剤セット	指定(院内)薬剤セットの登録が無い場合は、下記の保健科学研究所薬剤セットにて実施いたします。

●検査方法

ディスク拡散法	寒天培地に菌液を塗布し、感受性ディスクをその培地表面に配置し、培養します。培養後、感受性ディスクの周囲に形成される阻止円を計測し、判定する方法です。
微量液体希釈法	あらかじめ、規格された濃度に調整された抗菌薬と、液体培地(ミュラーヒントン)を分注したマイクロプレートに、被検菌液を接種し培養します。培養後、抗菌薬による菌の発育阻止状態(どの濃度で発育を阻止しているか)により、判定する方法です。
Etest®	被検菌を塗布した寒天培地上にストリップを接地し、培養後に阻止帯とストリップの交差した目盛を判読し、MIC(最小発育阻止濃度)を判定する方法です。(ヘリコバクター・ピロリ感受性検査のみ実施)

●保健科学研究所薬剤セット内容

系統名	ペニシリン系					セフェム系							カルバペネム系		マクロライド系		リンコマイシン系	キノロン系		テトラサイクリン系	アミノグリコシド系			グリコペプチド系	その他
菌種 ＼ 抗菌薬	PC	ABPC	PIPC	SBT／ABPC	TAZ／PIPC	CEZ	CAZ	CTX	CTRX	CFDN	CFPM	LMOX	IPM	MEPM	EM	CAM	CLDM	CPFX	LVFX	MINO	GM	AMK	ABK	VCM	FOM
グラム陰性桿菌(腸内細菌科) ※1		◎	◎		◎	◎	◎	◎			◎	◎	◎					◎	◎	◎	◎	◎			◎
ブドウ糖非発酵菌(緑膿菌含む) ※1			◎		◎		◎	◎	◎		◎		◎	◎				◎	◎	◎	◎	◎			
ブドウ球菌 ※1	◎	◎		◎		◎				◎	◎		◎		◎		◎	◎	◎	◎	◎		◎	◎	
連鎖球菌 ※1	◎	◎				◎		◎	◎	◎	◎		◎	◎	◎		◎		◎	◎				◎	
腸球菌 ※1	◎	◎											◎		◎				◎	◎				◎	
グラム陽性菌(上記の３菌種を除く) ※1	◎	◎				◎		◎		◎	◎		◎		◎			◎	◎	◎	◎	◎		◎	
ヘモフィルス ※1		◎		◎				◎	◎	◎	◎		◎	◎		◎		◎	◎	◎					
カンピロバクター ※2		◎													◎	◎		◎	◎	◎					◎
嫌気性菌 ※2		◎	◎						◎			◎	◎	◎			◎								
グラム陰性双球菌(淋菌含む) ※2	◎	◎							◎							◎		◎	◎	◎					

※１　カテゴリー(S：感受性、I：中間、R：耐性、N：No Data)に加え、MIC値(最小発育阻止濃度：Minimum Inhibitory Concentration)を併記して報告いたします。
※２　カテゴリー(S：感受性、I：中間、R：耐性、N：No Data)のみ報告いたします。

薬剤感受性検査

感受性薬剤一覧

コード	略　号	抗菌薬名
ペニシリン		
1001	PC	ペニシリン
1111	MPIPC	オキサシリン
1201	ABPC	アンピシリン
1202	AMPC	アモキシシリン
1301	CBPC	カルベニシリン
1401	PIPC	ピペラシリン
1501	CVA/AMPC	クラブラン酸／アモキシシリン
1511	SBT/ABPC	スルバクタム／アンピシリン
1521	TAZ/PIPC	タゾバクタム／ピペラシリン
セフェム		
2101	CET	セファロチン
2103	CEZ	セファゾリン
2151	CEX	セファレキシン
2152	CCL	セファクロル
2201	CXM	セフロキシム
2202	CTM	セフォチアム
2251	CMZ	セフメタゾール

コード	略　号	抗菌薬名
2302	CPZ	セフォペラゾン
2303	CZX	セフチゾキシム
2304	CMX	セフメノキシム
2311	CAZ	セフタジジム
2312	CTX	セフォタキシム
2313	CTRX	セフトリアキソン
2331	CFTM	セフテラム
2332	CFDN	セフジニル
2334	CETB	セフチブテン
2336	CDTR	セフジトレン
2337	CPDX	セフポドキシム
2353	CMNX	セフミノクス
2361	FMOX	フロモキセフ
2362	LMOX	ラタモキセフ
2371	SBT/CPZ	スルバクタム／セフォペラゾン
2401	CPR	セフピロム
2402	CFPM	セフェピム
2403	CZOP	セフォゾプラン
2405	CFPN	セフカペン
2406	CFIX	セフィキシム
モノバクタム		
4001	AZT	アズトレオナム
ペネム		
4101	FRPM	ファロペネム

コード	略　号	抗菌薬名
カルバペネム		
3001	IPM	イミペネム
3003	MEPM	メロペネム
3004	BIPM	ビアペネム
3005	DRPM	ドリペネム
3006	TBPM	テビペネム
マクロライド		
5001	EM	エリスロマイシン
5002	CAM	クラリスロマイシン
5003	RXM	ロキシスロマイシン
5101	JM	ジョサマイシン
5201	AZM	アジスロマイシン
リンコマイシン		
5901	LCM	リンコマイシン
5902	CLDM	クリンダマイシン
キノロン		
6001	NA	ナリジクス酸
6002	PPA	ピペミド酸
6003	CINX	シノキサシン
6102	LFLX	ロメフロキサシン
6103	NFLX	ノルフロキサシン
6104	OFLX	オフロキサシン
6105	CPFX	シプロフロキサシン
6106	TFLX	トスフロキサシン
6109	LVFX	レボフロキサシン
6111	ERFX	エンロフロキサシン
6112	GFLX	ガチフロキサシン
6113	PZFX	パズフロキサシン
6114	PUFX	プルリフロキサシン
6115	MFLX	モキシフロキサシン
6116	GRNX	ガレノキサシン
6117	STFX	シタフロキサシン

コード	略　号	抗菌薬名
テトラサイクリン		
7001	TC	テトラサイクリン
7002	OTC	オキシテトラサイクリン
7003	DOXY	ドキシサイクリン
7004	MINO	ミノサイクリン
アミノグリコシド		
8001	SM	ストレプトマイシン
8101	KM	カナマイシン
8103	TOB	トブラマイシン
8104	DKB	ジベカシン
8105	AMK	アミカシン
8106	ABK	アルベカシン
8201	GM	ゲンタマイシン
8205	ISP	イセパマイシン
8301	FRM	フラジオマイシン
8501	SPCM	スペクチノマイシン
その他		
9101	CL	コリスチン
9102	PLB	ポリミキシン-B
9201	VCM	バンコマイシン
9202	TEIC	テイコプラニン
9301	CP	クロラムフェニコール
9401	ST	SMX/TMP
9501	FOM	ホスホマイシン
9601	MUP	ムピロシン
9602	RFP	リファンピシン
9604	LZD	リネゾリド
9607	DAP	ダプトマイシン

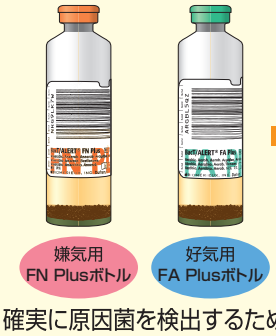
微生物学的検査

検体採取にあたっての注意事項

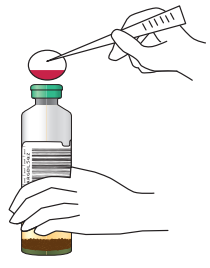
●原則として抗菌薬投与前に採取して下さい。投与後の採取の場合、24 時間以上経過または次回投与直前に採取して下さい。
●細菌学検査の場合は特に雑菌の混入を避けるため、採取器具、検体容器とも必ず滅菌されたものをご使用下さい。
●血液や穿刺液の採取にあたっては採取部位を十分消毒し、常在菌が混入しないようにご配慮下さい。（下記をご参照下さい）
●材料、検査項目等により所定の容器をご使用下さい。
●喀痰の採取にあたっては、口腔内常在菌による汚染を防ぐため、2～3回うがいしてから、できるだけ唾液・鼻粘膜の混入を避けるようにして喀痰を採取して下さい。
●便の採取にあたっては、急性期の排出便を数ヶ所採取し、1g程度採取して下さい。
●容器・採取後の保存方法の詳細は、142頁の輸送培地・輸送容器一覧をご参照下さい。
但し、以下の菌種においては採取容器によって保存条件が異なるのでご注意下さい。
＊***Neisseria gonorrhoeae***（淋菌）
Neisseria meningitidis（髄膜炎菌）
スワブ類の場合　-　冷蔵保存
その他の容器の場合　-　保温 又は 常温保存

血液培養のための採血方法

①準備

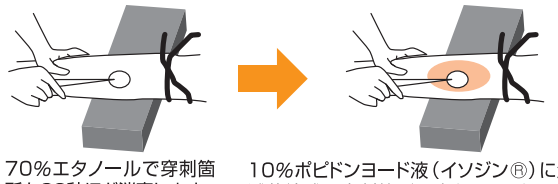


確実に原因菌を検出するために、血液培養では好気用と嫌気用のボトルを1本ずつ(2本=1セット)を用意します。



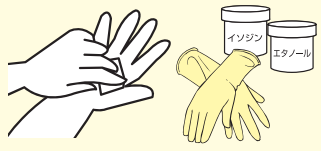
採血の10～20分前から病室のドアを閉め、空調機を止めます。ボトルのゴム栓を10%ポビドンヨード液（イソジン®）または70%エタノールで消毒します。

②消毒



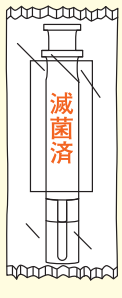
70%エタノールで穿刺箇所を30秒ほど消毒します。

10%ポビドンヨード液（イソジン®）に浸した滅菌綿球で穿刺箇所を中心に、同心円ないし渦巻状に広範に塗布し、自然乾燥します。ポビドンヨードに過敏な場合は70%エタノールで消毒します。

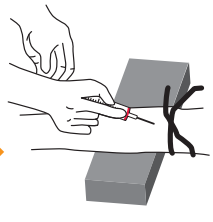


消毒した皮膚には触れないようにします。又、採血施行者は手指を消毒するか、滅菌手袋を着用します。

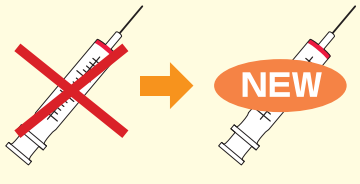
③採血・ボトルへの接種



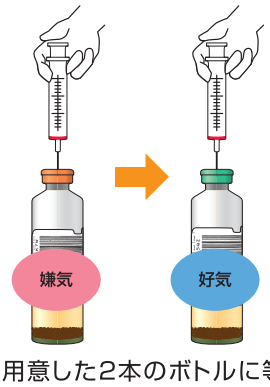
滅菌ディスポーザブルの注射器を使用します。



必要量採血します。



血管の穿刺に失敗した場合、注射器ごと新しいものに替えて下さい。
針刺し事故には充分気をつけて下さい。
採血後、ボトルに血液を接種する前に注射針が汚染されないように注意して下さい。



用意した2本のボトルに等量の血液を接種します。各ボトルに10mL接種します。（嫌気⇒好気の順）

④接種後

ボトル内容物を静かに混和します。

ボトルに採血日時・患者名等を記入します。

採血後のボトルはすぐご提出下さい。

ご注意

●ボトルへの最大接種量は好気・嫌気ボトルは10mL、小児用ボトルは4mLです。血液接種量が多い程、検出率が向上するという報告がありますので、最大接種量を接種するよう推奨しています。但し、それを超えると結果に影響を及ぼすことがありますのでご注意下さい。
●ボトルをすぐに提出できない場合は、常温で保存し、なるべく早く提出して下さい。
●CUMITECH1B blood cultureⅢを参考にしています。

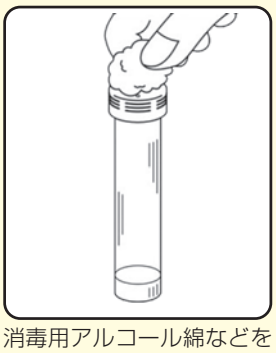
嫌気ポーターの使用方法

＊正確に安全に嫌気性菌を輸送・保管するために、検体の採取は下記の手順に従い十分注意して行って下さい。

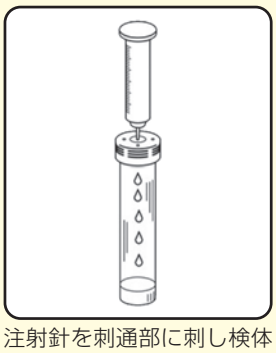
A ゴム栓を外さない場合

注射器による方法

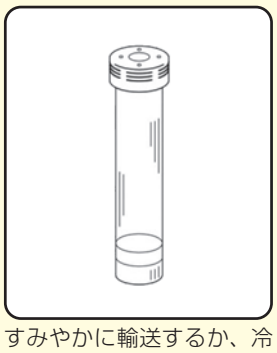
（胸水、腹水、尿、穿刺液など）



消毒用アルコール綿などを用いてゴム栓の刺通部を消毒して下さい。



注射針を刺通部に刺し検体を注入して下さい。

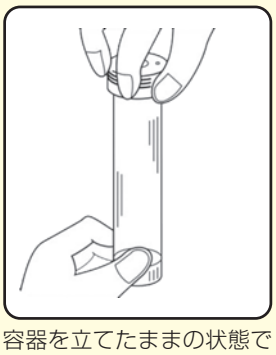


すみやかに輸送するか、冷蔵庫に保管して下さい。

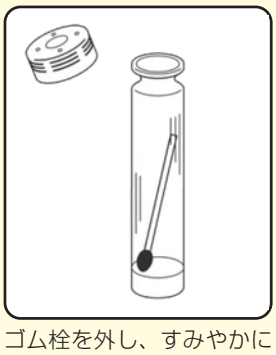
B ゴム栓を外す場合

綿棒などによる方法

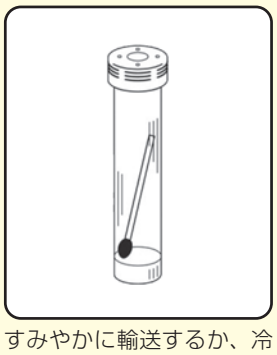
（便、膿、組織片など）



容器を立てたままの状態で注意深くゴム栓を外して下さい。



ゴム栓を外し、すみやかに検体を入れ、ゴム栓を閉めて下さい。この時、傾けないように注意して下さい。



すみやかに輸送するか、冷蔵庫に保管して下さい。

注意事項

- ●インジケーター付き寒天の表面に通常、凝固水が溜まりますが、菌の輸送・保管には支障ありません。
- ●検体採取後数分経過すると、僅かに着色する場合がありますが、使用に差し支えありません。
- ●ゴム栓を外す時は、ゴム栓に付着した検体が飛散するおそれがあるため、ゆっくり外して下さい。
- ●輸送する場合は、極力立てた状態で行って下さい。
- ●本品は輸送・保管容器のため、培養には使用できません。

微生物学的検査

●細菌顕微鏡検査(一般細菌　グラム染色)結果記載法

報告様式

細菌の染色性	細胞所見	菌量または細胞数
グラム陰性桿菌	白血球	陰性
グラム陰性双球菌	上皮細胞	1+
グラム陽性桿菌		2+
グラム陽性球菌		3+
酵母様真菌		4+

菌量等の表現

表現	細菌数(鏡検倍率×1000)	細胞数(鏡検倍率×100)
陰性	認めず	認めず
1+	1視野あたり ＜1	1視野あたり ＜1
2+	1視野あたり 1～5	1視野あたり 1～9
3+	1視野あたり 6～30	1視野あたり 10～25
4+	1視野あたり ＞30	1視野あたり ＞25

●培養検査結果記載法

培地に発育した菌量の表現

表現	培地発育状態
陰性	コロニーの形成が認められなかった場合
1+	コロニーの培地に占める割合が、1/3未満の場合
2+	コロニーの培地に占める割合が、およそ1/3以上～2/3未満の場合
3+	コロニーの培地に占める割合が、およそ2/3以上の場合
4+	コロニーの形成が培地、全面に及んでいる場合

※血液培養検査、ヘリコバクター・ピロリ培養の場合、菌量の表現を行いません。

●喀出痰の品質評価

Miller & Jones の分類(肉眼的)

分類	性状
M1	唾液、完全な粘性痰
M2	粘性痰の中に少量の膿性痰を含む
P1	膿性部分が1/3以下の痰
◎P2	膿性部分が1/3～2/3の痰
◎P3	膿性痰が2/3以上の痰

◎が最も検査に適した検体と評価されます。

Geckler の分類(顕微鏡的)

分類	細胞数/1視野(100倍)	
	白血球(好中球)	扁平上皮細胞
1	＜10	＞25
2	10～25	＞25
○3	＞25	＞25
◎4	＞25	10～25
◎5	＞25	＜10
6	＜25	＜25

●口腔・気道・呼吸器からの検体

①

検査材料	喀出痰　吸引痰　咽頭拭い液　鼻腔　舌苔　扁桃　気管支洗浄液　気管チューブ　鼻粘膜　鼻汁
主な検出可能菌種	*Streptococcus pyogenes*（A群連鎖球菌）　*Streptococcus pneumoniae*（肺炎球菌）　*Streptococcus agalactiae*（B群連鎖球菌）　*Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌） *Enterococcus* spp.（腸球菌）　*Escherichia coli*（大腸菌）　*Klebsiella pneumoniae*（肺炎桿菌）　*Enterobacteriaceae*（腸内細菌科） *Pseudomonas aeruginosa*(緑膿菌)　*Pseudomonadaceae*（シュードモナス科）　*Pasteurella multocida*　*Neisseria meningitidis*（髄膜炎菌） *Acinetobacter baumannii*　*Moraxella catarrhalis*（カタル球菌）　*Haemophilus influenzae*（インフルエンザ菌）
*追加必要菌	*Bordetella pertussis*（百日咳菌）　*Bordetella parapertussis*（パラ百日咳菌）　*Corynebacterium diphtheriae*(ジフテリア菌)　*Legionella pneumophila*（レジオネラ） *Mycoplasma* spp.　酵母様真菌　糸状菌　嫌気性菌
常在菌	Compromised hostにマークがない検体(臨床微生物学検査依頼書、C.臨床症状) *α-Streptococcus*　*Neisseria* spp.（淋菌、髄膜炎菌を除く）　*Micrococcus* spp.　*Bacillus* spp.（セレウス菌を除く） *Corynebacterium* spp.（ジフテリア菌以外かつ純培養的菌量2+以下の場合）　coagulase negative *Staphylococcus*（菌量 1+以下の場合） *Moraxella* spp.（カタル球菌を除く）　*Capnocytophaga* spp.　*Lactobacillus* spp.　他 口腔内常在菌 Compromised hostにマークがある検体(臨床微生物学検査依頼書、C.臨床症状) *α-Streptococcus*　*Neisseria* spp.（淋菌、髄膜炎菌を除く）　*Micrococcus* spp.　*Bacillus* spp.（セレウス菌を除く）
注意事項	※Compromised hostで有るか否かが不明のときは、Compromised hostにマークがない検体として判断させていただきます。 ※原則的に常在菌として設定された菌叢が検出された場合、菌名の報告は致しません。報告形態は下記の通りです。 「常在菌叢(菌量)」 ※嫌気性菌の感染を疑う場合、嫌気培養(加算)の依頼をし、嫌気ポーターで提出して下さい。

②

検査材料	副鼻腔　上顎洞　TTA採痰
主な検出可能菌種	*Streptococcus pyogenes*（A群連鎖球菌）　*Streptococcus pneumoniae*（肺炎球菌）　*Streptococcus agalactiae*（B群連鎖球菌）　*Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌） *Enterococcus* spp.（腸球菌）　*Escherichia coli*（大腸菌）　*Klebsiella pneumoniae*（肺炎桿菌）　*Pseudomonas aeruginosa*（緑膿菌） *Pseudomonadaceae*（シュードモナス科）　*Acinetobacter baumannii*　*Moraxella catarrhalis*（カタル球菌）　*Haemophilus influenzae*（インフルエンザ菌） *Pasteurella multocida*　嫌気性菌
*追加必要菌	*Bordetella pertussis*（百日咳菌）　*Bordetella parapertussis*（パラ百日咳菌）　*Corynebacterium diphtheriae*（ジフテリア菌）　*Legionella pneumophila*（レジオネラ） *Mycoplasma* spp.　酵母様真菌　糸状菌
常在菌	上気道常在菌の混入を避けて採取された検体や膿瘍から検出された菌は起炎菌の可能性が疑われるものとして取扱います。
注意事項	嫌気培養も実施いたします。(加算)

検体採取・依頼に関する注意事項

※喀出痰は２～３回うがいをし、口腔内を清潔にして、常在菌の混入を避けて採取して下さい。

※上気道からの検体採取は、老廃物や常在菌の混入を避け、病巣部より採取して下さい。

※鼻腔は鼻腔内を清潔にしてから、採取して下さい。

※検体は通常冷蔵保存（２～８℃）とし、乾燥を避けて提出して下さい。（淋菌、髄膜炎菌が疑われる生検体の保存は保温または室温として下さい。但し、スワブ類で採取された場合の保存は、冷蔵して下さい。）

＊ 通常の培養検査で使用している培地では検出困難な菌です。目的とされる場合は必ず依頼して下さい。

微生物学的検査

●消化管からの検体

①

検査材料	固形便

主な検出可能菌種	*Shigella* spp.（赤痢菌）	*Salmonella* serovar Typhi（チフス菌）	*Salmonella* serovar Paratyphi A（パラチフス菌）	*Salmonella* spp.
	腸管出血性大腸菌	*Vibrio parahaemolyticus*（腸炎ビブリオ）	*Vibrio cholerae*（コレラ菌）	*Vibrio* spp.
	Aeromonas spp.	*Plesiomonas shigelloides*	*Edwardsiella tarda*	*Yersinia* spp.
	Pseudomonas aeruginosa（緑膿菌）	*Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌）	*Bacillus cereus*（セレウス菌）	

*追加必要菌	*Clostridium perfringens*（ウェルシュ菌）	*Clostridium difficile*（ディフィシール菌）	*Campylobacter* spp.	酵母様真菌
	糸状菌			

注意事項	食中毒菌検索、海外渡航歴の有にマークがある場合は、カンピロバクター培養を実施いたしますので、*Campylobacter* spp. は検出可能菌種となります。

②

検査材料	下痢便　水様便　血便　粘血便　腸洗浄液　腸内容物　大腸粘膜　小腸粘膜

主な検出可能菌種	*Shigella* spp.（赤痢菌）	*Salmonella* serovar Typhi （チフス菌）	*Salmonella* serovar Paratyphi A（パラチフス菌）	*Salmonella* spp.
	腸管出血性大腸菌	*Vibrio parahaemolyticus*（腸炎ビブリオ）	*Vibrio cholerae*（コレラ菌）	*Vibrio* spp.
	Aeromonas spp.	*Plesiomonas shigelloides*	*Campylobacter* spp.	*Edwardsiella tarda*
	Yersinia spp.	*Klebsiella oxytoca*	*Pseudomonas aeruginosa*（緑膿菌）	*Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌）
	Bacillus cereus（セレウス菌）			

*追加必要菌	*Clostridium perfringens*（ウェルシュ菌）	*Clostridium difficile*（ディフィシール菌）	酵母様真菌	糸状菌

③

検査材料	胆汁　胃液　膵液　十二指腸液　肝膿瘍

主な検出可能菌種	*Salmonella* serovar Typhi（チフス菌）	*Salmonella* serovar Paratyphi A（パラチフス菌）	*Salmonella* spp.	*Enterobacteriaceae*（腸内細菌科）
	Pseudomonas aeruginosa（緑膿菌）	*Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌）	*Enterococcus* spp.（腸球菌）	*Streptococcus* spp.（連鎖球菌）

*追加必要菌	*Clostridium perfringens*（ウェルシュ菌）	*Clostridium difficile*（ディフィシール菌）	*Campylobacter* spp.	酵母様真菌
	糸状菌			

報告

※検体が①②の場合、通常下痢原因菌とされている菌のみの報告とし、常在菌の報告はいたしません。常在菌のみが検出された場合は、報告書には「下痢原因菌は認められませんでした。」とコメントいたします。

検体採取・依頼に関する注意事項

※検便検査（食品関連従業者）の依頼は、衛生・環境検査依頼書6Bにて、ご依頼をして下さい。
※家族に下痢原因菌の保菌者がいる場合や下痢原因菌が前回検出された場合は、検出された旨と検出菌名をコメント欄に明記して下さい。
※特に臨床症状が腸管出血性大腸菌、下痢原性大腸菌を疑う場合、および前回検出された場合にはコメント欄に明記するとともに大腸菌血清型別を依頼して下さい。
※細菌性の感染性腸炎では、急性期の新鮮な糞便を採取して下さい。
※嫌気性菌の感染を疑う場合、嫌気培養（加算）の依頼をし、嫌気ポーターで提出して下さい。
検体①②での嫌気培養は *Clostridium perfringens* の検出となります。他の菌種を依頼されたい場合は追加項目欄に明記して下さい。

＊ 通常の培養検査で使用している培地では検出困難な菌です。目的とされる場合は必ず依頼して下さい。

●泌尿器・生殖器からの検体

①

検査材料	尿　初尿　中間尿　導尿　カテーテル尿
主な検出可能菌種	*Escherichia coli*（大腸菌）　*Enterobacteriaceae*（腸内細菌科）　*Pseudomonas aeruginosa*（緑膿菌）　*Pseudomonadaceae*（シュードモナス科） *Streptococcus pyogenes*（A群連鎖球菌）　*Streptococcus agalactiae*（B群連鎖球菌）　*Enterococcus* spp.（腸球菌）　*Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌） *Staphylococcus saprophyticus*
*追加必要菌	*Neisseria gonorrhoeae*（淋菌）　酵母様真菌　糸状菌　嫌気性菌

②

検査材料	膣分泌物　子宮頸管粘液　バルトリン腺液　前立腺液　尿道分泌物　精液　陰のう水　帯下　月経血　羊水
主な検出可能菌種	*Escherichia coli*（大腸菌）　*Enterobacteriaceae*（腸内細菌科）　*Pseudomonas aeruginosa*（緑膿菌）　*Pseudomonadaceae*（シュードモナス科） *Streptococcus pyogenes*（A群連鎖球菌）　*Streptococcus agalactiae*（B群連鎖球菌）　*Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌）　*Neisseria gonorrhoeae*（淋菌） *Neisseria meningitidis*（髄膜炎菌）　*Lactobacillus* spp.　*Gardnerella vaginalis*　*Haemophilus influenzae*（インフルエンザ菌）
*追加必要菌	酵母様真菌　糸状菌　嫌気性菌

③

検査材料	生殖器膿　悪露　ダグラス窩膿瘍
主な検出可能菌種	*Escherichia coli*（大腸菌）　*Enterobacteriaceae*（腸内細菌科）　*Pseudomonas aeruginosa*（緑膿菌）　*Pseudomonadaceae*（シュードモナス科） *Streptococcus pyogenes*（A群連鎖球菌）　*Streptococcus agalactiae*（B群連鎖球菌）　*Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌）　*Neisseria gonorrhoeae*（淋菌） *Neisseria meningitidis*（髄膜炎菌）　*Gardnerella vaginalis*　*Haemophilus influenzae*（インフルエンザ菌）　嫌気性菌
*追加必要菌	酵母様真菌　糸状菌
注意事項	嫌気培養を実施いたします。（加算）

報告

※検体①の場合、尿定量培養を実施します。但し、スワブで提出された場合や尿沈渣物の場合は、定量培養は実施しません。

検体採取・依頼に関する注意事項

※尿道口、外陰部には、皮膚常在菌が生息しており、これらが混入しないように採取して下さい。

＊ 通常の培養検査で使用している培地では検出困難な菌です。目的とされる場合は必ず依頼して下さい。

微生物学的検査

●血液・穿刺液

①培養ボトル

検査材料	動脈血　静脈血
主な検出可能菌種	*Salmonella* serovar Typhi（チフス菌） *Salmonella* serovar Paratyphi A（パラチフス菌） *Escherichia coli*（大腸菌） *Enterobacteriaceae*（腸内細菌科） *Pseudomonas aeruginosa*（緑膿菌） *Pseudomonadaceae*（シュードモナス科） *Vibrio vulnificus* *Campylobacter* spp. *Streptococcus pyogenes*（A群連鎖球菌） *Streptococcus agalactiae*（B群連鎖球菌） *Streptococcus pneumoniae*（肺炎球菌） *Streptococcus* spp.（連鎖球菌） *Enterococcus* spp.（腸球菌） *Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌） *Listeria monocytogenes*（リステリア） *Neisseria meningitidis*（髄膜炎菌） *Haemophilus influenzae*（インフルエンザ菌） *Bordetella bronchiseptica*（気管支敗血症菌） *Elizabethkingia meningoseptica* *Candida albicans* *Cryptocuccus neoformans* 嫌気性菌
注意事項	①既に抗菌薬が投与されている場合、血中濃度が最も低下する時期（次の投与前）にFA Plus・FN Plusに採取して提出して下さい。 ②細菌塗抹検査を依頼される場合、生検体も一緒に提出して下さい。（培養ボトルでの塗抹検査はできません。） ③嫌気培養も実施いたします（加算） ④血液成分を含まない検査材料については、一部の菌種において発育できない可能性があるため、培養ボトルでの受付はできません。

②（生検体）

検査材料	胸水　腹水　心のう液　リンパ節　骨髄液　関節液　臍帯血
主な検出可能菌種	*Escherichia coli*（大腸菌） *Enterobacteriaceae*（腸内細菌科） *Pseudomonas aeruginosa*（緑膿菌） *Pseudomonadaceae*（シュードモナス科） *Vibrio vulnificus* *Haemophilus influenzae*（インフルエンザ菌） *Enterococcus* spp.（腸球菌） *Streptococcus pyogenes*（A群連鎖球菌） *Streptococcus agalactiae*（B群連鎖球菌） *Streptococcus pneumoniae*（肺炎球菌） *Streptococcus* spp.（連鎖球菌） *Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌） *coagulase negative Staphylococcus* *Elizabethkingia meningoseptica* *Listeria monocytogenes*（リステリア） *Neisseria meningitidis*（髄膜炎菌） *Bordetella bronchiseptica*（気管支敗血症菌） 嫌気性菌
*追加必要菌	*Legionella pneumophila*（レジオネラ）　酵母様真菌　糸状菌
注意事項	嫌気培養を実施いたします。（加算） 増菌培養を実施いたします。

③（生検体）

検査材料	胸腔ドレーン　腹腔ドレーン　脳室ドレーン　硬膜外ドレーン
主な検出可能菌種	*Escherichia coli*（大腸菌） *Enterobacteriaceae*（腸内細菌科） *Pseudomonas aeruginosa*（緑膿菌） *Pseudomonadaceae*（シュードモナス科） *Vibrio vulnificus* *Haemophilus influenzae*（インフルエンザ菌） *Enterococcus* spp.（腸球菌） *Streptococcus pyogenes*（A群連鎖球菌） *Streptococcus agalactiae*（B群連鎖球菌） *Streptococcus pneumoniae*（肺炎球菌） *Streptococcus* spp.（連鎖球菌） *Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌） *coagulase negative Staphylococcus* *Elizabethkingia meningoseptica* *Listeria monocytogenes*（リステリア） *Neisseria meningitidis*（髄膜炎菌） *Bordetella bronchiseptica*（気管支敗血症菌） 嫌気性菌
*追加必要菌	*Legionella pneumophila*（レジオネラ）　酵母様真菌　糸状菌
注意事項	嫌気培養を実施いたします。（加算） 増菌培養を実施いたします。

④（生検体）

検査材料	髄液
主な検出可能菌種	*Escherichia coli*（大腸菌） *Enterobacteriaceae*（腸内細菌科） *Pseudomonas aeruginosa*（緑膿菌） *Pseudomonadaceae*（シュードモナス科） *Haemophilus influenzae*（インフルエンザ菌） *Enterococcus* spp.（腸球菌） *Streptococcus pyogenes*（A群連鎖球菌） *Streptococcus agalactiae*（B群連鎖球菌） *Streptococcus pneumoniae*（肺炎球菌） *Streptococcus* spp.（連鎖球菌） *Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌） *coagulase negative Staphylococcus* *Elizabethkingia meningoseptica* *Listeria monocytogenes*（リステリア） *Neisseria meningitidis*（髄膜炎菌） *Bordetella bronchiseptica*（気管支敗血症菌） 嫌気性菌 *Candida albicans* *Cryptocuccus neoformans*
*追加必要菌	*Legionella pneumophila*（レジオネラ）　*Campylobacter* spp.
注意事項	嫌気培養を実施いたします。（加算） 増菌培養を実施いたします。

＊ 通常の培養検査で使用している培地では検出困難な菌です。目的とされる場合は必ず依頼して下さい。

●その他の部位からの検体

①

検査材料	開放性膿　非開放性膿　分泌物　褥瘡　浸出液　膿瘍ドレーン　乳汁　カテーテル先端
主な検出可能菌種	*Escherichia coli*（大腸菌）　*Enterobacteriaceae*（腸内細菌科）　*Pseudomonas aeruginosa*（緑膿菌）　*Pseudomonadaceae*（シュードモナス科） *Pasteurella* spp.　*Branhamella catarrhalis*（カタル球菌）　*Enterococcus* spp.（腸球菌）　*Streptococcus pyogenes*（A群連鎖球菌） *Streptococcus agalactiae*（B群連鎖球菌）　*Streptococcus pneumoniae*（肺炎球菌）　*Streptococcus* spp.（連鎖球菌）　*Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌） *coagulase negative Staphylococcus*
*追加必要菌	酵母様真菌　糸状菌　嫌気性菌
特記事項	上記検査材料は、嫌気性菌の関与することが多いため、嫌気培養(加算)をご依頼されることをお薦めいたします。 HK半流動培地にて提出された場合、最大1週間まで増菌培養を行います。 検査材料がカテーテル先端の場合、増菌培養を実施いたします。

②

検査材料	耳漏　眼脂
主な検出可能菌種	*Escherichia coli*（大腸菌）　*Enterobacteriaceae*（腸内細菌科）　*Pseudomonas aeruginosa*（緑膿菌）　*Pseudomonadaceae*（シュードモナス科） *Pasteurella* spp.　*Branhamella catarrhalis*（カタル球菌）　*Enterococcus* spp.（腸球菌）　*Haemophilus influenzae*（インフルエンザ菌） *Streptococcus pyogenes*（A群連鎖球菌）　*Streptococcus agalactiae*（B群連鎖球菌）　*Streptococcus pneumoniae*（肺炎球菌）　*Streptococcus* spp.（連鎖球菌） *Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌）　*coagulase negative Staphylococcus*　*Vibrionaceae*（ビブリオ科）
*追加必要菌	酵母様真菌　糸状菌　嫌気性菌

③

検査材料	皮膚　爪　毛　落屑
主な検出可能菌種	*Escherichia coli*（大腸菌）　*Enterobacteriaceae*（腸内細菌科）　*Pseudomonas aeruginosa*（緑膿菌）　*Pseudomonadaceae*（シュードモナス科） *Enterococcus* spp.（腸球菌）　*Streptococcus pyogenes*（A群連鎖球菌）　*Staphylococcus aureus*（黄色ブドウ球菌）　*coagulase negative Staphylococcus* 酵母様真菌　糸状菌

＊ 通常の培養検査で使用している培地では検出困難な菌です。目的とされる場合は必ず依頼して下さい。

微生物学的検査

感染症法における感染症の分類

感染症類型	疾病名	届出の要否			届出方法			法に基づく入院勧告の可否			就業制限通知の可否		
		患者	疑似症	無症状病原体保有者	定点種別	時期	内容	患者	疑似症	無症状病原体保有者	患者	疑似症	無症状病原体保有者
1	エボラ出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
	クリミア・コンゴ出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
	痘そう	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
	南米出血熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
	ペスト	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
	マールブルグ病	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
	ラッサ熱	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
2	急性灰白髄炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	○	×	×	○	×	○
	結核	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	×	○	○	×
	ジフテリア	○	×	○	(全数)	直ちに	a	○	×	×	○	×	○
	重症急性呼吸器症候群(病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	×	○	○	○
	中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	×	○	○	○
	鳥インフルエンザ(H5N1)	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	×	○	○	○
	鳥インフルエンザ(H7N9)	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	×	○	○	○
3	コレラ	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	○	×	○
	細菌性赤痢	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	○	×	○
	腸管出血性大腸菌感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	○	×	○
	腸チフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	○	×	○
	パラチフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	○	×	○
4	E型肝炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ウエストナイル熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	A型肝炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	エキノコックス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	黄熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	オウム病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	オムスク出血熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	回帰熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	キャサヌル森林病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	Q熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	狂犬病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	コクシジオイデス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	サル痘	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ジカウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。)	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	腎症候性出血熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	西部ウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ダニ媒介脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	炭疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	チクングニア熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	つつが虫病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	デング熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	東部ウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	鳥インフルエンザ(鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9)を除く。)	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ニパウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	日本紅斑熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	日本脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ハンタウイルス肺症候群	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	Bウイルス病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	鼻疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ブルセラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ベネズエラウマ脳炎	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ヘンドラウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	発しんチフス	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ボツリヌス症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	マラリア	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	野兎病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ライム病	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	リッサウイルス感染症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	リフトバレー熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	類鼻疽	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	レジオネラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	レプトスピラ症	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ロッキー山紅斑熱	○	×	○	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×

感染症法における感染症の分類

感染症類型	疾病名	届出の要否			届出方法			法に基づく入院勧告の可否			就業制限通知の可否		
		患者	疑似症	無症状病原体保有者	定点種別	時期	内容	患者	疑似症	無症状病原体保有者	患者	疑似症	無症状病原体保有者
5	アメーバ赤痢	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	RSウイルス感染症	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	咽頭結膜熱	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	○	×	×	インフル基幹(※1)	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	感染性胃腸炎	○	×	×	小児科基幹(※2)	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	急性出血性結膜炎	○	×	×	眼科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	急性弛緩性麻痺	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	クラミジア肺炎(オウム病を除く。)	○	×	×	基幹	次の月曜	c2	×	×	×	×	×	×
	クリプトスポリジウム症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	クロイツフェルト・ヤコブ病	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	後天性免疫不全症候群	○	×	○	(全数)	7日以内	b2	×	×	×	×	×	×
	細菌性髄膜炎(侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症及び侵襲性肺炎球菌感染症を除く。)	○	×	×	基幹	次の月曜	c2	×	×	×	×	×	×
	ジアルジア症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	侵襲性髄膜炎菌感染症	○	×	×	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	侵襲性肺炎球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	水痘	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	水痘(入院例に限る。)	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	性器クラミジア感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1	×	×	×	×	×	×
	性器ヘルペスウイルス感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1	×	×	×	×	×	×
	尖圭コンジローマ	○	×	×	STD	翌月初日	c1	×	×	×	×	×	×
	先天性風しん症候群	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	手足口病	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	伝染性紅斑	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	突発性発しん	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	梅毒	○	×	○	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	播種性クリプトコックス症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	破傷風	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	百日咳	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	風しん	○	×	×	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2	×	×	×	×	×	×
	ヘルパンギーナ	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	マイコプラズマ肺炎	○	×	×	基幹	次の月曜	c2	×	×	×	×	×	×
	麻しん	○	×	×	(全数)	直ちに	a	×	×	×	×	×	×
	無菌性髄膜炎	○	×	×	基幹	次の月曜	c2	×	×	×	×	×	×
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2	×	×	×	×	×	×
	薬剤耐性アシネトバクター感染症	○	×	×	(全数)	7日以内	b1	×	×	×	×	×	×
	薬剤耐性緑膿菌感染症	○	×	×	基幹	翌月初日	c2	×	×	×	×	×	×
	流行性角結膜炎	○	×	×	眼科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	流行性耳下腺炎	○	×	×	小児科	次の月曜	c1	×	×	×	×	×	×
	淋菌感染症	○	×	×	STD	翌月初日	c1	×	×	×	×	×	×
新型インフルエンザ等感染症		○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○
指定感染症	新型コロナウイルス感染症(病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。)であるものに限る。)	○	○	○	(全数)	直ちに	a	○	○	○	○	○	○

(届出事項) a：氏名、年齢、性別、職業、住所、所在地、病名、症状、診断方法、初診・診断・推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、診断した医師の住所及び氏名、その他、(保護者の住所氏名)
b1：年齢、性別、病名、症状、診断方法、初診年月日、診断年月日、推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、診断した医師の住所及び氏名
b2：年齢、性別、病名、症状、診断方法、初診年月日、診断年月日、推定感染年月日、感染原因、感染経路、感染地域、診断した医師の住所及び氏名、最近数年間の主な居住地、国籍
c1：年齢、性別
c2：年齢、性別、原因病原体の名称、検査方法

※1　インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)の基幹定点の届出については、届出対象は入院したもので、届出内容は入院時の対応を加える。

※2　感染性胃腸炎の基幹定点の届出については、届出対象は病原体がロタウイルスであるもので、届出内容は原因病原体の名称及び検査方法を加える。

厚生労働省ホームページ　感染症法に基づく医師の届出のお願い　より引用(2020年6月1日時点)
(https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000631585.pdf)

病理学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
病理組織顕微鏡検査								
8126 ～ 8129 7B010	**病理組織顕微鏡検査** 7B010-0000-070-432	次頁参照		ヘマトキシリン エオジン染色 その他染色		6 ～ 10	一臓器 につき 860 病理	＊1 ＊6
8130 7B020	**免疫抗体法による病理組織顕微鏡検査** 7B020-0000-070-666	次頁参照		酵素抗体法 (間接法)		7 ～ 12	860 ＋ 400 病理	＊1 ＊6
8124 7D010	**病理組織電子顕微鏡検査** 7D010-0000-070-671	次頁参照		透過電顕法		30 ～ 60	860 ＋ 2000 病理	＊6

注　(1)病理組織顕微鏡検査の検体検査実施料は３臓器2,580点が限度です。
(2)免疫抗体法による検査は400点を加算します。又、確定診断のために４種類以上の抗体を用いた免疫染色が必要な患者に対し、標本作製を実施した場合は、1,600点を所定点数に加算します。
(3)免疫抗体法、切り出し処理、脱脂処理、脱灰処理が必要な場合は所要日数が延長します。ご報告日につきましてはお問い合わせ下さい。
(4)各種ブロック作製、標本作製、スライド作製、キャビネット写真作製も承っております。

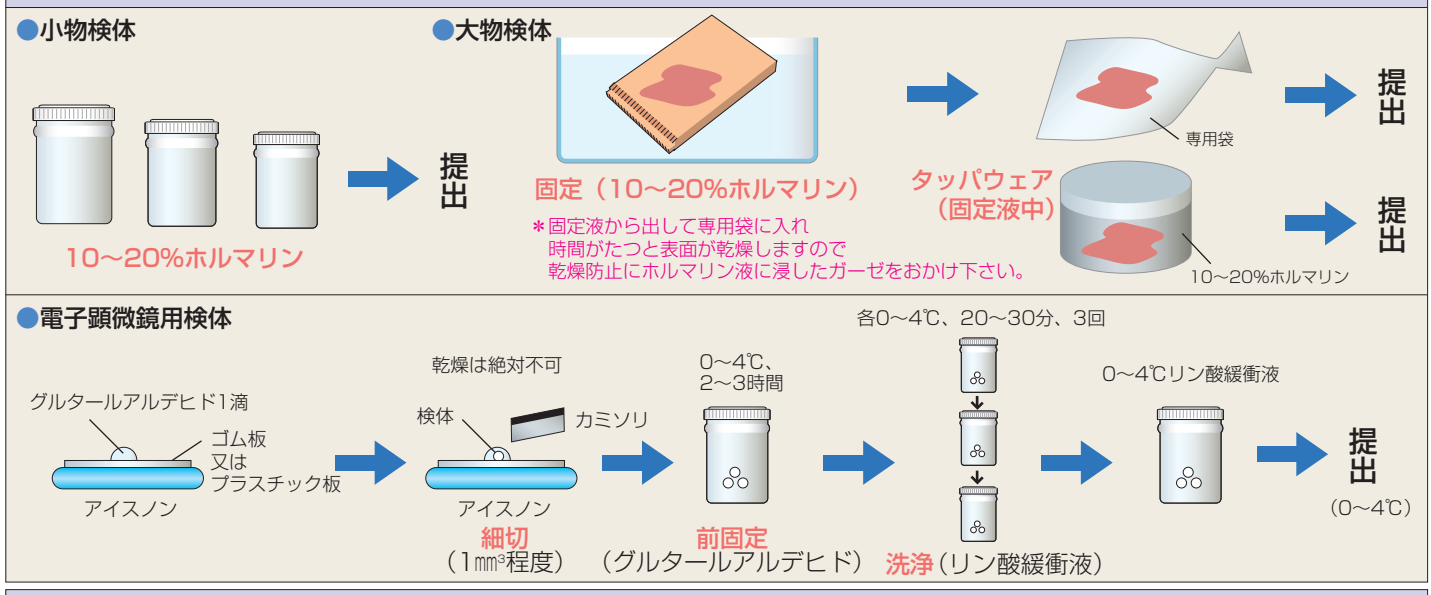
細胞診検査								
8030 7A020	**婦人科材料細胞診** 7A020-0000-094-433	次頁参照		パパニコロウ染色		4 ～ 6	150 病理	＊1 ＊6
(8110) 7A010	**その他一般材料細胞診** 7A010-0000-094-433 7A010-0000-094-477 7A010-0000-094-602 7A010-0000-094-650	次頁参照		パパニコロウ染色 PAS 染色 ギムザ染色 その他染色		4 ～ 6	190 病理	＊1 ＊6

注意事項

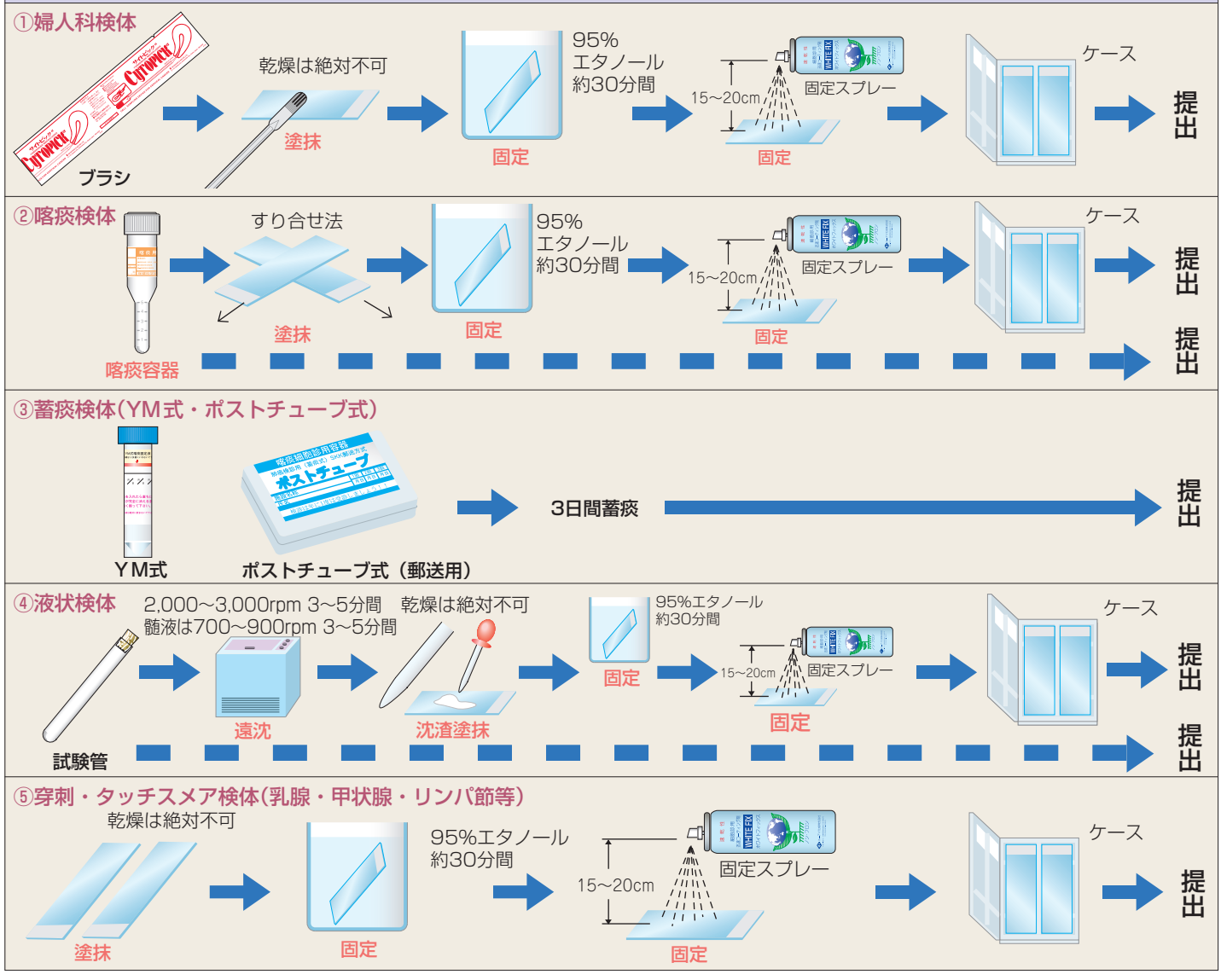
病理組織	● 10%～20%のホルマリンを使用します。特別な場合にはご連絡下さい。検体容器はゆったりした入れ物をご使用下さい。 ●依頼書には「性別、年齢、採取部位(材料名)、臨床診断、臨床経過及び手術、所見」等を必ずご記入下さい。記載がない場合、問い合わせ等による報告遅延を生じることがあります。
電子顕微鏡用検体の固定	● 0～4℃の２～2.5%グルタールアルデヒドを使用します。
免疫抗体用検体	●使用抗体につきましては直接ご連絡下さい。提出方法は通常の病理組織検査と同じです。
細胞診	●体腔液(胸水・腹水等) は採取時に抗凝固剤(ヘパリン・クエン酸ナトリウム等)を1滴加えて下さい。 ●液状検体(体腔液・尿・髄液・胆汁・洗浄液等)は、採取後直ちに遠沈(2,000～3,000rpm　3～5分間。髄液は700～900rpm　3～5分間)し、塗抹後、乾燥させることなく直ちに95%エタノール液に30分間固定又はコーディング固定剤で固定して下さい。 ●湿潤固定標本は２枚以上作成して下さい。液状検体及びリンパ節やその他タッチスメアの場合は、湿潤固定標本以外に乾燥固定標本(塗抹後急速冷風乾燥)ギムザ染色用を１枚作成し提出して下さい。 ● 95%エタノール固定の場合は液から取り出し輸送する前に固定スプレー等をかるく噴きかけて下さい。ポリエチレングリコールの被膜が保護します。 ●依頼書には性別、年齢、採取部位(材料名)、臨床所見(婦人科の場合は最終月経も)を明記して下さい。

検体提出方法

病理組織



細胞診



病理学的検査

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
腫瘍関連免疫組織検査								
8801 4H010	エストロゲンレセプター 4H010-0000-070-666	腫瘍組織	下記参照	酵素抗体法(IHC法)	(−)	7〜10	720 病理	同一月に併せて実施した場合は一方のみ算定する。
8802 4H015	プロゲステロンレセプター 4H015-0000-070-666	腫瘍組織	下記参照	酵素抗体法(IHC法)	(−)	7〜10	690 病理	＊6
8642 8C053	乳癌HER2遺伝子〔FISH〕 8C053-0000-099-841	未染スライド 4枚	X2 常温 下記参照	FISH法		6〜14	2700 病理	パラフィンブロックでも受託可。但し、所要日数は概ね2日程度加算される。 ※1
8643 8C053	胃癌HER2遺伝子〔FISH〕 8C053-0000-099-841	未染スライド 4枚	X2 常温 下記参照	FISH法		6〜14	2700 病理	＊6
8743 5D596	CCR4蛋白〔IHC〕 5D596-0000-099-666 5D596-0000-076-666	未染スライド 6枚 又は パラフィンブロック	X2 常温	酸素抗体法		5〜7	10000 病理	ホルマリン固定病理組織も受託可。但し、所要日数は概ね2日程度加算される。 ※2 ＊6

【エストロゲンレセプター・プロゲステロンレセプターのご依頼時の留意事項】

1. 本検査は病理検査により確定診断がなされた症例について治療の方針を判定するための検査ですので病理組織依頼書に病理診断名・組織型をご記入の上、ご依頼下さい。
2. 癌細胞の有無、組織型が不明な場合もありますので、検査依頼時に病理診断書(コピー)の添付をお願いいたします(但し、弊社で病理検査を実施している場合は不要です)。なお、諸事情により添付できない場合には、病理診断名、組織型の他、臨床情報等可能な範囲で記載をお願いいたします。
3. 検査材料は10%ホルマリン固定液に6〜72時間の固定を行った組織をパラフィン包埋したブロックです。固定組織、未染色スライド等でのご依頼は、予めご相談下さい。

【乳癌・胃癌HER2遺伝子〔FISH〕のご依頼時の留意事項】

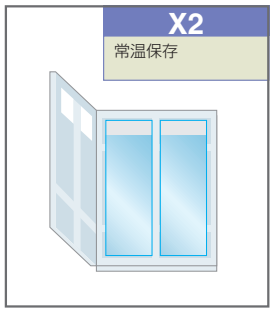
1. ご依頼時に「病理診断書のコピーを添付」又は、「依頼書に診断名を記入」の上、ご依頼下さい。
2. 推奨固定液は10%中性緩衝ホルマリンです。推奨固定時間は乳癌6〜72時間(6時間未満の検体は避ける)、胃癌6〜72時間(生検検体は大きさに準ずるが6時間以上が望ましい)です。
3. 標本はシランなどのコーティングスライドを使用して、37℃恒温槽で乾燥させて下さい。なお、薄切後長時間放置(薄切から6週間以上)された未染標本、浸潤癌が含まれないもの、厚い組織切片などは適しません。
4. 過去の種々の条件で作成された標本でFISH法検査をする場合、必ずしも全ての標本でFISH法が可能とは限りません。

【CCR4蛋白〔IHC〕のご依頼時の留意事項】

1. 「ポテリジオ(一般名:モガムリズマブ)」を投与された検体で実施した際には、正しい結果が得られないことがありますので、ご注意下さい。本検査結果は、臨床症状や他の検査結果などを考慮して総合的に判断して下さい。
2. 「再発又は難治性の成人T細胞白血病リンパ腫」について、投与等の治療方針を判定するための検査です。つきましては、依頼時に「病理診断書のコピーを添付」又は、「依頼書に診断名を記入」の上、ご依頼下さい。
3. 病理組織片は10〜20%ホルマリン(中性緩衝ホルマリン推奨)固定液にて24〜48時間程度固定し、包埋して下さい。
4. 未染標本スライドは3〜4μmの厚さに薄切し、シランなどの接着力の向上しているコーティングスライドに貼り付けて下さい。薄切後のスライドは37℃の恒温槽で充分に乾燥させて下さい。
5. 固定不良や過固定の場合、正しい結果が得られない場合がありますのでご留意下さい。
6. 未染標本スライドは遮光下(常温)で保管し、できるだけすみやか(遅くとも4週間以内)にご提出下さい。

※1　抗HER2ヒト化モノクローナル抗体抗悪性腫瘍剤の投与の適応を判断することを目的として遺伝子増幅標本作製を行った場合に、当該抗悪性腫瘍剤の投与方針の決定までの間に1回を限度として算定する。HER2タンパクの免疫染色(免疫抗体法)病理組織標本作製を併せて行った場合は、3,050点を算定できる。

※2　CCR4蛋白〔FCM〕及び〔IHC〕を同一の目的でおこなった場合には、原則としていずれか一方のみを算定する。但し、必要があって併せて行った場合には、診療報酬明細書の摘要欄にその理由を記載し、いずれの点数も算定できる。



項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
腫瘍関連免疫組織検査								
8031 5D590	HER2/neuタンパク 5D590-8757-070-666	腫瘍組織	下記参照	酵素抗体法(IHC法)	表1・2参照	6～14	690 病理	＊1 ＊6
8032 5D595	EGFRタンパク 5D595-0000-070-666	腫瘍組織	下記参照	酵素抗体法(IHC法)	表3参照	6～14	690 病理	＊6

【HER2/neuタンパク　ご依頼方法】

1. 検査ご依頼に際しては、必ず所定の「病理検査依頼書」をご使用下さい。
2. 先に病理組織検査をご依頼されている場合は保存ブロックで実施します。報告年月日と検体番号を記入してご依頼下さい。

◎HER2/neuタンパク(乳癌の場合)

1. 検体はホルマリン固定のパラフィン包埋された乳癌の原発巣または転移巣の組織です。
   ①初発乳癌の原発巣ないし、転移巣の切開生検、針生検／手術標本。
   ②転移性乳癌では過去に手術された原発巣の組織標本ないし転移巣の生検／手術標本。
2. 推奨固定方法
   ・推奨固定液：10%中性緩衝ホルマリン
   ・推奨固定時間：6～72時間(※6時間未満の検体は避ける)
   抗原性保持の点から上記固定方法が推奨されますが、20%で固定する場合や緩衝でなく純水で希釈した10%、20%ホルマリンを用いた場合、わずかに抗原性の低下する可能性はありますが判定に差し支えはないと考えられます。但し、アセトン系、アルコール系固定液は抗原性保持の点から検査不能となります。
3. 生検体から実施する場合は、先に通常の病理組織検査を実施の上、悪性所見の場合に実施します。

◎HER2/neuタンパク(胃癌の場合)

1. 検体はホルマリン固定のパラフィン包埋された胃癌の原発巣又は転移巣の組織です。
2. 推奨固定方法
   ・推奨固定液：10%中性緩衝ホルマリン
   ・推奨固定時間：切除標本　6～72時間
   　　生検検体　検体の大きさに準ずる(6時間以上が望ましい)
3. 生検体から実施する場合は、先に通常の病理組織検査を実施の上、悪性所見(腺癌)の場合に実施します。

【EGFRタンパク　ご依頼方法】

1. 検査ご依頼に際しては、必ず所定の「病理検査依頼書」をご使用下さい。
2. 先に病理組織検査をご依頼されている場合は保存ブロックで実施します。報告年月日と検体番号を記入してご依頼下さい。
3. 検体はホルマリン固定のパラフィン包埋された進行・再発の結腸・直腸癌の手術材料です。(生検材料や、転移組織についてのデータは少なく、検査に適した腫瘍細胞数等から明らかなデータはありません。)
4. 推奨固定方法
   ・推奨固定液：10%中性緩衝ホルマリン
   ・推奨固定時間：24～48時間以内(手術材料)
   10%中性緩衝ホルマリンの使用が推奨されておりますが、10%又は、20%非緩衝ホルマリン液による固定においても、固定が適切にされていれば、検査対象として使用可能です。

(表1) HER2/neuタンパク(IHC法)乳癌の判定基準

スコア	染色パターン	判定
3+	強い完全な全周性の膜染色が認められる＞10%	陽性
2+	不完全および／又は弱／中程度の全周性の膜染色が認められる＞10%、又は強い完全な全周性の膜染色が認められる≦10%	equivocal
1+	かすかな／かろうじて部分的な膜染色が認められる＞10%	陰性
0	染色像が認められない、又は不完全およびかすかな／かろうじて膜染色が認められる≦10%	陰性

(表2) HER2/neuタンパク(IHC法)胃癌の判定基準

染色強度スコア	切除標本の染色パターン	生検標本の染色パターン	HER2過剰発現判定
0	細胞膜に陽性染色なし、あるいは細胞膜の陽性染色があるがん細胞が一切片に10%未満である	陽性染色なし、あるいは細胞膜の陽性染色があるがん細胞なし	陰性
1+	弱／ほとんど識別できないほどかすかな細胞膜の染色があるがん細胞が一切片に10%以上認められる。 がん細胞は細胞膜のみが部分的に染色されている	がん細胞の染色割合に関係なく、弱／ほとんど識別できないほどかすかな細胞膜の陽性染色があるがん細胞クラスター(集塊)*が1つ以上あり	陰性
2+	弱～中程度の完全な側方あるいは側方・基底膜側の細胞膜の陽性染色があるがん細胞が一切片に10%以上認められる	がん細胞の染色割合に関係なく、弱～中程度の完全な側方あるいは側方・基底膜側の細胞膜の陽性染色があるがん細胞クラスター(集塊)*が1つ以上あり	境界域(Equivocal)
3+	強い完全な側方あるいは側方・基底膜側の細胞膜の陽性染色があるがん細胞が一切片に10%以上認められる 全周性に認められない場合もある	がん細胞の染色割合に関係なく、強い完全な側方あるいは側方・基底膜側の細胞膜の陽性染色があるがん細胞クラスター(集塊)*が1つ以上あり	陽性

＊5個以上のがん細胞の集塊と定義される

(表3) EGFRタンパクの判定基準

判定	定義
陰性	全ての腫瘍細胞において細胞膜への染色が認められない。
陽性	染色態度が連続性或いは不連続性に係らず、腫瘍細胞の細胞膜に染色が認められる。

その他・研究検査

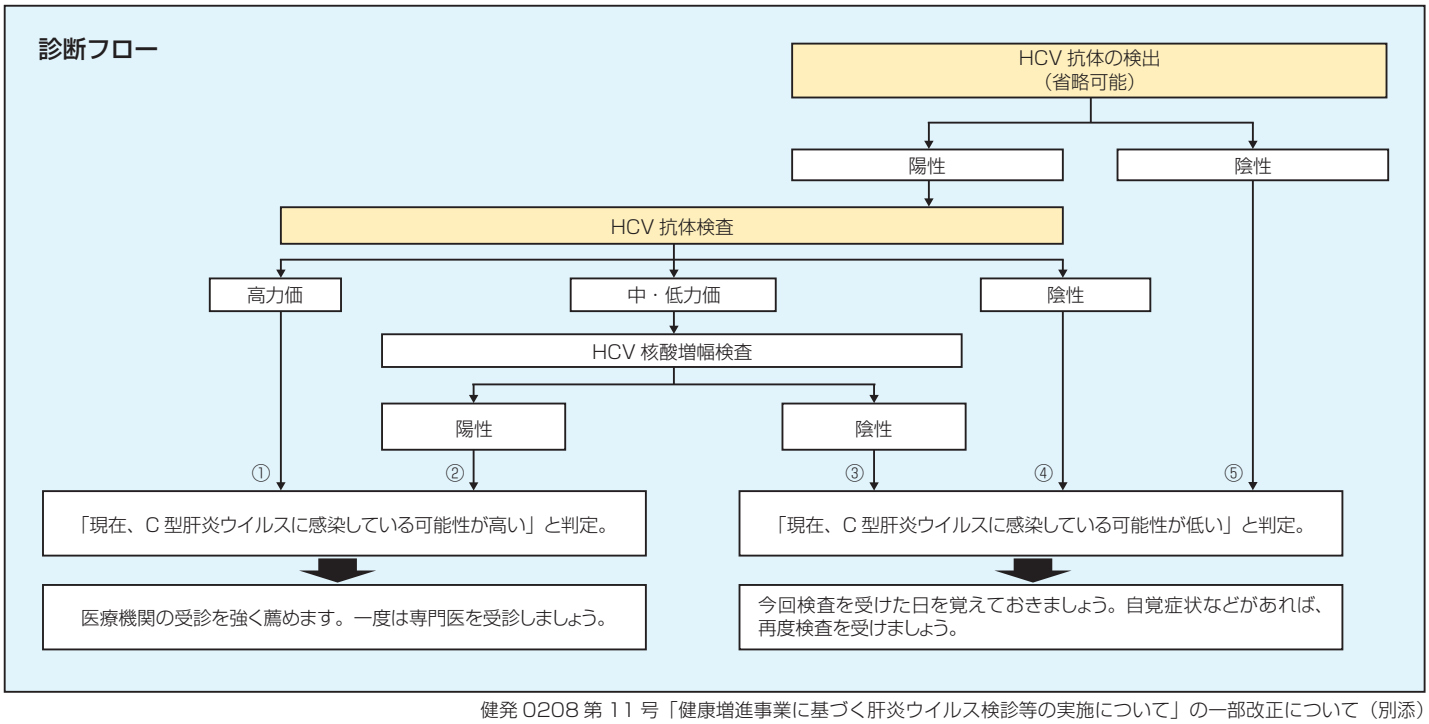
項目コード 統一コード	検　査　項　目	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
肝炎検診								
4086	**HCV検診セット** (C型肝炎ウイルス検診)	血清 **0.6** 及び 全血 **8.0** 注1 (同時提出)	**A1-1** 冷蔵 及び **カ** 凍結 (下記参照)	HCV抗体の検出：　LPIA法 HCV抗体検査：　CLEIA法 HCV核酸増幅検査 ：リアルタイムPCR法	HCV抗体の検出：(−) HCV抗体検査：1.0未満 cut off index HCV核酸増幅検査：(−)	2〜6		※1,2 ＊ア、イ

注1　「HCV抗体の検出」、「HCV抗体検査」は一般生化学と同じ採血管を使用できます。「HCV核酸増幅検査」については他の項目と重複しないよう、単独検体で提出して下さい。

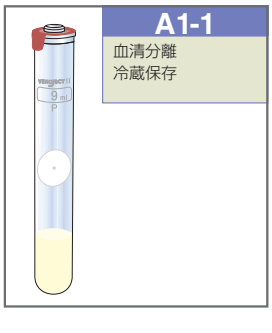
※1　「HCV抗体の検出」より検査を開始します。「HCV抗体検査」より開始する検査については、担当営業所へお問い合わせ下さい。
※2　「HCV抗体の検出」は保健科学研究所本社ラボラトリー、「HCV抗体検査」は第2ラボラトリー、「HCV核酸増幅検査」は第3ラボラトリーで実施します。

■判定結果(C型肝炎ウイルス検診)

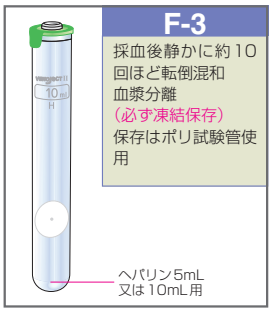
1. 「現在、C型肝炎ウイルスに感染している可能性が高い」と判定されました。
   判定理由 ①、②
2. 「現在、C型肝炎ウイルスに感染している可能性が低い」と判定されました。
   判定理由 ③、④、⑤



健発 0208 第 11 号「健康増進事業に基づく肝炎ウイルス検診等の実施について」の一部改正について（別添）
肝炎ウイルス検診実施要領の別紙3より



A1-1
血清分離
冷蔵保存



F-3
採血後静かに約10回ほど転倒混和
血漿分離
(必ず凍結保存)
保存はポリ試験管使用

カ
直接採血後4〜5回静かに転倒混和し常温にて30分〜60分放置して下さい。
凝固完了を確認後遠心器にて10〜15分遠心し血餅を分離剤の下へ移行させ、分離を確認したのち専用容器のまま凍結保存して下さい。

項目コード 統一コード	検査項目	検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
その他特殊検査								
7677 8C896	倫理指針対象 **Y染色体微小欠失** (AZF欠失) 8C896-0000-019-898	全血 **5.0**	**E-1** 冷蔵	PCR-rSSO法		4～9		＊イ
7994	**脳梗塞リスク評価** (A6C)	血漿 **2.0**	**F-3** ↓ **G-1** 凍結	※1	脳梗塞リスク値 高　値：0.80～1.0 境界値：0.44～0.79 低　値：0.0　～0.43	6～13		※2 ＊T

※1　アクロレイン：ELISA法、IL-6：ELISA法、CRP：ラテックス凝集比濁法の３項目の結果を組み合わせて算出いたします。

※2　必ず、専用問診票をご提出下さい(性別、年齢必須)。又、検体は採血当日にご提出下さい。

【倫理指針対象検査について】

○本検査は倫理指針対象の遺伝学的検査となりますので、検査の実施に際しては、医師により被験者に対して検査の目的や方法、限界等について十分説明され、又、必要に応じて遺伝カウンセリングを受けたうえで、被検者の自由意志による同意(インフォームド・コンセント)が得られていることが必要です。

○検査のご依頼にあたっては、「遺伝学的検査汎用依頼書」をご利用下さい。検査結果は匿名番号にて、ご担当医師宛てに親展扱いの封書でお届けいたします。

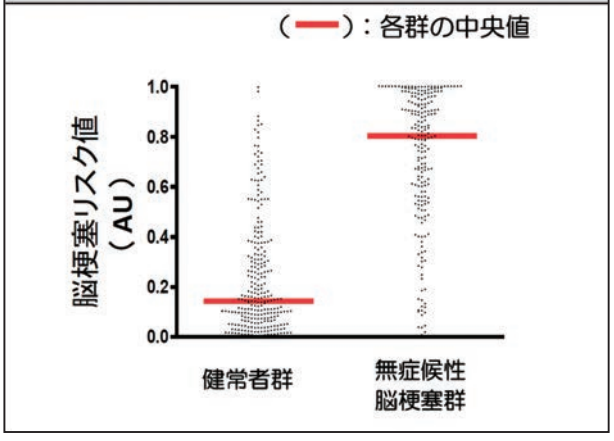
○研究検査
通常の検査項目とは異なり、研究を目的とした検査です。基準値や臨床的意義等が必ずしも明確ではない項目もあることをご理解のうえ、ご利用いただけますようお願いいたします。

【Y染色体微小欠失(AZF欠失)のご依頼時と結果報告に関する注意点】

①他項目との重複依頼は避けて下さい。
②本検査はコンタミネーションの影響がより大きくなりますので、検体採取に当たっては取扱いに十分ご注意下さい。
③ご依頼時は弊社「遺伝学的検査汎用依頼書」をご利用下さい。検査結果は匿名番号にて、ご担当医師宛てに親展扱いの封書でお届けいたします。
④本検査は倫理指針対象の遺伝学的検査となりますので、検査の実施に際しては、医師により被験者に対して検査の目的や方法、限界等について十分説明され、又、必要に応じて遺伝カウンセリングを受けた上で、被験者の自由意志による同意(インフォームド・コンセント)が得られていることが必要です。

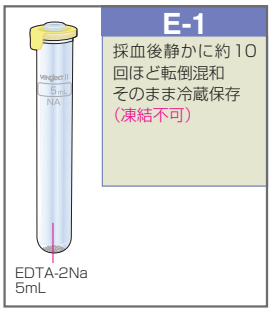
●脳梗塞リスク評価(A6C)の結果評価

健常者群と無症候性脳梗塞群における
脳梗塞リスク値の分布



脳梗塞リスク		健常者群 (%)	無症候性脳梗塞群 (%)
高　値	0.80～1.0	3.0	51.9
境界値	0.44～0.79	13.5	32.2
低　値	0.0～0.43	83.5	15.9

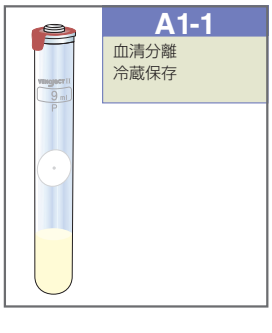
〔注意事項〕
当検査項目は脳梗塞リスクに関する情報を提供するものであり、脳梗塞を診断するものではありません。



その他・研究検査

項目コード 統一コード	検　査　項　目	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
自己抗体								
4411 5G335	**抗ランゲルハンス島細胞抗体** (ICA) 5G335-0000-023-162	血清 **2.0**	**A1** ↓ **G-1** 凍結	FA法	1.25未満 JDFU	13 〜 20		JDFU : Juvenile Diabetes Foundation Units ＊8

○研究検査
通常の検査項目とは異なり、研究を目的とした検査です。基準値や臨床的意義等が必ずしも明確でない項目もあることをご理解の上、ご利用いただけますようお願いいたします。



●抗核抗体染色型と主な自己抗体

染色型	対応抗原	関連疾患	主な自己抗体	コード	測定法
Homogeneous 型 (均質型)	DNA	SLE	抗 DNA 抗体	4075	RIA
			抗 ss-DNA - IgG 抗体	4366	EIA
			抗 ds-DNA-IgG 抗体	4368	EIA
			抗 ss-DNA - IgM 抗体	4367	EIA
			抗 ds-DNA-IgM 抗体	4369	EIA
	Histons	SLE、DIL	抗ヒストン抗体	–	未受託
Peripheral 型 (辺縁型)	DNA	SLE	抗 DNA 抗体	4075	RIA
			抗 ds-DNA-IgG 抗体	4368	EIA
			抗 ds-DNA-IgM 抗体	4369	EIA
Speckled 型 (斑紋型)	U1RNP	MCTD, SLE	抗 RNP 抗体 (抗 n-RNP 抗体)	4140	MO
				4689	CLEIA
	U1,U2,U4-6RNP	SLE	抗 Sm 抗体	4141	MO
				4667	CLEIA
	RNA polymerase Ⅲ転写終結因子	SjS	抗 SS-B/La 抗体	4143	MO
				4664	CLEIA
	DNA topoisomerase Ⅰ	SSc	抗 Scl-70 抗体	4188	MO
				4692	CLEIA
	RNA polymerase Ⅲ	SSc	抗 RNA ポリメラーゼⅢ抗体	4807	ELISA
	70k/80kDa DNA-PK regulatory subunit	PM-SSc, SLE	抗 Ku 抗体	–	未受託
	*****	SLE	抗 Ki 抗体	–	未受託
細胞周期関連型	DNA polymerase δ補助因子	SLE	抗 PCNA 抗体	–	未受託
	*****	SLE	抗 Na 抗体	–	未受託
Nucleolar 型 (核小体型)	7-2/8-2RNP	SSc	抗 Th/To 抗体	–	未受託
	U3RNP	SSc	抗 U3RNP 抗体	–	未受託
	RNA polymerase Ⅲ	SSc	抗 RNA ポリメラーゼⅢ抗体	4807	ELISA
	核小体蛋白複合体	PM-SSc	抗 PM-Scl 抗体	–	未受託
	Ribosomal P 蛋白	SLE	抗 r-RNP 抗体 (抗リボゾーム P 抗体)	–	未受託
セントロメア型 (Discrete-Speckled 型)	CENP-B(80kD)	CREST, PBC	抗セントロメア抗体	4627	ELISA
Granular 型	Cajal body 結合蛋白	PBC, SjS	抗 p80 coilin 抗体	–	未受託
	multiple nuclear dot(100kD)		抗 Sp-100 抗体	–	未受託
核膜型	Lamina associated polypeptide 2	PBC, AIH	抗核膜ラミン (LAP2) 抗体	–	未受託
	核膜孔複合体 (gp210)		抗 gp210 抗体	–	未受託
	p62 complex		抗 p62 抗体	–	未受託
Cytoplasmic (細胞質抗体)	Ribosomal P 蛋白	SLE	抗 r-RNP 抗体 (抗リボゾーム P 抗体)	–	未受託
	ゴルジ体 (golgin-97)	SjS, AIH	抗 golgin-97 抗体※	–	未受託
	Y1-Y5 RNP	SjS, SLE	抗 SS-A/Ro 抗体※	4142	MO
				4661	CLEIA
	48kDa tRNA 結合蛋白	SSc	抗 Wa 抗体※	–	未受託
	*****	CTD	抗 Tu 抗体※	–	未受託
	Signal recognition particle	PM	抗 SRP 抗体※	–	未受託
	Histidyl-tRNA synthetase	PM/DM	抗 Jo-1 抗体※	4189	MO
				4883	CLEIA
	Threonyl-tRNA synthetase	PM/DM	抗 PL-7 抗体※	–	未受託
	Alanyl-tRNA synthetase	PM/DM, IP	抗 PL-12 抗体※	–	未受託
	Glycyl-tRNA synthetase	PM/DM, IP	抗 EJ 抗体※	–	未受託
	Isoleucyl-tRNA synthetase	PM/DM	抗 OJ 抗体※	–	未受託
	Asparaginyl-tRNA synthtase	PM/DM, IP	抗 KS 抗体※	–	未受託
	M1 ～ M9	PBC	抗ミトコンドリア抗体	4125	FA
			抗ミトコンドリア M2 抗体	4399	CLEIA
その他の自己免疫性肝炎 自己抗体	p97/valosin containing protein	PBC	抗 p97/VCP 抗体	–	未受託
	*****	AIH	抗 MM 抗体	–	未受託
	actin	AIH	抗平滑筋抗体	4126	FA
	CYP Ⅱ D6	AIH	抗 LKM1 抗体	4115	EIA
				–	未受託

SLE：全身性エリテマトーデス、DIL：薬剤誘発性ループス、MCTD：混合性結合組織病、SjS：シェーグレン症候群、SSc：強皮症　赤字：研究検査(保険適応外)
PM：多発性筋炎、DM：皮膚筋炎、CREST：限局性強皮症、PBC：原発性胆汁性肝硬変、CTD：膠原病
IP：間質性肺炎、AIH：自己免疫性肝炎、RA：関節リウマチ

※：対応抗原は細胞質に局在しますが蛍光抗体法での染色性は弱い

〔参考文献〕
1)(株)医学生物学研究所：自己免疫疾患の診断基準と治療指針，第5版，2009
2)保健科学グループ：Cefiro 自己免疫疾患-病態と治療-，No.10，2009
3)宮地清光，他：原発性胆汁性肝硬変と自己抗体．日本臨床免疫学会会誌 31: 47-55, 2008

監修：慶進会 慶宮医院　宮地 清光

その他・研究検査

項目コード 統一コード	検査項目		検体必要量 (mL)	容器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備考
感染症遺伝子検査									
7551	結核菌 Nested PCR	《髄液》 6B620-0000-041-852	髄液 **1.0** 注1	**X-5** 凍結	Nested PCR法	(ー)	4 ~ 12		※1 ＊イ
7552		《胸水》 6B620-0000-042-852	胸水 **1.0** 注1	**X-5** 凍結					
7553	STD マルチプレックス PCR	《尿》	尿 (初尿) **5.0** 注1	**X-2** 冷蔵	マルチプレックス PCR法	(ー)	4 ~ 18		検出対象は表1参照 ※2 ＊イ
7554		《分泌物》	子宮頸管擦過物 尿道擦過物 注1、2	**ク** 冷蔵					

注1　コンタミネーションの影響がより大きい為、検体採取にあたっては取り扱いにご注意下さい。又、他項目との重複依頼は避けて下さい。

注2　必ず専用容器でご提出下さい。又、専用容器は、予めご依頼下さい。

※1　M.Bovis BCGの一部の亜株は検出できない可能性があります。判定結果に基づく臨床診断は、臨床症状や他の検査結果等と併せて担当医師が総合的に判断して下さい。

※2　本検査で陰性となっても必ずしも病原体の存在を否定するものではありません。各病原体の遺伝子を標的としており、稀な遺伝子変異株や欠損株等は検出できない場合がありますのでご注意下さい。なお、初尿でない検体やPCR阻害物質が含まれる検体の場合、偽陰性となる可能性があります。内部コントロールによる確認の結果、増幅阻害が認められた場合は、その旨コメントさせていただきます。

○研究検査
・通常の検査項目とは異なり、研究を目的とした検査です。基準値や臨床的意義等が必ずしも明確でない項目もあることをご理解の上、ご利用いただけますようお願いいたします。
・本検査の結果をもって診断及び、保険請求を行うことはできません。
・試薬の供給状況の変化等により急遽、受託できない場合もあります。又、多数の検体をご依頼の場合やお急ぎの場合には事前にご相談下さい。

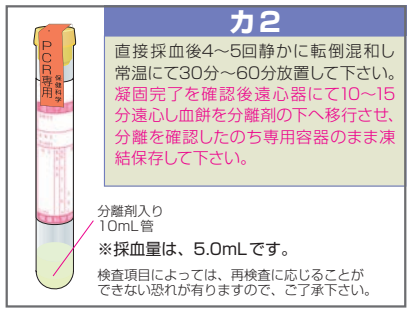
(表1) STDマルチプレックスPCR 検出対象一覧

Neisseria gonorrhoeae	(淋菌)
Chlamydia trachomatis	(クラミジア　トラコマチス)
Mycoplasma genitalium	(マイコプラズマ　ジェニタリウム)
Ureaplasma urealyticum	(ウレアプラズマ　ウレアリティカム)
Mycoplasma hominis	(マイコプラズマ　ホミニス)
Trichomonas vaginalis	(トリコモナス　ヴァギナリス)

※重複感染の場合、検出された全ての病原体名をご報告します。

X-2
必要量採取
冷蔵保存

X-5
必要量採取
(必ず凍結保存)

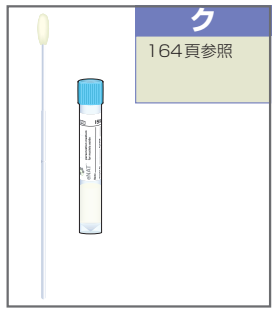


カ2
直接採血後4~5回静かに転倒混和し常温にて30分~60分放置して下さい。凝固完了を確認後遠心器にて10~15分遠心し血餅を分離剤の下へ移行させ、分離を確認したのち専用容器のまま凍結保存して下さい。

分離剤入り
10mL管

※採血量は、5.0mLです。

検査項目によっては、再検査に応じることができない恐れが有りますので、ご了承下さい。



ク
164頁参照

STDマルチプレックスの検体採取方法

尿

①検体採取の少なくとも2時間前より排尿しないで下さい。

②起床時又は来院時の初尿、約10mLを滅菌済みの容器に採取して下さい。

③尿をよく混和後、滅菌汎用容器：Xに分取して冷蔵で保管して下さい。

尿道擦過物

①検体採取の少なくとも2時間前より排尿しないで下さい。

②STDマルチプレックス専用容器：クに付属する検体採取用スワブを尿道口に2～4cm挿入します。

③穏やかに3～5秒間回転させながら擦過物（上皮細胞）を採取後、スワブを引き抜きます。

④スワブを専用容器の底に当たるまで挿入し、容器より出ているスワブの軸を折り目の所で折ります。

⑤専用容器のキャップを閉め冷蔵で保管して下さい。

子宮頸管擦過物

①綿棒にて子宮頸管口やその周辺の過剰な粘液を除きます。（粘液を拭った綿棒は破棄します）

②STDマルチプレックス専用容器：クに付属する検体採取用スワブを子宮頸管内にスワブが見えなくなるまで挿入します。

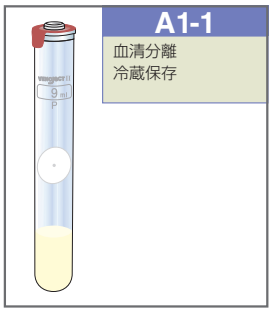
③穏やかに3～5秒間回転させながら擦過物を採取後、スワブを引き抜きます。（この時、スワブが膣粘膜に接触しないように注意して下さい）

④スワブを専用容器の底に当たるまで挿入し、容器より出ているスワブの軸を折り目の所で折ります。

⑤専用容器のキャップを閉め冷蔵で保管して下さい。

新規検査

項目コード 統一コード	検　査　項　目	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
新規検査・生化学的検査								
1694 3B070	ALP／IFCC (アルカリホスファターゼ) 3B070-0000-023-271	血清 0.4	A1-1 冷蔵	IFCC標準化対応法	38～113 U/L	1～2	11 生化I	
1766 3B050	LD／IFCC (乳酸脱水素酵素) 3B050-0000-023-272	血清 0.4	A1-1 冷蔵	IFCC標準化対応法	115～245 U/L	1～2	11 生化I	
新規検査・ウイルス抗体検査(EIA)								
7022 5F395	風疹IgG抗体〔CLEIA〕 5F395-1431-023-052	血清 0.4	A1-1 冷蔵	CLEIA法	抗体価(IU/mL)　判定 10 未満　(−) 10～15未満　(±) 15 以上　(+)	2～5	212 免疫	



項目コード 統一コード	検　査　項　目	検体必要量 (mL)	容　器 保存方法 (安定性)	検査方法	基準値・単位	所要日数	実施料 判断料	備　考
新規検査・腫瘍マーカー								
4331 5D110	**ヒト精巣上体蛋白４** (HE4) 5D110-0000-023-051-01	血清 **0.3**	**A1-1** 冷蔵	CLIA法	閉経前：70.0 以下 閉経後：140.0 以下 pmol/L	2～7	200 生化Ⅱ	
(4828)	**ROMA** (卵巣悪性腫瘍推定値) 8C986-0000-070-856	血清 **0.4**	**A1-1** 冷蔵	計算法	閉経前：7.4 未満 閉経後：25.3 未満	2～7		※1、2

※1　閉経前・後で計算式、基準値が異なるため、閉経前・後両方の結果値を報告いたします。

※2　ROMAは、HE4とCA125（専用試薬)の測定結果から計算で算出します。なお、HE4、および、CA125（ROMA用)を併せて報告いたします。

容器一覧

▶直射日光、高温多湿を避けて下さい。

容器	記号	保存方法	検査項目
A1 普通採血管(分離剤入り) 添加剤・内容物 採血量 貯蔵方法 常温 有効期限 分離剤入り試験管　1年 備　考 血清を分離して凍結する場合はG試験管を使用して下さい。血球を用いる検査及び薬物検査の場合は分離剤入り試験管は使用しないで下さい。	A1-1	血清分離 冷蔵保存	生化学的検査、他
	A1-2	血清分離 冷蔵保存 (凍結不可)	コレステロール分画、レムナント様リポ蛋白コレステロール(RLP-C)、リポ蛋白分画、アポリポ蛋白、リポ蛋白(a)、乳酸脱水素酵素(LDH)
	A1-3	採血後血清分離まで (必ず保温) 血清分離 冷蔵保存	寒冷凝集反応、クリオグロブリン
	A1-4	血清分離 常温保存 (凍結不可)	LDアイソザイム
A2 普通採血管(分離剤無し) 添加剤・内容物 採血量 貯蔵方法 常温 有効期限 プレーン試験管　2年 備　考 血清分離が必要な場合には、G試験管に移し替えて提出して下さい。	A2-1	血清分離 冷蔵保存	薬物検査、他
	A2-2	そのまま冷蔵保存 (血清分離不可) (凍結不可)	
	A2-3	抗凝固剤を入れずに採血 そのまま冷蔵保存 (血清分離不可)	間接クームス試験、クームス定量試験、不規則抗体
	A2-4	抗凝固剤を入れずに採血 そのまま (常温に保存) (血清分離不可)	交差適合試験
B EDTA-2K採血管 添加剤・内容物 EDTA2K 採血量 2mL 貯蔵方法 常温 有効期限 2年 備　考	B-1	採血後、静かに約10回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可)	血液形態・機能検査、有核細胞数、巨核細胞数
	B-2	採血後、静かに約10回ほど転倒混和 そのまま (常温に保存)	

▶直射日光、高温多湿を避けて下さい。

容　　器	記号	保存方法	検査項目
B2 血液型検査専用採血管 添加剤・内容物 EDTA2K 採血量 2mL 貯蔵方法 常温 有効期限 2年 備　考	B2-1	採血後、静かに約10回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 （凍結不可）	ABO血液型、Rh(D)血液型
	B2-2	採血後、静かに約10回ほど転倒混和 そのまま （常温に保存）	直接クームス試験
C 尿検査用容器 添加剤・内容物 採取量・容量 10mL又は50mL 貯蔵方法 常温 有効期限 3年 備　考 蓄尿の場合は尿量を明記して下さい。	C-1	冷所に24時間蓄尿、尿量測定 混和、必要量提出 冷蔵保存 （尿量明記）	尿生化学検査、17-ケトステロイド分画（17-KS分画）、プレグナンジオール（P2）、プレグナントリオール（P3）
	C-2	午前第2尿 冷蔵保存 （尿量記載の必要なし）	デオキシピリジノリン（DPD）、NTX（Ⅰ型コラーゲン架橋N-テロペプチド）
	C-3	蓄尿又は部分尿 必要量提出 冷蔵保存 （尿量記載の必要なし）	尿生化学検査、尿水銀（Hg）、他
	C-5	必要量を採取 冷蔵保存 （採尿時間、尿量明記）	クリアランステスト
	C-7	冷蔵保存（凍結不可）	尿沈渣
	C-9	6N塩酸20mL（小児5～10mL）を予め入れた容器に24時間蓄尿、尿量測定、混和、必要量提出 （必ず凍結保存） （尿量明記） （市販の塩酸を水で2倍に希釈する：6N塩酸）	メタネフリン分画、他

容器一覧

▶直射日光、高温多湿を避けて下さい。

容器	記号	保存方法	検査項目
D 凝固検査用採血管 添加剤・内容物：3.2%クエン酸ナトリウム 0.2mL 採血量：1.8mL 貯蔵方法：常温 有効期限：1年 備考：血漿を分離して凍結する場合はG試験管を使用して下さい。	D-1	血液を正確に1.8mL入れ静かに約10回ほど転倒混和 (血漿分離) (必ず凍結保存) ポリ試験管使用	出血・凝固検査、ビタミンK分画、第Ⅷ因子様抗原
	D-3	血液を正確に1.8mL入れ転倒混和後、すみやかに室温にて1,500G以上15分間遠心後、上清の表面よりやや下の部分を1.0mL採取し、凍結保存にてご提出下さい。血小板の混入は、測定結果に影響しますので注意して下さい。 ※遠心機回転数の計算式 $G = 1.118 \times 10^{-5} \times r \times n^2$ r＝ローター半径(cm) n＝回転数(rpm)	ループスアンチコアグラント **遠心力換算一覧表** 半径(cm) / 1,700G／回転数(rpm) 6 / 5,000 8 / 4,400 10 / 3,900 11 / 3,700 12 / 3,600 13 / 3,400 14 / 3,300 15 / 3,200 16 / 3,100 19 / 2,800 20 / 2,800
E EDTA-2Na採血管 添加剤・内容物：EDTA-2Na 採血量：2mL又は5mL 貯蔵方法：常温 有効期限：2年 備考	E-1	採血後静かに約10回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可)	サイトメガロウイルス抗原(C10、C11) CMV(C10、C11)、PTH-Intact
	E-2	採血後静かに約10回ほど転倒混和 (低温にて血漿分離、必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使用	EDTA血漿内分泌検査、他
	E-3	採血後静かに約10回ほど転倒混和 そのまま(必ず凍結保存) ガラス管の場合はポリ試験管に移して凍結	
	E-4	採血後静かに約10回ほど転倒混和、血漿分離 冷蔵保存	
	E-5	採血後静かに約10回ほど転倒混和 低温にて180G 20分間遠心 多血小板血漿を分取し(必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使用	セロトニン(多血小板血漿) **遠心力換算一覧表** 半径(cm) / 180G／回転数(rpm) 6 / 1,600 8 / 1,400 10 / 1,300 11 / 1,200 12 / 1,200 13 / 1,100 14 / 1,100 15 / 1,000 16 / 1,000 19 / 900 20 / 900
	E-6	採血後静かに約10回ほど転倒混和 PCR専用ラベルでキャップに封をし、 そのまま冷蔵保存(開栓不可)	HLA抗原ABC HLA抗原DR

(E-6)

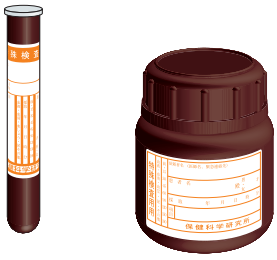
▶直射日光、高温多湿を避けて下さい。

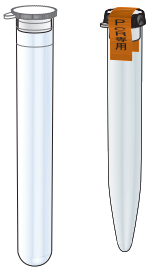
容器	記号	保存方法	検査項目
F ヘパリン採血管 添加剤・内容物 ヘパリンナトリウム 採血量 5mL 又は 10mL 貯蔵方法 常温 有効期限 2 年 備　考 血漿を分離して凍結する場合は G 試験管を使用して下さい。 	F-1	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和そのまま (必ず凍結保存) (溶血してもよい) ガラス管の場合はポリ試験管に移して凍結	エタノール
	F-2	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和、血漿分離 冷蔵保存	ピルメノール、アミオダロン
	F-3	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和、血漿分離 (必ず凍結保存) 保存はポリ試験管使用	リポ蛋白リパーゼ(LPL)、脂肪酸 4 分画、血漿遊離ハイドロキシプロリン、血漿アミノ酸分画定量
	F-4	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和そのまま常温保存 (必ず無菌採血)(凍結不可) (採血後 24 時間以内に検査)	細胞性免疫検査
	F-5	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和 そのまま冷蔵保存 (凍結不可)	ニコチン酸、赤血球コプロポルフィリン、赤血球遊離プロトポルフィリン、鉛(Pb)全血、カドミウム(Cd)全血、クロム(Cr)全血、水銀(Hg) 全血、マンガン(Mn) 全血、穿刺液細胞種類、穿刺液細胞数、染色体検査
	F-6	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和、必ず常温保存	結核菌特異的インターフェロン-γ産生能(T-SPOT.TB)
	F-7	採血後静かに約 10 回ほど転倒混和し、PCR 専用ラベルでキャップに封をして下さい。そのまま冷蔵保存(開栓不可)	

容器	記号	保存方法	検査項目
G 汎用容器 添加剤・内容物 採取量・容量 貯蔵方法 常温 有効期限 備　考 血漿を分離して凍結する場合は G 試験管を使用して下さい。 	G-1	血清又は血漿分離 (必ず凍結保存) ポリ試験管使用	血清又は血漿凍結項目
	G-2	血清又は血漿分離 冷蔵保存 (ゴム栓不可) ポリ試験管使用	亜鉛(Zn)血清、マンガン(Mn)血清、ニッケル(Ni)血清
	G-5	冷所に 24 時間蓄尿 尿量測定、混和、 必要量提出(尿量明記) (必ず凍結保存)	尿アミノ酸分析定量、尿アルドステロン
	G-6	蓄尿又は部分尿 必要量提出 (必ず凍結保存) (尿量記載の必要なし)	尿生化学検査、尿中レジオネラ抗原定性、他
	G-7	トルエン 1 ～ 2mL を加え 冷所に 24 時間蓄尿 尿量測定、混和、 必要量提出(尿量明記) (必ず凍結保存)	尿サイクリック AMP(c-AMP)

容器一覧

▶直射日光、高温多湿を避けて下さい。

容器	記号	保存方法	検査項目
I 尿検査用遮光容器 添加剤・内容物 採取量・容量 10mL 又は 50mL 貯蔵方法 常温 有効期限 2 年 備　考 蓄尿の場合は尿量を明記して下さい。 	I-1	蓄尿又は部分尿 必要量提出、冷蔵保存 （遮光保存）	総三塩化物、三塩化(トリクロル)酢酸、マンデル酸、馬尿酸、メチル馬尿酸、N-メチルホルムアミド、2.5-ヘキサンジオン、ウロポルフィリン定量、コプロポルフィリン定量
	I-2	冷所に 24 時間蓄尿、尿量測定、混和、必要量提出 冷蔵保存 （遮光保存）（尿量明記）	デルタアミノレブリン酸定量、ポルフォビリノーゲン定量
	I-3	6N 塩酸 20mL(小児 5 ～ 10mL)を予め入れた容器に 24 時間蓄尿、尿量測定、混和、必要量提出 （必ず凍結保存） （尿量明記）（市販の塩酸を水で 2 倍に希釈する：6N 塩酸）	尿カテコールアミン分画、尿 5-ハイドロキシインドール酢酸(5-HIAA)、尿ホモバニリン酸（HVA）、尿バニールマンデル酸（VMA）

容器	記号	保存方法	検査項目
X 汎用滅菌容器 添加剤・内容物 採取量・容量 10mL 貯蔵方法 常温 有効期限 3 年 備　考 PCR 法などは PCR 専用ラベルでキャップに封をして下さい。 	X-1	必要量採取 冷蔵保存（凍結不可）	穿刺液・採取液検査
	X-2	必要量採取 冷蔵保存	オリゴクローナルバンド、ウイルス抗体検査(骨髄液)など
	X-3	必要量採取 常温保存（凍結不可）	精液一般検査
	X-4	必要量採取 常温保存	
	X-5	必要量採取 （必ず凍結保存）	髄液カテコールアミン分画、髄液 5-ハイドロキシインドール酢酸(5-HIAA)、髄液ホモバニリン酸(HVA)、髄液バニールマンデル酸(VMA)、髄液セロトニン、オリゴクローナルバンド、ミエリンベイシック蛋白(MBP)

▶直射日光、高温多湿を避けて下さい。

H1 細胞性免疫検査用容器(骨髄液)

添加剤・内容物
RPMI-1640、FBS、硫酸カナマイシン、ノボヘパリン Na、炭酸水素、HEPES

採取量・容量
5mL

貯蔵方法
凍結

有効期限
色が薄いピンクの状態で使用して下さい。(凍結時は淡黄色ですが解凍すると薄いピンク色に戻ります)

検査項目
白血病・リンパ種解析検査(LLA)CD45ゲーティング

備　考
指定の採取量を採取し、よく混和させ、冷蔵保存して下さい。検体は採取後、当日中にご提出下さい。

H2 細胞性免疫検査用容器(リンパ節)

添加剤・内容物
FBS、PBS、
硫酸カナマイシン

採取量・容量
10mL

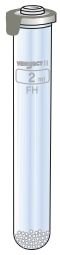
貯蔵方法
凍結

有効期限
1 年

検査項目
悪性リンパ種解析検査(MLA)
CD45ゲーティング

備　考
リンパ節 5 × 5 × 5mm を容器に浮遊させ、冷蔵保存して下さい。検体は採集後、当日中にご提出下さい。

J 血糖・HbA1c 検査専用採血管



添加剤・内容物
フッ化ナトリウム

採血量
2mL

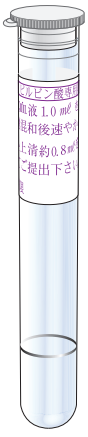
貯蔵方法
常温

有効期限
2 年

検査項目
血糖、HbA1c

備　考
血液 2mL を入れ静かに
約10 回ほど転倒混和
そのまま 4 ～ 6℃保存
(凍結不可)

L 乳酸・ピルビン酸検査専用容器



添加剤・内容物
過塩素酸除蛋白液 1.0mL

採取量・容量
1.0mL

貯蔵方法
冷蔵

有効期限
調整後 6 ヶ月

検査項目
乳酸・ピルビン酸

備　考
血液を正確に 1.0mL 入れ
激しく振とう混和、すみやかに遠心分離し上清を凍結用ポリ試験管(G)に移し、凍結保存

M アンモニア検査除蛋白専用採血管

添加剤・内容物
タングステン酸ナトリウム
4mL

採血量
1mL

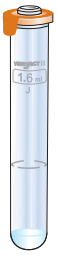
貯蔵方法
常温（約 15 ～ 25℃）

有効期限
(ラベルに記載)

検査項目
アンモニア

備　考
真空採血厳禁
血液を正確に1mL入れ十分に振とう混和すみやかに遠心分離後(上清を直ちに凍結保存)
保存はポリ試験管
容器に移すとき、沈殿物が混ざらないよう注意して下さい。

P 血沈検査専用採血管



添加剤・内容物
3.8% クエン酸ナトリウム
0.4mL

採血量
1.6mL

貯蔵方法
常温

有効期限
1 年

検査項目
血沈

備　考
転倒混和後、冷蔵保存

Q 尿中FDP検査専用採取容器

添加剤・内容物
抗プラスミン剤

採取量・容量
尿 2mL

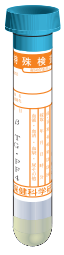
貯蔵方法
常温

有効期限
1 年

検査項目
尿中 FDP

備　考
尿 2mL を入れ静かに10 回ほど転倒混和
(上清分離) 凍結保存
ポリ試験管使用
(ヘパリン使用者はその旨明記)

R 血小板第 4 因子・β-トロンボグロブリン検査専用採血管



添加剤・内容物
抗血小板剤

採血量
2.7mL

貯蔵方法
遮光・冷蔵

有効期限
1 年

検査項目
血小板第 4 因子、β-トロンボグロブリン

備　考
本文 102 頁参照

換算表

半径(cm)	回転数(rpm)	半径(cm)	回転数(rpm)
10	4,200	22	2,800
12	3,800	24	2,700
14	3,500	26	2,600
16	3,300	28	2,500
18	3,100	30	2,400
20	3,000		

S EDTA-2K 採血管 凍結用

添加剤・内容物
EDTA-2K

採血量
2.0mL

貯蔵方法
常温

有効期限
1 年

検査項目
ビタミン B1(チアミン)、ビタミン B2(リボフラビン)、セロトニン(全血)、シクロスポリン、タクロリムス

備　考
採血後静かに約10 回ほど転倒混和そのまま(必ず凍結保存)
ガラス管の場合は、ポリ試験管に移して凍結。他の検査項目との同時依頼はできません。

容器一覧

▶直射日光、高温多湿を避けて下さい。

T 無蛍光スライドグラス(1ウェル)

添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
2 年

検査項目
水痘帯状ヘルペス抗原 FA 法

備　考
93 頁参照

U 無蛍光スライドグラス(2ウェル)

添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
2 年

検査項目
単純ヘルペスウイルス抗原

備　考
93 頁参照

UB ユービット用呼気採取バック

添加剤・内容物

採取量・容量
呼気 200 ～ 250mL

貯蔵方法
常温

有効期限

検査項目
尿素呼気試験(UBT)
(ユービット)

備　考
61 頁参照

W1 液状検体細胞診[LBC]シュアパス

添加剤・内容物
エタノール 18-30%、メタノール 1-2%、イソプロパノール 1 ～ 1.8% 含有

採取量・容量

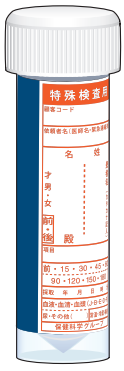
貯蔵方法
常温

有効期限
容器に記載

検査項目

備　考

W3



添加剤・内容物
メタノール 35%含有

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
1 年 6 ヶ月

検査項目

備　考
ブラシの先端は容器に残さないで下さい。

W4 液状検体細胞診〔LBC〕シンプレップ

添加剤・内容物
メタノール 55%含有

採取量・容量

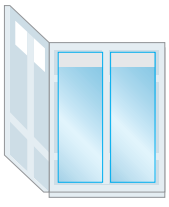
貯蔵方法
常温

有効期限
1 年 6 ヶ月

検査項目
HPV-DNAジェノタイプ(ハイリスク13 種)、HPV-DNA型別

備　考
ブラシの先端は容器に残さないで下さい。

X2 オブジェクトケース



添加剤・内容物

採取量・容量

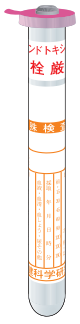
貯蔵方法
常温

有効期限

検査項目

備　考

Y (1→3)-β-D-グルカン検査専用採血管



添加剤・内容物

採血量
3mL

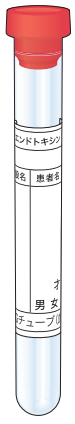
貯蔵方法
常温

有効期限
2 年

検査項目
(1→3)-β-D-グルカン

備　考
採血部位をよく消毒して採血し、栓を開けずに血液を注入
汚染を避けて冷蔵保存

Y2 エンドトキシン検査専用採血管



添加剤・内容物
ヘパリン Na

採血量
2mL

貯蔵方法
常温

有効期限
製造後 1 年

検査項目

備　考

▶直射日光、高温多湿を避けて下さい。

Z ビタミンC検査専用容器

添加剤・内容物
0.8N 過塩素酸 0.5mL

採取量・容量

貯蔵方法
冷蔵

有効期限
1年

検査項目
ビタミンC

備　考
採血後、直ちに血清分離し、正確に血清0.5mLを専用容器「Z」に加え、混和後、遠心分離し、その上清をポリスピッツ(遮光)にてご提出下さい。

イ 糞便検査汎用容器

添加剤・内容物

採取量・容量

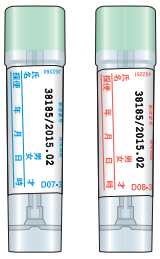
貯蔵方法
常温

有効期限
3年

検査項目
糞便一般検査

備　考
新鮮糞便を拇指頭大容器に取りしっかりフタを閉める。

ロ 糞便ヘモグロビン(潜血LA)検査専用容器



1日目　2日目

添加剤・内容物
保存液

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
ラベルに記載

検査項目
糞便ヘモグロビン(潜血LPIA)

備　考
1. 専用容器のラベルに必要事項を記入して下さい。
2. キャップを引き抜きキャップに付いている採便スティックで便の表面をまんべんなくこすり先端のらせん部分の溝が埋まる程度採取して下さい。
3. キャップを容器に差し込みしっかり閉めて下さい。(容器内の液を捨てないで採取して下さい)(冷蔵保存)

ニ 専用採便容器

添加剤・内容物

採取量・容量

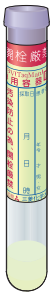
貯蔵方法
冷蔵

有効期限
18ヶ月

検査項目
ノロウイルス抗原〔BLEIA〕

備　考
1. 専用容器のラベルに必要事項を記入して下さい。
2. キャップを回転させて抜き取りキャップに付いている採便棒で便の表面を幅広くこするか、5~6ヶ所を突き刺して先端の溝が埋まるように糞便を採取して下さい。
3. キャップをしっかり締め、容器を縦に数回強く振って下さい。

ホ HIV-1RNA定量検査用採血管(血漿)



分離剤入り

添加剤・内容物
EDTA-2K

採血量
8mL

貯蔵方法
常温

有効期限
1年

検査項目
HIV-1RNA 定量

備　考
指定の採血量(8mL)を採取後、4～5回静かに転倒混和して下さい。
遠心機にて遠心(1,200G ± 400G、20分)したのち冷蔵保存して下さい。(凍結厳禁)
他の項目との重複依頼は受付できません。

ト ウイルス分離・同定検査用培養細胞試験管

添加剤・内容物
ウイルス専用保存液

採取量・容量

貯蔵方法
冷蔵

有効期限
6ヶ月

検査項目
ウイルス分離・同定

備　考
本文91頁参照

リ 病理組織検査容器

添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限

検査項目
病理組織・虫体検出

備　考
提出物の大きさに合う容器を選択し、指定の固定液で固定して提出して下さい。
容器には必ず医薬用外劇物の表示をして提出して下さい。

ヌ 滅菌採水容器

添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
容器に表示(製造日より3年)

検査項目
透析液細菌培養

備　考
採水方法で影響を受けやすく、不適になる場合があります。
容器に記載されている注意事項をよく読んで、正しく採水して下さい。

ワ PCR検査用滅菌喀痰容器

添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
3年

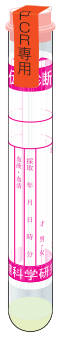
検査項目
TB-PCR、MAC DNA〔PCR〕

備　考
うがいをした後滅菌喀痰容器に痰出し、密栓後PCR専用シールにて封をし、冷蔵保存して下さい。

容器一覧

▶直射日光、高温多湿を避けて下さい。

カ リアルタイムPCR法専用採血管



分離剤入り 10mL 管

添加剤・内容物

採血量
8.0mL

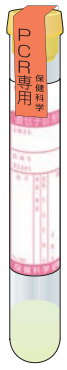
貯蔵方法
常温

有効期限
1 年

検査項目
HCV-RNA 定量ほか

備　考
直接採血後 4 ～ 5 回静かに転倒混和し常温にて 30 ～ 60 分放置して下さい。
凝固完了を確認後遠心器にて 10 ～ 15 分遠心し血餅を分離剤の下へ移行させ、分離を確認したのち専用容器のまま凍結保存して下さい。
他の項目との重複依頼は受付できません。

カ2 遺伝子検査専用採血管



添加剤・内容物

採血量
5.0mL

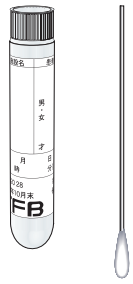
貯蔵方法
常温

有効期限
1 年

検査項目

備　考
直接採血後 4 ～ 5 回静かに転倒混和し常温にて 30 ～ 60 分放置して下さい。
凝固完了を確認後遠心器にて 10 ～ 15 分遠心し血餅を分離剤の下へ移行させ、分離を確認したのち専用容器のまま凍結保存して下さい。
他の項目との重複依頼は受付できません。

タ アデノウイルス抗原検査専用容器



添加剤・内容物
検体希釈液 0.5mL

採取量・容量

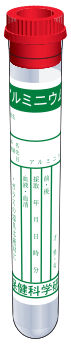
貯蔵方法
冷蔵（2 ～ 8℃）

有効期限
製造月日より 11 ヶ月

検査項目
アデノウイルス抗原

備　考
1. 角結膜上皮細胞の場合患眼に必要ならば表面麻酔剤を点眼して下さい。
2. 綿棒を袋から取り出し、患部をこすり、可能な限り多くの上皮を擦過して下さい。
3. 採取した綿棒をチューブに入れ、中の溶液につけ、よく抽出して下さい。
4. 綿棒の上 1cm 位のところで、軸をねじ切ってふたをして下さい。
5. チューブは冷蔵で保存して下さい。

ソ アルミニウム検査専用試験管



添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
3 年

検査項目
アルミニウム

備　考
2mL 採血そのまま冷蔵保存（ガラス器具は絶対使用しないで下さい。）

ネ アプロチニン入り EDTA 試験管

添加剤・内容物
EDTA-2Na・トラジロール（アプロチニン）

採血量
2mL

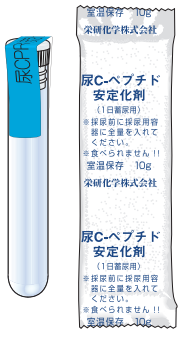
貯蔵方法
常温

有効期限
製造後 12 ヶ月

検査項目
HANP、副甲状腺ホルモン関連蛋白（PTHrP）、他

備　考
採血後静かに約10 回ほど転倒混和
（低温にて血漿分離、必ず凍結保存）
保存はポリ試験管使用

ナ 尿 C- ペプチド検査専用容器（尿 C- ペプチド安定化剤使用）



専用安定化剤

添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
3 年

検査項目
C- ペプチド（尿）

備　考
予め専用安定化剤を蓄尿容器に一袋全量（10g／袋 最終濃度約0.5%）を入れて24時間蓄尿を行って下さい。
尿量測定、混和、凍結用容器に「尿CPR安定化剤入り」のラベルを貼り、必要量提出（尿量明記）（凍結保存）
■特長
1. 予めの安定化剤添加により、常温蓄尿が可能
2. 蓄尿サンプルで他項目の検査依頼は不可

オ 金属分析用容器

添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法
冷蔵

有効期限

検査項目
マンガン、ニッケル

備　考

ク STDマルチプレックス検査擦過物専用容器

添加剤
TE 緩衝液・他

貯蔵方法
常温

有効期限
外装に記載

検査項目
STDマルチプレックスPCR《分泌物》、《咽頭》

備　考
検体の採取方法は164頁参照

ヤ2 透析液エンドトキシン採取管（HDチューブ）

添加剤・内容物
安定化剤

採取量・容量
4mL

貯蔵方法
冷蔵

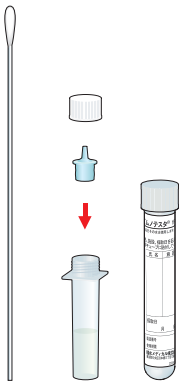
有効期限
ラベルに記載

検査項目

備　考

▶直射日光、高温多湿を避けて下さい。

マ2 癌胎児性フィブロネクチン検査専用容器



添加剤・内容物
保存液

採取量・容量

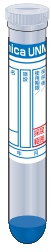
貯蔵方法
常温

有効期限
1 年

検査項目
癌胎児性フィブロネクチン

備　考
119 頁参照

フ 尿中NMP22検査専用容器



添加剤・内容物
牛血清アルブミン、糖類、抗菌剤、塩類、色素

採取量・容量

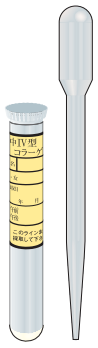
貯蔵方法
遮光・常温

有効期限
容器に表示

検査項目
尿中 NMP22

備　考
46 頁参照

コ 尿中Ⅳ型コラーゲン検査専用容器



添加剤・内容物
1.5M　Tris-HCl 0.5mL

採取量・容量

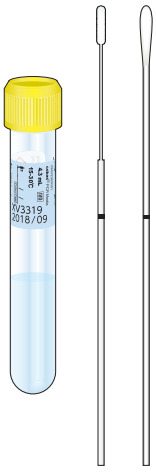
貯蔵方法
常温

有効期限
容器に表示

検査項目
尿中Ⅳ型コラーゲン

備　考
113 頁参照

エ1 淋菌・クラミジア(PCR)検査擦過細胞専用容器



添加剤・内容物
グアニジン塩酸塩

採取量・容量

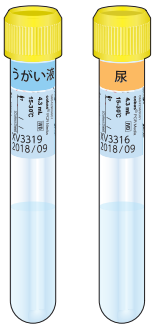
貯蔵方法
常温

有効期限
1 年

検査項目
クラミジア・トラコマチス DNA〔PCR〕、淋菌／クラミジア・トラコマチス DNA〔PCR〕、淋菌 DNA〔PCR〕

備　考
73 頁参照

エ2 淋菌・クラミジア(PCR)検査尿／うがい液専用容器



うがい液用　尿用

添加剤・内容物
グアニジン塩酸塩

採取量・容量

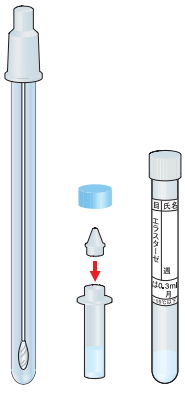
貯蔵方法
常温

有効期限
1 年

検査項目
クラミジア・トラコマチス DNA〔PCR〕、淋菌／クラミジア・トラコマチス DNA〔PCR〕、淋菌 DNA〔PCR〕

備　考
74 頁参照

テ 顆粒球エラスターゼ検査専用容器



添加剤・内容物
抽出液（リン酸バッファー）

採取量・容量

貯蔵方法
冷蔵

有効期限
容器に記載

検査項目
子宮頸管粘液顆粒球エラスターゼ

備　考
119 頁参照

ア ミオグロビン検査尿専用容器

添加剤・内容物
安定化剤

採取量・容量

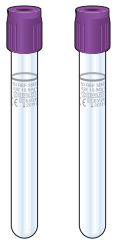
貯蔵方法
常温

有効期限
容器に表示

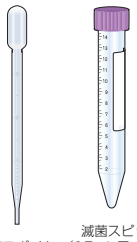
検査項目
ミオグロビン尿

備　考
採尿した尿を入れよく混和させ、4～6℃保存

サ EGFR遺伝子変異解析《血漿》検査専用容器



EDTA-2K真空採血管
（6mL用、2本）



滅菌スピッツ
滅菌スポイト （15mL用、2本）

添加剤・内容物

採取量・容量

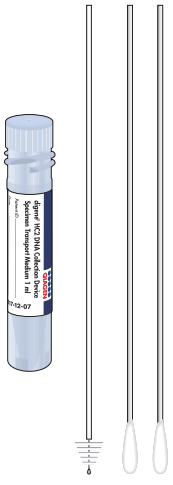
貯蔵方法
常温

有効期限

検査項目
EGFR遺伝子変異解析《血漿》

備　考

キ HPV DNA 検出(高リスク)検査専用容器



添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
容器に表示

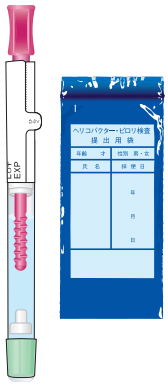
検査項目
HPV DNA 検出（高リスク）

備　考
妊婦中の女性には、ブラシタイプを使用せず、綿棒タイプをご使用下さい。

容器一覧

▶直射日光、高温多湿を避けて下さい。

メ ヘリコバクター・ピロリ抗原検査専用容器



添加剤・内容物

採取量・容量

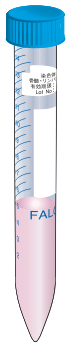
貯蔵方法
常温

有効期限
容器に表示

検査項目
ヘリコバクター・ピロリ抗原

備　考
61 頁参照

ミ 染色体・遺伝子検査専用容器



添加剤・内容物
RPMI-1640 他

採取量・容量

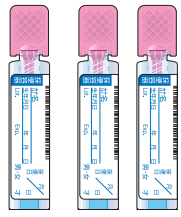
貯蔵方法
凍結

有効期限
（ラベルに記載）

検査項目
染色体・遺伝子検査

備　考
サンプルを無菌的に容器に入れ冷蔵保存して下さい。
採取当日に横浜メインラボに搬入されるようご手配下さい。

ヒ 糞便ヘモグロビン・トランスフェリン（潜血金コロイド）検査専用容器



1日法用　2日法用

添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法
常温

有効期限
1 年

検査項目
糞便ヘモグロビン・トランスフェリン（潜血金コロイド）

備　考
1. 採便スティックを回し、容器より抜く。
2. 採便スティックの溝が埋まる程度に便の表面をまんべんなくこすり取る。（取りすぎ、少なすぎは不可）
3. 容器に採便スティックを 1 回で差し込み、しっかり閉める。

モ 血小板関連 IgG(PA-IgG)検査専用採血管

添加剤・内容物
ACD-A 保存液入り

採取量・容量

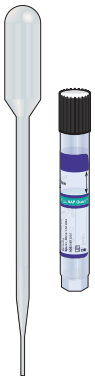
貯蔵方法
常温

有効期限
1 年
（アルミシート開封後 1 ヶ月）

検査項目
血小板関連 IgG（PA-IgG）

備　考
血液 7.5mL を入れ静かに約 10 回ほど転倒混和し、そのまま冷蔵保存して下さい。（凍結不可）
（注）末梢血の血小板が 3 万 / μL 以下の場合は、専用容器を 2 本使用し必ず 10mL 以上採血して下さい。

セ 淋菌／クラミジア・トラコマチス検査SDA法専用容器 男子初尿採取用



添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法
2℃～ 30℃

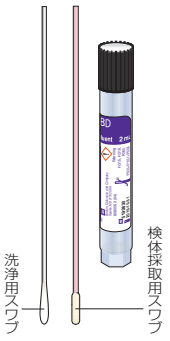
有効期限
個包装の側面に記載

検査項目

備　考
72 頁参照
（注）検体希釈液には、DMSO が含まれております。くれぐれも目に入らないように気をつけて下さい。万一、目に入ってしまった場合は、すみやかに多量の水で洗い流し、必要に応じて医師の診療を受けて下さい。皮膚についた場合も、すみやかに多量の水で洗浄して下さい。

ス1 淋菌／クラミジア・トラコマチス検査SDA法専用容器 擦過細胞採取用

子宮頸管擦過物用



添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法
2℃～ 30℃

有効期限
個包装の側面に記載

検査項目

備　考
72 頁参照
（注）検体希釈液には、DMSO が含まれております。くれぐれも目に入らないように気をつけて下さい。万一、目に入ってしまった場合は、すみやかに多量の水で洗い流し、必要に応じて医師の診療を受けて下さい。皮膚についた場合も、すみやかに多量の水で洗浄して下さい。

ス2 淋菌／クラミジア・トラコマチス検査SDA法専用容器 擦過細胞採取用

男子尿道検体用

添加剤・内容物

採取量・容量

貯蔵方法
2℃～ 30℃

有効期限
個包装の側面に記載

検査項目

備　考
72 頁参照
（注）検体希釈液には、DMSO が含まれております。くれぐれも目に入らないように気をつけて下さい。万一、目に入ってしまった場合は、すみやかに多量の水で洗い流し、必要に応じて医師の診療を受けて下さい。皮膚についた場合も、すみやかに多量の水で洗浄して下さい。

FL ヘパリンリチウム採血管

添加剤・内容物
ヘパリンリチウム

採取量・容量
6mL

貯蔵方法
冷蔵

有効期限
ラベルに記載

検査項目
結核菌特異的インターフェロン-γ産生能（QFTプラス）

備　考
採血後、静かに約10回ほど転倒混和
そのまま冷蔵保存

検査項目	期間
生化学的検査	
総蛋白（TP）	凍結１年間
アルブミン	凍結１年間
蛋白分画	凍結１月間
プレアルブミン（トランスサイレチン）	凍結６月間
フェリチン定量	凍結２月間
セルロプラスミン（CP）	凍結１年間
Ⅳ型コラーゲン7S	凍結２月間
α_1-マイクログロブリン	凍結１月間
β_2-マイクログロブリン	凍結１年間
心筋トロポニンT（TnT）	凍結３月間
血糖（グルコース）	凍結１年間
1,5-アンヒドロ-D-グルシトール（1,5-AG）	凍結１月間
HbA1c	冷蔵１週間
総コレステロール（T-Cho）	凍結１年間
LDL-コレステロール（LDL-C）	深凍結1月間
HDL-コレステロール（HDL-C）	凍結３月間
中性脂肪（TG）	凍結１月間
リン脂質（PL）	凍結１月間
遊離脂肪酸（FFA・NEFA）	凍結１月間
β-リポ蛋白	凍結６月間
総胆汁酸（TBA）	凍結１年間
尿素窒素（UN）	凍結６月間
クレアチニン	凍結６月間
シスタチンC	凍結１週間
クレアチン	凍結６月間
尿酸（UA）	凍結６月間
アンモニア	凍結１週間
総ビリルビン（T-Bil）	凍結1月間(遮光)
ハプトグロビン	凍結４月間
赤血球コプロポルフィリン	冷蔵１週間(遮光)
AST（GOT）	凍結４月間
ALT（GPT）	凍結１月間
アルカリホスファターゼ（ALP）	凍結６月間
酸ホスファターゼ（ACP）	凍結１週間
乳酸脱水素酵素（LD）	常温５日間
コリンエステラーゼ（ChE）	凍結６月間
γ-グルタミールトランスペプチダーゼ（γ-GT）	凍結６月間
ロイシンアミノペプチダーゼ（LAP）	凍結３月間
アルドラーゼ（ALD）	凍結２週間
クレアチンキナーゼ（CK）	凍結１月間
CK-MB	凍結４日間
アミラーゼ（AMY）	凍結１年間
リパーゼ	凍結６月間
アデノシンデアミナーゼ（ADA）	凍結１月間
グアナーゼ（GU）	凍結10月間
リゾチーム	冷蔵１週間
アンギオテンシンⅠ転換酵素（ACE）	凍結１月間
トリプシン	凍結６月間
BAP（骨型アルカリホスファターゼ）	深凍結2月間
totalPⅠNP（Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド）	凍結６月間
LDアイソザイム	室温５日間
アミラーゼアイソザイム	凍結１年間
CKアイソザイム	凍結６月間
乳酸	凍結１月間
ピルビン酸	凍結１月間
ナトリウム（Na）	凍結１年間
クロール（Cl）	凍結１年間
カリウム（K）	凍結１年間
カルシウム（Ca）	凍結１年間
マグネシウム（Mg）	凍結１年間
無機燐（P）	凍結１月間
鉄（Fe）	凍結６月間
総鉄結合能（TIBC）	凍結６月間
不飽和鉄結合能（UIBC）	凍結６月間
銅（Cu）	凍結６月間
亜鉛（Zn）	凍結１年間
総三塩化物（TTC）	凍結１月間
三塩化（トリクロル）酢酸（TCA）	凍結１月間
マンデル酸（MA）	凍結１月間
馬尿酸（HA）	凍結１月間
メチル馬尿酸（MHA）	凍結１月間
δ-アミノレブリン酸定量（δ-ALA）	冷蔵１週間
N-メチルホルムアミド	凍結１月間
2,5-ヘキサンジオン	凍結１月間
ビタミンA（レチノール）	冷蔵1週間(遮光)
レチノール結合蛋白（RBP）	凍結１年間
ビタミンB_1（チアミン）	凍結10日間(遮光)
ビタミンB_2（リボフラビン）	冷蔵1週間(遮光)
ビタミンB_6	冷蔵1週間(遮光)
ビタミンB_{12}	凍結３月間
葉酸	凍結１月間
ビタミンC（アスコルビン酸）	凍結２週間
アミノ酸分析定量（尿）	凍結３月間
クレアチニンクリアランス	凍結６月間
内分泌学的検査	
成長ホルモン（GH）	凍結６月間
甲状腺刺激ホルモン（TSH）	凍結６月間
黄体形成ホルモン（LH）	凍結６月間
卵胞刺激ホルモン（FSH）	凍結６月間
副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）	凍結45日間
プロラクチン（PRL）	凍結３月間
トリヨードサイロニン（T_3）	凍結６月間
遊離トリヨードサイロニン（F-T3）	凍結１月間
サイロキシン（T_4）	凍結６月間
遊離サイロキシン（F-T_4）	凍結１月間
サイロキシン結合蛋白（TBG）	凍結３月間
サイログロブリン（Tg）	凍結３月間
カルシトニン	凍結３週間
副甲状腺ホルモン（高感度）（HS-PTH）	凍結３月間
副甲状腺ホルモン（PTH-Intact）	凍結６月間
インスリン（IRI）	凍結６月間
C-ペプチド（CPR）	凍結３月間
ガストリン	凍結２週間
カテコールアミン分画（尿）	凍結1月間(PH＜3)
5-ハイドロキシインドール酢酸（5-HIAA）（尿）	凍結1月間(PH＜3)
ホモバニリン酸（HVA）（尿）	凍結3週間(遮光)
バニールマンデル酸（VMA）（尿）	凍結1月間(PH＜3)
11-ハイドロキシコルチコステロイド（11-OHCS）	凍結１月間
コルチゾール	凍結６月間
アルドステロン（血清、血漿）	凍結１年間
エストラジオール（E_2）（血清）	凍結６月間
プロゲステロン	凍結１月間
テストステロン（血清）	凍結２月間
ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量（血清）	凍結１年間
セロトニン（全血）	凍結15日間
アンギオテンシンⅠ	凍結15日間
アンギオテンシンⅡ	凍結15日間
レニン活性	凍結２月間
HANP（ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド）	凍結２月間
BNP（ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド）	凍結２月間
NT-proBNP（ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント）	凍結１月間
エリスロポエチン	凍結10日間
低カルボキシル化オステオカルシン（ucOC）	凍結３週間
腫瘍マーカー	
α-フェトプロテイン（α-FP）定量	凍結１年間
癌胎児性抗原（CEA）	凍結１年間
NCC-ST-439	凍結１月間
CA19-9	凍結長期間
CA15-3	凍結２月間
CA125	凍結１年間
BCA225	凍結１月間
SLX（シアリルLe^x-i）	凍結２月間
CA72-4	凍結３月間
シフラ（CYFRA21-1）（サイトケラチン19フラグメント）	凍結６月間
エラスターゼ1	凍結６月間
前立腺特異抗原（PSA）	凍結長期間
NSE（神経特異エノラーゼ）	凍結２年間
α_1-酸性糖蛋白（α_1-AGP）	凍結１月間
NTX（Ⅰ型コラーゲンCテロペプチド）（尿）	凍結１年間
TRACP-5b定量	凍結１月間
抗p53抗体	凍結７日間
免疫学的検査	
RPR法定量	凍結１年間
TPHA定量	凍結１年間
FTA-ABS定量	凍結６月間
抗ストレプトリジンO価	凍結４月間
マイコプラズマ抗体半定量（PA）	凍結６月間
百日咳菌抗体	凍結１月間
プロカルシトニン定量（PCT）	凍結３月間
エンドトキシン	深凍結1月間
(1→3)-β-D-グルカン	深凍結1月間
肺炎球菌莢膜抗原定性（尿）	凍結２週間
肺炎球菌莢膜抗原定性（髄液）	凍結１週間
RF（リウマチ因子）定量	凍結４月間
抗CCP抗体定量	凍結１月間
抗ガラクトース欠損IgG抗体	凍結１年間
MMP-3	凍結１年間
抗サイログロブリン抗体（抗Tg抗体）	凍結１年間
抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体（抗TPO抗体）	凍結１月間
TSHレセプター抗体（第3世代）	凍結１月間
IgG	凍結１月間
IgA	凍結１月間
IgM	凍結１月間
補体蛋白C_3（β_1C/β_1Aグロブリン）	凍結１月間
補体蛋白C_4（β_1Eグロブリン）	凍結１月間
C_1q	凍結３週間
血清補体価（CH_{50}）	凍結２月間
C反応性蛋白定量（CRP定量）	凍結４月間
トランスフェリン	凍結１月間
TARC	凍結１月間
HBs抗原	凍結１年間
HBs抗体	凍結１年間
血液学的検査	
白血球数（WBC）	冷蔵１日間
赤血球数（RBC）	冷蔵１日間
血色素量（Hb）	冷蔵１日間
ヘマトクリット値（Ht）	冷蔵１日間
血小板数（PLT）	冷蔵１日間
浸透圧	凍結１週間
血小板第4因子	凍結１月間
β-トロンボグロブリン（β-TG）	凍結１年間
薬物検査	
フェノバルビタール	凍結３月間
フェニトイン	凍結３月間
カルバマゼピン	凍結３月間
バルプロ酸	凍結１月間
クロナゼパム	凍結３月間
ゾニサミド	凍結３月間
ニトラゼパム	凍結３月間
ハロペリドール	凍結２週間
ブロムペリドール	凍結３月間
ジゴキシン	凍結６月間
塩酸ピルジカイニド	凍結６月間
メキシレチン	凍結６月間
バンコマイシン	凍結長期間
シクロスポリン（免疫抑制剤）	凍結長期間
タクロリムス（免疫抑制剤）	凍結６月間
テオフィリン	凍結３月間
尿・糞便検査	
尿浸透圧	凍結６月間
蛋白定量	凍結６月間
尿NAG	凍結１月間
デルタアミノレブリン酸定量	冷蔵１週間

検査方法の概略

BLEIA法：生物化学発光免疫測定法

Bioluminescent Enzyme Immunoassay

生物発光の一種であるホタルルシフェラーゼ発光を検出原理とした、高感度な検査方法。ホタルルシフェラーゼによる生物発光法は、従来のELISA法やイムノクロマト法の化学発光法と比較して感度が数倍から数十倍高く、PCR法と同等の高感度な方法である。

CF法：補体結合反応

Complement Fixation Test

抗原抗体複合物に結合し、しかも抗体と協同で溶血反応を引き起こすという補体の性質を応用した抗体価の測定法である。補体の存在下で検体中の抗体に抗原を作用させると、抗原抗体複合物ができ補体はそれに結合してしまう（第1相）。続いて抗体の一種である溶血素を結合させたヒツジ赤血球（感作赤血球）を加えても、補体はすでに消費されているため溶血は起こらない（第2相）。検体中に抗体がないときは、抗原と補体を作用させても抗原抗体複合物ができないため補体は消費されず、感作赤血球を加えると溶血が起こることになる。すなわち、補体結合反応では溶血が起これば陰性、起こらなければ陽性である。

CLEIA法：化学発光酵素免疫測定法

Chemiluminescent Enzyme Immunoassay

抗原抗体反応を利用し、標識物質として酵素を使い、その活性測定に化学発光反応を用いている。原理的にはEIA法と同様であるが、最終段階の酵素反応が呈色反応ではなく化学発光反応である点が異なっている。CLEIA法の代表的な測定手法としては、磁性粒子に結合した抗体と標識抗体で抗原をサンドイッチする方法である。

CLIA法：化学発光免疫測定法

Chemiluminescent Immunoassay

免疫反応を使用したイムノアッセイで、標識体にアクリジニウムエステルを用いている。アクリジニウムエステルは、酵素標識法で利用されている酵素に比べて分子が非常に小さく、また量子収率が0.12との非常に高いため、この様な化学発光物質を標識体として使用することにより、薬物のような低分子からホルモンなどの高分子（タンパク質、核酸、抗体、細胞、ウイルス、ほか）まで測定対象を広げた、より高感度に測定を可能にする方法である。

ELISPOT法

Enzyme - Linked ImmunoSpot

特定のサイトカインを産生する細胞をスポット（点）として可視化し、サイトカイン産生細胞数を測定する方法。単一細胞レベルで分泌されたサイトカインを検出できる、非常に高感度なイムノアッセイ。

FA法：蛍光抗体法

Fluorecent Antibody Method

蛍光色素を標識した一次抗体、二次抗体と反応させて、蛍光顕微鏡下で特異的蛍光を観察する方法である。バックグラウンドが暗黒に近いため、検出感度が他の観察法に比べ高く、抗原量と蛍光量との相関も比較的よく定量性に優れている。

FISH法

Fluorecent In Situ Hybridization

蛍光色素標識のクローン化DNA断片をプローブとし、標本上の染色体DNAとの分子雑種を形成させることにより、プローブと相補性のある染色体上の特定部位を、蛍光シグナルとして検出する方法。

GC法：ガスクロマトグラフィー法

Gas Chromatography

適当な充填剤をつめた数メートル以上の細管に気体試料または気化した液体試料を不活性な気体とともに通過させると、充填剤に対する吸着性・溶解性の差異によって各成分ガスの通過速度に差が出る。これを利用して試料の成分ガスを分離し、定性と定量とを行う方法。

HA法：赤血球凝集反応

Hemagglutination Test

赤血球の表面に存在する抗原と検体中の抗体とを反応させ、抗原抗体反応により起こる赤血球の凝集の有無により抗体を検出する。

HI法：赤血球凝集抑制反応

Hemagglutination Inhibition Test

ウイルス抗体価測定法の一つ、ある種のウイルス（インフルエンザ、アデノ、ムンプス、麻疹、風疹、日本脳炎など）は赤血球凝集能を有しているが、検体中にそれぞれのウイルスに対する抗体があれば凝集反応は特異的に抑制されるということを応用したものである。一般に補体結合反応（CF）より感度は高く、早期診断に有用であるが、赤血球凝集能を有するウイルスしか検査できず、ウイルスごとに使用する赤血球が異なり煩雑な面もある。

HPLC法：高速液体クロマトグラフィー法

High Performance Liquid Chromatography

疎水基あるいは陽イオン交換基をもった硬質ゲルや親水基をもったシリカゲルを高密度に充填したカラムと、高圧ポンプで液体の移動相を用い、高速、高精度の分離を可能とした液体クロマトグラフィーで、超微量分析に適している。

IFA法：間接蛍光抗体法

Indirect Fluorescent Antibody Technique

抗原を固定したスライドグラス上に検体を添加し、抗原・抗体反応（一次反応）をさせる。洗浄後、FITC標識抗体を添加して反応（二次反応）させ、抗原・抗体・FITC標識抗体の複合物を形成させる。FITCの蛍光を蛍光顕微鏡で観察する。

LAMP法：ループ介在等温増幅法

Loop-Mediated Isothermal Amplification

標的遺伝子の6つの領域に対して4種類のプライマーを設定し、鎖置換反応を利用して一定温度で反応させることを特徴とする。サンプルとなる遺伝子、プライマー、鎖置換型DNA合成酵素、基質等を混合し、一定温度（65℃付近）で保温することによって反応が進み、検出までの工程を１ステップで行うことができる。DNAを15分～1時間で10^9～10^{10}倍に増幅することができるため、簡易検出（スクリーニング）に適する。

LA法：ラテックス凝集比濁法

Latex Agglutination Immunoassay

希薄溶液においてラテックスに抗体（又は抗原）を結合させ、抗原抗体反応を起こさせてその生成物による濁度を吸光度としてとらえ、測定する方法である。現在、白色光を用いる方法（LA法）と近赤外光を用いる方法（LPIA法）が実用化されている。このほか、いわゆる免疫比濁法ではないがラテックス粒子を用いた測定法として粒子凝集法（PA法）や粒子カウンティング法（PAMIA法）や積分球濁度方式による測定法などが開発されている。

LIA 法：ラインブロット法

Line Immunoassay

抗原を機械的にメンブレン上に点着し、抗原に対する特異的抗体を反応させたあと、酵素で標識した抗体を 2 次反応させ、抗体の検出を行う方法。反応後に出現するラインの有無および強度により判定する。

LC-MS/MS法：液体クロマトグラフィータンデム質量分析法

Liquid Chromatography - Tandem Mass Spectrometry

液体クロマトグラフ(LC)により分離した分析対象成分を専用のインターフェース(イオン源)を介してイオン化し、生成するイオンを質量分析計(MS)で分離して特定の質量イオンを解離・フラグメント化させ、それらのイオンを質量分析計で検出する分析方法。

MO法：二重免疫拡散法

Micro Ouchterlony

ゲル平板内で抗原と検体を拡散させ、抗原抗体反応が起きると沈降線を生じる。沈降線により抗体を検出同定でき、同一抗原に対する2種の抗体の沈降線の形態から、抗体の特異性を知ることが可能。

NT法：中和反応

Neutrazation Test

ウイルス粒子に抗体が付着すると、そのウイルス粒子の感染性が失われることを利用した抗体の測定法である。既知抗体を用いて分離ウイルスの同定にも利用される。最も特異性が高く、感度もよい血清学的検査法である。多くの場合、培養細胞における細胞変性(CPE)の有無を指標にして抗体の有無を判定するが、CPEの代わりにプラーク形成を指標にすることもあり、又、培養細胞の代わりに実験動物、発育鶏卵を用いることもある。

PCR法

Polymerase Chain Reaction

DNAの特定の領域を増幅する技術。DNAを加熱して2重鎖から1重鎖に解離させ、これを冷却する過程で2本のDNA鎖のそれぞれ特定の領域に相補的なプライマーを結合させる。これをDNAポリメラーゼの伸長反応でプライマーの下流のDNA配列を合成させる。これを繰り返すことで特定のDNA領域を増幅することができる。

PHA法：受身赤血球凝集反応

Passive Hemagglutination Test

動物赤血球表面に目的とする抗体に対する抗原を感作させた感作赤血球に試料を加えると、試料中の抗体と抗原抗体反応が起こり、赤血球の凝集が認められる。この凝集の有無で抗体の存在を判定する

RIA法：放射免疫測定法

Radioimmunoassay

抗原抗体反応を利用し、RI(放射性同位元素)を標識物質として微量物質の濃度を測定する方法である。抗体の一定量に対して、RI 標識抗原の一定量と非標識抗原とをインキュベートして競合的に結合させると、標識抗原のうち抗体とくっついた結合型 bound(B)は非標識抗原の量が多くなるほど少なくなり、抗体と結合していない遊離型 free(F)が増える。したがって、予め既知量の非標識抗原を用いて標準曲線(standard curve)を作成しておけば、未知検体を測定したときのB又はFのRIカウントより未知の抗原濃度を知ることができる。又、BとFの分離方法として、固相法(ビーズ法、チューブ法、ディスク法など)、2抗体法、DCC(dextran coated charcoal)法、PEG(polyethleneglycol)法、DAPS(double antibody precipitin suspension)法などがある。なお、RIAにおける抗体の代わりに、目的とする物質の特異的結合蛋白、たとえば、T4測定時ならTBG(サイロキシン結合グロブリン)を用いる方法をCPBA(competitive protein binding assay)とよび、抗体の代わりにレセプター(受容体)を用いる方法をラジオレセプターアッセイ(radio receptor assay：RRA)とよぶ。

RPLA法：逆受身ラテックス凝集反応法

Reversed Passive Latex Agglutination Test

検出目的の抗原に対応する抗体をラテックス粒子に吸着させさせたものと試料を反応させると、試料中の抗体と抗原抗体反応が起こり、ラテックスの凝集が認められる。この凝集の有無で抗体の存在を判定する。

RT-PCR法

Reverse Transcription Polymerase Chain Reaction

RNAはDNAの様に直接PCRによって増幅することができない。一度RNAを逆転写反応によってcDNA(相補的DNA：complementary DNA)に変換し、これをPCRによって増幅する技術。

SDA法

Strand Displacement Amplification

DNAを鋳型として、DNAポリメラーゼと制限酵素を用いて行う核酸増幅法。これらの酵素が等温条件下で反応し、鎖置換型の核酸増幅産物を生じる。目的増幅産物の検出は、2種類の蛍光物質で修飾したステムループ状のプローブを用いて、増幅と同時に行う。

TIA法：免疫比濁法

Turbidimetric Immunoassay

被検検体中の目的物質に対する抗原もしくは抗体を加えると抗原抗体反応による混濁が生じる。この濁度を標準物質により作成された検量線により濃度を求める。

UV法：紫外吸収スペクトル法

Ultraviolet Absorption Spectrophotometry

試料に紫外単色光を照射し、各波長での吸光度より得られた紫外部吸収スペクトルを用いて、定性や定量を行う方法、通常200～400nmの近紫外線の波長が最もよく用いられる。

WB法：ウェスタンブロット法

Western Blot Method

電気泳動法により蛋白質混合物を分離し、これらの蛋白質を蛋白質と高い結合能のある膜上に転写する。調べようとする蛋白質に特異抗体(一次抗体)を反応させたのち、二次抗体を作用させ、結合した二次抗体を検出する方法。二次抗体の検出には、酵素を結合させて基質を発色させる方法や^{125}Ⅰ標識プロテインA等が用いられる。DNAを電気泳動後検出するサザンブロット法、mRNAを検出するノーザンブロット法との類似性から蛋白質を検出する方法をウェスタンブロット法と呼ぶ。

検査方法の概略

イオン電極法
Ion Electrode Method

目的とするイオンに選択的に反応するイオン選択電極(イオンセンサー)と比較電極とを試料中に挿入して、両電極間に生じる電位差によりイオン濃度を測定する。臨床化学分析では、体液電解質の測定が行われており、これらの測定に用いられている電極は、ナトリウムではガラス電極、カリウムではニュートラルキャリアー含有液膜電極、クロールでは個体膜型電極などである。

酵素法
Enzymatic Method

酵素反応を利用して目的とする物質を定量する方法で、終点測定法(end point assay)と初速度測定法(rate assay)とがある。終点測定法は、酵素反応が平衡状態に達した時点、すなわち単位時間当たりの基質の減少または生成物の増加などを測定する方法である。

酵素免疫測定法
Enzyme Immunoassay(EIA)
Enzym-linked Immunosorbent Assay(ELISA)
Fluorescence Enzymes Immunoassay(FEIA)
Enzyme Multiplied Immunoassay Technique(EMIT)

抗原抗体反応を利用し、酵素を標識物質として目的とする物質を測定する方法または発蛍性の基質を用いるEIA法(FEIA法)で、酵素によって分解される基質又は生成物より酵素活性を測り、間接的に測定値を求めるものであり、原理的には競合反応を用いる方法と用いない方法とがある。前者では、抗体の一定量に対して酵素標識抗原の一定量と未知検体中の非標識抗原とを競合させた後、抗原抗体結合物の酵素活性を測り、既知濃度の標準抗原を用いて、得られた標準曲線から非標準抗原濃度を求める。後者では固相化抗体に未知検体中の抗原を結合させ、さらに酵素標識抗体を結合させてその酵素活性を測ったり、酵素標識抗体に検体中の抗原を結合させ、余分の標識抗体を除去した後に酵素活性を測る方法などがある。

電気泳動法
Electrophoresis

溶液中で荷電したコロイド粒子に直流電圧を加えると、正に荷電した粒子は陰極に、負に荷電した粒子は陽極へ移動するが、この現象を利用して物質の分離精製や均一性の測定を行うのが電気泳動法である。荷電した粒子の移動速度(易動度)は、粒子の荷電の強弱・粒子の大きさや形状・溶媒中の電解質の種類・イオン強度・pH・電圧など多くの因子に左右される。又、電気泳動法は、移動界面電気泳動法(Tiseliusの電気泳動法)と支持体電気泳動法(ゾーン電気泳動法：zone electrophoresis)とに大別される。前者は、U字管内で試料中の荷電粒子が緩衝液中を移動する際の境界面を光学的に分析するものであり、後者は、沪紙・セルロースアセテート・寒天・デンプン・ポリアクリルアミドゲルなどを支持体とし、その上に試料をつけて電圧をかけることにより試料中の物質を移動させ、染色して定量するものである。

発色性合成基質法

ヘパリンを加えてAT-Ⅲ-ヘパリン複合体を形成させ、そのトロンビン不活化能をトロンビンに対する発色性合成基質を用いて測定する方法。

比色法
Colorimetry

溶液の色の濃さを標準液の色の濃さと比較して溶液濃度を求める方法で、最も簡単な方法は肉眼で比較する方法である。しかし、通常は、溶液の吸光度はその濃度と液層の幅に比例するというランベルト-ベーアの法則(Lambert-Beer law)に基づき、光電光度計を用いて試料溶液の吸光度を測定し、標準液の吸光度と比較することによって測定値を求める。溶液が無色の場合は、発色試薬を加えるか、目にみえない紫外線や赤外線の吸収を調べる。

比濁法
Turbidimetry

抗原抗体反応溶液に光を入射させ、透過する光の強さを測定する方法を比濁法(turbidimetry)とよび、標準抗原と抗体の反応液の透過光の強さ、又は散乱強度から作成した検量線を用いることにより、未知検体中の抗原の定量が可能となる。

比朧法：ネフェロメトリー法
Nephelometry

沈降物によって散乱した光の強さを入射光と直角の方向から測定する方法は比朧法(ネフェロメトリー:nephelometry)とよばれる。これらの方法では、標準抗原と抗体の反応液の透過光の強さ、又は散乱強度から作成した検量線を用いることにより、未知検体中の抗原の定量が可能となる。なお、最近では光の特性の優れた(直進性が良くエネルギーが高い)レーザー光線を光源としたレーザーネフェロメトリーが行われている。

フローサイトメトリー法
Flow Cytometry

細胞浮遊液を高速度で流し、レーザー光を照射して、前方散乱光と測方散乱光を検出する。前方散乱光の強さは細胞の大きさ、測方散乱光は細胞内構造を反映する。得られた情報をコンピュータで処理し、個々の細胞を解析する。

リアルタイム PCR
Real Time Polymerase Chain Reaction

PCRの増幅をリアルタイムに測定する方法。TaqMan法では蛍光色素を標識したオリゴヌクレオチドを用いる。このオリゴヌクレオチドは伸長反応の過程で分解され、蛍光強度が増加する性質を持つ。PCRサイクル毎に蛍光強度を測定することでDNAの増幅を測定し、また、特定のDNA配列を特異的に定量することができる。

原子吸光法
Atomic Absorption Method

原子の吸光現象を利用した測定法、試料に熱エネルギーを加え、分子間の結合や原子間の結合を切断し、バラバラの遊離原子にすると、ガス状になる。これに可視光線や紫外線を通過させると、基底状態の原子が、その原子固有の波長の光を吸収し励起状態になる。したがって、そのときの吸光度を測定すれば、試料中の目的とする元素の濃度を求めることができる。

参考文献

1. 河合忠、水島裕：今日の臨床検査，南江堂，1990.
2. 臨床検査医学事典編集委員会：臨床検査医学事典，朝倉書店，1987.
3. 試薬製造元資料

頁	項目	文献名
1	総蛋白（TP）	A.G.Gornall, et al.：Biol.Chem., 177：751, 1949
1	アルブミン	村本　良三，他：臨床化学　26：38-43, 1997
1	蛋白分画	セパラックス SP（泳動膜）パンフレット
1	A/G比	浅井　孝道：検査と技術　7：815, 1979
1	フェリチン定量	田口　隆由，他：医療と検査機器・試薬　26（4）：305, 2003
1	プレアルブミン（トランスサイレチン）	古田島伸雄，他：JJCLA　32（1）：84, 2007
1	セルロプラスミン（CP）	飯村　康夫，他：日本臨床　42（春季増刊号）：1209, 1984
1	プロコラーゲン-Ⅲ-ペプチド（P-Ⅲ-P）	北原　志穂，他：医学と薬学　72（9）：1579～1590, 2015.
1	Ⅳ型コラーゲン 7S	長田　篤雄，他：医学と薬学　20（6）：1507, 1988
1	Ⅳ型コラーゲン	試薬添付文書
2	肝細胞増殖因子（HGF）	杉原　潤一，他：新薬と臨床　41（9）：180, 1992
2	α_1-マイクログロブリン（α_1-MG）（血清）	徳山昌司郎：医学と薬学　39：835, 1998
2	α_1-マイクログロブリン（α_1-MG）（尿）	徳山昌司郎：医学と薬学　39：835, 1998
2	β_2-マイクログロブリン（β_2-MG）（血清）	望月　照次，他：臨床検査機器・試薬　8（5）：1244, 1985
2	β_2-マイクログロブリン（β_2-MG）（尿）	望月　照次，他：臨床検査機器・試薬　8（5）：1244, 1985
2	ミオグロビン定量	試薬添付文書
2	ミオグロビン定量（尿）	吉川　文雄，他：医学と薬学　37（5）：1255, 1997
2	H-FABP定量（ヒト心臓由来脂肪酸結合蛋白）	藤田　孝，他：機器・試薬　33（5）：629, 2010
2	心室筋ミオシン軽鎖Ⅰ	宮崎　修一，他：医学と薬学　52（3）：443, 2004
2	心筋トロポニンT（TnT）	荒井　信之，他：医療と検査機器・試薬　32（2）：269, 2009
3	血糖（グルコース）	H.U.Bergmeyer, ed：Methods of Enzymatic Analysis, Academic Press, New York and London：117, 1963
3	グリコアルブミン（GA）	藤田　知代，他：医学と薬学　47（1）：141, 2002
3	1,5-アンヒドロ-D-グルシトール（1,5-AG）	森脇　貴美，他：臨床検査機器・試薬　24（2）：139, 2001
3	HbA1c（NGSP）	藤本　一満，他：機器・試薬　36（4）：525, 2013
3	総コレステロール（T-Cho）	Allain,C.C., et al.：Clin. Chem. 20：470, 1974
3	LDL-コレステロール（LDL-C）	井上　郁夫，他：医学と薬学　69（1）：163, 2013
3	HDL-コレステロール（HDL-C）	田中　忍，他：医学検査　58（5）：402, 2009
3	コレステロール分画	試薬添付文書
4	尿中硫酸抱合型胆汁酸（USBA）	山根　寛，他：神大医保健紀要　第13号：1, 1997
4	レムナント様リポ蛋白コレステロール（RLP-C）	滝野　豊，他：医学と薬学　56（2）：269, 2006
4	遊離コレステロール（F-Cho）	Allain, C.C., et al.：Clin. Chem. 20：470, 1974
4	中性脂肪（TG）	松宮　和人：Medical Technology 11（12）：1201, 1983
4	総脂質（TL）	Cheek, C.S., et al.：Clin. Chem. 15（2）：102, 1969
4	リン脂質（PL）	仁科　甫啓：検査と技術　15（4）：333, 1987
4	遊離脂肪酸（FFA・NEFA）	Shimizu.S., et al.：Anal Biochem 98：341, 1979
4	β-リポ蛋白（β-LP）	柴田　進：臨床化学診断法　金芳堂，1965
4	リポ蛋白分画	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　32：548, 2009
4	リポ蛋白分画〔PAGディスク電気泳動法〕	熊坂　一成，他：Medical Technology　別冊　1：137, 1991
5	アポリポ蛋白　A-Ⅰ	藤田　誠一，他：臨床検査　29：1401, 1985
5	アポリポ蛋白　A-Ⅱ	藤田　誠一，他：臨床検査　29：1401, 1985
5	アポリポ蛋白　B	藤田　誠一，他：臨床検査　29：1401, 1985
5	アポリポ蛋白　C-Ⅱ	藤田　誠一，他：臨床検査　29：1401, 1985
5	アポリポ蛋白　C-Ⅲ	藤田　誠一，他：臨床検査　29：1401, 1985
5	アポリポ蛋白　E	藤田　誠一，他：臨床検査　29：1401, 1985
5	リポ蛋白(a)〔LP(a)〕	吉岡　成人，他：ホルモンと臨床　41：1119, 1993
5	総胆汁酸（TBA）	吉田　雅明，他：臨床検査機器・試薬　17（2）：335, 1994
5	グリココール酸（CG）	金森　勇雄，他：日本放射線技師会雑誌　26（4）：17, 1978
6	尿素窒素（UN）（血清）	太田　抜徳，他：臨床病理　21（補冊）：303, 1973
6	尿素窒素（UN）（蓄尿）	太田　抜徳，他：臨床病理　21（補冊）：303, 1973
6	クレアチニン（血清）	大澤　進：Medical Technology 26（4）：389, 1998
6	クレアチニン（蓄尿）	大澤　進：Medical Technology 26（4）：389, 1998
6	シスタチンC	平田　昭彦，他：日本臨床　60巻　増刊号8：519, 2002
6	クレアチン（血清）	今野　稔：Medical Technology 12：270, 1984
6	クレアチン（蓄尿）	今野　稔：Medical Technology 12：270, 1984
6	尿酸（UA）（血清）	岩田　一郎，他：臨床検査　20：941, 1976
6	尿酸（UA）（蓄尿）	岩田　一郎，他：臨床検査　20：941, 1976
7	アンモニア（NH_3）	美崎　英生：検査と技術　27（8）：973, 1999
7	総ビリルビン（T-BiL）	徳田　邦明，他：臨床化学　22：116, 1993
7	直接ビリルビン（D-BiL）	徳田　邦明，他：臨床化学　22：116, 1993
7	ハプトグロビン（型判定含む）	櫻林郁之介，他：臨症病理　53（特集号）：71, 1983
7	ハプトグロビン（型判定なし）	加野象次郎，他：Medical Technology 7（13）：1345, 1979
7	赤血球コプロポルフィリン	M.Salmi：Clin.Chem. 26（3）：1832, 1980
8	赤血球遊離プロトポルフィリン	新沼　幸子，他：産業医学　23：254, 1981
8	アスパラギン酸アミノトランスフェラーゼ（AST）（GOT）	日本臨床化学会：臨床化学　18（4）：226, 1989
8	アラニンアミノトランスフェラーゼ（ALT）（GPT）	日本臨床化学会：臨床化学　18（4）：250, 1989
8	アルカリホスファターゼ（ALP）	日本臨床化学会：臨床化学　19（2）：209, 1990
8	乳酸脱水素酵素（LD）	日本臨床化学会：臨床化学　19（2）：228, 1990
8	コリンエステラーゼ（ChE）	高木　康：総合臨床　27：2392, 1978
8	γ-グルタミルトランスペプチダーゼ（γ-GT）	日本臨床化学会：臨床化学　24：106, 1995
9	ロイシンアミノペプチダーゼ（LAP）	Recommendations of the German Society for Clinical Chemistry：Z.Klin.Chem.Klin.Biochem., 10：280, 1972
9	アルドラーゼ（ALD）	三浦　雅一，他：臨床検査機器・試薬　12（5）：1005, 1989
9	クレアチンキナーゼ（CK）	日本臨床化学会：臨床化学　19（2）：184, 1990
9	CK-MB	初山　弘幸，他：医学と薬学　29（3）：675, 1993
9	アミラーゼ（AMY）（血清）	白井　秀明：医学と薬学　59（6）：1093, 2008
9	アミラーゼ（AMY）（尿）	白井　秀明：医学と薬学　59（6）：1093, 2008
9	膵アミラーゼ（P-AMY）	野村　博，他：臨床検査機器・試薬　19（1）：27, 1996
9	リパーゼ	引地　篤，飯塚　直美：生物試料分析　40（5）：255, 2017
9	リポ蛋白リパーゼ（LPL）	Kobayashi.H. et al.：Clin. Chim. Acta 216：113, 1993
10	アデノシンデアミナーゼ（ADA）	江頭　静摩，他：現代の診療　24（4）：131, 1982
10	グアナーゼ（GU）	手登根　稔，他：検査と技術13（10）：901, 1985
10	リゾチーム（血清）	北村　元仕，他：実践臨床化学　医歯薬出版：432, 1983
10	リゾチーム（尿）	北村　元仕，他：実践臨床化学　医歯薬出版：432, 1983
10	ミトコンドリアAST（m-AST）	白波瀬泰史，他：第７回日本臨床化学会分析部会関東支部学術集会　講演会抄録集：40, 1989
10	アンギオテンシンⅠ転換酵素（ACE）	山下寿美子，他：臨床検査機器・試薬　10（1）：71, 1987
10	トリプシン	河野　幹彦，他：医学と薬学　53（5）：635, 2005
11	膵ホスホリパーゼ A_2（PLA_2）	上田　章，他：臨床病理　37（5）：561, 1989
11	ペプシノゲンⅠ・Ⅱ（PGⅠ・Ⅱ）	三木　一正：医学と薬学　49（3）：519, 2003
11	BAP（骨型アルカリホスファターゼ）	倉澤健太郎，他：医学と薬学　55（2）：279, 2006
11	total PⅠNP（Ⅰ型プロコラーゲン-N-プロペプチド）	日高　好博：医学と薬学　70（2）：357, 2013
11	LDアイソザイム	試薬添付文書
11	ALPアイソザイム	松下　誠：検査と技術　33（12）：1359, 2005
12	アミラーゼアイソザイム（AMYアイソザイム）	星野　忠，他：JCCLA 35（4）：773, 2010
12	CKアイソザイム	Galen RS.：HUMAN PATHOLOGY 6（2）：141, 1975
12	ケトン体分画≪動脈血≫	菊野　晃，他：臨床検査　41：963, 1997
12	ケトン体分画≪静脈血≫	菊野　晃，他：臨床検査　41：963, 1997
12	乳酸	浅沼　和子，他：生物試料分析　8（3）：16, 1985
12	ピルビン酸	浅沼　和子，他：生物試料分析　8（3）：16, 1985
12	ヒアルロン酸	島村　朗，他：医学と薬学　44（6）：1441, 2000
13	ナトリウム（Na）（血清）	関口　光夫：検査と技術　17（9）：1167, 1989
13	ナトリウム（Na）（蓄尿）	関口　光夫：検査と技術　17（9）：1167, 1989
13	クロール（Cl）（血清）	関口　光夫：検査と技術　17（9）：1167, 1989
13	クロール（Cl）（蓄尿）	関口　光夫：検査と技術　17（9）：1167, 1989
13	カリウム（K）（血清）	関口　光夫：検査と技術　17（9）：1167, 1989

検査方法参考文献一覧

頁	項目	文献名
13	カリウム（K）（蓄尿）	関口　光夫：検査と技術　17（9）：1167, 1989
13	カルシウム（Ca）（血清）	第54回　神奈川県医学検査学会　抄録（2005.11）
13	カルシウム（Ca）（蓄尿）	第54回　神奈川県医学検査学会　抄録（2005.11）
13	イオン化カルシウム	桑　　克彦：検査と技術　19（2）:119, 1991
14	マグネシウム（Mg）（血清）	北村　元仕, 他：実践臨床化学　医歯薬出版：166, 1983
14	マグネシウム（Mg）（蓄尿）	北村　元仕, 他：実践臨床化学　医歯薬出版：166, 1983
14	無機リン（IP）（血清）	Daly, J. A. and Ertingshausen, G. : Clin. Chem., 18 : 263, 1972
14	無機リン（IP）（蓄尿）	Daly, J. A. and Ertingshausen, G. : Clin. Chem., 18 : 263, 1972
14	鉄（Fe）（血清）	徳井　健志, 奥田　　潤：臨床化学　16（1）：48, 1987
14	鉄（Fe）（尿）	Varian Techtron Pty Limited : Analytical Method for Graphit Tube Atomizers, 1988
14	総鉄結合能（TIBC）〔比色法〕	斉藤　　宏：基礎と臨床　8（11）：408, 1974
14	不飽和鉄結合能（UIBC）〔比色法〕	山田　満廣, 他：JJCLA　13（5）：659, 1988
15	銅（Cu）（血清）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　31：604, 1998
15	銅（Cu）（尿）	Varian Techtron Pty Limited : Analytical Method for Graphit Tube Atomizers, 1988
15	アルミニウム（Al）	Varian Techtron Pty Limited : Analytical Method for Graphit Tube Atomizers, 1988
15	亜鉛（Zn）（血清）	松本　和子：臨床検査（増刊号）34（11）：1367, 1990
15	亜鉛（Zn）（尿）	松本　和子：臨床検査（増刊号）34（11）：1367, 1990
15	鉛（Pb）（全血）	原田　章, 他：鉛健康診断のすすめ方：56, 1990
15	鉛（Pb）（尿）	原田　章, 他：鉛健康診断のすすめ方：56, 1990
15	カドミウム（Cd）（全血）	Varian Techtron Pty Limited : Analytical Method for Graphit Tube Atomizers, 1988
15	カドミウム（Cd）（尿）	Varian Techtron Pty Limited : Analytical Method for Graphit Tube Atomizers, 1988
16	クロム（Cr）（全血）	松岡　　澄：産業医学　13（6）：27, 1971
16	クロム（Cr）（尿）	松岡　　澄：産業医学　13（6）：27, 1971
16	水銀（Hg）（全血）	神奈川県公害センター監修：公害関係の分析法と解説　神奈川県弘済会 , 1972
16	水銀（Hg）（尿）	神奈川県公害センター監修：公害関係の分析法と解説　神奈川県弘済会 , 1972
16	マンガン（Mn）（全血）	加地　　浩, 他：日本災害医学会会誌　37：195, 1989
16	マンガン（Mn）（血清）	加地　　浩, 他：日本災害医学会会誌　37：195, 1989
16	マンガン（Mn）（尿）	Mikac-Devic, D. et al. : Clin. Chem. 23 : 948, 1977
16	ニッケル（Ni）	Mikac-Devic, D. et al. : Clin. Chem. 23 : 948, 1977
17	総三塩化物（TTC）	全国労働衛生団体連合会：有機溶剤健康診断のすすめ方　全衛連 , 1990
17	三塩化（トリクロル）酢酸（TCA）	全国労働衛生団体連合会：有機溶剤健康診断のすすめ方　全衛連 , 1990
17	マンデル酸（MA）	全国労働衛生団体連合会：有機溶剤健康診断のすすめ方　全衛連 , 1990
17	馬尿酸（HA）	全国労働衛生団体連合会：有機溶剤健康診断のすすめ方　全衛連 , 1990
17	メチル馬尿酸（MHA）	全国労働衛生団体連合会：有機溶剤健康診断のすすめ方　全衛連 , 1990
17	δ-アミノレブリン酸（δ-ALA）	岡山　明：労働衛生管理　3（4）：45, 1992
17	N-メチルホルムアミド	全国労働衛生団体連合会：有機溶剤健康診断のすすめ方　全衛連 , 1990
17	2,5-ヘキサンジオン（2,5-HD）	全国労働衛生団体連合会：有機溶剤健康診断のすすめ方　全衛連 , 1990
18	エタノール	塚本昭次郎：アルコール研究　5：8, 1970
18	ビタミンA（レチノール）	須原　　聡, 他：臨床検査　36（3）：235, 1992
18	レチノール結合蛋白	古田島伸雄, 他：日本臨床検査自動化学会会誌　32（1）：84, 2007
18	ビタミンB_1（チアミン）	安田　和人, 他：臨床病理　XXIX：564, 1981
18	ビタミンB_2（リボフラビン）	安田　和人, 他：日本臨牀　62（12）：148, 2004
18	ビタミンB_6	吉田　継親, 他：薬学雑誌　98：1319, 1978
18	ビタミンB_{12}	河口　行雄, 他：医学と薬学　41（1）：145, 1999
18	葉酸	安田　和人, 他：医療と検査機器・試薬　25（5）：441, 2002
18	ビタミンC（アスコルビン酸）	Lykkesfeldt J et al. : Analytical Biochemistry 229 : 329, 1995.
19	25OHビタミンD〔ECLIA〕	Blackburn, G. F. et al. : Clin. Chem. 37（9）：1534, 1991
19	1α-25-$(OH)_2$ビタミンD（1,25-ジヒドロキシビタミンD3）	高田　朋玲, 他：医学と薬学　37（5）：1205, 1997
19	25-ヒドロキシビタミンD	D. L. Ersfeld et al. : Clinical Biochemistry 37 : 867, 2004
19	ビタミンE（トコフェロール）	阿部　皓一, 他：栄養と食糧　28：277, 1975
19	ビタミンK分画	Langenberg, J.P., et al. : J. Chromatogr. 305 : 61, 1984
19	カルニチン	市本　景子, 他：新薬と臨牀　66（9）：1176, 2017
19	ニコチン酸（ナイアシン）	宮沢　　滋：ビタミン　56（9・10）：487, 1982
19	脂肪酸4分画	小沢　昭夫, 他：分析化学　31：87, 1981
20	結石分析	神　ちひろ, 分析化学　53（7）：735, 2004.
20	全脂質脂肪酸分画	金井　　晃, 他：ぶんせき　11：774, 1978
20	総ホモシステイン	Araki A, Sako Y : J Chromatogr 422 : 43, 1987
20	アミノ酸分析定量（血漿）	遠藤　治郎, 他：日本臨床　50（7）：69, 1992
20	アミノ酸分析定量（蓄尿、尿）	遠藤　治郎, 他：日本臨床　50（7）：69, 1992
20	BTR（総分岐鎖アミノ酸／チロシンモル比）	飯塚　誠一, 他：現代医療　26（増Ⅱ）：99, 1994
20	M2BPGi（MAC2結合蛋白糖鎖修飾異性体）	久野　敦：医学のあゆみ。249（8）：666～670, 2014
21	KL-6	高松久美子, 他：医学と薬学　62（3）：491-499, 2009
21	SP-A（肺サーファクタントプロテインA）	大木　　卓, 他：医学と薬学　71（1）：161, 2014
21	SP-D（肺サーファクタントプロテインD）	村田　　誠, 他：医学と薬学　71（12）2303-2308, 2014
22	クレアチニンクリアランス	大澤　　進：Medical Technology 26（4）：389, 1998
22	クレアチニンクリアランス（24時間内因性）	大澤　　進：Medical Technology 26（4）：389, 1998
22	尿酸クリアランス（Ccr、尿酸cr/Ccrも含む）	藤森　　新, 他：臨床検査　34（9）：1121, 1990
22	ICG血中停滞率（肝機能）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　30：1397, 1993
22	ICG血中消失率	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　30：1397, 1993
22	PFD（PABA排出率）（膵機能）	Yamato C et al : Analytical Biochemistry 98 : 13, 1979
22	eGFRcreat	CKD診療ガイド2012：日本腎臓病学会編
22	eGFRcys	CKD診療ガイド2012：日本腎臓病学会編
25	成長ホルモン（GH）	小山　紗世, 他：医学と薬学　68（5）：899-910, 2012
25	ソマトメジンC（IGF-1）	Blackburn, G.F. et al. : Clin.Chem,　37（9）：1534, 1991
26	甲状腺刺激ホルモン（TSH）	川崎　芳正, 他：医学と薬学　63（2）：325-329, 2010
26	黄体形成ホルモン（LH）	中村　　悟, 他：医学と薬学　40（3）：541-545, 1998
26	卵胞刺激ホルモン（FSH）	中村　　悟, 他：医学と薬学　40（3）：541-545, 1998
26	副腎皮質刺激ホルモン（ACTH）	阿部　正樹, 他：医学と薬学　57（2）：239, 2007
26	プロラクチン（PRL）	中村　　悟, 他：医学と薬学　40（3）：541-545, 1998
26	AVP（アルギニンバゾプレシン）	大磯ユタカ, 他：日本内分泌学会誌：62：608, 1986
27	トリヨードサイロニン（T_3）	上條　桂一, 他：医学と薬学　40（2）：387-394, 1998
27	遊離トリヨードサイロニン（F-T_3）	川崎　芳正, 他：医学と薬学　63（2）：325-329, 2010
27	サイロキシン（T_4）	上條　桂一, 他：医学と薬学　40（2）：387-394, 1998
27	遊離サイロキシン（F-T_4）	川崎　芳正, 他：医学と薬学　63（2）：325-329, 2010
27	TBG定量	海瀬　信子, 他：核医学　16（5）：777, 1979
27	サイログロブリン（Tg）	北川　　亘, 他：医学と薬学　71（9）1655-1666, 2014
27	カルシトニン	北川　　亘, 他：医学と薬学　72（1）：97-108, 2015
27	【副甲状腺ホルモン】PTH-Intact	山岡　美穂, 他：医学と薬学　46（5）：753, 2001
27	【副甲状腺ホルモン】Whole-PTH	森山　和重, 他：医学と薬学　70（4）：829, 2013
27	副甲状腺ホルモン関連蛋白（PTHrP）	福本　誠二, 他：ホルモンと臨床　40（12）：91, 1992
28	インスリン（IRI）	前畑　英介, 他：医学と薬学　44（6）：1069, 2000
28	C-ペプチド（CPR）（血清）	武田　真一, 他：医学と薬学　51（1）：143, 2004
28	C-ペプチド（CPR）（蓄尿）	武田　真一, 他：医学と薬学　51（1）：143, 2004
28	ガストリン	飯沼　一茂, 他：Radioisotopes31（7）350～356, 1982.
28	カテコールアミン分画（血漿）	西村　千江, 他：臨床検査機器・試薬　16：1169, 1993
28	カテコールアミン分画（髄液）	西村　千江, 他：臨床検査機器・試薬　16：1169, 1993
28	カテコールアミン分画（蓄尿）	西村　千江, 他：臨床検査機器・試薬　16：1169, 1993
29	ドーパミン総	守　　和子：産業医学　17：170, 1975
29	L-ドーパ	守　　和子：産業医学　17：170, 1975
29	5-ハイドロキシインドール酢酸（5-HIAA）	白川　淳二, 他：日本臨床・広範囲血液・尿化学検査免疫学的検査下巻 .175, 1990
29	ホモバニリン酸（HVA）（血漿）	東海林哲郎, 他：臨床検査ガイド2013～2014・420～422, 2013
30	バニールマンデル酸（VMA）	東海林哲郎, 他：臨床検査ガイド2013～2014・423～425, 2013
30	メタネフリン・ノルメタネフリン分画	Shoup R.E., et al. : Clin. Chem. 23 : 1268, 1977

頁	項目	文献名
31	17-ケトステロイド分画(17-KS分画)	石田　孝, 他：臨床化学　15：13, 1986
31	17-ケトステロイド分画(アンドロステロン)	石田　孝, 他：臨床化学　15：13, 1986
31	17-ケトステロイド分画(エチオコラノロン)	石田　孝, 他：臨床化学　15：13, 1986
31	17-ケトステロイド分画(デヒドロエピアンドロステロン)	石田　孝, 他：臨床化学　15：13, 1986
31	17-ケトステロイド分画(11-ケト-エチオコラノロン)	石田　孝, 他：臨床化学　15：13, 1986
31	17-ケトステロイド分画(11-ヒドロキシアンドロステロン)	石田　孝, 他：臨床化学　15：13, 1986
31	17-ケトステロイド分画(11-ヒドロキシエチオコラノロン)	石田　孝, 他：臨床化学　15：13, 1986
31	17-ケトステロイド分画(11-ケトアンドロステロン)	石田　孝, 他：臨床化学　15：13, 1986
31	11-ハイドロキシコルチコステロイド（11-OHCS）	宇田川美佐子, 他：臨床化学　5（3）：321, 1977
31	コルチゾール	片川　一之, 他：医学と薬学　40（1）：169, 1998
31	遊離コルチゾール	西川　哲男, 他：ホルモンと臨床　28：471, 1980
32	デハイドロエピアンドロステロンサルフェート（DHEA-S）	増戸　梨恵, 他：医学と薬学　56（3）：443, 2006
32	アルドステロン（血清、血漿）	塩野入　洋, 他：医学と薬学　21（2）：293, 1989
32	アルドステロン（蓄尿）	塩野入　洋, 他：医学と薬学　21（2）：293, 1989
32	アルドステロン／レニン活性比（PAC/PRA 比）	高血圧治療ガイドライン 2009　編集：日本高血圧学会高血圧治療ガイドライン作成委員会　P102 - P105
32	アルドステロン／レニン定量比（PAC/PRC 比）	高血圧治療ガイドライン 2009　編集：日本高血圧学会高血圧治療ガイドライン作成委員会　P102 - P105
33	エストラジオール（E_2）（血清）	中村　悟, 他：医学と薬学　40（3）：541-545, 1998
33	エストリオール（E_3）（血清）	吉田　孝雄：ホルモンと臨床　21：86, 1973
33	プロゲステロン	中村　悟, 他：医学と薬学　40（3）：541-545, 1998
34	プレグナンジオール（P_2）	平井　利生, 他：JJCLA 9：564, 1984
34	プレグナントリオール（P_3）	平井　利生, 他：JJCLA 9：564, 1984
34	テストステロン（血清）	中村　悟, 他：医学と薬学　40（3）：541-545, 1998
34	遊離テストステロン	大塚　喜彦, 他：医学と薬学　72（1）：147-151, 2015
34	抗ミュラー管ホルモン（AMH）	柳田小百合, 他：医学と薬学　72（6）, 1095-1101, 2015
35	ヒト絨毛性ゴナドトロピン定性（HCG）	山口登希子, 他：医学と薬学　38（1）：207, 1997
35	ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量（血清）（HCG）	花川　準司, 他：臨床検査機器・試薬　20（4）：609, 1997
35	ヒト絨毛性ゴナドトロピン定量（尿）	花川　準司, 他：臨床検査機器・試薬　20（4）：609, 1997
35	ヒト絨毛性ゴナドトロピン-β-サブユニット(HCG-β)(血清)	関　克義, 他：産科と婦人科　61（3）：410, 1994
35	ヒト絨毛性ゴナドトロピン-β-サブユニット(HCG-β)(尿)	関　克義, 他：産科と婦人科　61（3）：410, 1994
36	サイクリック AMP（c-AMP）（血漿）	孫　孝義, 他：日内分泌会誌　61：912, 1985
36	サイクリック AMP（c-AMP）（蓄尿）	孫　孝義, 他：日内分泌会誌　61：912, 1985
36	セロトニン（全血）	Picard, M., et al.：J.Chromatogr. 341：445, 1985
36	セロトニン（多血小板血漿）	Picard, M., et al.：J.Chromatogr. 341：445, 1985
36	アンギオテンシンⅠ	岩鼻　美佐, 他：医学と薬学　36：297, 1996
36	アンギオテンシンⅡ	岩鼻　美佐, 他：医学と薬学　36：297, 1996
36	レニン活性（PRA）	廣井　直樹, 他：医学と薬学　32（1）：81-86, 1994.
36	レニン定量（PRC）	片山　明広, 他：医学と薬学　35（2）：417, 1996
37	エリスロポエチン	増田　詩織, 他：医学と薬学　67（2）297, 2012
37	オステオカルシン（BGP）	戸来　孝, 他：日本臨床自動化学会会誌　40：52-57, 2015
37	低カルボキシル化オステオカルシン（ucOC）	西村　順, 他：医学と薬学　57（4）：523, 2007
38	HANP（ヒト心房性ナトリウム利尿ペプチド）	松岡　泰弘, 他：機器・試薬　33（4）：535, 2010
38	BNP（ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド）	山田　恵, 他：医学と薬学　63（6）：913-918, 2010
38	NT-proBNP（ヒト脳性ナトリウム利尿ペプチド前駆体N端フラグメント）	Gary F.Blackburn, et al.：Clin. Chem. 37（9）：1534-1539, 1991
41	α-フェトプロテイン（AFP）	福岡　達仁, 他：医学と薬学　58（3）：473-479, 2007
41	α-フェトプロテインレクチン分画（AFP-L3%）	佐藤　繁樹, 他：臨床病理　58：1155-1161, 12・2010
41	CEA（癌胎児性抗原）	山田　孝, 他：医学と薬学　29（5）：1201, 1993
41	BFP（塩基性フェトプロテイン）	石井　勝：癌と化学療法　15（7）：2107-2113, 1988
41	NCC-ST-439	大倉　久直, 他：癌と化学療法　14（6）：1901, 1987
41	DUPAN-2	張　正和, 他：膵臓　1（1）：69, 1986
41	CA19-9	福岡　達仁, 他：医学と薬学　58（3）：473-479, 2007
41	CA15-3	福岡　達仁, 他：医学と薬学　58（3）：473-479, 2007
41	CA125	福岡　達仁, 他：医学と薬学　58（3）：473-479, 2007
42	BCA225	小林美耶子, 他：医学と薬学　72（7）：1249, 2015
42	SLX（シアリル Le^x-i 抗原）	井村　裕夫, 他：癌と化学療法　14（5）：1315, 1987
42	CSLEX（シアリル Le^x 抗原）	三嶋　芳樹, 他：医学と薬学　29（5）：1193, 1993
42	シアリルTn抗原（STN）	井村　裕夫, 他：癌と化学療法　16（9）：3213, 1989
42	CA72-4	青山　昭, 他：医学と薬学　49（1）：137, 2003
42	SPan-1	山村　倫子, 他：臨床成人病　19（1）：115, 1989
42	シフラ（CYFRA21-1）（サイトケラチン19フラグメント）	平川寛一郎, 他：機器・試薬　21（3）：289, 1998
42	扁平上皮癌関連抗原（SCC抗原）	羽田真理子, 他：医学と薬学　52（1）：101, 2004
42	エラスターゼ1	大出　勝也, 他：臨床病理　50（4）：376, 2002
42	PSA（前立腺特異抗原）	河野　均也, 他：臨床検査機器・試薬　24（3）：223, 2001
43	高感度PSAタンデム	野村　朋子, 他：医学と薬学　51（1）：179, 2004
43	PSA-ACT	大野　明美, 他：医学と薬学　49（2）：325, 2003
43	高感度PSAタンデム　F/T比	野村　朋子, 他：医学と薬学　51（1）：179, 2004
44	γ-Sm（γ-セミノプロテイン）	佐藤　達郎, 他：医学と薬学　43（1）：97, 2000
44	Pro GRP（ガストリン放出ペプチド前駆体）	前川　知子, 他：医学と薬学　71（9）：1643, 2014
44	NSE（神経特異エノラーゼ）	花田　浩之, 他：医学と薬学　60（4）：657, 2008
44	α_1-酸性糖蛋白（α_1-AGP）	櫻林郁之介, 他：臨床病理　53（特集号）：71, 1983
44	TPA（組織ポリペプチド抗原）	Hirschberg, L., et al.：JOURNAL OF TUMOR MARKER ONCOLOGY：Vol15, Nev3, 2000
44	PIVKAⅡ定量	菅原　昌章, 他：医学と薬学　73（3）：293-300, 2016
45	ⅠCTP（Ⅰ型コラーゲンCテロペプチド）	清原　剛, 他：ホルモンと臨床　42：1189, 1994
45	TRACP-5b 定量（酒石酸抵抗性酸ホスファターゼ）	西沢　良記, 他：医学と薬学　54（5）：709, 2005
45	NTx（Ⅰ型コラーゲン架橋 N-テロペプチド）（血清）	斉藤　真一, 他：ホルモンと臨床　51（5）：493-498, 2003
45	NTx（Ⅰ型コラーゲン架橋 N-テロペプチド）（尿）	馬場　広太, 他：臨床検査　42：477-481, 1998
45	デオキシピリジノリン（DPD）	山本　逸雄, 他：ホルモンと臨床　44（7）：747, 1996
46	尿中NMP22定量	赤座　英之, 他：癌と化学療法　24（7）：829, 1997
46	抗p53抗体	橋本　礼輔, 他：医学と薬学　75（8）：955, 2018
46	インターロイキン2受容体（IL-2R）	鈴木恵美子, 他：医療と検査機器・試薬　35（4）：587, 2012
49	ABO血液型	安田　広康, 他：新輸血検査の実際（初版）、日本臨床検査技師会：28、2008
49	Rh(D)血液型	安田　広康, 他：新輸血検査の実際（初版）、日本臨床検査技師会：28、2008
49	Rh-Hr式血液型	安田　広康, 他：新輸血検査の実際（初版）、日本臨床検査技師会：11、2008
49	直接クームス試験	安田　広康, 他：新輸血検査の実際（初版）、日本臨床検査技師会：58、2008
49	間接クームス試験	安田　広康, 他：新輸血検査の実際（初版）、日本臨床検査技師会：1、2008
49	クームス定量試験	安田　広康, 他：新輸血検査の実際（初版）、日本臨床検査技師会：132、2008
49	不規則抗体	安田　広康, 他：新輸血検査の実際（初版）、日本臨床検査技師会：35、2008
49	交差適合試験	安田　広康, 他：新輸血検査の実際（初版）、日本臨床検査技師会：55、2008
49	抗血小板抗体	柴田　洋一：輸血学（遠山　博編）, 中外医学社：457, 1978
50	血小板関連 IgG（PA-IgG）	林　悟, 他：臨床病理　32：1253, 1984
50	HIT抗体（血小板第4因子・ヘパリン複合体抗体）	阪田　敏幸：医学と薬学　68（3）：547, 2012
51	梅毒定性・半定量（RPR法）	大里　和久, 他：日本性感染症学会誌　13（1）：124, 2002、赤坂　希, 他：機器・試薬　23（3）：191, 2000
51	梅毒定性・半定量（TPHA）	大里　和久, 他：日本性感染症学会誌　13（1）：124, 2002、大里　和久, 他：臨床検査機器・試薬　14（4）：739, 1991
51	梅毒定性・半定量（FTA-ABS）	水岡　慶二：皮膚科の臨床・昭44　11（4）：294, 1969
51	抗ストレプトリジンO定量（ASO）	Rantz, L., et al.：Proc. Exp. Biol. Med., 59：22, 1945
51	抗ストレプトキナーゼ半定量（ASK）	大国　真彦：日本臨床　40：1021, 1982
51	マイコプラズマ抗体半定量（PA法）	鷹箸　孝一, 他：獨協医科大学病院　臨床検査部血清室
51	マイコプラズマ抗体半定量（CF法）	北村　元仕, 他：臨床検査マニュアル（文光堂）：880, 1988
52	寒冷凝集反応	工藤　肇：日本臨床　26：330, 1968
52	クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニエIgG抗体	PERSON K., et al：Clinical and Diagnostic Laboratory Immunology 7（5）：739, 2000
52	クラミドフィラ(クラミジア)・ニューモニエIgA抗体	PERSON K., et al：Clinical and Diagnostic Laboratory Immunology 7（5）：739, 2000
52	クラミジア・ニューモニエ　IgM 抗体	岸本　寿男, 他：感染症学雑誌　70（8）：821, 1996
52	トリコスポロン・アサヒ抗体	三宅　修司, 他：日本呼吸器学会誌　39（1）：7, 2001
52	MAC抗体	吉田　春花, 他：医学検査　62（5）：587, 2013

検査方法参考文献一覧

頁	項目	文献名
53	トキソプラズマIgG抗体	田畑　宏道, 他：医学と薬学　71（1）145-151, 2014
53	トキソプラズマIgM抗体	田畑　宏道, 他：医学と薬学　71（1）145-151, 2014
53	百日咳菌抗体	岡田　賢司：医学と薬学　65（4）：531, 2011
53	クラミジアトラコマチスIgG・IgA抗体	松本　　明, 他：感染症学雑誌　66（5）：584, 1992
53	アスペルギルス抗体	Walter, J. S. et al.：Dis. Chest 53（6）729, 1968
54	ツツガ虫　Gilliam　IgG抗体	山本　正悟：臨床とウイルス　12（3）：270, 1984
54	ツツガ虫　Gilliam　IgM抗体	山本　正悟：臨床とウイルス　12（3）：270, 1984
54	ツツガ虫　Kato　IgG抗体	山本　正悟：臨床とウイルス　12（3）：270, 1984
54	ツツガ虫　Kato　IgM抗体	山本　正悟：臨床とウイルス　12（3）：270, 1984
54	ツツガ虫　Karp　IgG抗体	山本　正悟：臨床とウイルス　12（3）：270, 1984
54	ツツガ虫　Karp　IgM抗体	山本　正悟：臨床とウイルス　12（3）：270, 1984
55	ヘリコバクター・ピロリ抗体／国内株	菊池　達範, 他：機器・試薬　37（4）, 2014
55	ヘリコバクター・ピロリ抗体IgG／国内株	菊地　正悟, 他：医学と薬学　43（3）：581, 2000
55	胃がんリスク層別化検査（ABC分類）	認定NPO法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構：胃がんリスク層別化検査（ABC分類）2016年度改訂版　運用の手引き, 2016.
55	胃がんリスク層別化検査（ABC分類）（除菌歴あり）	認定NPO法人 日本胃がん予知・診断・治療研究機構：胃がんリスク層別化検査（ABC分類）2016年度改訂版　運用の手引き, 2016.
56	プロカルシトニン定量（PCT）	齋藤　大輔, 他：医学と薬学　62（2）：323, 2009
56	エンドトキシン	大石　春樹, 他：薬学雑誌　105（3）：300-303, 1985
56	(1→3)-β-D-グルカン	吉田耕一郎, 他：医学と薬学　67（6）：895, 2012
56	透析液エンドトキシン	生井　梨愛, 他：腎と透析　別冊：74, 2003
57	カンジダ・マンナン抗原	相原　守夫, 他：臨床検査　34（3）：367, 1990
57	クリプトコッカス抗原定性	二見　修平, 他：Jpn. J. Med. Mycol, 30（3）：211, 1989
57	アスペルギルス抗原	Stynen, D., et al.：J. Clin. Microbiol. 33（2）：497, 1995
58	肺炎球菌莢膜抗原定性	小林　隆夫, 他：感染症学雑誌 76（12）；995, 2002
58	尿中レジオネラ抗原定性	山口　育夫, 他：医学検査 64（2）：221, 2015
58	結核菌 DNA〔PCR〕（TB-PCR）	田口　直子, 他：医学と薬学　62（1）：121, 2009
58	MAC DNA〔PCR〕（マイコバクテリウム・アビウム及びイントラセルラー核酸検出）	田口　直子, 他：医学と薬学　62（1）：121, 2009
58	結核菌特異的インターフェロン - γ産生能（QFTプラス）	福島喜代康, 他：結核　93（10）：517, 2018
58	結核菌特異的インターフェロン - γ産生能（T-SPOT. TB）	Meier T.et al.：European Journal of Clinical Microbiology & Infections Diseases 24：529-536, 2005
59	クラミジア・トラコマチス DNA〔PCR〕	熊本　悦明, 他：医学と薬学　66（6）：1007, 2011
59	クラミジア・トラコマチス DNA〔SDA〕	Robin A. et al.：Journal of the Association for Laboratory Automation 2009 14：262
60	淋菌DNA〔PCR〕	熊本　悦明, 他：医学と薬学　66（6）：1007, 2011
60	淋菌DNA〔SDA〕	Robin A. et al.：Journal of the Association for Laboratory Automation 2009 14：262
60	淋菌／クラミジア・トラコマチス同時測定DNA〔PCR〕	熊本　悦明, 他：医学と薬学　66（6）：1007, 2011
60	淋菌／クラミジア・トラコマチス同時測定DNA〔SDA〕	Robin A. et al.：Journal of the Association for Laboratory Automation 2009 14：262
61	糞便中ヘリコバクター・ピロリ抗原定性	栄谷　直美, 他：Helicobactor Research 10（5）：426, 2006
61	尿素呼気試験（UBT）（ユービット）	吉田　純一, 他：日本臨床　51（12）：126, 1993
62	リウマトイド因子（RF）定性	櫻林郁之介、他　ラテックス凝集比濁法　検査と技術　16（7）：607, 1988
62	リウマトイド因子（RF）定量	櫻林郁之介、他　ラテックス凝集比濁法　検査と技術　16（7）：607, 1988
62	抗CCP抗体定量（抗シトルリン化ペプチド抗体）	玉井　慎美, 他：医学と薬学　64（5）：779, 2010
62	IgG型リウマトイド因子（IgG-RF）	中園　　清：医学と薬学　45（3）：481, 2001
62	抗ガラクトース欠損IgG抗体（CA・RF）	山田　雄二, 他：基礎と臨床　31（1）：81, 1997
62	MMP-3（マトリックスメタロプロティナーゼ-3）	田中　敏典, 他：日本臨床検査自動化学会会誌　36（4）：666, 2011
62	C1q結合免疫複合体	橋本　儀一, 他：臨床検査機器・試薬　14：691, 1991
62	モノクローナルRF結合免疫複合体（mRF-IC）	浜野　明栄, 他：リウマチ科　5（4）：305, 1991
63	抗サイログロブリン抗体（抗Tg抗体）	森田　新二, 他：医学と薬学　55（5）：775, 2006
63	抗甲状腺ペルオキシダーゼ抗体（抗TPO抗体）	森田　新二, 他：医学と薬学　55（5）：775, 2006
63	抗サイログロブリン抗体半定量（サイロイドテスト）	斎藤一二三, 他：ホルモンと臨床　34：963, 1986
63	抗甲状腺マイクロゾーム抗体半定量（マイクロゾームテスト）	斎藤一二三, 他：ホルモンと臨床　34：963, 1986
63	TSH レセプター抗体（TRAb）	西　　功, 他：医学と薬学　39（5）：1031, 1998
63	TSH レセプター抗体（第３世代）	吉村　　弘, 他：医学と薬学　59（6）：1111, 2008
63	TSAb（TSH刺激性レセプター抗体）	上條　桂一, 他：医学と薬学　71（5）：903, 2014
63	抗核抗体半定量（ANA）	林　　伸英, 他：臨床病理　64（2）別冊：142-151, 2016
64	抗RNAポリメラーゼⅢ抗体	桑名　正隆：リウマチ科　40（3）：239, 2008
64	抗セントロメア抗体（EIA(ELISA)法）	宮脇　昌二, 他：医学と薬学　45（1）：129, 2001
64	抗DNA抗体定量	鈴木　王洋, 他：臨床免疫　25（8）：1096, 1993
64	抗ss-DNA-IgG抗体定量	陣内　記代, 他：日本臨床検査自動化学会会誌　26（6）：747, 2001
64	抗ds-DNA-IgG抗体定量	陣内　記代, 他：日本臨床検査自動化学会会誌　26（6）：747, 2001
64	抗ss-DNA-IgM抗体	陣内　記代, 他：日本臨床検査自動化学会会誌　26（6）：747, 2001
64	抗ds-DNA-IgM抗体	陣内　記代, 他：日本臨床検査自動化学会会誌　26（6）：747, 2001
64	抗RNP抗体半定量	宮脇　昌二, 他：臨床病理　33（9）：1025, 1985
64	抗RNP抗体定量	西山　　進, 他：医学と薬学　68（2）：345, 2012
65	抗Sm抗体半定量	安倍　　達：リウマチ　27：203, 1987
65	抗Sm抗体定量	西山　　進, 他：医学と薬学　68（2）：345, 2012
65	抗SS-A/Ro抗体半定量	安倍　　達：リウマチ　27：203, 1987
65	抗SS-A/Ro抗体定量	西山　　進, 他：医学と薬学　68（2）：345, 2012
65	抗SS-B/La抗体半定量	安倍　　達：リウマチ　27：203, 1987
65	抗SS-B/La抗体定量	西山　　進, 他：医学と薬学　68（2）：345, 2012
65	抗Scl-70抗体半定量	安倍　　達：リウマチ　27：203, 1987
65	抗Scl-70抗体定量	小島　和夫, 他：医学と薬学　69（4）：677, 2013
65	抗Jo-1抗体半定量	安倍　　達：リウマチ　27：203, 1987
65	抗Jo-1抗体定量	松下　雅和, 他：医学と薬学　70（1）：109-117, 2013
66	抗アセチルコリンレセプター抗体（抗AChR抗体）	太田　光照, 他：ホルモンと臨床　40（7）：749, 1992
66	抗アクアポリン4抗体	高橋　利幸, 他：医学と薬学　73（10）：1297-1300, 2016.
66	抗筋特異的チロシンキナーゼ抗体（抗MuSK抗体）	本村　政勝, 他：医学と薬学　70（2）：421-428, 2013
66	抗カルジオリピン-β_2-グリコプロテイン１複合体抗体（抗CL-β_2GPⅠ抗体）	小池　隆夫, 他：医学と薬学　26（3）：535, 1991
66	抗カルジオリピンIgG抗体	岡田　　純, 他：医学と薬学　36（6）：1389, 1996
66	抗カルジオリピンIgM抗体	鏑木　淳一, 大矢　和彦：医学と薬学　43（6）：1183, 2000
66	ループスアンチコアグラント（LA）（DRVVT法）	金井　正光, 他：臨床検査法提要　金原出版　34：424, 2015
66	ループスアンチコアグラント（LA）（リン脂質中和法）	後藤　守孝, 他：Mod. Physician　15（12）：1545, 1995
67	PR3-ANCA（C-ANCA、抗好中球細胞質プロテイナーゼ3抗体）	松下　雅和, 他：医学と薬学　66（5）：823, 2011
67	MPO-ANCA（P-ANCA、抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体）	松下　雅和, 他：医学と薬学　66（5）：823, 2011
67	抗デスモグレイン１抗体（抗Dsg1抗体）	吉田かおり, 他：医学と薬学　70（5・6）：989, 2013
67	抗デスモグレイン３抗体（抗Dsg3抗体）	吉田かおり, 他：医学と薬学　70（5・6）：989, 2013
67	抗BP180抗体（抗BP180NC16a抗体）	黒田　慶子, 他：医学と薬学　57（5）：751, 2007
67	抗皮膚抗体	吉岡　順子：皮膚　23（1）：29, 1981
67	抗糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体）	臼井　丈一, 他：医学と薬学　68（4）：697, 2012
67	精子不動化抗体	磯島　晋三, 他：日本産婦人科学会雑誌　31：1906, 1979
68	抗LKM1抗体	宮川　　浩, 他：医学と薬学　44（1）：121, 2000
68	抗ミトコンドリア抗体（AMA）	長島　秀夫：日本臨床　43：222, 1985
68	抗ミトコンドリアM2抗体（AMA-M2）	丹野　瑞木, 他：医学と薬学　67（3）：485, 2012
68	抗平滑筋抗体	長島　秀夫：日本臨床　40：935, 1982
68	抗胃壁細胞抗体	長島　秀夫：日本臨床　40：937, 1982
68	抗インスリン抗体	村山　　寛, 他：医学と薬学　60（2）：289, 2008
68	抗GAD抗体（抗グルタミン酸デカルボキシラーゼ抗体）	及川　洋一, 他：医学と薬学　72（9）, 2015
68	抗ⅠA-2抗体	川崎　英二, 他：医学と薬学　66（2）：345, 2011
69	IgG	黒澤　弘美, 他：医療と検査機器・試薬　25（2）：159, 2002
69	IgG2	川　　茂幸, 他：医学と薬学　74（4）：463, 2017.
69	IgG4	川　　茂幸, 他：医学と薬学　64（1）：95, 2010
69	IgA	黒澤　弘美, 他：医療と検査機器・試薬　25（2）：159, 2002
69	IgM	黒澤　弘美, 他：医療と検査機器・試薬　25（2）：159, 2002
69	C_3（β_1C/β_1Aグロブリン）	黒澤　弘美, 他：医療と検査機器・試薬　25（2）：159, 2002
69	C_4（β_1Eグロブリン）	黒澤　弘美, 他：医療と検査機器・試薬　25（2）：159, 2002
69	C1q	中村　敏男, 他：臨床免疫　14：92, 1982

頁	項目	文献名
69	血清補体価（CH_{50}）	中藤　聡子, 他：臨床検査機器・試薬　19（4）：609, 1996
70	C反応性蛋白（CRP）定性	田中　元彦, 他：臨床検査機器・試薬　27（3）：195, 2004
70	C反応性蛋白（CRP）定量	田中　元彦, 他：臨床検査機器・試薬　27（3）：195, 2004
70	血清アミロイドA蛋白（SAA）	永徳　広美, 他：生物物理化学　37：19, 1993
70	クリオグロブリン定性	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　31：831, 1998
70	トランスフェリン（Tf）	日高　宏哉, 他：検査と技術　30（13）：1377, 2002
70	遊離L鎖κ／λ比	伊藤　早織, 他：医学と薬学　64（1）：111, 2010
70	免疫電気泳動（抗ヒト全血清による定性）	広瀬　美子, 他：臨床検査機器・試薬　16：253, 1993
70	免疫電気泳動（免疫固定法によるM蛋白同定）	広瀬　美子, 他：臨床検査機器・試薬　16：253, 1993
70	尿中免疫電気泳動(免疫固定法によるベンス･ジョーンズ蛋白(BJP)同定)	長縄　謹子：検査と技術　12：401, 1984
70	α_1-アンチトリプシン	山下　順香, 他：医学と薬学　29（5）：1239, 1993
75	IgE	島津伸一郎, 他：アレルギーの領域2（7）：62, 1995
75	IgEシングルアレルゲン（ハウスダスト1）	我妻　義則, 他：医学と薬学　23：83, 1990
75	IgEマルチアレルゲン	我妻　義則, 他：医学と薬学　23：83, 1990
75	Viewアレルギー39	張田　聖恵：医学と薬学　73（6）：721-726, 2016
75	アトピー鑑別試験	奥平　博一, 他：アレルギー　40：544, 1991
75	ヒトTARC（Th2ケモカイン）	石田　俊雄, 他：医学と薬学　58（6）：901～907, 2007
76	13アレルゲンセット	我妻　義則, 他：医学と薬学　23：83, 1990
76	10アレルゲンセット	我妻　義則, 他：医学と薬学　23：83, 1990
79	HBs抗原定性	赤羽　賢浩, 他：基礎と臨床　19（5）：515 - 525, 1985
79	HBs抗体定性	吉村英理子, 他：基礎と臨床　29（17）：4545, 1995
79	HBs抗体半定量	吉村英理子, 他：基礎と臨床　29（17）：4545, 1995
79	HBs抗原	関口　　仁, 他：臨床検査機器・試薬　22（4）：283, 1999
79	HBs抗体	出口　松夫, 他：医学と薬学　74（9）：1137 - 1144, 2017
79	HBe抗原	宮川　正明, 他：医学と薬学　52（4）：621, 2004
79	HBe抗体	宮川　正明, 他：医学と薬学　52（4）：621, 2004
79	HBc抗体	飯田　健一, 他：Prog.Med.　22：1037, 2002
79	HBc-IgM抗体	中尾瑠美子, 他：医学と薬学　52（5）：847, 2004
80	HBV-DNA定量（リアルタイムPCR法）	菅原　昌章, 他：医学と薬学　別冊　73（10）：1329 - 1339, 2016
80	B型肝炎ウイルスコア関連抗原（HBcrAg）	田中　靖人：臨床病理　54（7）：692, 2006
80	HBVゲノタイプ（判定）	田中　靖人, 他：臨床病理　57（1）：42, 2009
80	HBVプレコア変異及びコアプロモーター変異遺伝子同定検査（HBV-DNA PC・CP）	松山　和弘, 他：肝胆膵　41：59, 2000
80	HA-IgG抗体	田中　英介, 他：医学と薬学　46（6）：1017, 2001
80	HA-IgM抗体	田中　英介, 他：医学と薬学　46（6）：1017, 2001
81	HCV抗体	小柳　博明, 他：医学と薬学　55（3）：467, 2006、近平　佳美, 他：医学と薬学　37（2）：521, 1997
81	HCVコア抗原	八橋　　弘, 他：医学と薬学　68（1）：157, 2012
81	HCV群別	長谷川　瞳, 他：医学と薬学　70（3）：633, 2013
81	HCV-RNA定量（リアルタイムPCR法）	菅原　昌章, 他：医学と薬学　別冊　73（10）：1329-1339, 2016
81	ジェノタイプHCV-RNA-PCR	Okamoto H. et al.：J.General Virology　74：2385, 1993
82	HTLV-Ⅰ抗体（第3世代）（ATLA）	有馬　直道, 他：医学と薬学　65（5）：651, 2011
82	HTLV-Ⅰ(ATLV)抗体〔ラインブロット法・LIA法〕	Zrein M, et al：Clin Diagn Lab Immunol 5（1）：45, 1998
83	HIV抗原・抗体	新田　幸一, 他：医学と薬学　57（2）：231, 2007
83	HIV-1抗体	菱田　　靖, 他：医学と薬学　27（4）：959, 1992
83	HIV-2抗体	菱田　　靖, 他：医学と薬学　27（4）：959, 1992
83	HIV-1RNA定量〔リアルタイムPCR法〕	目崎　和久, 他：医学と薬学　73（6）：705, 2016
84	単純ヘルペス（HSV）（CF）	金井　興美, 他：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第Ⅰ分冊, 日本公衆衛生協会：31, 1987
84	水痘・帯状ヘルペス（VZV）（CF）	金井　興美, 他：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第Ⅰ分冊, 日本公衆衛生協会：31, 1987
84	サイトメガロ（CMV）（CF）	金井　興美, 他：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第Ⅰ分冊, 日本公衆衛生協会：31, 1987
84	ムンプス（CF）	金井　興美, 他：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第Ⅰ分冊, 日本公衆衛生協会：31, 1987
84	アデノ（CF）	金井　興美, 他：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第Ⅰ分冊, 日本公衆衛生協会：31, 1987
84	インフルエンザA型（CF）	金井　興美, 他：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第Ⅰ分冊, 日本公衆衛生協会：31, 1987
84	インフルエンザB型（CF）	金井　興美, 他：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第Ⅰ分冊, 日本公衆衛生協会：31, 1987
84	RS（CF）	金井　興美, 他：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第Ⅰ分冊, 日本公衆衛生協会：31, 1987
84	日本脳炎（CF）	北村　元仕, 他：臨床検査マニュアル, 文光堂：880, 1988
84	コクサッキーA群9型（CF）	北村　元仕, 他：臨床検査マニュアル, 文光堂：880, 1988
84	コクサッキーB群1型（CF）	北村　元仕, 他：臨床検査マニュアル, 文光堂：880, 1988
84	コクサッキーB群2型（CF）	北村　元仕, 他：臨床検査マニュアル, 文光堂：880, 1988
84	コクサッキーB群3型（CF）	北村　元仕, 他：臨床検査マニュアル, 文光堂：880, 1988
84	コクサッキーB群4型（CF）	北村　元仕, 他：臨床検査マニュアル, 文光堂：880, 1988
84	コクサッキーB群5型（CF）	北村　元仕, 他：臨床検査マニュアル, 文光堂：880, 1988
84	コクサッキーB群6型（CF）	北村　元仕, 他：臨床検査マニュアル, 文光堂：880, 1988
85	ムンプス（HI）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：214, 1973
85	麻疹（HI）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：214, 1973
85	風疹（HI）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：214, 1973
85	インフルエンザA型（H_1N_1）（H_3N_2）（HI）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：214, 1973
85	インフルエンザB型（山形系統）（ビクトリア系統）（HI）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：214, 1973
85	パラインフルエンザ1型（HI）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：214, 1973
85	パラインフルエンザ2型（HI）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：214, 1973
85	パラインフルエンザ3型（HI）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：214, 1973
85	エコー3型（HI）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：214, 1973
85	エコー7型（HI）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：214, 1973
85	エコー11型（HI）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：214, 1973
85	エコー12型（HI）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：214, 1973
85	日本脳炎（JaGAr株）（HI）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：214, 1973
86	単純ヘルペス1型（HSV）（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
86	単純ヘルペス2型（HSV）（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
86	ムンプス（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
86	アデノ1型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
86	アデノ2型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
86	アデノ3型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
86	アデノ4型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
86	アデノ5型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
86	アデノ6型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
86	アデノ7型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
86	アデノ8型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
86	アデノ11型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
86	アデノ19型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
86	アデノ21型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
86	アデノ37型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
86	RS（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
86	麻疹（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
87	コクサッキーA群2型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
87	コクサッキーA群3型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
87	コクサッキーA群4型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
87	コクサッキーA群5型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
87	コクサッキーA群6型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
87	コクサッキーA群7型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
87	コクサッキーA群9型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
87	コクサッキーA群10型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
87	コクサッキーA群16型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
87	コクサッキーB群1型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
87	コクサッキーB群2型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973
87	コクサッキーB群3型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版, 丸善：260, 1973

検査方法参考文献一覧

頁	項目	文献名
87	コクサッキーB群4型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版，丸善：260，1973
87	コクサッキーB群5型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版，丸善：260，1973
87	コクサッキーB群6型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版，丸善：260，1973
87	エコー1型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版，丸善：260，1973
87	エコー3型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版，丸善：260，1973
87	エコー4型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版，丸善：260，1973
87	エコー5型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版，丸善：260，1973
87	エコー6型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版，丸善：260，1973
87	エコー7型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版，丸善：260，1973
88	エコー9型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版，丸善：260，1973
88	エコー11型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版，丸善：260，1973
88	エコー12型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版，丸善：260，1973
88	エコー13型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版，丸善：260，1973
88	エコー14型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版，丸善：260，1973
88	エコー16型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版，丸善：260，1973
88	エコー17型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版，丸善：260，1973
88	エコー18型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版，丸善：260，1973
88	エコー19型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版，丸善：260，1973
88	エコー21型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版，丸善：260，1973
88	エコー22型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版，丸善：260，1973
88	エコー24型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版，丸善：260，1973
88	エコー25型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版，丸善：260，1973
88	エコー30型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版，丸善：260，1973
88	エンテロ70型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版，丸善：260，1973
88	エンテロ71型（NT）	国立予防衛生研究所学友会：ウイルス実験学　総論　2版，丸善：260，1973
89	EBウイルス　抗VCA　IgG抗体（FA）	日沼　頼夫，他：臨床病理　臨時増刊　35：179，1978
89	EBウイルス　抗VCA　IgM抗体（FA）	日沼　頼夫，他：臨床病理　臨時増刊　35：179，1978
89	EBウイルス　抗EA-DR　IgG抗体（FA）	日沼　頼夫，他：臨床病理　臨時増刊　35：179，1978
89	EBウイルス　抗EBNA抗体（FA）	日沼　頼夫，他：臨床病理　臨時増刊　35：179，1978
89	EBウイルス　抗VCA　IgA抗体（FA）	日沼　頼夫，他：臨床病理　臨時増刊　35：179，1978
89	EBウイルス　抗EA-DR　IgA抗体（FA）	日沼　頼夫，他：臨床病理　臨時増刊　35：179，1978
89	EBウイルス　抗EA　IgG抗体〔EIA（ELISA）〕	矢部　茂季，他：新薬と臨牀　43：351，1994
89	EBウイルス　抗EBNA　IgG抗体〔EIA（ELISA）〕	矢部　茂季，他：新薬と臨牀　43：351，1994
89	EBウイルス　抗VCA　IgG抗体〔EIA（ELISA）〕	矢部　茂季，他：新薬と臨牀　43：351，1994
89	EBウイルス　抗VCA　IgM抗体〔EIA（ELISA）〕	矢部　茂季，他：新薬と臨牀　43：351，1994
89	ヒトパルボB19　IgG抗体（EIA）	杉下　知子，他：医学と薬学　38（6）：1191，1997
89	ヒトパルボB19　IgM抗体（EIA）	杉下　知子，他：医学と薬学　38（6）：1191，1997
90	風疹IgM抗体（EIA）	Champsaur,H., et al.：J.Med.Virol.　5：273，1980
90	麻疹IgM抗体（EIA）	庵原　俊昭，他：医学と薬学 69（6）969，2013
90	単純ヘルペス（HSV）IgG抗体（EIA）	金井　興美，他：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第Ⅰ分冊，日本公衆衛生協会：48，1987
90	単純ヘルペス（HSV）IgM抗体（EIA）	川名　尚，他：医学と薬学 69（3）：517，2013
90	水痘帯状ヘルペス（VZV）IgG抗体（EIA）	金井　興美，他：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第Ⅰ分冊，日本公衆衛生協会：48，1987
90	水痘帯状ヘルペス（VZV）IgM抗体（EIA）	金井　興美，他：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第Ⅰ分冊，日本公衆衛生協会：48，1987
90	サイトメガロウイルス（CMV）IgG抗体（CLEIA）	熊田　洋高，他：医学と薬学　72（6）：1087，2015
90	サイトメガロウイルス（CMV）IgM抗体（CLEIA）	熊田　洋高，他：医学と薬学　72（6）：1087，2015
90	ムンプスIgG抗体（EIA）	金井　興美，他：微生物検査必携　ウイルス・クラミジア・リケッチア検査　第3版　第Ⅰ分冊，日本公衆衛生協会：48，1987
90	ムンプスIgM抗体（EIA）	内田　立志，他：川崎医学会誌　35（2）：139，2009
91	ウイルス分離	Hsiung GD：DIAGNOSTIC VIROLOGY An Illustrated Handbook.New Haven and London, Yale University：3，1973
91	ウイルス同定	Hsiung GD：DIAGNOSTIC VIROLOGY An Illustrated Handbook.New Haven and London, Yale University：3，1973
92	サイトメガロウイルスpp65抗原定性（C10,C11）CMV（C10,C11）	浅井　隆善，他：今日の移植　7（6）：553，1994
92	単純ヘルペスウイルス（HSV）抗原	吉田　晃，他：臨床とウイルス　13：490，1985
92	水痘帯状ヘルペス（VZV）抗原	新村　眞人，他：感染症学雑誌　64：195，1990
92	ロタウイルス抗原定性	原　三千丸：日本小児科学会雑誌　106（6）：766，2002
92	ノロウイルス抗原定性	渡部　雅勝，他：医学と薬学　71（10）：1917，2014
92	ノロウイルス抗原〔BLEIA〕	鈴木　渉，他：感染症学雑誌　89（2）：230，2015
93	HPV-DNA検出（高リスク）	石　和久，他：医学と薬学　39（4）：849，1998
93	HPV-DNA簡易ジェノタイプ（16型、18型、その他ハイリスクグループ）	三浦　俊昭，他：医学と薬学　69（1）：157，2013
93	HPV-DNAジェノタイプ（ハイリスク13種）	尾崎　聡，他：臨床病理　60（7）：621，2012
93	HPV-DNA型別	二谷　悦子，他：医学と薬学　64（1）：105，2010
95	白血球数（WBC）	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：237，2015
95	赤血球数（RBC）	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：237，2015
95	ヘモグロビン（Hb）（血色素量）	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：237，2015
95	ヘマトクリット（Ht）	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：237，2015
95	MCV（平均赤血球容積）	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：237，2015
95	MCH（平均赤血球血色素量）	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：237，2015
95	MCHC（平均赤血球血色素濃度）	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：237，2015
95	血小板数（PLT）	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：237，2015
95	白血球像	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：250，2015
95	赤血球像	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：261，2015
96	網赤血球数	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：237，2015
96	好酸球数	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：274，2015
96	全血比重（GB）	金井　泉，他：臨床検査法提要　金原出版　29：404，1983
96	赤血球沈降速度（ESR）	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：349，2015
96	浸透圧	長浜　大輔：検査と技術　14（9）：961，1986
96	マラリア原虫	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：1177，2015
96	フィラリア原虫	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：1179，2015
96	骨髄像	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：283，2015
97	骨髄像特殊染色　アルカリホスファターゼ染色（ALP染色）	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：284，2015
97	骨髄像特殊染色　PAS染色	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：288，2015
97	骨髄像特殊染色　ペルオキシダーゼ染色	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：283，2015
97	骨髄像特殊染色　エステラーゼ染色	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：286，2015
97	骨髄像特殊染色　鉄染色	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：289，2015
97	血液特殊染色　アルカリホスファターゼ染色（ALP染色）	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：284，2015
97	血液特殊染色　PAS染色	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：288，2015
97	血液特殊染色　ペルオキシダーゼ染色	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：283，2015
97	血液特殊染色　エステラーゼ染色	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：286，2015
97	血液特殊染色　鉄染色	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：289，2015
98	プロトロンビン時間（PT）	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：395，2015
98	活性化部分トロンボプラスチン時間（APTT）	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：392，2015
98	フィブリノゲン定量（Fib）	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：403，2015
98	PIVKA-Ⅱ【凝固】	草野　正芳，他：機器・試薬 35（1）：87，2012
98	第Ⅱ因子	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：403，2015
98	第Ⅴ因子	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：403，2015
98	第Ⅶ因子	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：404，2015
98	第Ⅷ因子	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：408，2015
99	第Ⅸ因子	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：408，2015
99	第Ⅹ因子	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：404，2015
99	第ⅩⅠ因子	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：411，2015
99	第ⅩⅡ因子	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：411，2015
99	第ⅩⅢ因子	金井　正光，他：臨床検査法提要　金原出版　34：413，2015
99	フォン・ウィルブランド因子抗原　定量　（v.W因子抗原 定量）	安室　洋子，他：臨床検査機器・試薬　8（6）：1386，1985
99	フォン・ウィルブランド因子活性（v.W因子活性）（リストセチンコファクター）	高瀬　俊夫，他：診療と新薬　19：3097，1982
99	ADAMTS13活性	Kato S. et al.：Transfusion　46：1444，2006

頁	項目	文献名
99	ADAMTS13インヒビター定量	Kato S. et al. : Transfusion　46 : 1444, 2006
100	第Ⅷ因子インヒビター（第Ⅷ因子-INH）	Sirridge, M.S., et al. : Laboratory Evalution of Hemostasis and Thrombosis, 3rd Ed.Lea & Febiger.196, 1983
100	第Ⅸ因子インヒビター（第Ⅸ因子-INH）	Sirridge, M.S., et al. : Laboratory Evalution of Hemostasis and Thrombosis, 3rd Ed.Lea & Febiger.196, 1983
100	プラスミノゲン抗原	金井　正光, 他 : 臨床検査法提要　金原出版　34 : 425, 2015
100	プラスミノゲン活性	金井　正光, 他 : 臨床検査法提要　金原出版　34 : 425, 2015
100	アンチプラスミン（プラスミンインヒビター）	金井　正光, 他 : 臨床検査法提要　金原出版　34 : 426, 2015
100	アンチトロンビン活性（AT-Ⅲ）	金井　正光, 他 : 臨床検査法提要　金原出版　34 : 415, 2015
100	フィブリン・フィブリノゲン分解産物（血漿FDP）	金井　正光, 他 : 臨床検査法提要　金原出版　34 : 435, 2015
100	可溶性フィブリンモノマー複合体（SFMC）	金井　正光, 他 : 臨床検査法提要　金原出版　34 : 429, 2015
100	Dダイマー	金井　正光, 他 : 臨床検査法提要　金原出版　34 : 435, 2015
100	プラスミンインヒビター・プラスミン複合体（PIC）	金井　正光, 他 : 臨床検査法提要　金原出版　34 : 435, 2015
101	トロンビン・アンチトロンビン複合体（TAT）	金井　正光, 他 : 臨床検査法提要　金原出版　34 : 430, 2015
101	プロトロンビンフラグメントF1+2（PTフラグメントF1+2）	高橋　芳右, 他 : 血栓止血誌　2（6）: 469, 1991
101	プロテインC活性	金井　正光, 他 : 臨床検査法提要　金原出版　34 : 417, 2015
101	プロテインC（抗原量）	金井　正光, 他 : 臨床検査法提要　金原出版　34 : 417, 2015
101	プロテインS（遊離型抗原量）	阪田　敏幸, 他 : 医学と薬学　51（1）: 167, 2004
101	プロテインS（抗原量）	鬼沢　　実 : 機器・試薬　XⅢ（4）: 579, 1990
101	プロテインS活性	鬼沢　　実 : 機器・試薬　15（2）: 166, 1992
101	プラスミノーゲンアクチベーターインヒビター1（PAI-1）	金井　正光, 他 : 臨床検査法提要　金原出版　34 : 428, 2015
101	トロンボモジュリン（TM）	天野　景裕, 他 : 臨床病理　39（9）: 967,　1991
101	C1インアクチベーター活性（C1エステラーゼインヒビター活性）	Dick W et al. : Immun Infekt 13 : 113, 1985
102	血小板第4因子（PF4）	高橋　芳右, 他 : 血液と脈管　18 : 326, 1987
102	β-トロンボグロブリン（β-TG）	高橋　芳右, 他 : 血液と脈管　18 : 326, 1987
103	フェノバルビタール	石橋みどり, 他 : 医学と薬学　42（6）: 1061, 1999
103	フェニトイン	石橋みどり, 他 : 医学と薬学　42（6）: 1061, 1999
103	カルバマゼピン	石橋みどり, 他 : 医学と薬学　42（6）: 1061, 1999
103	プリミドン	宮本　侃治 : 臨床化学　6（3）: 202, 1978
103	バルプロ酸	石橋みどり, 他 : 医学と薬学　42（6）: 1061, 1999
103	エトスクシミド	宮本　侃治 : 臨床化学　6（3）: 202, 1978
103	トリメタジオン	Wolfgang, S. and Beelen, C.C.M. : 抗けいれん薬 . ドラッグモニタリング（広川書店）: 100, 1982
103	クロナゼパム	大田　博子, 他 : 医薬ジャーナル　24（11）: 92, 1988
103	アセタゾラミド	Sylvia,M.W., et al. : J.Pharm.Sci.　66 : 527, 1977
103	スルチアム	Berry,D.J., et al. : J.Chromatogr. 171 : 363, 1979
103	ゾニサミド	安田　真依, 他 : 臨床検査機器・試薬　38（2）: 205～210, 2015
104	ニトラゼパム	Beharrell, G.P., et al. : J.Chromatogr. 70 : 45, 1972
104	ジアゼパム	Brodie RR, et al. : Chromatogr 150 : 61, 1978
104	クロバザム	Pawel K Kunicki : Journal of Chromatography B 750 : 41, 2001
104	ラモトリギン	小峯　幸弘 : 沖縄医報　45（9）: 51, 2009
104	ガバペンチン	Forrest G et al. : Journal of Chromatography B 681 : 421, 1996
104	トピラマート	小峯　幸弘 : 沖縄医報　45（9）: 51, 2009
104	レベチラセタム	赤松　直樹, 他 : Epilepsy　4（2）: 129, 2010
104	炭酸リチウム	高橋　　修 : 臨床検査（増刊号）　34（11）: 1468, 1990
104	ハロペリドール	Furukori N. Y. et al. : Ther Drug Monit. 26（3）: 336, 2004
104	ブロムペリドール	Furukori N. Y. et al. : Ther Drug Monit. 26（3）: 336, 2004
105	サリチル酸	木村　英樹, 他 : JJCLA　33（5）: 860, 2008
105	ジゴキシン	末森　一恵 : Medical Technology 37（9）: 1005, 2009
105	プロパフェノン	Haefeli.E.W., et al. : Clin.Pharmacol.Ther. 48（3）: 245, 1990
105	塩酸ピルジカイニド	上野　和行 : Pharma Medica 11（4）: 97, 1993
105	シベンゾリン	寺川　雅人, 他 : 薬物動態　3 : 761, 1988
105	プロカインアミド	Pincus, MR.et al. : Clinical Diagnosis and Management by Laboratory Methods, 18 : 349, 1991
106	プロプラノロール	Ahnoff, M., et al. : J. Chromatogr 340 : 73, 1985
106	キニジン	木村　英樹, 他 : JJCLA　33（5）: 860, 2008
106	リドカイン	宮本　侃治 : 臨床化学　6（3）: 202, 1978
106	ジソピラミド	西川　　隆, 他 : 医学と薬学　9（4）: 1213, 1983
106	アプリンジン	高田　充隆, 他 : 病院薬学　14（4）: 256, 1988
106	メキシレチン	高中　　篤, 他 : 病院薬学 Vol.13 : 132～136, 1987
106	フレカイニド	加藤　林也, 他 : 臨床薬理　20（3）: 505, 1989
106	ピルメノール	市川　　林, 他 : 臨床医薬　11（4）: 903, 1995
106	アミオダロン	K.ress, et al. : J Chromatography 417 : 456, 1987
106	ベプリジル	山崎　泰志, 他 : 臨床医薬　14（1）: 139, 1988
107	アセトアミノフェン	木村　英樹, 他 : JJCLA 33（5）: 860, 2008
107	メトトレキサート	宮崎　弘和, 他 : Therapeutic Reserch 2 : 113, 1985
107	イマチニブ	Picard S. et al. : Blood 109（8）: 3496, 2007
107	ゲンタマイシン	Jolley, M.E., et al. : Clin.Chem.　27 : 1190, 1981
107	トブラマイシン	木村　英樹, 他 : JJCLA　33（5）: 860, 2008
107	アミカシン	木村　英樹, 他 : JJCLA　33（5）: 860, 2008
107	アルベカシン	久保　博明, 他 : 医学と薬学　19（6）: 1454, 1988
108	バンコマイシン	キット添付説明書
108	テイコプラニン	諸岡　美里, 他 : JJCLA 38（1）: 79, 2013
108	シクロスポリン	向井田麻由, 他 : 医学と薬学　62（4）: 767, 2009
108	タクロリムス	向井田麻由, 他 : 医学と薬学　60（1）: 133, 2008
108	エベロリムス	深見　春恵, 他 : 医学と薬学　70（2）: 317-321, 2013
108	ミコフェノール酸	細坪　秀夫, 他 : 今日の移植　14（4）: 485-491, 2001
108	テオフィリン（気管支拡張剤）	石橋みどり, 他 : 医学と薬学　42（6）: 1061, 1999
111	比重	山本　ユミ, 他 : 医療と検査機器・試薬　26（3）: 217, 2003
111	PH（尿）	山本　ユミ, 他 : 医療と検査機器・試薬　26（3）: 217, 2003
111	蛋白定性	山本　ユミ, 他 : 医療と検査機器・試薬　26（3）: 217, 2003
111	糖定性	山本　ユミ, 他 : 医療と検査機器・試薬　26（3）: 217, 2003
111	ウロビリノーゲン定性	山本　ユミ, 他 : 医療と検査機器・試薬　26（3）: 217, 2003
111	ビリルビン定性	山本　ユミ, 他 : 医療と検査機器・試薬　26（3）: 217, 2003
111	ケトン体（アセトン体）定性	山本　ユミ, 他 : 医療と検査機器・試薬　26（3）: 217, 2003
111	潜血反応	山本　ユミ, 他 : 医療と検査機器・試薬　26（3）: 217, 2003
111	白血球定性	山本　ユミ, 他 : 医療と検査機器・試薬　26（3）: 217, 2003
111	亜硝酸塩	山本　ユミ, 他 : 医療と検査機器・試薬　26（3）: 217, 2003
111	蛋白定量	安原　正善, 他 : 臨床検査機器・試薬　8（5）: 1175, 1985
111	VMA定性	金井　　泉, 他 : 臨床検査法提要　金原出版　32 : 190, 2005
111	ベンスジョーンズ蛋白定性	金井　　泉, 他 : 臨床検査法提要　金原出版　32 : 177, 2005
111	コプロポルフィリン定性	金井　　泉, 他 : 臨床検査法提要　金原出版　31 : 178, 1998
112	糖定量	松岡　健平 : 臨床検査 MOOK　18 : 1, 1984
112	浸透圧	長浜　大輔 : 検査と技術　14（9）: 961, 1986
112	NAG	渡辺　信子, 他 : JJCLA　20（2）: 134, 1995
112	線維素分解産物（尿中FDP）	堀内　伸純, 他 : 臨床検査機器・試薬　14 : 267, 1991
112	δ-アミノレブリン酸（δ-ALA）	岡山　明 : 労働衛生管理　3（4）: 45, 1992
112	ポルフォビリノーゲン定量	Mauzerall, D., et al. : Biol.Chem. 219 : 435, 1956
112	ウロポルフィリン定量	近藤　雅雄 : 日本臨床　53（6）: 65, 1995
112	コプロポルフィリン定量	近藤　雅雄 : 日本臨床　53（6）: 65, 1995
112	尿中アルブミン定量	芦田　尚登, 他 :「自動化機器による免疫比濁法を用いた尿中微量アルブミン測定法の検討」 臨床検査機器・試薬　第14巻　第3号（平成3年6月）別冊
113	尿中Ⅳ型コラーゲン	小幡　賢一, 他 : 臨床検査機器・試薬　18（3）: 439, 1995
113	尿中トランスフェリン	今野　稔 : 医学と薬学　32（3）: 555, 1994
113	L-FABP（L型脂肪酸結合蛋白）	Kamijo A , et al. : Journal of Laboratory and Clinical Medicine 143（1）: 23～30 , 2004.
113	尿沈渣（尿沈渣顕微鏡検査）	久野　　豊, 他 : 医学検査　48（7）: 1116, 1999
113	尿沈渣（尿沈渣顕微鏡検査）（染色した場合）	金井　　泉, 他 : 臨床検査法提要　金原出版　32 : 210, 2005
113	虫卵検査　虫卵（塗抹）	吉田　幸雄 : 図説人体寄生虫学　南山堂　第8版　284, 2011

検査方法参考文献一覧

頁	項目	文献名
113	虫卵検査　虫卵（集卵）（浮遊法）	吉田　幸雄：図説人体寄生虫学　南山堂　第8版　284, 2011
114	虫体検出	吉田　幸雄：図説人体寄生虫学　南山堂　第8版　284, 2011
114	ヘモグロビン（潜血LA）定性・定量	竹下　俊隆, 他：大腸肛門誌　38：780, 1985
114	ヘモグロビン（潜血金コロイド）定性・定量	山懸　文夫, 他：医療と検査機器・試薬　29（2）：121, 2006
114	ヘモグロビン・トランスフェリン（Hb・Tf）	山懸　文夫, 他：医療と検査機器・試薬　29（2）：121, 2006
115	精液一般検査	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　29：656, 1998
115	pH（精液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　29：656, 1983
115	精子濃度（精液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　29：656, 1983
115	奇形精子率（精液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　29：656, 1983
115	運動率（精液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　29：656, 1983
115	オリゴクローナルバンド〔等電点電気泳動法〕	藤井　英治, 他：生物物理化学　28（4）：261, 1984
115	ミエリンベイシック蛋白（MBP）	Ohta M. et al. : Clin Chem　46（9）：1326, 2000
116	比重（髄液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　32：254, 2005
116	pH（髄液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　32：662, 2005
116	ノンネアペルト反応（髄液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　31：251, 1998
116	パンディ反応（髄液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　31：252, 1998
116	細胞数（髄液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　31：245, 1998
116	トリプトファン反応（髄液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　31：256, 1998
116	細胞種類（髄液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　31：247, 1998
116	蛋白定量（髄液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　31：249, 1998
116	糖定量（髄液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　32：260, 2005
116	ナトリウム（Na）（髄液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　30：228, 1993
116	クロール（Cl）（髄液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　31：255, 1998
116	カリウム（K）（髄液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　30：228, 1993
117	ムチン塊形成試験（関節液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　31：235, 1998
117	ルンベルグ反応（穿刺液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　31：228, 1998
117	リバルタ反応（穿刺液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　31：227, 1998
117	比重（穿刺液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　32：239, 2005
117	pH（穿刺液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　32：662, 2005
117	沈渣（穿刺液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　31：191, 1998
117	細胞種類（穿刺液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　31：229, 1998
117	細胞数（穿刺液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　31：245, 1998
118	蛋白定量（穿刺液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　31：228, 1998
118	糖定量（穿刺液）	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　31：228, 1998
118	関節液結晶	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　31：235, 1998
118	有核細胞数	金井　正光, 他：臨床検査法提要　金原出版　34：278, 2015
118	巨核細胞数	金井　正光, 他：臨床検査法提要　金原出版　34：278, 2015
118	鼻汁中好酸球	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　30：209, 1993
118	喀痰中好酸球	金井　　泉, 他：臨床検査法提要　金原出版　30：209, 1993
119	癌胎児性フィブロネクチン定性（頸管膣分泌液）	一條　元彦, 他：産婦人科治療　67（2）：212, 1993
119	顆粒球エラスターゼ（子宮頸管粘液）	北村　　光, 他：臨床検査機器・試薬　21（4）：357, 1998
121	G-band法（先天性疾患）	島田　裕充：臨床病理　特集80：76, 1989
121	15染色体（プラダーウイリ症候群）	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール阿部　達生監修（秀潤社）：90, 1997
121	15染色体（アンジェルマン症候群））	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール阿部　達生監修（秀潤社）：90, 1997
121	22染色体（22q11 欠失）	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール阿部　達生監修（秀潤社）：90, 1997
121	無精子症関連遺伝子（Y染色体DAZ）	稲澤　譲治：臨床FISHプロトコール阿部　達生監修（秀潤社）：90, 1997
121	流死産胎児染色体分析	林　　研, 他：臨床病理　30（11）：1400, 1986
122	G-band法（血液疾患）	稲澤　譲治：臨床 FISH プロトコール阿部　達生監修（秀潤社）：39, 1997
122	Q-band法（血液疾患）	稲澤　譲治：臨床 FISH プロトコール阿部　達生監修（秀潤社）：27, 1997
122	BCR-ABL t(9;22)転座（フィラデルフィア染色体）	稲澤　譲治：臨床 FISH プロトコール阿部　達生監修（秀潤社）：90, 1997
122	PML-RARA t（15;17）転座	稲澤　譲治：臨床 FISH プロトコール阿部　達生監修（秀潤社）：90, 1997
122	RUNX1-RUNX1T1(AML1-MTG8) t(8;21)転座	稲澤　譲治：臨床 FISH プロトコール阿部　達生監修（秀潤社）：90, 1997
122	TP53 del(17)短腕欠失	稲澤　譲治：臨床 FISH プロトコール阿部　達生監修（秀潤社）：90, 1997
122	IGH-FGFR3 t（4;14)転座	稲澤　譲治：臨床 FISH プロトコール阿部　達生監修（秀潤社）：90, 1997
122	IGH-MAF t（14;16)転座	稲澤　譲治：臨床 FISH プロトコール阿部　達生監修（秀潤社）：90, 1997
122	IGH-CCND1 t（11;14)転座	稲澤　譲治：臨床 FISH プロトコール阿部　達生監修（秀潤社）：90, 1997
122	IGH-MYC t（8;14）転座	稲澤　譲治：臨床 FISH プロトコール阿部　達生監修（秀潤社）：90, 1997
122	D13S319 del(13)長腕欠失	稲澤　譲治：臨床 FISH プロトコール阿部　達生監修（秀潤社）：90, 1997
122	CKS1B 1q21 増幅	稲澤　譲治：臨床 FISH プロトコール阿部　達生監修（秀潤社）：90, 1997
123	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgG	Ip SH et al : Clinical Chemistry 28（9）：1905, 1982
123	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgA	Ip SH et al : Clinical Chemistry 28（9）：1905, 1982
123	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgM	Ip SH et al : Clinical Chemistry 28（9）：1905, 1982
123	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) IgD	Ip SH et al : Clinical Chemistry 28（9）：1905, 1982
123	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) K（カッパー）	Ip SH et al : Clinical Chemistry 28（9）：1905, 1982
123	B細胞表面免疫グロブリン(Sm-Ig) L（ラムダ）	Ip SH et al : Clinical Chemistry 28（9）：1905, 1982
123	T細胞・B細胞百分率（CD3, CD19）	Wauwe JV, et al : Immunology 44 : 865, 1981
123	T細胞サブセット（CD4, CD8）	Ip SH et al : Clinical Chemistry 28（9）：1905, 1982
124	モノクローナル抗体によるリンパ球表面マーカーの自動解析	Ip SH et al : Clinical Chemistry 28（9）：1905, 1982
125	Two-color解析によるリンパ球表面マーカー検査	Ip SH et al : Clinical Chemistry 28（9）：1905, 1982
125	CD4×CD29	Ip SH et al : Clinical Chemistry 28（9）：1905, 1982
125	CD4×CD45RA	Ip SH et al : Clinical Chemistry 28（9）：1905, 1982
125	CD57×CD16	Ip SH et al : Clinical Chemistry 28（9）：1905, 1982
125	CD11b×CD8	Ip SH et al : Clinical Chemistry 28（9）：1905, 1982
125	HLA-DR×CD4	Ip SH et al : Clinical Chemistry 28（9）：1905, 1982
125	HLA-DR×CD8	Ip SH et al : Clinical Chemistry 28（9）：1905, 1982
126	CCR4 タンパク〔FCM〕	Ishida T, et al. : Clin Cancer Research 9 : 3625, 2003
126	造血器悪性腫瘍細胞検査　白血病・リンパ腫解析検査（LLA）CD45 ゲーティング	Browits MJ, et al. : Am J Clin Pathol 100 : 534, 1993
126	造血器悪性腫瘍細胞検査　悪性リンパ腫解析検査（MLA）CD45 ゲーティング	Browits MJ, et al. : Am J Clin Pathol 100 : 534, 1993
127	MLC（リンパ球混合培養試験）	Brain. B., et al. : Blood 23 : 108, 1964
127	HLA-A, B（血清対応型タイピング）	齊藤克行：MHC 5（1）, 57：1998
127	HLA-DR（血清対応型タイピング）	佐田　正晴, 他：今日の移植　7 Suppl：71, 1994
127	HLA-A（DNAタイピング）	石川　善英：MHC 5（2), 96：1998
127	HLA-B（DNAタイピング）	石川　善英：MHC 5（2), 96：1998
127	HLA-C（DNAタイピング）	石川　善英：MHC 5（2), 96：1998
127	HLA-DPB1（DNAタイピング）	成瀬　妙子, 他：MHC 5（2）：101, 1998
127	HLA-DRB1（DNAタイピング）	成瀬　妙子, 他：MHC 5（2）：101, 1998
127	HLA-DQA1（DNAタイピング）	浅見あすか, 他：MHC 7（2）：111, 2000
127	HLA-DQB1（DNAタイピング）	成瀬　妙子, 他：MHC 5（2）：101, 1998
128	PHAによるリンパ球幼若化検査	笠原　　忠, 他：臨床検査　23（7）：660, 1979
128	Con-Aによるリンパ球幼若化検査	笠原　　忠, 他：臨床検査　23（7）：660, 1979
128	薬剤によるリンパ球刺激試験（LST）	中島　一格：Medical Technology 21（7）：722, 1993
128	NK細胞活性	康　　浩一, 他：Medical Technology 21（7）574, 1993
129	EGFR遺伝子変異解析《血漿》	Weber B, et al. BMC Cancer 14 : 294, 2014
130	EGFR遺伝子変異解析〔リアルタイムPCR法〕	林　海美子, 他：検査と技術　42（5）：504, 2014
130	RAS/BRAF 変異解析	T.Yoshino et al. / EBioMedicine2（2015）317 - 323
131	マイクロサテライト不安定性検査（HNPCC･リンチ症候群）	Buhard O, et al. : J Clin Oncol 24 : 241, 2006
131	マイクロサテライト不安定性（MSI）検査（CDX）	Buhard O, et al. : J Clin Oncol 24 : 241, 2006
132	UGT1A1遺伝子多型解析	Shun-ichi Suzuki, et al. : Sensors 2012, 12, 16614 - 16627
133	細菌顕微鏡検査　一般細菌	永田　邦昭：感染症診断に役立つグラム染色　日水製薬株式会社 2006
133	細菌顕微鏡検査　クリプトコッカス	永田　邦昭：感染症診断に役立つグラム染色　日水製薬株式会社 2006
133	細菌顕微鏡検査　真菌	永田　邦昭：感染症診断に役立つグラム染色　日水製薬株式会社 2006
133	細菌顕微鏡検査　疥癬虫	永田　邦昭：感染症診断に役立つグラム染色　日水製薬株式会社 2006
133	嫌気培養	小栗　豊子：臨床微生物検査ハンドブック第５版　2017

頁	項目	文献名
133	MRSA培養	小栗　豊子：臨床微生物検査ハンドブック第５版　2017
133	百日咳菌培養	小栗　豊子：臨床微生物検査ハンドブック第５版　2017
134	マイコプラズマ培養	小栗　豊子：臨床微生物検査ハンドブック第５版　2017
134	ジフテリア培養	小栗　豊子：臨床微生物検査ハンドブック第５版　2017
134	レジオネラ培養	小栗　豊子：臨床微生物検査ハンドブック第５版　2017
134	エルシニア培養	小栗　豊子：臨床微生物検査ハンドブック第５版　2017
134	クロストリジウム・ディフィシル（嫌気培養）	小栗　豊子：臨床微生物検査ハンドブック第５版　2017
134	カンピロバクター培養	小栗　豊子：臨床微生物検査ハンドブック第５版　2017
134	ヘリコバクター・ピロリ培養	小栗　豊子：臨床微生物検査ハンドブック第５版　2017
134	髄膜炎菌培養	小栗　豊子：臨床微生物検査ハンドブック第５版　2017
134	淋菌培養	小栗　豊子：臨床微生物検査ハンドブック第５版　2017
134	B群連鎖球菌（GBS）培養	小栗　豊子：臨床微生物検査ハンドブック第５版　2017
134	酵母様真菌培養	D.H. ラローン：医真菌同定の手引き（第５版）　2013
134	糸状菌培養	D.H. ラローン：医真菌同定の手引き（第５版）　2013
134	クリプトコッカス培養	D.H. ラローン：医真菌同定の手引き（第５版）　2013
135	トリコモナス培養	小栗　豊子：臨床微生物検査ハンドブック第５版　2017
135	赤痢アメーバ	小栗　豊子：臨床微生物検査ハンドブック第５版　2017
135	大腸菌血清型別	坂崎　利一：Escherichia 属，腸内細菌＜下巻＞第３版　1992
135	大腸菌ベロトキシン〔RPLA〕	甲斐　明美，他：感染症誌　71：248, 1997
135	大腸菌ベロトキシン〔ELISA〕	渡辺　昌三，他：医学と薬学　39（2）：341-349, 1998
135	クロストリジウム・ディフィシル抗原（トキシンA・B）	加藤　はる，他：日本臨床微生物学雑誌　12：115 - 122, 2002
136	薬剤感受性検査１菌種	小栗　豊子：臨床微生物検査ハンドブック第５版　2017
136	薬剤感受性検査２菌種	小栗　豊子：臨床微生物検査ハンドブック第５版　2017
136	薬剤感受性検査３菌種	小栗　豊子：臨床微生物検査ハンドブック第５版　2017
136	ヘリコバクター・ピロリ感受性検査	小栗　豊子：臨床微生物検査ハンドブック第５版　2017
137	抗酸菌塗抹鏡検チールネールゼン染色	日本結核病学会　抗酸菌検査検討委員会：抗酸菌検査ガイド2016　南江堂 2016
137	抗酸菌塗抹鏡検　蛍光染色（直接塗抹法）	日本結核病学会　抗酸菌検査検討委員会：抗酸菌検査ガイド2016　南江堂 2016
137	抗酸菌塗抹鏡検　蛍光染色（集菌塗抹法）	日本結核病学会　抗酸菌検査検討委員会：抗酸菌検査ガイド2016　南江堂 2016
137	抗酸菌分離培養検査２	日本結核病学会　抗酸菌検査検討委員会：抗酸菌検査ガイド2016　南江堂 2016
137	抗酸菌分離培養検査１	日本結核病学会　抗酸菌検査検討委員会：抗酸菌検査ガイド2016　南江堂 2016
138	結核菌群抗原定性	日本結核病学会　抗酸菌検査検討委員会：抗酸菌検査ガイド2016　南江堂 2016
138	抗酸菌核酸同定〔質量分析法〕	日本結核病学会　抗酸菌検査検討委員会：抗酸菌検査ガイド2016　南江堂 2016
138	抗酸菌薬剤感受性検査	日本結核病学会　抗酸菌検査検討委員会：抗酸菌検査ガイド2016　南江堂 2016
155	病理組織顕微鏡検査	佐野　　豊：細胞学検査法　南山堂，1976
155	細胞診	井上　良夫：細胞診とその技術　医歯薬出版，1981
157	エストロゲンレセプター	野村　雍夫：ホルモンと臨床　31：1191, 1983
157	プロゲステロンレセプター	中尾　　誠，他：ホルモンと臨床　36：189, 1988
157	乳癌HER2遺伝子〔FISH〕	胃癌・乳癌 HER2 病理診断ガイドライン第１版，2015
157	胃癌HER2遺伝子〔FISH〕	胃癌・乳癌 HER2 病理診断ガイドライン第１版，2015
157	CCR4蛋白〔IHC〕	Ishida T, et al.：Clin Cancer Research 9：3625, 2003
158	HER2/neuタンパク	胃癌・乳癌 HER2 病理診断ガイドライン第１版，2015
158	EGFRタンパク	試薬添付文書
160	Y染色体微小欠失（AZF欠失）	高　　栄哲，他：Journal of Mammalian Ova Research 30（4）：135 - 144, 2013.
160	脳梗塞リスク評価（A6C）	Madoka Yoshida et al.：Aterosclerosis 203：557, 2009
161	抗ランゲルハンス島細胞抗体（ICA）	桜美　武彦：免疫と疾患　4：21, 1982
163	結核菌　Nested PCR	T.Takahashi, et al.：Neurology 64：1789, 2005
163	STDマルチプレックスPCR	T.Horii, et al.：Lett Appl Microbiol 49：46, 2009

MEMO

MEMO

登録衛生検査所一覧

保健科学研究所

衛生検査所名称	業務内容	所在地	連絡先	登録番号	医療関連サービスマーク認定
保健科学　総合研究所	（清・血・寄・生）	〒240-0005　横浜市保土ヶ谷区神戸町 106 番地	045-333-1661	神奈川県第 7 号	E(12)-1802140111
保健科学　第 2 ラボラトリー	（微・清・RI）	〒240-0005　横浜市保土ヶ谷区神戸町 56	045-337-0196	神奈川県第 62 号	E(12)-1810140343
保健科学　第 3 ラボラトリー	（微・清・血・病・生）	〒240-0003　横浜市保土ヶ谷区天王町 2-44-42	045-333-1640	神奈川県第 75 号	
保健科学　北見ラボラトリー	（清・血・生）	〒090-0817　北見市常盤町 3-4-15	0157-69-3881	北海道第 113 号	
保健科学　札幌ラボラトリー	（清・血・生）	〒065-0022　札幌市東区北 22 条東 7-1-25	011-704-3131	札保医第 4 号	
保健科学　釧路ラボラトリー	（清・血・生）	〒085-0821　釧路市鶴ヶ岱 2 丁目 2 番 10 号　メディカルモール シロアム 2F	0154-43-1191	北海道第 121 号	
保健科学　函館ラボラトリー	（清分）	〒041-0841　函館市日吉町 1 丁目 19-6	0138-30-6800	函館市第 8 号	
保健科学　酒田ラボラトリー	（清・血・生）	〒998-0841　酒田市松原南 6 番 5	0234-24-2961	山形県第 2 号	
保健科学　仙台ラボラトリー	（微・清・血・寄・生）	〒983-0034　仙台市宮城野区扇町 1 丁目 1 番 6 号	022-236-9345	宮城県第 26 号	E(12)-1802040046
保健科学　郡山ラボラトリー	（清・血・寄・生）	〒963-8021　郡山市桜木 2-2-1　イムーブル SAKURAGI　2F	024-923-2351	郡山市第 5 号	
保健科学　松戸ラボラトリー	（清・血・生）	〒270-0034　松戸市新松戸 2-8　石井ビル 3F	047-374-5770	千葉県第 55 号	
保健科学　県央ラボラトリー	（清・血・生）	〒252-0004　座間市東原 2-14-3	046-298-5544	神奈川県第 91 号	
保健科学　三島ラボラトリー	（清・血・生）	〒411-0917　駿東郡清水町徳倉 999-1	055-932-8007	東保登録第 16 号	
保健科学　静岡ラボラトリー	（清・血・病・生）	〒422-8021　静岡市駿河区小鹿 2-39-15	054-281-5011	第 23-2 号	
保健科学　富山ラボラトリー	（清・血・生）	〒939-8211　富山市二口町 4-3-1　日本健康倶楽部北陸支部 1F	076-491-7611	富第 1 号	
保健科学　諏訪ラボラトリー	（清・血・寄・生）	〒392-0027　諏訪市湖岸通り 5-11-104	0266-58-8840	第 84 号	
保健科学　浜松ラボラトリー	（清・血・生）	〒430-0856　浜松市中区中島 4-16-10	053-411-1861 053-464-3325	浜松市指令健総第 4-12 号	
保健科学　名古屋ラボラトリー	（清・血・病・生）	〒451-0051　名古屋市西区則武新町 2-20-17	052-582-3201	愛知県第 87 号	
保健科学　大阪ラボラトリー	（清・血・病・生）	〒561-0807　豊中市原田中 1 丁目 2-3	06-6843-5622	大阪府第 150 号	
保健科学　西脇ラボラトリー	（清・血・生）	〒677-0052　西脇市和田町 688-89	079-522-1984	北播(加健)第 260 号	
保健科学　和田山ラボラトリー	（清・血・生）	〒669-5202　朝来市和田山町東谷 385	079-672-5331	但馬(朝健)第 1539 号	
保健科学　広島ラボラトリー	（清・血・生）	〒730-0805　広島市中区十日市町 2 丁目 2-34　アーバンライフ高田 2F	082-233-9321	広島県第 30343 号	
保健科学　北九州ラボラトリー	（清分）	〒800-0228　北九州市小倉南区長野 1-7-3　鶴田建設ビル 4F	093-472-3521	北九第 19 号	
保健科学　沖縄ラボラトリー	（清・血・生）	〒901-0241　豊見城市豊見城 466-3	098-856-6451	沖縄県第 34 号	

保健科学東京

衛生検査所名称	業務内容	所在地	連絡先	登録番号	医療関連サービスマーク認定
保健科学　東京ラボラトリー	（清・血・生）	〒160-0001　新宿区片町 3 番 3 号	03-3357-3611	東京都第 58 号	E(13)-1902130089

保健科学新潟

衛生検査所名称	業務内容	所在地	連絡先	登録番号	医療関連サービスマーク認定
保健科学　新潟ラボラトリー	（微・清・血・寄・生）	〒950-0054　新潟市東区秋葉 1 丁目 6 番 31 号	025-275-0161	新市衛第 10 号	E(13)-2002150314
保健科学新潟　長岡ラボラトリー	（清・血・生）	〒940-2105　長岡市緑町 1 丁目 38-1	0258-27-5633	新潟県第 73 号	

［注］（微：微生物学的検査　清：血清学的検査　血：血液学的検査　病：病理学的検査　寄：寄生虫学的検査　生：生化学的検査　清分：血清分離　RI：RI 検査）

保健科学研究所

■本　社　〒240-0005　神奈川県横浜市保土ヶ谷区神戸町 106 番地
TEL.045-333-1661（大代表）

検査に関するお問合せは、最寄りの営業所へ　お問合せ時間（月～土　9:00～18:00）

営　業　所

保健科学研究所

札幌営業所	〒065-0022　札幌市東区北 22 条東 7-1-25	011-704-3131
旭川営業所	〒078-8231　旭川市豊岡一条 2-1-16　桜井ビル 3F	0166-31-6231
函館営業所	〒041-0841　函館市日吉町 1 丁目 19-6	0138-30-6800
苫小牧営業所	〒053-0854　苫小牧市啓北町 2-11-9	0144-71-4211
帯広営業所	〒080-0011　帯広市西一条南 11-1　ケアビル 1F	0155-28-6681
釧路営業所	〒085-0821　釧路市鶴ヶ岱 2 丁目 2 番 10 号　メディカルモール シロアム 2F	0154-43-1191
北見営業所	〒090-0817　北見市常盤町 3-4-15	0157-69-3881
青森営業所	〒030-0965　青森市松森 2 丁目 11-15　2F	017-743-3095
八戸営業所	〒031-0802　八戸市小中野 5 丁目 2-65	0178-24-2391
盛岡営業所	〒020-0857　盛岡市北飯岡一丁目 2 番 76 号　盛岡クリニックモールセンタービル 2 号館 2 階	019-635-9971
釜石営業所	〒026-0034　釜石市中妻町 1-18-3　2F	0193-25-2104
一関営業所	〒021-0884　一関市大手町 3-19	0191-21-2675
秋田営業所	〒011-0901　秋田市寺内イサノ 125-1 1 階	018-883-1877
酒田営業所	〒998-0841　酒田市松原南 6 番 5	0234-24-2961
山形営業所	〒990-2433　山形市鳥居ケ丘 27-2　2F	023-642-8471
古川営業所	〒989-6117　大崎市古川旭 5 丁目 3-3　ST ビル B 棟 2 階南	0229-23-0611
仙台営業所	〒983-0034　仙台市宮城野区扇町 1 丁目 1 番 6 号	022-236-9345
郡山営業所	〒963-8021　郡山市桜木 2-2-1　イムーブル SAKURAGI　2F	024-923-2351
いわき営業所	〒970-1152　いわき市好間町中好間字鍛冶内 16　高橋テナントビル 2F 東号	0246-47-0175
小山営業所	〒323-0034　小山市神鳥谷 4-9-49　協和マンション 2F	0285-22-8891
前橋営業所	〒371-0013　前橋市西片貝町 4-22-9	027-223-7467
大宮営業所	〒331-0812　さいたま市北区宮原町 2-109-3　リラ第 5 ビル 2F	048-662-6116
所沢営業所	〒359-1102　所沢市岩岡町 281-58	04-2923-7272
水戸営業所	〒310-0851　水戸市千波町 455-1　市毛ビル 2F	029-241-7123
千葉営業所	〒266-0011　千葉市緑区鎌取町 2813-13	043-263-3311
松戸営業所	〒270-0034　松戸市新松戸 2-8　石井ビル 3F	047-374-5770
首都圏営業所	〒154-0015　世田谷区桜新町 2-10-17　日平会館 201	03-5451-3831
城北営業所	〒175-0092　板橋区赤塚 3-18-1-101	03-5997-1221
三鷹営業所	〒182-0011　調布市深大寺北町 7-40-4　ルミエール深大寺 1F	0424-29-3071
県央営業所	〒252-0004　座間市東原 2-14-3	046-298-5544
八王子営業所	〒192-0075　八王子市南新町 25　内田ビル 1F	042-626-2203
湘南営業所	〒251-0042　藤沢市辻堂新町 1 丁目 1-15　山上第 2 ビル 5F	0466-33-6171
横浜営業所	〒240-0005　横浜市保土ヶ谷区神戸町 47-4	045-337-2001
港北営業所	〒224-0042　横浜市都筑区大熊町 883-1	045-945-7113
甲府営業所	〒400-0053　甲府市大里町 2829-4　コーナン第 1 ハイツ 2F	055-241-7750
六日町営業所	〒949-7115　南魚沼市泉新田 199-2	025-775-2108
長野営業所	〒381-0034　長野市高田中村 458-15　伊藤ビル 2F	026-239-7511
松本営業所	〒390-0851　松本市島内 3505　インペリアルプラザ松島 2 階 203	0263-40-7920
諏訪営業所	〒392-0027　諏訪市湖岸通り 5-11-104	0266-52-5102
飯田営業所	〒395-0807　飯田市鼎切石 3990-1	0265-24-9510
富山営業所	〒939-8211　富山市二口町 4-3-1　日本健康倶楽部北陸支部 2F	076-491-7611
金沢営業所	〒920-0368　金沢市神野 1 丁目 40 番地　神野アイワビル 203	076-269-2525
三島営業所	〒411-0917　駿東郡清水町徳倉 999-1	055-932-8007
下田営業所	〒415-0036　下田市西本郷 2-6-3	0558-23-2138
富士営業所	〒416-0931　富士市蓼原 85-3　ソフィアビル 2F	0545-66-3770
静岡営業所	〒422-8021　静岡市駿河区小鹿 2 丁目 39-15	054-281-5011
浜松営業所	〒430-0856　浜松市中区中島 4-16-10	053-411-1861 053-464-3325
豊橋営業所	〒441-8013　豊橋市花田一番町 170　和興オフィスビル 2F	0532-31-4571
名古屋営業所	〒451-0051　名古屋市西区則武新町 2-20-17 3F	052-582-3201
大阪営業所	〒561-0807　豊中市原田中 1 丁目 2-3	06-6843-5622
神戸営業所	〒653-0037　神戸市長田区大橋町 4 丁目 4-17　ヒュースロアビル 3F	078-691-7511
姫路営業所	〒672-8048　姫路市飾磨区三宅 3-27　第二圭秀舎ビル 302	079-243-2022
西脇営業所	〒677-0052　西脇市和田町 688-89	0795-22-1984
和田山営業所	〒669-5202　朝来市和田山町東谷 385	079-672-5331
鳥取営業所	〒680-0062　鳥取市吉方町 1-120　1F	0857-21-0381
広島営業所	〒730-0805　広島市中区十日市町 2 丁目 2-34　アーバンライフ高田 2F	082-233-9321
山口営業所	〒755-0241　宇部市東岐波 1051-1-101	0836-59-1201
徳島営業所	〒770-0855　徳島市新蔵町 1-10　藤井ビル 2F	088-655-3801
松山営業所	〒791-8016　松山市久万ノ台 111　忽那ビル 2F	089-926-7900
北九州営業所	〒800-0228　北九州市小倉南区長野 1-7-3　鶴田建設ビル 4F	093-472-3521
福岡営業所	〒812-0015　福岡市博多区山王 2-14-34	092-452-0851
大分営業所	〒870-0952　大分市下郡北 3 丁目 12-6　ライフ山一 101	097-554-8272
熊本営業所	〒862-0920　熊本市東区月出 1-4-69	096-386-5351
宮崎営業所	〒889-1605　宮崎市清武町加納乙 137-2　ゆとり 94 101	0985-64-3172
沖縄営業所	〒901-0241　豊見城市豊見城 466-3	098-856-6451

保健科学東京

新宿営業所	〒160-0001　新宿区片町 3 番 3 号	03-3357-3611
北千住営業所	〒120-0036　足立区千住仲町 40-12	03-3881-9201

保健科学新潟

長岡営業所	〒940-2105　長岡市緑町 1 丁目 38-1	0258-27-5633
六日町営業所	〒949-7115　南魚沼市泉新田 199-2	025-775-2108

保健科学グループ

保健科学新潟（微・清・血・寄・生）
〒950-0054　新潟市東区秋葉 1 丁目 6 番 31 号　025-275-0161　新市衛第 10 号

保健科学東日本（微・清・血・病・寄・生）
〒365-8585　鴻巣市天神 3-673　048-543-4000　埼玉県第 86 号

保健科学東京（清・血・生）
〒160-0001　新宿区片町 3 番地 3　03-3357-3611　東京都第 58 号

保健科学西日本（微・清・血・寄・生）
〒612-8486　京都市伏見区羽束師古川町 328　075-933-6060　京都府第 27 号

［注］（微：微生物学的検査　清：血清学的検査　血：血液学的検査　病：病理学的検査　寄：寄生虫学的検査　生：生化学的検査　清分：血清分離　RI：RI 検査）

2020-2021 総合検査案内
2020 年度版 第 1 刷
第 1 刷の内容は、2020 年 4 月 1 日現在の内容です。

最新情報につきましては、当社、ホームページをご覧下さい。
https://www.hkk.co.jp/

2020. 5 月作成　AI